



# Cisco CallManager アドミニストレーション ガイド

Release 5.0(1)



このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。見当たらない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) パブリックドメインバージョンとして、UCB が開発したプログラムを最適化したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、すべてのマニュアルおよび上記各社のソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記各社は、商品性や特定の目的への適合性、権利を侵害しないことに関する、または取り扱い、使用、または取り引きによって発生する、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその代理店は、このマニュアルの使用またはこのマニュアルを使用できないことによって起こる制約、利益の損失、データの損傷など間接的で偶発的に起こる特殊な損害のあらゆる可能性がシスコまたは代理店に知らされていても、それらに対する責任を一切負いません。

CCSP、CCVP、Cisco Square Bridge のロゴ、Follow Me Browsing、および StackWise は、Cisco Systems, Inc. の商標です。Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn、および iQuick Study は、Cisco Systems, Inc. のサービスマークです。Access Registrar、Aironet、ASIST、BPX、Catalyst、CCDA、CCDP、CCIE、CCIP、CCNA、CCNP、Cisco、Cisco Certified Internetwork Expert のロゴ、Cisco IOS、Cisco Press、Cisco Systems、Cisco Systems Capital、Cisco Systems のロゴ、Cisco Unity、Empowering the Internet Generation、Enterprise/Solver、EtherChannel、EtherFast、EtherSwitch、Fast Step、FormShare、GigaDrive、GigaStack、HomeLink、Internet Quotient、IOS、IP/TV、iQ Expertise、iQ のロゴ、iQ Net Readiness Scorecard、LightStream、Linksys、MeetingPlace、MGX、Networkers のロゴ、Networking Academy、Network Registrar、Packet、PIX、Post-Routing、Pre-Routing、ProConnect、RateMUX、ScriptShare、SlideCast、SMARTnet、StrataView Plus、TeleRouter、The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient、および TransPath は、米国および一部の国における Cisco Systems, Inc. とその関連会社の登録商標です。

このマニュアルまたは Web サイトで言及されているその他の商標はすべて、それぞれの所有者のもです。「パートナー」という語の使用は、シスコと他社の提携関係を意味するものではありません。(0501R)

*Cisco CallManager アドミニストレーションガイド*

Copyright © 2006 Cisco Systems, Inc.

All rights reserved.



<b>このマニュアルについて</b>	<b>xxiii</b>
目的	xxiv
対象読者	xxiv
マニュアルの構成	xxv
関連マニュアル	xxvi
表記法	xxvii
技術情報の入手方法	xxix
Cisco.com	xxix
Product Documentation DVD (英語版)	xxix
マニュアルの発注方法 (英語版)	xxix
シスコシステムズマニュアルセンター	xxx
シスコ製品のセキュリティの概要	xxx
シスコ製品のセキュリティ問題の報告	xxx
テクニカル サポート	xxxii
Cisco Technical Support & Documentation Web サイト	xxxii
Japan TAC Web サイト	xxxii
サービス リクエストの発行	xxxiii
サービス リクエストのシビラティの定義	xxxiii
その他の資料および情報の入手方法	xxxiv

---

PART 1

---

**Cisco CallManager の概要**

---

CHAPTER 1

<b>概要</b>	<b>1-1</b>
主な機能と利点	1-2
Cisco CallManager Administration の参照	1-3
Web ブラウザ	1-3
Cisco CallManager Administration へのログイン	1-3
Cisco CallManager Administration からのログオフ	1-4
Secure Sockets Layer 上のハイパーテキスト転送プロトコル (HTTPS)	1-4
Cisco CallManager Administration での Internet Explorer および HTTPS の使用方法	1-5

Cisco CallManager Administration での Netscape および HTTPS の使用方法 1-6

Cisco CallManager Administration アプリケーションでの操作 1-8

アクセシビリティ 1-9

参考情報 1-10

関連項目 1-10

PART 2

システムの設定

CHAPTER 2

サーバの設定 2-1

サーバの検索 2-2

サーバの設定 2-4

サーバの削除 2-5

サーバの設定値 2-6

関連項目 2-6

CHAPTER 3

Cisco CallManager の設定 3-1

Cisco CallManager の検索 3-2

Cisco CallManager の更新 3-3

Cisco CallManager の設定値 3-4

Cisco CallManager サービスのアクティブ化および非アクティブ化 3-7

Cisco CallManager サービスのアクティブ化 3-7

Cisco CallManager サービスの非アクティブ化 3-7

関連項目 3-8

CHAPTER 4

Cisco CallManager グループの設定 4-1

Cisco CallManager グループの検索 4-2

Cisco CallManager グループの設定 4-3

Cisco CallManager グループの設定値 4-4

Cisco CallManager グループの削除 4-5

関連項目 4-6

CHAPTER 5

プレゼンス グループの設定 5-1

CHAPTER 6

日付 / 時間グループの設定 6-1

日付 / 時間グループの検索 6-2

日付 / 時間グループの設定 6-4

日付 / 時間グループの設定値 6-6

日付 / 時間グループの削除 6-7

関連項目 6-8

## CHAPTER 7

**リージョンの設定** 7-1

- リージョンの検索 7-2
- リージョンの設定 7-4
- リージョンの設定値 7-7
- リージョンの削除 7-9
- 関連項目 7-10

## CHAPTER 8

**電話機 NTP リファレンスの設定** 8-1

- 電話機 NTP リファレンスの検索 8-2
- 電話機 NTP リファレンスの設定 8-3
- 電話機 NTP リファレンスの設定値 8-4
- 電話機 NTP リファレンスの削除 8-5
- 関連項目 8-6

## CHAPTER 9

**デバイス プールの設定** 9-1

- デバイス プールの検索 9-2
- デバイス プールの設定 9-4
- デバイス プールの設定値 9-5
- デバイス プールの削除 9-8
- 関連項目 9-8

## CHAPTER 10

**DHCP サーバの設定** 10-1

- DHCP モニタ サービスのアクティブ化 10-2
- DHCP モニタ サービスの開始 10-3
- DHCP サーバの検索 10-4
- DHCP サーバの設定 10-5
- DHCP サーバの設定値 10-6
- DHCP サーバの削除 10-7
- 関連項目 10-8

## CHAPTER 11

**DHCP サブネットの設定** 11-1

- DHCP サブネットの検索 11-2
- DHCP サブネットの設定 11-4
- DHCP サブネットの設定値 11-5
- DHCP サブネットの削除 11-6
- 関連項目 11-6

## CHAPTER 12

**LDAP システムの設定** 12-1

- LDAP システムの情報の更新 12-2

LDAP システムの設定値	12-3
関連項目	12-4

CHAPTER 13

**LDAP ディレクトリの設定** 13-1

LDAP ディレクトリの検索	13-2
LDAP ディレクトリの設定	13-3
LDAP ディレクトリの設定値	13-4
LDAP ディレクトリの削除	13-7
関連項目	13-8

CHAPTER 14

**LDAP 認証の設定** 14-1

LDAP 認証の情報の更新	14-2
LDAP 認証の設定値	14-3
関連項目	14-4

CHAPTER 15

**ロケーションの設定** 15-1

ロケーションの検索	15-2
ロケーションの設定	15-4
ロケーションの設定値	15-5
ロケーションの削除	15-7
ロケーションの帯域幅の再同期化	15-8
関連項目	15-8

CHAPTER 16

**Survivable Remote Site Telephony の設定** 16-1

SRST リファレンスの検索	16-2
SRST リファレンスの設定	16-3
SRST リファレンスの削除	16-4
SRST リファレンスの設定値	16-5
関連項目	16-6

CHAPTER 17

**MLPP ドメインの設定** 17-1

MLPP ドメインの検索	17-2
MLPP ドメインの設定	17-3
MLPP ドメインの設定値	17-4
MLPP ドメインの削除	17-5
関連項目	17-6

CHAPTER 18	<b>エンタープライズパラメータの設定</b>	18-1
CHAPTER 19	<b>サービスパラメータの設定</b>	19-1
	サーバ上のサービスに対するサービスパラメータの設定	19-2
	サービス用のパラメータの表示	19-4
	関連項目	19-5
CHAPTER 20	<b>SIP 電話機のセキュリティプロファイルの設定</b>	20-1
CHAPTER 21	<b>SIP トランクのセキュリティプロファイルの設定</b>	21-1
CHAPTER 22	<b>SCCP 電話機のセキュリティプロファイルの設定</b>	22-1
CHAPTER 23	<b>アプリケーションサーバの設定</b>	23-1
	アプリケーションサーバの設定	23-2
	アプリケーションサーバの削除	23-3
	アプリケーションサーバの設定値	23-4
	アプリケーションサーバの検索	23-5
	関連項目	23-6
CHAPTER 24	<b>ライセンスユニットレポート</b>	24-1
	ライセンスユニットレポートの生成	24-2
	関連項目	24-2
CHAPTER 25	<b>License Unit Calculator</b>	25-1
	ライセンスユニットの計算方法	25-2
	関連項目	25-2
CHAPTER 26	<b>ライセンスファイルのアップロード</b>	26-1
	ライセンスファイルの取得	26-2
	ライセンスファイルの内容	26-3
	ライセンスファイルのアップロード	26-5
	関連項目	26-6
CHAPTER 27	<b>自動登録の設定</b>	27-1
	自動登録の使用可能化	27-2
	自動登録の使用不可	27-3
	自動登録の設定値	27-4
	自動登録番号の再使用	27-6
	関連項目	27-6

PART 3

コールルーティングの設定

CHAPTER 28

自動代替ルーティングのグループ設定 28-1

- AAR グループの検索 28-2
- AAR グループの設定 28-3
- AAR グループの設定値 28-4
- AAR グループの削除 28-5
- 関連項目 28-6

CHAPTER 29

アプリケーションのダイヤル規則設定 29-1

- ダイヤル規則の検索 29-2
- ダイヤル規則の設定 29-3
- アプリケーションのダイヤル規則の設定値 29-4
- ダイヤル規則の削除 29-5
  - ダイヤル規則の優先順位の変更 29-5
- 関連項目 29-6

CHAPTER 30

ディレクトリ検索のダイヤル規則設定 30-1

- ディレクトリ検索のダイヤル規則の検索 30-2
- ディレクトリ検索のダイヤル規則の設定 30-3
- ディレクトリ検索のダイヤル規則の設定値 30-4
- ディレクトリ検索のダイヤル規則の削除 30-5
- 関連項目 30-6

CHAPTER 31

SIP のダイヤル規則設定 31-1

- SIP のダイヤル規則の検索 31-2
- SIP のダイヤル規則の設定 31-3
- SIP のダイヤル規則の設定値 31-4
  - パターンの形式 31-5
  - SIP ダイヤル プランの規則の例 31-6
- SIP のダイヤル規則の削除 31-7
- SIP のダイヤル規則のリセット 31-8
- 関連項目 31-8

CHAPTER 32

ルート フィルタの設定 32-1

- ルート フィルタの検索 32-2
- ルート フィルタの設定 32-3
- ルート フィルタの設定値 32-4
- ルート フィルタ クローズの追加 32-5

ルート フィルタ クローズの削除	32-6
ルート フィルタの削除	32-7
ルート フィルタ タグの説明	32-8
関連項目	32-11

## CHAPTER 33

<b>ルート グループの設定</b>	<b>33-1</b>
ルート グループの検索	33-2
ルート グループの設定	33-4
ルート グループの設定値	33-5
ルート グループへのデバイスの追加	33-7
ルート グループからのデバイスの削除	33-8
ルート グループの削除	33-9
関連項目	33-10

## CHAPTER 34

<b>ルート リストの設定</b>	<b>34-1</b>
ルート リストの検索	34-2
ルート リストの追加	34-4
ルート リストへのルート グループの追加	34-6
ルート リストからのルート グループの削除	34-8
ルート リスト内のルート グループの順位の変更	34-9
ルート リストの削除	34-10
関連項目	34-11

## CHAPTER 35

<b>ルート パターンの設定</b>	<b>35-1</b>
ルート パターンの検索	35-2
ルート パターンの設定	35-4
ルート パターンの設定値	35-6
ルート パターンの削除	35-13
関連項目	35-14

## CHAPTER 36

<b>回線グループの設定</b>	<b>36-1</b>
回線グループの検索	36-2
回線グループの設定	36-3
回線グループの設定値	36-4
回線グループへのメンバーの追加	36-8
回線グループからのメンバーの削除	36-9
回線グループの削除	36-10
関連項目	36-11

CHAPTER 37

**ハント リストの設定** 37-1

- ハント リストの検索 37-2
- ハント リストの追加 37-4
- ハント リストへの回線グループの追加 37-6
- ハント リストからの回線グループの削除 37-7
- ハント リスト内の回線グループの順位の変更 37-8
- ハント リストの削除 37-9
- 関連項目 37-10

CHAPTER 38

**ハント パイロットの設定** 38-1

- ハント パイロットの検索 38-2
- ハント パイロットの設定 38-4
- ハント パイロットの削除 38-5
- ハント パイロットの設定値 38-6
- 関連項目 38-12

CHAPTER 39

**SIP ルート パターンの設定** 39-1

- SIP ルート パターンの検索 39-2
- SIP ルート パターンの設定 39-4
- SIP ルート パターンの設定値 39-5
- SIP ルート パターンの削除 39-8
- 関連項目 39-8

CHAPTER 40

**時間帯 (Time Period) の設定** 40-1

- 時間帯の検索 40-2
- 時間帯の設定 40-3
- 時間帯の削除 40-4
- 時間帯の設定値 40-5
- 関連項目 40-6

CHAPTER 41

**タイム スケジュールの設定** 41-1

- タイム スケジュールの検索 41-2
- タイム スケジュールの設定 41-3
- タイム スケジュールの削除 41-4
- タイム スケジュールの設定値 41-5
- 関連項目 41-6

CHAPTER 42

**パーティションの設定** 42-1

- パーティションの特定 42-2

	パーティションの設定	42-3
	パーティションの削除	42-4
	パーティションの設定値	42-5
	パーティションの検索	42-7
	関連項目	42-7
<b>CHAPTER 43</b>	<b>コーリングサーチスペースの設定</b>	<b>43-1</b>
	コーリングサーチスペースの検索	43-2
	コーリングサーチスペースの設定	43-3
	コーリングサーチスペースの設定値	43-4
	コーリングサーチスペースの削除	43-6
	関連項目	43-7
<b>CHAPTER 44</b>	<b>クライアントマターコード</b>	<b>44-1</b>
<b>CHAPTER 45</b>	<b>Forced Authorization Code</b>	<b>45-1</b>
<b>CHAPTER 46</b>	<b>変換パターンの設定</b>	<b>46-1</b>
	変換パターンの検索	46-2
	変換パターンの設定	46-4
	変換パターンの設定値	46-5
	変換パターンの削除	46-10
	関連項目	46-10
<b>CHAPTER 47</b>	<b>コールパーク</b>	<b>47-1</b>
<b>CHAPTER 48</b>	<b>コールピックアップグループ</b>	<b>48-1</b>
<b>CHAPTER 49</b>	<b>電話番号の設定</b>	<b>49-1</b>
	電話番号の設定の概要	49-2
	電話番号の検索	49-3
	電話番号の設定	49-4
	電話機からの電話番号の削除	49-6
	Cisco Unity または Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成	49-7
	電話番号の設定値	49-9
	関連項目	49-27
<b>CHAPTER 50</b>	<b>Meet-Me Number/Pattern の設定</b>	<b>50-1</b>
	Meet-Me Number/Pattern の検索	50-2
	Meet-Me Number/Pattern の設定	50-4

Meet-Me Number/Pattern の設定値	50-5
Meet-Me Number/Pattern の削除	50-6
関連項目	50-6

CHAPTER 51

<b>ルート プラン レポート</b>	<b>51-1</b>
ルート プラン レコードの表示	51-2
割り当てられていない電話番号の削除	51-4
割り当てられていない電話番号の更新	51-5
ファイル内のルート プラン レポートの表示	51-6
関連項目	51-6

CHAPTER 52

<b>ダイヤル プランのインストール</b>	<b>52-1</b>
ダイヤル プランの検索	52-2
ダイヤル プランの編集	52-4
Cisco CallManager でのダイヤル プランのインストール	52-4
NANP 以外のダイヤル プランに関するルート パターンの詳細の設定	52-5
ダイヤル プランのアップグレード	52-6
ダイヤル プランのアンインストール	52-7
Cisco CallManager サービスの再起動	52-9
関連項目	52-10

PART 4

**メディア リソースの設定**

CHAPTER 53

<b>Annunciator の設定</b>	<b>53-1</b>
始める前に	53-1
Annunciator の検索	53-2
Annunciator の更新	53-3
Annunciator の設定値	53-4
Annunciator のリセット	53-4
関連項目	53-5

CHAPTER 54

<b>Conference Bridge の設定</b>	<b>54-1</b>
Conference Bridge の検索	54-2
ソフトウェア Conference Bridge の設定について	54-3
ソフトウェア Conference Bridge の設定値	54-4
ハードウェア コンファレンス デバイスの追加	54-5
ハードウェア Conference Bridge の設定値	54-6
Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加	54-7

	Cisco IOS Conference Bridge の設定値	54-8
	Cisco Video Conference Bridge デバイスの追加	54-9
	Cisco Video Conference Bridge の設定値	54-10
	Cisco Conference Bridge ( WS-SVC-CMM ) デバイスの追加	54-11
	Cisco Conference Bridge ( WS-SVC-CMM ) の設定値	54-12
	コンファレンス デバイスの更新	54-13
	コンファレンス デバイスの削除	54-14
	参考情報	54-15
<b>CHAPTER 55</b>	<b>メディア ターミネーション ポイントの設定</b>	<b>55-1</b>
	メディア ターミネーション ポイントの検索	55-2
	メディア ターミネーション ポイントの設定	55-4
	Cisco IOS Media Termination Point の設定値	55-5
	メディア ターミネーション ポイントの削除	55-6
	関連項目	55-7
<b>CHAPTER 56</b>	<b>Music On Hold オーディオ ソースの設定</b>	<b>56-1</b>
<b>CHAPTER 57</b>	<b>Music On Hold 固定オーディオ ソースの設定</b>	<b>57-1</b>
<b>CHAPTER 58</b>	<b>Music On Hold サーバの設定</b>	<b>58-1</b>
<b>CHAPTER 59</b>	<b>トランスコードの設定</b>	<b>59-1</b>
	トランスコードの特定	59-2
	トランスコードの設定	59-4
	トランスコードのリセット	59-5
	トランスコードの削除	59-6
	トランスコードの設定値	59-7
	関連項目	59-8
<b>CHAPTER 60</b>	<b>メディア リソース グループの設定</b>	<b>60-1</b>
	メディア リソース グループの検索	60-2
	メディア リソース グループの設定	60-4
	メディア リソース グループの設定値	60-5
	メディア リソース グループの削除	60-6
	関連項目	60-7
<b>CHAPTER 61</b>	<b>メディア リソース グループ リストの設定</b>	<b>61-1</b>
	メディア リソース グループ リストの検索	61-2

メディア リソース グループ リストの設定	61-4
メディア リソース グループ リストの設定値	61-5
メディア リソース グループ リストの削除	61-6
関連項目	61-6

PART 5

**ボイスメールの設定**

CHAPTER 62

**Cisco ボイスメール ポートの設定 62-1**

Cisco ボイスメール ポートの検索	62-2
Cisco ボイスメール ポートの設定	62-4
Cisco ボイスメール ポートの設定値	62-5
Cisco ボイスメール ポートの削除	62-8
関連項目	62-8

CHAPTER 63

**Cisco ボイスメール ポート ウィザード 63-1**

新規の Cisco ボイスメール サーバとポートの追加	63-2
既存の Cisco ボイスメール サーバへのポートの追加	63-7
既存の Cisco ボイスメール サーバからのポートの削除	63-8
関連項目	63-8

CHAPTER 64

**メッセージ受信の設定 64-1**

メッセージ受信番号の検索	64-2
メッセージ受信の設定	64-4
メッセージ受信の設定値	64-5
関連項目	64-6

CHAPTER 65

**Cisco ボイスメール パイロットの設定 65-1**

Cisco ボイスメール パイロットの検索	65-2
ボイスメール パイロット番号の設定	65-3
ボイスメール パイロットの設定値	65-4
ボイスメール パイロット番号の削除	65-5
関連項目	65-6

CHAPTER 66

**ボイスメール プロファイルの設定 66-1**

ボイスメール プロファイルの検索	66-2
ボイスメール プロファイルの設定	66-3
ボイスメール プロファイルの設定値	66-4
ボイスメール プロファイルの削除	66-5
関連項目	66-6

## PART 6

## デバイスの設定

## CHAPTER 67

## CTI ルート ポイントの設定 67-1

- CTI ルート ポイントの検索 67-2
- CTI ルート ポイントの設定 67-3
- CTI ルート ポイントの設定値 67-4
- CTI ルート ポイントの削除 67-6
- CTI ルート ポイントのリセット 67-7
- 関連項目 67-8

## CHAPTER 68

## ゲートキーパーの設定 68-1

- ゲートキーパーの検索 68-2
- ゲートキーパーの設定 68-3
- ゲートキーパーの設定値 68-4
- ゲートキーパーの削除 68-5
- ゲートキーパーのリセット 68-6
- 関連項目 68-7

## CHAPTER 69

## ゲートウェイの設定 69-1

- Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 69-2
- Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加 69-3
- MGCP ゲートウェイへのポートの追加 69-5
  - MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加 69-5
  - MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加 69-6
  - MGCP ゲートウェイへの Digital Access T1 ポートの追加 69-8
  - MGCP ゲートウェイへの Digital Access PRI デバイスの追加 69-8
  - MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加 69-9
- Cisco IOS SCCP ゲートウェイの追加 69-9
- IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加 69-11
- Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加 69-12
- Analog Access ゲートウェイとポートの追加 69-13
- Cisco VG248 Analog Phone Gateway の追加 69-14
- ゲートウェイの設定値 69-16
  - MGCP ゲートウェイの設定値 69-16
  - FXS/FXO ポートの設定値 69-18
  - Digital Access PRI ポートの設定値 69-22
  - BRI ゲートウェイの設定値 69-34
  - Digital Access T1 の設定値 69-42
  - H.323 ゲートウェイの設定値 69-46

Analog Access ゲートウェイの設定値	69-54
Cisco VG248 Gateway の設定値	69-57
Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値	69-58
ポートの設定値	69-61
POTS ポートの設定値	69-61
ループ スタート ポートの設定値	69-63
グラウンド スタート ポートの設定値	69-64
E & M ポートの設定値	69-65
特定のゲートウェイの検索	69-67
デバイス名による検索	69-67
説明による検索	69-68
電話番号およびルート パターンによる検索	69-69
コーリング サーチ スペースによる検索	69-70
デバイス プールによる検索	69-71
ルート グループによる検索	69-73
デバイス タイプによる検索	69-74
ゲートウェイとポートの変更	69-76
Dependency Records の使用方法	69-76
ゲートウェイの削除	69-76
ゲートウェイのリセットと再起動	69-77
ゲートウェイとポートの更新	69-78
関連項目	69-79

CHAPTER 70

<b>Cisco IP Phone の設定</b>	70-1
Cisco IP Phone の設定	70-3
電話機の MAC アドレスの表示	70-5
電話機のリセット	70-5
電話機の削除	70-6
電話機の設定値	70-7
短縮ダイヤル ボタンの設定	70-24
短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定値	70-25
BLF/SpeedDial の設定値	70-26
Cisco IP Phone サービスの設定	70-26
サービスへの加入	70-26
サービスの更新	70-27
サービスの加入解除	70-28
サービス URL ボタンの設定	70-29
サービス URL ボタンの追加	70-29
電話ボタン テンプレートのボタン項目の変更	70-30

電話機の検索 70-32

関連項目 70-34

---

CHAPTER 71

**トランクの設定 71-1**

トランクの検索 71-2

トランクの設定 71-3

トランクの設定値 71-5

トランクの削除 71-28

トランクのリセット 71-29

関連項目 71-30

---

CHAPTER 72

**デバイス デフォルトの設定 72-1**

デバイス デフォルトの更新 72-2

デバイス デフォルトの設定値 72-3

関連項目 72-4

---

CHAPTER 73

**デバイス ファームウェア ロード情報 73-1**

デフォルト以外のファームウェア ロードを使用するデバイスの検索 73-2

---

CHAPTER 74

**デフォルト デバイス プロファイルの設定 74-1**

新しいデフォルト デバイス プロファイルの設定 74-2

デフォルト デバイス プロファイルの設定値 74-3

デフォルト デバイス プロファイルの削除 74-6

サービスのデフォルト デバイス プロファイルへの登録 74-6

関連項目 74-6

---

CHAPTER 75

**デバイス プロファイルの設定 75-1**

デバイス プロファイルの検索 75-2

新規ユーザ デバイス プロファイルの設定 75-3

ユーザ デバイス プロファイルの削除 75-7

自動生成されたデバイス プロファイルの更新 75-8

自動生成デバイス プロファイル用の新規電話番号の設定 75-9

関連項目 75-10

---

CHAPTER 76

**電話ボタン テンプレートの設定 76-1**

電話ボタン テンプレートの検索 76-2

電話ボタン テンプレートの設定 76-4

Cisco IP Phone 7914 Expansion Module の電話ボタン テンプレートの設定  
76-6

電話ボタン テンプレートの設定値 76-7

電話ボタン テンプレートの削除	76-8
関連項目	76-10

CHAPTER 77

<b>ソフトキー テンプレートの設定</b>	<b>77-1</b>
ソフトキー テンプレートの検索	77-2
非標準ソフトキー テンプレートの追加	77-4
非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーション ソフトキーの追加	77-5
非標準ソフトキー テンプレートにおけるソフトキーの位置の設定	77-6
ソフトキー テンプレートの変更	77-7
ソフトキー テンプレートの名前変更	77-7
ソフトキー テンプレートの削除	77-8
ソフトキー テンプレートの更新	77-9
IP Phone へのソフトキー テンプレートの割り当て	77-10
関連項目	77-10

CHAPTER 78

<b>Cisco IP Phone サービスの設定</b>	<b>78-1</b>
Cisco IP Phone サービスの検索	78-2
Cisco IP Phone サービスの設定	78-4
Cisco IP Phone サービスの設定値	78-5
Cisco IP Phone サービスの削除	78-6
Cisco IP Phone サービス パラメータの設定	78-7
Cisco IP Phone サービス パラメータの設定値	78-8
Cisco IP Phone サービス パラメータの削除	78-9
Cisco IP Phone サービスの電話ボタンへの追加	78-10
関連項目	78-10

CHAPTER 79

<b>SIP プロファイルの設定</b>	<b>79-1</b>
SIP プロファイルの検索	79-2
SIP プロファイルの設定	79-3
SIP プロファイルの設定値	79-4
SIP プロファイルの削除	79-10
SIP プロファイルのリセット	79-11
関連項目	79-12

CHAPTER 80

<b>共通電話プロファイルの設定</b>	<b>80-1</b>
共通電話プロファイルの検索	80-2
共通電話プロファイルの設定	80-3
共通電話プロファイルの設定値	80-4
共通電話プロファイルの削除	80-5

関連項目 80-6

---

PART 7

**アプリケーションの設定**

---

CHAPTER 81

**Cisco IPMA Configuration Wizard 81-1**

---

CHAPTER 82

**Cisco CallManager Attendant Console パイロット ポイントの設定 82-1**

---

CHAPTER 83

**Cisco CallManager Attendant Console ユーザの設定 83-1**

---

CHAPTER 84

**Cisco CallManager Attendant Console ユーザのファイル アップロード 84-1**

---

CHAPTER 85

**プラグインの設定 85-1**

プラグインのインストール 85-2

プラグイン URL 更新 85-3

プラグイン URL 更新の設定値 85-4

---

PART 8

**ユーザ管理の設定**

---

CHAPTER 86

**アプリケーション ユーザの設定 86-1**

アプリケーション ユーザの検索 86-2

アプリケーション ユーザの追加 86-3

アプリケーション ユーザの設定値 86-4

アプリケーション ユーザのパスワードの変更 86-8

アプリケーション ユーザのアプリケーション プロファイルの設定 86-8

アプリケーション ユーザとデバイスとの関連付け 86-9

関連項目 86-10

---

CHAPTER 87

**エンド ユーザの設定 87-1**

エンド ユーザの検索 87-2

エンド ユーザの追加 87-3

Cisco Unity または Cisco Unity Connection のボイスメールボックスの作成  
87-4

エンド ユーザの設定値 87-6

エンド ユーザのパスワードの変更 87-10

エンド ユーザの PIN の変更 87-10

エンド ユーザのユーザ関連情報の設定 87-11

エンド ユーザとデバイスとの関連付け 87-12

Cisco CallManager エクステンション モビリティ プロファイルの関連付け  
87-14

エンド ユーザの削除 87-15

関連項目 87-16

CHAPTER 88

**ロールの設定 88-1**

ロールの検索 88-2

ロールの設定 88-4

ロールの削除 88-5

ロールの設定値 88-6

関連項目 88-6

CHAPTER 89

**ユーザ グループの設定 89-1**

ユーザ グループの検索 89-2

ユーザ グループの設定 89-4

ユーザ グループの削除 89-5

ユーザ グループへのユーザの追加 89-6

ユーザ グループからのユーザの削除 89-8

ユーザ グループへのロールの割り当て 89-9

ユーザのロール、ユーザ グループ、および権限の表示 89-11

関連項目 89-12

CHAPTER 90

**User/Phone Add の設定 90-1**

エンド ユーザと電話機の追加 90-2

ユーザとデバイスの設定値 90-3

関連項目 90-5

CHAPTER 91

**アプリケーション ユーザ CAPF プロファイルの設定 91-1**

CHAPTER 92

**エンド ユーザ CAPF プロファイルの設定 92-1**

CHAPTER 93

**SIP レルムの設定 93-1**

PART 9

**Cisco CallManager Bulk Administration**

CHAPTER 94

**Bulk Administration Tool 94-1**

PART 10

**付録**

APPENDIX A

**Dependency Records A-1**

Dependency Records の使用可能化 A-2

Dependency Records の使用不可 A-3

Dependency Records へのアクセス A-4

Dependency Records ボタン A-6

---

**APPENDIX B**

**Cisco Unity ボイスメール ポートの調整 B-1**

Cisco Unity ボイスメール ポートの変更 B-2

Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへのアップグレード後の変更 B-2

Cisco CallManager 4.0 以降のリリースにアップグレードする前の作業 B-3

Cisco Unity フェールオーバー ボイスメール ポートのセットアップ B-3

---

**APPENDIX C**

**シスコ以外の SIP 電話機の設定 C-1**

SIP 電話機設定の相違点 C-2

サードパーティ製 SIP 電話機の設定チェックリスト C-4

参考情報 C-5

---

**INDEX**

**索引**





## このマニュアルについて

---

ここでは、このマニュアルの目的、対象読者、構成、および表記法、そして関連資料の入手方法について説明します。



(注)

このマニュアルには、シスコ製品の最新情報が記載されていない可能性があります。次の URL からシスコの製品マニュアルのページにアクセスすることにより、最新資料を入手することができます。

<http://www.cisco.com/univercd/home/home.htm>

---

ここでは、次の内容について説明します。

- [目的 \(P.xxiv\)](#)
- [対象読者 \(P.xxiv\)](#)
- [マニュアルの構成 \(P.xxv\)](#)
- [関連マニュアル \(P.xxvi\)](#)
- [表記法 \(P.xxvii\)](#)
- [技術情報の入手方法 \(P.xxix\)](#)
- [シスコ製品のセキュリティの概要 \(P.xxx\)](#)
- [テクニカル サポート \(P.xxxii\)](#)
- [その他の資料および情報の入手方法 \(P.xxxiv\)](#)

## 目的

『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』では、Cisco CallManager システムの管理に必要な手順を説明します。このマニュアルには、Cisco CallManager Administration を使用して行う作業手順の説明があります。さらに、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』は Cisco CallManager を使用する際に役立つコマンドの解説も記述しています。このマニュアルは、『Cisco CallManager システムガイド』と併せてお読みください。システムガイドでは、Cisco CallManager Administration を使用して機能をセットアップする場合のヒントを提供しています。その他にも、Cisco CallManager とそのコンポーネントの概要について記述しています。

## 対象読者

『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』は、Cisco CallManager システムの管理を担当するネットワーク管理者を対象にしています。テレフォニーおよび IP ネットワーキング テクノロジーに関する知識が必要です。

## マニュアルの構成

次の表に、このマニュアルの構成を示します。

各部構成	説明
第 1 部	「Cisco CallManager の概要」 Cisco CallManager の設定と動作に関する概要を全般的に説明しています。
第 2 部	「システムの設定」 Cisco CallManager Administration System メニューの項目を設定する方法を説明しています。
第 3 部	「コール ルーティングの設定」 Cisco CallManager でコール ルーティング機能を設定する方法を説明しています。
第 4 部	「メディア リソースの設定」 Cisco CallManager と連携して使用されるメディア リソースを設定する方法を説明しています。
第 5 部	「ボイスメールの設定」 Cisco CallManager Administration でボイスメールとボイス メッセージの機能を設定する方法を説明しています。
第 6 部	「デバイスの設定」 Cisco CallManager でデバイスを設定する方法を説明しています。
第 7 部	「アプリケーションの設定」 プラグイン アプリケーションとアプリケーション インターフェイスを設定する方法を説明しています。
第 8 部	「ユーザ管理の設定」 Cisco CallManager でアプリケーション ユーザ、エンド ユーザ、ロール、ユーザ グループ、ユーザ関連 CAPF プロファイル、および SIP レルムを設定する方法を説明しています。
第 9 部	「Cisco CallManager Bulk Administration」 Cisco CallManager Bulk Administration について説明しています。
第 10 部	「付録」 Dependency Records、アップグレード時の Cisco Unity ボイスメール ポートの調整、およびシスコ以外の SIP 電話機の設定について説明しています。

## 関連マニュアル

Cisco IP テレフォニー関連のアプリケーションと製品の詳細については、次の資料を参照してください。

- *Cisco CallManager Release 5.0(1) インストールガイド*
- *Cisco CallManager Release 5.0(1) アップグレード手順*
- *Release Notes for Cisco CallManager Release 5.0(1)*
- *Cisco CallManager システム ガイド*
- *Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*
- *Cisco CallManager Serviceability システム ガイド*
- *Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド*
- *Cisco CallManager トラブルシューティング ガイド*
- *Cisco IP Phone アドミニストレーション ガイド for Cisco CallManager*
- *Cisco CallManager Bulk Administration Tool ユーザ ガイド*
- *Cisco CallManager セキュリティ ガイド*

## 表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンドおよびキーワードは、太字で示しています。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体で示しています。
[ ]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{ x y z }	必ずどれか 1 つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[ x y z ]	どれか 1 つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
ストリング	引用符を付けない一組の文字。ストリングの前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めてストリングとみなされます。
screen フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
→	このポイントは、例文中の重要な行を強調表示します。
^	^ 記号は、Control キーを表します。たとえば、画面に表示される ^D というキーの組み合わせは、Control キーを押しながら D キーを押すことを意味します。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで表します。

(注) は、次のように表しています。



(注)

「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

ワンポイントアドバイスは、次のように表しています。



ワンポイント・アドバイス

時間を節約する方法です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

ヒントは、次のように表しています。



ヒント

便利なヒントです。

注意は、次のように表しています。



---

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

---

警告は、次のように表しています。



---

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の作業を行うときは、電気回路の危険性および一般的な事故防止対策に十分注意してください。

---

## 技術情報の入手方法

シスコの製品マニュアルやその他の資料は、Cisco.com でご利用いただけます。また、テクニカルサポートおよびその他のリソースを、さまざまな方法で入手することができます。ここでは、シスコ製品に関する技術情報を入手する方法について説明します。

### Cisco.com

マニュアルの最新版は、次の URL で参照できます。

<http://www.cisco.com/techsupport>

シスコの Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com>

各国のシスコ Web サイトには、次の URL からアクセスできます。

[http://www.cisco.com/public/countries\\_languages.shtml](http://www.cisco.com/public/countries_languages.shtml)

シスコ製品の最新資料の日本語版は、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp>

### Product Documentation DVD (英語版)

シスコ製品のマニュアルおよびその他の資料は、製品に付属の Product Documentation DVD パッケージでご利用いただけます。Product Documentation DVD は定期的に更新されるので、印刷資料よりも新しい情報が得られます。

Product Documentation DVD は、技術情報を包含する製品マニュアルをポータブルなメディアに格納した、包括的なライブラリです。この DVD を使用することにより、シスコ製の各ハードウェアやソフトウェアのインストール、コンフィギュレーション、およびコマンドに関する複数のバージョンのマニュアルにアクセスし、技術情報を HTML で参照できます。また、この DVD を使用すると、シスコの Web サイトで参照できるのと同じマニュアルに、インターネットに接続せずにアクセスできます。一部の製品については、PDF 版のマニュアルもご利用いただけます。

Product Documentation DVD は、1 回単位で入手することも、または定期購読することもできます。Cisco.com 登録ユーザ (Cisco Direct Customers) の場合、Cisco Marketplace から Product Documentation DVD (Product Number DOC-DOCDVD=) を発注できます。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

### マニュアルの発注方法 (英語版)

2005 年 6 月 30 日以降、Cisco.com 登録ユーザの場合、Cisco Marketplace の Product Documentation Store からシスコ製品の英文マニュアルを発注できるようになっています。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

Cisco.com に登録されていない場合、製品を購入された代理店へお問い合わせください。

## シスコシステムズマニュアルセンター

シスコシステムズマニュアルセンターでは、シスコ製品の日本語マニュアルの最新版を PDF 形式で公開しています。また、日本語マニュアル、および日本語マニュアル CD-ROM もオンラインで発注可能です。ご希望の方は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

また、シスコシステムズマニュアルセンターでは、日本語マニュアル中の誤記、誤植に関するコメントをお受けしています。次の URL の「製品マニュアル内容不良報告」をクリックすると、コメント入力画面が表示されます。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

なお、技術内容に関するお問い合わせは、この Web サイトではお受けできませんので、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。

## シスコ製品のセキュリティの概要

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国での法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

シスコの暗号化製品に適用される米国の法律の概要については、次の URL で参照できます。

<http://www.cisco.com/wwl/export/crypto/tool/stqrg.html>

何かご不明な点があれば、[export@cisco.com](mailto:export@cisco.com) まで電子メールを送信してください。

シスコでは、オンラインの Security Vulnerability Policy ポータル ( 英文のみ ) を無料で提供しています。URL は次のとおりです。

[http://www.cisco.com/en/US/products/products\\_security\\_vulnerability\\_policy.html](http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html)

このサイトは、次の目的に利用できます。

- シスコ製品のセキュリティ脆弱性を報告する。
- シスコ製品に伴うセキュリティ事象についてサポートを受ける。
- シスコからセキュリティ情報を受け取るための登録をする。

シスコ製品に関するセキュリティ勧告および注意事項の最新のリストには、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/go/psirt>

勧告および注意事項がアップデートされた時点でリアルタイムに確認する場合は、次の URL から Product Security Incident Response Team Really Simple Syndication ( PSIRT RSS ) フィードにアクセスしてください。

[http://www.cisco.com/en/US/products/products\\_psirt\\_rss\\_feed.html](http://www.cisco.com/en/US/products/products_psirt_rss_feed.html)

## シスコ製品のセキュリティ問題の報告

シスコでは、セキュアな製品を提供すべく全力を尽くしています。製品のリリース前には内部でテストを行い、すべての脆弱性を早急に修正するよう努力しています。万一、シスコ製品に脆弱性が見つかった場合は、PSIRT にご連絡ください。

- 緊急の場合: [security-alert@cisco.com](mailto:security-alert@cisco.com) (英語のみ)

緊急とは、システムがアクティブな攻撃を受けている場合、または至急の対応を要する重大なセキュリティ上の脆弱性が報告されている場合を指します。これに該当しない場合はすべて、緊急でないと見なされます。

- 緊急でない場合: [psirt@cisco.com](mailto:psirt@cisco.com) (英語のみ)

緊急の場合は、電話で PSIRT に連絡することもできます。

- 1 877 228-7302 (英語のみ)
- 1 408 525-6532 (英語のみ)



### ヒント

シスコに機密情報をお送りいただく際には、PGP (Pretty Good Privacy) または互換製品を使用して、暗号化することをお勧めします。PSIRT は、PGP バージョン 2.x から 8.x と互換性のある暗号化情報に対応しています。

無効になった、または有効期限が切れた暗号鍵は、絶対に使用しないでください。PSIRT に連絡する際に使用する正しい公開鍵には、Security Vulnerability Policy ページの Contact Summary セクションからリンクできます。次の URL にアクセスしてください。

[http://www.cisco.com/en/US/products/products\\_security\\_vulnerability\\_policy.html](http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html)

このページ上のリンクからは、現在使用されている最新の PGP 鍵の ID にアクセスできます。

## テクニカル サポート

Cisco Technical Support では、24 時間テクニカル サポートを提供しています。Cisco.com の Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでは、多数のサポート リソースをオンラインで提供しています。また、シスコと正式なサービス契約を交わしているお客様には、Cisco Technical Assistance Center (TAC) のエンジニアが電話でのサポートにも対応します。シスコと正式なサービス契約を交わしていない場合は、代理店にお問い合わせください。

### Cisco Technical Support & Documentation Web サイト

Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでは、シスコ製品やシスコの技術に関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、オンラインでマニュアルやツールを提供しています。この Web サイトは、24 時間、いつでも利用可能です。URL は次のとおりです。

<http://www.cisco.com/techsupport>

Cisco Technical Support & Documentation Web サイトのツールにアクセスするには、Cisco.com のユーザ ID とパスワードが必要です。サービス契約が有効で、ユーザ ID またはパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do>



(注)

Web または電話でサービス リクエストを発行する前に、Cisco Product Identification (CPI) ツールを使用して製品のシリアル番号を確認してください。CPI ツールには、Cisco Technical Support & Documentation Web サイトから、Documentation & Tools の下の **Tools & Resources** リンクをクリックするとアクセスできます。アルファベット順の索引ドロップダウン リストから **Cisco Product Identification Tool** を選択するか、Alerts & RMAs の下の **Cisco Product Identification Tool** リンクをクリックします。CPI ツールには、3 つの検索オプションがあります。製品 ID またはモデル名による検索、ツリー表示による検索、show コマンド出力のコピー アンド ペーストによる特定製品の検索です。検索結果では、製品が図示され、シリアル番号ラベルの位置が強調表示されます。ご使用の製品でシリアル番号ラベルを確認し、その情報を記録してからサービス コールをかけてください。

### Japan TAC Web サイト

Japan TAC Web サイトでは、利用頻度の高い TAC Web サイト (<http://www.cisco.com/tac>) のドキュメントを日本語で提供しています。Japan TAC Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac>

サポート契約を結んでいない方は、「ゲスト」としてご登録いただくだけで、Japan TAC Web サイトのドキュメントにアクセスできます。Japan TAC Web サイトにアクセスするには、Cisco.com のログイン ID とパスワードが必要です。ログイン ID とパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://www.cisco.com/jp/register>

## サービス リクエストの発行

オンラインの TAC Service Request Tool を使用すると、S3 と S4 のサービス リクエストを短時間でオープンできます (S3: ネットワークに軽微な障害が発生した、S4: 製品情報が必要である)。状況を入力すると、その状況を解決するための推奨手段が検索されます。これらの推奨手段で問題を解決できない場合は、シスコのエンジニアが対応します。TAC Service Request Tool には、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/techsupport/servicerequest>

S1 または S2 のサービス リクエストの場合、またはインターネットにアクセスできない場合は、Cisco TAC に電話でお問い合わせください (S1: ネットワークがダウンした、S2: ネットワークの機能が著しく低下した)。S1 および S2 のサービス リクエストには、シスコのエンジニアがすぐに割り当てられ、業務を円滑に継続できるようサポートします。

Cisco TAC の連絡先については、次の URL を参照してください。

<http://www.cisco.com/techsupport/contacts>

## サービス リクエストのシビラティの定義

シスコでは、報告されるサービス リクエストを標準化するために、シビラティを定義しています。

シビラティ 1 (S1): ネットワークが「ダウン」した状態か、業務に致命的な損害が発生した場合。お客様およびシスコが、24 時間体制でこの問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 2 (S2): 既存のネットワーク動作が著しく低下したか、シスコ製品が十分に機能しないため、業務に重大な影響を及ぼした場合。お客様およびシスコが、通常の業務中の全時間を費やして、この問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 3 (S3): ネットワークの動作パフォーマンスが低下しているが、ほとんどの業務運用は継続できる場合。お客様およびシスコが、業務時間中にサービスを十分なレベルにまで復旧させる必要があると判断した場合。

シビラティ 4 (S4): シスコ製品の機能、インストレーション、コンフィギュレーションについて、情報または支援が必要な場合。業務の運用には、ほとんど影響がありません。

## その他の資料および情報の入手方法

シスコの製品、テクノロジー、およびネットワーク ソリューションに関する情報について、さまざまな資料をオンラインおよび印刷物で入手できます。

- Cisco Marketplace では、シスコの書籍やリファレンス ガイド、マニュアル、ロゴ製品を数多く提供しています。購入を希望される場合は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

- Cisco Press では、ネットワーク全般、トレーニング、および認定資格に関する出版物を幅広く発行しています。これらの出版物は、初級者にも上級者にも役立ちます。Cisco Press の最新の出版情報などについては、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.ciscopress.com>

- 『Packet』はシスコシステムズが発行する技術者向けの雑誌で、インターネットやネットワークへの投資を最大限に活用するために役立ちます。本誌は季刊誌として発行され、業界の最先端トレンド、最新テクノロジー、シスコ製品やソリューション情報が記載されています。また、ネットワーク構成およびトラブルシューティングに関するヒント、コンフィギュレーション例、カスタマー ケース スタディ、認定情報とトレーニング情報、および充実したオンラインサービスへのリンクの内容が含まれます。『Packet』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/packet>

日本語版『Packet』は、米国版『Packet』と日本版のオリジナル記事で構成されています。日本語版『Packet』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/news/packet/>

- 『iQ Magazine』はシスコシステムズの季刊誌で、成長企業が収益を上げ、業務を効率化し、サービスを拡大するためには技術をどのように利用したらよいかを学べるように構成されています。本誌では、実例とビジネス戦略を挙げて、成長企業が直面する問題とそれを解決するための技術を紹介し、読者が技術への投資に関して適切な決定を下せるよう配慮しています。『iQ Magazine』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/iqmagazine>

デジタル版には、次の URL からアクセスできます。

<http://ciscoiq.texterity.com/ciscoiq/sample/>

- 『Internet Protocol Journal』は、インターネットおよびイントラネットの設計、開発、運用を担当するエンジニア向けに、シスコが発行する季刊誌です。『Internet Protocol Journal』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/ipj>

- シスコシステムズが提供するネットワーキング製品、および各種のカスタマー サポート サービスは、次の URL から入手できます。

<http://www.cisco.com/en/US/products/index.html>

- Networking Professionals Connection は対話形式の Web サイトです。このサイトでは、ネットワーキング製品やテクノロジーに関する質問、提案、および情報をネットワーキング担当者がシスコの専門家や他のネットワーキング担当者と共に共有できます。次の URL にアクセスしてディスカッションに参加してください。

<http://www.cisco.com/discuss/networking>

- シスコは、国際的なレベルのネットワーク関連トレーニングを実施しています。最新情報については、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/en/US/learning/index.html>



## PART 1

### Cisco CallManager の概要







## 概要

Cisco CallManager は、コールを処理するためのソフトウェアベースのコンポーネントであり、Cisco Communications ファミリの製品です。さまざまなタイプの Cisco Media Convergence Server が、Cisco CallManager のコール処理、サービス、およびアプリケーションに対して可用性の高いサーバプラットフォームを提供します。

Cisco CallManager システムは、企業のテレフォニー機能をパケットテレフォニーデバイスまで拡張して、たとえば、IP Phone、メディア処理デバイス、Voice-over-IP (VoIP) ゲートウェイ、マルチメディアアプリケーションなどを提供します。その他にも、統合メッセージング、マルチメディア会議、コラボレーション連絡センター、対話型マルチメディア応答システムなどで使用されるデータ、音声、ビデオの各サービスでは、オープン型の Cisco CallManager テレフォニー API を利用してサービス間の情報を交換することが可能になります。

Cisco CallManager は、Cisco 統合テレフォニーアプリケーションおよびサードパーティアプリケーションに対して、シグナリングとコール制御のサービスを提供します。主な機能は、次のとおりです。

- コール処理
- シグナリングとデバイス制御
- ダイヤルプランの管理
- 電話機能の管理
- ディレクトリサービス
- Operations, administration, management, and provisioning (OAM&P; 操作、アドミニストレーション、管理、およびプロビジョニング)
- Cisco IP Communicator、Cisco IP Interactive Voice Response (IP IVR)、Cisco CallManager Attendant Console などの外部音声処理アプリケーションに対するプログラミングインターフェイス

### 追加情報

P.1-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 主な機能と利点

Cisco CallManager システムには、音声会議と WebAttendant 機能を利用するのに必要な一連の統合音声アプリケーションが組み込まれています。音声アプリケーションが組み込まれているため、音声処理用に特別のハードウェアは必要ありません。保留、任意転送、自動転送、会議、複数回線通話、自動ルート選択、スピードダイヤル、前回かけた番号のリダイヤルなどの補助的な拡張サービスが、IP Phone とゲートウェイに付加されます。Cisco CallManager はソフトウェアアプリケーションなので、実稼働環境で機能を拡張するには、サーバプラットフォーム上でソフトウェアをアップグレードするだけで済み、高価なハードウェアのアップグレード費用が不要になります。

Cisco CallManager は、すべての Cisco IP Phone、ゲートウェイ、アプリケーションと IP ネットワーク全体に配備が可能のため、分散型のバーチャル テレフォニ ネットワークを構築することができます。このアーキテクチャにより、システムのアベイラビリティとスケーラビリティが向上します。コール アドミッション制御により、帯域幅に制約のある WAN リンク内での音声 QoS が保証され、WAN 帯域幅が十分でないときには別の公衆電話交換網 (PSTN) にコールが自動転送されます。

Cisco CallManager 設定データベースへのインターフェイスは通常の Web ブラウザを使用しているため、リモート デバイスとリモート システムの設定機能も提供しています。ユーザおよび管理者は、このインターフェイスを使用して HTML ベースのオンライン ヘルプにアクセスすることができます。

アプライアンスと同様に動作するように設計された Cisco CallManager Release 5.0 は、次の機能を備えています。

- Cisco CallManager サーバは、お客様やパートナーがサーバを配置しやすいように、ソフトウェアとともに事前にインストールされた状態で入手できます。このサーバはアップデートを自動的に検索し、システムに対する重要なセキュリティ修正やソフトウェアアップグレードが使用可能になると、管理者に自動的に通知することができます。このプロセスは、Electronic Software Upgrade Notification と呼ばれます。
- Cisco CallManager サーバは、コールの処理を続けたままアップグレードすることができるため、アップグレードは最小限のダウンタイムで完了します。
- Cisco CallManager は高解像度の電話ディスプレイ上で Unicode をサポートしているため、アジアおよび中東地域での使用をサポートしています。
- Cisco CallManager は、Fault, Configuration, Accounting, Performance, and Security (FCAPS) を提供します。

### 追加情報

P.1-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco CallManager Administration の参照

Cisco CallManager Administration プログラムには、Cisco CallManager がインストールされていない、Web サーバ以外の PC からアクセスします。Cisco CallManager Administration のサーバ上には、ブラウザソフトウェアはありません。サーバの参照の詳細については、P.1-3 の「Web ブラウザ」を参照してください。

### 追加情報

P.1-10 の「関連項目」を参照してください。

## Web ブラウザ

Cisco CallManager Administration は、次の Microsoft Windows オペレーティングシステム ブラウザをサポートしています。

- Microsoft Internet Explorer (IE) 6.0 以降
- Netscape 7.1 以降

ネットワーク内の任意のユーザ PC から、Cisco CallManager Administration を実行しているサーバを参照し、管理特権でログインします。



(注)

多数のユーザが同時に Cisco CallManager Administration にログインすると、パフォーマンスが低下する場合があります。同時にログインするユーザおよび管理者の数は制限してください。

## Cisco CallManager Administration へのログイン

Cisco CallManager Administration にログインする手順は、次のとおりです。

### 手順

サーバを参照して Cisco CallManager Administration にログインする手順は、次のとおりです。

**ステップ 1** 適切なオペレーティングシステム ブラウザを起動します。

**ステップ 2** Web ブラウザのアドレスバーに次の URL を入力します。大文字と小文字は区別してください。

`https://<CCM-server-name>:{8443}/ccmadmin/showHome.do`

ただし、<CCM-server-name> はサーバの名前または IP アドレスです。



(注)

ポート番号を指定することもできます。

**ステップ 3** Security Alert ダイアログボックスが表示されます。適切なボタンをクリックします。

- ステップ 4** Logon ウィンドウで、Cisco CallManager のインストール中に指定したアプリケーション ユーザ パスワードを入力し、**Submit** をクリックします。

Cisco CallManager Administration ウィンドウが表示されます ( [図 1-1](#) を参照 )。



- (注)** セキュリティを維持するために、30 分が経過すると、ユーザは Cisco CallManager Administration によってログアウトされます。この場合は、もう一度ログインする必要があります。

#### 追加情報

P.1-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco CallManager Administration からのログオフ

#### 手順

Cisco CallManager Administration からログオフする手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** Cisco CallManager Administration のメイン ウィンドウで、右上にある **Log Off** ボタンをクリックします ( [図 1-1](#) を参照 )。
- ステップ 2** Logon ウィンドウが表示されます。

#### 追加情報

P.1-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Secure Sockets Layer 上のハイパーテキスト転送プロトコル (HTTPS)

ブラウザクライアントと Web サーバ間( Microsoft Windows ユーザの場合 )の通信を保護する Secure Sockets Layer ( SSL ) 上のハイパーテキスト転送プロトコルは、証明書およびインターネット上で転送されるデータを暗号化する公開鍵を使用します。また、HTTPS は、ユーザのログイン パスワードが Web 経由で安全に転送されるようにします。Cisco CallManager Administration、Cisco CallManager Serviceability、Cisco CallManager User Options、Trace Collection Tool、Real-Time Monitoring Tool ( RTMT )、および XML ( AXL ) アプリケーション プログラミング インターフェイスの各 Cisco CallManager アプリケーションは、HTTPS をサポートしており、HTTPS によってサーバの ID を保証します。

自己署名証明書は、インストール時に Web サーバ上で生成されます ( この証明書は、アップグレード時にも移行されます )。



(注)

ホスト名を使用して Web アプリケーションにアクセスし、信頼できるフォルダ内の証明書をインストールしてから、ローカルホストまたは IP アドレスを使用してアプリケーションにアクセスしようとする、セキュリティ証明書の名前がサイトの名前と一致しないことを知らせる Security Alert ダイアログボックスが表示されます。

ローカルホスト、IP アドレス、または URL 内のホスト名を使用して HTTPS をサポートしているアプリケーションにアクセスする場合は、URL タイプごとに（ローカルホスト、IP アドレスなどとともに）信頼できるフォルダ内に証明書を保存する必要があります。URL のタイプごとに証明書を保存しない場合、各タイプに対して Security Alert ダイアログボックスが表示されます。

## Cisco CallManager Administration での Internet Explorer および HTTPS の使用方法

Web アプリケーションにアクセスするたびに Security Alert ダイアログボックスが表示されないように、信頼できるフォルダ内に CA ルート証明書を保存する手順は、次のとおりです。ブラウザクライアントから Cisco CallManager 5.0 をインストールまたはアップグレードした後に、システム管理者（またはユーザ）が最初に Cisco CallManager Administration または他の Cisco CallManager SSL が使用可能になっている仮想ディレクトリにアクセスするとき、サーバを信頼するかどうかをたずねる Security Alert ダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックスが表示されたら、次の作業のいずれかを実行します。

- Yes をクリックして、現在の Web セッションに対してのみ証明書を信頼する。現在のセッションに対してのみ証明書を信頼すると、Security Alert ダイアログボックスは、信頼できるフォルダに証明書をインストールするまで、アプリケーションにアクセスするたびに表示されます。
- View Certificate > Install Certificate の順にクリックして証明書のインストールを実行し、その証明書を常に信頼することを指定する。信頼できるフォルダ内に証明書をインストールした場合、Web アプリケーションにアクセスするたびに Security Alert ダイアログボックスが表示されることはありません。
- No をクリックして、操作をキャンセルする。認証は行われず、Web アプリケーションにアクセスできません。Web アプリケーションにアクセスするには、Yes をクリックするか、View Certificate > Install Certificate オプションで証明書をインストールする必要があります。

Security Alert ダイアログボックスで実行できるその他の作業については、『Cisco CallManager セキュリティガイド』を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** Web サーバ上のアプリケーションを参照します。
- ステップ 2** Security Alert ダイアログボックスが表示されたら、View Certificate をクリックします。
- ステップ 3** Certificate ペインで、Install Certificate をクリックします。
- ステップ 4** Next をクリックします。
- ステップ 5** Place all certificates in the following store オプション ボタンをクリックし、Browse をクリックします。
- ステップ 6** Trusted Root Certification Authorities を参照します。
- ステップ 7** Next をクリックします。

**ステップ 8** Finish をクリックします。

**ステップ 9** 証明書をインストールするために、Yes をクリックします。

インポートが正常に行われたことを知らせるメッセージが表示されます。OK をクリックします。

**ステップ 10** ダイアログボックスの右下にある OK をクリックします。

**ステップ 11** 証明書を信頼し、このダイアログボックスを再び表示しない場合は、Yes をクリックします。



**(注)** ローカルホスト、IP アドレス、または URL 内のホスト名を使用して HTTPS をサポートしているアプリケーションにアクセスする場合は、URL タイプごとに（ローカルホスト、IP アドレスなどとともに）信頼できるフォルダ内に証明書を保存する必要があります。URL のタイプごとに証明書を保存しない場合、各タイプに対して Security Alert ダイアログボックスが表示されます。

#### 追加情報

P.1-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco CallManager Administration での Netscape および HTTPS の使用方法

Netscape で HTTPS を使用する場合、証明書の資格情報を表示し、1 回のセッションに対して証明書を信頼する、期限が切れるまでその証明書を信頼する、または証明書を信頼しない、のいずれかを選択できます。



#### ヒント

1 回のセッションに対してのみ証明書を信頼する場合は、HTTPS がサポートされているアプリケーションにアクセスするたびに次の手順を繰り返す必要があります。証明書を信頼しない場合は、アプリケーションにアクセスできません。

次の手順を実行して、信頼できるフォルダに証明書を保存します。

#### 手順

**ステップ 1** Netscape を使用して、アプリケーション(たとえば、Cisco CallManager Administration)を参照します。

認証権限を選択するダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかのオプション ボタンをクリックします。

- Accept this certificate for this session
- Do not accept this certificate and do not connect
- Accept this certificate forever (until it expires)



(注) Do not accept を選択した場合、アプリケーションは表示されません。



(注) 作業を続行する前に証明書の資格情報を表示する場合は、Examine Certificate をクリックします。資格情報を確認し、Close をクリックします。

**ステップ 3** OK をクリックします。

Security Warning ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 4** OK をクリックします。

#### 追加情報

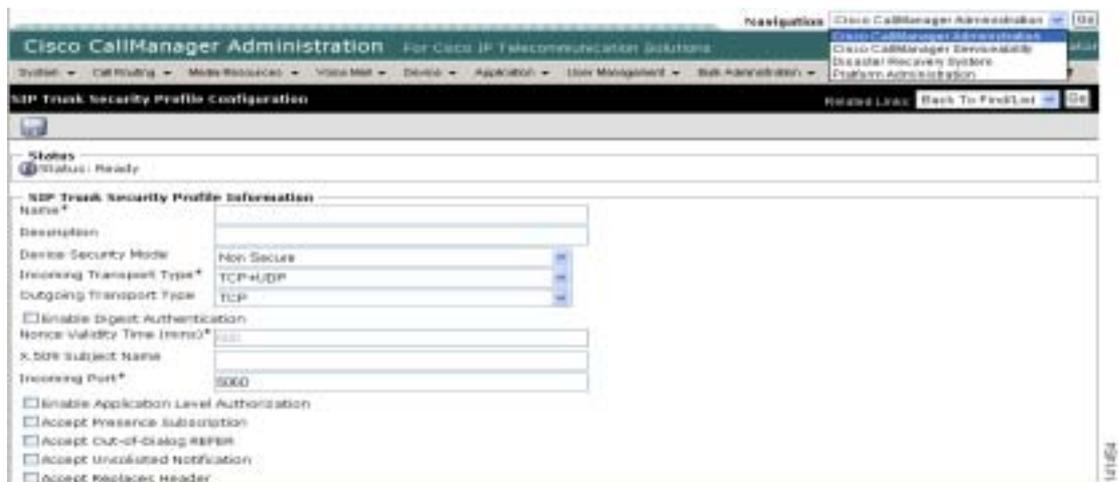
P.1-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco CallManager Administration アプリケーションでの操作

ログインすると、Cisco CallManager Administration のメイン ウィンドウが表示されます。このウィンドウの右上には、**Navigation** と呼ばれるドロップダウン リストボックスがあります( 図 1-1 を参照)。このドロップダウン リストボックスにあるアプリケーションにアクセスするには、必要なプログラムを選択し、**Go** をクリックします。ドロップダウン リストボックスに表示されるオプションは、次の Cisco CallManager アプリケーションです。

- Cisco CallManager Administration : Cisco CallManager にアクセスすると、デフォルトを表示します。システム パラメータ、ルート プラン、デバイスなどを設定するには、Cisco CallManager Administration を使用します。
- Cisco CallManager Serviceability : Cisco CallManager Serviceability のメイン ウィンドウを表示します。このアプリケーションは、トレース ファイルとアラームを設定し、サービスをアクティブまたは非アクティブにするために使用します。
- Disaster Recovery System : Cisco Disaster Recovery System を表示します。このアプリケーションは、Cisco CallManager クラスタのすべてのサーバに対して、データの完全バックアップおよび復元機能を提供します。
- Platform Administration : ログイン ウィンドウを表示して、Cisco CallManager プラットフォームを設定および管理できるようにします。

図 1-1 Cisco CallManager Administration の Navigation



これらのアプリケーションは、セキュリティが強化されています。このため、これらのプログラムにアクセスするには、まずユーザ ID とパスワードを入力する必要があります。

### 追加情報

P.1-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## アクセシビリティ

Cisco CallManager Administration および Cisco CallManager User Options は、マウスを使用しなくてもウィンドウ上のボタンにアクセスできる機能を備えています。ウィンドウ上のどの位置でも次の手順を実行できるため、さまざまなフィールドを移動するときに、スクロールしたり Tab キーを押したりする必要はありません。

### ウィンドウにあるアイコンへのアクセス

Cisco CallManager と Cisco PCA の多くのウィンドウには、ウィンドウの一番上にアイコンがあります。たとえば、保存を実行するためのディスクのアイコン、追加を実行するためのプラス記号 (+) のアイコンなどです。これらのアイコンにアクセスする手順は、次のとおりです。

1. Alt キーを押し、1 キーを押して、Tab キーを押します。左側の最初のアイコンが強調表示されます。次のアイコンに移動するには、もう一度 Tab キーを押します。
2. Enter キーを押します。アイコンが表している機能（追加など）が実行されます。

### ウィンドウにあるボタンへのアクセス

Cisco CallManager と Cisco PCA の多くのウィンドウには、ウィンドウの一番下にボタンがあります。たとえば、保存のボタンや追加のボタンなどです。これらのボタンにアクセスする手順は、次のとおりです。

1. Alt キーを押し、2 キーを押して、Tab キーを押します。左側の最初のボタンが強調表示されます。次のボタンに移動するには、もう一度 Tab キーを押します。
2. Enter キーを押します。ボタンが表している機能（保存など）が実行されます。

## 参考情報

- *Cisco CallManager システム ガイド*
- *Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド*
- *Cisco CallManager Serviceability システム ガイド*
- *Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*
- *Cisco CDR Analysis and Reporting Administration Guide*
- *Cisco IP テレフォニー ソリューション リファレンス ネットワーク デザイン ガイド*
- *Cisco CallManager Release 5.0(1) インストレーション ガイド*
- *Cisco CallManager Release 5.0(1) アップグレード手順*
- *Cisco CallManager セキュリティ ガイド 5.0*
- *Cisco IP Telephony Platform Administration Guide*
- *Cisco IP Telephony Disaster Recovery System Administration Guide*

## 関連項目

- [概要 \(P.1-1\)](#)
- [主な機能と利点 \(P.1-2\)](#)
- [Cisco CallManager Administration の参照 \(P.1-3\)](#)
- [Cisco CallManager Administration での Internet Explorer および HTTPS の使用方法 \(P.1-5\)](#)
- [Secure Sockets Layer 上のハイパーテキスト転送プロトコル \(HTTPS\) \(P.1-4\)](#)
- [Cisco CallManager Administration アプリケーションでの操作 \(P.1-8\)](#)
- [アクセシビリティ \(P.1-9\)](#)
- [参考情報 \(P.1-10\)](#)



## PART 2

### システムの設定







## サーバの設定

---

サーバの設定では、Cisco CallManager がインストールされるサーバのアドレスを指定します。ご使用のネットワークでドメイン ネーム システム (DNS) サービスを使用している場合、サーバのホスト名を指定することができます。ネットワークで DNS サービスを使用していない場合は、サーバのインターネット プロトコル (IP) アドレスを使用する必要があります。



(注)

---

適切な Cisco CallManager 名とアドレス情報で、まず DNS サーバを更新した後、その情報を使用して、Cisco CallManager サーバを設定する必要があります。

---

Cisco CallManager データベースでサーバ アドレスを追加、更新、または削除する方法については、[P.2-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

## サーバの検索

ネットワーク内にはいくつかのサーバが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定のサーバを見つけることができます。サーバを見つける手順は、次のとおりです。



**(注)** ブラウザ セッションでの作業中は、検索 / リストの検索設定がクライアント マシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザ ウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco CallManager の検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** System > Server の順に選択します。

Find and List Servers ウィンドウが表示されます。2つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、サーバを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find Servers ウィンドウのドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Host Name/IP Address (ホスト名または IP アドレス)
- Description (説明)

2番目の Find Servers ウィンドウのドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- is exactly (完全一致)
- ends with (後方一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。



**ヒント** データベースに登録されているサーバをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたサーバのリストが、次の項目別に表示されます。

- Host Name/IP Address (ホスト名または IP アドレス)
- Description (説明)

Find and List Servers ウィンドウでは、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注) 該当するサーバの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Servers ウィンドウから複数のサーバを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのサーバを削除できます。

**ステップ4** レコードのリストから、検索条件と一致するサーバ名をクリックします。

選択したサーバがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.2-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## サーバの設定

Cisco CallManager データベースにサーバアドレスを追加する手順、およびデータベース内のサーバアドレスを更新する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

サーバを追加する場合は、次のガイドラインに従ってください。

- 各サーバは、Server Configuration ウィンドウで一度だけ追加するようにしてください。ホスト名を使用してサーバを追加し、その後同じサーバを IP アドレスを使用して追加すると、Cisco CallManager は、アップグレード後にサーバのコンポーネントバージョンを正しく判別できません。Cisco CallManager Administration に同じサーバのエントリが2つある場合は、アップグレードする前にエントリのどちらかを削除します (P.2-5 の「サーバの削除」を参照)。

### 手順

---

**ステップ 1** 次の作業のいずれかを実行します。

- サーバを追加するには、**System > Server** を選択し、**Add New** をクリックします。
- サーバを更新するには、P.2-2 の「サーバの検索」の手順を使用してサーバを検索します。

Server Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 適切な設定値を入力します (表 2-1 を参照)。

**ステップ 3** ウィンドウ右上のツールバーに表示されている **Save** アイコンをクリックして (または、ウィンドウの一番下に表示されている **Save** ボタンをクリックして)、データを保存し、サーバをデータベースに追加します。

サーバ設定の変更を有効にするには、Cisco CallManager を再起動します。Cisco CallManager サービスの再起動については、『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。



(注)

Cisco CallManager の新規インストールを実行する場合は、2 番目以降の各サーバ(ノード)上に Cisco CallManager ソフトウェアをインストールする前に、Cisco CallManager Administration の Server Configuration ウィンドウで、それらの各サーバを定義する必要があります。2 番目以降のノードを定義するには、**Add New** をクリックし (ステップ 1 を参照)、サーバを設定します。2 番目以降のサーバを追加したら、そのサーバに Cisco CallManager ソフトウェアをインストールすることができます。

### 追加情報

P.2-6 の「関連項目」を参照してください。

## サーバの削除

Cisco CallManager データベースからサーバを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

Dependency Records がシステムで使用可能でない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示され、Dependency Records を使用可能にするための操作が示されます。このメッセージには、Dependency Records 機能によって CPU に高い負荷がかかることも表示されます。Dependency Records の詳細については、P.A-4 の「[Dependency Records へのアクセス](#)」を参照してください。

### 手順

- 
- ステップ 1** P.2-2 の「[サーバの検索](#)」の手順を使用して、サーバを検索します。
  - ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するサーバを選択します。
  - ステップ 3** ウィンドウ右上のツールバーに表示されている **Delete Selected Item** アイコンをクリックして(または、ウィンドウの一番下に表示されている **Delete Selected** ボタンをクリックして)、サーバを削除します。

Cisco CallManager は、サーバが使用中でない場合、そのサーバを削除します。サーバが使用中である場合は、エラーメッセージを表示します。

サーバ設定の変更を有効にするには、Cisco CallManager を再起動します。Cisco CallManager サービスの再起動については、『*Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*』を参照してください。

---

### 追加情報

P.2-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## サーバの設定値

表 2-1 では、サーバの設定値について説明します。関連する手順については、P.2-6 の「関連項目」を参照してください。

表 2-1 サーバ設定値

Server Information フィールド	説明
Host Name/IP Address	<p>ネットワークで DNS サービスを使用している場合、Cisco CallManager サーバのホスト名を入力します。DNS サービスを使用していない場合は、サーバの完全な IP アドレスを入力する必要があります。</p> <p> (注) 適切な Cisco CallManager 名とアドレス情報で、まず DNS サーバを更新した後、この設定をする必要があります。</p>
MAC Address	<p>このエントリはオプションです。</p> <p>Cisco CallManager サーバにあるネットワーク インターフェイス カード (NIC) のメディア アクセス制御 (MAC) アドレスを入力します。MAC アドレスは、NIC のパーマネントハードウェア アドレスを示します。</p> <p> ヒント サーバをネットワーク上の別の場所に移動させることが多い場合は、MAC アドレスを入力して、そのサーバをネットワーク上の他のデバイスが常に識別できるようにする必要があります。サーバを移動する予定がない場合は、MAC アドレスは入力してもしなくてもかまいません。</p>
Description	<p>このエントリはオプションです。</p> <p>サーバの説明を入力します。</p>

## 関連項目

- [サーバの検索 \(P.2-2\)](#)
- [サーバの設定 \(P.2-4\)](#)
- [サーバの削除 \(P.2-5\)](#)
- [サーバの設定値 \(P.2-6\)](#)
- [Cisco CallManager の設定 \(P.3-1\)](#)



## Cisco CallManager の設定

---

Cisco CallManager の設定では、同一クラスタ内にインストールされている Cisco CallManager それぞれに対して、ポートおよびその他のプロパティを指定します。クラスタは、冗長化機能を有効にした一群の Cisco CallManager から構成されます。

Cisco CallManager クラスタの最初のノードについては、インストールの過程でサーバが自動的に追加されます。この他の Cisco CallManager をクラスタに追加するには、管理者が ( Server Configuration を使用して ) サーバを設定し、その Cisco CallManager を ( Cisco CallManager Configuration を使用して ) 追加する必要があります。この手順を、クラスタに配置する Cisco CallManager ごとに繰り返します。

Cisco CallManager の設定を検索および更新したり、システム コンポーネントのバージョン情報を表示したりするには、次のトピックを参照してください。

- [Cisco CallManager の検索 \( P.3-2 \)](#)
- [Cisco CallManager の更新 \( P.3-3 \)](#)
- [Cisco CallManager の設定値 \( P.3-4 \)](#)
- [Cisco CallManager サービスのアクティブ化および非アクティブ化 \( P.3-7 \)](#)
- [関連項目 \( P.3-8 \)](#)

## Cisco CallManager の検索

ネットワーク内にはいくつかの Cisco CallManager が存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の基準を指定して、特定の Cisco CallManager を見つけることができます。Cisco CallManager を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、検索 / リストの検索設定がクライアント マシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザ ウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco CallManager の検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** System > Cisco CallManager の順に選択します。

Find and List Cisco CallManagers ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、Cisco CallManager を検索します。

**ステップ 2** 最初の Find Cisco CallManagers ウィンドウのドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Name
- Description

2 番目の Find Cisco CallManagers ウィンドウのドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- is exactly (完全一致)
- ends with (後方一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。



ヒント

データベースに登録されている Cisco CallManager をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出された Cisco CallManager のリストが、次の項目別に表示されます。

- Cisco CallManager Name
- Description

Find and List Cisco CallManagers ウィンドウでは、ページごとに表示する行数も指定できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する Cisco CallManager 名をクリックします。

選択した Cisco CallManager がウィンドウに表示されます。

---

#### 追加情報

P.3-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco CallManager の更新

Cisco CallManager を更新する手順は、次のとおりです。

#### 手順

**ステップ 1** System > Cisco CallManager の順に選択します。

Find and List Cisco CallManagers ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Cisco CallManager を更新するには、対象となる Cisco CallManager を見つけます (P.3-2 の「[Cisco CallManager の検索](#)」を参照)。更新する Cisco CallManager をクリックし、**ステップ 3**に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 3-1 を参照)。

**ステップ 4** Save をクリックします。

---

#### 追加情報

P.3-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco CallManager の設定値

表 3-1 では、Cisco CallManager の設定値について説明します。関連する手順については、P.3-8 の「関連項目」を参照してください。

表 3-1 Cisco CallManager の設定値

フィールド	説明
<b>サーバ情報</b>	
Cisco CallManager Server	この読み取り専用フィールドには、Cisco CallManager がインストールされているサーバが表示されます。
Cisco CallManager Name	この Cisco CallManager に割り当てる名前を入力します。
Description	Cisco CallManager の説明を入力します。
<b>自動登録情報</b>	
Starting Directory Number	デバイスの自動登録に使用する開始電話番号を入力します。
Ending Directory Number	デバイスの自動登録に使用する終了電話番号を入力します。
	 <p><b>(注)</b> Starting Directory Number フィールドと Ending Directory Number フィールドで電話番号の有効な範囲を指定すると、自動登録が自動的に使用可能になります。</p> <p>Starting Directory Number と Ending Directory Number を同じ値に設定すると、自動登録が使用不可になります。</p>
Partition	<p>パーティションを使用しない場合は、&lt;None&gt; を選択します。</p> <p>パーティションを使用している場合は、自動登録された電話番号が属するパーティションをドロップダウン リスト ボックスから選択します。</p>  <p><b>ヒント</b> Partition、External Phone Number Mask、または Voice Messaging Box Mask を選択する前に、自動登録用の範囲を選択しておく必要があります。</p> <p>パーティションの数が 250 より多い場合は、ドロップダウン リスト ボックスの横に省略記号 (...) ボタンが表示されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Select Partition ウィンドウを表示するには、... ボタンをクリックします。</li> <li>2. List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。</li> <li>3. Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで希望するパーティション名をクリックします。</li> <li>4. OK をクリックします。</li> </ol>

表 3-1 Cisco CallManager の設定値 (続き)

フィールド	説明
External Phone Number Mask	<p>自動登録されたデバイスから発信される外部（発信）コールに対して、発信者 ID 情報をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このマスクには、最長 50 文字までを指定できます。</li> <li>発信者 ID 情報に表示する数字列を入力します。自動登録されたデバイスの電話番号を表すには、X を使用します。</li> </ul> <p>次の例を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マスク 972813XXXX を指定する場合、外部コールを行うのに使用されるルートパターンで Use External Phone Number Mask オプションがオンになっていれば、内線番号 1234 からの外部コールは、発信者 ID が 9728131234 と表示されます。</li> <li>代表番号を表すために、9728135000 のようなすべて数字列のマスクを指定する場合は、その番号 (9728135000) が、自動登録された任意のデバイスからの外部コールの発信者 ID として表示されます。</li> </ul>
Auto-registration Disabled on this Cisco CallManager	<p>Cisco CallManager は、無許可でネットワークへ接続するのを防止する目的で、デフォルトでは自動登録を使用不可にしています。自動登録を使用可能にするか使用不可にするかを選択するには、次のいずれかのオプションを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この Cisco CallManager で自動登録を使用可能にするには、Auto-registration Disabled チェックボックスをオフにします。</li> <li>この Cisco CallManager で自動登録を使用不可にするには、Auto-registration Disabled チェックボックスをオンにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>自動登録が使用不可の場合は、ネットワークに新しいデバイスを追加するたびに、電話番号を手動で設定する必要があります。</li> <li>Starting Directory Number と Ending Directory Number を同じ値に設定しても、自動登録が使用不可になります。</li> <li>このオプションをオンにして自動登録を使用不可にするときに、開始電話番号と終了電話番号が指定されている場合、Cisco CallManager は、開始電話番号と終了電話番号を同じ値に設定します。</li> </ul> </li> </ul> <p>Cisco CallManager は、自動登録が使用不可になると、パーティションと外部電話マスク情報をリセットします。</p>

表 3-1 Cisco CallManager の設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>このサーバの Cisco CallManager の TCP ポート設定値</b>	
Ethernet Phone Port	<p>Cisco CallManager は、ネットワーク上の Cisco IP Phone (SCCP のみ) との通信に、この TCP ポートを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デフォルトのポート値 2000 がシステム上ですでに使用中以外の場合は、このデフォルトポートを受け入れてください。2000 を選択すると、このポートはノンセキュアとして識別されます。</li> <li>すべてのポート入力値は固有のものでなければなりません。</li> <li>有効なポート番号の範囲は、1024 ~ 49151 です。</li> <li>セキュリティの設定については、『Cisco CallManager セキュリティガイド』を参照してください。</li> </ul>
MGCP Listen Port	<p>Cisco CallManager は、関連した MGCP ゲートウェイからメッセージを検出する場合に、この TCP ポートを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デフォルトのポート番号 2427 がシステム上ですでに使用中以外の場合は、このデフォルトポートを受け入れてください。</li> <li>すべてのポート入力値は固有のものでなければなりません。</li> <li>有効なポート番号の範囲は、1024 ~ 49151 です。</li> </ul>
MGCP Keep-alive Port	<p>Cisco CallManager は、関連する MGCP ゲートウェイと、キープアライブメッセージを交換する場合に、この TCP ポートを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デフォルトのポート番号 2428 がシステム上ですでに使用中以外の場合は、このデフォルトポートを受け入れてください。</li> <li>すべてのポート入力値は固有のものでなければなりません。</li> <li>有効なポート番号の範囲は、1024 ~ 49151 です。</li> </ul>
SIP Phone Port	<p>このフィールドには、TCP および UDP による SIP 回線登録をリッスンするために Cisco CallManager が使用するポート番号を指定します。</p>
SIP Phone Secure Port	<p>このフィールドには、TLS による SIP 回線登録をリッスンするために Cisco CallManager が使用するポート番号を指定します。</p> <p>セキュリティの設定については、『Cisco CallManager セキュリティガイド』を参照してください。</p>

## Cisco CallManager サービスのアクティブ化および非アクティブ化

Cisco CallManager サービスのアクティブ化および非アクティブ化には、次の要件が適用されます。

- [Cisco CallManager サービスのアクティブ化 \(P.3-7\)](#)
- [Cisco CallManager サービスの非アクティブ化 \(P.3-7\)](#)

### 追加情報

[P.3-8 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco CallManager サービスのアクティブ化

Cisco CallManager の新規インストールを実行する場合は、次の手順に従う必要があります。

1. サーバを追加します。サーバが設定されると、Cisco CallManager が自動的に追加されます。
2. 『*Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*』の説明に従って、Cisco CallManager サービスを有効にします。

この手順に従わない場合は、メッセージが表示されます。

### 追加情報

[P.3-8 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco CallManager サービスの非アクティブ化

Cisco CallManager サービスは、Cisco CallManager Serviceability で非アクティブにすることができます。Cisco CallManager サービスを非アクティブにすると、サービスを非アクティブにした Cisco CallManager は非アクティブになり、使用されなくなります。



**(注)** Cisco CallManager Serviceability の **Tools > Service Activation** にアクセスすると、Cisco CallManager のステータスを表示できます。

Cisco CallManager サービスを非アクティブにした場合、その Cisco CallManager 上ではコールを発信できなくなります。

Cisco CallManager Administration Web サービスがアクティブになっていて、データベースが起動し、動作している場合は、非アクティブになった Cisco CallManager に対して設定操作を実行できます。

Cisco CallManager 上でもう一度 Cisco CallManager サービスをアクティブにすると、Cisco CallManager が元の設定（サーバ名または IP アドレス）のまま自動的にデータベースに再作成されます。この Cisco CallManager がアクティブになります。Cisco CallManager サービスが動作していることを確認するには、Cisco CallManager Serviceability の **Tools > Control Center - Feature Services** にアクセスします。

サービスのアクティブ化の詳細については、『*Cisco CallManager Serviceability システム ガイド*』および『*Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*』を参照してください。

### 追加情報

[P.3-8 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

- [Cisco CallManager の検索 \( P.3-2 \)](#)
- [Cisco CallManager の更新 \( P.3-3 \)](#)
- [Cisco CallManager の設定値 \( P.3-4 \)](#)
- [Cisco CallManager サービスのアクティブ化および非アクティブ化 \( P.3-7 \)](#)
- [サーバの設定 \( P.2-1 \)](#)
- *Cisco CallManager セキュリティ ガイド*



## Cisco CallManager グループの設定

1 つの Cisco CallManager グループでは、最高 3 つの Cisco CallManager の優先順位をリストで指定しています。リストの最初にある Cisco CallManager はそのグループのプライマリ Cisco CallManager となり、残りは、セカンダリおよびターティアリ（第三次 - バックアップ）Cisco CallManager となります。

各デバイス プールには、Cisco CallManager グループが 1 つずつ割り当てられています。デバイスが登録されると、そのデバイスは、デバイス プールに割り当てられているグループの中のプライマリ Cisco CallManager に接続しようとしています。プライマリ Cisco CallManager が使用できない場合、デバイスはそのグループにリストされている次の Cisco CallManager へと順次接続しようとしています。

Cisco CallManager グループは、システムに次の重要な機能を提供します。

- 冗長性：この機能により、グループごとにプライマリ Cisco CallManager とバックアップ Cisco CallManager を指定できる。
- コール処理のロード バランシング：この機能を使用すると、複数の Cisco CallManager にデバイスの制御を振り分けることができる。

ほとんどのシステムでは、負荷分散と冗長性を向上させるために、複数のグループを用意して 1 つの Cisco CallManager を複数のグループに割り当てる必要があります。

Cisco CallManager グループを追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [Cisco CallManager グループの検索 \(P.4-2\)](#)
- [Cisco CallManager グループの設定 \(P.4-3\)](#)
- [Cisco CallManager グループの設定値 \(P.4-4\)](#)
- [Cisco CallManager グループの削除 \(P.4-5\)](#)
- [関連項目 \(P.4-6\)](#)

## Cisco CallManager グループの検索

ネットワーク内にはいくつかの Cisco CallManager グループが存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の基準を指定して、特定の Cisco CallManager グループを見つけることができます。Cisco CallManager グループを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザ セッションでの作業中は、検索 / リストの検索設定がクライアント マシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザ ウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco CallManager の検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** System > Cisco CallManager Group の順に選択します。

Find and List Cisco CallManager Groups ウィンドウが表示されます。ドロップダウン リスト ボックスを使用して、Cisco CallManager グループを検索します。

**ステップ 2** Find Cisco CallManager Groups ウィンドウのドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- is exactly (完全一致)
- ends with (後方一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。



ヒント

データベースに登録されている Cisco CallManager グループをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出された Cisco CallManager グループのリストが、次の項目別に表示されます。

- Cisco CallManager グループの名前
- Auto-registration Cisco CallManager Group

Find and List Cisco CallManager Groups ウィンドウでは、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

該当する Cisco CallManager グループの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Cisco CallManager Groups ウィンドウから複数の Cisco CallManager グループを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべての Cisco CallManager グループを削除できます。

**ステップ4** レコードのリストから、検索条件と一致する Cisco CallManager Group name をクリックします。

選択した Cisco CallManager グループがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.4-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco CallManager グループの設定

Cisco CallManager グループを追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。

#### 始める前に

Cisco CallManager グループを設定する場合は、事前に、そのグループのメンバとして割り当てる Cisco CallManager を設定しておく必要があります。詳細については、P.3-3 の「[Cisco CallManager の更新](#)」を参照してください。

#### 手順

**ステップ1** System > Cisco CallManager Group の順に選択します。

Find and List Cisco CallManager Groups が表示されます。

**ステップ2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存の Cisco CallManager グループをコピーするには、対象となる Cisco CallManager グループを見つけて (P.4-2 の「[Cisco CallManager グループの検索](#)」を参照)、コピーする Cisco CallManager グループを選択し、Copy をクリックして**ステップ3**に進みます。
- 新しい Cisco CallManager グループを追加するには、Add New ボタンをクリックし、**ステップ3**に進みます。
- 既存の Cisco CallManager グループを更新するには、対象となる Cisco CallManager を見つけて (P.4-2 の「[Cisco CallManager グループの検索](#)」を参照)、**ステップ3**に進みます。

**ステップ3** 適切な設定値を入力します (表 4-1 を参照)。

**ステップ4** ウィンドウ右上のツールバーに表示されている Save アイコンをクリックして (または、ウィンドウの一番下に表示されている Save ボタンをクリックして)、Cisco CallManager グループの設定をデータベースに保存します。

Cisco CallManager グループを設定した後、そのグループを使用してデバイス プールを設定できます。デバイスは、割り当てられているデバイス プールから、Cisco CallManager グループ リストの設定値を取得します。

#### 追加情報

P.4-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco CallManager グループの設定値

表 4-1 では、Cisco CallManager グループの設定値について説明します。関連する手順については、P.4-6 の「関連項目」を参照してください。

表 4-1 Cisco CallManager グループの設定値

フィールド	説明
<b>Cisco CallManager グループの設定値</b>	
Name	新しいグループの名前を入力します。
Auto-registration Cisco CallManager Group	<p>自動登録が使用可能であるときに、この Cisco CallManager グループをデフォルト Cisco CallManager グループにする場合は、Auto-registration Cisco CallManager Group チェックボックスをオンにします。</p> <p>デバイスをこの Cisco CallManager グループに自動登録しない場合は、このチェックボックスをオフのままにしてください。</p> <p> <b>(注)</b> 各 Cisco CallManager クラスタには、1 つのデフォルト自動登録グループだけを指定できます。別の Cisco CallManager グループをデフォルト自動登録グループとして選択した場合は、以前に選択されていた自動登録グループが、そのクラスタのデフォルトではなくなります。</p>
<b>Cisco CallManager グループのメンバー</b>	
Available Cisco CallManagers	<p>このフィールドは、Cisco CallManager グループに属していなくて、使用可能な Cisco CallManager をリストで表示します。</p> <p>Cisco CallManager の名前を選択し、上矢印と下矢印を使用して、Cisco CallManager を <i>Selected</i> リストと <i>Available</i> リストの間で移動させます。</p>
Selected Cisco CallManagers	<p>このフィールドは、Cisco CallManager グループに属している Cisco CallManager を表示します。<i>Selected</i> リストでは、最大 3 つの Cisco CallManager を入れることができ、Cisco CallManager が優先順位の高い順にリストされます。<b>Save</b> をクリックすると、<i>Selected</i> リスト内にある Cisco CallManager が、そのグループのメンバーになります。</p> <p>Cisco CallManager の名前を選択し、上矢印と下矢印を使用して、Cisco CallManager を <i>Selected</i> リストと <i>Available</i> リストの間で移動させます。</p> <p><i>Selected</i> リストでは、上下の矢印を使用して、<i>Selected</i> リスト内のグループを、希望する順序に配列します。</p>

## Cisco CallManager グループの削除

Cisco CallManager グループをデータベースから削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に



(注)

Cisco CallManager グループがデバイス プールあるいは MGCP ゲートウェイに割り当てられている場合、または Cisco CallManager グループがクラスタの現在の Auto-registration Cisco CallManager Group の場合は、そのグループを削除できません。

Cisco CallManager グループを使用しているデバイスを検索するには、Cisco CallManager Group Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リストボックスにある **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。

Dependency Records がシステムで使用可能でない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示され、Dependency Records を使用可能にするための操作が示されます。このメッセージには、Dependency Records 機能によって CPU に高い負荷がかかることも表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。

使用中の Cisco CallManager グループを削除しようとする、エラー メッセージが表示されます。現在使用中の Cisco CallManager グループを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- この Cisco CallManager グループを現在使用しているデバイス プールまたは MGCP ゲートウェイに、別の Cisco CallManager グループを割り当てる。[P.9-4 の「デバイス プールの設定」](#)を参照してください。
- Auto-registration Cisco CallManager Group にする別の Cisco CallManager グループを作成し、選択する。

### 手順

- ステップ 1** [P.4-2 の「Cisco CallManager グループの検索」](#)の手順を使用して、Cisco CallManager グループを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するグループを選択します。
- ステップ 3** ウィンドウ右上のツールバーに表示されている **Delete Selected Item** アイコンをクリックして(または、ウィンドウの一番下に表示されている **Delete Selected** ボタンをクリックして)、Cisco CallManager グループを削除します。
- ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、**OK** をクリックします。削除操作を取り消す場合は、**Cancel** をクリックしてください。

### 追加情報

[P.4-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

- [Cisco CallManager グループの設定 \( P.4-1 \)](#)
- [Cisco CallManager グループの検索 \( P.4-2 \)](#)
- [Cisco CallManager グループの設定 \( P.4-3 \)](#)
- [Cisco CallManager グループの削除 \( P.4-5 \)](#)



## プレゼンス グループの設定

Cisco CallManager Administration でプレゼンスを設定すると、関係するユーザ（ウォッチャーと呼ばれます）が、電話番号または SIP URI（プレゼンス エンティティ）のリアルタイム ステータスをウォッチャーのデバイスから監視できるようになります。

プレゼンス グループを使用してウォッチャーがどの対象を監視できるかは、Cisco CallManager が制御します。プレゼンス グループは、ウォッチャー、およびグループ内のウォッチャーが監視できる対象を保持しています。あるグループに含まれているウォッチャーが他のグループ内の電話番号を監視できるようにするには、権限の設定値を指定して、プレゼンス要求を許可またはブロック（拒否）します。プレゼンス認可が作用するのは、対象のステータスを監視する権限をウォッチャーが持つことを必須としているプレゼンス グループです。

プレゼンス グループを設定したら、Cisco CallManager Administration で次の項目にプレゼンス グループを適用します。

- 電話番号：ステータスの監視対象となるプレゼンス エンティティ
- SIP トランク：ウォッチャー
- SIP 電話機：ウォッチャー
- SCCP 電話機：ウォッチャー
- アプリケーション ユーザ：ウォッチャー
- エンド ユーザ：ウォッチャー
- 自動生成デバイス プロファイル（エクステンション モビリティをサポートする電話機のみ）：ウォッチャー

プレゼンス グループの設定の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。





## 日付 / 時間グループの設定

日付 / 時間グループの設定では、Cisco CallManager に接続されている各種デバイスに対して時間帯を設定します。各デバイスは、メンバとして1つのデバイス プールだけに属しています。そして、各デバイス プールには、1つの日付 / 時間グループだけが割り当てられています。

Cisco CallManager をインストールすると、CMLocal と呼ばれるデフォルトの日付 / 時間グループが自動的に設定されます。CMLocal は、Cisco CallManager がインストールされているサーバ上のオペレーティング システムで使用中の日付および時刻と同期します。Cisco CallManager のインストール後に、必要に応じて CMLocal の設定値を変更できます。通常、サーバの日付と時刻は、現地時間帯の日付と時刻に合わせて調整します。



(注)

Cisco CallManager を再起動するか、Cisco CallManager ソフトウェアを新しいリリースにアップグレードするたびに、CMLocal はオペレーティング システムの日付と時刻に置き換えられます。CMLocal の名前は変更しないでください。



ヒント

Cisco IP Phone を国際的に配備する場合は、24 の時間帯のそれぞれのグループに名前を付けた日付 / 時間グループを作成してください。

日付 / 時間グループを追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [日付 / 時間グループの検索 \(P.6-2\)](#)
- [日付 / 時間グループの設定 \(P.6-4\)](#)
- [日付 / 時間グループの設定値 \(P.6-6\)](#)
- [日付 / 時間グループの削除 \(P.6-7\)](#)

## 日付/時間グループの検索

ネットワーク内にはいくつかの日付/時間グループが存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の基準を指定して、特定の日付/時間グループを見つけることができます。日付/時間グループを見つける手順は、次のとおりです。



**(注)** ブラウザセッションでの作業中は、検索/リストの検索設定がクライアントマシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco CallManager の検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** System > Date/Time Group の順に選択します。

Find and List Date/Time Groups ウィンドウが表示されます。2つのドロップダウンリストボックスを使用して、日付/時間グループを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find Date/Time Groups ウィンドウのドロップダウンリストボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Group Name
- Time Zone

2番目の Find Date/Time Groups ウィンドウのドロップダウンリストボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- is exactly (完全一致)
- ends with (後方一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。



**ヒント** データベースに登録されている日付/時間グループをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出された日付/時間グループのリストが、次の項目別に表示されます。

- Name
- Time Zone

Find and List Date/Time Groups ウィンドウでは、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



**(注)** 該当する日付/時間グループの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Date/Time Groups ウィンドウから複数の日付/時間グループを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内の日付/時間グループをすべて削除できます。

**ステップ4** レコードのリストから、検索条件と一致する日付/時間グループの名前をクリックします。

選択した日付/時間グループがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.6-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 日付/時間グループの設定

日付/時間グループを Cisco CallManager データベースに追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** System > Date/Time Group の順に選択します。

Find and List Date/Time Groups ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存の日付/時間グループをコピーするには、対象となる日付/時間グループを見つけて (P.6-2 の「日付/時間グループの検索」を参照)、コピーする日付/時間グループの横にある Copy ボタンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 新しい日付/時間グループを追加するには、対象となる日付/時間グループを見つけて (P.6-2 の「日付/時間グループの検索」を参照)、Add New ボタンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 既存の日付/時間グループを更新するには、対象となる日付/時間グループを見つけて (P.6-2 の「日付/時間グループの検索」を参照)、ステップ 3 に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 6-1 を参照)。

**ステップ 4** SIP 電話機は、Cisco CallManager Administration にある NTP サーバを使用して日付と時刻を取得することができます (P.8-1 の「電話機 NTP リファレンスの設定」を参照)。電話機 NTP リファレンスを SIP 電話機の日付/時間グループに追加するには、次の作業を実行します。

- a. Add Phone NTP References ボタンをクリックします。
- b. 追加する電話機 NTP リファレンスを検索します (P.8-2 の「電話機 NTP リファレンスの検索」を参照)。

表示されるのは、Cisco CallManager データベースに存在している電話機 NTP リファレンスのみです。電話機 NTP リファレンスを Cisco CallManager Administration に追加する方法については、P.8-3 の「電話機 NTP リファレンスの設定」を参照してください。

- c. 検索結果が表示されたら、日付/時間グループに追加する電話機 NTP リファレンスのチェックボックスをオンにするか、Select All をクリックします。
- d. Add Selected をクリックします。



### ヒント

電話機 NTP リファレンスを日付/時間グループに追加したら、SIP 電話機でアクセスする最初のサーバから順に、それらに優先順位を設定することができます。たとえば、サーバをリストの先頭のほうに移動するには、ペインに表示されているエントリを選択し、上矢印をクリックします。サーバをリストの末尾のほうに移動するには、ペインに表示されているエントリを選択し、下矢印をクリックします。

**ステップ 5** 電話機 NTP リファレンスを日付/時間グループから削除するには、ペインに表示されているリファレンスを選択し、Remove Phone NTP References をクリックします。

電話機 NTP リファレンスを日付/時間グループから削除しても、その電話 NTP リファレンスは Cisco CallManager データベースからは削除されません。

**ステップ6** 新しい日付/時間グループをデータベースに保存するには、ウィンドウ右上のツールバーに表示されている Save アイコンをクリックします。または、ウィンドウの一番下に表示されている Save ボタンをクリックします。

**ステップ7** 日付/時間グループを使用しているデバイスをリセットするには、Reset をクリックします。

---

### 次の手順

新しい日付/時間グループをデータベースに追加した後、そのグループをデバイス プールに割り当てて、そのデバイス プールの日付と時刻の情報を設定できます。詳細については、[P.9-4](#)の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。

### 追加情報

[P.6-8](#)の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 日付/時間グループの設定値

表 6-1 では、日付/時間グループの設定値について説明します。関連する手順については、P.6-8 の「関連項目」を参照してください。

表 6-1 日付/時間グループの設定値

フィールド	説明
Group Name	新しい日付/時間グループに割り当てる名前を入力します。
Time Zone	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、追加するグループの時間帯を選択します。</p> <p>Cisco CallManager の新規インストレーションのデフォルト設定は、(GMT) Monrovia, Casablanca です。</p> <p>互換性のある Cisco CallManager リリースからアップグレードし、設定で「local time zone of CallManager」を使用している場合は、データベース サーバに使用する適切な時間帯を Cisco CallManager が判断し、その時間帯を Cisco CallManager 時間帯の置換用として表示します。</p>
Separator	日付フィールド間で使用する区切り文字を選択します。
Date Format	Cisco IP Phone に表示される日付の形式を選択します。
Time Format	12 時間制または 24 時間制を選択します。
Selected Phone NTP References (ordered by highest priority)	<p>SIP 電話機が日付と時刻の設定を NTP サーバから取得できるようにするには、電話機 NTP リファレンスを日付/時間グループに追加します。電話機 NTP リファレンスを日付/時間グループに追加するには、次の作業を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>Add Phone NTP References</b> ボタンをクリックします。</li> <li>2. 追加する電話機 NTP リファレンスを検索します (P.8-2 の「電話機 NTP リファレンスの検索」を参照)。</li> </ol> <p>表示されるのは、Cisco CallManager データベースに存在している電話機 NTP リファレンスのみです。電話機 NTP リファレンスを Cisco CallManager Administration に追加する方法については、P.8-3 の「電話機 NTP リファレンスの設定」を参照してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 検索結果が表示されたら、電話機 NTP リファレンスのチェックボックスをオンにするか、<b>Select All</b> をクリックします。</li> <li>4. <b>Add Selected</b> をクリックします。</li> </ol> <p>電話機 NTP リファレンスを日付/時間グループに追加したら、電話機でアクセスする最初のリファレンスから順に、それらに優先順位を設定することができます。たとえば、リファレンスをリストの先頭のほうに移動するには、ペインに表示されているエントリを選択し、上矢印をクリックします。リファレンスをリストの末尾のほうに移動するには、ペインに表示されているエントリを選択し、下矢印をクリックします。</p> <p> <b>ヒント</b> 電話機 NTP リファレンスを日付/時間グループから削除するには、ペインに表示されているサーバを選択し、<b>Remove Phone NTP References</b> をクリックします。電話機 NTP リファレンスを日付/時間グループから削除しても、その電話 NTP リファレンスは Cisco CallManager データベースからは削除されません。</p>

## 日付/時間グループの削除

Cisco CallManager データベースから日付/時間グループを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に



(注) デバイス プールが使用している日付/時間グループは、削除することができません。

日付/時間グループを使用しているデバイス プールを検索するには、Date/Time Group Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスにある **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。

Dependency Records がシステムで使用可能でない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示され、Dependency Records を使用可能にするための操作が示されます。このメッセージには、Dependency Records 機能によって CPU に高い負荷がかかることも表示されます。Dependency Records の詳細については、P.A-4 の「[Dependency Records へのアクセス](#)」を参照してください。

使用されている日付/時間グループを削除しようとすると、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されている日付/時間グループを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する日付/時間グループを使用しているデバイス プールすべてに、別の日付/時間グループを割り当てる。P.9-4 の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。
- 削除する日付/時間グループを使用しているデバイス プールを削除する。P.9-8 の「[デバイス プールの削除](#)」を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** P.6-2 の「[日付/時間グループの検索](#)」の手順を使用して、日付/時間グループを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する日付/時間グループを選択します。
- ステップ 3** ウィンドウ右上のツールバーに表示されている **Delete Selected Item** アイコンをクリックして(または、ウィンドウの一番下に表示されている **Delete Selected** ボタンをクリックして)、日付/時間グループを削除します。
- ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、**OK** をクリックして削除します。削除操作を取り消す場合は、**Cancel** をクリックしてください。

### 追加情報

P.6-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [日付 / 時間グループの設定 \(P.6-1\)](#)
- [日付 / 時間グループの検索 \(P.6-2\)](#)
- [日付 / 時間グループの設定 \(P.6-4\)](#)
- [日付 / 時間グループの設定値 \(P.6-6\)](#)
- [日付 / 時間グループの削除 \(P.6-7\)](#)
- [電話機 NTP リファレンスの検索 \(P.8-2\)](#)
- [電話機 NTP リファレンスの設定 \(P.8-3\)](#)



## リージョンの設定

リージョンの設定では、リージョン内または既存のリージョン間で、オーディオ コールとビデオ コールに使用される帯域幅を指定します。

- オーディオ コーデックによって、圧縮のタイプ、およびオーディオ コールあたりの使用帯域幅の最大値が決まります。
- ビデオ コールの帯域幅は、オーディオ帯域幅およびビデオ帯域幅の合計で構成されますが、オーバーヘッドは含まれません。



**(注)** Cisco CallManager で処理されるすべてのコールには、デフォルトのオーディオ コーデック G.711 が指定されています。デフォルトのオーディオ コーデックだけを使用する場合は、リージョンを使用する必要はありません。詳細については、[P.7-10](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。



**(注)** Cisco CallManager では、最大 500 のリージョンを追加できます。

リージョンを追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [リージョンの検索 \(P.7-2\)](#)
- [リージョンの設定 \(P.7-4\)](#)
- [関連項目 \(P.7-10\)](#)
- [リージョンの削除 \(P.7-9\)](#)

リージョンの設定とオーディオ コーデックの選択の詳細については、『*Cisco CallManager システムガイド*』の「[リージョン](#)」を参照してください。

## リージョンの検索

ネットワーク内にはいくつかのリージョンが存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の基準を指定して、特定のリージョンを見つけることができます。リージョンを見つける手順は、次のとおりです。



**(注)** ブラウザセッションでの作業中は、検索 / リストの検索設定がクライアント マシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザ ウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco CallManager の検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** System > Region の順に選択します。

Find and List Regions ウィンドウが表示されます。ドロップダウン リスト ボックスを使用して、リージョンを名前で検索します。

**ステップ 2** Find Regions ウィンドウのドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- is exactly (完全一致)
- ends with (後方一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。



**ヒント** データベースに登録されているリージョンをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたリージョンのリストが、名前別に表示されます。

Find and List Regions ウィンドウでは、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



**(注)** 該当するリージョンの横にあるチェックボックスをオンにして、Delete Selected をクリックすると、Find and List Regions ウィンドウから複数のリージョンを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして Delete Selected をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのリージョンを削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致するリージョン名をクリックします。

選択したリージョンがウィンドウに表示されます。

---

#### 追加情報

P.7-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## リージョンの設定

リージョンを追加または更新する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

どのリージョンについても、他のリージョン内にそのリージョンとの関連付けが存在しています。このため、リージョンの追加はマトリクス（行列）のような形態で発生します。たとえば、リージョン A、B、および C を追加すると、次に示すように、リージョン A、リージョン B、およびリージョン C を列および行とするマトリクスが作成されます。

	リージョン A	リージョン B	リージョン C
リージョン A			
リージョン B			
リージョン C			

20 のリージョンを割り当てると、データベースは 400 のエン트리（20 x 20）を追加します。多数のリージョンを割り当てると、パフォーマンスがいくらか制限されます。



(注)

Cisco CallManager では、最大 500 のリージョンを追加できます。

### デフォルト値の設定

リージョン エン 트리には、オーディオコーデックとビデオ コール帯域幅の 2 つの値が保持されます。

- オーディオ コーデック：同じリージョン内で使用されるオーディオ コーデックの値を定義します。また、リージョン間で使用されるオーディオ コーデックの値も定義します。
- ビデオ コール帯域幅：同じリージョン内で使用されるビデオ コール帯域幅の値を定義します。また、リージョン間で使用されるビデオ コール帯域幅の値も定義します。



ヒント

オーディオ コーデックとビデオ コール帯域幅の値を両方ともデフォルト値を使用するように設定すると、リソースがさらに効率的に使用されるようになり、パフォーマンスが最適化されます。



(注)

リージョンは、リージョン内で使用されるデフォルト値（推奨デフォルト値は G.711）、およびリージョン間で使用されるデフォルト値（推奨デフォルト値は G.729）を保持しています。

リージョン内で使用されるデフォルト値は、Cisco CallManager Administration の Service Parameters ウィンドウ（System > Service Parameters）で設定します。

1. System > Service Parameters の順に選択します。
2. Server ドロップダウン リスト ボックスから、設定する Cisco CallManager サーバを選択します。
3. Service ドロップダウン リスト ボックスから、サービスとして Cisco CallManager (Active) を選択します。

4. Cisco CallManager Service Parameters Configuration ウィンドウが表示されます。
5. **Clusterwide Parameters (System - Location and Region)** まで下方向にスクロールして、このセクションのパラメータを設定します。
6. ウィンドウ右上のツールバーに表示されている **Save** アイコンをクリックします。または、ウィンドウの一番下に表示されている **Save** ボタンをクリックします。

リージョンを追加または更新する手順は、次のとおりです。

## 手順

---

**ステップ 1** System > Region の順に選択します。

Region Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 新しいリージョンを追加するには、**Add New** ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 既存のリージョンを更新するには、対象となるリージョンを見つけて (P.7-2 の「**リージョンの検索**」を参照)、**ステップ 3** に進みます。



---

**(注)** Cisco CallManager は、リージョン名の変更後にデバイスをリセットするように通知します。

---

**ステップ 3** Region Name フィールドに、リージョンに割り当てる名前を入力します。

**ステップ 4** 新しいリージョンをデータベースに保存するには、ウィンドウ右上のツールバーに表示されている **Save** アイコンをクリックします。または、ウィンドウの一番下に表示されている **Save** ボタンをクリックします。

**ステップ 5** このリージョン内で使用するデフォルトコーデックを設定するには、Regions ウィンドウ ペインにあるリージョン名をクリックして選択します。

- a. Audio Codec ドロップダウン リスト ボックスから、このリージョン内で使用するデフォルトのオーディオコーデック値を選択します。

オーディオコーデックによって、圧縮のタイプ、およびこれらのコールに割り当てられる帯域幅の最大値が決まります。使用可能なコーデック タイプおよび帯域幅のサマリーについては、[表 7-2](#) を参照してください。

- b. Video Call Bandwidth 列で、適切なオプション ボタンをクリックしてデフォルト値を設定し、このリージョン内のビデオ コールに使用するビデオ帯域幅を指定します。

*None* を指定した場合、ビデオ コールは許可されません。



---

**(注)** スケーラビリティを向上させるには、Cisco CallManager Administration の Service Parameters Configuration ウィンドウで、オーディオコーデックとビデオ コール帯域幅の両方の値についてデフォルト値を適切に設定し、次に、Cisco CallManager Administration の Region Configuration ウィンドウで Default 設定を選択することをお勧めします。

---

**ステップ 6** このリージョンと他のリージョンの間で使用するデフォルト コーデックを設定するには、Regions ウィンドウ ペインにある他のリージョン名（このリージョン以外）をクリックして選択します。

- a. Audio Codec ドロップダウン リスト ボックスから、このリージョンと選択したリージョンの間で使用するデフォルトのオーディオ コーデック値を選択します。

オーディオ コーデックによって、圧縮のタイプ、およびこれらのコールに割り当てられる帯域幅の最大値が決まります。使用可能なコーデック タイプおよび帯域幅のサマリーについては、[表 7-2](#) を参照してください。

- b. Video Call Bandwidth 列で、適切なオプション ボタンをクリックしてデフォルト値を設定し、このリージョンと選択したリージョンの間でビデオ コールに使用するビデオ帯域幅を指定します。

*None* を指定した場合、このリージョンと指定されたリージョンの間ではビデオ コールが許可されません。



**(注)** スケラビリティを向上させるには、Cisco CallManager Administration の Service Parameters Configuration ウィンドウで、オーディオ コーデックとビデオ コール帯域幅の両方の値についてデフォルト値を適切に設定し、次に、Cisco CallManager Administration の Region Configuration ウィンドウで Default 設定を選択することをお勧めします。

**ステップ 7** 新しいリージョンをデータベースに保存するには、ウィンドウ右上のツールバーに表示されている Save アイコンをクリックします。または、ウィンドウの一番下に表示されている Save ボタンをクリックします。



#### ヒント

Region Configuration ウィンドウに、Items per page ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。このドロップダウン リスト ボックスを使用して、表示するリージョンの数（25、50、100、150、200、または 250 の設定済みリージョン）を指定できます。100 以上のリージョンを表示するように選択した場合、Cisco CallManager の性能が低下する可能性があります。

#### 次の手順

データベースに新しいリージョンを追加した後、そのリージョンを使用して、デバイス プールを設定できます。デバイスは、割り当てられたデバイス プールからリージョンの設定値を取得します。デバイス プールの設定については、[P.9-4](#) の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。

#### 追加情報

[P.7-10](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## リージョンの設定値

表 7-1 では、リージョンに対して指定することができるオーディオコーデック、およびビデオ コール帯域幅の設定値をまとめています。関連する手順については、P.7-10 の「関連項目」を参照してください。

表 7-1 リージョンの設定値

フィールド	説明
<b>リージョン情報</b>	
Name	このリージョンの一意的な名前を入力します。この名前には、最長 30 文字まで指定できます。文字、数字、ダッシュ、ドット（ピリオド）、ブランク、および下線を指定できます。
	 <p>(注) Cisco CallManager は、リージョン名の変更後にデバイスをリセットするように通知します。</p>
<b>リージョン間の関係</b>	
<b>他のリージョンとの関係の変更</b>	
Regions	この列のエントリは、Default リージョン、設定しているリージョン、およびその他すべてのリージョンを含む、すべての既存リージョンを指定します。
Audio Codec	Regions ウィンドウ ペインで指定したリージョンごとに、対応する値をこの列のドロップダウン リスト ボックスから選択して、このリージョン内、およびこのリージョンと指定したリージョンとの間でコールに使用するオーディオ コーデックを設定します。デフォルト設定を選択するには、Defaults オプション ボタンをクリックします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco CallManager Administration の Service Parameters Configuration ウィンドウで設定した、Default 設定値を選択することをお勧めします。P.7-4 の「デフォルト値の設定」を参照してください。</li> <li>• リモート サイトの配置の大部分で帯域幅が制限されるため、新規リージョンと既存リージョン間で推奨されるデフォルトのコーデックの設定値、G.729 を使用してください。</li> </ul>
Video Call Bandwidth	Regions ウィンドウ ペインで指定したリージョンごとに、この列の次のオプション ボタンのいずれかをクリックします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Use System Default : デフォルト値を使用するには、このボタンをクリックします。デフォルト値には、Service Parameters Configuration ウィンドウでデフォルト値を別の値に設定しない限り、通常は 384 Kbps が指定されています。</li> <li>• None : このリージョンと指定したリージョン間に割り当てられたビデオ コール帯域幅がない場合は、このオプション ボタンをクリックします。</li> <li>• kbps : このリージョンと指定したリージョン間にビデオ コール帯域幅を割り当てるには、このボタンをクリックします。これらの 2 つのリージョン間で各ビデオ コールに使用できる帯域幅を入力します。有効値の範囲は 1 ~ 8128 です。</li> </ul>

コール ストリームあたりの全使用帯域幅は、オーディオコーデックのタイプ、およびデータ パケットのサイズとオーバーヘッド (パケット ヘッダー サイズ) などの要素によって決まります。表 7-2 に表示されている帯域幅の数字は、30-ms データ パケットに適用され、IP ヘッダーを含みます。各コールは、2つのコール ストリームから構成されています。



(注) 表 7-2 に示したコーデックは、コールごとに使用される帯域幅の概算値を示しています。各コーデックの帯域幅使用については、Cisco CallManager の現在のリリースの『Cisco IP ビデオテレフォニー ソリューション ネットワーク デザイン (SRND)』を参照してください。

表 7-2 オーディオコーデックが使用する帯域幅

オーディオコーデック	30 ms データ パケットで各コールが消費する帯域幅 (IP ヘッダーを含む)	説明
G0.711	80 kbps	このコーデックは、すべての Cisco CallManager コールのデフォルト コーデックです。
G0.722	80 kbps	通常、ビデオ エンドポイントがこのコーデックを使用します。
G0.723	24 kbps	この低ビットレート コーデックは、旧 Cisco IP Phone モデル 12 SP Series および Cisco IP Phone モデル 30 VIP で使用するためにサポートされています。
G0.728	16 kbps	この低ビットレート コーデックをサポートするビデオ エンドポイント。
G.729	24 kbps	この低ビットレート コーデックは、Cisco IP Phone 7900 モデルで使用するためにサポートされています。
Wideband	272 kbps	この高品質で広帯域幅のオーディオ コーデックは、Cisco IP Phone 7900 モデルによってサポートされている、IP Phone 間コールで使用するためにサポートされています。
GSM	29 kbps	Global System for Mobile Communications (GSM) コーデック。このコーデックを使用して、GSM ワイヤレス 受話器用の MNET システムが Cisco CallManager と相互作用できるようになります。

## リージョンの削除

Cisco CallManager データベースからリージョンを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に



(注) デバイス プールが使用しているリージョンは削除できません。

リージョンを使用しているデバイス プールを検索するには、Region Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスにある **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。

Dependency Records がシステムで使用可能でない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示され、Dependency Records を使用可能にするための操作が示されます。このメッセージには、Dependency Records 機能によって CPU に高い負荷がかかることも表示されます。Dependency Records の詳細については、P.A-4 の「[Dependency Records へのアクセス](#)」を参照してください。

使用中のリージョンを削除しようとする、Cisco CallManager にエラー メッセージが表示されます。現在使用中のリージョンを削除する場合は、事前に、次のどちらかまたは両方の作業を実行しておく必要があります。

- 別のリージョンを使用するように、デバイス プールを更新する。P.9-4 の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。
- 削除するリージョンを使用しているデバイス プールを削除する。P.9-8 の「[デバイス プールの削除](#)」を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** P.7-2 の「[リージョンの検索](#)」の手順を使用して、リージョンを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するリージョンを選択します。
- ステップ 3** ウィンドウ右上のツールバーに表示されている **Delete Selected Item** アイコンをクリックして(または、ウィンドウの一番下に表示されている **Delete Selected** ボタンをクリックして)、リージョンを削除します。



### ヒント

Region Configuration ウィンドウに、Items per page ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。このドロップダウン リスト ボックスを使用して、表示するリージョンの数 (25、50、100、150、200、または 250 の設定済みリージョン) を指定できます。100 以上のリージョンを表示するように選択した場合、Cisco CallManager の性能が低下する可能性があります。

### 追加情報

P.7-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [リージョンの設定 \(P.7-1\)](#)
- [リージョンの検索 \(P.7-2\)](#)
- [リージョンの設定 \(P.7-4\)](#)
- [リージョンの設定値 \(P.7-7\)](#)
- [リージョンの削除 \(P.7-9\)](#)



## 電話機 NTP リファレンスの設定

必要な場合には、電話機の Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) リファレンスを Cisco CallManager Administration で設定すると、Cisco SIP IP Phone が日付と時刻を NTP サーバから取得するようになります。どの NTP サーバも応答しない場合、SIP 電話機は、日付と時刻の REGISTER メッセージに対する 200 OK 応答の日付ヘッダーを使用します。

電話機 NTP リファレンスを Cisco CallManager Administration に追加したら、そのリファレンスを日付 / 時間グループに追加する必要があります。日付 / 時間グループでは、電話機でアクセスする最初のサーバから順に、電話機 NTP リファレンスに優先順位を設定することができます。

日付 / 時間グループの設定はデバイス プール内で指定し、デバイス プールは電話機ページで指定します。

電話機 NTP リファレンスを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [電話機 NTP リファレンスの検索 \(P.8-2\)](#)
- [電話機 NTP リファレンスの設定 \(P.8-3\)](#)
- [電話機 NTP リファレンスの設定値 \(P.8-4\)](#)
- [電話機 NTP リファレンスの削除 \(P.8-5\)](#)

## 電話機 NTP リファレンスの検索

Cisco CallManager Administration では、複数の電話機 NTP リファレンスを設定することができます。このため、Cisco CallManager Administration では個々の電話機 NTP リファレンスを検索できるようになっています。Cisco CallManager Administration に存在する電話機 NTP リファレンスを検索する手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザ セッションでの作業中は、検索 / リストの設定がクライアント マシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザ ウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco CallManager の検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** System > Phone NTP Reference の順に選択します。

Find and List ウィンドウが表示されます。



ヒント

データベースにある電話機 NTP リファレンスをすべて検索するには、検索条件を入力せずに **Find** をクリックしてください。

**ステップ 2** 検索条件を Find ドロップダウン リスト ボックスから選択することもできます。目的の検索テキストがある場合はそのテキストを入力し、**Find** をクリックします。

Find and List ウィンドウでは、ページごとに表示する項目の数も指定できます。

**ステップ 3** レコードのリストから、検索条件と一致する電話機 NTP リファレンス名をクリックします。

### 追加情報

P.8-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 電話機 NTP リファレンスの設定

電話機 NTP リファレンスを Cisco CallManager データベースに追加する手順、およびデータベース内の電話機 NTP リファレンスを更新する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** System > Phone NTP Reference の順に選択します。

Find and List ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 電話機 NTP リファレンスを Cisco CallManager データベースに追加するには、Add New ボタンをクリックし、[ステップ 3](#)に進みます。
- 既存の電話機 NTP リファレンスを更新するには、既存の電話機 NTP リファレンスを見つけて ([P.8-2 の「電話機 NTP リファレンスの検索」](#)を参照) [ステップ 3](#)に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します ([表 8-1](#) を参照)。

**ステップ 4** 設定をデータベースに保存するには、ウィンドウ右上のツールバーに表示されている Save アイコンをクリックします。または、ウィンドウの一番下に表示されている Save ボタンをクリックします。

---

### 次の手順

新しい電話機 NTP リファレンスを Cisco CallManager データベースに追加したら、そのリファレンスを日付 / 時間グループに割り当てます。詳細については、[P.6-4 の「日付 / 時間グループの設定」](#)を参照してください。

### 追加情報

[P.8-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 電話機 NTP リファレンスの設定値

表 8-1 では、電話機 NTP リファレンスの設定値について説明します。関連する手順については、P.8-6 の「関連項目」を参照してください。

表 8-1 電話機 NTP リファレンスの設定値

フィールド	説明
IP Address	<p>SIP 電話機が日付と時刻の取得に使用する NTP サーバの IP アドレスを入力します。</p> <p> (注) Cisco CallManager を電話機 NTP リファレンスとして設定することはできません。</p>
Description	<p>電話機 NTP リファレンスの説明を入力します。IP Address フィールドにある情報が、Cisco CallManager Administration によって Description フィールドに自動的に入力されます。必要に応じて、この情報を変更することができます。</p>
Mode	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、電話機 NTP リファレンスのモードを選択します。選択できる値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Directed Broadcast : このデフォルト NTP モードを選択すると、電話機は任意の NTP サーバから日付 / 時刻情報を取得しますが、リストされている NTP サーバ (1st = プライマリ、2nd = セカンダリ) を優先的に使用します。たとえば、電話機の設定で A がプライマリ NTP サーバ、B がセカンダリ (バックアップ) NTP サーバになっている場合、電話機は NTP サーバ A からのブロードキャスト パケットを使用 (日付 / 時刻を取得) します。NTP サーバ A がブロードキャストを実行していない場合は、NTP サーバ B からの日付 / 時刻情報にアクセスします。どちらの NTP サーバもブロードキャストを実行していない場合は、他の任意の NTP サーバからの日付 / 時刻情報にアクセスします。他の NTP サーバもブロードキャストを実行していない場合、電話機は RESISTER メッセージに対する Cisco CallManager 200 OK 応答から日付 / 時刻を取得します。</li> <li>Unicast : このモードを選択した場合、電話機は特定の NTP サーバに NTP クエリー パケットを送信します。応答を受信できない場合、電話機は他の任意の NTP サーバからの日付 / 時刻情報にアクセスします。他の NTP サーバも応答しない場合、電話機は RESISTER メッセージに対する Cisco CallManager 200 OK 応答から日付 / 時刻を取得します。</li> </ul> <p> (注) Cisco CallManager は、現時点では Multicast モードおよび Anycast モードをサポートしていません。これらのモードを選択した場合は、デフォルトの Directed Broadcast モードに設定されます。</p>

## 電話機 NTP リファレンスの削除

Cisco CallManager データベースから電話機 NTP リファレンスを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

電話機 NTP リファレンスを Cisco CallManager Administration から削除するには、そのリファレンスを事前に日付 / 時間グループから削除する必要があります。電話機 NTP リファレンスを使用している日付 / 時間グループを検索するには、Phone NTP Reference Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスにある **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。電話機 NTP リファレンスを使用している日付 / 時間グループがわかっている場合は、当該の電話機 NTP リファレンスをそのグループから削除します。

Dependency Records がシステムで使用可能でない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示され、Dependency Records を使用可能にするための操作が示されます。このメッセージには、Dependency Records 機能によって CPU に高い負荷がかかることも表示されます。Dependency Records の詳細については、P.A-4 の「[Dependency Records へのアクセス](#)」を参照してください。

### 手順

- 
- ステップ 1** P.8-2 の「[電話機 NTP リファレンスの検索](#)」の手順を使用して、電話機 NTP リファレンスを検索します。
  - ステップ 2** 複数の電話機 NTP リファレンスを削除するには、Find and List ウィンドウで、対象となる電話機 NTP リファレンスの横にあるチェックボックスをオンにし、**Delete Selected** アイコンまたは **Delete Selected** ボタンをクリックします。
  - ステップ 3** 電話機 NTP リファレンスを 1 つだけ削除するには、次の作業のいずれかを実行します。
    - Find and List ウィンドウで、対象となる電話機 NTP リファレンスの横にあるチェックボックスをオンにし、**Delete Selected** アイコンまたは **Delete Selected** ボタンをクリックします。
    - Find and List ウィンドウで、電話機 NTP リファレンスの Name リンクをクリックします。その電話機 NTP リファレンスの Phone NTP Reference Configuration ウィンドウが表示されたら、**Delete Selected** アイコンまたは **Delete Selected** ボタンをクリックします。
  - ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、**OK** をクリックして削除します。削除操作を取り消す場合は、**Cancel** をクリックしてください。
- 

### 追加情報

P.8-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [電話機 NTP リファレンスの設定 \(P.8-1\)](#)
- [電話機 NTP リファレンスの検索 \(P.8-2\)](#)
- [電話機 NTP リファレンスの設定 \(P.8-3\)](#)
- [電話機 NTP リファレンスの設定値 \(P.8-4\)](#)
- [電話機 NTP リファレンスの削除 \(P.8-5\)](#)
- [日付 / 時間グループの検索 \(P.6-2\)](#)
- [日付 / 時間グループの設定 \(P.6-4\)](#)
- [日付 / 時間グループの設定値 \(P.6-6\)](#)
- [日付 / 時間グループの削除 \(P.6-7\)](#)



## デバイス プールの設定

デバイス プールの設定では、複数のデバイスに共通の特性をまとめて指定します。デバイス プールには、次のデバイス特性を指定することができます。

- Cisco CallManager グループ
- 日付 / 時間グループ
- リージョン
- ソフトキー テンプレート
- SRST リファレンス
- 自動登録用のコーリング サーチ スペース
- メディア リソース グループ リスト
- Music On Hold (MOH) オーディオ ソース
- ユーザ ロケールおよびネットワーク ロケール
- SRST と Cisco CallManager 間の通信用のコネクション モニタ持続タイマー
- MLPP の設定値

デバイス プールを追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [デバイス プールの検索 \(P.9-2\)](#)
- [デバイス プールの設定 \(P.9-4\)](#)
- [デバイス プールの設定値 \(P.9-5\)](#)
- [デバイス プールの削除 \(P.9-8\)](#)
- [関連項目 \(P.9-8\)](#)

デバイス プール、およびデバイス プールを通じて割り当てられるデバイス設定値の詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「システム レベルのコンフィギュレーション設定」を参照してください。

## デバイス プールの検索

ネットワーク内にはいくつかのデバイス プールが存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の基準を指定して、特定のデバイス プールを見つけることができます。デバイス プールを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、デバイス プールの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、デバイス プールの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** System > Device Pool の順に選択します。

Find and List Device Pools ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、デバイス プールを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find Device Pools where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Device Pool Name
- Cisco CallManager Group
- Region



(注) このドロップダウン リスト ボックスで選択する基準によって、検索時に生成されるデバイス プール リストのソート方法が決まります。たとえば、Region を選択すると、Region 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find Device Pools where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されているデバイス プールをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたデバイスプールのリストが、次の項目別に表示されます。

- Device Pool icon
- Device Pool Name
- CallManager Group
- Region
- Date/Time Group



**(注)** 該当するデバイスプールの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Device Pools ウィンドウから複数のデバイスプールを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのデバイスプールを削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する Device Pool icon、Device Pool name、CallManager Group、Region、または Date/Time Group をクリックします。

選択したデバイスプールがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.9-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## デバイス プールの設定

デバイス プールを Cisco CallManager データベースに追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。新しいデバイス プールをデータベースに追加した後、そのデバイス プールを使用して、Cisco IP Phone、ゲートウェイ、Conference Bridge、トランスコーダ、メディア ターミネーション ポイント、ボイスメール ポート、CTI ルート ポイントなどのデバイスを設定できます。

### 始める前に

デバイス プールに対して次の項目を選択する場合は、デバイス プールを設定するとき、事前に、その項目を設定しておく必要があります。

- Cisco CallManager グループ (必須)。P.4-3 の「Cisco CallManager グループの設定」を参照してください。
- 日付 / 時間グループ (必須)。P.6-4 の「日付 / 時間グループの設定」を参照してください。
- リージョン (必須)。P.7-4 の「リージョンの設定」を参照してください。
- SRST リファレンス (オプション)。P.16-3 の「SRST リファレンスの設定」を参照してください。
- メディア リソース グループ リスト (オプション)。P.61-4 の「メディア リソース グループ リストの設定」を参照してください。
- MOH オーディオ ソース (オプション)。『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Music On Hold オーディオ ソースの検索」を参照してください。
- 自動登録用のコーリング サーチ スペース (オプション)。P.43-3 の「コーリング サーチ スペースの設定」を参照してください。
- ソフトキー テンプレート (Cisco CallManager に付属している標準ソフトキー テンプレートを使用しない場合) (オプション)。P.77-4 の「非標準ソフトキー テンプレートの追加」を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** System > Device Pool の順に選択します。

Find and List Device Pools ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存のデバイス プールをコピーするには、対象となるデバイス プールを見つけて (P.9-2 の「デバイス プールの検索」を参照)、コピーするデバイス プールの横にある Copy ボタンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 新しいデバイス プールを追加するには、Add New ボタンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 既存のデバイス プールを更新するには、対象となるデバイス プールを見つけて (P.9-2 の「デバイス プールの検索」を参照)、ステップ 3 に進みます。

**ステップ 3** 適切なフィールドに値を入力します (表 9-1 を参照)。

**ステップ 4** Save をクリックして、デバイス プール情報をデータベースに保存します。

---

### 追加情報

P.9-8 の「関連項目」を参照してください。

## デバイスプールの設定値

表 9-1 では、デバイスプールの設定値を一覧表示し、説明します。関連する手順については、P.9-8 の「関連項目」を参照してください。

表 9-1 デバイスプールの設定値

フィールド名	説明
<b>デバイスプールの設定値</b>	
Device Pool Name	作成する新規デバイスプールの名前を入力します。
Cisco CallManager Group	このデバイスプール内のデバイスに割り当てる Cisco CallManager Group を選択します。1 つの Cisco CallManager Group では、最高 3 つの Cisco CallManager の優先順位をリストで指定しています。リスト内の最初の Cisco CallManager が、そのグループのプライマリ Cisco CallManager となり、残りは、冗長性を確保するためのバックアップ Cisco CallManager になります。
Date/Time Group	このデバイスプール内のデバイスに割り当てる日付/時間グループを選択します。日付/時間グループは、時間帯、および日付と時刻の表示形式を指定します。
Region	このデバイスプール内のデバイスに割り当てる Cisco CallManager リージョンを選択します。Cisco CallManager リージョンの設定値は、リージョン内および他のリージョン間でコールに使用できる音声コーデックを指定します。
Softkey Template	ドロップダウンリストボックスから、デバイスプール内のデバイスに関連付けられているソフトキーテンプレートを選択します。
SRST Refernce	ドロップダウンリストボックスから、このデバイスプール内のデバイスに割り当てる Survivable Remote Site Telephony (SRST) リファレンスを選択します。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Disable</b> : このオプションを選択すると、このデバイスプール内のデバイスは SRST リファレンスゲートウェイを使用できなくなります。</li> <li>• <b>Use Default Gateway</b> : このオプションを選択すると、このデバイスプール内のデバイスはデフォルトの SRST ゲートウェイを使用します。</li> <li>• <b>Existing SRST references</b> : ドロップダウンリストから SRST リファレンスを選択すると、このデバイスプール内のデバイスはこの SRST リファレンスゲートウェイを使用します。</li> </ul>
Calling Search Space for Auto-registration	Cisco CallManager に自動登録されるこのデバイスプール内のデバイスに割り当てる、コーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、コールを完了しようとするときにデバイスが検索できるパーティションを指定します。
Media Resource Group List	ドロップダウンリストボックスから、メディアリソースグループリストを選択します。メディアリソースグループリストは、優先順位順に並べられたメディアリソースグループのリストを指定します。アプリケーションは、メディアリソースグループリストに定義されている優先順位にしたがって、使用可能なメディアリソースグループから、必要なメディアリソース(たとえば、music on hold サーバ、トランスコーダ、Conference Bridge)を選択します。
Network Hold MOH Audio Source	ネットワークが保留操作を開始するときに、music on hold (MOH) に使用するオーディオソースを選択します。

表 9-1 デバイスプールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
User Hold MOH Audio Source	ユーザが保留操作を開始するとき、music on hold (MOH) に使用するオーディオソースを選択します。
Network Locale	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、電話機とゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定地域にあるデバイスプールの電話機とゲートウェイが使用するトーンおよび断続周期の定義を含んでいます。このデバイスプールを使用する電話機とゲートウェイのすべてがサポートしているネットワーク ロケールを選択してください。</p> <p> (注) ユーザがネットワーク ロケールを選択しない場合は、Cisco CallManager clusterwide パラメータでデフォルト ネットワーク ロケールとして指定されたロケールが適用されます。</p> <p> (注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールのみを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。デバイスは、ファームウェアにおいてサポートしていないネットワーク ロケールと関連付けられると、起動に失敗します。</p>
User Locale	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、デバイスプールの中の電話機とゲートウェイに関連するロケールを選択します。そのユーザ ロケールは、言語とフォントを含んだ、ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。</p> <p> (注) ユーザがユーザ ロケールを選択しない場合は、Cisco CallManager clusterwide パラメータでデフォルト ユーザ ロケールとして指定されたロケールが適用されます。</p>
Connection Monitor Duration	<p>この設定値は、IP Phone が SRST から登録解除され Cisco CallManager に再登録される前に、Cisco CallManager への接続を監視する時間を定義します。</p> <p>デフォルト値は 120 秒で、Connection Monitor Duration エンタープライズパラメータに属します。</p> <p>コネクション モニタを使用不可にする(値を 0 に変更する)必要がある場合、またはコネクション モニタの時間を延長する場合は、この設定値を変更します。</p> <p> (注) Connection Monitor Duration の値を変更した場合、その値は更新されたデバイスプールだけに適用されます。それ以外のすべてのデバイスは、固有の Connection Monitor Duration フィールドの値またはエンタープライズパラメータで設定された値を使用します。</p> <p>詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「SRST リファレンス」を参照してください。</p>

表 9-1 デバイスプールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
<b>Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報</b>	
MLPP Indication	<p>この設定値は、デバイスが MLPP 優先コールを発信する場合、優先トーンを再生できるデバイス プール内のデバイスで MLPP の機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスの次のオプションから、このデバイス プール内のデバイスへ割り当てる設定値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Default</b> : このデバイス プールは、MLPP Indication Status エンタープライズ パラメータから MLPP Indication 設定値を取得します。</li> <li>• <b>Off</b> : このデバイス プール内のデバイスは、MLPP 優先コールの通知を処理しません。</li> <li>• <b>On</b> : このデバイス プール内のデバイスは、MLPP 優先コールの通知を処理します。</li> </ul> <p> (注) 次の設定値の組み合わせでデバイス プールを設定しないでください。MLPP Preemption が <i>Forceful</i> に設定されている状態で、MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> に設定 (デフォルトが <i>Off</i> の場合)。</p> <p> (注) エンタープライズ パラメータ、デバイス プール、またはデバイス レベルで MLPP Indication をオンにすると、MLPP Indication をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の Ring Setting が動作しません。</p>
MLPP Preemption	<p>この設定値は、デバイスが MLPP 優先コールを発信する場合、進行中のコールに割り込みできるデバイス プール内のデバイスで MLPP の機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスの次のオプションから、このデバイス プール内のデバイスへ割り当てる設定値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Default</b> : このデバイス プールは、MLPP Preemption Setting エンタープライズ パラメータから MLPP Preemption 設定値を取得します。</li> <li>• <b>Disabled</b> : 優先度の高いコールの終了が必要な場合、このデバイス プール内のデバイスは、優先度の低いコールを割り込みできません。</li> <li>• <b>Forceful</b> : このデバイス プール内のデバイスは、優先度の高いコールの終了が必要な場合でも、優先度の低いコールを割り込みできます。</li> </ul> <p> (注) 次の設定値の組み合わせでデバイス プールを設定しないでください。MLPP Preemption が <i>Forceful</i> に設定されている状態で、MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> に設定 (デフォルトが <i>Off</i> の場合)。</p>
MLPP Domain	<p>このデバイス プールに関連する MLPP ドメインの値を 16 進数 (0 ~ FFFFFFF) で入力します。このフィールドがブランクの場合、このデバイス プールは MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータの値セットから、MLPP ドメインを取得します。</p>

## デバイス プールの削除

Cisco CallManager データベースからデバイス プールを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

デバイスが割り当てられているデバイス プール、Device Defaults 設定に使用されるデバイス プール、またはデータベース内の唯一のデバイス プールなどは、削除できません。使用中のデバイス プールを削除しようとする、エラー メッセージが表示されます。現在使用中のデバイス プールを削除する場合は、事前に、次のどちらかまたは両方の作業を実行しておく必要があります。

- デバイスを更新して別のデバイス プールに割り当てる。P.70-6 の「電話機の削除」を参照してください。
- 削除するデバイス プールに割り当てられているデバイスを削除する。P.70-6 の「電話機の削除」を参照してください。

### 手順

- 
- ステップ 1** P.9-2 の「デバイス プールの検索」の手順を使用して、デバイス プールを検索します。
  - ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するデバイス プールを選択します。
  - ステップ 3** Delete Selected をクリックします。
  - ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、OK をクリックして削除します。削除操作を取り消すには、Cancel をクリックします。
- 

### 追加情報

P.9-8 の「関連項目」を参照してください。

## 関連項目

- デバイス プールの設定 (P.9-1)
- デバイス プールの検索 (P.9-2)
- デバイス プールの設定 (P.9-4)
- デバイス プールの削除 (P.9-8)



## DHCP サーバの設定

---

Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) サーバを使用すると、お客様のデータ イーサネット ネットワークまたは音声イーサネット ネットワークに接続されている Cisco IP Phone が、自身の IP アドレスと設定情報を動的に取得できるようになります。DHCP では、クラスタの内部および外部にあるホスト名を Domain Name System (DNS; ドメイン ネーム システム) を使用して解決します。

ここでは、次の内容について説明します。

- [DHCP モニタ サービスのアクティブ化 \(P.10-2\)](#)
- [DHCP モニタ サービスの開始 \(P.10-3\)](#)
- [DHCP サーバの検索 \(P.10-4\)](#)
- [DHCP サーバの設定 \(P.10-5\)](#)
- [DHCP サーバの設定値 \(P.10-6\)](#)
- [DHCP サーバの削除 \(P.10-7\)](#)

## DHCP モニタ サービスのアクティブ化

DHCP モニタ プロセスをアクティブまたは非アクティブにするには、Cisco CallManager の Serviceability ウィンドウを使用します。サービスをアクティブにする手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** Cisco CallManager Serviceability で、**Tools > Service Activation** の順に選択します。

Service Activation ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** CM Services リストから Cisco DHCP Monitor Service を選択し、**Save** をクリックします。



**(注)** サービスがすでにアクティブになっている場合は、Activation Status が Activated と表示されます。

---

**ステップ 3** サービスがアクティブになり、Activation Status 列にステータスが Activated と表示されます。

---



**(注)** DHCP モニタ サービスは、アクティブになると自動的に開始されます。サービスを停止、開始、または再起動するには、[P.10-3 の「DHCP モニタ サービスの開始」](#)を参照してください。

---

### 追加情報

[P.10-8 の「関連項目」](#)を参照してください。

## DHCP モニタ サービスの開始

DHCP モニタ サービスは、Cisco CallManager Serviceability を使用してアクティブにすると自動的に開始されます。この項では、DHCP サービスを停止または再起動する手順について説明します。

### 手順

**ステップ 1** Cisco CallManager Serviceability で、**Tools > Control Center - Feature Services** の順に選択します。

Control Center-Feature Services ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Cisco CallManager サーバを Servers ドロップダウン リスト ボックスから選択します。

Cisco DHCP モニタ サービスが、Service Name 列の下にある CM Services のリストに表示されます。



**(注)** Cisco DHCP モニタ サービスを P.10-2 の「[DHCP モニタ サービスのアクティブ化](#)」に従ってアクティブにした場合は、Status が Activated と表示されています。

**ステップ 3** Cisco DHCP モニタ サービスのチェックボックスをオンにします。

**ステップ 4** Cisco DHCP モニタ サービスを再起動する場合は、**Restart** をクリックします。

サービスが再起動し、Service Successfully Restarted というメッセージが表示されます。

**ステップ 5** Cisco DHCP モニタ サービスを停止する場合は、**Stop** をクリックします。

サービスが停止し、Service Successfully Stopped というメッセージが表示されます。

**ステップ 6** 停止した Cisco DHCP モニタ サービスを開始する場合は、**Start** をクリックします。

サービスが開始され、Service Successfully Started というメッセージが表示されます。

### 追加情報

P.10-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## DHCP サーバの検索

ネットワーク内にはいくつかのサーバが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定の DHCP サーバを見つけることができます。サーバを見つける手順は、次のとおりです。



**(注)** ブラウザ セッションでの作業中は、検索 / リストの検索設定がクライアント マシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザ ウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco CallManager の検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** System > DHCP > DHCP Server の順に選択します。

Find and List DHCP Servers ウィンドウが表示されます。2つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、サーバを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find DHCP Servers where ウィンドウのドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Host Server
- Primary DNS
- Secondary DNS
- Domain Name

2 番目の Find Servers where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- is exactly (完全一致)
- ends with (後方一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。



**ヒント** データベースに登録されている DHCP サーバをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたサーバのリストが、次の項目別に表示されます。

- Host Server
- Primary DNS
- Secondary DNS
- Domain Name

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する DHCP サーバ名をクリックします。

選択したサーバがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.10-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## DHCP サーバの設定

Cisco CallManager データベースに DHCP サーバアドレスを追加、コピー、および更新する手順は、次のとおりです。

#### 手順

**ステップ 1** System > DHCP > DHCP Server の順に選択します。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- DHCP サーバを追加するには、**Add New** をクリックします。
- サーバを更新するには、P.10-4 の「[DHCP サーバの検索](#)」の手順を使用してサーバを検索します。
- サーバをコピーするには、P.10-4 の「[DHCP サーバの検索](#)」の手順を使用してサーバを検索し、DHCP サーバ名の横にあるチェックボックスをオンにしてサーバを選択し、**Copy** アイコンをクリックします。

DHCP Server Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します（[表 10-1](#) を参照）。

**ステップ 4** ウィンドウ右上のツールバーに表示されている **Save** アイコンをクリックして（または、ウィンドウの一番下に表示されている **Save** ボタンをクリックして）、データを保存し、サーバをデータベースに追加します。

#### 追加情報

P.10-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## DHCP サーバの設定値

表 10-1 では、サーバの設定値について説明します。関連する手順については、P.10-8 の「関連項目」を参照してください。

表 10-1 DHCP サーバの設定値

Server Information フィールド	説明
Host Name	DNS サービスを使用している Cisco CallManager サーバのホスト名を選択します。   <b>(注)</b> 適切な Cisco CallManager 名とアドレス情報で、まず DNS サーバを更新した後、この設定をする必要があります。
Primary DNS IP Address	このフィールドには、プライマリ DNS の IP アドレスを指定します。
Secondary DNS IP Server	このフィールドには、セカンダリ DNS の IP アドレスを指定します。
Primary TFTP Server IP Address (Option 150)	DHCP のカスタム オプション 150 を使用すると、IP Phone が TFTP サーバにアクセスできるようになります。シスコでは、この方法をお勧めします。  このフィールドには、プライマリ Trivial File Transfer Protocol (TFTP) サーバの IP アドレスを指定します。
Secondary TFTP Server IP Address (Option 150)	このフィールドには、セカンダリ TFTP サーバの IP アドレスを指定します。
Bootstrap Server IP Address	このフィールドには、ブートストラッププロセスの次のステップで使用されるサーバのアドレスを指定します。このフィールドは、TFTP サーバの IP アドレスとして使用することができます。また、次のブートストラップサービスを DHCP サーバが提供する場合は、DHCP サーバアドレスのデフォルト値として使用することもできます。
Domain Name	Domain Name には、ドメイン ネーム システムを通じてホスト名を解決するときに使用するドメイン名を指定します。
TFTP Server Name (Option 66)	DHCP オプション 66 を使用すると、IP Phone が TFTP サーバにアクセスできるようになります。  このフィールドは、TFTP サーバを指定するために使用します。このパラメータに設定できるのは、DNS 名またはドット付き 10 進 IP アドレス 1 つのみです。
ARP Cache Timeout	このフィールドには、ARP キャッシュ エントリのタイムアウトを秒単位で指定します。期間を 32 ビットの符号なし整数で指定します。
IP Address Lease Time	DHCP サーバは、このフィールドにある情報を使用してオファアのリース期間を指定します。期間を秒単位の 32 ビット符号なし整数で指定します。
Renewal Time	このフィールドには、アドレス割り当ての時点から、クライアントが RENEWING 状態に遷移するまでの時間間隔を指定します。
Rebinding Time (T1)	このフィールドには、アドレス割り当ての時点から、クライアントが REBUILDING 状態に遷移するまでの時間間隔を指定します。値を秒単位の 32 ビット符号なし整数で指定します。

## DHCP サーバの削除

DHCP サーバを Cisco CallManager データベースから削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** P.10-4 の「[DHCP サーバの検索](#)」の手順を使用して、DHCP サーバを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する DHCP サーバを選択します。
- ステップ 3** ウィンドウ右上のツールバーに表示されている **Delete Selected Item** アイコンをクリックして(または、ウィンドウの一番下に表示されている **Delete Selected** ボタンをクリックして)、サーバを削除します。

Cisco CallManager は、サーバが使用中でない場合、そのサーバを削除します。サーバが使用中である場合は、エラー メッセージを表示します。



- (注)** 該当するサーバの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Servers ウィンドウから複数のホスト サーバを削除できます。**Select All** をクリックして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのサーバを削除できます。
- 

### 追加情報

P.10-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [DHCP モニタ サービスのアクティブ化 \(P.10-2\)](#)
- [DHCP モニタ サービスの開始 \(P.10-3\)](#)
- [DHCP サーバの検索 \(P.10-4\)](#)
- [DHCP サーバの設定 \(P.10-5\)](#)
- [DHCP サーバの削除 \(P.10-7\)](#)
- [DHCP サーバの設定値 \(P.10-6\)](#)
- [DHCP サブネットの設定](#)

### 追加情報

- 『*Cisco CallManager システム ガイド*』の「[ダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコル \(DHCP\)](#)」



# DHCP サブネットの設定

---

この章では、サブネットを DHCP サーバに追加する手順について説明します。

サブネットを検索して DHCP サーバに追加する手順は、次のとおりです。

- [DHCP サブネットの検索 \(P.11-2\)](#)
- [DHCP サブネットの設定 \(P.11-4\)](#)
- [DHCP サブネットの削除 \(P.11-6\)](#)
- [DHCP サブネットの設定値 \(P.11-5\)](#)

## DHCP サブネットの検索

DHCP サブネットを見つける手順は、次のとおりです。



**(注)** ブラウザ セッションでの作業中は、検索 / リストの検索設定がクライアント マシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザ ウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco CallManager の検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** System > DHCP > DHCP Subnet の順に選択します。

Find and List DHCP Subnets ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、サーバを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find DHCP Subnets where ウィンドウのドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- DHCP Server
- Subnet IP Address
- Primary Start IP Address
- Primary End IP Address
- Secondary Start IP Address
- Secondary End IP Address

2 番目の Find DHCP Subnets where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- is exactly (完全一致)
- ends with (後方一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。



**ヒント** データベースに登録されている DHCP サブネットをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたサブネットのリストが、次の項目別に表示されます。

- DHCP Server
- Subnet IP Address
- Primary Start IP Address

- Primary End IP Address
- Secondary Start IP Address
- Secondary End IP Address

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する DHCP サブネット名をクリックします。

選択したサブネットがウィンドウに表示されます。

---

#### 追加情報

P.11-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## DHCP サブネットの設定

Cisco CallManager データベースに DHCP サブネット アドレスを追加、更新、およびコピーする手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** System > DHCP > DHCP Subnet の順に選択します。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- DHCP サブネットを追加するには、Add New をクリックします。
- サブネットを更新するには、P.11-2 の「[DHCP サブネットの検索](#)」の手順を使用してサブネットを検索します。
- サブネットをコピーするには、P.11-2 の「[DHCP サブネットの検索](#)」の手順を使用してサブネットを検索し、DHCP サーバ名の横にあるチェックボックスをオンにしてサーバを選択し、Copy をクリックします。

DHCP Subnet Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します ( [表 11-1](#) を参照 )。

**ステップ 4** ウィンドウ右上のツールバーに表示されている Save アイコンをクリックして (または、ウィンドウの一番下に表示されている Save ボタンをクリックして)、データを保存し、サブネットをデータベースに追加します。

---

サーバ設定の変更を有効にするには、Cisco CallManager を再起動します。Cisco CallManager サービスの再起動については、『*Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*』を参照してください。

### 追加情報

P.11-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## DHCP サブネットの設定値

表 11-1 では、サブネットの設定値について説明します。関連する手順については、P.11-6 の「関連項目」を参照してください。

表 11-1 DHCP サブネットの設定値

Server Information フィールド	説明
DHCP Server	DHCP サーバ名をドロップダウン リスト ボックスから選択します。
Subnet IP Address	サブネットの IP アドレスを入力します。
Primary Start IP Address	割り当てる最初の IP アドレス範囲の開始 IP アドレスを入力します。
Primary End IP Address	割り当てる最初の IP アドレス範囲の終了 IP アドレスを入力します。
Secondary Start IP Address	割り当てる 2 番目の IP アドレス範囲の開始 IP アドレスを入力します。
Secondary End IP Address	割り当てる 2 番目の IP アドレス範囲の終了 IP アドレスを入力します。
Primary Router IP Address	サブネットのプライマリ ルータの IP アドレスを入力します。
Secondary Router IP Address	サブネットのセカンダリ ルータの IP アドレスを入力します。
Subnet Mask	サブネット マスクを入力します。
Domain Name	このフィールドには、ドメイン ネーム システムを通じてホスト名を解決するときに使用する名前を指定します。
Primary DNS IP Address	このフィールドには、プライマリ DNS IP サーバ名を指定します。
Secondary DNS IP Address	このフィールドには、セカンダリ DNS IP サーバ名を指定します。
TFTP Server Name (Option 66)	このフィールドは、TFTP サーバを指定するために使用します。このパラメータに設定できるのは、DNS 名またはドット付き 10 進 IP アドレス 1 つのみです。
Primary TFTP Server IP Address (Option 150)	このフィールドには、プライマリ Trivial File Transfer Protocol (TFTP) サーバの IP アドレスを指定します。
Secondary TFTP Server IP Address (Option 150)	このフィールドには、セカンダリ TFTP サーバの IP アドレスを指定します。
Bootstrap Server IP Address	このフィールドには、ブートストラップ プロセスの次のステップで使用されるサーバのアドレスを指定します。このフィールドは、TFTP サーバの IP アドレスとして使用することができます。また、次のブートストラップ サービスを DHCP サーバが提供する場合は、DHCP サーバ アドレスのデフォルト値として使用することもできます。
ARP Cache Timeout (sec)	このフィールドには、ARP キャッシュ エントリのタイムアウトを秒単位で指定します。期間を 32 ビットの符号なし整数で指定します。
IP Address Lease Time (sec)	DHCP サーバは、このフィールドにある情報を使用してオファアのリース期間を指定します。期間を秒単位の 32 ビット符号なし整数で指定します。
Renewal (T1) Time (sec)	このフィールドには、アドレス割り当ての時点から、クライアントが RENEWING 状態に移移するまでの時間間隔を指定します。
Rebinding (T2)Time (sec)	このフィールドには、アドレス割り当ての時点から、クライアントが REBUILDING 状態に移移するまでの時間間隔を指定します。値を秒単位の 32 ビット符号なし整数で指定します。

## DHCP サブネットの削除

DHCP サブネットを Cisco CallManager データベースから削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** P.11-2 の「[DHCP サブネットの検索](#)」の手順を使用して、DHCP サブネットを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する DHCP サブネットを選択します。
- ステップ 3** ウィンドウ右上のツールバーに表示されている **Delete Selected Item** アイコンをクリックして(または、ウィンドウの一番下に表示されている **Delete Selected** ボタンをクリックして)、サブネットを削除します。

Cisco CallManager は、サブネットが使用中でない場合、そのサブネットを削除します。サブネットが使用中である場合は、メッセージが表示されます。



- (注) 該当するサーバの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Servers ウィンドウから複数の DHCP サーバを削除できます。Select All をクリックして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのサーバを削除できます。

### 追加情報

P.11-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [DHCP サブネットの検索 \(P.11-2\)](#)
- [DHCP サブネットの設定 \(P.11-4\)](#)
- [DHCP サブネットの削除 \(P.11-6\)](#)
- [DHCP サブネットの設定値 \(P.11-5\)](#)
- [DHCP サーバの設定 \(P.10-1\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「[ダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコル \(DHCP\)](#)」



# LDAP システムの設定

Cisco CallManager Release 5.0 以降では、ディレクトリの設定を次の 3 つの関連ウィンドウで行います。

- LDAP System
- LDAP Directory
- LDAP Authentication

LDAP Directory の情報と LDAP Authentication の設定値を変更できるのは、お客様の LDAP ディレクトリからの同期化が Cisco CallManager Administration の LDAP System ウィンドウで使用可能にされている場合のみです。

管理者は、このウィンドウを使用して LDAP 同期化を使用可能にし、LDAP サーバのタイプ、およびユーザ ID の LDAP 属性名をセットアップします。



(注)

DirSync サービスの LDAP Directory 設定が作成されるか、LDAP ユーザの認証が有効になると、LDAP System ウィンドウにある設定値は読み取り専用になります。

LDAP システムの情報を設定するには、次のトピックを参照してください。

- [LDAP システムの情報の更新 \(P.12-2\)](#)
- [LDAP システムの設定値 \(P.12-3\)](#)

## 追加情報

[P.12-4 の「関連項目」](#)を参照してください。

## LDAP システムの情報の更新

LDAP システムの情報を更新する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

このウィンドウにある Enable Synchronization from LDAP Server チェックボックスの設定によって、管理者がエンド ユーザに変更を加えられるかどうかが決まります。LDAP の同期化はエンド ユーザにのみ適用され、アプリケーション ユーザには影響しません。LDAP の同期化の詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「ディレクトリの概要」を参照してください。

エンド ユーザ データに関して、企業ディレクトリから同期される属性を管理者が End User Configuration ウィンドウで更新することはできません。これらの属性は、企業ディレクトリ自体の内部でのみ更新できます。更新された後に、再同期化を実行する必要があります。



(注)

企業ディレクトリとの同期化が発生する前に Cisco CallManager データベースにエンド ユーザが存在している場合、それらのエンド ユーザは削除されます。Cisco CallManager がすでに他のタイプのサーバと同期されていた場合、既存のユーザは *Delete Pending* ステータスになります。これらのユーザは、夜間に動作するガーベッジ コレクタ プログラムによってデータベースから削除されます。

### 手順

- ステップ 1 System > LDAP > LDAP System の順に選択します。
- ステップ 2 適切な設定値を入力します (表 12-1 を参照)。
- ステップ 3 Save をクリックして、変更内容を保存します。

### 追加情報

P.12-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## LDAP システムの設定値

表 12-1 では、LDAP システムの設定値について説明します。関連する手順については、P.12-4 の「関連項目」を参照してください。

表 12-1 LDAP システムの設定値

フィールド	説明
<b>LDAP システム情報</b>	
Enable Synchronizing from LDAP Server	<p>お客様の LDAP サーバからのデータ同期化を使用可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>LDAP サーバとの同期化を使用可能にすると、次のような状態になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 管理者は、企業ディレクトリと同期されないフィールド（属性）を除いて、エンド ユーザ データの内容を変更できません。エンド ユーザ データの例としては、ユーザの PIN があります。ただし、アプリケーション ユーザ データの内容はいつでも変更することができます。</li> <li>• 管理者は、LDAP Directory の情報を変更することができます。</li> <li>• 管理者は、LDAP Authentication の情報を変更することができます。</li> </ul> <p>LDAP サーバとの同期化を使用可能にしない場合（同期化が無効になっている場合）は、次のような状態になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 管理者は、LDAP Directory の情報を変更できません。</li> <li>• 管理者は、LDAP Authentication の情報を変更できません。</li> </ul>
LDAP Server Type	<p>LDAP サーバとの同期化が使用可能になっている場合は、このドロップダウン リスト ボックスで次のいずれかを選択できます。お客様の LDAP サーバのタイプに該当する値を選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Microsoft Active Directory</li> <li>• Netscape LDAP Server</li> </ul>
LDAP Attribute for User ID	<p>LDAP サーバとの同期化が使用可能になっている場合は、ユーザ ID の LDAP 属性値を選択できます。ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの値を選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Microsoft Active Directory の場合： <ul style="list-style-type: none"> <li>- sAMAccountName</li> <li>- mail</li> <li>- employeeNumber</li> </ul> </li> <li>• Netscape LDAP Server の場合： <ul style="list-style-type: none"> <li>- uid</li> <li>- mail</li> <li>- employeeNumber</li> </ul> </li> </ul>

## 関連項目

- [LDAP システムの設定 \( P.12-1 \)](#)
- [LDAP システムの情報の更新 \( P.12-2 \)](#)
- [LDAP システムの設定値 \( P.12-3 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ディレクトリの概要」
- [LDAP ディレクトリの設定 \( P.13-1 \)](#)
- [LDAP 認証の設定 \( P.14-1 \)](#)
- [アプリケーション ユーザの設定 \( P.86-1 \)](#)
- [エンド ユーザの設定 \( P.87-1 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」



# LDAP ディレクトリの設定

---

ディレクトリの設定は、次の3つの関連ウィンドウで行います。

- LDAP System
- LDAP Directory
- LDAP Authentication

LDAP Directory の情報と LDAP Authentication の設定値を変更できるのは、お客様の LDAP ディレクトリからの同期化が Cisco CallManager Administration の LDAP System ウィンドウで使用可能にされている場合のみです。

LDAP ディレクトリの情報を設定するには、次のトピックを参照してください。

- [LDAP ディレクトリの検索 \(P.13-2\)](#)
- [LDAP ディレクトリの設定 \(P.13-3\)](#)
- [関連項目 \(P.13-8\)](#)
- [LDAP ディレクトリの削除 \(P.13-7\)](#)

詳細については、[P.13-8](#)の「[関連項目](#)」を参照してください。

## LDAP ディレクトリの検索

LDAP ディレクトリの設定を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、LDAP ディレクトリの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、LDAP ディレクトリの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** System > LDAP > LDAP Directory の順に選択します。

Find and List LDAP Directories ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、LDAP ディレクトリを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find LDAP Directory where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- LDAP Configuration Name
- LDAP Manager Distinguished Name
- LDAP User Search Base

2 番目の Find LDAP Directory where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- is exactly (完全一致)
- ends with (後方一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



**ヒント** データベースに登録されている LDAP ディレクトリをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出された LDAP ディレクトリのリストが、次の項目別に表示されます。

- LDAP Configuration Name
- LDAP Manager Distinguished Name
- LDAP User Search Base

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する LDAP ディレクトリ名をクリックします。

選択した LDAP ディレクトリがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.13-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## LDAP ディレクトリの設定

Cisco CallManager データベースとのユーザ データ同期化に使用する LDAP ディレクトリの情報を追加または更新する手順は、次のとおりです。

#### 手順

**ステップ 1** System > LDAP > LDAP Directory の順に選択します。

Find and List LDAP Directories ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- LDAP ディレクトリに関する新しい情報を追加するには、対象となるディレクトリを見つけて (P.13-2 の「[LDAP ディレクトリの検索](#)」を参照)、Add New ボタンをクリックし、[ステップ 3](#)に進みます。
- LDAP ディレクトリに関する既存の情報を更新するには、対象となるディレクトリを見つけて (P.13-2 の「[LDAP ディレクトリの検索](#)」を参照)、[ステップ 3](#)に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 13-1 を参照)。

**ステップ 4** Save をクリックします。

新しい LDAP ディレクトリが Cisco CallManager データベースに追加されます。または、既存のディレクトリが更新されます。

#### 追加情報

P.13-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## LDAP ディレクトリの設定値

表 13-1 では、LDAP ディレクトリの設定値について説明します。関連する手順については、P.13-8 の「関連項目」を参照してください。

表 13-1 LDAP ディレクトリの設定値

フィールド	説明
<b>LDAP ディレクトリ情報</b>	
LDAP Configuration Name	LDAP ディレクトリの固有の名前を入力します(40 文字まで)。
LDAP Manager Distinguished Name	LDAP Manager のユーザ ID を入力します(128 文字まで)。このユーザは、当該 LDAP ディレクトリへのアクセス権を持つ管理ユーザです。
LDAP Password	LDAP Manager のパスワードを入力します(128 文字まで)。
Confirm Password	LDAP Password フィールドに入力したパスワードをもう一度入力します。
LDAP User Search Base	すべての LDAP ユーザが存在するロケーションを入力します(256 文字まで)。このロケーションは、コンテナまたはディレクトリです。この情報は、お客様側の構成によって異なります。
<b>LDAP ディレクトリ同期化のスケジュール</b>	
Perform Sync Just Once	この LDAP ディレクトリに含まれているデータを Cisco CallManager データベースのデータと 1 回のみ同期する場合は、このチェックボックスをオンにします。
Perform a Re-sync Every	<p>この LDAP ディレクトリに含まれているデータを Cisco CallManager データベースのデータと定期的に同期する場合は、これらのフィールドを使用します。</p> <p>左側のフィールドには、数値を入力します。ドロップダウンリストボックスでは、次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• hours</li> <li>• days</li> <li>• weeks</li> <li>• months</li> </ul> <p> <b>(注)</b> このフィールドがアクティブになるのは、Perform Sync Just Once チェックボックスをオフにした場合のみです。</p>
Next Re-sync Time (YYYY-MM-DD hh:mm)	Cisco CallManager ディレクトリのデータをこの LDAP ディレクトリと次回に同期する時刻を指定します。時刻は 24 時間制で指定してください。たとえば、午後 1 時は 13:00 です。

表 13-1 LDAP ディレクトリの設定値 (続き)

フィールド		説明
<b>同期化の対象となるユーザ フィールド</b>		
CallManager User フィールド	LDAP User フィールド	
User ID	sAMAccountName	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco CallManager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。
Middle Name	(ドロップダウン リスト ボックス)	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco CallManager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。  LDAP User フィールドについては、次のいずれかの値を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• middleName</li> <li>• initials</li> </ul>
Manager ID	manager	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco CallManager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。
Phone Number	(ドロップダウン リスト ボックス)	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco CallManager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。  LDAP User フィールドについては、次のいずれかの値を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• telephoneNumber</li> <li>• ipPhone</li> </ul>
First Name	givenName	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco CallManager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。
Last Name	sn	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco CallManager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。
Department	department	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco CallManager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。
Mail ID	(ドロップダウン リスト ボックス)	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco CallManager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。  LDAP User フィールドについては、次のいずれかの値を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• mail</li> <li>• sAMAccountName</li> </ul>

表 13-1 LDAP ディレクトリの設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>LDAP サーバ情報</b>	
Host Name or IP Address for Server	この LDAP ディレクトリのデータが配置されているサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
LDAP Port	<p>企業ディレクトリが LDAP 要求を受信するポートの番号を入力します。</p> <p>Microsoft Active Directory および Netscape Directory のデフォルト LDAP ポートは、389 です。Secure Sockets Layer (SSL) のデフォルト LDAP ポートは、636 です。</p> <p> (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンドユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。</p>
Use SSL	<p>セキュリティのために Secure Sockets Layer (SSL) 暗号化を使用するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンドユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。</p>
Add Another Redundant LDAP Server	行を追加して、この他のサーバに関する情報を入力できるようにするには、このボタンをクリックします。

## LDAP ディレクトリの削除

Cisco CallManager Administration で LDAP ディレクトリを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

LDAP ディレクトリを削除すると、Cisco CallManager はそのディレクトリに関する情報をデータベースから削除します。



(注)

該当する LDAP ディレクトリの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List LDAP directories ウィンドウから複数の LDAP ディレクトリを削除できます。Select All をクリックして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべての LDAP ディレクトリを削除できます。

### 手順

**ステップ 1** P.13-2 の「LDAP ディレクトリの検索」の手順を使用して、削除する LDAP ディレクトリを検索します。

**ステップ 2** 削除する LDAP ディレクトリの名前をクリックします。

選択した LDAP ディレクトリが表示されます。

**ステップ 3** Delete をクリックします。

削除の確認を求めるメッセージが表示されます。

**ステップ 4** OK をクリックします。

ウィンドウの表示が更新され、LDAP ディレクトリがデータベースから削除されます。

### 追加情報

P.13-8 の「関連項目」を参照してください。

## 関連項目

- [LDAP ディレクトリの設定 \(P.13-1\)](#)
- [LDAP ディレクトリの検索 \(P.13-2\)](#)
- [LDAP ディレクトリの設定 \(P.13-3\)](#)
- [LDAP ディレクトリの削除 \(P.13-7\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ディレクトリの概要」
- [LDAP システムの設定 \(P.12-1\)](#)
- [LDAP 認証の設定 \(P.14-1\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」
- [アプリケーション ユーザの設定 \(P.86-1\)](#)
- [エンド ユーザの設定 \(P.87-1\)](#)



## LDAP 認証の設定

---

Cisco CallManager Release 5.0 以降では、ディレクトリの設定を次の 3 つの関連ウィンドウで行います。

- LDAP System
- LDAP Directory
- LDAP Authentication

LDAP Directory の情報と LDAP Authentication の設定値を変更できるのは、お客様の LDAP ディレクトリとの同期化が Cisco CallManager Administration の LDAP System ウィンドウで使用可能にされている場合のみです。

LDAP 認証の情報を設定するには、次のトピックを参照してください。

- [LDAP 認証の情報の更新 \(P.14-2\)](#)
- [LDAP 認証の設定値 \(P.14-3\)](#)

## LDAP 認証の情報の更新

LDAP 認証の情報を更新する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

LDAP System Configuration ウィンドウにある Enable Synchronizing from LDAP Server チェックボックスの設定によって、管理者が認証の設定値を変更できるかが決まります。LDAP サーバとの同期化が使用可能になっている場合、管理者は、LDAP ディレクトリの情報および LDAP 認証の設定値を変更することができません。LDAP の同期化の詳細については、『*Cisco CallManager システムガイド*』の「ディレクトリの概要」を参照してください。

逆に、LDAP ディレクトリの情報および LDAP 認証の設定値を管理者が変更できるようにするには、LDAP サーバとの同期化を使用不可にする必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1** System > LDAP > LDAP Authentication の順に選択します。
  - ステップ 2** 適切な設定値を入力します (表 14-1 を参照)。
  - ステップ 3** Save をクリックして、変更内容を保存します。
- 

### 追加情報

P.14-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## LDAP 認証の設定値

表 14-1 では、LDAP 認証の設定値について説明します。関連する手順については、P.14-4 の「関連項目」を参照してください。

表 14-1 LDAP 認証の設定値

フィールド	説明
<b>エンドユーザの LDAP 認証</b>	
Use LDAP Authentication for End Users	LDAP ディレクトリとの認証をエンドユーザに要求するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフのままにすると、認証はデータベースに対して実行されます。   <b>(注)</b> このフィールドにアクセスできるのは、LDAP System Configuration ウィンドウで LDAP 同期化を使用可能にした場合のみです。
LDAP Manager Distinguished Name	LDAP Manager のユーザ ID を入力します。このユーザは、当該 LDAP ディレクトリへのアクセス権を持つ管理ユーザです。   <b>(注)</b> このフィールドにアクセスできるのは、エンドユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。
LDAP Password	LDAP Manager のパスワードを入力します。   <b>(注)</b> このフィールドにアクセスできるのは、エンドユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。
Confirm Password	LDAP Password フィールドに入力したパスワードをもう一度入力します。   <b>(注)</b> このフィールドにアクセスできるのは、エンドユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。
LDAP User Search Base	ユーザ検索ベースを入力します。Cisco CallManager は、ユーザをこのベースで検索します。   <b>(注)</b> このフィールドにアクセスできるのは、エンドユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。
<b>LDAP サーバ情報</b>	
Host Name or IP Address for Server	企業ディレクトリをインストールした場所のホスト名または IP アドレスを入力します。   <b>(注)</b> このフィールドにアクセスできるのは、エンドユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。

表 14-1 LDAP 認証の設定値 (続き)

フィールド	説明
LDAP Port	<p>企業ディレクトリが LDAP 要求を受信するポートの番号を入力します。</p> <p>Microsoft Active Directory および Netscape Directory のデフォルト LDAP ポートは、389 です。Secure Sockets Layer (SSL) のデフォルト LDAP ポートは、636 です。</p> <p> (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。</p>
Use SSL	<p>セキュリティのために SSL 暗号化を使用するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。</p>
Add Another Redundant LDAP Server	<p>行を追加して、この他のサーバに関する情報を入力できるようにするには、このボタンをクリックします。</p> <p> (注) このボタンにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。</p>

## 関連項目

- [LDAP 認証の設定 \(P.14-1\)](#)
- [LDAP 認証の情報の更新 \(P.14-2\)](#)
- [LDAP 認証の設定値 \(P.14-3\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ディレクトリの概要」
- [LDAP システムの設定 \(P.12-1\)](#)
- [LDAP ディレクトリの設定 \(P.13-1\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」
- [アプリケーション ユーザの設定 \(P.86-1\)](#)
- [エンド ユーザの設定 \(P.87-1\)](#)



## ロケーションの設定

ロケーションは、コール アドミッション制御を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。コール アドミッション制御では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの可用性を調整できます。詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「コール アドミッション制御」を参照してください。



(注)

コール アドミッション制御を使用して IP WAN リンク上のオーディオ帯域幅またはビデオ帯域幅を制限しない場合、コール数の制限がなくなり、そのリンク上でコールが同時にアクティブになる可能性があります。この状態が発生すると、そのリンクがオーバーサブスクライブになるため、各オーディオ コールのオーディオ品質と、各ビデオ コールのビデオ品質が低下する場合があります。

中央集中型コール処理システムでは、1 つの Cisco CallManager クラスタが、IP テレフォニー ネットワーク上のすべてのロケーションにコール処理を提供します。その Cisco CallManager クラスタは、通常、電話機やゲートウェイなどの他のデバイスと共に、メイン（つまり中央）ロケーションに置かれています。リモート ロケーションには、追加のデバイスが置かれていますが、Cisco CallManager はありません。IP WAN リンクが、リモート ロケーションとメイン ロケーションとを接続します。

次のトピックでは、ロケーションについて詳しく説明しています。

- [ロケーションの検索 \(P.15-2\)](#)
- [ロケーションの設定 \(P.15-4\)](#)
- [ロケーションの設定値 \(P.15-5\)](#)
- [ロケーションの削除 \(P.15-7\)](#)
- [ロケーションの帯域幅の再同期化 \(P.15-8\)](#)
- [関連項目 \(P.15-8\)](#)

## ロケーションの検索

ネットワーク内にはいくつかのロケーションが存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の基準を指定して、特定のロケーションを見つけることができます。ロケーションを検索する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、ロケーションの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ロケーションの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** System > Location の順に選択します。

Find and List Locations ウィンドウが表示されます。2つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、ロケーションを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find locations where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Location
- Audio Bandwidth



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する基準によって、検索時に生成されるロケーション リストのソート方法が決まります。たとえば、Bandwidth を選択すると、Bandwidth 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2番目の Find locations where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されているロケーションをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたロケーションのリストが、次の項目別に表示されます。

- Location icon
- Location Name
- Bandwidth



(注) 該当するロケーションの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Locations ウィンドウから複数のロケーションを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのロケーションを削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致するロケーション名をクリックします。

選択したロケーションに関する情報がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.15-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ロケーションの設定

ロケーションを Cisco CallManager データベースに追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

ロケーションを設定する場合は、事前にクラスタを構成する Cisco CallManager を設定しておく必要があります。詳細については、P.3-3 の「Cisco CallManager の更新」を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** System > Location の順に選択します。

Find and List Locations ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存のロケーションをコピーするには、対象となるロケーションを見つけて (P.15-2 の「ロケーションの検索」を参照)、コピーするロケーションの横にある Copy ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 新しいロケーションを追加するには、Add New ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 既存のロケーションを更新するには、対象となるロケーションを見つけて (P.15-2 の「ロケーションの検索」を参照)、**ステップ 3** に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 15-1 を参照)。

**ステップ 4** Save をクリックして、ロケーション情報をデータベースに保存します。

---

### 次の手順

データベースに新規ロケーションを追加した後、そのロケーションにデバイスを割り当てることができます。たとえば、次の項を参照してください。

- ゲートウェイの設定 (P.69-1)
- Cisco IP Phone の設定 (P.70-1)
- CTI ルート ポイントの設定 (P.67-1)

### 追加情報

P.15-8 の「関連項目」を参照してください。

## ロケーションの設定値

表 15-1 では、ロケーションの設定値について説明します。関連する手順については、P.15-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 15-1 ロケーションの設定値

フィールド	説明
<b>ロケーション情報</b>	
Name	作成する新規ロケーションの名前を入力します。
<b>オーディオ コール情報</b>	
Audio Bandwidth	<p>このロケーションと他のロケーション間のリンク上ですべてのオーディオ コールに使用可能なオーディオ帯域幅の最大値 ( kbps 単位 ) を入力します。オーディオ コールの場合、オーディオ帯域幅はオーバーヘッドを含みます。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Unlimited bandwidth : Unlimited オプション ボタンをクリックします。</li> <li>• Specified bandwidth : kbps ボックスの横にあるオプション ボタンをクリックし、既定の帯域幅を入力して、帯域幅を指定します。有効値は 1 ~ 2147483647 です。</li> </ul> <p>ロケーションの帯域幅の計算だけのために、各コール ストリームは次の帯域幅を使用するものと想定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• G0.711 コールは 80 kbps を使用</li> <li>• G0.722 コールは 80 kbps を使用</li> <li>• G0.723 コールは 24 kbps を使用</li> <li>• G0.728 コールは 16 kbps を使用</li> <li>• G.729 コールは 24 kbps を使用</li> <li>• GSM コールは 29 kbps を使用</li> <li>• Wideband コールは 272 kbps を使用</li> </ul> <p> (注) 各コールは、2 つのコール ストリームから構成されています。オーディオ品質を向上させるには、帯域幅設定値を下げて、このロケーションとのリンク上で許可されるアクティブ コール数を減らします。</p>
<b>ビデオ コール情報</b>	
Video Bandwidth	<p>このロケーションと他のロケーション間のリンク上ですべてのビデオ コールに使用可能なビデオ帯域幅の最大値 ( kbps 単位 ) を入力します。ビデオ コールの場合、ビデオ帯域幅はオーバーヘッドを含みません。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• None : ビデオ コールをこのロケーションと他のロケーション間で使用できません。ただし、このロケーション内でビデオ コールを行うことができます。</li> <li>• Unlimited bandwidth : Unlimited オプション ボタンをクリックします。</li> <li>• Specified bandwidth : kbps ボックスの横にあるオプション ボタンをクリックし、既定のビデオ帯域幅を入力して、ビデオ帯域幅を指定します。デフォルト値は、384 kbps です。</li> </ul>

表 15-1 ロケーションの設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>ロケーションの RSVP 設定値</b>	
Location	この読み取り専用フィールドには、ロケーション間の RSVP 設定値がシステムのデフォルト RSVP ポリシーのものから変更されているロケーションが表示されます。
RSVP Setting	この読み取り専用フィールドには、選択したロケーションと、左側の Location 列にリストされているロケーションの間の RSVP ポリシー設定値が表示されます。
<b>ロケーション間の設定の変更</b>	
Location	現在のロケーションと、このペインに表示されるロケーションの間の RSVP ポリシー設定値を変更するには、このペインでロケーションを選択します。
RSVP Setting	現在のロケーションと左側の Location 列で選択したロケーションの間の RSVP ポリシー設定値を選択するには、RSVP 設定値をドロップダウン リストボックスから選択します。次の設定値を使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Use System Default : このロケーション ペアの RSVP ポリシーを、クラスタ全体の RSVP ポリシーと同じものにします。詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「クラスタ全体のデフォルト RSVP ポリシー」の項を参照してください。</li> <li>• No Reservation : どの 2 つのロケーション間においても、RSVP 予約は発生しません。</li> <li>• Optional (Video Desired) : オーディオ ストリームとビデオ ストリームの予約をどちらも取得できなかった場合に、コールをオーディオのみのベストエフォート型コールとして配送できます。RSVP エージェントは、引き続き RSVP 予約を試行し、予約が成功した場合は Cisco CallManager に通知します。</li> <li>• Mandatory : Cisco CallManager は、オーディオ ストリームのための RSVP 予約が成功するまでは、着側デバイスの呼び出し音を鳴らしません。コールがビデオ コールである場合は、ビデオ ストリームについても同様です。</li> <li>• Mandatory (Video Desired) : ビデオ ストリームのための予約を取得できなかった場合に、ビデオ コールをオーディオのみのコールとして配送できます。</li> </ul>

## ロケーションの削除

Cisco CallManager データベースからロケーションを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

デバイスが割り当てられたロケーションは削除できません。ロケーションを使用しているデバイスを検索するには、Location Configuration ウィンドウの **Related Links** にある **Dependency Records** をクリックし、**Go** をクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されているロケーションを削除しようとする、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されているロケーションを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- デバイスを更新して、別のロケーションに割り当てる。
- 削除するロケーションに割り当てられているデバイスを削除する。



(注)

ロケーションを削除すると、そのロケーションに接続されているリンクに帯域幅が無制限に割り当てられ、それらのリンク上のコール数も制限がなくなります。このためロケーションを削除すると、リンク上のオーディオ品質が低下する原因になります。

### 手順

- ステップ 1** [P.15-2 の「ロケーションの検索」](#)の手順を使用して、ロケーションを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するロケーションを選択します。
- ステップ 3** **Delete Selected** をクリックします。
- ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、**OK** をクリックして削除を確認します。削除操作を取り消す場合は、**Cancel** をクリックしてください。

### 追加情報

[P.15-8 の「関連項目」](#)を参照してください。

## ロケーションの帯域幅の再同期化

この項では、ロケーションの帯域幅を再同期化する手順について説明します。ロケーションへのリンクを使用したコールがブロックされる場合は、帯域幅が不足している、つまりロケーションに割り当てられた帯域幅が減少している可能性があります。Cisco CallManager サーバをリセットせずに、ロケーションの帯域幅を、このロケーションに割り当てられている最大値に再同期化することができます。詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「コール アドミッション制御」の章にある「帯域幅の計算」を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** P.15-2 の「[ロケーションの検索](#)」の手順を使用して、ロケーションを検索します。

**ステップ 2** 一致するレコードのリストから、再同期化するロケーションを選択します。

Location Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** Resync Bandwidth をクリックして、選択したロケーションの帯域幅を再同期化します。

次の警告メッセージが表示されます。「If calls are using the bandwidth for this location when the bandwidth is resynchronized, the bandwidth might be oversubscribed until all calls that are using the bandwidth for this location disconnect.」です。

**ステップ 4** OK をクリックして続行するか、Cancel をクリックします。

---

### 追加情報

P.15-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [ロケーションの設定 \(P.15-1\)](#)
- [ロケーションの検索 \(P.15-2\)](#)
- [ロケーションの設定 \(P.15-4\)](#)
- [ロケーションの設定値 \(P.15-5\)](#)
- [ロケーションの削除 \(P.15-7\)](#)
- [ロケーションの帯域幅の再同期化 \(P.15-8\)](#)



## Survivable Remote Site Telephony の設定

---

Survivable Remote Site Telephony (SRST) リファレンスは、デバイス用の他のすべての Cisco CallManager サーバが到達不能になった場合に、限定された Cisco CallManager 機能を提供するゲートウェイを構成します。SRST リファレンスは通常、デバイス プールに割り当てられており、Cisco CallManager が到達不能になった場合に、コールを行うデバイスがコールを実行しようとして検索するゲートウェイを決定します。SRST リファレンスの詳細については、『*Cisco CallManager システム ガイド*』の「SRST リファレンス」を参照してください。

SRST リファレンスを追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [SRST リファレンスの検索 \(P.16-2\)](#)
- [SRST リファレンスの設定 \(P.16-3\)](#)
- [SRST リファレンスの削除 \(P.16-4\)](#)
- [SRST リファレンスの設定値 \(P.16-5\)](#)

## SRST リファレンスの検索

ネットワーク内にはいくつかの SRST リファレンスが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定の SRST リファレンスを見つけることができます。特定のユーザによって定義された SRST リファレンスを見つけるには、次の手順を実行します。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、SRST リファレンスの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、SRST リファレンスの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** System > SRST の順に選択します。

Find and List SRST References ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているユーザ定義の SRST リファレンスをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックしてください。

検出された SRST リファレンスのリストが、次の項目別に表示されます。

- SRST Reference Name
- IP Address
- Port



(注)

該当する SRST リファレンスの横にあるチェックボックスをオンにして、Delete Selected をクリックすると、Find and List SRST References ウィンドウから複数の SRST リファレンスを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして Delete Selected をクリックすると、ウィンドウ内の SRST リファレンスをすべて削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する SRST リファレンスをクリックします。

ウィンドウに、選択した SRST リファレンスが表示されます。

#### 追加情報

P.16-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## SRST リファレンスの設定

SRST リファレンスを追加、更新、およびコピーする手順は、次のとおりです。

#### 手順

**ステップ 1** System > SRST の順に選択します。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 新しい SRST リファレンスを追加するには、Add New ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存の SRST リファレンスを更新するには、対象となる SRST リファレンスを見つけて ([P.16-2](#) の「[SRST リファレンスの検索](#)」を参照)、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存の SRST リファレンスをコピーするには、対象となる SRST リファレンスを見つけて ([P.16-2](#) の「[SRST リファレンスの検索](#)」を参照)、コピーする SRST リファレンスの横にある Copy ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力または更新します ([表 16-1](#) を参照)。

**ステップ 4** Save をクリックします。



**(注)** デバイスがこの SRST リファレンスに関連付けられている場合は、更新を有効にするためにデバイスをリセットする必要があるというメッセージが表示されます。ゲートウェイがリセットされると、Cisco CallManager によって、影響を受けるゲートウェイ上で進行中のコールが終了される可能性があります。

影響を受けるデバイスをリセットするには、更新が完了してから **Reset Devices** ボタンをクリックします。この時点でデバイスをリセットしたくない場合は、いつでもこの項目に戻って **Reset Devices** ボタンをクリックし、必要なデバイス リセットを実行することができます。

#### 追加情報

P.16-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## SRST リファレンスの削除

SRST リファレンスを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

デバイス プールなどの項目が使用している SRST リファレンスは削除できません。SRST リファレンスを使用しているデバイス プールを検索するには、SRST Reference Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、P.A-4 の「[Dependency Records へのアクセス](#)」を参照してください。使用されている SRST リファレンスを削除しようとすると、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されている SRST リファレンスを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する SRST リファレンスを使用しているデバイス プールすべてに、別の SRST リファレンスを割り当てる。P.9-4 の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。
- 削除する SRST リファレンスを使用しているデバイス プールを削除する。P.9-8 の「[デバイス プールの削除](#)」を参照してください。

### 手順

- 
- ステップ 1** メニューバーで **System > SRST** の順に選択します。
  - ステップ 2** 削除する SRST リファレンスを見つけます。P.16-2 の「[SRST リファレンスの検索](#)」を参照してください。
  - ステップ 3** 削除する SRST リファレンスのチェックボックスをオンにし、**Delete Selected** をクリックします。  
  
この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
  - ステップ 4** SRST リファレンスを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。



#### 注意

SRST リファレンスを削除するときは、削除する SRST リファレンスが正しいか慎重に確認してください。削除した SRST リファレンスを元に戻すことはできません。誤って削除した場合は、その SRST リファレンスを作成し直す必要があります。



#### ヒント

SRST リファレンスの削除は、削除する SRST リファレンスを見つけて表示し、**Delete** をクリックすることによっても実行できます。

### 追加情報

P.16-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## SRST リファレンスの設定値

表 16-1 では、SRST リファレンスの設定値について説明します。関連する手順については、P.16-6 の「関連項目」を参照してください。

表 16-1 SRST リファレンスの設定値

フィールド	説明
SRST Reference Name	<p>名前を SRST Reference Name フィールドに入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。SRST リファレンス名はそれぞれ固有の名前にしてください。</p> <p> (注) SRST リファレンスには、内容を表す簡潔な名前を使用してください。</p>
IP Address	<p>デバイス プール内のデバイス用に、SRST リファレンスとして使用するゲートウェイの IP アドレスを入力します。</p>
Port	<p>この SRST リファレンスのポート番号を入力します。デフォルト値は 2000 です。</p> <p> (注) この値を変更するのは、この値がゲートウェイのポート設定と一致しない場合のみにしてください。この値とゲートウェイのポート設定は一致している必要があります。</p>
SIP Network/IP Address	<p>SRST モードになっている SIP 電話機が使用するサーバの IP アドレスを入力します。</p>
SIP Port	<p>SRST ゲートウェイの SIP ポートを入力します。デフォルト値は 5060 です。</p>
Is SRST Secure?	<p>SRST が使用可能になっているゲートウェイに、自己署名証明書が含まれていることを確認した後、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>SRST を設定し、ゲートウェイと制御されている電話機をリセットした後、Cisco CTL Provider サービスは、SRST が使用可能になっているゲートウェイ上の Certificate Provider サービスから認証されます。Cisco CTL クライアントは、SRST が使用可能になっているゲートウェイから証明書を取得し、Cisco CallManager データベースに保存します。</p> <p> <b>ヒント</b> SRST の証明書をデータベースと電話機から削除するには、このチェックボックスをオフにして Save をクリックし、制御されている電話機をリセットします。</p>

表 16-1 SRST リファレンスの設定値 (続き)

フィールド	説明
SRST Certificate Provider Port	<p>このポートでは、SRST が使用可能になっているゲートウェイ上の Certificate Provider サービスに対する要求を監視します。Cisco CallManager は、このポートを使用して SRST が使用可能になっているゲートウェイから証明書を取得します。Cisco SRST Certificate Provider のデフォルトのポート番号は 2445 です。</p> <p>SRST が使用可能になっているゲートウェイでこのポートを設定した後、このフィールドにポート番号を入力します。</p> <p></p> <p><b>ヒント</b> このポートが現在使用されている場合、またはファイアウォールを使用していてそのファイアウォール内でこのポートを使用できない場合は、別のポート番号の設定が必要になる場合があります。</p>
Update Certificate	<p></p> <p><b>ヒント</b> このボタンが表示されるのは、Is SRST Secure? チェックボックスをオンにして Save をクリックした後のみです。</p> <p>このボタンをクリックした後、Cisco CTL クライアントによって Cisco CallManager データベースに保存されている既存の SRST が使用可能になっているゲートウェイの証明書が置き換えられます (証明書がデータベース内にある場合)。制御されている電話機をリセットした後、TFTP サーバによって cnf.xml ファイルが (SRST が使用可能になっているゲートウェイの新しい証明書と共に) 電話機に送信されます。</p>

## 関連項目

- [SRST リファレンスの検索 \(P.16-2\)](#)
- [SRST リファレンスの設定 \(P.16-3\)](#)
- [SRST リファレンスの削除 \(P.16-4\)](#)
- [SRST リファレンスの設定値 \(P.16-5\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「SRST リファレンス」



## MLPP ドメインの設定

---

MLPP ドメインは、MLPP サブスクライバに関連付けられているデバイスとリソースの集合を指定したものです。あるドメインに属している MLPP サブスクライバが、同じドメインに属している他の MLPP サブスクライバに優先コールを発信した場合、MLPP サービスは、着側 MLPP サブスクライバの既存コールよりも優先順位の高いコールを優先処理することができます。MLPP サービスの機能は、ドメイン間では作用しません。

MLPP ドメインを追加、更新、および削除するには、次のトピックを参照してください。

- [MLPP ドメインの検索 \(P.17-2\)](#)
- [MLPP ドメインの設定 \(P.17-3\)](#)
- [MLPP ドメインの設定値 \(P.17-4\)](#)
- [MLPP ドメインの削除 \(P.17-5\)](#)

## MLPP ドメインの検索

ネットワーク内にはいくつかの MLPP ドメインが存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の基準を指定して、特定の MLPP ドメインを見つけることができます。MLPP ドメインを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、MLPP ドメインの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、MLPP ドメインの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** System > MLPP Domain の順に選択します。

Find and List MLPP Domains ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、MLPP ドメインを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find MLPP Domains where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準を選択します。

- Name

2 番目の Find MLPP Domains where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- is exactly (完全一致)
- ends with (後方一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されている MLPP ドメインをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出された MLPP ドメインのリストが、名前別に表示されます。



(注)

該当する MLPP ドメインの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List MLPP Domains ウィンドウから複数の MLPP ドメインを削除できます。Select All をクリックして **Delete Selected** をクリックすると、Default MLPP ドメインを除いて、ウィンドウ内のすべての MLPP ドメインを削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する MLPP ドメイン名をクリックします。

MLPP Domain Configuration ウィンドウに、選択した MLPP ドメインが表示されます。

---

#### 追加情報

P.17-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## MLPP ドメインの設定

Cisco CallManager データベース内の MLPP ドメインを設定する手順は、次のとおりです。

#### 手順

---

**ステップ 1** System > MLPP Domain の順に選択します。

Find and List MLPP Domains ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存の MLPP ドメインをコピーするには、対象となる MLPP ドメインを見つけて (P.17-2 の「[MLPP ドメインの検索](#)」を参照) コピーする MLPP ドメインの横にある Copy ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 新しい MLPP ドメインを追加するには、Add New ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存の MLPP ドメインを更新するには、対象となる MLPP ドメインを見つけて (P.17-2 の「[MLPP ドメインの検索](#)」を参照) [ステップ 3](#) に進みます。

**ステップ 3** 表示される MLPP Domain Configuration ウィンドウで、該当する設定を入力または編集します (表 17-1 を参照)。

**ステップ 4** Save をクリックして、新しい MLPP ドメインまたは更新した MLPP ドメインをデータベースに保存します。

---

#### 追加情報

P.17-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## MLPP ドメインの設定値

表 17-1 では、MLPP ドメインの設定値について説明します。

表 17-1 MLPP ドメインの設定値

フィールド	説明
<b>MLPP ドメイン情報</b>	
Domain Name	<p>新しい MLPP ドメインに割り当てる名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-) および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。MLPP ドメイン名はそれぞれ固有の名前にしてください。</p> <p> (注) デフォルト MLPP ドメインの名前は、<i>Default</i> です。<i>Default</i> ドメインは変更および削除できません。</p>
Domain ID (e. g., "0000FF")	<p>6 文字の固有 16 進 MLPP ドメイン ID を入力します。有効となる値は、数字 (0 ~ 9) とアルファベット (A ~ F) です。MLPP ドメイン ID は、それぞれ固有の値にしてください。</p> <p>ドメイン ID の範囲は、000001 ~ FFFFFFF にする必要があります (000000 は、デフォルトの MLPP ドメイン ID 用に予約されています)。</p> <p> (注) 値が 100000 未満の場合は、余白となる上位の桁に 0 を使用してください。</p>

### 追加情報

P.17-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## MLPP ドメインの削除

Cisco CallManager データベース内の MLPP ドメインを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

デバイスが使用している MLPP ドメインは削除できません。MLPP ドメインを使用しているデバイスを検索するには、MLPP Domain Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リストボックスにある **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、P.A-4 の「[Dependency Records へのアクセス](#)」を参照してください。使用中の MLPP ドメインを削除しようとすると、Cisco CallManager はエラーメッセージを表示します。現在使用されている MLPP ドメインを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する MLPP ドメインを使用しているデバイスすべてに、別の MLPP ドメインを割り当てる。
- 削除する MLPP ドメインを使用しているデバイスを削除する。

### 手順

- 
- ステップ 1** P.17-2 の「[MLPP ドメインの検索](#)」の手順を使用して、MLPP ドメインを検索します。
  - ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する MLPP ドメインを選択します。
  - ステップ 3** **Delete** をクリックします。
  - ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、**OK** をクリックして削除します。削除操作を取り消す場合は、**Cancel** をクリックしてください。
- 

### 追加情報

P.17-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [MLPP ドメインの検索 \(P.17-2\)](#)
- [MLPP ドメインの設定 \(P.17-3\)](#)
- [MLPP ドメインの設定値 \(P.17-4\)](#)
- [MLPP ドメインの削除 \(P.17-5\)](#)
- 『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Multilevel Precedence and Preemption」



## エンタープライズパラメータの設定

エンタープライズパラメータでは、同一クラスタ内のすべてのデバイスとサービスに適用されるデフォルトの設定値を指定します(クラスタは、同一データベースを共有する一群の Cisco CallManager から構成されます)。Cisco CallManager を新規にインストールすると、Cisco CallManager は、エンタープライズパラメータを使用して、このデバイスデフォルトを初期値として設定します。デバイスのデフォルト設定の詳細については、P.72-1 の「[デバイスデフォルトの設定](#)」を参照してください。また、『Cisco CallManager システムガイド』の「システムレベルのコンフィギュレーション設定」も参照してください。

エンタープライズパラメータを追加したり、削除したりすることはできませんが、次の手順により既存のエンタープライズパラメータを更新することはできます。



(注)

エンタープライズパラメータに対しては、変更を加える必要がほとんどありません。システム管理者は、変更する機能を熟知している場合、あるいは Cisco TAC から特別の指示がある場合を除いて、エンタープライズパラメータを変更しないでください。

### 手順

**ステップ 1** System > Enterprise Parameters の順に選択します。

**ステップ 2** 該当するパラメータ設定値を変更します。

特定のエンタープライズパラメータの説明を表示するには、そのパラメータ名をクリックします。すべてのエンタープライズパラメータの説明を表示するには、? ボタンをクリックします。

**ステップ 3** Save をクリックして、変更内容をデータベースに保存します。





## サービス パラメータの設定

Cisco CallManager のサービス パラメータは、選択したサーバ上で複数の異なるサービスの設定ができます。パラメータのリストと説明を表示するには、Service Parameters Configuration ウィンドウにある疑問符のボタンをクリックします。画面の上部にある特定のパラメータをクリックするとそのリストを表示することができます。

Cisco CallManager Serviceability を使用してサービスを非アクティブにした場合、Cisco CallManager は更新されたサービス パラメータ値をすべて保持します。サービスを再開すると、Cisco CallManager はサービス パラメータを変更後の値に設定します。



(注)

アップグレード中のサービス パラメータ値の詳細については、『Cisco CallManager アップグレード手順』を参照してください。

Cisco CallManager サービスの詳細については、『Cisco CallManager Serviceability システム ガイド』および『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

### 始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。詳細については、P.2-1 の「サーバの設定」を参照してください。
- サービスがサーバ上で使用可能になっていること。Service Parameter Configuration ウィンドウには、(アクティブおよび非アクティブの) 使用可能なすべてのサービスが表示されます。詳細については、『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』を参照してください。



注意

サービス パラメータに変更を加えると、システムに障害を起こす原因となることがあります。変更する機能を熟知している場合、または Cisco TAC から特別の指示がある場合を除いて、サービス パラメータを変更しないようにシスコはお勧めします。

サービス パラメータを設定または表示するには、次のトピックを参照してください。

- [サーバ上のサービスに対するサービス パラメータの設定 \(P.19-2\)](#)
- [サービス用のパラメータの表示 \(P.19-4\)](#)

## サーバ上のサービスに対するサービス パラメータの設定

特定のサーバ上の特定のサービスに対してサービス パラメータを設定する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** System > Service Parameters の順に選択します。
- ステップ 2** Server ドロップダウン リスト ボックスから、サーバを選択します。
- ステップ 3** Service ドロップダウン リスト ボックスから、更新するパラメータが含まれているサービスを選択します。



(注) Service Parameter Configuration ウィンドウには、(アクティブおよび非アクティブの)すべてのサービスが表示されます。

Service Parameters Configuration ウィンドウが表示されます。

- ステップ 4** 適切なパラメータ値を更新します。サービスのこのインスタンスのサービス パラメータをすべてデフォルト値に設定するには、Set to Default ボタンをクリックします。

パラメータのリストと説明を表示するには、疑問符のボタンをクリックします (図 19-1 を参照)。画面の上部にある特定のパラメータを表示するには、Service Parameter Configuration ウィンドウ内でそのパラメータをクリックします。

図 19-1 Service Parameter Configuration ウィンドウ

Parameter Name	Parameter Value	Suggested Value
CTManager (Primary) IP Address *		
CTManager (Backup) IP Address		
Route Point Device Name for Prms Mode	< Name >	
CAPF Profile Instance ID for Secure Connection to CTManager	< Name >	
Clusterwide Parameters (Parameters that apply to all servers)		
Cisco IPMA Server (Primary) IP Address *		
Cisco IPMA Server (Backup) IP Address		
Cisco IPMA Server Port *	7917	2912



**(注)** 一部のサービスに含まれているサービス パラメータは、通常、変更する必要がありません。Service Parameter Configuration ウィンドウにアクセスするときに、これらのパラメータは自動的に表示されません。すべてのパラメータを表示するには、**Advanced** をクリックします。すべてのパラメータが表示された後に、基本的なパラメータをもう一度表示するには、**Condensed** をクリックします。**Advanced** ボタンが使用不可になっている場合は、そのサービスのすべてのパラメータがデフォルトで表示されています。

**ステップ 5** Save をクリックします。

ウィンドウの内容が更新され、指定された変更内容でサービス パラメータが更新されます。

#### 追加情報

[P.19-5 の「関連項目」](#)を参照してください。

## サービス用のパラメータの表示

場合によっては、クラスタ内の全サーバ上で特定のサービスに属するサービス パラメータをすべて比較する必要があります。また、同期していないパラメータ（サーバによって値が異なるサービス パラメータ）または推奨値から変更したパラメータのみを表示しなければならない場合もあります。

クラスタ内の全サーバ上の特定のサービスのサービス パラメータを表示する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** System > Service Parameters の順に選択します。

**ステップ 2** Server ドロップダウン リスト ボックスから、サーバを選択します。

**ステップ 3** Service ドロップダウン リスト ボックスから、クラスタ内の全サーバ上のサービス パラメータを表示するサービスを選択します。



**(注)** Service Parameter Configuration ウィンドウには、（アクティブおよび非アクティブの）すべてのサービスが表示されます。

**ステップ 4** 表示される Service Parameters Configuration ウィンドウで、Related Links ドロップダウン リスト ボックスにある Parameters for All Servers を選択し、Go をクリックします。

Parameters for All Servers ウィンドウが表示されます。現在のサービスの全パラメータがアルファベット順に一覧表示されます。パラメータ名の横には、各パラメータの推奨値が表示されます。パラメータ名の下には、そのパラメータが組み込まれているサーバのリストが表示されます。各サーバ名の横には、そのサーバにおけるパラメータの現在の値が表示されます。

あるパラメータのサーバ名または現在のパラメータ値をクリックすると、対応するサービス パラメータ ウィンドウにリンクして、値を変更することができます。Parameters for All Servers ウィンドウ間を移動するには、Previous および Next をクリックします。

**ステップ 5** 同期していないサービス パラメータを表示するには、Related Links ドロップダウン リスト ボックスにある Out of Sync Parameters for All Servers を選択し、Go をクリックします。

Out of Sync Parameters for All Servers ウィンドウが表示されます。現在のサービスについて、サーバによって異なる値を持つサービス パラメータがアルファベット順に表示されます。パラメータ名の横には、各パラメータの推奨値が表示されます。パラメータ名の下には、そのパラメータが組み込まれているサーバのリストが表示されます。各サーバ名の横には、そのサーバにおけるパラメータの現在の値が表示されます。

あるパラメータのサーバ名または現在のパラメータ値をクリックすると、対応するサービス パラメータ ウィンドウにリンクして、値を変更することができます。Out of Sync Parameters for All Servers ウィンドウ間を移動するには、Previous および Next をクリックします。

**ステップ 6** 推奨値から変更したサービス パラメータを表示するには、Related Links ドロップダウン リスト ボックスにある Modified Parameters for All Servers を選択し、Go をクリックします。

Modified Parameters for All Servers ウィンドウが表示されます。現在のサービスについて、推奨値とは異なる値を持つサービス パラメータがアルファベット順に表示されます。パラメータ名の横には、各パラメータの推奨値が表示されます。各パラメータ名の下には、推奨値とは異なる値を持つサーバのリストが表示されます。各サーバ名の横には、そのサーバにおけるパラメータの現在の値が表示されます。

あるパラメータのサーバ名または現在のパラメータ値をクリックすると、対応するサービス パラメータ ウィンドウにリンクして、値を変更することができます。Modified Parameters for All Servers ウィンドウ間を移動するには、Previous および Next をクリックします。

---

### 追加情報

P.19-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [サービス用のパラメータの表示 \(P.19-4\)](#)
- [サーバ上のサービスに対するサービス パラメータの設定 \(P.19-2\)](#)
- *Cisco CallManager Serviceability システム ガイド*
- *Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*





# SIP 電話機のセキュリティ プロファイルの設定

Cisco CallManager Administration は、セキュリティ関連の設定値を SIP 電話機のセキュリティ プロファイルにまとめます。このプロファイルは、テンプレートと同様の働きをします。つまり、設定値をプロファイルに対して設定し、そのプロファイルを SIP 電話機に適用します。プロファイルを電話機に適用すると、SIP Phone Security Profile ウィンドウで設定した設定値がその電話機で使用されます。同じプロファイルを多数の SIP 電話機に使用して、同じフィールドを何度も設定する手間を省くこともできます。

SIP Phone Security Profile ウィンドウに含まれているセキュリティ関連の設定値には、Device Security Mode、Authentication Mode (for CAPF)、Key Size (for CAPF)、Enable Digest Authentication、Nonce Validity Time、Transport Type、SIP Phone Port などがあります。



## ヒント

すべての SIP 電話機にセキュリティ プロファイルを適用する必要があります。

SIP 電話機のセキュリティ プロファイルの設定と適用については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。





# SIP トランクのセキュリティ プロファイルの設定

Cisco CallManager Administration は、セキュリティ関連の設定値を SIP トランクのセキュリティ プロファイルにまとめます。このプロファイルは、テンプレートと同様の働きをします。つまり、設定値をプロファイルに対して設定し、そのプロファイルを SIP トランクに適用します。プロファイル をトランクに適用すると、SIP Trunk Security Profile ウィンドウで設定した設定値がそのトランク で使用されます。同じプロファイルを多数の SIP トランクに使用して、同じフィールドを何度も設定 する手間を省くこともできます。

SIP Trunk Security Profile ウィンドウに含まれているセキュリティ関連の設定値には、Incoming Transport Type、Outgoing Transport Type、Device Security Mode、Enable Digest Authentication、Nonce Validity Time、X.509 Subject Name、Incoming Port、Enable Application Level Authorization、Accept Presence Subscription、Accept Out-of-Dialog REFER、Accept Unsolicited Notification、Accept Header Replacement などがあります。



## ヒント

すべての SIP トランクにセキュリティ プロファイルを適用する必要があります。

SIP トランクのセキュリティ プロファイルの設定と適用については、『Cisco CallManager セキュリ ティ ガイド』を参照してください。





## SCCP 電話機のセキュリティ プロファイルの設定

Cisco CallManager Administration は、セキュリティ関連の設定値を SCCP 電話機のセキュリティ プロファイルにまとめます。このプロファイルは、テンプレートと同様の動きをします。つまり、設定値をプロファイルに対して設定し、そのプロファイルを SCCP 電話機に適用します。プロファイルを電話機に適用すると、SCCP Phone Security Profile ウィンドウで設定した設定値がその電話機で使用されます。同じプロファイルを多数の SCCP 電話機に使用して、同じフィールドを何度も設定する手間を省くこともできます。

SCCP Phone Security Profile ウィンドウに含まれているセキュリティ関連の設定値には、Device Security Mode、Authentication Mode (for CAPF)、Key Size (for CAPF) などがあります。



ヒント

すべての SCCP 電話機にセキュリティ プロファイルを適用する必要があります。

SCCP 電話機のセキュリティ プロファイルの設定と適用については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。





## アプリケーション サーバの設定

---

Cisco CallManager Administration の Application Server ウィンドウを使用すると、Cisco CallManager とクラスタ外の外部アプリケーション、たとえば Cisco Unity や Cisco Unity Connection などとの関連付けを管理し、Cisco CallManager システムとその他のアプリケーションを同期することができます。

次のトピックでは、Cisco CallManager Administration におけるアプリケーション サーバに関する作業と設定について説明しています。

- [アプリケーション サーバの設定 \(P.23-2\)](#)
- [アプリケーション サーバの削除 \(P.23-3\)](#)
- [アプリケーション サーバの検索 \(P.23-5\)](#)
- [アプリケーション サーバの設定値 \(P.23-4\)](#)

### 追加情報

P.23-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## アプリケーション サーバの設定

Cisco CallManager Administration でアプリケーション サーバを設定する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

Cisco CallManager Administration でアプリケーション サーバを設定できるのは、Cisco CallManager サーバおよびその他のアプリケーション サーバを両方ともセットアップして完全に動作可能な状態にし、有効な設定を使用して実行した後です。



(注)

Cisco Unity および Cisco Unity Connection については、Cisco Unity サーバおよび Cisco Unity Connection サーバと通信するように設定された Cisco CallManager サーバ上で、AXL が動作していることを確認してください。

### 手順

**ステップ 1** System > Application Server の順に選択します。

Find and List Application Servers ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存のアプリケーション サーバをコピーするには、コピーするサーバを見つけて (P.23-5 の「アプリケーション サーバの検索」を参照)、サーバ名をクリックします。Application Server Configuration ウィンドウが表示されます。Copy ボタンをクリックし、ステップ 4 に進みます。
- 新しいアプリケーション サーバを追加するには、Add New ボタンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 既存のアプリケーション サーバを更新するには、対象となるサーバを見つけて (P.23-5 の「アプリケーション サーバの検索」を参照)、ステップ 4 に進みます。

**ステップ 3** Application Server Type ドロップダウン リスト ボックスから、該当するサーバタイプを選択し、Next をクリックします。アプリケーション サーバタイプの選択後にそのタイプを変更することはできません。

**ステップ 4** 適切な設定値を入力します (表 23-1 を参照)。

**ステップ 5** Save をクリックします。

### 追加情報

P.23-6 の「関連項目」を参照してください。

## アプリケーション サーバの削除

Cisco CallManager Administration を使用してアプリケーション サーバを削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** System > Application Server の順に選択します。

Find and List Application Servers ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 特定のアプリケーション サーバを見つけるには、検索条件を入力し、Find をクリックします。

検索条件と一致するアプリケーション サーバのリストが表示されます。

**ステップ 3** 次のアクションのいずれかを実行します。

- 削除するアプリケーション サーバの横にあるチェックボックスをオンにし、Delete Selected をクリックする。
- Select All をクリックして Delete Selected をクリックし、ウィンドウ内のすべてのアプリケーション サーバを削除する。
- 削除するアプリケーション サーバの名前をリストから選択して、現在の設定値を表示し、Delete をクリックする。

確認ダイアログが表示されます。

**ステップ 4** OK をクリックします。

---

### 追加情報

P.23-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## アプリケーション サーバの設定値

表 23-1 では、Application Server ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。関連する手順については、P.23-6 の「関連項目」を参照してください。

表 23-1 アプリケーション サーバの設定値

フィールド	説明
<b>デバイス情報</b>	
Name	設定するアプリケーション サーバを識別するための名前を入力します。
IP Address	<p>設定するサーバの IP アドレスを入力します。</p> <p> (注) IP アドレスは、1 ~ 255 の数値パターンを使用した数値 (10.255.172.57 など) にしてください。</p> <p> <b>ヒント</b> Cisco Unity および Cisco Unity Connection については、Cisco Unity および Cisco Unity Connection Administration で定義したものと同一管理者ユーザ名とパスワードを使用する必要があります。このユーザ ID によって、Cisco Unity (または Cisco Unity Connection) と Cisco CallManager Administration の間で認証が実行されます。</p>
Application User	ドロップダウン リスト ボックスから、このサーバのアプリケーション ユーザのタイプ (たとえば、CCMAdministrator や CCMSysUser など) を入力します。

### 追加情報

P.23-6 の「関連項目」を参照してください。

## アプリケーション サーバの検索

アプリケーション サーバを検索して表示する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** System > Application Server の順に選択します。

Find and List Application Servers ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** アプリケーション サーバの特定に使用するフィールドを選択します。



**(注)** すべてのアプリケーション サーバを検索するには、Find をクリックします。

**ステップ 3** テキスト検索に該当する検索パターンを選択します。

**ステップ 4** Find フィールドに検索テキスト (ある場合) を入力します。

**ステップ 5** Find をクリックします。

検索条件と一致するアプリケーション サーバのリストが表示されます。ステップ 2 で選択したフィールドによって、リスト内のサーバのソート方法が決まります。

このウィンドウには、このウィンドウ内のサーバの合計数も表示されます。

**ステップ 6** 検出されたアプリケーション サーバの次のセットを表示するには、Next をクリックします。



**(注)** 該当するサーバの横にあるチェックボックスをオンにして Delete Selected をクリックするか、Select All をクリックしてサーバを選択し、Delete Selected をクリックすると、Find and List Application Servers ウィンドウから複数のアプリケーション サーバを削除できます。matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内の電話機をすべて選択できます。

### 追加情報

P.23-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity メッセージングの統合」
- [アプリケーション ユーザの設定 \(P.86-1\)](#)



## ライセンス ユニット レポート

---

ライセンス ユニット レポートは、使用可能なライセンスの合計数、および使用中のライセンスの数を表示するために使用します。このツールを実行すると、使用可能なライセンスの合計数を示したレポートが生成されます。



(注) ライセンスの要求の詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』を参照してください。

## ライセンスユニットレポートの生成

ユニットライセンスとは、各電話機タイプに対応した一定数のライセンスユニットのことです。たとえば、Cisco 7920 電話機の場合は 4 ライセンスユニット、Cisco 7970 電話機の場合は 5 ユニットが必要です。4 台の Cisco 7920 電話機と 4 台の Cisco 7970 電話機をプロビジョニングする場合は、36 の電話機ライセンスユニットが必要です。

ライセンスファイルに含まれているライセンス取得済みユニットの数は、購入したすべての電話機タイプのユニットライセンスの数に対応しています。



(注)

各デバイスで必要となるライセンスユニットの数を調べるには、**System > Licensing > License Unit Calculator** の順に選択します。このウィンドウには、各デバイスタイプで必要となるライセンスユニットの数が表示されます。

使用可能なライセンスの数についてレポートを生成する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** System > Licensing > License Unit Report の順に選択します。

**ステップ 2** License Unit Report ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、使用可能な電話機ライセンスとノードライセンスの数が、次の項目別に表示されます。

- Units Available
- Units Used
- Units Remaining

### 追加情報

P.24-2 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [ライセンスユニットレポート \(P.24-1\)](#)
- [ライセンスユニットレポートの生成 \(P.24-2\)](#)
- [License Unit Calculator \(P.25-1\)](#)
- [ライセンスファイルのアップロード \(P.26-1\)](#)



## License Unit Calculator

---

このウィンドウは、ある電話機タイプを使用した特定の構成で必要となる、電話機ユニットライセンスの数と各タイプの電話機の数进行計算するために使用します。ユニットライセンスとは、各電話機タイプに対応した一定数のライセンスユニットのことです。Cisco 7920 電話機の場合は4ライセンスユニット、Cisco 7970 電話機の場合は5ユニットが必要です。4台のCisco 7920 電話機と4台のCisco 7970 電話機をプロビジョニングする場合は、36の電話機ライセンスユニットが必要です。

## ライセンスユニットの計算方法

電話機タイプの数、および電話機タイプごとの電話機の合計数を入力して、必要となる電話機ライセンスの数を計算する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** System > License > License Unit Calculator の順に選択します。

License Unit Calculator ウィンドウが表示されます。デバイス 1 台ごとに消費されるライセンスユニットの数が、ノードまたはデバイスごとに表示されます。

**ステップ 2** Number of Devices 列で、必要となる各ノードまたは電話機のデバイス数を更新します。

**ステップ 3** Calculate をクリックします。

Cisco CallManager ノード ライセンスユニットと電話機ライセンスユニットの合計数が表示されません。

---

### 追加情報

P.25-2 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [License Unit Calculator \( P.25-1 \)](#)
- [ライセンスユニットの計算方法 \( P.25-2 \)](#)
- [ライセンスユニット レポート \( P.24-1 \)](#)
- [ライセンス ファイルのアップロード \( P.26-1 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「[ライセンスング](#)」
- *Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*



## ライセンス ファイルのアップロード

---

ライセンス ファイルは、Cisco CallManager アプリケーションのライセンスを有効にするために必要な情報を保持しています。ここでは、次の内容について説明します。

- [ライセンス ファイルの取得 \(P.26-2\)](#)
- [ライセンス ファイルの内容 \(P.26-3\)](#)
- [ライセンス ファイルのアップロード \(P.26-5\)](#)
- [関連項目 \(P.26-6\)](#)

## ライセンス ファイルの取得

新しくインストールする Cisco CallManager 5.0 電話機ノードのライセンス ファイルを取得する手順、および新しい電話機を追加した場合にライセンスを更新する手順は、次のとおりです。

- 
- ステップ 1** シスコ デバイスをご注文いただいた際に、シスコが製品認可キー (PAK) を発行します。
- ステップ 2** CCO で提供されている License Registration Web ツールを使用して、PAK を Cisco CallManager に登録します。
- ステップ 3** ライセンスを要求する Cisco CallManager サーバの MAC アドレス、および有効な電子メール ID を入力する必要があります。また、ライセンスが必要となるノードと電話機ユニットの数も入力する必要があります。



**(注)** 各電話機タイプで必要となる電話機ユニットライセンスの数を調べるには、Cisco CallManager Administration の License Calculator を使用します。P.25-2 の「[ライセンス ユニットの計算方法](#)」を参照してください。

- ステップ 4** 要求されたユニットライセンスの数に基づいて、CCO がライセンス ファイルを生成し、[ステップ 2](#) で入力された電子メール ID 宛てに電子メールで送信します。
- ステップ 5** ライセンス ファイルは、[ステップ 3](#) で入力した MAC アドレスを持つサーバにアップロードする必要があります。P.26-5 の「[ライセンス ファイルのアップロード](#)」を参照してください。このサーバは、ライセンス マネージャの役割を果たします。



**(注)** 新しい電話機を購入した場合にライセンスを更新するには、CCO で提供されている License Registration Web ツールを起動して、[3 ~ 5](#) の手順に従います。



**(注)** ライセンス ファイルがデータベースにアップロードされるのは、ライセンス ファイル内に指定されているバージョンが、クラスタの内部で実行されている Cisco CallManager のバージョンよりも新しいか、一致している場合のみです。このバージョンチェックに合格しなかった場合は、アラームが生成されます。適切なバージョンを使用して、新しいライセンス ファイルを取得する必要があります。このバージョンチェックは、メジャー リリース番号のみに基づいています。



**(注)** ライセンス ファイル内に指定されているライセンスを使用できるのは、ライセンス ファイルをアップロードしたクラスタの内部のみです。

### 追加情報

P.26-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ライセンス ファイルの内容

ライセンス ファイルには、次の情報が含まれています。

- ライセンス発行済みの Cisco CallManager ノードの数。これは、クラスタ内部にある Cisco CallManager サーバの中で、お客様がライセンスを保有されているサーバ数を示しています。
- サポートされる Cisco CallManager のバージョン。
- ライセンス発行済みの電話機ユニットの数。電話機のタイプごとに個別のライセンスを作成するのではなく、ユニットライセンスという概念が使用されます。各電話機タイプは、一定数のライセンスユニットに対応しています。



(注) 各デバイスで必要となるライセンス ユニットの数を調べるには、**System > Licensing > License Unit Calculator** の順に選択します。このウィンドウには、各デバイスタイプで必要となるライセンス ユニットの数が表示されます。P.25-2 の「[ライセンス ユニットの計算方法](#)」を参照してください。

- ライセンス ファイルのインストール先となるサーバの MAC アドレス。

ライセンス ファイルをライセンス サーバにアップロードするには、P.26-5 の「[ライセンス ファイルのアップロード](#)」を参照してください。

### ライセンス ファイルの例

次の例では、パーマネント IP Phone ライセンスおよびパーマネント Cisco CallManager ノード ライセンスのライセンス ファイルについて説明します。

#### 例 26-1 パーマネント IP Phone ライセンス

```
INCREMENT PHONE_UNIT cisco 5.0 permanent uncounted \  
  
VENDOR_STRING=<Count>1000</Count><OrigMacId>000BCD4EE59D</OrigMacId><LicFileVersion>1.  
0</LicFileVersion> \  
HOSTID=000bcd4ee59d OVERDRAFT=50 \  
NOTICE="<LicFileID>20050826140539162</LicFileID><LicLineID>2</LicLineID> \  
<PAK></PAK>" SIGN="112D 17E4 A755 5EDC F616 0F2B B820 AA9C \  
0313 A36F B317 F359 1E08 5E15 E524 1915 66EA BC9F A82B CBC8 \  
4CAF 2930 017F D594 3E44 EBA3 04CD 01BF 38BA BF1B"
```

上のライセンス ファイルには、次の情報が含まれています。

- permanent キーワードは、このライセンスに有効期限がないことを示します。
- このライセンス ファイルは、1,000 の PHONE\_UNIT ライセンスを提供します。
- OVERDRAFT=50 は、1,000 のうち 5% のライセンス超過が許可されることを示します。ライセンス超過の値は、シスコが決定します。
- シスコ固有のフィールド LicFileID は、このライセンス ファイルを識別するためのものです。
- 同じ機能（電話機ユニット ライセンスまたはノード ライセンス）に対して、ライセンス ファイルに複数の INCREMENT 行を追加すると、ライセンス数を増やすことができます。どの INCREMENT 行も重複せず、それぞれが独自の署名を保持している必要があります。

**例 26-2 パーマネント CCM\_Node ライセンス**

```
# Optional usage agreement, legal language, tracking information
# Some other comments
INCREMENT CCM_NODE cisco 5.0 permanent uncounted \
VENDOR_STRING=<Count>3</Count><OrigMacId>000BCD4EE59D</OrigMacId><LicFileVersion>1.0</
LicFileVersion> \
HOSTID=000bcd4ee59d \
NOTICE="<LicFileID>20050826140539162</LicFileID><LicLineID>1</LicLineID> \
<PAK></PAK>" SIGN="19B3 4C6C 25AC 6D22 4D75 DE6A 656B 08C5 \
30E4 16DB 771B 1393 9DC1 DBC4 C5AA 15CC 6E6C B7B8 895A DCBA \
B40F C551 2625 1C97 F20D 9977 6CFF 3603 081E 6FF2"
```

上のライセンス ファイルには、次の情報が含まれています。

- permanent キーワードは、このライセンスに有効期限がないことを示します。
- このライセンス ファイルは、機能 CCM\_NODE のバージョン 5.0 のライセンス 3 つを提供します。
- シスコ固有のフィールド LicFileID は、このライセンス ファイルを識別するためのものです。
- 同じ機能に対して、ライセンス ファイルに複数の INCREMENT 行を追加すると、ライセンス 数を増やすことができます。どの INCREMENT 行も重複せず、それぞれが独自の署名を保持している必要があります。

**追加情報**

P.26-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ライセンス ファイルのアップロード

ライセンス ファイル要求時に入力した MAC アドレスを持つ Cisco CallManager サーバに対して、ライセンス ファイルをアップロードする手順は、次のとおりです。ライセンス ファイルの取得については、P.26-2 の「[ライセンス ファイルの取得](#)」を参照してください。ライセンス ファイルのロード先となる Cisco CallManager サーバは、ライセンス マネージャの役割を果たします。



(注) ライセンス ファイルは、Cisco CallManager クラスタの最初のノードにのみアップロードしてください。

### 手順

**ステップ 1** System > License > Upload License File の順に選択します。

License File Upload ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Existing License Files ドロップダウン リスト ボックスに、サーバにすでにアップロードされているライセンス ファイルが表示されます。



(注) 既存ファイルの内容を表示するには、View File をクリックします。

**ステップ 3** アップロードする新しいライセンス ファイルを選択するには、Upload License File をクリックします。

Upload File ポップアップ ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** サーバにアップロードするライセンス ファイルを参照し、選択します。

**ステップ 5** Upload License File をクリックします。

アップロード プロセスが完了すると、Upload Result ファイルが表示されます。

**ステップ 6** Close をクリックします。

**ステップ 7** License File Upload ウィンドウに、アップロードしたファイルのステータスが表示されます。

### 追加情報

P.26-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [ライセンス ファイルの取得 \(P.26-2\)](#)
- [ライセンス ファイルの内容 \(P.26-3\)](#)
- [ライセンス ファイルのアップロード \(P.26-5\)](#)
- [ライセンス ユニットの計算方法 \(P.25-2\)](#)
- [ライセンス ユニット レポートの生成 \(P.24-2\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ライセンシング」
- *Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド*



## 自動登録の設定

---

Cisco CallManager の自動登録機能を使用すると、新規の電話機を IP テレフォニー ネットワークに接続したときに、電話番号が自動的に割り当てられます。



(注)

ネットワークに追加する電話機が 100 に満たない場合は、自動登録機能を使用することをお勧めします。100 以上の電話機をネットワークに追加する場合は、Bulk Administration Tool (BAT) を使用してください。

---

電話機が自動登録された後、システム管理者はその電話機を新しいロケーションに移動し、電話機の電話番号に影響を与えずに別のデバイス プールに割り当てることができます。

ここでは、次の内容について説明します。

- [自動登録の使用可能化 \( P.27-2 \)](#)
- [自動登録の使用不可 \( P.27-3 \)](#)
- [自動登録の設定値 \( P.27-4 \)](#)
- [自動登録番号の再使用 \( P.27-6 \)](#)

## 自動登録の使用可能化

新規デバイスの自動登録を使用可能にする手順は、次のとおりです。



### 注意

自動登録は Cisco CallManager のデフォルトでは使用不可になっています。自動登録を使用可能にすると、不正な電話機が Cisco CallManager に自動的に登録されてしまうというセキュリティ上の危険が生じます。自動登録を使用可能にする場合は、電話機を一括して追加する場合に限定してください。

Cisco CTL Client で混合モードをクラスタワイド セキュリティに設定すると、自動登録がすぐに使用不可になります。セキュリティを設定済みで、自動登録を使用する場合、クラスタワイド セキュリティ モードを Cisco CTL Client でノンセキュアに変更する必要があります。

### 手順

- ステップ 1** System > Cisco CallManager の順に選択します。
- ステップ 2** Cisco CallManager のリストから、自動登録を使用可能にする Cisco CallManager を選択します。
- ステップ 3** 適切な自動登録情報を入力します (表 27-1 を参照)。
- ステップ 4** Save をクリックして、変更内容をデータベースに保存します。
- ステップ 5** 自動登録を使用可能にする Cisco CallManager ごとに、ステップ 2 ~ ステップ 4 を繰り返します。自動登録には 1 つのプライマリ Cisco CallManager だけを指定できますが、他の Cisco CallManager を自動登録のためのバックアップとして指定することもできます。『Cisco CallManager システム ガイド』の「冗長化」を参照してください。
- ステップ 6** System > Cisco CallManager Group の順に選択します。
- ステップ 7** Cisco CallManager グループのリストから、自動登録を使用可能にするグループを選択します (大部分のシステムでは、このグループの名前は「Default」です)。このグループは、自動登録されるデバイス用のデフォルトの Cisco CallManager グループとして使用できます。このグループの Selected リストに、ステップ 2 で自動登録用に設定した Cisco CallManager が含まれていることを確認してください。Cisco CallManager は、Cisco CallManagers グループに表示されている順序で選択されます。
- ステップ 8** グループ設定に変更を加えた場合は、Save をクリックして、その変更内容をデータベースに保存します。
- ステップ 9** System > Device Pool の順に選択します。
- ステップ 10** デバイス プールのリストから、Device Defaults で割り当てられたデフォルトのデバイス プールの 1 つを選択します (P.72-1 の「デバイス デフォルトの設定」を参照)。Cisco CallManager は、自動登録された各デバイスを、デバイス タイプに基づいてデフォルトのデバイス プールに自動的に割り当てます。
- ステップ 11** Cisco CallManager Group のドロップダウン リスト ボックスから、ステップ 7 で自動登録用に設定した Cisco CallManager グループを選択します。このステップは、自動登録用のデフォルト Cisco CallManager グループに、デフォルト デバイス プールを割り当てます。

- ステップ 12** Calling Search Space for Auto-Registration のドロップダウン リスト ボックスから、Cisco CallManager に自動登録されるこのデバイス プール内のデバイスへ割り当てる、コーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、プール内のデバイスが使用するルートパーティションが指定されます。
- ステップ 13** Save をクリックして、デバイス プールの変更をデータベースに保存します。
- ステップ 14** Device Defaults にリストされている各デバイス プールに対して、[ステップ 10](#) ~ [ステップ 13](#) を繰り返します。

---

#### 追加情報

[P.27-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 自動登録の使用不可

自動登録を使用不可にする手順は、次のとおりです。

#### 手順

- 
- ステップ 1** System > Cisco CallManager の順に選択します。
- ステップ 2** Cisco CallManager のリストから、自動登録を使用不可にする Cisco CallManager を選択します。
- ステップ 3** Auto-registration Disabled オプションをオンにして、この Cisco CallManager に対して自動登録を使用不可にします（このボックスにチェックマークが付いている場合は、自動登録が使用不可になっています）。



**(注)** Starting Directory Number と Ending Directory Number を同じ値に設定しても、自動登録は使用不可になります。

- ステップ 4** Save をクリックして、変更内容をデータベースに保存します。
- ステップ 5** 自動登録を使用不可にする Cisco CallManager ごとに、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 4](#) を繰り返します。

---

#### 追加情報

[P.27-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 自動登録の設定値

表 27-1 では、自動登録の設定値について説明します。関連する手順の詳細については、P.27-6 の「関連項目」を参照してください。

表 27-1 自動登録の設定値

フィールド名	説明
Starting Directory Number	<p>デバイスの自動登録に使用する開始電話番号を入力します。</p> <p>Starting Directory Number フィールドと Ending Directory Number フィールドで電話番号の範囲を指定すると、自動登録が自動的に使用可能になります。</p> <p>Starting Directory Number と Ending Directory Number を同じ値に設定すると、自動登録が使用不可になります。</p>
Ending Directory Number	<p>デバイスの自動登録に使用する終了電話番号を入力します。</p> <p>Starting Directory Number フィールドと Ending Directory Number フィールドで電話番号の範囲を指定すると、自動登録が自動的に使用可能になります。</p> <p>Starting Directory Number と Ending Directory Number を同じ値に設定すると、自動登録が使用不可になります。</p>
Partition	<p>自動登録された電話番号が属するパーティションを選択します。パーティションを使用しない場合は、&lt;None&gt; を選択します。</p> <p>パーティションと外部電話番号マスクを選択する前に、自動登録用の有効な電話番号の範囲を選択しておく必要があります。</p> <p>自動登録を使用不可にすると、Partition フィールドはリセットされます。</p> <p>パーティションの数が多い場合は、ドロップダウン リスト ボックスの横に省略記号(...)ボタンが表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Partition ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで希望するパーティション名をクリックし、OK をクリックします。</p>

表 27-1 自動登録の設定値 (続き)

フィールド名	説明
External Phone Number Mask	<p>自動登録されたデバイスから発信される外部 (発信) コールに対して、発信者 ID 情報をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。このマスクには、最長 50 文字までを指定できます。発信者 ID 情報に表示する数字列を入力します。自動登録されるデバイスの電話番号を表すには、X を使用します。</p> <p>たとえば、マスク 972813XXXX を指定し、外部コールに使用されるルートパターンで Use External Phone Number Mask オプションを使用可能にする場合、内線番号 1234 からの外部コールでは、発信者 ID 9728131234 と表示されます。代表番号を表すのに、すべて数字列のマスク (たとえば、9728135000 など) を指定する場合、その番号が、任意の自動登録されたデバイスからの外部コールに表示される発信者 ID になります。</p>
Auto-registration Disabled on this Cisco CallManager	<p>Cisco CallManager は、無許可でネットワークへ接続するのを防止する目的で、デフォルトでは自動登録を使用不可にしています。自動登録が使用不可の場合は、ネットワークに新しいデバイスを追加するたびに、電話番号を手動で設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この Cisco CallManager に対して自動登録を使用可能にするには、この Auto-registration Disabled オプションをオフにします。</li> <li>この Cisco CallManager に対して自動登録を使用不可にするには、この Auto-registration Disabled オプションをオンにします。</li> </ul> <p>Starting Directory Number と Ending Directory Number を同じ値に設定すると、自動登録を使用不可にすることができます。</p> <p>このオプションをオンにして自動登録を使用不可にするときに、Starting Directory Number と Ending Directory Number が指定されている場合、Cisco CallManager は、Starting Directory Number と Ending Directory Number を同じ値に設定します。</p> <p>自動登録を使用不可にすると、パーティションと外部電話マスク情報フィールドもリセットされます。</p>

## 自動登録番号の再使用

新しいデバイスがネットワークに接続されると、Cisco CallManager は、次に使用可能な（未使用の）自動登録電話番号をそのデバイスに割り当てます。自動登録されたデバイスの電話番号を手動で変更した場合や、そのデバイスをデータベースから削除した場合は、Cisco CallManager は、そのデバイスの自動登録されていた電話番号を再使用することができます。

デバイスの自動登録が開始されると、Cisco CallManager は、管理者が指定した自動登録番号の範囲を検索し、そのデバイスに割り当てるため、次に使用可能な電話番号を検出しようとします。Cisco CallManager は、最後に割り当てられた電話番号の次の番号から順に、検索を開始します。その範囲内の最後の電話番号に達すると、Cisco CallManager は、その範囲内の先頭の電話番号から、引き続き検索を行います。

自動登録電話番号の範囲をリセットし、Cisco CallManager がその範囲内の先頭の番号から検索するように設定する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** System > Cisco CallManager の順に選択します。
  - ステップ 2** 自動登録をリセットする Cisco CallManager を選択します。
  - ステップ 3** Starting Directory Number と Ending Directory Number フィールドの現在の設定値をメモします。
  - ステップ 4** Auto-registration Disabled on this Cisco CallManager をクリックします。



### 注意

自動登録が使用不可になっている間は、新しい電話機は自動登録できません。

- 
- ステップ 5** Save をクリックします。
  - ステップ 6** Starting Directory Number と Ending Directory Number をステップ 3 でメモした値（または、必要に応じて別の値）に設定します。
  - ステップ 7** Save をクリックします。
- 

### 追加情報

P.27-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [自動登録の使用可能化 \(P.27-2\)](#)
- [自動登録の使用不可 \(P.27-3\)](#)
- [自動登録の設定値 \(P.27-4\)](#)
- [自動登録番号の再使用 \(P.27-6\)](#)



## PART 3

### コールルーティングの設定







## 自動代替ルーティングのグループ設定

Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) は、ロケーションの帯域幅不足で Cisco CallManager がコールをブロックした場合に、代替番号を使用して PSTN またはその他のネットワーク経由でコールを再ルーティングするメカニズムを提供します。自動代替ルーティングを使用すると、発信者はいったん電話を切って着信側に再びダイヤルする必要がなくなります。AAR グループは、回線または電話番号 (DN)、Cisco ボイスメール ポート、およびゲートウェイが置かれているダイヤル区域を表します。

各 AAR グループに対して、AAR グループ内の自動代替ルーティングに使用するプレフィックス番号、およびある AAR グループとその他の AAR グループの間の自動代替ルーティングに使用するプレフィックス番号を入力します。ゲートウェイ、電話機 (電話番号で)、およびトランクなどのデバイスが AAR グループに関連付けられます。コールの自動代替ルーティングが行われる場合、状況によってはデバイスを AAR コーリング サーチ スペースにも関連付ける必要があります。

AAR グループを検索、追加、更新、削除するには、次のトピックを参照してください。

- [AAR グループの検索 \(P.28-2\)](#)
- [AAR グループの設定 \(P.28-3\)](#)
- [AAR グループの設定値 \(P.28-4\)](#)
- [AAR グループの削除 \(P.28-5\)](#)
- [AAR グループの設定値 \(P.28-4\)](#)



(注)

AAR を機能させるには、クラスタ全体の Automated Alternate Routing Enable サービス パラメータが *True* に設定されていることを確認する必要があります (このサービス パラメータのデフォルト値は *False* です)。

自動代替ルーティング グループの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」を参照してください。

## AAR グループの検索

ネットワーク内にはいくつかの自動代替ルーティング (AAR) グループが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、AAR グループを見つけることができます。AAR グループを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、AAR グループの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、AAR グループの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > AAR Group の順に選択します。

Find and List Automated Alternate Routing Groups ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注) データベースに登録されている AAR グループをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出された AAR グループのリストが、AAR グループ名別に表示されます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する AAR グループをクリックします。

選択した AAR グループがウィンドウに表示されます。

### 追加情報

P.28-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## AAR グループの設定

AAR グループを設定する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > AAR Group の順に選択します。

Find and List Automated Alternate Routing Groups ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存の AAR グループをコピーするには、対象となる AAR グループを見つけて (P.28-2 の「AAR グループの検索」を参照)、コピーする AAR グループの横にある Copy ボタンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 新しい AAR グループを追加するには、Add New ボタンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 既存の AAR グループを更新するには、対象となる AAR グループを見つけて (P.28-2 の「AAR グループの検索」を参照)、ステップ 3 に進みます。

**ステップ 3** 表示される AAR Group Configuration ウィンドウで、AAR Group Name フィールドに名前を入力します。この名前には、英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (\_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。AAR グループ名はそれぞれ固有の名前にしてください。このフィールドの現在のサイズは、20 文字です。



### ワンポイント・アドバイス

AAR グループには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、CompanynameLocationGroup の形式が、内容を簡潔に表し、AAR グループをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、CiscoDallasAA1 は、Dallas にある Cisco オフィス用の Cisco Access Analog AAR グループを示します。

**ステップ 4** Save をクリックします。

**ステップ 5** 適切な設定値を選択します (表 28-1 を参照)。

**ステップ 6** この AAR グループを設定するには、Save をクリックします。

### 追加情報

P.28-6 の「関連項目」を参照してください。

## AAR グループの設定値

表 28-1 では、AAR グループの設定値について説明します。

表 28-1 AAR グループの設定値

フィールド	説明
AAR Group Name	<p>新しい AAR グループに割り当てる名前を入力します。</p> <p>この名前には、最長 20 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。</p>
<b>このグループ内のプレフィックス番号</b>	
Prefix Digits	<p>AAR グループ内の自動代替ルーティングに使用するプレフィックス番号を入力します。</p> <p>有効な入力値は、<code>[^0123456789-]+?!X*#@</code> です。</p>
<b>このグループとその他の AAR グループ間のプレフィックス番号</b>	
Prefix Digits (From this group)	<p>このグループから別の AAR グループに属するデバイスにコールをルーティングするとき、自動代替ルーティングに使用するプレフィックス番号を入力します。</p> <p>有効な入力値は、<code>[^0123456789-]+?!X*#@</code> です。</p> <p> <b>(注)</b> この発信 AAR グループ用フィールドに入力されたプレフィックス番号は、AAR 転送先グループの Prefix Digits (To this group) フィールドにも追加されます。</p>
Prefix Digits (To this group)	<p>別の AAR グループに属するデバイスからこのグループにコールをルーティングするとき、自動代替ルーティングに使用するプレフィックス番号を入力します。</p> <p>有効な入力値は、<code>[^0123456789-]+?!X*#@</code> です。この転送先 AAR グループ用フィールドに入力されたプレフィックス番号は、AAR 発信グループの Prefix Digits (From this group) フィールドにも追加されます。</p>

### 追加情報

P.28-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## AAR グループの削除

AAR グループを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

1 つまたは複数のデバイスが参照している AAR グループは、削除することができません。AAR グループを使用しているデバイスを検索するには、AAR Group Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、P.A-4 の「[Dependency Records へのアクセス](#)」を参照してください。AAR グループを削除する前に、その AAR グループが属しているデバイスすべてから、その AAR グループを削除しておく必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1** メニューバーで **Call Routing > AAR Group** の順に選択します。
  - ステップ 2** 削除する AAR グループを見つけます。P.28-2 の「[AAR グループの検索](#)」を参照してください。
  - ステップ 3** 削除する AAR グループの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックします。

AAR グループを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。

- ステップ 4** グループを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。**OK** をクリックした場合は、Cisco CallManager は、その AAR グループを AAR グループリストから削除します。



- 
- (注)** 該当する AAR グループの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List AAR groups ウィンドウから複数の AAR グループを削除できます。Select All をクリックして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべての AAR グループを削除できます。
- 

### 追加情報

P.28-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [AAR グループの検索 \(P.28-2\)](#)
- [AAR グループの設定 \(P.28-3\)](#)
- [AAR グループの設定値 \(P.28-4\)](#)
- [AAR グループの削除 \(P.28-5\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「自動代替ルーティング」



## アプリケーションのダイヤル規則設定

管理者は、ダイヤル規則設定を使用して、ダイヤル規則の優先順位を追加およびソートできます。Cisco IPMA などのアプリケーションのダイヤル規則は、ユーザがダイヤルする電話番号から自動的に数字を除去したり、電話番号に数字を追加します。たとえば、7桁の電話番号の先頭に、外線発信の数字9を自動的に追加します。

Cisco IPMA などのアプリケーションで、アシスタントは Assistant Console からディレクトリ検索を実行できます。ディレクトリ エントリを Assistant Console の My Calls パネルへドラッグ アンド ドロップできます。ドロップすると、エントリに含まれている番号宛にコールが発信されます。ダイヤル規則は、エントリに含まれる番号に対して、コールの発信前に適用されます。

次の各項では、ダイヤル規則設定について説明します。

- [ダイヤル規則の検索 \(P.29-2\)](#)
- [ダイヤル規則の設定 \(P.29-3\)](#)
- [ダイヤル規則の削除 \(P.29-5\)](#)
- [ダイヤル規則の優先順位の変更 \(P.29-5\)](#)

## ダイヤル規則の検索

ネットワーク内にはいくつかのダイヤル規則が存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定のダイヤル規則を見つけることができます。ダイヤル規則を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、ダイヤル規則の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ダイヤルの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Dial Rules > Application Dial Rules の順に選択します。

Find and List Application Dial Rules ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 最初の Find Application Dial Rule where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Name
- Description
- Number Begins With

**ステップ 3** 2 番目の Find Application Dial Rule where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 4** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているアプリケーションのダイヤル規則をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたアプリケーションのダイヤル規則のリストが表示されます。

**ステップ 5** レコードのリストから、検索条件と一致するダイヤル規則をクリックします。

選択したダイヤル規則がウィンドウに表示されます。

---

#### 追加情報

P.29-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ダイヤル規則の設定

新しいダイヤル規則を追加する手順、および既存のダイヤル規則を更新する手順は、次のとおりです。ダイヤル規則の設計およびエラー チェックについては、『Cisco CallManager システム ガイド』の「アプリケーションダイヤル規則設定のエラー チェック」を参照してください。

#### 手順

---

**ステップ 1** メニューバーで **Call Routing > Dial Rules > Application Dial Rules** の順に選択します。

Find and List Application Dial Rules ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 新しいダイヤル規則を追加するには、**Add New** ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 既存のダイヤル規則を更新するには、対象となるダイヤル規則を見つけて（P.29-2 の「[ダイヤル規則の検索](#)」を参照）、**ステップ 3** に進みます。

**ステップ 3** 該当するダイヤル規則情報の設定値を入力します（[表 29-1](#) を参照）。

**ステップ 4** **Save** ボタンをクリックします。



**(注)** ダイヤル規則が複数ある場合は、ダイヤル規則の優先順位を変更できます。P.29-5 の「[ダイヤル規則の優先順位の変更](#)」を参照してください。

---

#### 追加情報

P.29-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## アプリケーションのダイヤル規則の設定値

表 29-1 では、Application Dial Rule Configuration ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。関連する手順の詳細については、P.29-6 の「関連項目」を参照してください。

表 29-1 ダイヤル規則の設定値

フィールド	説明
Name	Name フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 20 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド(.)、ハイフン(-)、および下線文字(_)を任意に組み合わせて使用することが可能です。アプリケーションのダイヤル規則名はそれぞれ固有の名前にしてください。
Description	アプリケーションのダイヤル規則の説明を Description フィールドに入力します。または、ブランクのままにします。
Number Begins With	このアプリケーションのダイヤル規則を適用する電話番号の先頭部分の数字を入力します。  有効な値は、数字(0 ~ 9)、プラス記号(+)、アスタリスク(*)、およびポンド記号(#)です。
Number of Digits	このアプリケーションのダイヤル規則を適用する電話番号の長さを入力します。1 ~ 100 の桁数、または +、*、# の記号を入力します。
Total Digits to be Removed	Cisco CallManager で、このダイヤル規則を適用する電話番号から削除する桁数を入力します。0 ~ 100 の桁数を入力します。
Prefix With Pattern	このアプリケーションのダイヤル規則を適用する電話番号にプリペンドするパターンを入力します。有効な値は、数字(0 ~ 100)、プラス記号(+)、アスタリスク(*)、およびポンド記号(#)です。
Application Dial Rule Priority	ダイヤル規則の優先順位を高、低、標準のいずれかから選択します。   <b>(注)</b> このフィールドが表示されるのは、Prefix With Pattern に情報を入力した場合です。

### 追加情報

P.29-6 の「関連項目」を参照してください。

## ダイヤル規則の削除

ダイヤル規則を削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** Cisco CallManager Administration で、**Call Routing > Dial Rules > Application Dial Rules** の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するアプリケーションのダイヤル規則を見つけます。P.29-2 の「[ダイヤル規則の検索](#)」を参照してください。
- ステップ 3** 削除するアプリケーションのダイヤル規則の横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックします。

アプリケーションのダイヤル規則を削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。

- ステップ 4** ダイヤル規則を削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。**OK** をクリックした場合は、Cisco CallManager は、そのアプリケーションのダイヤル規則をアプリケーションのダイヤル規則リストから削除します。



- (注) 該当するダイヤル規則の横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Application Dial Rules ウィンドウから複数のダイヤル規則を削除できます。**Select All** をクリックして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのダイヤル規則を削除できます。

### 追加情報

P.29-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ダイヤル規則の優先順位の変更

ダイヤル規則の優先順位を変更する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** Cisco CallManager Administration で、**Call Routing > Dial Rules > Application Dial Rules** の順に選択します。



- (注) 優先順位は、Application Dial Rules Configuration ウィンドウから変更することもできます。

- ステップ 2** Find and List Application Dial Rules ウィンドウで、ダイヤル規則を選択し、ダイヤル規則の横にあるチェックボックスをオンにします（または、ダイヤル規則名をクリックします）。Application Dial Rule Configuration ウィンドウが表示されます。

## ■ 関連項目

**ステップ 3** 上矢印と下矢印を使用して、リスト内でダイヤル規則を上または下に移動します。

**ステップ 4** 優先順位を変更し終わったら、Save をクリックします。

---

**追加情報**

P.29-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

**関連項目**

- [ダイヤル規則の検索 \(P.29-2\)](#)
- [ダイヤル規則の設定 \(P.29-3\)](#)
- [ダイヤル規則の削除 \(P.29-5\)](#)
- [ダイヤル規則の優先順位の変更 \(P.29-5\)](#)



## ディレクトリ検索のダイヤル規則設定

ディレクトリ検索規則は、発信者 ID 番号をディレクトリ内で検索可能な番号に変換するものです。個々の規則では、先頭部分のいくつかの数字、および番号の長さに基づいて、変換対象となる番号を指定します。たとえば、10 桁の電話番号から、エリアコードと 2 つのプレフィックス数字を自動的に削除するディレクトリ検索規則を作成して、4089023139 を 23139 にすることができます。アテンダントの短縮ダイヤルエントリまたはディレクトリに、この番号と一致するユーザが見つかったら、そのユーザの名前が Call Detail ウィンドウに表示されます。

ここでは、次の内容について説明します。

- [ディレクトリ検索のダイヤル規則の検索 \(P.30-2\)](#)
- [ディレクトリ検索のダイヤル規則の設定 \(P.30-3\)](#)
- [ディレクトリ検索のダイヤル規則の設定値 \(P.30-4\)](#)
- [ディレクトリ検索のダイヤル規則の削除 \(P.30-5\)](#)
- [関連項目 \(P.30-6\)](#)

## ディレクトリ検索のダイヤル規則の検索

ディレクトリ検索のダイヤル規則を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、ディレクトリ検索のダイヤル規則の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ダイヤルの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Dial Rules > Directory Lookup Dial Rules の順に選択します。

Directory Lookup Dial Rule Find and List ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 最初の Find Directory Lookup Dial Rule ドロップダウン リスト ボックスから、ディレクトリ検索のダイヤル規則の検索に使用するフィールドを選択します。たとえば、Name、Description、Number begins with などです。



(注)

データベースに含まれているディレクトリ検索のダイヤル規則をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。検索条件と一致するディレクトリ検索のダイヤル規則のリストが表示されます。

**ステップ 3** 2 番目の Find Directory Lookup Dial Rule ドロップダウン リスト ボックスから、テキスト検索の検索パターンを選択します。たとえば、begins with、contains、ends with などです。

**ステップ 4** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。

検索条件と一致するレコードが表示されます。各ウィンドウに表示される項目の数は、Rows per Page ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択すると変更できます。



ヒント

検索結果内でディレクトリ検索規則を検索するには、**Extend Query** チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力して、**Find** をクリックします。



(注)

該当するダイヤル規則の横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、複数のダイヤル規則を削除できます。**Select All** をクリックして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのディレクトリ検索のダイヤル規則を削除できます。

**ステップ 5** レコードのリストで、表示するディレクトリ検索のダイヤル規則の名前をクリックします。

選択したダイヤル規則を含んだ Directory Lookup Dial Rule Configuration ウィンドウが表示されます。

---

#### 追加情報

P.30-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ディレクトリ検索のダイヤル規則の設定

ディレクトリ検索のダイヤル規則を追加および更新する手順は、次のとおりです。

#### 手順

---

**ステップ 1** Call Routing > Dial Rules > Directory Lookup Dial Rules の順に選択します。

Directory Lookup Dial Rule Find and List ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 新しいディレクトリ検索のダイヤル規則を追加するには、**Add New** をクリックします。
- 既存のディレクトリ検索のダイヤル規則を編集するには、対象となるダイヤル規則を表示します (P.30-2 の「[ディレクトリ検索のダイヤル規則の検索](#)」を参照)。

Directory Lookup Dial Rule Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 30-1 を参照)。

**ステップ 4** **Save** をクリックします。

---

#### 追加情報

P.30-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ディレクトリ検索のダイヤル規則の設定値

表 30-1 では、Directory Lookup Dial Rule Configuration ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。関連する手順の詳細については、P.30-6 の「関連項目」を参照してください。

表 30-1 ディレクトリ検索のダイヤル規則の設定値

フィールド	説明
Name	ディレクトリ検索のダイヤル規則の名前を入力します。この名前には、最長 20 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-) および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。
Description	ディレクトリ検索のダイヤル規則の説明を Description フィールドに入力します。または、ブランクのままにします。
Number Begins With	このディレクトリ検索のダイヤル規則を適用する電話番号の先頭部分の数字を入力します。たとえば、972 と入力した場合、このダイヤル規則は 9725551212 などの電話番号に適用されます。  有効な値は、数字 (0 ~ 9)、プラス記号 (+)、アスタリスク (*)、およびポンド記号 (#) です。
Number of Digits	このディレクトリ検索のダイヤル規則を適用する電話番号の長さを入力します。たとえば、7 と入力した場合、このダイヤル規則は 8675309 などの電話番号に適用されます。
Total Digits to be Removed	Cisco CallManager で、このダイヤル規則を適用する電話番号から削除する桁数を入力します。たとえば、3 と入力した場合、Cisco CallManager は 4085256666 などの電話番号から 408 を削除します。  このフィールドで有効となる値の範囲は、0 ~ 100 です。削除する桁数の合計は、このディレクトリ検索のダイヤル規則を適用する電話番号の桁数を超えることはできません。
Prefix With Pattern	このディレクトリ検索のダイヤル規則を適用する電話番号にプリペンドするパターンを入力します。有効な値は、数字 (0 ~ 9)、プラス記号 (+)、アスタリスク (*)、およびポンド記号 (#) です。

## ディレクトリ検索のダイヤル規則の削除

ディレクトリ検索のダイヤル規則を削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** Call Routing > Dial Rules > Directory Lookup Dial Rules の順に選択します。

Directory Lookup Dial Rule Find and List ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 特定のディレクトリ検索のダイヤル規則を見つけるには、検索条件を入力し、Find をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

**ステップ 3** 次のアクションのいずれかを実行します。

- 削除するディレクトリ検索のダイヤル規則の横にあるチェックボックスをオンにし、Delete Selected をクリックする。
- matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにし、Delete Selected をクリックして、ウィンドウ内のディレクトリ検索のダイヤル規則をすべて削除する。
- 削除するディレクトリ検索のダイヤル規則の名前をクリックして表示し、Delete をクリックする。

確認ダイアログが表示されます。

**ステップ 4** ディレクトリ検索のダイヤル規則を削除するには、OK をクリックします。削除操作を取り消すには、Cancel をクリックします。

---

### 追加情報

P.30-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [ディレクトリ検索のダイヤル規則の検索 \( P.30-2 \)](#)
- [ディレクトリ検索のダイヤル規則の設定 \( P.30-3 \)](#)
- [ディレクトリ検索のダイヤル規則の設定値 \( P.30-4 \)](#)
- [ディレクトリ検索のダイヤル規則の削除 \( P.30-5 \)](#)

### アプリケーションのダイヤル規則

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ダイヤル規則の概要」
- [アプリケーションのダイヤル規則設定 \( P.29-1 \)](#)
- [ダイヤル規則の設定 \( P.29-3 \)](#)

### Cisco CallManager Attendant Console

- 『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco CallManager Attendant Console の設定チェックリスト」
- 『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco CallManager Attendant Console」



## SIP のダイヤル規則設定

管理者は、SIP のダイヤル規則設定を使用して SIP 電話機のダイヤル プランを設定し、次の SIP 電話機に関連付けます。

- Cisco SIP IP Phone モデル 7911、7941、7961、7970、および 7971：これらの電話機は、7940\_7960\_OTHER ダイヤル規則パターンを使用します。これらの電話機は Key Press Markup Language (KPML) をサポートしており、ユーザは、Dial ソフトキーを押さなくてもダイヤル文字列を Cisco CallManager に送信することができます。Cisco CallManager のパフォーマンスを向上させる（処理されるコールの数を増やす）には、管理者が SIP ダイヤル規則を設定することをお勧めします。
- Cisco SIP IP Phone モデル 7940 および 7960：これらの電話機は、7940\_7960\_OTHER ダイヤル規則パターンを使用し、KPML はサポートしていません。管理者がこれらの電話機に SIP のダイヤル規則を設定しない場合は、ユーザが Dial ソフトキーを押すか、所定の期間待機するまではダイヤル文字列が Cisco CallManager に送信されず、処理されません。ユーザがこの操作を余分に実行するので、実際のコールの処理が遅くなります。
- Cisco SIP IP Phone モデル 7905 および 7912：これらの電話機は、7905\_7912 ダイヤル規則パターンを使用し、KPML はサポートしていません。管理者がこれらの電話機に SIP のダイヤル規則を設定しない場合は、ユーザが Dial ソフトキーを押すか、所定の期間待機するまではダイヤル文字列が Cisco CallManager に送信されず、処理されません。ユーザがこの操作を余分に実行するので、実際のコールの処理が遅くなります。

管理者が SIP 電話機のダイヤル プランを設定せず、電話機が KPML をサポートしていない場合、ユーザは Dial ソフトキーを押す必要があります。管理者は、SIP のダイヤル プランを設定する場合、それらのダイヤル プランを SIP 電話機に関連付けて、ダイヤル プランがデバイスに送信されるようにする必要があります。

次の各項では、SIP のダイヤル規則設定について説明します。

- [SIP のダイヤル規則の検索 \(P.31-2\)](#)
- [SIP のダイヤル規則の設定 \(P.31-3\)](#)
- [SIP のダイヤル規則の設定値 \(P.31-4\)](#)
- [SIP のダイヤル規則の削除 \(P.31-7\)](#)
- [SIP のダイヤル規則のリセット \(P.31-8\)](#)
- [関連項目 \(P.31-8\)](#)

## SIP のダイヤル規則の検索

ネットワーク内にはいくつかの SIP のダイヤル規則が存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定の SIP のダイヤル規則を見つけることができます。SIP のダイヤル規則を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、SIP のダイヤル規則の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、SIP のダイヤル規則の検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Dial Rules > SIP Dial Rules の順に選択します。

Find and List SIP Dial Rules ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 最初の Find SIP Dial Rules where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Name
- Dial Pattern

**ステップ 3** 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 4** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ウィンドウごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されている SIP のダイヤル規則をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出された SIP のダイヤル規則のリストが表示されます。

**ステップ 5** レコードのリストから、検索条件と一致する SIP のダイヤル規則をクリックします。

選択した SIP のダイヤル規則の SIP Dial Rule Configuration ウィンドウが表示されます。

### 追加情報

P.31-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## SIP のダイヤル規則の設定

SIP のダイヤル規則を追加または更新する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** メニューバーで、**Call Routing > Dial Rules > SIP Dial Rules** の順に選択します。

Find and List SIP Dial Rules ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 新しい SIP のダイヤル規則を追加するには、**Add New** ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 既存の SIP のダイヤル規則を更新するには、対象となる SIP のダイヤル規則を見つけて (**P.31-2** の「**SIP のダイヤル規則の検索**」を参照)、**ステップ 9** に進みます。

**ステップ 3** Dial Pattern ドロップダウン リスト ボックスから、7905\_7912 または 7940\_7960\_OTHER を SIP のダイヤル規則のタイプとして選択します。

**ステップ 4** **Next** ボタンをクリックします。

更新した情報を使用して、SIP Dial Rule Configuration がもう一度表示されます。

**ステップ 5** **表 31-1** で説明している情報を使用して、作成するダイヤル規則の名前と説明を入力します。**Save** をクリックします。

更新した情報を使用して、SIP Dial Rule Configuration がもう一度表示されます。

**ステップ 6** **表 31-1** で説明している情報を使用して、パターンの説明の名前を入力します。

**ステップ 7** 作成するダイヤルパターンのタイプに応じて、**Add Pattern** または **Add PLAR** をクリックします。



**(注)** Add PLAR ボタンが表示されるのは、7940\_7960\_OTHER ダイヤル規則の場合のみです。

更新した情報を使用して、SIP Dial Rule Configuration がもう一度表示され、ダイヤルパターンのパラメータを設定するための領域が表示されます。

**ステップ 8** **表 31-1** で説明している情報を使用して、Dial Parameter ドロップダウン リスト ボックスからパラメータのタイプを選択します。

**ステップ 9** ダイヤル規則について、適切な値、パラメータ、および説明を入力します (**表 31-1** を参照)。

**ステップ 10** 設定が完了したら、**Save** ボタンをクリックします。

### 追加情報

**P.31-8** の「**関連項目**」を参照してください。

## SIP のダイヤル規則の設定値

表 31-1 では、SIP Dial Rules Configuration ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。関連する手順の詳細については、P.31-8 の「関連項目」を参照してください。

表 31-1 SIP のダイヤル規則の設定値

フィールド	説明
Dial Pattern	<p>所有している SIP 電話機のタイプに適合したダイヤルパターンを選択します。たとえば、ダイヤルパターン 7905_7912 は Cisco SIP IP Phone モデル 7905 と 7912 に適用され、ダイヤルパターン 7940_7960_OTHER は Cisco SIP IP Phone モデル 7911、7940、7941、7960、7961、7970、および 7971 に適用されます。</p> <p> (注) Cisco IP Phone モデル 7905、7912、7940、および 7960 は、KPML をサポートしていません。</p>
<b>SIP のダイヤル規則情報</b>	
Name	SIP のダイヤル規則の名前を入力します。たとえば、Long Distance などです。スペースと特殊文字を含めて、50 文字までの英数字を入力します。
Description	ダイヤル規則の簡単な説明を入力します。
<b>パターン情報</b>	
Pattern Description	パターンの説明の名前を入力します。たとえば、Emergency などです。
Delete Pattern	ダイヤルパターンを削除するには、このチェックボックスをオンにし、Delete Selected ボタンをクリックします。
Dial Parameter	<p>このドロップダウン リスト ボックスから、このパターンのパラメータのタイプ（次のいずれか）を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Pattern : 7905_7912 および 7940_7960_OTHER ダイヤル規則には、このパラメータを使用します。個々のパターンの形式については、P.31-5 の「パターンの形式」を参照してください。</li> <li>• Button : このパラメータには、ダイヤルパターンの適用先となる回線ボタンを指定します。ユーザが回線ボタン 1 に対してコールを発信すると、ボタン 1 に対して指定されているダイヤルパターンのみが適用されます。このオプションパラメータを設定しない場合、ダイヤルパターンはすべての回線に適用されます。適用対象となるのは、Cisco SIP IP Phone モデル 7940、7941、7960、7961、7970、および 7971 のみです。管理者は、ボタン番号を数値で入力する必要があります。ボタン番号は、電話機の画面脇にあるボタンの順序と対になっています。上から順に、1 が一番上です。回線ボタンは、Cisco SIP IP Phone モデル 7940 および 7941 には 2 つ、モデル 7960 および 7961 には 6 つ、モデル 970 および 7971 には 8 つあります。</li> <li>• Timeout : このパラメータには、システムがタイムアウトして、ユーザのダイヤルした番号をダイヤルするまでの時間を秒単位で指定します。番号がすぐにダイヤルされるようにするには、0 を指定します。このパラメータは、7940_7960_OTHER ダイヤル規則にのみ使用してください。</li> <li>• User : このパラメータは、ダイヤルされた番号に自動的に付加するタグを表しています。このタグで有効となる値は、IP および Phone です。大文字と小文字は区別されません。このパラメータは、7940_7960_OTHER ダイヤル規則にのみ使用してください。</li> </ul>

表 31-1 SIP のダイヤル規則の設定値 (続き)

フィールド	説明
Value	この表で説明しているダイヤルパラメータの値は、このフィールドに入力します。たとえば、PLAR の Button 1 には 1 を入力します。
Delete Parameter	ダイヤルパターンを削除するには、このチェックボックスをオンにし、Delete Selected ボタンをクリックします。
Edit Parameter	既存のパラメータを更新するには、このボタンをクリックします。
Add New Parameter	パターンに新しいパラメータを追加するには、このボタンをクリックします。
Delete Selected	パラメータまたはパターンを削除するには、このボタンをクリックします。
<b>パターンの追加</b>	
Pattern Description	新しいパターンの名前を入力し ( Longdistance など )、Add Pattern ボタンまたは Add PLAR ボタンをクリックします。
Add Pattern	Pattern Information ペインに新しいパターンを追加するには、このボタンをクリックします。
Add PLAR	Pattern Information ペインに新しい PLAR パターンを追加するには、このボタンをクリックします。

## パターンの形式

7905\_7912 パターンおよび 7940\_7960\_OTHER パターンについては、次の形式を参照してください。

### 7905\_7912 パターンの値

- ピリオド ( . ) は、すべての数字に一致します。
- ハイフン ( - ) は、以降に数字が入力される可能性があることを意味します。この文字が必要な場合は、個々の規則の末尾に使用する必要があります。たとえば、1408t5- は有効ですが、1408t5-3... は無効です。
- ポンド記号 ( # ) は、終了キーとして機能します。終了が適用されるのは、マッチングで ># にヒットした後のみです。このため、>\* は終了文字をアスタリスク ( \* ) にすることを意味します。つまり、終了キーは大なり記号 ( > ) の後に指定する必要があります。
- 「tn」 という文字列を使用すると、タイムアウトが *n* 秒に設定されます。



(注) *n* は、0 ~ 9、および a ~ z です。a ~ z は、それぞれ 0 ~ 26 を意味します。

- 「rn」 という文字列を使用すると、直前のパターンを *n* 回繰り返します。



(注) 「>#」 および 「tn」 は、パターンではなく修飾子です。*n* は、0 ~ 9、および a ~ z です。a ~ z は、それぞれ 0 ~ 26 を意味します。少ない文字列で多くの規則を表現するには、繰り返しの修飾子を使用します。

- 修飾子 「S」 を使用すると、規則のマッチングが終了します。つまり、規則に一致した時点以降に修飾子 「S」 が現れた場合、そのマッチング規則より後にあるその他の規則は、マッチングには使用されません。

**7940\_7960\_OTHER パターンの値**

- ピリオド (.) は、すべての文字に一致します。
- アスタリスク (\*) は、1 つまたはそれ以上の文字に一致します。\* は、ワイルドカード文字として処理されます。\* の前にバックスラッシュ (\) エスケープシーケンスを置いて \\* というシーケンスにすると、\* を通常の文字として処理できます。\\ は電話機が自動的に除去するため、発信ダイヤル文字列には現れません。\* は、ダイヤル番号として受信された場合、ワイルドカード文字 \* とピリオド (.) に一致します。
- カンマ (,) を使用すると、電話機が第 2 発信音を生成します。

例: 7... は、7 で始まるすべての 4 桁 DN に一致します。8,... は、8 に一致し、第 2 発信音を再生した後、すべての 5 桁 DN に一致します。

**SIP ダイヤル プランの規則の例**

表 31-2 では、7905\_7912 ダイヤル規則に関するいくつかの SIP ダイヤル プラン規則の例を示します。

**表 31-2 SIP ダイヤル プランの規則の例**

パターン文字列	意味
.t7>#.....t4-	ダイヤル文字を少なくとも 1 つ入力する必要があります。送信は、入力の 7 秒後に発生します。終了の # 文字が適用されるのも、最初のダイヤル文字を入力した後です。7 桁入力すると、タイムアウトが 4 秒に変更されます。- 文字は、タイムアウトになるか # によって文字列を終了しない限り、以降も数字を入力できることを意味します。
911	すぐに送信されます。
1t7>#.....t1-	ダイヤル文字を少なくとも 1 つ入力する必要があります。送信は、入力の 7 秒後に発生します。終了文字の # が適用されるのも、最初のダイヤル文字を入力した後です。10 桁入力すると、タイムアウトが 1 秒に変更されます。- 文字は、タイムアウトになるか # によって文字列を終了しない限り、以降も数字を入力できることを意味します。
0t4>#.t7-"	0 の後にダイヤル文字を入力しない場合、送信が 4 秒後に発生します。0 以降にダイヤル文字を入力した場合、送信は 7 秒後に発生します。この場合も、# は終了文字として機能します。

## SIP のダイヤル規則の削除

SIP のダイヤル規則を削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco CallManager Administration で、**Call Routing > Dial Rules > SIP Dial Rules** の順に選択します。
- ステップ 2** 削除する SIP のダイヤル規則を見つけます。P.31-2 の「[SIP のダイヤル規則の検索](#)」を参照してください。
- ステップ 3** 削除する SIP のダイヤル規則の横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックします。
- SIP のダイヤル規則を削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** SIP のダイヤル規則を削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。**OK** をクリックした場合は、Cisco CallManager は、その SIP のダイヤル規則を SIP のダイヤル規則リストから削除します。



- (注)** 該当するダイヤル規則の横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List SIP Dial Rules ウィンドウから複数のダイヤル規則を削除できます。**Select All** をクリックして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべての SIP のダイヤル規則を削除できます。
- 

### 追加情報

P.31-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## SIP のダイヤル規則のリセット

SIP のダイヤル規則を更新したときに、SIP 電話機をリセットまたは再起動して、電話機を新しい SIP のダイヤル規則で更新する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** Cisco CallManager Administration で、**Call Routing > Dial Rules > SIP Dial Rules** の順に選択します。

**ステップ 2** リセットする SIP のダイヤル規則を見つけます。P.31-2 の「[SIP のダイヤル規則の検索](#)」を参照してください。

**ステップ 3** リセットする SIP のダイヤル規則をクリックします。

SIP Dial Rule Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** **Reset** をクリックします。

Device Reset ダイアログが表示されます。

**ステップ 5** 次のいずれかの項目をクリックします。

- **Restart** : 選択されたデバイスをシャットダウンせずに、再起動する (Cisco CallManager に電話機を再登録する)。
  - **Reset** : デバイスをシャットダウンして、もう一度起動する。
  - **Close** : 操作を実行せずに Reset Device ダイアログを閉じる。
- 

### 追加情報

P.31-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [SIP のダイヤル規則の検索 \(P.31-2\)](#)
- [SIP のダイヤル規則の設定 \(P.31-3\)](#)
- [SIP のダイヤル規則の設定値 \(P.31-4\)](#)
- [SIP ダイヤル プランの規則の例 \(P.31-6\)](#)
- [SIP のダイヤル規則の削除 \(P.31-7\)](#)
- [SIP のダイヤル規則のリセット \(P.31-8\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「[ダイヤル規則の概要](#)」



## ルートフィルタの設定

ルートフィルタの設定では、ルートパターンまたはハントパイロットと連動して、ダイヤルされた数字列を使用し、コールの処理方法を決定します。ルートフィルタは、at記号(@)ワイルドカードを含むパターンを設定する場合にのみ適用されます。ルートパターンまたはハントパイロットが@ワイルドカードを含む場合、Cisco CallManagerは、Numbering Plan ドロップダウン リストボックスで指定された番号計画に従って、コールを転送します。Cisco CallManagerで表示されるルートフィルタウィンドウは、選択する番号計画によって異なります。

ルートフィルタを使用すると、システム管理者は、ユーザがダイヤルできるルートパターンまたはハントパイロット、たとえば、ユーザが長距離通信事業者を手動で選択する(101に通信事業者アクセスコードを加えてダイヤルして)ことができるかどうかを決定できます。

詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」を参照してください。



### ヒント

まずルートフィルタを追加し、その定義をしておいてから、その定義済みのルートフィルタをルートパターンまたはハントパイロットに追加してください。

ルートフィルタを追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [ルートフィルタの検索 \(P.32-2\)](#)
- [ルートフィルタの設定 \(P.32-3\)](#)
- [ルートフィルタの設定値 \(P.32-4\)](#)
- [ルートフィルタ クローズの追加 \(P.32-5\)](#)
- [ルートフィルタ クローズの削除 \(P.32-6\)](#)
- [ルートフィルタの削除 \(P.32-7\)](#)
- [ルートフィルタ タグの説明 \(P.32-8\)](#)

## ルートフィルタの検索

ネットワーク内にはいくつかのルート フィルタが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、固有のルート フィルタを特定することができます。ルート フィルタを特定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、ルート フィルタの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ルート フィルタの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Route Filter の順に選択します。

Find and List Route Filters ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- is exactly (完全一致)
- ends with (後方一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注) データベースに登録されているルート フィルタをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたルート フィルタのリストが、次の項目別に表示されます。

- Name
- Numbering Plan
- Clause (クローズ)



(注) 該当するルート フィルタの横にあるチェックボックスをオンにして、Delete Selected をクリックすると、Find and List Route Filters ウィンドウから複数のルート フィルタを削除できます。Select All をクリックして Delete Selected をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのルート フィルタを削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致するルート フィルタをクリックします。

選択したルート フィルタがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.32-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ルート フィルタの設定

ルート フィルタを設定する手順は、次のとおりです。

#### 手順

**ステップ 1** Cisco CallManager Administration で、**Call Routing > Route Filter** の順に選択します。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存のルート フィルタをコピーするには、対象となるルート フィルタを見つけて (P.32-2 の「[ルート フィルタの検索](#)」を参照)、コピーするルート フィルタの横にある Copy ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 新しいルート フィルタを追加するには、Add New ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 既存のルート フィルタを更新するには、対象となるルート フィルタを見つけて (P.32-2 の「[ルート フィルタの検索](#)」を参照)、**ステップ 3** に進みます。

**ステップ 3** 表示される Route Filter Configuration ウィンドウで、適切な設定値を入力します (表 32-1 を参照)。

**ステップ 4** Next をクリックします。

**ステップ 5** このルート フィルタのクローズ (文節) を作成するには、必要に応じて、ルート フィルタのタグと演算子を選択し、データを入力します。



(注) ルート フィルタのタグと演算子にデータを入力する場合は、P.32-8 の「[ルート フィルタ タグの説明](#)」を参照してください。

**ステップ 6** Save をクリックして、ルート フィルタを追加します。

**ステップ 7** ルート フィルタを更新している場合は、Reset Devices をクリックします。ルート フィルタに関連付けられたデバイスをリセットすると、該当ゲートウェイのコールが欠落します。

#### 追加情報

P.32-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ルートフィルタの設定値

表 32-1 では、ルートフィルタの設定値について説明します。

表 32-1 ルートフィルタの設定値

フィールド	説明
Numbering Plan	ドロップダウンリストから、番号計画(たとえば、North American Numbering Plan)を選択します。
Route Filter Name	Route Filter Name フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド(.)、ハイフン(-) および下線文字(_)を任意に組み合わせて使用することが可能です。各ルートフィルタ名が、そのルートプランに固有の名前であることを確認してください。   (注) ルートフィルタには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、CompanynameLocationCalltype の形式が、内容を簡潔に表し、ルートフィルタをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、CiscoDallasMetro は、Dallas の Cisco オフィスからの LATA (Local Access and Transport Area) 間の無料コール用のルートフィルタを特定します。

### 追加情報

P.32-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ルート フィルタ クローズの追加

ルート フィルタのクローズ (文節) を追加すると、論理 OR を使用して既存のタグに追加演算子と項目を組み込むことによって、既存のルート フィルタをさらに詳細に指定できます。ルート フィルタのクローズを追加できるのは、最初に新規のルート フィルタを追加するとき、または既存のルート フィルタを更新するときのどちらかです。既存のルート フィルタにルート フィルタ クローズを追加する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco CallManager Administration で、**Call Routing > Route Filter** の順に選択します。
  - ステップ 2** ルート フィルタ クローズを追加する先のルート フィルタを特定します。P.32-2 の「[ルート フィルタの検索](#)」を参照してください。
  - ステップ 3** **Add Clause** をクリックして、新しいルート フィルタ クローズのデータ入力ウィンドウを表示します。この新しいクローズのすべての演算子フィールドには、NOT-SELECTED と表示されます。
  - ステップ 4** このルート フィルタの追加クローズを作成するために、必要に応じて、ルート フィルタのタグと演算子を選択し、データを入力します。



(注) North American Numbering Plan のルート フィルタのタグと演算子にデータを入力する場合は、P.32-8 の「[ルート フィルタ タグの説明](#)」を参照してください。

---

- ステップ 5** **Save and Close** をクリックして、クローズを追加します。

新しいクローズは、ウィンドウ上の既存のクローズの下に表示されます (必要に応じて下方にスクロールして、新しい情報を表示してください)。

- ステップ 6** **Save** をクリックして、新しいルート フィルタ クローズをルート フィルタに追加します。
- 

### 追加情報

P.32-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ルート フィルタ クローズの削除

ルート フィルタのクローズ(文節)を削除できるのは、新規ルート フィルタのセットアップ時、または既存ルート フィルタの更新時のどちらかです。既存のルート フィルタからルート フィルタ クローズを削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** Cisco CallManager Administration で、**Call Routing > Route Filter** の順に選択します。

**ステップ 2** 削除するルート フィルタ クローズが含まれているルート フィルタを特定します。

**ステップ 3** 削除するクローズの先頭までスクロールダウンし、**Remove Clause** をクリックします。

このルート フィルタ クローズを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。



### 注意

各 **Remove Clause** ボタンは、そのボタンのすぐ下にあるクローズに適用されます。クローズを削除するときは、削除するクローズが正しいか慎重に確認してください。削除したクローズを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したクローズを作成し直す必要があります。

**ステップ 4** クローズを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。**OK** をクリックすると、Cisco CallManager により、クローズがルート フィルタから削除されます。

### 追加情報

P.32-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ルートフィルタの削除

ルートフィルタを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

ルートパターンまたはハントパイロット、変換パターンなどの項目が使用しているルートフィルタは、削除することができません。ルートフィルタを使用しているルートパターンやハントパイロット、変換パターンなどの項目を検索するには、Route Filter Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能でない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されているルートフィルタを削除しようとすると、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されているルートフィルタを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するルートフィルタを使用しているルートパターンまたはハントパイロット、変換パターンなどの項目すべてに、別のルートフィルタを割り当てる。[P.35-4 の「ルートパターンの設定」](#)および [P.46-4 の「変換パターンの設定」](#)を参照してください。
- 削除するルートフィルタを使用しているルートパターンまたはハントパイロット、変換パターンなどの項目を削除する。[P.35-13 の「ルートパターンの削除」](#)および [P.46-10 の「変換パターンの削除」](#)を参照してください。

### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco CallManager Administration で、**Call Routing > Route Filter** の順に選択します。
  - ステップ 2** 削除するルートフィルタを見つけます。[P.32-2 の「ルートフィルタの検索」](#)を参照してください。
  - ステップ 3** 削除するルートフィルタのチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。



#### 注意

ルートフィルタを削除するときは、削除するルートフィルタが正しいか慎重に確認してください。削除したルートフィルタを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したルートフィルタを作成し直す必要があります。

- ステップ 4** ルートフィルタを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。



#### ヒント

ルートフィルタの削除は、削除するルートフィルタを特定して表示し、**Delete** をクリックすることによっても実行できます。

### 追加情報

[P.32-11 の「関連項目」](#)を参照してください。

## ルートフィルタ タグの説明

タグは、ルートフィルタのコアコンポーネントです。タグでは、ダイヤルされる数字列の一部に名前を適用しています。たとえば、NANP 番号 972-555-1234 は、LOCAL-AREA-CODE (972)、OFFICE-CODE (555)、および SUBSCRIBER (1234) ルートフィルタタグで構成されています。

ルートフィルタタグには、演算子が必要であり、フィルタに掛けるコールを決定するには、その他の値も必要な場合があります。

ルートフィルタタグのフィールドでの値には、ワイルドカード文字 X、\*、#、[、]、-、^、および 0 ~ 9 の数字が使用できます (ワイルドカード文字の定義については、『Cisco CallManager システムガイド』の「特殊文字と設定値」の表 17-3 を参照してください)。表 32-2 の説明では、実際の数字を表すために [2-9] と XXXX という表記を使用しています。この表記では、[2-9] は、2 ~ 9 の範囲の任意の 1 桁の数字を表し、X は、0 ~ 9 の範囲の任意の 1 桁の数字を表します。したがって、「[2-9]XX の形式の 3 桁のエリアコード」という記述は、実際の数字 200 ~ 999、またはすべてのワイルドカード、または結果としてその範囲のパターンになる実際の数字とワイルドカードの任意の組み合わせを入力できるという意味です。

ルートフィルタタグは、Route Filter Configuration ウィンドウの Numbering Plan ドロップダウンリストボックスで選択する番号計画によって異なります。表 32-2 では、North American Numbering Plan のルートフィルタタグについて説明します。

表 32-2 ルートフィルタタグ

タグ	説明
AREA-CODE	[2-9]XX の形式のこの 3 桁のエリアコードは、長距離コールのエリアコードを指定します。
COUNTRY CODE	この 1 桁、2 桁、または 3 桁のコードは、国際コールの宛先国を指定します。
END-OF-DIALING	この 1 文字は、ダイヤルされた数字列の末尾を指定します。NANP 内でダイヤルされる国際番号には、# 文字がダイヤル終了信号として使用されます。
INTERNATIONAL-ACCESS	この 2 桁のアクセスコードは、国際ダイヤルを指定します。米国内で発信されるコールでは、このコードに 01 を使用します。
INTERNATIONAL-DIRECT-DIAL	この 1 桁のコードは、直接ダイヤルされる国際コールを指定します。米国内で発信されるコールでは、このコードに 1 を使用します。
INTERNATIONAL-OPERATOR	この 1 桁のコードは、オペレータ経由の国際コールを指定します。米国で発信されるコールでは、このコードに 0 を指定します。
LOCAL-AREA-CODE	[2-9]XX の形式のこの 3 桁のローカルエリアコードは、10 桁のローカルコールのローカルエリアコードを指定します。
LOCAL-DIRECT-DIAL	この 1 桁のコードは、直接ダイヤルされるローカルコールを指定します。NANP コールでは、このコードに 1 を使用します。
LOCAL-OPERATOR	この 1 桁のコードは、オペレータ経由のローカルコールを指定します。NANP コールでは、このコードに 0 を使用します。

表 32-2 ルートフィルタタグ(続き)

タグ	説明
LONG-DISTANCE-DIRECT-DIAL	この 1 桁のコードは、直接ダイヤルされる長距離コールを指定します。NANP コールでは、このコードに 1 を使用します。
LONG-DISTANCE-OPERATOR	この 1 桁または 2 桁のコードは、NANP 内のオペレータ経由の長距離コールを指定します。オペレータ経由のコールでは、このコードに 0 を使用し、オペレータにアクセスするには 00 を使用します。
NATIONAL-NUMBER	このタグは、国際コール用の数字列の中の、各国固有の部分指定します。
OFFICE-CODE	このタグは、7 桁の電話番号の最初の 3 桁 ([2-9]XX の形式) を指定します。
SATELLITE-SERVICE	この 1 桁のコードは、国際コール用の衛星接続にアクセスできるようにします。
SERVICE	この 3 桁のコードは、緊急用の 911、修理サービス用の 611、問い合わせ用の 411 を指定します。
SUBSCRIBER	このタグは、7 桁の電話番号の最後の 4 桁 (XXXX の形式) を指定します。
TRANSIT-NETWORK	この 4 桁の値は、長距離通信事業者を識別します。  TRANSIT-NETWORK 値には、先行する 101 通信事業者アクセスコード接頭部を指定しないでください。詳細については、TRANSIT-NETWORK-ESCAPE を参照してください。
TRANSIT-NETWORK-ESCAPE	この 3 桁の値は、長距離通信事業者 ID に先行します。このフィールドの値には 101 が指定されています。 TRANSIT-NETWORK-ESCAPE 値に、4 桁の通信事業者識別コードを指定しないでください。詳細については、TRANSIT-NETWORK を参照してください。

ルートフィルタタグの演算子は、そのタグに関連したダイヤル数字列の有無、さらに、場合によってはそのダイヤル数字列の内容に基づいて、コールがフィルタに掛けられるかどうかを決定します。演算子 EXISTS および DOES-NOT-EXIST は、ダイヤル数字列のその部分が存在するかどうかだけをチェックします。演算子 == は、実際にダイヤルされる数字を、指定された値またはパターンと突き合えます。表 32-3 では、ルートフィルタタグで使用される演算子について説明します。

表 32-3 ルートフィルタの演算子

演算子	説明
NOT-SELECTED	このタグに関連したダイヤル数字列に基づいて、コールをフィルタに掛けないことを指定します。   <b>(注)</b> この演算子が関連付けられるタグの有無により、Cisco CallManager によるコールの転送が妨げられることはありません。
EXISTS	このタグに関連したダイヤル数字列が検出されたときに、コールをフィルタに掛けることを指定します。   <b>(注)</b> Cisco CallManager がコールを転送またはブロックするのは、ダイヤルされた数字列に、このタグに関連付けられている数字列がある場合だけです。
DOES-NOT-EXIST	このタグに関連したダイヤル数字列が検出されないときに、コールをフィルタに掛けることを指定します。   <b>(注)</b> Cisco CallManager がコールを転送またはブロックするのは、ダイヤルされた数字列に、このタグに関連付けられている数字列がない場合だけです。
==	このタグに関連したダイヤル数字列が、指定された値と一致するときに、コールをフィルタに掛けることを指定します。   <b>(注)</b> Cisco CallManager がコールを転送またはブロックするのは、ダイヤルされた数字列に、このタグに関連付けられている数字列があり、その数字列が、付加されているフィールドで指定された番号の範囲内である場合だけです。

**注意**

演算子 EXISTS、DOES-NOT-EXIST、または NOT-SELECTED を使用しているタグには、ルートフィルタ タグ値を入力しないでください。

**例**

例 1 : AREA-CODE と演算子 DOES-NOT-EXIST を使用するルートフィルタは、エリアコードを含まないすべてのダイヤル数字列を選択します。

例 2 : AREA-CODE、演算子 ==、および項目 515 を使用するルートフィルタは、エリアコード 515 を含むすべてのダイヤル数字列を選択します。

例 3 : AREA-CODE、演算子 ==、および項目 5[2-9]X を使用するルートフィルタは、520 ~ 599 の範囲のエリアコードを含むすべてのダイヤル数字列を選択します。

例 4 : TRANSIT-NETWORK、演算子 ==、および項目 0288 を使用するルートフィルタは、通信事業者アクセスコード 1010288 を持つすべてのダイヤル数字列を選択します。

**追加情報**

P.32-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [ルートフィルタの検索 \(P.32-2\)](#)
- [ルートフィルタの設定 \(P.32-3\)](#)
- [ルートフィルタの設定値 \(P.32-4\)](#)
- [ルートフィルタ クローズの追加 \(P.32-5\)](#)
- [ルートフィルタ クローズの削除 \(P.32-6\)](#)
- [ルートフィルタの削除 \(P.32-7\)](#)
- [ルートフィルタ タグの説明 \(P.32-8\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」





## ルート グループの設定

---

ルートグループの設定では、ゲートウェイおよびトランクが選択される順序を指定します。ルートグループにより、発信トランク選択用のゲートウェイとポートのリストに優先順位を付けることができます。

たとえば、2つの長距離通信事業者を使用している場合、通話料の安い通信事業者の長距離コールを優先させるように、ルートグループを追加できます。最初のトランクが使用不能の場合に限り、コールは、通話料の高い通信事業者の方にルート指定されます。

ルートグループの追加または削除、ルートグループへのデバイスの追加、ルートグループからのデバイスの削除については、次のトピックを参照してください。

- [ルートグループの検索 \(P.33-2\)](#)
- [ルートグループの設定 \(P.33-4\)](#)
- [ルートグループの設定値 \(P.33-5\)](#)
- [ルートグループへのデバイスの追加 \(P.33-7\)](#)
- [ルートグループからのデバイスの削除 \(P.33-8\)](#)
- [ルートグループの削除 \(P.33-9\)](#)

## ルートグループの検索

ネットワーク内にはいくつかのルートグループが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定のルートグループを見つけることができます。ルートグループを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、ルートグループの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ルートグループの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Route Group の順に選択します。

Find and List Route Groups ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているルートグループをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたルートグループのリストが、ルートグループ別に表示されます。



ヒント

検索結果内でルートグループを検索するには、Search Within Results チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力します。



(注)

該当するルートグループの横にあるチェックボックスをオンにして、Delete Selected をクリックすると、Find and List Route Groups ウィンドウから複数のルートグループを削除できます。Select All をクリックして Delete Selected をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのルートグループを削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致するルートグループをクリックします。

選択したルートグループがウィンドウに表示されます。

---

#### 追加情報

P.33-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ルートグループの設定

ルートグループを設定する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Route Group の順に選択します。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存のルートグループをコピーするには、対象となるルートグループを見つけて (P.33-2 の「[ルートグループの検索](#)」を参照)、コピーするルートグループの横にある Copy ボタンをクリックし、[ステップ 3](#)に進みます。
- 新しいルートグループを追加するには、Add New ボタンをクリックし、[ステップ 3](#)に進みます。
- 既存のルートグループを更新するには、対象となるルートグループを見つけて (P.33-2 の「[ルートグループの検索](#)」を参照)、[ステップ 3](#)に進みます。

**ステップ 3** 表示される Route Group Configuration ウィンドウで、Route Group Name フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (\_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各ルートグループ名が、そのルートプランに固有の名前であることを確認してください。



### ワンポイント・アドバイス

ルートグループには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、CompanynameLocationGroup の形式が、内容を簡潔に表し、ルートグループをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、CiscoDallasAA1 は、Dallas の Cisco オフィス用の Cisco Access Analog ルートグループを特定します。

**ステップ 4** 適切な設定値を選択します (表 33-1 を参照)。



(注) 新しいルートグループを追加する前に、新しいルートグループに対して少なくとも 1 つのデバイスを選択しておく必要があります。

**ステップ 5** Save をクリックして、このルートグループを追加または更新します。

### 追加情報

P.33-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ルートグループの設定値

表 33-1 では、ルートグループの設定値について説明します。

表 33-1 ルートグループの設定値

フィールド	説明
<b>ルートグループ情報</b>	
Route Group Name	このルートグループの名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド(.)、ハイフン(-)、および下線文字(_)を任意に組み合わせて使用することが可能です。各ルートグループ名が、そのルートプランに固有の名前であることを確認してください。
Distribution Algorithm	ドロップダウン リスト ボックスで、次の分散アルゴリズムのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Top Down: この分散アルゴリズムを選択すると、ルートグループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco CallManager がメンバーに対してコールを分散します。</li> <li>• Circular: この分散アルゴリズムを選択すると、Cisco CallManager は、アイドルまたは対応可能状態のメンバーに対するコールの分散を、ルートグループの (<math>n+1</math>) 番目のメンバーから開始します。<math>n</math> 番目のメンバーは、Cisco CallManager が最後にコールを延長したメンバーです。<math>n</math> 番目のメンバーが、ルートグループの最後のメンバーの場合、Cisco CallManager はルートグループの先頭からコールの分散を開始します。</li> </ul> デフォルト値は、Circular です。
<b>ルートグループメンバー情報</b>	
<b>デバイスを検索してルートグループへ追加</b>	
Device Name contains	検索するデバイス名に含まれる文字を入力し、Find ボタンをクリックします。入力した文字と一致するデバイス名が Available Devices ボックスに表示されます。 <div style="text-align: center;">  </div> <b>(注)</b> 使用可能なデバイスをすべて検索するには、テキストボックスをブランクのままにして、Find ボタンをクリックします。
Available Devices (select device, then select port below)	Available Devices リスト ボックスでデバイスを選択し、Add to Route Group をクリックして、そのデバイスを Selected Devices リスト ボックスに追加します。 <p>QSIG プロトコルを使用するゲートウェイがルートグループに含まれている場合は、QSIG プロトコルを使用するゲートウェイのみがリストに表示されます。非 QSIG プロトコルを使用するゲートウェイがルートグループに含まれている場合は、QSIG プロトコルを使用し、制御クラスタ間トランクを使用するゲートウェイはリストに表示されません。</p> <p>QSIG ゲートウェイを含むルートリストにルートグループを追加した場合、H.323 ゲートウェイはリストには表示されません。</p>

表 33-1 ルートグループの設定値 (続き)

フィールド	説明
Port(s)	このデバイスが個々に設定可能なポートをサポートしている場合、そのポートを選択します (個々のポートの選択が可能なデバイスとして、Cisco Access Analog ゲートウェイ、Cisco MGCP Analog ゲートウェイ、T1 CAS があります)。サポートしていない場合は、デフォルト値 (選択したデバイスによって、All または None Available) を選択します。使用可能なポートがないデバイスの場合 (None Available)、そのデバイスはすでにルートグループに追加されているか、またはルートグループに追加できない可能性があります。
<b>現在のルートグループメンバー</b>	
Selected Partitions (ordered by highest priority)	<p>デバイスの優先順位を変更するには、Selected Devices リスト ボックス内のデバイス名を選択します。そのリスト ボックスの右側にある矢印をクリックして、リスト内でそのデバイスを上下に移動させてください。</p> <p>Selected Devices リスト ボックス内のデバイスの優先順位を逆転するには、<b>Reverse Order of Selected Devices</b> をクリックします。</p> <p>ルートグループ内のデバイスの順序の詳細については、『Cisco CallManager システムガイド』の「ルートプランの概説」を参照してください。</p>
Removed Devices (to be removed from Route Group when you click Update)	<p>Selected Devices リスト ボックスでデバイスを選択し、そのデバイスを Removed Devices リスト ボックスに追加します。これには、この 2 つのリスト ボックス間にある下矢印ボタンをクリックします。</p> <p> (注) ルートグループには、少なくとも 1 つのデバイスを入れる必要があります。</p>

**追加情報**

P.33-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ルートグループへのデバイスの追加

新規のルートグループまたは既存のルートグループに、デバイスを追加することができます。複数のルートグループにゲートウェイを追加できます。ルートグループにゲートウェイを追加すると、そのゲートウェイは Route Pattern Configuration ウィンドウに表示されません。既存のルートグループにデバイスを追加する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

この手順を実行する場合は、事前に少なくとも1つのゲートウェイおよびトランクのデバイスを指定しておく必要があります。デバイスが常駐できるのは1つのルートグループ内のみです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Route Group の順に選択します。
  - ステップ 2** デバイスを追加する先のルートグループを特定します。P.33-2の「[ルートグループの検索](#)」を参照してください。
  - ステップ 3** Available Devices リストボックスで追加するデバイスを選択し、**Add to Route Group** をクリックして、デバイスを Selected Devices リストボックスへ移動します。このルートグループへ追加する各デバイスに対して、この手順を繰り返します。
  - ステップ 4** Selected Devices リストボックスで、新しいデバイスがこのルートグループ内でアクセスされる順序を選択します。順序を変更するには、デバイスをクリックしてから、リストボックスの右側にある上矢印または下矢印を使用して、デバイスを移動します。
  - ステップ 5** **Save** をクリックして、新しいデバイスを追加し、このルートグループのデバイス順序を更新します。
- 

### 追加情報

P.33-10の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ルートグループからのデバイスの削除

新規のルートグループまたは既存のルートグループから、デバイスを削除することができます。既存のルートグループからデバイスを削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Route Group の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するデバイスが入っているルートグループを特定します。P.33-2 の「[ルートグループの検索](#)」を参照してください。
- ステップ 3** Selected Devices リストボックスで削除するデバイスを選択し、Selected Devices リストボックスの下にある下矢印をクリックして、デバイスを Removed Devices リストボックスへ移動します。このルートグループから削除する各デバイスに対して、このステップを繰り返します。



---

**(注)** ルートグループには、少なくとも1つのデバイスを入れる必要があります。

---

- ステップ 4** デバイスを削除するには、Save をクリックします。
- 

### 追加情報

P.33-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ルートグループの削除

ルートグループを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

ルート / ハント リストが参照するルートグループは削除できません。ルートグループを使用しているルートリストを検索するには、Route Group Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リストボックスにある **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能でない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されているルートグループを削除しようとすると、Cisco CallManager はエラーメッセージを表示します。現在使用中のルートグループを削除する場合は、事前に、次の作業を実行しておく必要があります。

- ルートグループを削除する前に、そのルートグループが属しているすべてのルートリストから、そのルートグループを削除する。[P.34-8 の「ルートリストからのルートグループの削除」](#)を参照してください。



### ヒント

ルートグループとルートパターンを削除するには、まずルートパターンを削除し、次にルートリストを削除して、最後にルートグループを削除します。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Route Group の順に選択します。

**ステップ 2** 削除するルートグループを特定します。[P.33-2 の「ルートグループの検索」](#)を参照してください。

**ステップ 3** 削除するルートグループの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックします。

ルートグループを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 4** ルートグループを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。**OK** をクリックした場合は、Cisco CallManager は、そのルートグループをルートグループリストから削除します。



**(注)** 該当するルートグループの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Route Groups ウィンドウから複数のルートグループを削除できます。**Select All** をクリックして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのルートグループを削除できます。

### 追加情報

[P.33-10 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

### ルートグループ

- [ルートグループの検索 \(P.33-2\)](#)
- [ルートグループの設定 \(P.33-4\)](#)
- [ルートグループの設定値 \(P.33-5\)](#)
- [ルートグループへのデバイスの追加 \(P.33-7\)](#)
- [ルートグループからのデバイスの削除 \(P.33-8\)](#)
- [ルートグループの削除 \(P.33-9\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」

### ルートリスト

- [ルートリストの追加 \(P.34-4\)](#)
- [ルートリストへのルートグループの追加 \(P.34-6\)](#)



## ルート リストの設定

---

ルート リストは、優先順位が指定されている 1 組のルート グループに関連付けられます。また、ルート リストは、1 つ以上のルート パターンに関連付けられ、そのルート グループがアクセスされる順位を決定します。この順位は、発信コールに使用可能なデバイスを検索するときの進行を制御します。

ルート リストには、ルート グループだけを入れることができます。

各ルート リストには、少なくとも 1 つのルート グループを入れる必要があります。各ルート グループには、少なくとも 1 つのデバイス、たとえば、使用可能なゲートウェイが含まれます。Cisco CallManager は、デバイス タイプに基づいて、各ルート グループ内で、一部またはすべてのポートをリソースとして選択できます。一部のデバイス（たとえば、デジタル アクセス）では、すべてのポートの選択しかできません。

ルート グループは、任意の数のルート リストに追加できます。

ルート リストの追加または削除、リスト内のルート グループの追加、削除、または順序の変更をするには、次のトピックを参照してください。

- [ルート リストの検索 \(P.34-2\)](#)
- [ルート リストの追加 \(P.34-4\)](#)
- [ルート リストへのルート グループの追加 \(P.34-6\)](#)
- [ルート リストからのルート グループの削除 \(P.34-8\)](#)
- [ルート リスト内のルート グループの順位の変更 \(P.34-9\)](#)
- [ルート リストの削除 \(P.34-10\)](#)

## ルートリストの検索

ネットワーク内にはいくつかのルートリストが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定のリストを見つけることができます。ルートリストを見つけるには、次の手順を使用します。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、ルートリストの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ルートリストの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Route List の順に選択します。

Find and List Route Lists ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、ルートリストを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find Route Lists where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Route List Name
- Description
- Pattern/Pilot Number



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する基準によって、検索時に生成されるルートリストの一覧のソート方法が決まります。たとえば、Description を選択すると、Description 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find Route Lists where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているルートリストをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたルートリストの一覧が、次の項目別に表示されます。

- Route list name
- Description
- Status (状況)
- Enabled

**ヒント**

検索結果内でルートリストを検索するには、**Search Within Results** チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力します。

**(注)**

該当するルートリストの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Route Lists ウィンドウから複数のルートリストを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のルートリストをすべて削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致するルートリストをクリックします。

選択したルートリストがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.34-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ルートリストの追加

ルートリストを追加する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Route List の順に選択します。

**ステップ 2** Add New をクリックします。

**ステップ 3** Route List Name フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (\_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各ルートリスト名が、そのルートプランに固有の名前であることを確認してください。



### ワンポイント・アドバイス

ルートリストには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、CompanynameLocationCalltype の形式が、内容を簡潔に表し、ルートリストをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、CiscoDallasMetro は、Dallas の Cisco オフィスからの、LATA (Local Access Transport Area) 間の無料コール用のルートリストを特定します。

Cisco CallManager は、自動的に Description フィールドに説明を挿入します。ただし、このフィールドの編集は可能です。

**ステップ 4** ドロップダウンリストボックスから、Cisco CallManager グループを選択します。



**(注)** ルートリストは、グループで最初の CallManager に登録されます。これは、そのグループのプライマリ Cisco CallManager です。



**(注)** Cisco CallManager が 1 つしか設定されていない Cisco CallManager グループを選択すると、次の警告が表示されます。

WARNING!The selected Cisco CallManager Group has only one Cisco CallManager configured.For the control process to have redundancy protection, please select a Cisco CallManager Group with more than one Cisco CallManager.

**ステップ 5** Save をクリックして、このルートリストを追加します。



**(注)** コールを受信させるため、このルートリストにルートグループを少なくとも 1 つ追加する必要があることを示すポップアップメッセージが表示されます。

Route List Configuration ウィンドウに、新しく追加されたルートリストが表示されます。

**ステップ 6** 新しいルート リストの Enable this Route List チェックボックスは、デフォルトでオンになっています。

このルート リストを使用不可にする場合は、このチェックボックスをオフにします。進行中のコールは影響を受けないが、このルート リストが追加のコールを受け付けなくなることを示す、ポップアップ ウィンドウが表示されます。

**ステップ 7** 新しいルート リストに少なくとも 1 つのルート グループを追加します。

このリストにルート グループを追加するには、**Add Route Group** をクリックし、[P.34-6 の「ルート リストへのルート グループの追加」](#)の [ステップ 4](#) ~ [ステップ 8](#) を実行します。



**(注)** 着信側と発信側の変換情報を参照するには、このルート リストに属しているルート グループの名前をクリックします。ルート グループの名前は、Route List Configuration ウィンドウの一番下にある Route List Details リスト ボックスに表示されています。この操作によって、選択したルート グループの Route List Detail Configuration ウィンドウが表示されます。

---

#### 追加情報

[P.34-11 の「関連項目」](#)を参照してください。

## ルートリストへのルートグループの追加

新規のルートリストまたは既存のルートリストに、ルートグループを追加することができます。ルートグループは、1 つ以上のルートリストに組み込むことができます。既存のルートリストにルートグループを追加する手順は、次のとおりです。



**(注)** QSIG プロトコルを使用する MGCP ゲートウェイを含むルートグループ (QSIG ルートグループ) と、H.323 プロトコルを使用するゲートウェイを含むルートグループ (H.323 ルートグループ) を、同じルートリストに追加することはできません。詳細については、『Cisco CallManager システムガイド』の「ルートグループとルートリスト」を参照してください。

### 始める前に

この手順を実行する場合は、事前に少なくとも 1 つのルートグループを作成し、ルートリストを追加しておく必要があります。

### 手順

- ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Route List の順に選択します。
- ステップ 2** ルートグループを追加する先のルートリストを特定します。P.34-2 の「ルートリストの検索」を参照してください。
- ステップ 3** Add Route Group をクリックして、ルートグループを追加します。  
  
Route List Detail Configuration ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** Route Group ドロップダウン リスト ボックスから、ルートリストに追加するルートグループを選択します。



**(注)** ルートリストに QSIG ルートグループが含まれている場合、H.323 ルートグループはドロップダウン リストボックスに表示されません。ルートグループに H.323 ルートグループが含まれている場合、QSIG ルートグループはドロップダウン リストボックスに表示されません。

- ステップ 5** このルートグループを介してルーティングされるコールについて、発信側の番号を操作する必要がある場合は、該当するフィールドで、発信側変換をセットアップします。



**(注)** 発信側変換の詳細については、『Cisco CallManager システムガイド』の「発信側および着信側の変換」を参照してください。

**ステップ 6** このルートグループを介してルーティングされるコールについて、ダイヤルされる数字を操作する必要がある場合は、該当するフィールドで、着信側変換をセットアップします。



**(注)** 着信側変換の詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「着信側番号の変換設定値」を参照してください。

**ステップ 7** Save をクリックして、ルートグループを追加します。

ウィンドウの左側にある Route List Details リストに、ルートグループの詳細情報が表示されます。

**ステップ 8** このリストにルートグループをさらに追加するには、Add Route Group をクリックし、[ステップ 3](#) ~ [ステップ 7](#) を実行します。

**ステップ 9** ルートリストへのルートグループの追加が終了したら、Save をクリックします。

**ステップ 10** Reset をクリックして、変更内容を有効にします。ポップアップ ウィンドウが表示されたら、OK をクリックします。

---

#### 追加情報

[P.34-11](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ルートリストからのルートグループの削除

新規のルートリストまたは既存のルートリストから、ルートグループを削除することができます。既存のルートリストからルートグループを削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** メニューバーから **Call Routing > Route/Hunt > Route List** の順に選択します。
  - ステップ 2** 削除するルートグループが入っているルートリストを特定します。P.34-2 の「[ルートリストの検索](#)」を参照してください。
  - ステップ 3** Selected Groups リストから、ルートグループ名を選択します。



**(注)** このリストから複数のルートグループを選択するには、Shift キーを押し、目的のルートグループをクリックしてください。

---

- ステップ 4** Selected Groups リストボックスの下にある下矢印をクリックして、選択したルートグループを Removed Groups リストに移動します。
- ステップ 5** ルートグループを削除するには、Save をクリックします。OK をクリックすると、ページがリフレッシュされたときに、そのルートグループがルートリストから削除されています。
- ステップ 6** Reset をクリックして、変更内容を有効にします。ポップアップウィンドウの OK をクリックします。

---

### 追加情報

P.34-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ルートリスト内のルートグループの順位の変更

Cisco CallManager は、ルートリストに表示されている順に、ルートグループにアクセスします。ルートグループのアクセス順位を変更する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Route List の順に選択します。
  - ステップ 2** ルートグループの順位を変更するルートリストを特定します。P.34-2 の「ルートリストの検索」を参照してください。
  - ステップ 3** Selected Groups リストから、ルートグループを選択します。
  - ステップ 4** リスト内でルートグループを上下に移動させるには、ルートグループを選択して、リストボックスの右側にある上矢印または下矢印をクリックします。
  - ステップ 5** Save をクリックします。



- (注)** 着信側と発信側の変換情報については、左側にある Route List Details リストのルートグループアイコンまたはルートグループ名をクリックしてください。この操作により、対応するルートグループの Route List Detail Configuration ウィンドウが表示されます。
- 

- ステップ 6** Reset をクリックして、変更内容を有効にします。ポップアップウィンドウの OK をクリックします。
- 

### 追加情報

P.34-11 の「関連項目」を参照してください。

## ルートリストの削除

Cisco CallManager は、ルートリストをルートパターンに関連付けます。ルートリストがルートパターンに関連付けられている場合、そのリストは削除できません。ルートリストを使用しているルートパターンを検索するには、Route List Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムに対して使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。



### ヒント

ルートグループとルートパターンを削除するには、まずルートパターンを削除し、次にルートリストを削除して、最後にルートグループを削除します。

ルートリストを削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Route List の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するルートリストを特定します。[P.34-2 の「ルートリストの検索」](#)を参照してください。
- ステップ 3** Delete Selected をクリックします。

ルートリストを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。

- ステップ 4** ルートリストを削除するには、OK をクリックします。削除操作を取り消すには、Cancel をクリックします。



### 注意

ルートリストが 1 つ以上のルートパターンに関連付けられている場合、そのリストは削除できません。

### 追加情報

[P.34-11 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

- [ルートリストの検索 \(P.34-2\)](#)
- [ルートリストの追加 \(P.34-4\)](#)
- [ルートリストへのルートグループの追加 \(P.34-6\)](#)
- [ルートリストからのルートグループの削除 \(P.34-8\)](#)
- [ルートリスト内のルートグループの順位の変更 \(P.34-9\)](#)
- [ルートリストの削除 \(P.34-10\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」
- 『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンスとルートリストの連動について」





## ルート パターンの設定

---

ルートパターンは、アドレスを表す数字のストリングと、ルートリストまたはゲートウェイにコールをルート指定するように関連付けられた数字操作のセットから構成されています。このルートパターンは、ネットワークの設計に柔軟性をもたらします。ルートパターンは、ルートフィルタおよびルートリストと連動して、コールを特定のデバイスに誘導し、特定の数字パターンの組み込み、除外、または変更を行います。

ルートパターンの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」を参照してください。

ルートパターンを検索、追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [ルートパターンの検索 \(P.35-2\)](#)
- [ルートパターンの設定 \(P.35-4\)](#)
- [ルートパターンの設定値 \(P.35-6\)](#)
- [ルートパターンの削除 \(P.35-13\)](#)

## ルートパターンの検索

ネットワーク内にはいくつかのルートパターンが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定のルートパターンを見つけることができます。ルートパターンを見つけるには、次の手順を使用します。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、ルートパターンの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ルートパターンの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Route Pattern の順に選択します。

Find and List Route Patterns ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン選択ボックスを使用して、ルートパターンを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find Route Patterns where ドロップダウン選択ボックスから、Pattern、Description、または Partition を選択します。



(注)

このドロップダウンリストボックスで選択する基準によって、検索時に生成されるルートパターンリストのソート方法が決まります。たとえば、Description を選択すると、Description 列が結果リストの左側の列に表示されます。

**ステップ 3** 2 番目の Find Route Patterns where ドロップダウンリストボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

**ステップ 4** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているルートパターンをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたルート パターンのリストが、次の項目別に表示されます。

- Route pattern icon
- Route pattern
- Partition
- Description
- Route Filter
- Gateway/Route List

**ヒント**

検索結果内でルート パターンを検索するには、**Search Within Results** チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力します。

**(注)**

該当するルート パターンの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Route Patterns ウィンドウから複数のルート パターンを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのルート パターンを削除できます。

**ステップ 5** レコードのリストから、検索条件と一致するルート パターンをクリックします。

選択したルート パターンがウィンドウに表示されます。

**追加情報**

P.35-14 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ルートパターンの設定

ルートパターンを設定する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

Cisco CallManager で次の項目が設定されていることを確認してください。

- Gateway (ゲートウェイ)
- Route list (ルートリスト)
- Partition (<None> を使用しない場合)
- Route filter (<None> を使用しない場合)



### ワンポイント・アドバイス

ゲートウェイに 8XXX を割り当てると、電話番号 8000 ~ 8999 がすべて、そのゲートウェイの外にルート指定されます。同様に、82XX は、電話番号 8200 ~ 8299 をルーティングします。ワイルドカードの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「特殊文字と設定値」を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Route Pattern の順に選択します。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存のルートパターンをコピーするには、対象となるルートパターンを見つけて (P.35-2 の「ルートパターンの検索」を参照)、コピーするルートパターンの横にある Copy ボタンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 新しいルートパターンを追加するには、Add New ボタンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 既存のルートパターンを更新するには、対象となるルートパターンを見つけて (P.35-2 の「ルートパターンの検索」を参照)、ステップ 3 に進みます。



**(注)** Gateway or Route List フィールドの値を変更する場合は、Edit リンクを選択する前に、Update をクリックしておく必要があります。Update をクリックしておかないと、直前の Gateway or Route List フィールドにリンクします。

**ステップ 3** 表示される Route Pattern Configuration ウィンドウで、適切な設定値を入力します (表 35-1 を参照)。



**(注)** Gateway or Route List フィールドの横にある (Edit) リンクを使用すると、ゲートウェイが含まれているか、ルートリストが含まれているかに応じて、Gateway Configuration ウィンドウまたは Route List Configuration ウィンドウが確認のために表示されます。Gateway Configuration ウィンドウには、指定したゲートウェイに関連付けられているデバイスが表示されます。Route List Configuration ウィンドウには、指定したルートリストに関連付けられているルートグループが表示されます。

**ステップ 4** Save をクリックします。

---

**追加情報**

P.35-14 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ルートパターンの設定値

表 35-1 では、Route Pattern Configuration ウィンドウ内の使用可能なフィールドについて説明します。

表 35-1 ルートパターンの設定値

フィールド	説明
<b>パターン定義</b>	
Route Pattern	<p>数字とワイルドカード（スペースを使用しない）を含むルートパターンを入力します。たとえば、NANP では、通常のローカルアクセスの場合は 9.@ を、通常のプライベートネットワーク番号計画の場合は 8XXX を入力します。大文字の A、B、C、および D を指定できます。</p> <p> <b>(注)</b> 選択したパーティション、ルートフィルタ、および番号計画の組み合わせを使用するディレクトリルートパターンが固有のものであることを確認してください。重複エントリを示すエラーが表示された場合は、ルートパターン、変換パターン、電話番号、コールパーク番号、コールピックアップ番号、メッセージ受信のオン/オフ、または Meet Me 番号をチェックしてください。また、必要に応じてルートプランレポートもチェックしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワイルドカードの詳細については、『Cisco CallManager システムガイド』の「ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」を参照してください。</li> </ul>
Route Partition	<p>パーティションを使用してルートパターンへのアクセスを制限する場合は、ドロップダウンリストボックスから適切なパーティションを選択します。ルートパターンへのアクセスを制限しない場合は、パーティションの代わりに &lt;None&gt; を選択します。パーティションの使用の詳細については、P.42-1 の「パーティションの設定」を参照してください。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで設定されたパーティションの数が 250 以上の場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウンリストボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Partition ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで希望するパーティション名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> <b>(注)</b> リストボックスの最大項目を設定するには、System &gt; Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p> <p> <b>(注)</b> ルートパターン、ルートフィルタ、およびパーティションの組み合わせが、Cisco CallManager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
Description	ルートパターンの説明を入力します。
Numbering Plan	番号計画を選択します。

表 35-1 ルートパターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
Route Filter	<p>ルートパターンにワイルドカード @ が含まれている場合は、ルートフィルタを選択できます。オプションでルートフィルタを選択すると、所定の番号パターンが制限されます。</p> <p>表示されるルートフィルタは、Numbering Plan ドロップダウン リストボックスで選択する番号計画によって異なります。</p> <p>ルートフィルタの数が 250 より多い場合は、ドロップダウン リストボックスの横に省略記号ボタン (...) が表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Route Filters ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにルートフィルタ名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるルートフィルタのリストで希望するルートフィルタ名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リストボックスの最大項目を設定するには、System &gt; Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
MLPP Precedence	<p>ドロップダウン リストボックスで、このルートパターンに対する MLPP Precedence の設定を次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Executive Override : MLPP コールに、一番高い優先度を設定します。</li> <li>• Flash Override : MLPP コールに、2 番目に高い優先度を設定します。</li> <li>• Flash : MLPP コールに、3 番目に高い優先度を設定します。</li> <li>• Immediate : MLPP コールに、4 番目に高い優先度を設定します。</li> <li>• Priority : MLPP コールに、5 番目に高い優先度を設定します。</li> <li>• Routine : MLPP コールに、一番低い優先度を設定します。</li> <li>• Default : 着信の優先レベルは上書きされず、そのまま渡されます。</li> </ul> <p> (注) 詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Multilevel Precedence and Preemption」の「優先順位」を参照してください。</p>
Gateway/Route List	<p>ルートパターンを追加するゲートウェイまたはルートリストを選択します。</p> <p> (注) ゲートウェイがルートグループに含まれている場合、そのゲートウェイはドロップダウン リストボックスに表示されません。このドロップダウン リストボックスでゲートウェイが選択されると、Cisco CallManager はそのゲートウェイ内のポート全部を使用してこのルートパターンをルーティングまたはブロックします。この操作は、MGCP ゲートウェイには適用されません。</p>

表 35-1 ルートパターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
Route Option	<p>この Route Option の指定内容が、このルートパターンをコールのルーティング (9.@ や 8[2-9]XX など) またはコールのブロックに使用するかどうかを示します。Route this pattern または Block this pattern オプション ボタンを選択してください。</p> <p>Block this pattern オプション ボタンを選択した場合、このルートパターンをコールのブロックに使用する理由を選択する必要があります。次のドロップダウン リスト ボックスから値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• No Error</li> <li>• Unallocated Number</li> <li>• Call Rejected</li> <li>• Number Changed</li> <li>• Invalid Number Format</li> <li>• Precedence Level Exceeded</li> </ul>
Call Classification	<p>Call Classification は、このルートパターンを介してルート指定されるコールが、ローカル ネットワーク上にないと見なされるか (OffNet) あると見なされるか (OnNet) を示します。デフォルト値は、オフです。ルートパターンを追加する場合は、Provide Outside Dial Tone チェックボックスをオフにすると、Call Classification が OnNet に設定されます。</p>
Allow Device Override	<p>このチェックボックスは、デフォルトでオフになっています。このチェックボックスをオンにすると、関連ゲートウェイまたはトランク上で、発信コールが OffNet または OnNet であると見なすように設定された Call Classification 設定値が使用されます。</p>
Provide Outside Dial Tone	<p>外部ダイヤル トーンを提供するには、このチェックボックスをオンにします。ネットワーク内のコールをルーティングする場合は、このチェックボックスをオフのままにしておきます。</p>
Allow Overlap Sending	<p>オーバーラップ送信が有効になっている場合、Cisco CallManager は、コールを PSTN に渡すときに PSTN のオーバーラップ送信に依存して、収集する数字の数とコールのルーティング先を決定します。オーバーラップ送信をサポートしている PSTN にコールをルーティングするゲートウェイまたはルート リストに割り当てられていると思われる各ルートパターンに対して、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco CallManager はユーザにコードを求めるタイミングを決定できないため、CMC および FAC 機能はオーバーラップ送信をサポートしていません。Require Forced Authorization Code または Require Client Matter Code チェックボックスをオンにすると、Allow Overlap Sending チェックボックスは使用不可になります。</p>
Urgent Priority	<p>ダイヤル プランにルートパターンが重複して含まれている場合、数字列をダイヤルして現在の一致を選択できる場合にも、Cisco CallManager は桁間タイマーが時間切れになるまでコールをルーティングしません。Cisco CallManager がすぐにコールをルーティングする必要がある場合は、このチェックボックスをオンにして、桁間タイミングを中断します。</p>

表 35-1 ルート パターンの設定値 ( 続き )

フィールド	説明
Require Forced Authorization Code	<p>このルート パターンで強制許可コードを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco CallManager はユーザにコードを求めるタイミングを決定できないため、FAC 機能はオーバーラップ送信をサポートしていません。Allow Overlap Sending チェックボックスをオンにすると、Require Forced Authorization Code チェックボックスは使用不可になります。</p>
Authorization Level	<p>ルート パターンの許可レベルを入力します。このフィールドに指定する数値によって、このルート パターンを介して正常にコールをルート指定するために必要な最小限の許可レベルが決まります。</p> <p> <b>ヒント</b> 許可コードをアクティブにするには、Require Forced Authorization Code チェックボックスをオンにする必要があります。このチェックボックスをオンにしない場合、ルート パターンの挿入時に、許可コードをアクティブにできないことを知らせるメッセージが表示されます。コードをアクティブにするには、Cancel をクリックし、Require Forced Authorization Code チェックボックスをオンにして、Insert をクリックします。後でコードをアクティブにするには、OK をクリックします。</p>
Require Client Matter Code	<p>このルート パターンでクライアント マターコードを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco CallManager はユーザにコードを求めるタイミングを決定できないため、CMC 機能はオーバーラップ送信をサポートしていません。Allow Overlap Sending チェックボックスをオンにすると、Require Client Matter Code チェックボックスは使用不可になります。</p>
<b>発信側変換</b>	
Use Calling Party's External Phone Number Mask	<p>発信コールで完全な外部電話番号を CLID ( calling line ID ) に使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。また、すべての電話機で External Phone Number Mask を設定することもできます。</p> <p> <b>(注)</b> ルート リスト内のルート グループに割り当てられる発信側変換設定値は、そのリストに関連したルート パターンに割り当てられている発信側変換設定値をすべて上書きします。</p>
Calling Party Transform Mask	<p>変換マスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字 X、アスタリスク ( * )、シャープ ( # )、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。このフィールドがブランクのときに、上記のフィールド ( Use Calling Party's External Phone Number Mask ) がオフの場合、発信側変換は行われません。詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」を参照してください。</p>

表 35-1 ルートパターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
Prefix Digits (Outgoing Calls)	<p>Prefix Digits (Outgoing Calls) フィールドに、プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク(*)、シャープ(#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。</p> <p> (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>
Calling Line ID Presentation	<p>Cisco CallManager は補助的なサービスとして、CLIP/CLIR ( Calling Line ID Presentation ) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>このルートパターンに対して、Cisco CallManager が発信側電話番号を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発信側の回線 ID 表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。Cisco CallManager で発信側の電話番号が表示されるようにする場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が発信側の電話番号を表示しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項の表 17-6 を参照してください。</p>
Calling Name Presentation	<p>Cisco CallManager は補助的なサービスとして、CNIP/CNIR ( Calling Name Presentation ) を使用します。これは、コールごとに発信者の名前を許可、または制限します。</p> <p>この変換パターンに対して、Cisco CallManager が発信側の名前を着信側の表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発信側の名前表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。Cisco CallManager で発信側の名前情報を表示させる場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が発信側の名前情報を表示しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項の表 17-6 を参照してください。</p>
<b>接続側変換</b>	
Connected Line ID Presentation	<p>Cisco CallManager は補助的なサービスとして、COLP/COLR ( Connected Line ID Presentation ) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>この変換パターンに対して、Cisco CallManager が接続側の電話番号を発信側の表示画面に表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続側の回線 ID 表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。接続側の電話番号を表示する場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が接続側の電話番号を表示しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項の表 17-9 を参照してください。</p>

表 35-1 ルートパターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
Connected Name Presentation	<p>Cisco CallManager は補助的なサービスとして、CONP/CONR ( Connected Name Presentation ) を使用します。これは、コールごとに着信側の名前を許可、または制限します。</p> <p>このルート パターンに対して、Cisco CallManager が接続側の名前を発信側の表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続側の名前表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。接続側の名前を表示する場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が接続側の名前を表示しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項の表 17-9 を参照してください。</p>
<b>着信側変換</b>	
Discard Digits	<p>Discard Digits ドロップダウン リスト ボックスから、このルート パターンに関連付ける数字破棄命令を選択します。表示される数字破棄命令は、Numbering Plan ドロップダウン リスト ボックスで選択する番号計画によって異なります。North American Numbering Plan の数字破棄命令の詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「数字破棄命令」を参照してください。</p> <p> (注) ルート リスト内のルート グループに割り当てられる着信側変換設定値は、そのリストに関連したルート パターンに割り当てられている着信側変換設定値をすべて上書きします。</p>
Called Party Transform Mask	<p>変換マスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字 X、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。このフィールドがブランクである場合、変換は行われません。Cisco CallManager は、ダイヤルされたとおりの数字を正確に送信します。</p>
Prefix Digits (Outgoing Calls)	<p>Prefix Digits (Outgoing Calls) フィールドに、プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。</p> <p> (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>
<b>ISDN ネットワーク固有の機能情報要素</b>	
Network Service Protocol	<p>Network Service Protocol ドロップダウン リスト ボックスから、着側ゲートウェイのプロトコルと一致する PRI プロトコルを選択します。</p>

表 35-1 ルートパターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
Carrier Identification Code	<p>該当する通信事業者識別コード(0、3、または4桁)を Carrier Identification Code フィールドに入力します。通信事業者識別コードを使用すると、お客様は長距離電話会社のサービスにアクセスできます。</p> <p>次のリストは、よく使用される通信事業者識別コードの例です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ATT : 0288</li> <li>• Sprint : 0333</li> <li>• WorldCom/MCI : 0222</li> </ul> <p>NANP 通信事業者識別コードの完全なリストは、<a href="http://www.nanpa.com/">http://www.nanpa.com/</a> を参照してください。</p>
Network Service	適切なネットワーク サービスを選択します。この値は、Network Service Protocol フィールドで選択したネットワーク サービス プロトコルによって異なります。
Service Parameter Name	このフィールドには、選択したネットワーク サービスに関連するサービスパラメータ名が表示されます。ネットワーク サービスのサービスパラメータが存在しない場合、このフィールドには <Not Exist> が表示されます。
Service Parameter Value	適切なサービスパラメータ値を入力します。有効な入力値は、0 ~ 9 の数字です。ネットワーク サービスのサービスパラメータが存在しない場合、このフィールドは Cisco CallManager Administration によって無効にされます。

**追加情報**

P.35-14 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ルートパターンの削除

ルートパターンを削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Route Pattern の順に選択します。
  - ステップ 2** 削除するルートパターンを見つけます。P.35-2 の「[ルートパターンの検索](#)」を参照してください。
  - ステップ 3** 削除するルートパターンのチェックボックスをオンにして、Delete Selected をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

- ステップ 4** ルートパターンを削除するには、OK をクリックします。削除操作を取り消すには、Cancel をクリックします。



---

**ヒント** ルートパターンの削除は、削除するルートパターンを特定して表示し、Delete をクリックすることによっても実行できます。

---

### 追加情報

P.35-14 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [ルートパターンの検索 \(P.35-2\)](#)
- [ルートパターンの設定 \(P.35-4\)](#)
- [ルートパターンの設定値 \(P.35-6\)](#)
- [ルートパターンの削除 \(P.35-13\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」
- [ルートフィルタの設定 \(P.32-3\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」



## 回線グループの設定

---

回線グループの設定では、電話番号が選択される順序を指定します。Cisco CallManager は、コール分散アルゴリズムおよび Ring No Answer Reversion (RNAR) Timeout 設定に基づいて、回線グループのアイドルまたは対応可能状態のメンバーに対して、コールを分散します。

回線グループの追加または削除、回線グループへの電話番号の追加、回線グループからの電話番号の削除については、次のトピックを参照してください。

- [回線グループの検索 \(P.36-2\)](#)
- [回線グループの設定 \(P.36-3\)](#)
- [回線グループの設定値 \(P.36-4\)](#)
- [回線グループへのメンバーの追加 \(P.36-8\)](#)
- [回線グループからのメンバーの削除 \(P.36-9\)](#)
- [回線グループの削除 \(P.36-10\)](#)

## 回線グループの検索

ネットワーク内にはいくつかの回線グループが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定の回線グループを見つけることができます。回線グループを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、回線グループの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、回線グループの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Line Group の順に選択します。

Find and List Line Groups ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- is exactly (完全一致)
- ends with (後方一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているすべての回線グループを検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックしてください。

検出された回線グループのリストが、回線グループ別に表示されます。



ヒント

検索結果内で回線グループを検索するには、Search Within Results チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力します。



(注)

該当する回線グループの横にあるチェックボックスをオンにして、Delete Selected をクリックすると、Find and List Line Groups ウィンドウから複数の回線グループを削除できます。Select All をクリックして Delete Selected をクリックすると、ウィンドウ内のすべての回線グループを削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する回線グループをクリックします。

選択した回線グループがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.36-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 回線グループの設定

回線グループを設定する手順は、次のとおりです。

#### 始める前に

この手順を実行する場合は、事前に少なくとも 1 つの電話番号を指定しておく必要があります。

#### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Line Group の順に選択します。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存の回線グループをコピーするには、対象となる回線グループを見つけて (P.36-2 の「[回線グループの検索](#)」を参照) コピーする回線グループの横にある Copy ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 新しい回線グループを追加するには、Add New ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存の回線グループを更新するには、対象となる回線グループを見つけて (P.36-2 の「[回線グループの検索](#)」を参照) [ステップ 3](#) に進みます。

**ステップ 3** 表示される Line Group Configuration ウィンドウで、Line Group Name フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド(.)、ハイフン(-)、および下線文字(\_)を任意に組み合わせて使用することが可能です。各回線グループ名が、そのルート プランに固有の名前であることを確認してください。



#### ワンポイント・アドバイス

回線グループには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、CompanynameLocationGroup の形式が、内容を簡潔に表し、回線グループをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、CiscoDallasAA1 は、Dallas にある Cisco オフィス用の Cisco Access Analog 回線グループを示します。

**ステップ 4** 適切な設定値を選択します (表 36-1 を参照)。

**ステップ 5** Save をクリックして、この回線グループを追加または更新します。

#### 追加情報

P.36-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 回線グループの設定値

表 36-1 では、回線グループの設定値について説明します。

表 36-1 回線グループの設定値

フィールド	説明
<b>回線グループ情報</b>	
Line Group Name	この回線グループの名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド(.)、ハイフン(-)、および下線文字(_)を任意に組み合わせて使用することが可能です。各回線グループ名が、そのルート プランに固有の名前であることを確認してください。
RNA Reversion Timeout	コールの応答がない場合や、最初のハント オプション ( <i>Try next member; then, try next group in Hunt List</i> ) が選択されている場合に、この回線グループで次に対応可能またはアイドル状態のメンバー、または次の回線グループに対して、Cisco CallManager がコールの分散を開始するまでの時間を、秒単位で入力します。RNA Reversion Timeout は、回線グループ レベルで、すべてのメンバーに適用されます。
Distribution Algorithm	ドロップダウン リスト ボックスで、回線グループ レベルで適用される次の分散アルゴリズムのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Top Down : この分散アルゴリズムを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco CallManager がメンバーに対してコールを分散します。</li> <li>• Circular : この分散アルゴリズムを選択すると、Cisco CallManager は、アイドルまたは対応可能状態のメンバーに対するコールの分散を、回線グループの (<math>n+1</math>) 番目のメンバーから開始します。 <math>n</math> 番目のメンバーは、Cisco CallManager が最後にコールを延長したメンバーです。 <math>n</math> 番目のメンバーが、回線グループの最後のメンバーの場合、Cisco CallManager は回線グループの先頭からコールの分散を開始します。</li> <li>• Longest Idle Time : この分散アルゴリズムを選択すると、回線グループでアイドル時間が最長のメンバーから最短のメンバーまで、Cisco CallManager がアイドル状態のメンバーだけにコールを分散します。</li> <li>• Broadcast : この分散アルゴリズムを選択すると、Cisco CallManager は、回線グループでアイドルまたは対応可能状態のすべてのメンバーに対して、同時にコールを分散します。Broadcast 分散アルゴリズムを使用する場合のその他の制限事項については、<a href="#">Selected DN/Route Partition</a> フィールドの説明にある注を参照してください。</li> </ul> <p>デフォルト値は、<i>Longest Idle Time</i> です。</p>

表 36-1 回線グループの設定値 (続き)

フィールド	説明
ハント オプション  No Answer	<p>任意の分散アルゴリズムに対して、応答のない回線グループのメンバーにコールが分散されている場合に使用する Cisco CallManager のハント オプションを選択します。このオプションは、メンバー レベルで適用されます。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Try next member; then, try next group in Hunt List : このハント オプションを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco CallManager がメンバーに対してコールを分散します。分散に失敗した場合、Cisco CallManager はハント リスト内の次の回線グループに対して分散を試行します。</li> <li>• Try next member, but do not go to next group : このハント オプションを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco CallManager がメンバーに対してコールを分散します。現在の回線グループの最後のメンバーに到達すると、Cisco CallManager は分散を停止します。</li> <li>• Skip remaining members, and go directly to next group : このハント オプションを選択すると、この回線グループの最初のメンバーに対する分散の試行時間が RNA reversion timeout の設定値を経過した場合、Cisco CallManager が残りのメンバーをスキップします。Cisco CallManager は、そのままハント リスト内の次の回線グループへと試行を継続します。</li> <li>• Stop hunting : このハント オプションを選択すると、Cisco CallManager は、この回線グループの最初のメンバー、およびコールに応答しないメンバーに対してコールの分散を試行した後、ハントを停止します。</li> </ul>
Busy	<p>任意の分散アルゴリズムに対して、ビジー状態の回線グループのメンバーにコールが分散されている場合に使用する Cisco CallManager のハント オプションを選択します。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Try next member; then, try next group in Hunt List : このハント オプションを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco CallManager がメンバーに対してコールを分散します。分散に失敗した場合、Cisco CallManager はハント リスト内の次の回線グループに対して分散を試行します。</li> <li>• Try next member, but do not go to next group : このハント オプションを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco CallManager がメンバーに対してコールを分散します。現在の回線グループの最後のメンバーに到達すると、Cisco CallManager は分散を停止します。</li> <li>• Skip remaining members, and go directly to next group : このハント オプションを選択すると、ビジー状態のメンバーがいた場合、Cisco CallManager はこの回線グループの残りのメンバーをスキップします。Cisco CallManager は、そのままハント リスト内の次の回線グループへと試行を継続します。</li> <li>• Stop hunting : このハント オプションを選択すると、Cisco CallManager は、この回線グループでビジー状態の最初のメンバーに対してコールの分散を試行した後、ハントを停止します。</li> </ul>

表 36-1 回線グループの設定値 (続き)

フィールド	説明
Not Available	<p>任意の分散アルゴリズムに対して、対応可能状態ではない回線グループのメンバーにコールが分散されている場合に使用する Cisco CallManager のハント オプションを選択します。Not Available 状態が発生するのは、当該の DN に関連付けられている電話機が、すべて未登録である場合です。また、エクステンション モビリティを使用しているときに、DN またはユーザがログインしていない場合も Not Available になります。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Try next member; then, try next group in Hunt List : このハント オプションを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco CallManager がメンバーに対してコールを分散します。分散に失敗した場合、Cisco CallManager はハント リスト内の次の回線グループに対して分散を試行します。</li> <li>Try next member, but do not go to next group : このハント オプションを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco CallManager がメンバーに対してコールを分散します。現在の回線グループの最後のメンバーに到達すると、Cisco CallManager は分散を停止します。</li> <li>Skip remaining members, and go directly to next group : このハント オプションを選択すると、対応可能状態にないメンバーがいた場合、Cisco CallManager はこの回線グループの残りのメンバーをスキップします。Cisco CallManager は、そのままハント リスト内の次の回線グループへと試行を継続します。</li> <li>Stop hunting : このハント オプションを選択すると、Cisco CallManager は、この回線グループで対応可能状態にない最初のメンバーに対してコールの分散を試行した後、ハントを停止します。</li> </ul>

## 回線グループ メンバー情報

## 電話番号を検索して回線グループへ追加

Partition	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、この回線グループのルート パーティションを選択します。デフォルト値は、&lt;None&gt; です。</p> <p><b>Find</b> をクリックすると、Available DN/Route Partition リスト ボックスに、選択されたパーティションに属する電話番号 (DN) がすべて表示されます。</p>
Directory Number Contains	<p>検索する電話番号に含まれる文字を入力し、<b>Find</b> ボタンをクリックします。入力した文字と一致する電話番号が Available DN/Route Partition ボックスに表示されます。</p>
Available DN/Route Partition	<p>Available DN/Route Partition リスト ボックスで電話番号を選択し、<b>Add to Line Group</b> をクリックして、その電話番号を Selected DN/Route Partition リスト ボックスに追加します。</p>

表 36-1 回線グループの設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>現在の回線グループ メンバー</b>	
Selected DN/Route Partition	<p>電話番号の優先順位を変更するには、Selected DN/Route Partition リストボックス内の電話番号を選択します。そのリストボックスの右側にある矢印をクリックして、リスト内でその電話番号を上下に移動させてください。</p> <p>Selected DN/Route Partition リストボックス内の電話番号の優先順位を逆転するには、<b>Reverse Order of Selected DN/Route Partitions</b> をクリックします。</p> <p>回線グループ内の電話番号の順序の詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概説」を参照してください。</p>
	<p> (注) 共有回線の DN は、Broadcast 分散アルゴリズムを使用している回線グループには入れないでください。DN が、Broadcast 分散アルゴリズムを使用している回線グループのメンバーである場合、Cisco CallManager は、その DN が共有回線として設定されているデバイス上にある共有回線の DN を、すべて表示することができません。</p>
Removed DN/Route Partition (to be removed from Line Group when you click Save)	Selected DN/Route Partition リストボックスで電話番号を選択し、その電話番号を Removed DN/Route Partition リストボックスに追加します。これには、この 2 つのリストボックス間にある下矢印をクリックします。
<b>電話番号</b>	
(この回線グループに属している DN のリスト)	所定の電話番号の Directory Number Configuration ウィンドウに移動するには、このリスト内の電話番号をクリックします。

**追加情報**

P.36-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 回線グループへのメンバーの追加

新規または既存の回線グループに、メンバーを追加することができます。既存の回線グループにメンバーを追加する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

この手順を実行する場合は、事前に少なくとも 1 つの電話番号を指定しておく必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Line Group の順に選択します。
  - ステップ 2** メンバーを追加する先の回線グループを特定します。P.36-2 の「回線グループの検索」を参照してください。
  - ステップ 3** 電話番号を特定する必要がある場合は、Partition ドロップダウン リスト ボックスからルートパーティションを選択し、Directory Number Contains フィールドに検索文字列を入力して、Find をクリックします。パーティションに属する電話番号をすべて検索するには、Directory Number Contains フィールドをブランクのままにして、Find をクリックします。  
  
Available DN/Route Partition リスト ボックスに、一致する電話番号のリストが表示されます。
  - ステップ 4** Available DN/Route Partition リスト ボックスで追加する電話番号を選択し、Add to Line Group をクリックして、その電話番号を Selected DN/Route Partition リスト ボックスへ移動します。この回線グループに追加する各メンバーに対して、この手順を繰り返します。
  - ステップ 5** Selected DN/Route Partition リスト ボックスで、新しい電話番号がこの回線グループ内でアクセスされる順序を選択します。順序を変更するには、電話番号をクリックしてから、リスト ボックスの右側にある上矢印または下矢印を使用して、電話番号を移動します。
  - ステップ 6** Save をクリックして、新しい電話番号を追加し、この回線グループの電話番号の順序を更新します。
- 

### 追加情報

P.36-11 の「関連項目」を参照してください。

## 回線グループからのメンバーの削除

新規または既存の回線グループから、メンバーを削除することができます。既存の回線グループから電話番号を削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Line Group の順に選択します。
  - ステップ 2** 削除する電話番号が入っている回線グループを特定します。P.36-2 の「回線グループの検索」を参照してください。
  - ステップ 3** Selected DN/Route Partition リスト ボックスで削除する電話番号を選択し、リスト ボックスの下にある下矢印をクリックして、Removed DN/Route Partition リスト ボックスへ電話番号を移動します。この回線グループから削除する各メンバーに対して、この手順を繰り返してください。
  - ステップ 4** メンバーを削除するには、Save をクリックします。
- 

### 追加情報

P.36-11 の「関連項目」を参照してください。

## 回線グループの削除

回線グループを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

1 つまたは複数のルート / ハント リストが参照している回線グループは、削除することができません。回線グループを使用しているハント リストを検索するには、Line Group Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスにある **Dependency Records** を選択し、Go をクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能でない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、P.A-4 の「[Dependency Records へのアクセス](#)」を参照してください。使用されている回線グループを削除しようとすると、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用中の回線グループを削除する場合は、事前に、次の作業を実行しておく必要があります。

- 回線グループを削除する前に、その回線グループが属しているすべてのハント リストから、その回線グループを削除する。P.34-8 の「[ルート リストからのルートグループの削除](#)」を参照してください。



### ヒント

回線グループとハント パイロットを削除するには、まずハント パイロットを削除し、次にハント リストを削除して、最後に回線グループを削除します。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Line Group の順に選択します。

**ステップ 2** 削除する回線グループを特定します。P.36-2 の「[回線グループの検索](#)」を参照してください。

**ステップ 3** 削除する回線グループの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックします。

回線グループを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 4** 回線グループを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。**OK** をクリックすると、Cisco CallManager により、回線グループが削除されます。



**(注)** 該当する回線グループの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Line Groups ウィンドウから複数の回線グループを削除できます。**Select All** をクリックして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべての回線グループを削除できます。

### 追加情報

P.36-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

### 回線グループ

- [回線グループの検索 \(P.36-2\)](#)
- [回線グループの設定 \(P.36-3\)](#)
- [回線グループの設定値 \(P.36-4\)](#)
- [回線グループへのメンバーの追加 \(P.36-8\)](#)
- [回線グループからのメンバーの削除 \(P.36-9\)](#)
- [回線グループの削除 \(P.36-10\)](#)

### ルート リストおよびルート グループ

- [ルート リストの追加 \(P.34-4\)](#)
- [ルート リストへのルート グループの追加 \(P.34-6\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」





## ハント リストの設定

ハント リストは、1 組の回線グループを特定の順序で一覧表示します。また、ハント リストは、1 つ以上のハント パイロットに関連付けられ、その回線グループがアクセスされる順位を決定します。この順位は、着信コールに使用可能な電話番号を検索するときの進行を制御します。

ハント リストは、回線グループによって定義された電話番号の集合から構成されます。Cisco CallManager が指定ハント リストを使用してルーティングすべきコールを判別すると、そのリストに指定されている回線グループの順位に基づいて、Cisco CallManager は最初に使用可能なデバイスを検出します。



(注) グループ コール ピックアップ機能は、ハント リストでは使用できません。

ハント リストには、回線グループだけを入れることができます。各ハント リストには、少なくとも 1 つの回線グループを入れる必要があります。各回線グループには、少なくとも 1 つの電話番号が含まれます。1 つの回線グループが複数のハント リストに表示される場合があります。

ハント リストの追加または削除、リスト内の回線グループの追加、削除、または順序の変更をするには、次のトピックを参照してください。

- [ハント リストの検索 \(P.37-2\)](#)
- [ハント リストの追加 \(P.37-4\)](#)
- [ハント リストへの回線グループの追加 \(P.37-6\)](#)
- [ハント リストからの回線グループの削除 \(P.37-7\)](#)
- [ハント リスト内の回線グループの順位の変更 \(P.37-8\)](#)
- [ハント リストの削除 \(P.37-9\)](#)

## ハントリストの検索

ネットワーク内にはいくつかのハントリストが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定のリストを見つけることができます。ハントリストを見つけるには、次の手順を使用します。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、ハントリストの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ハントリストの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Hunt List の順に選択します。

Find and List Hunt Lists ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、ハントリストを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find Hunt Lists where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Hunt List Name
- Description
- Pattern/Pilot Number



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する基準によって、検索時に生成されるハントリストの一覧のソート方法が決まります。たとえば、Description を選択すると、Description 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find Hunt Lists where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているハントリストをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたハントリストの一覧が、次の項目別に表示されます。

- Hunt list name
- Description
- Status (状況)
- Enabled



**ヒント**

検索結果内でハントリストを検索するには、**Search Within Results** チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力します。



**(注)**

該当するハントリストの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Hunt Lists ウィンドウから複数のハントリストを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のハントリストをすべて削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致するハントリストをクリックします。

選択したハントリストがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.37-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ハントリストの追加

ハントリストを追加する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Hunt List の順に選択します。

**ステップ 2** Add New をクリックします。

**ステップ 3** Hunt List Name フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (\_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各ハントリスト名が、そのルート プランに固有の名前であることを確認してください。



### ワンポイント・アドバイス

ハントリストには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、CompanynameLocationCalltype の形式が、内容を簡潔に表し、ハントリストをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、CiscoDallasMetro は、Dallas の Cisco オフィスからの、LATA (Local Access Transport Area) 間の無料コール用のハントリストを特定します。

Cisco CallManager は、自動的に Description フィールドに説明を挿入します。ただし、このフィールドの編集は可能です。

**ステップ 4** ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco CallManager グループを選択します。



**(注)** ハントリストは、プライマリ CallManager として、CallManager グループ内で最初の CallManager に登録されます。



**(注)** Cisco CallManager が 1 つしか設定されていない Cisco CallManager グループを選択すると、次の警告が表示されます。

WARNING!The selected Cisco CallManager Group has only one Cisco CallManager configured.For the control process to have redundancy protection, please select a Cisco CallManager Group with more than one Cisco CallManager.

**ステップ 5** Save をクリックして、このハントリストを追加します。



**(注)** コールを受信させるため、このハントリストに回線グループを少なくとも 1 つ追加する必要がありますことを示すポップアップ メッセージが表示されます。

Hunt List ウィンドウに、新しく追加されたハントリストが表示されます。

**ステップ 6** 新しいハント リストの Enable this Hunt List チェックボックスは、デフォルトでオンになっています。

このハントリストを使用不可にする場合は、このチェックボックスをオフにします。進行中のコールは影響を受けないが、このハントリストが追加のコールを受け付けなくなることを示す、ポップアップ ウィンドウが表示されます。

**ステップ 7** 新しいハント リストに少なくとも 1 つの回線グループを追加します。

このリストに回線グループを追加するには、**Add Line Group** をクリックし、[P.37-6 の「ハント リストへの回線グループの追加」](#)の [ステップ 3](#) ~ [ステップ 6](#) を実行します。

---

#### 追加情報

[P.37-10 の「関連項目」](#)を参照してください。

## ハント リストへの回線グループの追加

新規のハント リストまたは既存のハント リストに、回線グループを追加することができます。回線グループは、1 つ以上のハント リストに組み込むことができます。既存のハント リストに回線グループを追加する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

この手順を実行する場合は、事前に 1 つ以上の回線グループを作成し、ハント リストを追加しておく必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Hunt List の順に選択します。
  - ステップ 2** 回線グループを追加する先のハント リストを特定します。P.37-2 の「ハント リストの検索」を参照してください。
  - ステップ 3** Add Line Group をクリックして、回線グループを追加します。  
  
Hunt List Detail Configuration ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 4** Line Group ドロップダウン リスト ボックスから、ハント リストに追加する回線グループを選択します。
  - ステップ 5** Save をクリックして、回線グループを追加します。  
  
ウィンドウの左側にある Hunt List Details リストに、回線グループ名が表示されます。
  - ステップ 6** このリストに回線グループをさらに追加するには、Add Line Group をクリックし、[ステップ 3 ~ ステップ 5](#) を実行します。
  - ステップ 7** ハント リストへの回線グループの追加が終了したら、Save をクリックします。
  - ステップ 8** Reset をクリックして、ハント リストをリセットします。ポップアップ ウィンドウが表示されたら、OK をクリックします。
- 

### 追加情報

[P.37-10 の「関連項目」](#)を参照してください。

## ハントリストからの回線グループの削除

新規のハントリストまたは既存のハントリストから、回線グループを削除することができます。既存のハントリストから回線グループを削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** メニューバーから **Call Routing > Route/Hunt > Hunt List** の順に選択します。
- ステップ 2** 削除する回線グループが入っているハントリストを特定します。P.37-2 の「[ハントリストの検索](#)」を参照してください。
- ステップ 3** Selected Groups リストから、回線グループ名を選択します。  
 **(注)** このリストから複数の回線グループを選択するには、**Shift** キーを押し、目的の回線グループをクリックしてください。
- ステップ 4** Selected Groups リストボックスの下にある下矢印をクリックして、選択した回線グループを Removed Groups リストに移動します。
- ステップ 5** 回線グループを削除するには、**Update** をクリックします。**OK** をクリックすると、ページがリフレッシュされたときに、その回線グループがハントリストから削除されています。
- ステップ 6** **Reset** をクリックして、変更内容を有効にします。ポップアップウィンドウの **OK** をクリックします。

### 追加情報

P.37-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ハント リスト内の回線グループの順位の変更

Cisco CallManager は、ハント リストに表示されている順に、回線グループにアクセスします。回線グループのアクセス順位を変更する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Hunt List の順に選択します。
  - ステップ 2** 回線グループの順位を変更するハント リストを特定します。P.37-2 の「ハント リストの検索」を参照してください。
  - ステップ 3** Selected Groups リストから、回線グループを選択します。
  - ステップ 4** リスト内で回線グループを上下に移動させるには、回線グループを選択して、リスト ボックスの右側にある上矢印または下矢印をクリックします。
  - ステップ 5** Save をクリックします。
  - ステップ 6** Reset をクリックして、変更内容を有効にします。ポップアップ ウィンドウの OK をクリックします。
- 

### 追加情報

P.37-10 の「関連項目」を参照してください。

## ハントリストの削除

Cisco CallManager は、回線グループおよびハントパイロットにハントリストを関連付けます。ただし、ハントリストが削除されても、回線グループおよびハントパイロットは削除されません。ハントリストを使用しているハントパイロットを検索するには、**Hunt List Configuration** ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムに対して使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。



### ヒント

回線グループとハントパイロットを削除するには、まずハントパイロットを削除し、次にハントリストを削除して、最後に回線グループを削除します。

ハントリストを削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** **Call Routing > Route/Hunt > Hunt List** の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するハントリストを見つけます。[P.37-2 の「ハントリストの検索」](#)を参照してください。
- ステップ 3** **Delete** をクリックします。  
  
ハントリストを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** ハントリストを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。



### 注意

ハントリストが 1 つ以上のハントパイロットに関連付けられている場合、そのリストは削除できません。

### 追加情報

[P.37-10 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

- [ハントリストの検索 \(P.37-2\)](#)
- [ハントリストの追加 \(P.37-4\)](#)
- [ハントリストへの回線グループの追加 \(P.37-6\)](#)
- [ハントリストからの回線グループの削除 \(P.37-7\)](#)
- [ハントリスト内の回線グループの順位の変更 \(P.37-8\)](#)
- [ハントリストの削除 \(P.37-9\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」



## ハント パイロットの設定

---

ハント パイロットは、アドレスを表す数字のストリングと、ハント リストにコールをルート指定するように関連付けられた数字操作のセットから構成されています。このハント パイロットは、ネットワークの設計に柔軟性をもたらします。ハント パイロットは、ルート フィルタおよびハント リストと連動して、コールを特定のデバイスに誘導し、特定の数字パターンの組み込み、除外、または変更を行います。

ハント パイロットの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」を参照してください。

ハント パイロットを追加、設定、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [ハント パイロットの検索 \(P.38-2\)](#)
- [ハント パイロットの設定 \(P.38-4\)](#)
- [ハント パイロットの削除 \(P.38-5\)](#)
- [ハント パイロットの設定値 \(P.38-6\)](#)

## ハントパイロットの検索

ネットワーク内にはいくつかのハントパイロットが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定のハントパイロットを見つけることができます。ハントパイロットを見つけるには、次の手順を使用します。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、ハントパイロットの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ハントパイロットの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Hunt Pilot の順に選択します。

Find and List Hunt Pilots ウィンドウが表示されます。2つのドロップダウン選択ボックスを使用して、ハントパイロットを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find Hunt Pilots where ドロップダウン選択ボックスから、Pattern、Description、または Partition を選択します。



(注)

このドロップダウンリストボックスで選択する基準によって、検索時に生成されるハントパイロットのソート方法が決まります。たとえば、Description を選択すると、Description 列が結果リストの左側の列に表示されます。

**ステップ 3** 2番目の Find Hunt Pilots where ドロップダウンリストボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

**ステップ 4** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているハントパイロットをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたハントパイロットのリストが、次の項目別に表示されます。

- Hunt pilot icon
- Hunt pilot
- Partition
- Description
- Route Filter
- Hunt List

**ヒント**

検索結果内でハントパイロットを検索するには、**Search Within Results** チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力します。

**(注)**

該当するハントパイロットの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Hunt Pilots ウィンドウから複数のハントパイロットを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのハントパイロットを削除できます。

**ステップ 5** レコードのリストから、検索条件と一致するハントパイロットをクリックします。

選択したハントパイロットがウィンドウに表示されます。

**追加情報**

P.38-12 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ハントパイロットの設定

ハントパイロットを設定する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

Cisco CallManager で次の項目が設定されていることを確認してください。

- Hunt list
- Partition ( <None> を使用しない場合 )
- Route filter ( <None> を使用しない場合 )



### ワンポイント・アドバイス

ハントパイロットに 8XXX を割り当てると、電話番号 8000 ~ 8999 がすべてハントされます。同様に、82XX では、電話番号 8200 ~ 8299 がハントされます。ワイルドカードの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「特殊文字と設定値」を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Hunt Pilot の順に選択します。

Find and List Hunt Pilots ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存のハントパイロットをコピーするには、対象となるハントパイロットを見つけます ( P.38-2 の「ハントパイロットの検索」を参照 )。コピーするハントパイロットの横にある Copy ボタンをクリックします。ウィンドウに、そのハントパイロットのコピーが表示されます。Hunt Pilot フィールドの値を変更し、**ステップ 3** に進みます。
- 新しいハントパイロットを追加するには、Add New ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 既存のハントパイロットを更新するには、対象となるハントパイロットを見つけて ( P.38-2 の「ハントパイロットの検索」を参照 )、**ステップ 3** に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します ( 表 38-1 を参照 )。

**ステップ 4** Save をクリックします。



**(注)** Hunt List ドロップダウン リスト ボックスからハントリストを選択したら、Hunt List フィールドの横に表示される (Edit) リンクを使用すると、選択したハントリストの Hunt List Configuration ウィンドウを表示することができます。Hunt List Configuration ウィンドウを使用して、当該のハントリストに含まれている回線グループを表示します。

### 追加情報

P.38-12 の「関連項目」を参照してください。

## ハントパイロットの削除

ハントパイロットを削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Call Routing > Route/Hunt > Hunt Pilot の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するハントパイロットを見つけます。P.38-2 の「ハントパイロットの検索」を参照してください。
- ステップ 3** 削除するハントパイロットのチェックボックスをオンにして、Delete Selected をクリックします。
- この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** ハントパイロットを削除するには、OK をクリックします。削除操作を取り消すには、Cancel をクリックします。



---

**ヒント** ハントパイロットの削除は、削除するハントパイロットを特定して表示し、Delete をクリックすることによっても実行できます。

---

### 追加情報

P.38-12 の「関連項目」を参照してください。

## ハントパイロットの設定値

表 38-1 では、*Hunt Pilot Configuration* ウィンドウ内の使用可能なフィールドについて説明します。

表 38-1 ハントパイロットの設定値

フィールド	説明
<b>パターン定義</b>	
Hunt Pilot	<p>数字とワイルドカード(スペースを使用しない)を含むハントパイロットを入力します。たとえば、NANP では、通常のローカルアクセスの場合は 9.@ を、通常のプライベートネットワーク番号計画の場合は 8XXX を入力します。大文字の A、B、C、および D を指定できます。</p> <p> (注) 選択したパーティション、ルートフィルタ、および番号計画の組み合わせを使用する、ディレクトリハントパイロットが固有のものであることを確認してください。重複エントリを示すエラーが表示された場合は、ハントパイロット、変換パターン、電話番号、コールパーク番号、コールピックアップ番号、メッセージ受信のオン/オフ、または Meet Me 番号をチェックしてください。また、必要に応じてルートプランレポートもチェックしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワイルドカードの詳細については、『Cisco CallManager システムガイド』の「ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」を参照してください。</li> </ul>
Partition	<p>パーティションを使用してハントパイロットへのアクセスを制限する場合は、ドロップダウンリストボックスから適切なパーティションを選択します。ハントパイロットへのアクセスを制限しない場合は、パーティションに &lt;None&gt; を選択します。パーティションの使用の詳細については、P.42-1 の「パーティションの設定」を参照してください。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで設定されたパーティションの数が 250 以上の場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウンリストボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Partition ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで希望するパーティション名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リストボックスの最大項目を設定するには、System &gt; Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p> <p> (注) ハントパイロット、ルートフィルタ、およびパーティションの組み合わせが、Cisco CallManager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
Description	ハントパイロットの説明を入力します。
Numbering Plan	番号計画を選択します。

表 38-1 ハントパイロットの設定値 (続き)

フィールド	説明
Route Filter	<p>ハントパイロットにワイルドカード @ が含まれている場合は、ルートフィルタを選択できます。オプションでルートフィルタを選択すると、所定の番号パターンが制限されます。</p> <p>表示されるルートフィルタは、Numbering Plan ドロップダウンリストボックスで選択する番号計画によって異なります。</p> <p>ルートフィルタの数が 250 より多い場合は、ドロップダウンリストボックスの横に省略記号ボタン (...) が表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Route Filters ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにルートフィルタ名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるルートフィルタのリストで希望するルートフィルタ名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リストボックスの最大項目を設定するには、System &gt; Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
MLPP Precedence	<p>ドロップダウンリストボックスで、このハントパイロットに対する MLPP Precedence の設定を次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Executive Override : MLPP コールに、一番高い優先度を設定します。</li> <li>Flash Override : MLPP コールに、2 番目に高い優先度を設定します。</li> <li>Flash : MLPP コールに、3 番目に高い優先度を設定します。</li> <li>Immediate : MLPP コールに、4 番目に高い優先度を設定します。</li> <li>Priority : MLPP コールに、5 番目に高い優先度を設定します。</li> <li>Routine : MLPP コールに、一番低い優先度を設定します。</li> <li>Default : 着信の優先レベルは上書きされず、そのまま渡されます。</li> </ul> <p> (注) 詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービスガイド』の「Multilevel Precedence and Preemption」の「優先順位」を参照してください。</p>
Hunt List	<p>ドロップダウンリストボックスから、ハントパイロットを追加するハントリストを選択します。</p>
Route Option	<p>Route Option の指定内容が、このハントパイロットをコールのルーティング (9.@ や 8[2-9]XX など) またはコールのブロックに使用するかどうかを示します。Route this pattern または Block this pattern オプションボタンを選択してください。</p> <p>Block this pattern オプションボタンを選択した場合、このハントパイロットをコールのブロックに使用する理由を選択する必要があります。次のドロップダウンリストボックスから値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>No Error</li> <li>Unallocated Number</li> <li>Call Rejected</li> <li>Number Changed</li> <li>Invalid Number Format</li> <li>Precedence Level Exceeded</li> </ul>

表 38-1 ハントパイロットの設定値（続き）

フィールド	説明
Provide Outside Dial Tone	外部ダイヤルトーンは、Cisco CallManager がローカル ネットワーク外にコールをルーティングすることを示します。ローカル ネットワーク外にコールをルーティングする各ハントパイロットに対してこのチェックボックスをオンにし、発信側デバイスに外部ダイヤルトーンを提供します。ネットワーク内のコールをルーティングする場合は、このチェックボックスをオフのままにしておきます。
Urgent Priority	ダイヤルプランにハントリストが重複して含まれている場合、数字列をダイヤルして現在の一致を選択できる場合にも、Cisco CallManager は桁間タイマーが時間切れになるまでコールをルーティングしません。Cisco CallManager がすぐにコールをルーティングする必要がある場合は、このチェックボックスをオンにして、桁間タイミングを中断します。
<b>ハント転送の設定値</b>	
Forward Hunt No Answer	<p>ハントリストを介して分散されるコールに対して一定の時間応答がない場合、このフィールドでコールの転送先を指定します。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Use Personal Preferences：このチェックボックスをオンにして、コールをこのハントパイロットに転送した最初の着信番号に対して Call Forward No Coverage (CFNC) の設定値を使用可能にします。</li> </ul> <p>CFNC 設定値は、システム管理者が Directory Number Configuration ウィンドウで管理するコール転送の理由を指定します。電話番号へのコールが最初にカバレッジに転送され、カバレッジが残りわずかになったか時間切れになり、カバレッジの関連するハントパイロットが最後の転送先として Use Personal Preferences を指定している場合、コールは電話番号の Coverage/Destination フィールドの値に基づいて転送されます。</p> <p> <b>(注)</b> このチェックボックスがオンになっていると、Cisco CallManager は、Destination ボックスと Calling Search Space の設定値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Destination：この設定値は、コールの転送先となる電話番号を示します。</li> <li>Calling Search Space：この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul>

表 38-1 ハントパイロットの設定値 (続き)

フィールド	説明
Forward Hunt Busy	<p>ハント リストを介して分散されるコールが一定の時間ビジー状態の場合、このフィールドでコールの転送先を指定します。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Use Personal Preferences：このチェックボックスをオンにして、コールをこのハントパイロットに転送した最初の着信番号に対して Call Forward No Coverage (CFNC) の設定値を使用可能にします。</li> </ul> <p>CFNC 設定値は、システム管理者が Directory Number Configuration ウィンドウで管理するコール転送の理由を指定します。電話番号へのコールが最初にカバレッジに転送され、カバレッジが残りわずかになったか時間切れになり、カバレッジの関連するハントパイロットが最後の転送先として Use Personal Preferences を指定している場合、コールは電話番号の Coverage/Destination フィールドの値に基づいて転送されます。</p> <p> (注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco CallManager は、Destination ボックスと Calling Search Space の設定値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Destination：この設定値は、コールの転送先となる電話番号を示します。</li> <li>Calling Search Space：この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul>
Maximum Hunt Timer	<p>ハントの時間の最大値 (秒) を入力します。有効な値は 1 ~ 3600 です。デフォルト値は 1800 秒 (30 分) です。</p> <p>このタイマーは、ハントメンバーがコールに応答した場合、およびタイマーが時間切れになる前にハントリストのメンバーがすべて試された場合は、キャンセルされます。このタイマーに値を指定しない場合は、ハントメンバーが応答するか、ハントリストのメンバーがすべて試されるまでハンティングが続行されます。どちらのイベントも発生しない場合、ハンティングは 30 分間続行されます。30 分が過ぎると、コールに対して最終処理が実行されます。</p> <p> (注) ハンティングのホップ数が Forward Maximum Hop Count サービスパラメータで指定した値を超えると、この最大 30 分間のハントタイマー値に達していない場合でも、ハンティングが時間切れになり、発信者にリオーダー トーンが再生されます。</p>
<b>発信側変換</b>	
Use Calling Party's External Phone Number Mask	<p>発信コールで完全な外部電話番号を CLID (calling line ID) に使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。また、すべての電話機で External Phone Number Mask を設定することもできます。</p> <p> (注) ハントリスト内の回線グループに割り当てられる発信側変換設定値は、そのリストに関連したハントパイロットに割り当てられている発信側変換設定値をすべて上書きします。</p>

表 38-1 ハントパイロットの設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling Party Transform Mask	変換マスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字 X、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。このフィールドがブランクのときに、上記のフィールド ( Use Calling Party's External Phone Number Mask ) がオフの場合、発信側変換は行われません。詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」を参照してください。
Prefix Digits (Outgoing Calls)	Prefix Digits (Outgoing Calls) フィールドに、プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。   (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。
Calling Line ID Presentation	Cisco CallManager は補助的なサービスとして、CLIP/CLIR ( Calling Line ID Presentation ) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。  このハントパイロットに対して、Cisco CallManager が発信側電話番号を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。  発信側の回線 ID 表示を変更しない場合は、 <i>Default</i> を選択します。Cisco CallManager で発信側の電話番号が表示されるようにする場合は、 <i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が発信側の電話番号を表示しないようにする場合は、 <i>Restricted</i> を選択します。  このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項の表 17-6 を参照してください。
Calling Name Presentation	Cisco CallManager は補助的なサービスとして、CNIP/CNIR ( Calling Name Presentation ) を使用します。これは、コールごとに発信者の名前を許可、または制限します。  このハントパイロットに対して、Cisco CallManager が発信側の名前を着信側の表示画面で表示するかどうかを選択します。  発信側の名前表示を変更しない場合は、 <i>Default</i> を選択します。Cisco CallManager で発信側の名前情報を表示させる場合は、 <i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が発信側の名前情報を表示しないようにする場合は、 <i>Restricted</i> を選択します。  このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項の表 17-6 を参照してください。

表 38-1 ハントパイロットの設定値（続き）

フィールド	説明
<b>接続側変換</b>	
Connected Line ID Presentation	<p>Cisco CallManager は補助的なサービスとして、COLP/COLR ( Connected Line ID Presentation ) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>このハントパイロットに対して、Cisco CallManager が接続側電話番号を発信側の番号表示画面に表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続側の回線 ID 表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。接続側の電話番号を表示する場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が接続側の電話番号を表示しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項の表 17-9 を参照してください。</p>
Connected Name Presentation	<p>Cisco CallManager は補助的なサービスとして、CONP/CONR ( Connected Name Presentation ) を使用します。これは、コールごとに着信側の名前を許可、または制限します。</p> <p>このハントパイロットに対して、Cisco CallManager が接続側の名前を発信側の表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続側の名前表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。接続側の名前を表示する場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が接続側の名前を表示しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項の表 17-9 を参照してください。</p>
<b>着信側変換</b>	
Discard Digits	<p>Discard Digits ドロップダウン リスト ボックスから、このハントパイロットに関連付ける数字破棄命令を選択します。表示される数字破棄命令は、Numbering Plan ドロップダウン リスト ボックスで選択する番号計画によって異なります。North American Numbering Plan の数字破棄命令の詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「数字破棄命令」を参照してください。</p> <p> <b>(注)</b> ハント リスト内の回線グループに割り当てられる着信側変換設定値は、そのリストに関連したハントパイロットに割り当てられている着信側変換設定値をすべて上書きします。</p>
Called Party Transform Mask	<p>変換マスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字 X、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。このフィールドがブランクである場合、変換は行われません。Cisco CallManager は、ダイヤルされたとおりの数字を正確に送信します。</p>

表 38-1 ハントパイロットの設定値 (続き)

フィールド	説明
Prefix Digits (Outgoing Calls)	<p>Prefix Digits (Outgoing Calls) フィールドに、プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*), シャープ (#), 大文字の A、B、C、D、およびブランクです。</p> <p> (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>
<b>AAR グループの設定値</b>	
AAR Group	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、自動代替ルーティング (AAR) を選択します。</p> <p> (注) このハントパイロットに対して AAR を使用可能にできるのは、回線グループのメンバーがすべて同じロケーションにある場合だけです。</p>
External Number Mask	<p>ハントパイロットの外部番号マスク値を入力します。</p> <p>Cisco CallManager はこのマスクを使用して、外部 (発信) コールの CLID をフォーマットします。AAR が再ルーティングを開始すると、システムはこの外部番号マスクをハントパイロット番号に適用し、着信側の完全修飾ドメイン名を形成します。そのため、AAR は、帯域幅が足りない状況でも正しく再ルーティングできるようになります。</p>

**追加情報**

P.38-12 の「関連項目」を参照してください。

**関連項目**

- [ハントパイロットの検索 \(P.38-2\)](#)
- [ハントパイロットの設定 \(P.38-4\)](#)
- [ハントパイロットの削除 \(P.38-5\)](#)
- [ハントパイロットの設定値 \(P.38-6\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」
- [ルートフィルタの設定 \(P.32-3\)](#)



## SIP ルート パターンの設定

---

Cisco CallManager は、SIP ルート パターンを使用して内部コールと外部コールの両方をルーティングまたはブロックします。

ルーティングの判断基準となるのは、ドメイン名または IP アドレスです。管理者は、ドメイン、IP アドレス、および IP ネットワーク (サブネット) アドレスを追加して、それらを SIP トランク (のみ) に関連付けることができます。この方法によって、これらのドメインを宛先とする要求が、特定の SIP トランク インターフェイスを通じてルーティングされるようになります。



(注)

Cisco CallManager にはデフォルトの SIP ルート パターンが存在しないため、管理者がセットアップする必要があります。

**ドメイン名の例** : cisco.com、my-pc.cisco.com、\*.com、rtp-ccm[1-5].cisco.com

**ドメイン名で有効となる文字** : [、-、.、0 ~ 9、A ~ Z、a ~ z、\*、]

**IP アドレスの例** : 172.18.201.119 または 172.18.201.119/32 (明示的 IP ホスト アドレス) \ 172.18.0.0/16 (IP サブネット) \ 172.18.201.18.21 (IP サブネット)

**IP アドレスで有効となる文字** : 0 ~ 9、.、および /

---

## SIP ルート パターンの検索

ネットワーク内にはいくつかの SIP ルート パターンが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定の SIP ルート パターンを見つけることができます。SIP ルート パターンを見つける手順は、次のとおりです。



**(注)** ブラウザ セッションでの作業中は、検索 / リストの検索設定がクライアント マシンの cookie に保存されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザ ウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco CallManager の検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > SIP Route Pattern の順に選択します。

Find and List SIP Route Patterns ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、SIP ルート パターンを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find SIP Route Patterns ウィンドウのドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Pattern
- Description
- Route Partition

2 番目の Find Servers ウィンドウのドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- is exactly (完全一致)
- ends with (後方一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。



**ヒント** データベースに登録されている SIP ルート パターンをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出された SIP ルート パターンのリストが、次の項目別に表示されます。

- Pattern
- Description
- Route Partition



(注) 該当するサーバの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Servers ウィンドウから複数の SIP ルート パターンを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべての SIP ルート パターンを削除できます。



(注) 検索によって返された件数が非常に多い場合、目的の SIP ルート パターンを簡単に見つけるには、**Search Within Results** チェックボックスをオンにし、**Find** をクリックします。このチェックボックスをオンにして Find ボタンをクリックすると、前回のクエリーの結果を対象にして検索が実行されます。検索結果を対象にして検索する必要がなくなった場合は、チェックボックスをオフにすると、次回のクエリーは新規検索として実行されます。

**ステップ 4** レコードのリストで、検索条件と一致する SIP ルート パターンをクリックします。

選択した SIP ルート パターンがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.39-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## SIP ルート パターンの設定

SIP ルート パターンを追加、更新、またはコピーする手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** 次の作業のいずれかを実行します。

- SIP ルート パターンを追加するには、**Call Routing > SIP Route Pattern** の順に選択し、**Add New** をクリックします。
- SIP ルート パターンを更新するには、P.39-2 の「[SIP ルート パターンの検索](#)」の手順を使用してパターンを検索します。
- SIP ルート パターンをコピーするには、P.39-2 の「[SIP ルート パターンの検索](#)」の手順を使用して、コピーするパターンを検索します。コピーするパターンに対応する **Copy** アイコンをクリックします。

SIP Route Pattern Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 適切な設定値を入力します ( [表 39-1](#) を参照 )。

**ステップ 3** ウィンドウ右上のツールバーに表示されている **Save** アイコンをクリックして (または、ウィンドウの一番下に表示されている **Save** ボタンをクリックして)、データを保存し、サーバをデータベースに追加します。

---

### 追加情報

P.39-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## SIP ルート パターンの設定値

### 始める前に

SIP ルート パターンを設定するには、少なくとも 1 つの SIP プロファイルと SIP トランクを設定する必要があります。

表 39-1 では、SIP ルート パターンの設定値について説明します。関連する手順については、P.39-8 の「関連項目」を参照してください。

表 39-1 SIP ルート パターンの設定値

フィールド	説明
<b>パターン定義</b>	
Pattern Usage	(必須) ドロップダウン リストから、Domain Routing または IP Address Routing のいずれかを選択します。
Pattern	(必須) ドメイン、サブドメイン、IP アドレス、または IP サブネットワーク アドレスを入力します。   (注) IP サブネットワーク アドレスの場合は、Classless Inter-Domain Routing (CIDR; クラスレス ドメイン間ルーティング) 表記の X.X.X.X/Y にします。Y は、ネットワーク アドレスとなるアドレスのビット数を示します。
Description	このオプション エントリには、SIP ルート パターンの説明を入力します。
Route Partition	パーティションを使用して SIP ルート パターンへのアクセスを制限する場合は、ドロップダウン リスト ボックスから適切なパーティションを選択します。SIP ルート パターンへのアクセスを制限しない場合は、パーティションの代わりに <None> を選択します。パーティションの使用方法の詳細については、P.42-1 の「パーティションの設定」を参照してください。  Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定されたパーティションの数が 250 以上の場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Partition ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで希望するパーティション名をクリックし、OK をクリックします。   (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。   (注) SIP ルート パターン、ルート フィルタ、およびパーティションの組み合わせが、Cisco CallManager クラスタ内で固有であることを確認してください。
SIP Trunk List	(必須) ドロップダウン リストを使用して、SIP ルート パターンの関連付け先となる SIP トランクを選択します。

表 39-1 SIP ルート パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
Block Pattern	このパターンをコールのルーティングに使用しない場合は、Block pattern オプション ボタンを選択します。
<b>発信側変換</b>	
Use Calling Party's External Phone Mask	発信コールで完全な外部電話番号を CLID (calling line ID) に使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。また、すべての電話機で External Phone Number Mask を設定することもできます。
Calling Party Transformation Mask	変換マスク値を入力します。有効となるエントリは、数字 (0 ~ 9)、ワイルドカード文字 (X)、アスタリスク (*)、およびシャープ (#) です。このフィールドがブランクのときに、上記のフィールド (Use Calling Party's External Phone Number Mask) がオフの場合、発信側変換は行われません。詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」を参照してください。
Prefix Digits (Outgoing Calls)	Prefix Digits (Outgoing Calls) フィールドに、プレフィックス番号を入力します。有効となるエントリは、数字 (0 ~ 9)、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、およびシャープ (#) です。  <b>(注)</b> 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。
Calling Line ID Presentation	Cisco CallManager は補助的なサービスとして、CLIP/CLIR (Calling Line ID Presentation) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。  この SIP ルート パターンに対して、Cisco CallManager が発信側電話番号を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。  Calling Line ID Presentation を変更しない場合は、Default を選択します。Cisco CallManager で発信側の電話番号が表示されるようにする場合は、Allowed を選択します。Cisco CallManager が発信側の電話番号を表示しないようにする場合は、Restricted を選択します。  このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」の表 17-6 を参照してください。
Calling Line Name Presentation	Cisco CallManager は補助的なサービスとして、CNIP/CNIR (Calling Name Presentation) を使用します。これは、コールごとに発信者の名前を許可、または制限します。  この SIP ルート パターンに対して、Cisco CallManager が発信側の名前を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。  発信側の名前表示を変更しない場合は、Default を選択します。Cisco CallManager で発信側の名前情報が表示されるようにする場合は、Allowed を選択します。Cisco CallManager が発信者名情報を表示しないようにする場合は、Restricted を選択します。  このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項の表 17-6 を参照してください。

表 39-1 SIP ルート パターンの設定値 ( 続き )

フィールド	説明
<b>接続側変換</b>	
Connected Line ID Presentation	<p>Cisco CallManager は補助的なサービスとして、COLP/COLR ( Connected Line ID Presentation ) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>この SIP ルートパターンに対して、Cisco CallManager が接続側電話番号を発信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続側の回線 ID 表示を変更しない場合は、Default を選択します。接続側の電話番号を表示する場合は、Allowed を選択します。Cisco CallManager が接続側の電話番号を表示しないようにする場合は、Restricted を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項の表 17-9 を参照してください。</p>
Connected Line Name Presentation	<p>Cisco CallManager は補助的なサービスとして、CONP/CONR ( Connected Name Presentation ) を使用します。これは、コールごとに着信側の名前を許可、または制限します。</p> <p>この SIP ルートパターンに対して、Cisco CallManager が接続側の名前を発信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続側の名前表示を変更しない場合は、Default を選択します。接続側の名前を表示する場合は、Allowed を選択します。Cisco CallManager が接続側の名前を表示しないようにする場合は、Restricted を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項の表 17-9 を参照してください。</p>

## SIP ルート パターンの削除

Cisco CallManager データベースから SIP ルート パターンを削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** [P.39-2 の「SIP ルート パターンの検索」](#)の手順を使用して、SIP ルート パターンを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する SIP ルート パターンを選択します。
- ステップ 3** ウィンドウ右上のツールバーに表示されている **Delete Selected Item** アイコンをクリックして(または、ウィンドウの一番下に表示されている **Delete Selected** ボタンをクリックして)、SIP ルート パターンを削除します。

SIP ルート パターンが使用中でない場合、Cisco CallManager がパターンを削除します。SIP ルート パターンが使用中である場合は、メッセージが表示されます。

---

### 追加情報

[P.39-8 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

- [SIP ルート パターンの検索 \(P.39-2\)](#)
- [SIP ルート パターンの設定 \(P.39-4\)](#)
- [SIP ルート パターンの削除 \(P.39-8\)](#)
- [SIP ルート パターンの設定値 \(P.39-5\)](#)



## 時間帯（Time Period）の設定

---

時間帯は、開始時刻と終了時刻によって定義される時間範囲で構成されます。また、週の曜日や毎年の特定期日のいずれの繰り返し間隔も指定できます。管理者は時間帯を定義した後、時間帯をタイムスケジュールに関連付けます。次に、time-of-day コールルーティングをセットアップするパーティションにタイムスケジュールを関連付けます。時間帯とタイムスケジュールの詳細については、『Cisco CallManager システムガイド』の「Time-of-Day ルーティング」を参照してください。

時間帯を追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [時間帯の検索（P.40-2）](#)
- [時間帯の設定（P.40-3）](#)
- [時間帯の削除（P.40-4）](#)
- [時間帯の設定値（P.40-5）](#)

## 時間帯の検索

ネットワーク内にはいくつかの時間帯が存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定の時間帯を見つけることができます。時間帯を特定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、時間帯の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、時間帯の検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Route Plan > Class of Control > Time Period の順に選択します。

Find and List Time Periods ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されている時間帯をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出された時間帯のリストが、次の項目別に表示されます。

- Time period icon
- Time period name



ヒント

検索結果内で時間帯を検索するには、**Search Within Results** チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力します。



(注)

該当する時間帯の横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Time Periods ウィンドウから複数の時間帯を削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内の時間帯をすべて削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する時間帯をクリックします。

選択した時間帯がウィンドウに表示されます。

---

#### 追加情報

P.40-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 時間帯の設定

時間帯を設定する手順は、次のとおりです。

#### 手順

---

**ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Time Period** の順に選択します。

Find and List Time Periods ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存の時間帯をコピーするには、対象となる時間帯を見つけます (P.40-2 の「[時間帯の検索](#)」を参照)。コピーする時間帯の横にある **Copy** ボタンをクリックします。ウィンドウに、その時間帯のコピーが表示されます。Name フィールドの値を変更し、**ステップ 3** に進みます。
- 新しい時間帯を追加するには、**Add New** ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 既存の時間帯を更新するには、対象となる時間帯を見つけて (P.40-2 の「[時間帯の検索](#)」を参照)、**ステップ 3** に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 40-1 を参照)。

**ステップ 4** **Save** をクリックします。

---

#### 追加情報

P.40-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 時間帯の削除

時間帯を削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

タイム スケジュールが使用している時間帯は削除できません。時間帯を使用しているタイム スケジュールなどの項目を検索するには、Time Period Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、P.A-4 の「[Dependency Records へのアクセス](#)」を参照してください。使用中の時間帯を削除しようとする、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されている時間帯を削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する時間帯を使用しているタイム スケジュールすべてに、別の時間帯を割り当てる。[P.41-3 の「タイム スケジュールの設定」](#)を参照してください。
- 削除する時間帯を使用しているタイム スケジュールを削除する。[P.41-4 の「タイム スケジュールの削除」](#)を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Time Period** の順に選択します。

**ステップ 2** 削除する時間帯を見つけます。[P.40-2 の「時間帯の検索」](#)を参照してください。

**ステップ 3** 削除する時間帯のチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

**ステップ 4** 時間帯を削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。



#### 注意

時間帯を削除するときは、削除する時間帯が正しいか慎重に確認してください。削除した時間帯を元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除した時間帯を作成し直す必要があります。



#### ヒント

時間帯の削除は、削除する時間帯を特定して表示し、**Delete** をクリックすることによっても実行できます。

### 追加情報

[P.40-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 時間帯の設定値

表 40-1 では、時間帯の設定値について説明します。

表 40-1 時間帯の設定値

フィールド	説明
<b>時間帯情報</b>	
Name	<p>Time Period Name フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各時間帯名が、そのプランに固有の名前であることを確認してください。</p> <p> (注) 時間帯には、内容を表す簡潔な名前を使用してください。通常、hours_or_days の形式が、内容を簡潔に表し、時間帯をすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、office_M_to_F は、オフィスでの月曜日から金曜日の業務時間の時間帯を示します。</p>
Time Of Day Start	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、この時間帯が開始する時刻を選択します。リストされている使用可能な開始時刻は、24 時間の 15 分間隔で構成されています。</p> <p>デフォルト値は、No Office Hours です。</p> <p> (注) 深夜に時間帯を開始するには、0:00 値を選択します。</p>
Time of Day End	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、この時間帯が終了する時刻を選択します。リストされている使用可能な終了時刻は、24 時間の 15 分間隔で構成されています。</p> <p>デフォルト値は、No Office Hours です。</p> <p> (注) End Time には、Start Time で選択する時刻よりも遅い時刻を選択する必要があります。</p> <p> (注) 深夜に時間帯を終了するには、24:00 値を選択します。</p>

表 40-1 時間帯の設定値 (続き)

フィールド	説明
Repeat Every	<p>次のいずれかのオプション ボタンをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Week from : Week from オプション ボタンをクリックする場合は、<i>from</i> および <i>through</i> の横にあるドロップダウン リスト ボックスを使用して、この時間帯を適用する曜日を選択します。</li> </ul> <p><b>例 :</b> 月曜日から金曜日に適用する時間帯を定義するには、<i>from</i> の値に月 (曜日)、<i>through</i> の値に金 (曜日) を選択します。</p> <p>土曜日に適用する時間帯を定義するには、<i>from</i> の値に土 (曜日)、<i>through</i> の値に土 (曜日) を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Year on : Year on オプション ボタンをクリックする場合は、ドロップダウン リスト ボックスを使用して、1 年の内でこの時間帯を適用する月と日を選択します。</li> </ul> <p><b>例 :</b> 毎年元旦に適用する時間帯を定義するには、月に 1、日に 1 を選択します。</p>

**追加情報**

P.40-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

**関連項目**

- [時間帯の検索 \(P.40-2\)](#)
- [時間帯の設定 \(P.40-3\)](#)
- [時間帯の削除 \(P.40-4\)](#)
- [時間帯の設定値 \(P.40-5\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Time-of-Day ルーティング」



## タイム スケジュールの設定

---

タイム スケジュールは、時間帯のグループで構成されます。タイム スケジュールはパーティションに割り当てられます。タイム スケジュールは、発信側デバイスが特定の時間帯にコールを完了しようとするときに検索するパーティションを決定します。タイム スケジュールの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「Time-of-Day ルーティング」を参照してください。

タイム スケジュールを検索、追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [タイム スケジュールの検索 \(P.41-2\)](#)
- [タイム スケジュールの設定 \(P.41-3\)](#)
- [タイム スケジュールの削除 \(P.41-4\)](#)
- [タイム スケジュールの設定値 \(P.41-5\)](#)

## タイム スケジュールの検索

ネットワーク内にはいくつかのタイム スケジュールが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定のタイム スケジュールを見つけることができます。タイム スケジュールを特定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、タイム スケジュールの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、タイム スケジュールの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Route Plan > Class of Control > Time Schedule の順に選択します。

Find and List Time Schedules ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているタイム スケジュールをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたタイム スケジュールのリストが、次の項目別に表示されます。

- Time schedule icon
- Time schedule name



ヒント

検索結果内でタイム スケジュールを検索するには、Search Within Results チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力します。



(注)

該当するタイム スケジュールの横にあるチェックボックスをオンにして Delete Selected をクリックすると、Find and List Time Schedules ウィンドウから複数のタイム スケジュールを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして Delete Selected をクリックすると、ウィンドウ内のタイム スケジュールをすべて削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致するタイム スケジュールをクリックします。

選択したタイム スケジュールがウィンドウに表示されます。

---

#### 追加情報

P.41-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## タイム スケジュールの設定

タイム スケジュールを追加する手順は、次のとおりです。

#### 手順

---

**ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Time Schedule** の順に選択します。

Find and List Time Schedules ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存のタイム スケジュールをコピーするには、対象となるタイム スケジュールを見つけます (P.41-2 の「[タイム スケジュールの検索](#)」を参照)。コピーするタイム スケジュールの横にある Copy ボタンをクリックします。ウィンドウに、そのタイム スケジュールのコピーが表示されます。Name フィールドの値を変更し、[ステップ 3](#) に進みます。
- 新しいタイム スケジュールを追加するには、Add New ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存のタイム スケジュールを更新するには、対象となるタイム スケジュールを見つけて (P.41-2 の「[タイム スケジュールの検索](#)」を参照)、[ステップ 3](#) に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 41-1 を参照)。

**ステップ 4** Save をクリックします。

---

#### 追加情報

P.41-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## タイム スケジュールの削除

タイム スケジュールを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

パーティションが使用しているタイム スケジュールは削除できません。タイム スケジュールを使用している項目を検索するには、Time Schedule Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用中のタイム スケジュールを削除しようとすると、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されているタイム スケジュールを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するタイム スケジュールを使用しているパーティションすべてに、別のタイム スケジュールを割り当てる。[P.42-3 の「パーティションの設定」](#)を参照してください。
- 削除するタイム スケジュールを使用しているパーティションを削除する。「[パーティションの設定](#)」の章を参照してください。

### 手順

- 
- ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Time Schedule** の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するタイム スケジュールを見つけます。[P.41-2 の「タイム スケジュールの検索」](#)を参照してください。
- ステップ 3** 削除するタイム スケジュールのチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックします。
- この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** タイム スケジュールを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。



#### 注意

タイム スケジュールを削除するときは、削除するタイム スケジュールが正しいか慎重に確認してください。削除したタイム スケジュールを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したタイム スケジュールを作成し直す必要があります。



#### ヒント

タイム スケジュールの削除は、削除するタイム スケジュールを特定して表示し、**Delete** をクリックすることによっても実行できます。

### 追加情報

[P.41-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

## タイム スケジュールの設定値

表 41-1 では、タイム スケジュールの設定値について説明します。

表 41-1 タイム スケジュールの設定値

フィールド	説明
<b>タイム スケジュール情報</b>	
Name	<p>Name フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド(.)、ハイフン(-)、および下線文字(_)を任意に組み合わせて使用することが可能です。各タイム スケジュール名が、そのプランに固有の名前であることを確認してください。</p> <p> (注) タイム スケジュールには、内容を表す簡潔な名前を使用してください。</p>
<b>時間帯情報</b>	
Available Time Periods	<p>Available Time Periods リスト ボックスで時間帯を選択し、その時間帯を Selected Time Periods リスト ボックスに追加します。これには、この 2 つのリスト ボックス間にある下矢印ボタンをクリックします。</p> <p>ある範囲の時間帯を一度に追加するには、その範囲内の最初の時間帯をクリックし、<b>Shift</b> キーを押した状態でその範囲内の最後の時間帯をクリックします。2 つのリスト ボックス間にある下矢印ボタンをクリックして、その範囲の時間帯を追加します。</p> <p>連続していない複数の時間帯を追加するには、<b>Control (Ctrl)</b> キーを押した状態で複数の時間帯をクリックしていきます。2 つのリスト ボックス間にある下矢印ボタンをクリックして、選択した時間帯を追加します。</p>
Selected Time Periods	<p>このリスト ボックスには、このタイム スケジュール用に選択された時間帯が一覧表示されます。選択された時間帯のリストから時間帯を削除するには、削除する時間帯を選択して、2 つのリスト ボックス間にある上矢印をクリックします。</p> <p> (注) 1 つのタイム スケジュールに複数の時間帯が関連付けられ、時間帯が重複している場合、Day of Year 設定値を持つ時間帯が、Day of Week 設定値を持つ時間帯よりも優先されます。</p> <p><b>例:</b> ある時間帯で 1 月 1 日に対して No Office Hours が設定され、別の時間帯では毎週の同じ曜日 (たとえば、日曜日から土曜日) に対して 08:00 ~ 17:00 が設定されている場合、1 月 1 日の時間帯が使用されます。この例では、No Office Hours が優先されます。</p> <p> (注) 時間間隔の設定値は、毎年と同じ日、または毎週の同じ曜日に対する No Office Hour 設定値よりも優先されます。</p> <p><b>例:</b> ある時間帯で土曜日に No Office Hours が指定されています。別の時間帯では土曜日に 08:00 ~ 12:00 の時間が指定されています。この例では、結果として時間間隔が土曜日に 08:00 ~ 12:00 に指定されます。</p>

### 追加情報

P.41-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [タイム スケジュールの検索 \(P.41-2\)](#)
- [タイム スケジュールの設定 \(P.41-3\)](#)
- [タイム スケジュールの削除 \(P.41-4\)](#)
- [タイム スケジュールの設定値 \(P.41-5\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Time-of-Day ルーティング」



## パーティションの設定

---

パーティションには、電話番号 (DN) およびルートパターンが登録されているルートパターンのリストが含まれています。パーティションは、編成、ロケーション、およびコールタイプに基づいて、ルートプランを複数の論理サブセットに分割することにより、コールルーティングを容易にするものです。パーティションの詳細については、『Cisco CallManager システムガイド』の「パーティションおよびコーリングサーチスペース」を参照してください。

ルートパーティションを検索、追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [パーティションの特定 \(P.42-2\)](#)
- [パーティションの設定 \(P.42-3\)](#)
- [パーティションの削除 \(P.42-4\)](#)
- [パーティションの設定値 \(P.42-5\)](#)

## パーティションの特定

ネットワーク内にはいくつかのパーティションが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、固有のパーティションを特定することができます。パーティションを特定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、パーティションの検索設定が保持されず、別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えない限り、パーティションの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Route Plan > Class of Control > Partition の順に選択します。

Find and List Partitions ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているパーティションをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたパーティションのリストが、次の項目別に表示されます。

- Partition name (パーティション名)
- Description (説明)



ヒント

検索結果内でパーティションを検索するには、Search Within Results チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力します。



(注)

該当するパーティションの横にあるチェックボックスをオンにして、Delete Selected をクリックすると、Find and List Partitions ウィンドウから複数のパーティションを削除できます。Select All をクリックして Delete Selected をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのパーティションを削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致するパーティションをクリックします。

ウィンドウに、選択したパーティションが表示されます。

#### 追加情報

P.42-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## パーティションの設定

パーティションを追加する手順は、次のとおりです。

#### 手順

**ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Partition** の順に選択します。

Find and List Partitions ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 新しいパーティションを追加するには、Add New ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存のパーティションを更新するには、対象となるパーティションを見つけて ([P.42-2](#) の「[パーティションの特定](#)」を参照) [ステップ 3](#) に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します ([表 42-1](#) を参照)。

**ステップ 4** Save をクリックします。

パーティションを更新している場合は、Reset をクリックします。そのパーティションに関連したデバイスをリセットすると、影響を受けるゲートウェイ上のコールがすべて欠落します。



**(注)** 複数のパーティションを設定できます。複数のパーティションを入力するには、各パーティション エントリに対して 1 行を使用します。最大 75 のパーティションを入力できます。入力できる文字数は、それぞれの名前と説明を合計して 1475 文字までです。各行のパーティション名と説明はコンマ(,)で区切ってください。説明を入力しない場合、Cisco CallManager は、名前を説明として使用します。

#### 追加情報

P.42-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## パーティションの削除

パーティションを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

パーティションがコーリング サーチ スペースなどの項目またはルート パターンに割り当てられている場合は、そのパーティションを削除できません。パーティションを使用しているコーリング サーチ スペースなどの項目を検索するには、Partition Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスにある **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。

Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されているパーティションを削除しようとする場合、Cisco CallManager はメッセージを表示します。現在使用されているパーティションを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するパーティションを使用しているコーリング サーチ スペースやデバイスなどの項目すべてに、別のパーティションを割り当てる。
- 削除するパーティションを使用しているコーリング サーチ スペースやデバイスなどの項目を削除する。

### 手順

- 
- ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Partition** の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するパーティションを見つけます。[P.42-2 の「パーティションの特定」](#)を参照してください。
- ステップ 3** 削除するパーティションのチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックします。

 **ヒント** **Select All** をクリックして **Delete Selected** をクリックすると、リスト内のすべてのパーティションを削除できます。

---

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

- ステップ 4** パーティションを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。



パーティションを削除するときは、削除するパーティションが正しいか慎重に確認してください。削除したパーティションを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したパーティションを作成し直す必要があります。

---

 **ヒント** パーティションの削除は、削除するパーティションを見つけて表示し、**Delete** をクリックすることによっても実行できます。

---

### 追加情報

[P.42-7 の「関連項目」](#)を参照してください。

## パーティションの設定値

表 42-1 では、パーティションの設定値について説明します。関連する手順については、P.42-7 の「関連項目」を参照してください。

表 42-1 パーティションの設定値

フィールド	説明
(Partition Name, Description)	<p>名前を partition name and description ボックスに入力します。各パーティション名が、そのルート プランに固有の名前であることを確認してください。パーティション名には、英数字、スペース、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を使用できます。</p> <p> (注) パーティション名の長さによって、コーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数が制限されます。表 42-2 に、パーティション名が固定長である場合にコーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。</p> <p>パーティション名の後にコンマ (,) を入力してから、そのパーティション名と同じ行に説明を入力します。説明を入力しない場合は、Cisco CallManager が、自動的にこのフィールドにパーティション名を入力します。</p> <p>各パーティションおよび説明には新しい行を使用してください。</p>
Time Schedule	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このパーティションに関連付けるタイム スケジュールを選択します。関連付けられたタイム スケジュールは、パーティションがいつ着信コールを受信できるかを指定します。</p> <p>デフォルト値は <i>None</i> です。この値は、time-of-day ルーティングが有効ではなく、パーティションが常にアクティブであることを意味します。</p> <p>パーティションのタイム スケジュールとの関連は、次のフィールドにある Time Zone 値との組み合わせで、time-of-day ルーティング用のパーティションを設定します。指定されたタイム スケジュールに対して、このパーティションへの着信コールがチェックされます。</p>
Time Zone	<p>次のいずれかのオプションを選択し、パーティションを時間帯に関連付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Originating Device : このオプションを選択すると、発信側デバイスの時間帯に関連付けられたタイム スケジュールに対してパーティションがチェックされます。</li> <li>• Specific Time Zone : このオプションを選択する場合は、ドロップダウン リスト ボックスから時間帯を選択します。この時間帯の中でパーティションが指定されたときに、関連付けられたタイム スケジュールに対してパーティションがチェックされます。</li> </ul> <p>これらのオプションはすべて Time Zone を指定します。着信コールがあると、Cisco CallManager 上の現在時刻は、オプションの 1 つを選択したときの特定の時間帯セットに変換されます。この特定の時間は、Time Schedule フィールドの値に対して検証されます。</p>

**ワンポイント・アドバイス**

パーティションには、内容を表す簡潔な名前を使用してください。通常、CompanynameLocationCalltype の形式が、内容を簡潔に表し、パーティションをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、CiscoDallasMetroPT は、Dallas の Cisco オフィスからの、LATA ( Local Access and Transport Area ) 間の無料コール用のパーティションを特定できます。

**ヒント**

必要に応じて、Partition Name & Description テキストボックスに各パーティションの名前と説明を入力することにより、複数のパーティションを同時に入力できます。必ず、各パーティション エントリに対して 1 行を使用し、パーティション名と説明はコンマで区切ってください。

表 42-2 に、パーティション名が固定長である場合にコーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。この最大数の計算方法の詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「パーティション名の制限」を参照してください。

**表 42-2 コーリング サーチ スペースのパーティション制限**

パーティション名の長さ	パーティションの最大数
2 文字	170
3 文字	128
4 文字	102
5 文字	86
...	...
10 文字	46
15 文字	32

**追加情報**

P.42-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## パーティションの検索

パーティションの数が 250 より多い場合は、該当する Cisco CallManager Administration ウィンドウの Partition ドロップダウン リスト ボックスの横に省略記号 (...) ボタンが表示されます。 (...) ボタンをクリックすると、目的のパーティションを検索できます。パーティションを検索する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Partition ドロップダウン リスト ボックスの横にある ... ボタンをクリックします。
- Select Partition ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。
- ステップ 3** Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで希望するパーティション名をクリックし、OK をクリックします。
- 

### 追加情報

P.42-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [パーティションの特定 \(P.42-2\)](#)
- [パーティションの設定 \(P.42-3\)](#)
- [パーティションの削除 \(P.42-4\)](#)
- [パーティションの設定値 \(P.42-5\)](#)
- [パーティションの検索 \(P.42-7\)](#)





## コーリング サーチ スペースの設定

---

コーリング サーチ スペースは、通常はデバイスに割り当てられているルートパーティションの順序リストで構成されます。コーリング サーチ スペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索するパーティションが決まります。コーリング サーチ スペースとパーティションの詳細については、『*Cisco CallManager システム ガイド*』の「パーティションおよびコーリング サーチ スペース」を参照してください。

## コーリングサーチスペースの検索

ネットワーク内にはいくつかのコーリングサーチスペースが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定のコーリングサーチスペースを見つけることができます。コーリングサーチスペースを特定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、コーリングサーチスペースの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えない限り、コーリングサーチスペースの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Route Plan > Class of Control > Calling Search Space の順に選択します。

Find and List Calling Search Spaces ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているコーリングサーチスペースをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたコーリングサーチスペースのリストが、次の項目別に表示されます。

- CSS name (CSS 名)
- Description (説明)



ヒント

検索結果内でコーリングサーチスペースを検索するには、Search Within Results チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力します。



(注)

該当するコーリングサーチスペースの横にあるチェックボックスをオンにして、Delete Selected をクリックすると、Find and List Calling Search Spaces ウィンドウから複数のコーリングサーチスペースを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして Delete Selected をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのコーリングサーチスペースを削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致するコーリング サーチ スペースをクリックします。

選択したコーリング サーチ スペースがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.43-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## コーリング サーチ スペースの設定

コーリング サーチ スペースをコピー、追加、および更新する手順は、次のとおりです。

#### 手順

**ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Calling Search Space** の順に選択します。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存のコーリング サーチ スペースをコピーするには、対象となるコーリング サーチ スペースを見つけます (P.43-2 の「[コーリング サーチ スペースの検索](#)」を参照)。コピーするコーリング サーチ スペースの横にある **Copy** ボタンをクリックします。ウィンドウに、コピーしたコーリング サーチ スペースが表示されます。Calling Search Space Name フィールドで名前を変更し、[ステップ 3](#) に進みます。
- コーリング サーチ スペースを追加するには、**Add New** ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。



**(注)** 他のコーリング サーチ スペースを追加するには、**Add New** をクリックして、[ステップ 3](#) からの手順を繰り返します。

- 既存のコーリング サーチ スペースを更新するには、対象となるコーリング サーチ スペースを見つけて (P.43-2 の「[コーリング サーチ スペースの検索](#)」を参照)、[ステップ 3](#) に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 43-1 を参照)。

**ステップ 4** **Save** をクリックします。

#### 追加情報

P.43-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## コーリングサーチスペースの設定値

表 43-1 では、コーリングサーチスペースの設定値について説明します。

表 43-1 コーリングサーチスペースの設定値

フィールド	説明
<b>コーリングサーチスペース情報</b>	
Name	<p>名前を Calling Search Space Name フィールドに入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各コーリングサーチスペース名が、システムに固有の名前であることを確認してください。</p> <p> (注) コーリングサーチスペースには、内容を表す簡潔な名前を使用してください。通常、CompanynameLocationCalltype の形式が、内容を的確に表し、コーリングサーチスペースをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、CiscoDallasMetroCS は、Dallas の Cisco オフィスからの、LATA( Local Access and Transport Area ) 間の無料コール用のコーリングサーチスペースとして特定できます。</p>
Description	<p>Description フィールドに説明を入力します。この説明には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。</p>
<b>このコーリングサーチスペースのルートパーティション</b>	
Available Partitions	<p>Available Partitions リスト ボックスでパーティションを選択し、そのパーティションを Selected Partitions リスト ボックスに追加します。これには、この 2 つのリスト ボックス間にある矢印ボタンをクリックします。</p> <p>ある範囲のパーティションを一度に追加するには、その範囲内の最初のパーティションをクリックし、Shift キーを押した状態でその範囲内の最後のパーティションをクリックします。2 つのリスト ボックス間にある矢印ボタンをクリックして、その範囲のパーティションを追加します。</p> <p>連続していない複数のパーティションを追加するには、Control ( Ctrl ) キーを押した状態で複数のパーティションをクリックしていきます。2 つのリスト ボックス間にある矢印ボタンをクリックして、選択したパーティションを追加します。</p> <p> (注) パーティション名の長さによって、コーリングサーチスペースに追加できるパーティションの最大数が制限されます。表 43-2 に、パーティション名が固定長である場合にコーリングサーチスペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。</p>
Selected Partitions (Ordered by highest priority)	<p>パーティションの優先順位を変更するには、Selected Partitions リスト ボックス内のパーティション名を選択します。そのリストボックスの右側にある矢印をクリックして、リスト内でそのパーティションを上下に移動させてください。</p>

表 43-2 に、パーティション名が固定長である場合にコーリングサーチスペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。この最大数の計算方法の詳細については、『Cisco CallManager システムガイド』の「パーティション名の制限」を参照してください。

表 43-2 コーリングサーチスペースのパーティション制限

パーティション名の長さ	パーティションの最大数
2 文字	170
3 文字	128
4 文字	102
5 文字	86
...	...
10 文字	46
15 文字	32

#### 追加情報

P.43-7 の「関連項目」を参照してください。

## コーリングサーチスペースの削除

コーリングサーチスペースを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

デバイス、回線 (DN)、変換パターンなどの項目が使用しているコーリングサーチスペースは、削除できません。コーリングサーチスペースを使用しているデバイス、回線、変換パターンなどの項目を検索するには、Calling Search Space Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウンリストボックスにある **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用中のコーリングサーチスペースを削除しようとする、Cisco CallManager はメッセージを表示します。現在使用中のコーリングサーチスペースを削除する前に、次の作業の一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するコーリングサーチスペースを使用しているデバイス、回線、または変換パターンすべてに、別のコーリングサーチスペースを割り当てる。[P.49-2 の「電話番号の設定の概要」](#)および [P.46-4 の「変換パターンの設定」](#)を参照してください。
- 削除するコーリングサーチスペースを使用しているデバイス、回線、または変換パターンを削除する。[P.49-6 の「電話機からの電話番号の削除」](#)および [P.46-10 の「変換パターンの削除」](#)を参照してください。

### 手順

- 
- ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Calling Search Space** の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するコーリングサーチスペースを見つけます。[P.43-2 の「コーリングサーチスペースの検索」](#)を参照してください。
- ステップ 3** 削除するコーリングサーチスペースのチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックします。
- この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** コーリングサーチスペースを削除するには、**OK** をクリックします。削除を取り消すには、**Cancel** をクリックします。



#### 注意

コーリングサーチスペースを削除するときは、削除するコーリングサーチスペースが正しいか慎重に確認してください。削除したコーリングサーチスペースを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したコーリングサーチスペースを作成し直す必要があります。



#### ヒント

コーリングサーチスペースの削除は、削除するコーリングサーチスペースを見つけて表示し、**Delete** をクリックすることによっても実行できます。

### 追加情報

[P.43-7 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

コーリング サーチ スペースを検索、追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [コーリング サーチ スペースの検索 \(P.43-2\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの設定 \(P.43-3\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの設定値 \(P.43-4\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの削除 \(P.43-6\)](#)





## クライアント マターコード

Client Matter Code (CMC; クライアント マターコード) は、コール アカウンティングおよび支払請求可能なクライアントに対する課金を支援します。CMC では、コードを入力して、コールが特定のクライアント マターに関連していることを指定する必要があります。クライアント マターコードは、コール アカウンティングおよび課金の目的で、カスタマー、学生、またはその他の人々に割り当てることができます。

CMC 機能では、ルート パターンを変更し、ダイヤル プランのドキュメントを更新して、各ルート パターンに対して使用可能または使用不可にした CMC を反映させる必要があります。クライアント マターコードの検索ウィンドウおよび設定ウィンドウには、Cisco CallManager Administration の **Call Routing > Client Matter Codes** からアクセスできます。

クライアント マターコードの詳細については、『*Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド*』の「Client Matter Codes と Forced Authorization Codes」を参照してください。

### この他のシスコ マニュアル

- *Cisco CallManager Bulk Administration Tool ユーザ ガイド*
- *Cisco CallManager Serviceability システム ガイド*
- *Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*





## Forced Authorization Code

---

Forced Authorization Code (FAC; 強制許可コード)を使用すると、コールのアクセスとアカウントリングを管理できます。この機能は、特定のユーザが発信できるコールのタイプを規定するものです。ユーザがコールを確立するには、有効な許可コードを入力する必要があります。

FAC 機能では、ルートパターンを変更し、ダイヤルプランのドキュメントを更新して、各ルートパターンに対して使用可能または使用不可にしたFACを反映させる必要があります。強制許可コードの検索ウィンドウおよび設定ウィンドウには、Cisco CallManager Administration の **Call Routing > Forced Authorization Codes** からアクセスできます。

強制許可コードの詳細については、『*Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド*』の「Client Matter Codes と Forced Authorization Codes」を参照してください。

### この他のシスコ マニュアル

- *Cisco CallManager Bulk Administration Tool ユーザ ガイド*
- *Cisco CallManager Serviceability システム ガイド*
- *Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*





## 変換パターンの設定

---

Cisco CallManager は変換パターンを使用して、ダイヤルされた番号を操作した後でコールをルーティングします。場合によってシステムは、ダイヤルされた番号を使用しないことがあります。また、公衆電話交換網 (PSTN) が、ダイヤルされた番号を認識できない場合もあります。

変換パターンを追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [変換パターンの検索 \(P.46-2\)](#)
- [変換パターンの設定 \(P.46-4\)](#)
- [変換パターンの削除 \(P.46-10\)](#)
- [変換パターンの設定値 \(P.46-5\)](#)

## 変換パターンの検索

ネットワーク内にはいくつかの変換パターンが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定の変換パターンを見つけることができます。変換パターンを特定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、変換パターンの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、変換パターンの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Translation Pattern の順に選択します。

Find and List Translation Patterns ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 最初のドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Pattern (変換パターンの名前で検索する場合)
- Description (変換パターンの説明で検索する場合)
- Partition (パーティション名で検索する場合)



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する基準によって、検索時に生成される変換パターン リストのソート方法が決まります。たとえば、Description を選択すると、Description 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- is exactly (完全一致)
- ends with (後方一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されている変換パターンをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出された変換パターンのリストが、次の項目別に表示されます。

- Translation Pattern
- Partition
- Description
- Route Filter



**(注)** 該当する変換パターンの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Translation Patterns ウィンドウから複数の変換パターンを削除できます。**Select All** をクリックして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべての変換パターンを削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストで、検索条件と一致する変換パターンをクリックします。

Translation Pattern Configuration ウィンドウに、選択した変換パターンが表示されます。

#### 追加情報

P.46-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 変換パターンの設定

変換パターンを設定する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

変換パターンを設定する場合は、事前に、次の Cisco CallManager 項目を設定してください。

- Partition
- Route filter ( ルート フィルタ )
- Calling search space ( コーリング サーチ スペース )

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Translation Pattern の順に選択します。

Find and List Translation Patterns ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存の変換パターンをコピーするには、対象となる変換パターンを見つけて ( P.46-2 の「[変換パターンの検索](#)」を参照 ) コピーする変換パターンの横にある Copy ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 新しい変換パターンを追加するには、Add New ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存の変換パターンを更新するには、対象となる変換パターンを見つけて ( P.70-32 の「[電話機の検索](#)」を参照 ) [ステップ 3](#) に進みます。

**ステップ 3** 表示される Translation Pattern Configuration ウィンドウで、適切な設定値を入力します ( [表 46-1](#) を参照 )。

**ステップ 4** Save をクリックします。



**(注)** 選択したパーティション、ルート フィルタ、および番号計画の組み合わせを使用する変換パターンが固有のものであることを確認してください。重複エントリを示すエラーが表示された場合は、ルートパターンおよびハントパイロット、変換パターン、電話番号、コールパーク番号、コールピックアップ番号、または Meet Me 番号の設定ウィンドウをチェックしてください。

Translation Pattern Configuration ウィンドウに、新しく設定した変換パターンが表示されます。

### 追加情報

P.46-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 変換パターンの設定値

表 46-1 では、Translation Pattern Configuration ウィンドウ内の使用可能なフィールドについて説明します。

表 46-1 変換パターンの設定値

フィールド	説明
<b>パターン定義</b>	
Translation Pattern	<p>Translation Pattern フィールドに、番号とワイルドカード（スペースを使用しない）を含む、変換パターンを入力します。たとえば、NANP では、通常のローカル アクセスの場合は 9.@ を、通常のプライベート ネットワーク番号計画の場合は 8XXX を入力します。大文字の A、B、C、および D を使用できます。このフィールドを空白のままにした場合は、Partition ドロップダウン リスト ボックスからパーティションを選択する必要があります。</p> <p> (注) 選択したパーティション、ルート フィルタ、および番号計画の組み合わせを使用する変換パターンが固有のものであることを確認してください。重複エントリを示すメッセージが表示された場合は、ルート パターンおよびハントパイロット、変換パターン、電話番号、コールパーク番号、コールピックアップ番号、または Meet-Me 番号を確認してください。重複エントリを示すメッセージが表示された場合のもう 1 つの方法として、ルート ブラン レポートも確認してください。</p>
Partition	<p>パーティションを選択します。パーティションを割り当てない場合は、&lt;None&gt; を選択します。&lt;None&gt; を選択した場合は、Translation Pattern フィールドに値を入力する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもパーティションの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Partition ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで希望するパーティション名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System &gt; Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p> <p> (注) 変換パターン、ルート フィルタ、およびパーティションの組み合わせが、Cisco CallManager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
Description	変換パターンの説明を入力します。

表 46-1 変換パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
Numbering Plan	<p>番号計画を選択します。</p> <p>変換パターンにワイルドカード @ が含まれている場合は、番号計画を選択できません。オプションで番号計画を選択すると、所定の番号パターンが制限されます。</p>
Route Filter	<p>オプションのルートフィルタを選択すると、所定の番号パターンが制限されます。詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」、および P.32-4 の「ルートフィルタの設定値」を参照してください。</p> <p>表示されるルートフィルタは、Numbering Plan ドロップダウン リストボックスで選択する番号計画によって異なります。</p> <p>ルートフィルタの数が 250 より多い場合は、ドロップダウン リストボックスの横に省略記号ボタン (...) が表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Route Filters ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにルートフィルタ名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるルートフィルタのリストで希望するルートフィルタ名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リストボックスの最大項目を設定するには、System &gt; Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
MLPP Precedence	<p>ドロップダウン リストボックスで、この変換パターンに対する MLPP Precedence の設定を次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Executive Override : MLPP コールに、一番高い優先度を設定します。</li> <li>Flash Override : MLPP コールに、2 番目に高い優先度を設定します。</li> <li>Flash : MLPP コールに、3 番目に高い優先度を設定します。</li> <li>Immediate : MLPP コールに、4 番目に高い優先度を設定します。</li> <li>Priority : MLPP コールに、5 番目に高い優先度を設定します。</li> <li>Routine : MLPP コールに、一番低い優先度を設定します。</li> <li>Default : 着信の優先レベルは上書きされず、そのまま渡されます。</li> </ul> <p> (注) 詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Multilevel Precedence and Preemption」の「優先順位」を参照してください。</p>

表 46-1 変換パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling Search Space	<p>必要に応じて、ドロップダウン リスト ボックスから、追加する変換パターン用のコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System &gt; Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
Route Option	<p>Route Option の指定内容が、この変換パターンをコールのルーティング (9.@ や 8[2-9]XX など) またはコールのブロックに使用するかどうかを示します。Route this pattern または Block this pattern オプション ボタンを選択してください。</p> <p>Block this pattern オプション ボタンを選択した場合、この変換パターンをコールのブロックに使用する理由を選択する必要があります。次のドロップダウン リスト ボックスから値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• No Error</li> <li>• Unallocated Number</li> <li>• Call Rejected</li> <li>• Number Changed</li> <li>• Invalid Number Format</li> <li>• Precedence Level Exceeded</li> </ul>
Provide Outside Dial Tone	<p>外部ダイヤルトーンは、Cisco CallManager がローカル ネットワーク外にコールをルーティングすることを示します。ネットワーク外にあると思われる各変換パターンに対してこのチェックボックスをオンにします。</p>
Urgent Priority	<p>Cisco CallManager は、Urgent Priority を指定してすべての変換パターンを設定します。変換パターンの優先順位は変更できません。</p>
<b>発信側変換</b>	
Use Calling Party's External Phone Number Mask	<p>発信コールで完全な外部電話番号を CLID (calling line ID) に使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>
Calling Party Transform Mask	<p>変換マスク値を入力します。NANP で有効となるエンタリは、数字 (0 ~ 9)、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。このフィールドがブランクのときに、上記のフィールド (Use Calling Party's External Phone Number Mask) がオフの場合、発信側変換は行われません。詳細については、P.34-4 の「ルート リストの追加」を参照してください。</p>

表 46-1 変換パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
Prefix Digits (Outgoing Calls)	<p>プレフィックス番号を入力します。NANP で有効となるエントリは、数字 (0 ~ 9)、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、および D です。</p> <p> (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>
Calling Line ID Presentation	<p>Cisco CallManager は補助的なサービスとして、CLIP/CLIR (Calling Line ID Presentation) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>この変換パターンに対して、Cisco CallManager が発信側電話番号を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>Calling Line ID Presentation を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。Cisco CallManager で発信側の電話番号が表示されるようにする場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が発信側の電話番号を表示しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項の表 17-6 を参照してください。</p> <p> (注) コール表示制限を設定するには、このパラメータおよび Connected Line ID Presentation パラメータを Ignore Presentation Indicators (internal calls only) デバイスレベル パラメータと組み合わせて使用します。同時に、これらの設定値では、各コールに対して発信側の回線または接続側の回線の表示情報を表示するか、制限するかを選択できます。Ignore Presentation Indicators (internal calls only) フィールドの詳細については、P.75-3 の「新規ユーザ デバイス プロファイルの設定」および P.70-7 の「電話機の設定値」の表 70-1 を参照してください。コール表示制限の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Call Display Restrictions 機能」の章を参照してください。</p>
Calling Name Presentation	<p>Cisco CallManager は補助的なサービスとして、CNIP/CNIR (Calling Name Presentation) を使用します。これは、コールごとに発信者の名前を許可、または制限します。</p> <p>この変換パターンに対して、Cisco CallManager が発信側の名前を着信側の表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発信側の名前表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。Cisco CallManager で発信側の名前情報を表示させる場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が発信者名情報を表示しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項の表 17-6 を参照してください。</p>

表 46-1 変換パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>接続側変換</b>	
Connected Line ID Presentation	<p>Cisco CallManager は補助的なサービスとして、COLP/COLR( Connected Line ID Presentation ) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>この変換パターンに対して、Cisco CallManager が接続側電話番号を発信側の番号表示画面に表示するかどうかを選択します。</p> <p>Connected Line ID Presentation を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。接続側の電話番号を表示する場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が接続側の電話番号を表示しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項の表 17-9 を参照してください。</p>
Connected Name Presentation	<p>Cisco CallManager は補助的なサービスとして、CONP/CONR ( Connected Name Presentation ) を使用します。これは、コールごとに着信側の名前を許可、または制限します。</p> <p>この変換パターンに対して、Cisco CallManager が接続側の名前を発信側の画面表示に表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続側の名前表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。接続側の名前を表示する場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が接続側の名前を表示しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項の表 17-9 を参照してください。</p>
<b>着信側変換</b>	
Discard Digits	<p>この変換パターンに関連付ける数字破棄命令を選択します。詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「数字破棄命令」を参照してください。</p> <p> (注) 表示される数字破棄命令は、Numbering Plan ドロップダウン リストボックスで選択する番号計画によって異なります。</p>
Called Party Transform Mask	<p>変換マスク値を入力します。NANP で有効となるエンタリは、数字 (0 ~ 9) ワイルドカード文字、アスタリスク (*) シャープ (#) 大文字の A、B、C、D、およびブランクです。このフィールドがブランクである場合、変換は行われません。ダイヤルされた番号が、ダイヤルされたとおりに送信されます。</p>
Prefix Digits (Outgoing Calls)	<p>プレフィックス番号を入力します。NANP で有効となるエンタリは、数字 (0 ~ 9) ワイルドカード文字、アスタリスク (*) シャープ (#) 大文字の A、B、C、D、およびブランクです。</p> <p> (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>

### 追加情報

P.46-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 変換パターンの削除

変換パターンを削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Translation Pattern の順に選択します。

**ステップ 2** 削除する変換パターンを見つけます。P.46-2 の「[変換パターンの検索](#)」を参照してください。

**ステップ 3** 削除する変換パターンのチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

**ステップ 4** 変換パターンを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。



### 注意

変換パターンを削除するときは、削除する変換パターンが正しいか慎重に確認してください。削除した変換パターンを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除した変換パターンを作成し直す必要があります。



### ヒント

変換パターンの削除は、削除する変換パターンを見つけて表示し、**Delete** をクリックすることによっても実行できます。

### 追加情報

P.46-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [変換パターンの検索](#) (P.46-2)
- [変換パターンの設定](#) (P.46-4)
- [変換パターンの設定値](#) (P.46-5)
- [変換パターンの削除](#) (P.46-10)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」



## コールパーク

---

コールパーク (Call Park) 機能を使用すると、コールの保留操作をした後、Cisco CallManager システム内の別の電話機からその保留コールに応答することができます (たとえば、別のオフィスや会議室の電話機などです)。あるユーザに着信コールがあるときに、Park ソフトキーや Call Park ボタンを押して、そのコールをコールパーク番号に一時的に保留 (パーキング) させることができます。システム内の誰かが別の電話機からコールパーク番号をダイヤルすると、そのパーク中のコールに応答できます。

コールパーク機能の使用方法と設定方法の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービスガイド』の「コールパーク」の章を参照してください。





## コール ピックアップ グループ

コール ピックアップ グループ機能を使用すると、自分以外の電話番号に着信するコールに応答できます。別の電話機で着信音が鳴った場合は、この機能を使用して、そのコールを自分の電話機にリダイレクトできます。

Cisco IP Phone では、次の 3 つのタイプのコール ピックアップ機能を使用できます。

- コール ピックアップを使用すると、ユーザは、自分のグループ内の着信コールを受けることができます。ユーザが電話機でこの機能をアクティブにすると、Cisco CallManager は、適切なコール ピックアップ グループ番号を自動的にダイヤルします。
- グループ コール ピックアップを使用すると、ユーザは、別のグループ内の着信コールを受けることができます。ユーザが電話機でこの機能をアクティブにすると、ユーザ自身が、適切なコール ピックアップ グループ番号をダイヤルする必要があります。
- 他グループ コール ピックアップを使用すると、ユーザは、自分のグループに関連付けられたグループ内の着信コールを受けることができます。ユーザが電話機でこの機能をアクティブにした場合、ユーザのグループに関連付けられたグループ内の電話機で呼び出し音が鳴ると、Cisco CallManager は自動的に、関連付けられたグループ内で着信コールを検索します。

コール ピックアップ グループ機能の使用方法和設定方法の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「コール ピックアップ グループ」の章を参照してください。





## 電話番号の設定

---

次の項では、Cisco CallManager Administration での電話番号 (DN) に関する作業と設定について説明しています。

- [電話番号の設定の概要 \(P.49-2\)](#)
- [電話番号の検索 \(P.49-3\)](#)
- [電話番号の設定 \(P.49-4\)](#)
- [電話機からの電話番号の削除 \(P.49-6\)](#)
- [Cisco Unity または Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成 \(P.49-7\)](#)
- [電話番号の設定値 \(P.49-9\)](#)
- [関連項目 \(P.49-27\)](#)

## 電話番号の設定の概要

Cisco CallManager Administration を使用して、特定の電話機に割り当てる電話番号 (DN) の設定および変更を行います。ここでは、電話番号の追加、削除、および更新について説明します。

Directory Number Configuration ウィンドウを使用して、次の作業を実行します。

- 電話番号の追加または削除。
- コール転送、コール ピックアップ、コール ウェイティング、および Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) オプションの設定。
- 回線からコールが行われるときに、着信側電話機に表示されるテキストを指定する。
- 呼び出し音の設定。
- Cisco Unity または Cisco Unity Connection ユーザのボイスメールボックスの設定。

### 追加情報

P.49-27 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 電話番号の検索

電話番号 (DN) を検索する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Directory Number の順に選択します。

Find and List Directory Numbers ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 最初の Find Directory Number ドロップダウン リスト ボックスから、電話番号の検索に使用するフィールドを選択します (たとえば、Directory Number、Route Partition、または Description)。



**(注)** データベースに登録されている電話番号をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。検索条件と一致する電話番号のリストが表示されます。

**ステップ 3** 2 番目の Find Directory Number ドロップダウン リスト ボックスから、テキスト検索の検索パターンを選択します (たとえば、begins with、contains、または ends with)。

**ステップ 4** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。

検索条件と一致するレコードが表示されます。各ページに表示される項目数を変更するには、Rows per Page ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択します。



**ヒント** 検索結果の中で電話番号を検索するには、**Search Within Results** チェックボックスをオンにし、このステップの説明に従って検索条件を入力します。



**(注)** 複数の電話番号を削除するには、該当する電話番号の横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックします。ウィンドウ内の電話番号をすべて削除するには、**Select All** をクリックし、**Delete Selected** をクリックします。

**ステップ 5** 検索条件と一致するレコードのリストで、表示する電話番号の名前をクリックします。

Directory Number Configuration ウィンドウに、選択した電話番号が表示されます。

### 追加情報

P.49-27 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 電話番号の設定

電話番号 (DN) を追加または更新する手順は、次のとおりです。電話番号を追加すると同時に、コール転送、コール ピックアップ、および MLPP の各電話機能を設定できます。



### ヒント

電話番号にパターン (たとえば 352XX など) を割り当てることができます。電話番号にパターンを割り当てる場合は、ユーザが混乱しないように、電話番号設定フィールド (Line Text Label、Display (Internal Caller ID)、および External Phone Number Mask) にテキストや数字を追加します。これらのフィールドが特定の電話番号について表示されるのは、電話番号を追加し、さらに、その電話番号を電話機に関連付けた場合のみです。

たとえば、Line Text Label と Internal Caller ID にはユーザの名前を追加し、External Number Mask には外部の回線番号を追加します。このようにすれば、発信情報が表示されるときに、352XX ではなく John Chan と表示されます。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Directory Number の順に選択します。

Find and List Directory Numbers ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 特定の電話番号を見つけるには、検索条件を入力し、Find をクリックします。

検索条件と一致する電話番号のリストが表示されます。

**ステップ 3** 次の作業のいずれかを実行します。

- 電話番号を追加するには、Add New ボタンをクリックし、新しい電話番号を追加します。Directory Number Configuration ウィンドウが表示されます。



**(注)** Phone Configuration ウィンドウには、電話番号を追加するための代替方法が表示されません。Device > Phone メニュー オプションを使用し、新しい電話機を作成するか、または既存の電話機を検索します。新しい電話機を作成するか、または既存の電話機を表示したら、Phone Configuration ウィンドウの左側の Association Information 領域で、Line [1] - Add a new DN リンクまたは Line [2] - Add a new DN リンクをクリックします。Directory Number Configuration ウィンドウが表示されたら、この手順の **ステップ 4** に進みます。

- 電話番号を更新するには、更新する電話番号をクリックします。Directory Number Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** 該当する設定値を更新します (表 49-1 を参照)。

**ステップ 5** Save をクリックします。

**ステップ 6** Reset Phone をクリックします。詳細については、P.70-5 の「電話機のリセット」を参照してください。

**ヒント**

2 回線では足りない場合は、電話機タイプ(たとえば Cisco IP Phone モデル 7960 など)に対応する電話ボタン テンプレートを変更することによって、回線を増やすことができます。ただし、2 回線までしかサポートしていない電話機タイプ( Cisco IP Phone モデル 7902 など)もあります。

**(注)**

デバイスは、速やかに再起動してください。この再起動プロセス中に、ゲートウェイ上のコールがシステムによって終了される場合があります。

**追加情報**

P.49-27 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 電話機からの電話番号の削除

特定の電話機から電話番号 (DN) を削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

使用されている電話番号を削除しようとする、Cisco CallManager はメッセージを表示します。電話番号を使用している回線グループを検索するには、Directory Number Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、P.A-4 の「[Dependency Records へのアクセス](#)」を参照してください。

電話機から電話番号を削除しても、Cisco CallManager 内にはその番号がまだ残っています。電話機に関連付けられている電話番号のリストを表示するには、Route Plan Report メニュー オプションを使用します。詳細については、P.51-4 の「[割り当てられていない電話番号の削除](#)」を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** Device > Phone の順に選択します。

Find and List Phones ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、**Find** をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

**ステップ 3** 削除する電話番号を含むデバイス名を選択します。

Phone Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** 左側の Association Information 領域で、削除する回線を選択します。

Directory Number Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 5** Associated Devices ペインで、この電話番号を削除する電話機のデバイス名を選択します。

**ステップ 6** Associated Devices ペインの下にある下矢印をクリックします。

電話機の名前が Dissociate Devices ペインに移動します。

**ステップ 7** Directory Number Configuration ウィンドウの下部にある **Save** ボタンをクリックします。

その電話番号が削除された状態で、Phone Configuration ウィンドウが表示されます。変更内容が電話機に自動的に適用されます。ただし、**Reset Phone** をクリックすることもできます。詳細については、P.70-5 の「[電話機のリセット](#)」を参照してください。

---

### 追加情報

P.49-27 の「[関連項目](#)」を参照してください。

# Cisco Unity または Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成

Directory Number Configuration ウィンドウの「Create Cisco Unity User」リンクを使用すると、管理者は Cisco CallManager Administration から個々に Cisco Unity および Cisco Unity Connection ボイスメールボックスを作成できます。

## 始める前に

- Unity の管理者が適切なソフトウェアをインストールしていることを確認する ( Cisco CallManager サーバの Voice Mailbox asp ページのインストールを含む )。『Cisco CallManager 5.0 Integration Guide for Cisco Unity 4.0』または『Cisco CallManager 5.0 SCCP Integration Guide for Cisco Unity Connection 2.1』を参照してください。
- ボイス メッセージ サービス用に Cisco CallManager を設定する必要がある。『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」を参照してください。
- Cisco Unity または Cisco Unity Connection サーバを設定する必要がある。該当する Cisco Unity インストールガイドを参照してください。
- Cisco Unity または Cisco Unity Connection Cisco CallManager Integrated Voice Mailbox Configuration が Cisco Unity または Cisco Unity Connection サーバで使用可能になっていることを確認する。『Cisco CallManager 5.0 Integration Guide for Cisco Unity 4.0』または『Cisco CallManager 5.0 SCCP Integration Guide for Cisco Unity Connection 2.1』を参照してください。
- Cisco RIS Data Collector サービスがアクティブになっていることを確認する。『Cisco CallManager Serviceability システム ガイド』および『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』を参照してください。
- Directory Number Configuration ウィンドウで、Voice Mail Profile が設定され、パイロット番号を含んでいること、または None に設定されていることを確認する。Voice Mail Profile が No Voice Mail に設定されている場合、「Create Cisco Unity User」リンクは表示されません。



(注)

End User Configuration ウィンドウにも「Create Cisco Unity User」リンクがあります。

## 手順

- ステップ 1** Call Routing > Directory Number の順に選択し、Add New をクリックします。
- ステップ 2** 適切な設定値を入力します ( 表 49-1 を参照 )。
- ステップ 3** ウィンドウの右上隅にある Related Links ドロップダウン リスト ボックスから、「Create Cisco Unity User」リンクを選択し、Go をクリックします。  
  
Add Cisco Unity User ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** Application Server ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unity ユーザを作成する Cisco Unity または Cisco Unity Connection サーバを選択し、Next をクリックします。
- ステップ 5** Subscriber Template ドロップダウン リスト ボックスから、使用するユーザテンプレートを選択します。

**ステップ 6** Save をクリックします。

Cisco Unity または Cisco Unity Connection メールボックスが作成されます。Directory Number Configuration ウィンドウで、Related Links 内のリンクが「Edit Cisco Unity User」に変わります。

これで、Cisco Unity Administration に、作成したメールボックスを表示できます。Cisco Unity または Cisco Unity Connection のマニュアルを参照してください。

---

**(注)**

Cisco Unity は、Cisco CallManager からのデータの同期を監視します。同期時間は、Tools の下の Cisco Unity Administration ( Import CallManager Users、 Sync CallManager ) で設定できます。Cisco Unity のマニュアルを参照してください。

---

**追加情報**

P.49-27 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 電話番号の設定値

表 49-1 では、Directory Number Configuration ウィンドウで使用可能なフィールドについて説明します。

表 49-1 電話番号の設定値

フィールド	説明
<b>電話番号の情報</b>	
Directory Number	<p>ダイヤル可能な電話番号を入力します。この値には、数字とルートパターンのワイルドカード、および特殊文字((. )と( @ )を除く )を指定できます。</p> <p> (注) 電話番号としてパターンが使用されている場合、電話機の表示、およびダイヤルされた電話機への発信者 ID の表示には、数字以外の文字が含まれます。このような表示を避けるために、Display (Internal Caller ID)、Line Text Label、および External Phone Number Mask に値を入力することをお勧めします。</p> <p>入力する電話番号が、複数のパーティションに表示される場合があります。</p> <p> (注) JTAPI または TAPI アプリケーションでデバイスを制御したりモニタしたりする場合は、そのデバイスに同一の電話番号を持つ複数のインスタンス(パーティションは異なる )を設定しないでください。</p>
Route Partition	<p>この電話番号が属するパーティションを選択します。Directory Number フィールドに入力する電話番号が、選択したパーティション内で固有のものであることを確認してください。電話番号へのアクセスを制限しない場合は、パーティションに &lt;None&gt; を選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで設定された数よりもパーティションの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Partition ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで希望するパーティション名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System &gt; Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
Description	電話番号とルートパターンの説明を入力します。

表 49-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
Alerting Name	<p>発信者の電話機に表示させる名前 (警告名) を入力します。</p> <p>この設定は QSIG プロトコルの Identification Service をサポートし、共有および非共有の電話番号に適用されます。共有の回線表示を持つ電話番号に警告名を設定すると、着側 PINX で電話機の呼び出し音が鳴った時に、システムが次の作業を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 電話番号に割り当てられた発信者の名前を転送します。</li> <li>• 変換パターン (制限がある場合) に設定された Connected Name Restrictions (CONR) を適用します。ルートパターン設定に応じて、発信 PINX が CONR を変更する場合があります。</li> </ul> <p>警告名を設定しない場合、発信者の電話機に「Name Not Available」と表示される場合があります。Display (Internal Caller ID) フィールドに名前を入力しない場合、Alerting Name フィールド内の情報が Display (Internal Caller ID) フィールドに表示されます。</p>
ASCII Alerting Name	<p>このフィールドには、Alerting Name フィールドと同じ情報を指定します。ただし、入力は ASCII 文字に制限されます。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、Alerting Name ASCII フィールドの内容が表示されます。</p>
Active	<p>Directory Number Configuration ウィンドウにこのチェックボックスを表示するには、Route Plan Report ウィンドウから、割り当てられていない電話番号にアクセスします。このチェックボックスをオンにすると、この電話番号へのコールを転送できるようになります (転送が設定されている場合)。このチェックボックスをオフにすると、Cisco CallManager はその電話番号を無視します。</p>
Allow Control of Device from CTI	<p>このチェックボックスをオンにすると、CTI から、この電話番号が関連付けられたデバイスの回線を制御および監視できます。</p> <p>電話番号が共有回線を指定している場合、関連付けられたデバイスの少なくとも 1 つが、CTI でサポートされるデバイス タイプおよびプロトコルの組み合わせを指定しているときは、チェックボックスがオンになっていることを確認します。</p>
Line Group	<p>このドロップダウン リスト ボックスから、この DN を関連付ける回線グループを選択します。</p> <p>回線グループの回線グループ情報を編集または表示するには、ドロップダウン リスト ボックスから回線グループを選択し、Edit Line Group ボタンをクリックします。回線グループの設定の詳細については、P.36-1 の「<a href="#">回線グループの設定</a>」を参照してください。</p>

表 49-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
Associated Devices	<p>この DN を電話機に関連付けると、この DN が関連付けられた電話機がこのペインに表示されます。</p> <p>この DN が関連付けられた電話機を編集するには、Associated Devices ペインでデバイス名を選択し、<b>Edit Device</b> ボタンをクリックします。選択したデバイスの Phone Configuration ウィンドウが表示されます。電話機の設定の詳細については、「Cisco IP Phone の設定」の章を参照してください。</p> <p>この DN に対して定義されたライン アピアランスを編集するには、Associated Devices ペインでデバイス名を選択し、<b>Edit Line Appearance</b> ボタンをクリックします。Directory Number Configuration ウィンドウがリフレッシュされ、選択したデバイスについて、この DN のライン アピアランスが表示されます。</p>
Dissociate Devices	DN とデバイスの関連付けを解除する場合、この DN の関連付けを解除するデバイスがこのペインに表示されます。
<b>電話番号の設定値</b>	
Voice Mail Profile	<p>Voice Mail Profile Configuration に定義されているボイスメール プロファイルのリストから選択します。</p> <p>最初のオプションは、&lt;None&gt; で、Voice Mail Profile Configuration で設定された現在のデフォルト ボイスメール プロファイルを表しています。</p>

表 49-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、この電話番号からコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。選択された値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。電話番号のコーリング サーチ スペースの設定情報については、P.49-26 の「Calling Search Space」を参照してください。</p> <p>このフィールドに変更を加えると、Call Pickup Group フィールドにリストされている番号が更新されます。</p> <p>コーリング サーチ スペースは、Forward All、Forward Busy、Forward No Answer、Forward No Coverage、および Forward on Failure の電話番号に対して設定できます。選択された値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</p> <p>Call Forward All を正しく動作させるには、Primary Forward All Calling Search Space または Secondary Forward All Calling Search Space の一方または両方を設定する必要があります。システムはこれらの連結フィールド (Primary CFA CSS + Secondary CFA CSS) を使用して、CFA 転送先を確認し、その CFA 転送先にコールを転送します。</p> <p> (注) システムでパーティションとコーリング サーチ スペースが使用されている場合は、他のコール転送のコーリング サーチ スペースも設定することをお勧めします。コールをコール転送先に転送またはリダイレクトする場合は、設定されたコール転送のコーリング サーチ スペースを使用してコールが転送されます。転送のコーリング サーチ スペースが None の場合、システムでパーティションとコーリング サーチ スペースが使用されているときは、転送動作が失敗することがあります。たとえば、Forward Busy Destination が設定されている場合は、Forward Busy Calling Search Space も設定する必要があります。Forward Busy Calling Search Space が設定されていない場合、Forward Busy Destination がパーティション内にあるときは、転送動作は失敗します。</p> <p>Cisco IP Phone ユーザ オプション ウィンドウまたは電話機の CFwdAll ソフトキーを使用してコールを転送する場合、回線 CSS とデバイス CSS の自動的な連結は使用されません。設定された Primary CFA CSS と Secondary CFA CSS だけが使用されます。これらのフィールドがどちらも &lt;None&gt; の場合、連結によって 2 つのヌルパーティションが生じます。その結果、転送動作は失敗します。</p> <p>ユーザが電話機上でコールを転送するのを制限する場合は、Forward All Calling Search Space フィールドから、限定的なコーリング サーチ スペースを選択する必要があります。</p> <p>詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「パーティションおよびコーリング サーチ スペース」を参照してください。</p>

表 49-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
Presence Group	<p>このフィールドには、プレゼンス機能を設定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、この電話番号のプレゼンス グループを選択します。選択されたグループでは、この電話番号を監視できるデバイス、エンドユーザ、およびアプリケーション ユーザが指定されます。</p> <p>Presence Group のデフォルト値は、Standard Presence グループになっています (このグループはインストール時に設定されます)。ドロップダウン リスト ボックスには、Cisco CallManager Administration で設定されたプレゼンス グループも表示されます。</p> <p>グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックするため、プレゼンスグループに対するプレゼンス認可が処理されます。グループ間の権限の設定については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。</p>
AAR Group	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
User Hold Audio Source	<p>ユーザが保留操作を開始したときに再生されるオーディオ ソースを選択します。</p>
Network Hold Audio Source	<p>ネットワークが保留操作を開始したときに再生されるオーディオ ソースを選択します。</p>
Auto Answer	<p>次のいずれかを選択し、この電話番号の Auto Answer 機能をアクティブにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Auto Answer Off &lt; デフォルト &gt;</li> <li>ヘッドセットでの Auto Answer</li> <li>スピーカフォンでの Auto Answer</li> </ul> <p> (注) ヘッドセットでの Auto Answer またはスピーカフォンでの Auto Answer を選択する場合は、ヘッドセットまたはスピーカフォンが使用可能であることを確認します。</p> <p> (注) 共有回線を持つデバイスには Auto Answer を設定しないでください。</p>

表 49-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>コール転送とコール ピックアップの設定値</b>	
Forward All	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号がコールをすべて転送するように設定されている場合の、この電話番号へのコールの転送処理を指定します。ユーザが電話機から Call Forward All をアクティブにすると、入力された Forward All 転送先を検証するために、Calling Search Space フィールドが使用されます。このフィールドは、コールを Call Forward All 転送先にリダイレクトするときにも使用されます。</p> <p>次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Voice Mail : Voice Mail Profile Configuration ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p> <b>(注)</b> このチェックボックスがオンになっていると、Cisco CallManager は、Destination ボックスと Calling Search Space の設定値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Destination : この設定値は、すべてのコールの転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> <li>• Calling Search Space : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul>
Secondary Calling Search Space for Forward All	<p>コール転送は回線ベースの機能であるため、デバイスのコーリング検索スペースが不明の場合、システムはコールを転送するときに、回線のコーリング検索スペースのみを使用します。回線のコーリング検索スペースが限定的であり、ルーティング可能でない場合、転送は失敗します。</p> <p>Call Forward All のセカンダリ コーリング検索スペースを追加すると、転送が可能なソリューションが得られます。Call Forward All のプライマリ コーリング検索スペースと Call Forward All のセカンダリ コーリング検索スペースは連結されます ( Primary CFA CSS + Secondary CFA CSS )。Call Forward All が処理されます。Cisco CallManager は、この連結を使用して、CFA 転送先を検証し、コールを転送します。</p>

表 49-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
Forward Busy Internal	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号がビジー状態の場合の、この電話番号への内部コールの転送処理を指定します。コールを転送先にリダイレクトするときは、コール転送先と Calling Search Space フィールドが使用されます。</p> <p>次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Voice Mail : 内部コールに対して Voice Mail Profile Configuration ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p> (注) このチェックボックスがオンの場合は、ボイスメールパイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Cisco CallManager は、Destination ボックスと Calling Search Space の設定値を無視します。Calling Search Space を <b>None</b> に設定すると、発信デバイスのコーリングサーチスペースが使用されます。</p> <p> (注) 内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの Voice Mail チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの Voice Mail チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Destination : 外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> </ul> <p> (注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの Destination フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの Destination フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Calling Search Space : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul> <p> (注) 内部コールに対して Calling Search Space を選択した場合、システムにより外部コールの Calling Search Space 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを転送する場合は、外部コールの Calling Search Space ドロップダウンリストボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 49-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
Forward Busy External	<p data-bbox="627 309 1479 443">このフィールドの行の設定値は、電話番号がビジー状態の場合の、この電話番号への外部コールの転送処理を指定します。コールを転送先にリダイレクトするときは、コール転送先と Calling Search Space フィールドが使用されます。</p> <p data-bbox="627 465 994 499">次の値のいずれかを指定します。</p> <ul data-bbox="638 521 1479 611" style="list-style-type: none"> <li>• Voice Mail : 外部コールに対して Voice Mail Profile Configuration ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p data-bbox="627 645 675 678"></p> <p data-bbox="627 689 1479 835"><b>(注)</b> このチェックボックスがオンの場合は、ボイスメールパイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Cisco CallManager は、Destination ボックスと Calling Search Space の設定値を無視します。Calling Search Space を <b>None</b> に設定すると、発信デバイスのコーリングサーチスペースが使用されます。</p> <hr/> <p data-bbox="627 902 675 936"></p> <p data-bbox="627 947 1479 1093"><b>(注)</b> 内部コールに対して Voice Mail チェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの Voice Mail チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの Voice Mail チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul data-bbox="638 1149 1479 1205" style="list-style-type: none"> <li>• Destination : 外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> </ul> <p data-bbox="627 1238 675 1272"></p> <p data-bbox="627 1283 1479 1406"><b>(注)</b> 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの Destination フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの Destination フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul data-bbox="638 1462 1479 1518" style="list-style-type: none"> <li>• Calling Search Space : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul> <p data-bbox="627 1541 675 1574"></p> <p data-bbox="627 1585 1479 1731"><b>(注)</b> 内部コールに対して Calling Search Space を選択した場合、システムにより外部コールの Calling Search Space 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを転送する場合は、外部コールの Calling Search Space ドロップダウンリストボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 49-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
Forward No Answer Internal	<p data-bbox="627 309 1481 443">このフィールドの行の設定値は、電話番号が応答しない場合の、この電話番号への内部コールの転送処理を指定します。コールを転送先にリダイレクトするときは、コール転送先と Calling Search Space フィールドが使用されます。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul data-bbox="639 472 1481 533" style="list-style-type: none"> <li>• Voice Mail : Voice Mail Profile Configuration ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p data-bbox="627 562 1481 757"> (注) このチェックボックスがオンの場合は、ボイスメールパイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Cisco CallManager は、Destination ボックスと Calling Search Space の設定値を無視します。Calling Search Space を None に設定すると、発信デバイスのコーリングサーチスペースが使用されます。</p> <p data-bbox="627 808 1481 1010"> (注) 内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの Voice Mail チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの Voice Mail チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul data-bbox="639 1061 1481 1151" style="list-style-type: none"> <li>• Destination : この設定値は、コールに応答がないときに、内部コールの転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> </ul> <p data-bbox="627 1180 1481 1352"> (注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの Destination フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの Destination フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul data-bbox="639 1404 1481 1464" style="list-style-type: none"> <li>• Calling Search Space : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul> <p data-bbox="627 1494 1481 1666"> (注) 内部コールに対して Calling Search Space を選択した場合、システムにより外部コールの Calling Search Space 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを転送する場合は、外部コールの Calling Search Space ドロップダウンリストボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 49-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
Forward No Answer External	<p data-bbox="627 304 1479 443">このフィールドの行の設定値は、電話番号が応答しない場合の、この電話番号への外部コールの転送処理を指定します。コールを転送先にリダイレクトするときは、コール転送先と Calling Search Space フィールドが使用されます。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul data-bbox="639 465 1479 533" style="list-style-type: none"> <li>• Voice Mail : Voice Mail Profile Configuration ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p data-bbox="627 555 675 600"></p> <p data-bbox="627 600 1479 757"><b>(注)</b> このチェックボックスがオンの場合は、ボイスメールパイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Cisco CallManager は、Destination ボックスと Calling Search Space の設定値を無視します。Calling Search Space を <b>None</b> に設定すると、発信デバイスのコーリングサーチスペースが使用されます。</p> <p data-bbox="627 801 675 846"></p> <p data-bbox="627 846 1479 1014"><b>(注)</b> 内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの Voice Mail チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの Voice Mail チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul data-bbox="639 1059 1479 1149" style="list-style-type: none"> <li>• Destination : この設定値は、コールに応答がないときに、外部コールの転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> </ul> <p data-bbox="627 1171 675 1216"></p> <p data-bbox="627 1216 1479 1350"><b>(注)</b> 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの Destination フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの Destination フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul data-bbox="639 1395 1479 1462" style="list-style-type: none"> <li>• Calling Search Space : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul> <p data-bbox="627 1473 675 1518"></p> <p data-bbox="627 1518 1479 1675"><b>(注)</b> 内部コールに対して Calling Search Space を選択した場合、システムにより外部コールの Calling Search Space 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを転送する場合は、外部コールの Calling Search Space ドロップダウンリストボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 49-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
Forward No Coverage Internal	<p>コールを転送先にリダイレクトするときは、コール転送先と Calling Search Space フィールドが使用されます。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Voice Mail : Voice Mail Profile Configuration ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p> (注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco CallManager は、Destination ボックスと Calling Search Space の設定値を無視します。内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの Voice Mail チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの Voice Mail チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Destination : この設定値は、内部無接続コールの転送先の電話番号を指定します ( 該当の電話番号を制御するアプリケーションが動作していない場合 )。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> </ul> <p> (注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの Destination フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの Destination フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Calling Search Space : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul> <p> (注) 内部コールに対して Calling Search Space を選択した場合、システムにより外部コールの Calling Search Space 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを転送する場合は、外部コールの Calling Search Space ドロップダウン リスト ボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 49-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
Forward No Coverage External	<p>コールを転送先にリダイレクトするときは、コール転送先と Calling Search Space フィールドが使用されます。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Voice Mail : Voice Mail Profile Configuration ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p> (注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco CallManager は、Destination ボックスと Calling Search Space の設定値を無視します。内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの Voice Mail チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの Voice Mail チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Destination : この設定値は、内部無接続コールの転送先の電話番号を指定します ( 該当の電話番号を制御するアプリケーションが動作していない場合 )。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> </ul> <p> (注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの Destination フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの Destination フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Calling Search Space : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul> <p> (注) 内部コールに対して Calling Search Space を選択した場合、システムにより外部コールの Calling Search Space 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを転送する場合は、外部コールの Calling Search Space ドロップダウンリストボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 49-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
Forward on CTI Failure	<p>このフィールドは、CTI ルート ポイントおよび CTI ポートのみ適用されます。この行の設定値は、CTI ルート ポイントまたは CTI ポートが失敗した場合の、この CTI ルート ポイントまたは CTI ポートへの外部コールの転送処理を指定します。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Voice Mail : Voice Mail Profile Configuration ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</li> </ul> <p> (注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco CallManager は、Destination ボックスと Calling Search Space の設定値を無視します。内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの Voice Mail チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイス メッセージ システムに転送しない場合、外部コールの Voice Mail チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Destination : この設定値は、内部無接続コールの転送先の電話番号を指定します ( 該当の電話番号を制御するアプリケーションが動作していない場合 )。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。</li> </ul> <p> (注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの Destination フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの Destination フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Calling Search Space : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</li> </ul> <p> (注) 内部コールに対して Calling Search Space を選択した場合、システムにより外部コールの Calling Search Space 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリング サーチ スペースに外部コールを転送する場合は、外部コールの Calling Search Space ドロップダウン リスト ボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>
No Answer Ring Duration (seconds)	<p>このフィールドは Call Forward No Answer Destination と併用し、電話機で呼び出し音が鳴ってから転送が開始されるまでの時間を示すタイマーを設定します。この設定をブランクのままにすると、Cisco CallManager サービスパラメータの Forward No Answer Timer に設定された値が使用されます。</p> <p> <b>注意</b> デフォルトでは、Cisco CallManager は、No Answer Ring Duration の時間よりも T301 タイマーの時間を長くします。T301 タイマーの設定時間が No Answer Ring Duration よりも先に時間切れになった場合は、コールが終了し、コール転送が行われません。この動作を選択する場合は、No Answer Ring Duration の時間を T301 タイマーよりも大きくするように設定できます。T301 タイマーについては、System &gt; Service Parameters の順に選択し、表示されたウィンドウで、サーバ、Cisco CallManager サービス、およびパラメータを選択します。</p>

表 49-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
Call Pickup Group	(指定されたパーティション内で)この電話番号へのコールに応答するために、ダイヤル可能な番号を選択します。
<b>MLPP 代替パーティの設定値</b>	
Target (Destination)	この電話番号が優先コールを受信し、この番号とそのコール転送先が優先コールに応答しない場合に MLPP 優先コールが誘導される番号を入力します。  この値には、数字、シャープ(#) およびアスタリスク(*)を指定できます。
MLPP Calling Search Space	ドロップダウン リスト ボックスから、MLPP 代替パーティのターゲット(宛先)番号に関連付けられたコーリングサーチスペースを選択します。電話番号のコーリングサーチスペースの設定情報については、P.49-26 の「Calling Search Space」を参照してください。
MLPP No Answer Ring Duration (seconds)	秒数(4 ~ 60)を指定します。この電話番号とそのコール転送先が MLPP 優先コールに応答しない場合、ここで指定した秒数が経過すると、MLPP 優先コールがこの電話番号の代替パーティに誘導されます。  この設定をブランクのままにすると、Cisco CallManager エンタープライズパラメータの Precedence Alternate Party Timeout に設定された値が使用されます。
<b>Line [number] on Device [device name]</b>	
 <p><b>(注)</b> これらのフィールドが表示されるのは、この電話番号をデバイスに関連付けた場合のみです。</p>	
Display (Internal Caller ID)	着側に表示されるテキスト。このフィールドをブランクのままにすると、内線番号が表示されます。  最長 30 文字の英数字を使用してください。通常、ユーザ名または電話番号を使用します。電話番号を使用した場合、コールを受信した人は発信者の固有 ID を見ることはできません。  右側のチェックボックス (Update Shared Device Settings) をオンにし、 <b>Propagate Selected</b> ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときのみ表示されます)。
ASCII Display (Internal Caller ID)	このフィールドには、Display (Internal Caller ID) フィールドと同じ情報を指定します。ただし、入力は ASCII 文字に制限されます。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、ASCII Display (Internal Caller ID) フィールドの内容が表示されます。  右側のチェックボックス (Update Shared Device Settings) をオンにし、 <b>Propagate Selected</b> ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときのみ表示されます)。

表 49-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
Line Text Label	<p>このフィールドは、回線の表示に電話番号を示さないようにする場合に限り使用します。回線 / 電話機の組み合わせに対し電話番号を識別するテキストを入力します。</p> <p>複数の電話番号をモニタする秘書や担当者がそれらの電話番号を識別できるように、所属長の氏名、部門名、または他の適切な情報の入力をお勧めします。</p> <p>右側のチェックボックス (Update Shared Device Settings) をオンにし、<b>Propagate Selected</b> ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスのみ適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにのみ表示されます)。</p>
ASCII Line Text Label	<p>このフィールドには、<i>Line Text Label</i> フィールドと同じ情報を指定します。ただし、入力は ASCII 文字に制限されます。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、<i>ASCII Line Text Label</i> フィールドの内容が表示されます。</p> <p>右側のチェックボックス (Update Shared Device Settings) をオンにし、<b>Propagate Selected</b> ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスのみ適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにのみ表示されます)。</p>
External Phone Number Mask	<p>この回線からのコールの発信時に発信者 ID 情報の送信に使用される電話番号 (またはマスク) を指定します。</p> <p>最長 24 桁の数字および「X」文字を入力できます。X は、電話番号を表し、パターンの末尾に指定する必要があります。たとえば、マスクを 972813XXXX に指定する場合、内線番号 1234 からの外部コールには、発信者 ID が 9728131234 と表示されます。</p> <p>右側のチェックボックス (Update Shared Device Settings) をオンにし、<b>Propagate Selected</b> ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスのみ適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにのみ表示されます)。</p>
Message Waiting Lamp Policy	<p>このフィールドでは、受話器のランプの点灯に関するポリシーを設定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>システムポリシーを使用 (電話番号は、サービス パラメータ「メッセージ受信のランプポリシー」の設定を参照します)</li> <li>点灯およびプロンプト</li> <li>プロンプトのみ</li> <li>点灯のみ</li> <li>なし</li> </ul> <p>右側のチェックボックス (Update Shared Device Settings) をオンにし、<b>Propagate Selected</b> ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスのみ適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにのみ表示されます)。</p>

表 49-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
Ring Setting (Phone Idle)	<p>このフィールドでは、着信コールが受信され、そのデバイスにそれ以外のアクティブなコールがない場合に、回線の表示に対するリング設定値を設定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Use system default</li> <li>• Disable</li> <li>• Flash only</li> <li>• Ring once</li> <li>• Ring</li> </ul> <p>右側のチェックボックス (Update Shared Device Settings) をオンにし、<b>Propagate Selected</b> ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにのみ表示されます)。</p> <p> (注) エンタープライズパラメータ、デバイスプール、またはデバイスレベルで MLPP Indication をオンにすると、MLPP Indication をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の Ring Setting が動作しません。</p>
Ring Setting (Phone Active)	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、この電話機で別回線に別のアクティブなコールがある場合に使用するリング設定を選択します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Use system default</li> <li>• Disable</li> <li>• Flash only</li> <li>• Ring once</li> <li>• Ring</li> <li>• Beep only</li> </ul> <p>右側のチェックボックス (Update Shared Device Settings) をオンにし、<b>Propagate Selected</b> ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにのみ表示されます)。</p> <p> (注) エンタープライズパラメータ、デバイスプール、またはデバイスレベルで MLPP Indication をオンにすると、MLPP Indication をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の Ring Setting が動作しません。</p>

表 49-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
Multiple Call/Call Waiting Settings on Device [device name]	
 <p>(注) これらのフィールドが表示されるのは、この電話番号をデバイスに関連付けた場合のみです。</p>	
Maximum Number of Calls	<p>デバイスの回線に最大 200 コールまで設定できます。デバイスに設定されるコールの合計数が、この制限要因になります。ある回線に対してコールの数を設定すると、別の回線で利用できるコールの数はそれだけ少なくなります。</p> <p>デフォルト値は 4 です。電話機が各回線に複数のコールを設定できない場合、デフォルト値は 2 です。</p> <p>CTI ルート ポイントの場合、各ポートに最大 10,000 コールまで設定できます。デフォルト値は 5000 コールです。このフィールドは、Busy Trigger フィールドと併用します。</p> <p> (注) デフォルトでは、CTI ルート ポイントに設定可能なアクティブコールの最大数は 5000 コールになっていますが、シスコでは、コールの最大数をルート ポイントあたり 200 以下に設定することをお勧めします。この設定により、システム パフォーマンスの低下を防ぐことができます。CTI アプリケーションで 200 を超えるコールが必要な場合は、複数の CTI ルート ポイントを設定することをお勧めします。</p> <p> <b>ヒント</b> 共用の回線表示を持つデバイスに対して、この設定がどのように機能するかを確認するには、『Cisco CallManager システム ガイド』の「共有回線の表示」を参照してください。</p>
Busy Trigger	<p>この設定は、Maximum Number of Calls および Call Forward Busy と連携し、回線で使われるコールの最大数を決定します。たとえば、Maximum Number of Calls に 50、Busy Trigger に 40 をそれぞれ設定した場合、41 番目の着信コールは、ビジーのために拒否されます (Call Forward Busy が設定されている場合は転送されます)。この回線が共有されている場合は、すべての回線がビジーになった後に着信コールが拒否されます。</p> <p>このフィールドは、CTI ルート ポイントの Maximum Number of Calls と併用します。デフォルト値は 4500 コールです。</p> <p> <b>ヒント</b> 共用の回線表示を持つデバイスに対して、この設定がどのように機能するかを確認するには、『Cisco CallManager システム ガイド』の「共有回線の表示」を参照してください。</p>

表 49-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
Forwarded Call Information Display on Device [device name]	
 <p>(注) これらのフィールドが表示されるのは、この電話番号をデバイスに関連付けた場合のみです。</p>	
Caller Name	このチェックボックスをオンにすると、コール転送時に発信者名が表示されます。
Caller Number	このチェックボックスをオンにすると、コール転送時に発信者 ID が表示されます。
Redirected Number	このチェックボックスをオンにすると、コール転送時にリダイレクトされた番号が表示されます。
Dialed Number	このチェックボックスをオンにすると、コール転送時に最初にダイヤルされた番号が表示されます。

### Calling Search Space

Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リストボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで設定された数よりもコーリングサーチスペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リストボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリングサーチスペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリングサーチスペースのリストで、希望するコーリングサーチスペース名をクリックし、OK をクリックします。



(注) リストボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。

### 追加情報

P.49-27 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [電話番号の設定の概要 \( P.49-2 \)](#)
- [電話番号の検索 \( P.49-3 \)](#)
- [電話番号の設定 \( P.49-4 \)](#)
- [電話機からの電話番号の削除 \( P.49-6 \)](#)
- [Cisco Unity または Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成 \( P.49-7 \)](#)
- [電話番号の設定値 \( P.49-9 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話番号の概要」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話番号の設定チェックリスト」
- [回線グループの設定 \( P.36-1 \)](#)
- [割り当てられていない電話番号の削除 \( P.51-4 \)](#)
- [ゲートウェイの設定 \( P.69-1 \)](#)
- [電話機のリセット \( P.70-5 \)](#)
- [電話機の検索 \( P.70-32 \)](#)
- [Cisco IP Phone の設定 \( P.70-3 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP Phone」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機能」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity Cisco CallManager 統合メールボックス設定」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」
- 『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」





## Meet-Me Number/Pattern の設定

---

Meet-Me 会議では、電話番号の割り当てが必要です。Cisco CallManager Administration は、ユーザがこの機能を利用できるように、一連の Meet-Me 会議電話番号をユーザに通知しておく必要があります。

## Meet-Me Number/Pattern の検索

ネットワーク内にはいくつかの Meet-Me Number/Pattern が存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定の Meet-Me Number/Pattern を見つけることができます。Meet-Me Number/Pattern を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、Meet-Me Number/Pattern の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、Meet-Me Number/Pattern の検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Meet-Me Number/Pattern の順に選択します。

Find and List Meet-Me Numbers ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、Meet-Me Number/Pattern を検索します。

**ステップ 2** 最初の Find Number/Pattern where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Number
- Partition
- Description



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する基準によって、検索時に生成される Meet-Me Number/Pattern リストのソート方法が決まります。たとえば、Partition を選択すると、Partition 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find Number/Pattern where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されている Meet-Me Number/Pattern をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出された Meet-Me Number/Pattern のリストが、次の項目別に表示されます。

- Meet-Me Number/Pattern
- Partition
- Description



**(注)** 該当する Meet-Me Number/Pattern の横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Meet-Me Numbers ウィンドウから複数の Meet-Me Number/Pattern を削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内の Meet-Me Number/Pattern をすべて削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する番号、関連付けられたパーティション、または説明をクリックします。

選択した Meet-Me Number/Pattern がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.50-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Meet-Me Number/Pattern の設定

Meet-Me Number/Pattern を追加、コピー、および更新する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。P.2-1 の「サーバの設定」を参照してください。
- デバイス プールが設定済みであること。P.9-1 の「デバイス プールの設定」を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Meet-Me Number/Pattern の順に選択します。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存の Meet-Me Number/Pattern をコピーするには、該当する Meet-Me Number/Pattern を見つけます (P.50-2 の「Meet-Me Number/Pattern の検索」を参照)。コピーする Meet-Me Number/Pattern をクリックします。Meet-Me Number/Pattern Configuration ウィンドウが表示されます。Copy をクリックし、ステップ 3 に進みます。
- Meet-Me Number/Pattern を追加するには、Add New ボタンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 既存の Meet-Me Number/Pattern を更新するには、該当する Meet-Me Number/Pattern を見つけます (P.50-2 の「Meet-Me Number/Pattern の検索」を参照)。更新する Meet-Me Number/Pattern をクリックし、ステップ 3 に進みます。



(注) 必要に応じて、番号またはパターンを変更することができます (たとえば、5000 を 500X に変更できます)。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 50-1 を参照)。

**ステップ 4** Save をクリックします。

### 追加情報

P.50-6 の「関連項目」を参照してください。

## Meet-Me Number/Pattern の設定値

表 50-1 では、Meet-Me Number/Pattern の設定値について説明します。

表 50-1 Meet-Me Number/Pattern の設定値

フィールド	説明
Directory Number or Pattern	Meet-Me の電話番号または番号の範囲（たとえば、8000 ~ 8009）を入力します。
Description	Meet-Me Number/Pattern を説明する最大 30 文字の英数字を入力します。
Partition	<p>パーティションを使用して Meet-Me Number/Pattern へのアクセスを制限する場合は、ドロップダウン リスト ボックスから適切なパーティションを選択します。</p> <p>Meet-Me Number/Pattern へのアクセスを制限しない場合は、パーティションに &lt;None&gt; を選択します。詳細については、P.42-1 の「<a href="#">パーティションの設定</a>」を参照してください。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもパーティションの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Partition ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで希望するパーティション名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System &gt; Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters の下の Max List Box Items フィールドを更新します。</p> <p> (注) Meet-Me Number/Pattern とパーティションの組み合わせが、Cisco CallManager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>

### 追加情報

P.50-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Meet-Me Number/Pattern の削除

Meet-Me Number/Pattern を削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。
- デバイス プールが設定済みであること。
- Meet-Me Number/Pattern が設定済みであること。

### 手順

---

**ステップ 1** [P.50-2 の「Meet-Me Number/Pattern の検索」](#)の手順を使用して、Meet-Me Number/Pattern を検索します。

**ステップ 2** 削除する Meet-Me Number/Pattern をクリックします。

**ステップ 3** Delete をクリックします。

---

### 追加情報

[P.50-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

- [パーティションの設定 \( P.42-1 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の検索 \( P.50-2 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の設定 \( P.50-4 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の削除 \( P.50-6 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の設定値 \( P.50-5 \)](#)
- [ハードウェア コンファレンス デバイスの追加 \( P.54-5 \)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加 \( P.54-7 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \( P.54-13 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの削除 \( P.54-14 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Conference Bridge」



## ルート プラン レポート

ルート プラン レポートとは、システム内のすべての割り当てられた（または割り当てられていない）電話番号（DN）、コール パーク（転送先保留）番号、コール ピックアップ番号、会議番号、ルート パターン、変換パターン、メッセージ ウェイティング インジケータ、ボイスメール ポート、および Cisco CallManager Attendant Console パイロット番号のリストです。ルート プラン レポートを使用して、Pattern/Directory Number、Partition、または Route Detail のフィールドをクリックすることにより、リストの一部または全部を表示すること、および関連する設定ウィンドウに直接進むことができます。

さらに、ルート プラン レポートを使用して、.csv ファイルにレポート データを保存し、他のアプリケーションに対してインポートを可能にすることもできます。この .csv ファイルには、電話機の電話番号（DN）、ルート パターン、パターンの使用方法、デバイス名、およびデバイスの説明を含む、Web ページよりも詳しい情報が入っています。

Cisco CallManager は、ルート プランを使用して、内部コールと外部 PSTN（公衆電話交換網）コールの両方をルート指定します。ルート プランの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」を参照してください。

ルート プラン レコードを表示するには、次のトピックを参照してください。

- [ルート プラン レコードの表示 \(P.51-2\)](#)
- [割り当てられていない電話番号の削除 \(P.51-4\)](#)
- [ファイル内のルート プラン レポートの表示 \(P.51-6\)](#)

## ルート プラン レコードの表示

この項では、ルート プラン レコードを表示する手順について説明します。ネットワーク内にはいくつものレコードが存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の基準を指定して、特定のルート プラン レコードを見つけることができます。カスタマイズされたルート プラン レポートを生成する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** Call Routing > Route Plan Report の順に選択します。

Route Plan Report ウィンドウが表示されます。3 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、要件を満たすルート プラン レポートを指定します。

**ステップ 2** 最初の Find where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- All Patterns
- Unassigned DN
- Call Park
- Conference
- Directory Number
- Translation Pattern
- Call Pickup Group
- Route Pattern
- Message Waiting
- Hunt Pilot
- Voice Mail Port
- Attendant Console
- Domain Routing
- IP Routing

2 番目の Find where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Pattern/Directory Number
- Partition

3 番目の Find where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



**ヒント** データベースに登録されているルートプランをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。



**(注)** ルートプランレポートは、パターン/電話番号、対応するパーティション/パターンタイプ、およびルートの詳細を表示します。Route Detail 列には、ルートリスト情報(ルートグループおよび回線グループと関連ゲートウェイ、および使用ポート情報と一緒に)、またはゲートウェイ情報が表示されます。

検出されたルートプランのリストが、次の項目別に表示されます。

- Pattern/Directory Number icon
- Pattern/Directory Number
- Partition
- Type
- Route Detail

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致するパターン/電話番号のアイコン、名前、関連するパーティション、またはルートの詳細をクリックします。

選択したパターンがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.51-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 割り当てられていない電話番号の削除

この項では、ルートプランレポートから割り当てられていない電話番号を削除する手順について説明します。電話番号は、Cisco CallManager Administration の Directory Number Configuration ウィンドウで設定および削除されます。電話番号がデバイスまたは電話機から削除されても、その電話番号は Cisco CallManager データベース内に残っています。データベースから電話番号を削除するには、Route Plan Report ウィンドウを使用します。

### 手順

---

**ステップ 1** Call Routing > Route Plan Report の順に選択します。

Route Plan Report ウィンドウが表示されます。3 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、すべての割り当てられていない電話番号を含むルートプランレポートを指定します。

**ステップ 2** 電話番号の削除には、次の 3 つの方法があります。

- a. 削除する電話番号をクリックします。Directory Number Configuration ウィンドウが表示されたら、**Delete** をクリックします。
- b. 削除する電話番号の横にあるチェックボックスをオンにします。**Delete Selected** をクリックします。
- c. 検出された割り当てられていない電話番号をすべて削除するには、**Delete all Found Items** をクリックします。

電話番号を削除するかどうかを確認する、警告メッセージが表示されます。

**ステップ 3** 電話番号を削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。

---

### 追加情報

P.51-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 割り当てられていない電話番号の更新

この項では、ルートプランレポートから、割り当てられていない電話番号の設定を更新する手順について説明します。電話番号は、Cisco CallManager Administration の Directory Number Configuration ウィンドウで設定および削除されます。電話番号がデバイスから削除されても、その電話番号は Cisco CallManager データベースに残っています。電話番号の設定を更新するには、Route Plan Report ウィンドウを使用します。

### 手順

---

**ステップ 1** Call Routing > Route Plan Report の順に選択します。

Route Plan Report ウィンドウが表示されます。3 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、すべての割り当てられていない電話番号を含むルートプランレポートを指定します。

**ステップ 2** 更新する電話番号をクリックします。

Directory Number Configuration ウィンドウが表示されます。



**(注)** 電話番号およびパーティション以外の、電話番号の設定をすべて更新することができます。

**ステップ 3** コーリングサーチスペースまたは転送オプションなど、必要に応じて内容を更新します。

**ステップ 4** Save をクリックします。

Directory Number Configuration ウィンドウが表示され、電話番号フィールドが空白になります。

---

### 追加情報

P.51-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ファイル内のルートプランレポートの表示

ファイル .csv 内のルートプランレポートを表示する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** Call Routing > Route Plan Report の順に選択します。

Route Plan Report ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Route Plan Report ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **View In File** を選択し、**Go** をクリックします。ダイアログボックスが表示されます。

このダイアログボックスから、そのファイルを保存するか、別のアプリケーションにインポートすることができます。

**ステップ 3** **Save** をクリックします。

別のウィンドウが表示され、そのウィンドウで、必要なロケーションにこのファイルを保存できます。



**(注)** このファイルに別のファイル名を付けて保存することもできますが、ファイル名には、.csv 拡張子が必要です。

---

**ステップ 4** ファイルを保存するロケーションを選択し、**Save** をクリックします。これで、指定されたロケーションにこのファイルが保存されます。

**ステップ 5** 保存した .csv ファイルのアイコンをダブルクリックすると、このファイルの内容が表示されます。

---

## 関連項目

- [ルートプランレポート \(P.51-1\)](#)
- [ルートプランレコードの表示 \(P.51-2\)](#)
- [割り当てられていない電話番号の削除 \(P.51-4\)](#)
- [電話番号の設定 \(P.49-4\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」



## ダイヤル プランのインストール

Cisco International Dial Plan をインストールし、これを使用して、北米を除く特定の国に固有の番号計画を作成することができます。Cisco CallManager には、デフォルトで、North American Numbering Plan (NANP; 北米番号計画) が用意されています。他国のダイヤル プランの要件はその国に固有のものであるため、デフォルトの NANP 設定は、その国のダイヤル プランを作成するのに最適でないことがあります。Cisco International Dial Plan を使用すると、固有のダイヤル プランを作成および更新でき、世界中でシスコのお客様がこのダイヤル プランを使用できるようになります。

この章では、ダイヤル プランを Cisco CallManager サーバにインストールする方法について説明します。

ダイヤル プランをサーバにインストールする前に、対応するダイヤル プラン COP (Cisco Option Package) ファイルを Cisco CallManager サーバにダウンロードしておく必要があります。

使用可能なすべてのダイヤル プランに対応し、ダウンロード、インストール、および Cisco CallManager システムとの統合が可能な COP ファイルは、次の URL で入手できます。

<http://www.cisco.com/cgi-bin/tablebuild.pl/IDP>

COP ファイルのインストールの詳細については、『*Cisco CallManager International Dial Plans Deployment Guide*』を参照してください。

このロケーションからダイヤル プランをインストールする方法の詳細については、[P.52-4 の「Cisco CallManager でのダイヤル プランのインストール」](#)を参照してください。

Cisco CallManager 上でダイヤル プランを検索してインストールする手順は、次のとおりです。

- [ダイヤル プランの検索 \(P.52-2\)](#)
- [ダイヤル プランの編集 \(P.52-4\)](#)
- [Cisco CallManager でのダイヤル プランのインストール \(P.52-4\)](#)
- [NANP 以外のダイヤル プランに関するルート パターンの詳細の設定 \(P.52-5\)](#)
- [ダイヤル プランのアップグレード \(P.52-6\)](#)
- [ダイヤル プランのアンインストール \(P.52-7\)](#)
- [Cisco CallManager サービスの再起動 \(P.52-9\)](#)
- [関連項目 \(P.52-10\)](#)

## ダイヤル プランの検索

Cisco CallManager システム上でダイヤル プランを検索する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** Cisco CallManager Administration ウィンドウで、**Call Routing > Dial Plan Installer** の順に選択します。

Find and List Dial Plans ウィンドウが表示されます。

ネットワーク内にはいくつかのダイヤル プランが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、固有のダイヤル プランを特定することができます。サーバを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザ セッションでの作業中は、検索 / 表示ウィンドウでの検索設定がクライアント マシン上のクッキーに格納されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開く場合、検索に変更を加えない限り、Cisco CallManager の検索設定は保持されます。

**ステップ 2** 最初の Find Dial Plan where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Dial Plan
- Description

2 番目の Find Dial Plan where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。



ヒント

データベースに登録されているダイヤル プランをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたサーバのリストが、次の項目別に表示されます。

- Dial Plans
- Description
- Installed Version
- System Version



(注) Installed Version は、ノードにインストールされているダイアルプランのバージョンを指します。System Version は、クラスタの最初のノードで使用可能なダイアルプランの最新バージョンを指します。

---

#### 追加情報

P.52-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ダイヤル プランの編集

ダイヤル プランをインストール、アップグレード、またはアンインストールする手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** P.52-2 の「[ダイヤル プランの検索](#)」で定義されている手順を使用して、インストールするダイヤル プランを検索します。

**ステップ 2** レコードのリストで、検索条件と一致するダイヤル プランの名前をクリックします。

Dial Plan Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** 次の作業のいずれかを実行します。

- ダイヤル プランをインストールするには、P.52-4 の「[Cisco CallManager でのダイヤル プランのインストール](#)」を参照してください。
- ダイヤル プランをアップグレードするには、P.52-6 の「[ダイヤル プランのアップグレード](#)」を参照してください。
- ダイヤル プランをアンインストールするには、P.52-7 の「[ダイヤル プランのアンインストール](#)」を参照してください。

### 追加情報

P.52-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco CallManager でのダイヤル プランのインストール

ダイヤル プランをインストールする手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** P.52-2 の「[ダイヤル プランの検索](#)」で定義されている手順を使用して、インストールするダイヤル プランを検索します。

**ステップ 2** レコードのリストで、検索条件と一致するダイヤル プランの名前をクリックします。

Dial Plan Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** Dial Plan フィールドと Description フィールドに、ダイヤル プランの名前と説明が表示されます。

**ステップ 4** Installed Version に、Cisco CallManager サーバにインストールされている現在のバージョンが表示されます。ダイヤル プランのどのバージョンもインストールされていない場合、Installed Version には Not Installed と表示されます。

**ステップ 5** Available Version ドロップダウン リスト ボックスから、インストールするダイヤル プランのバージョンを選択します。

**ステップ 6** Install をクリックします。

Status に、ダイアルプランがインストールされたことが表示されます。

Installed Version フィールドに、Cisco CallManager サーバにインストールされたダイアルプランのバージョンが表示されます。

**ステップ 7** [ステップ 1](#) ~ [ステップ 6](#) を繰り返して、Cisco CallManager クラスタのすべてのノードでダイアルプランをインストールします。



(注)

ダイアルプランのインストールが完了したら、ダイアルプランをロードするために Cisco CallManager サービスを再起動します。

#### 追加情報

[P.52-10](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## NANP 以外のダイアルプランに関するルートパターンの詳細の設定

NANP 以外のダイアルプランを Cisco CallManager システムにインストールした場合は、Cisco CallManager の Route Details Configuration ウィンドウでルートパターンの詳細を設定するときは、必要なダイアルプランを選択できます。

ルートパターンの詳細を設定するときは、次の点に注意してください。

1. NANP 以外のダイアルプランの場合、Route Pattern レベルで設定を保持するときは、Route Details Configuration ウィンドウで次のどちらかの選択を行います。
  - a. Discard Digits フィールドで None を選択する。Discard Digits フィールドで None DDI を選択すると、ダイアルプランを選択しないことになります。
  - b. Discard Digits フィールドで、NANP 以外のダイアルプラン :No Digits を選択する（たとえば、AMNP:No Digits ）。
2. Route Group レベルの設定値を指定して Route Pattern の設定値を無効にする場合は、Discard Digits フィールドでそのダイアルプランに適した DDI を選択します。DDI の例には、NANP:PreDot や AMNP:PreDot があります。

#### 追加情報

[P.52-10](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ダイアル プランのアップグレード

NANP 以外のダイアル プランをすでにインストールしている場合、Cisco CallManager システムにインストールされているダイアル プランを、アップグレード バージョンのダイアル プランでアップグレードできます。



### 注意

既存のバージョンのダイアル プランでルート フィルタの句として 1 つ以上のタグを設定している場合、これらのタグがアップグレード バージョンに含まれていないときは、ダイアル プランのアップグレードは失敗します。新しいダイアル プランへのアップグレードを実行すると、それらのタグがすべてリスト表示されます。これらのタグをルート フィルタから分離した上で、再度 Cisco CallManager システムでダイアル プランのアップグレードを実行する必要があります。



### 注意

既存のバージョンのダイアル プランで Route Patterns/Translation Patterns/Route Lists に 1 つ以上の DDI を関連付けている場合、これらの DDI がアップグレード バージョンに含まれていないときは、ダイアル プランのアップグレードは失敗します。ダイアル プランのアップグレードを実行すると、これらの DDI がすべてリスト表示されます。これらの DDI を Route Patterns/Translation Patterns/Route Lists から分離した上で、再度 Cisco CallManager システムでダイアル プランのアップグレードを実行する必要があります。



### (注)

クラスタ内のサブスクリバまたは他のノードでダイアル プランを更新する前に、Cisco CallManager クラスタの最初のノード サーバ上でダイアル プランを更新したことを確認してください。

既存のダイアル プランをアップグレードする手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** P.52-2 の「[ダイアル プランの検索](#)」で定義されている手順を使用して、アップグレードするダイアル プランを検索します。
- ステップ 2** レコードのリストで、検索条件と一致するダイアル プランの名前をクリックします。  
Dial Plan Configuration ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** Dial Plan フィールドと Description フィールドに、ダイアル プランの名前と説明が表示されます。
- ステップ 4** Installed Version に、Cisco CallManager サーバにインストールされている現在のバージョンが表示されます。ダイアル プランのどのバージョンもインストールされていない場合、Installed Version には Not Installed と表示されます。
- ステップ 5** Available Version ドロップダウン リスト ボックスから、アップグレードするダイアル プランのバージョンを選択します。

**ステップ 6** Install をクリックします。

Status に、ダイアルプランがアップグレードされたことが表示されます。

Installed Version フィールドに、ダイアルプランの最新バージョンが表示されます。

**ステップ 7** [ステップ 1](#) ~ [ステップ 6](#) を繰り返して、Cisco CallManager サービスがインストールされている Cisco CallManager クラスタのすべてのノードでダイアルプランをアップグレードします。



**(注)** ダイアルプランのアップグレードが完了したら、変更を有効にするために Cisco CallManager サービスを再起動します。P.52-9 の「[Cisco CallManager サービスの再起動](#)」を参照してください。



**(注)** ダイアルプランを 4.0x から 5.0x に移行する場合、ルートパターンなどの設定はすべて保持されます。ダイアルプランは Find and List Dial Plans ウィンドウには表示されません。ダイアルプランを更新するには、COP ファイルをインストールし（『*Cisco CallManager International Dial Plans Deployment Guide*』を参照）必要なダイアルプランをインストールする必要があります。P.52-4 の「[Cisco CallManager でのダイアルプランのインストール](#)」を参照してください。



**(注)** 4.0x から 5.0x にアップグレードする場合、ダイアルプランと、ダイアルプランに関連付けられたルートパターン/ルートフィルタなどのダイアルプラン設定を保持するには、CCO で入手可能な最新のダイアルプランをインストールしてください。

#### 追加情報

P.52-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ダイアルプランのアンインストール



#### 注意

ダイアルプランをアンインストールする前に、Cisco CallManager システム上のダイアルプランで設定されているルートパターン、トランスレーションパターン、ルートリスト、およびルートフィルタを削除したことを確認してください。

ダイアルプランをアンインストールする手順は、次のとおりです。

#### 手順

**ステップ 1** P.52-2 の「[ダイアルプランの検索](#)」で定義されている手順を使用して、削除するダイアルプランを検索します。

**ステップ 2** レコードのリストで、検索条件と一致するダイアルプランの名前をクリックします。

Dial Plan Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** Dial Plan フィールドと Description フィールドに、ダイアルプランの名前と説明が表示されます。

**ステップ 4** Installed Version に、Cisco CallManager サーバにインストールされている現在のバージョンが表示されます。

**ステップ 5** Uninstall をクリックします。



**(注)** ダイアルプランのアンインストールは、クラスタ内の最初のノードで実行してから、それ以降のノードで実行する必要があります。

Status に、ダイアルプランが削除されたことが表示されます。

Installed Version フィールドに、Not Installed と表示されます。

**ステップ 6** [ステップ 1](#) ~ [ステップ 5](#) を繰り返して、Cisco CallManager クラスタのすべてのノードでダイアルプランをアンインストールします。

---

#### 追加情報

[P.52-10 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco CallManager サービスの再起動

Cisco CallManager サービスを再起動する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco CallManager serviceability ウィンドウで、**Tools > Control Center - Feature Services** の順に選択します。

Control Center-Feature Services ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** Servers ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco CallManager サーバを選択します。

Cisco CallManager は、CM Services の Service Name 列にリスト表示されます。



- 
- (注)** Cisco CallManager に対応するオプション ボタンをクリックします。
- 

- ステップ 3** Cisco CallManager サービスを再起動する場合は、**Restart** をクリックします。

サービスが再起動し、Service Successfully Restarted というメッセージが表示されます。

- ステップ 4** 停止している Cisco CallManager サービスを開始する場合は、**Start** をクリックします。

サービスが開始し、Service Successfully Started というメッセージが表示されます。

---

### 追加情報

P.52-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [ダイヤル プランの検索 \( P.52-2 \)](#)
- [ダイヤル プランの編集 \( P.52-4 \)](#)
- [Cisco CallManager でのダイヤル プランのインストール \( P.52-4 \)](#)
- [NANP 以外のダイヤル プランに関するルート パターンの詳細の設定 \( P.52-5 \)](#)
- [ダイヤル プランのアップグレード \( P.52-6 \)](#)
- [ダイヤル プランのアンインストール \( P.52-7 \)](#)
- [Cisco CallManager サービスの再起動 \( P.52-9 \)](#)
- *Cisco CallManager International Dial Plan Deployment Guide*



## PART 4

### メディア リソースの設定







## Annunciator の設定

---

Annunciator は、Cisco Media Streaming Application サービスを使用する SCCP デバイスです。これを使用すると、Cisco IP Phone およびゲートウェイに事前に録音したアナウンス (.wav ファイル) と トーンを Cisco CallManager で再生できます。Annunciator は、Cisco Multilevel Precedence Preemption (MLPP) と連携して動作し、Cisco CallManager はコールが失敗した理由を発信者に知らせることができます。Annunciator も転送されたコールと会議の一部のトーンを再生できます。

Annunciator を検索および更新するには、次のトピックを参照してください。

- [始める前に \(P.53-1\)](#)
- [Annunciator の検索 \(P.53-2\)](#)
- [Annunciator の更新 \(P.53-3\)](#)
- [Annunciator の設定値 \(P.53-4\)](#)
- [Annunciator のリセット \(P.53-4\)](#)

### 始める前に

Annunciator を設定する予定のサーバで Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスを有効にしたことを確認してください。



#### ヒント

Cisco CallManager サーバを追加すると、サーバの Annunciator がデータベースに自動的に追加されます。Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスをアクティブにすると、Annunciator デバイスが Cisco CallManager に登録されます。P.53-2 の「[Annunciator の検索](#)」を使用して、Annunciator が存在するかどうかを確認します。

## Annunciator の検索

Annunciator を検索する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** Media Resources > Annunciator の順に選択します。

Find and List Annunciators ウィンドウが表示されます。



**ヒント** データベースに登録されている Annunciator をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

---

特定の Annunciator をすばやく検索するには、次の作業に従って検索条件を指定します。

**ステップ 2** 最初の Find Annunciators where ドロップダウン リスト ボックスから、Name または Description を選択します。

**ステップ 3** 2 番目の Find Annunciators where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 4** 必要に応じて適切な検索テキストを入力し、**Find** をクリックします。

設定した Annunciator のリストが表示されます。

**ステップ 5** レコードのリストから、検索条件と一致する Annunciator の名前をクリックします。

選択した Annunciator がウィンドウに表示されます。

---

### 追加情報

P.53-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Annunciator の更新

Annunciator を更新する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

Annunciator を更新する前に、次の作業が完了していることを確認します。

- 適切なサーバを設定する。
- デバイス プールを設定する。

### 手順

---

**ステップ 1** Media Resources > Annunciator の順に選択します。

Find and List Annunciators ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Annunciator を更新するには、該当する Annunciator を見つけます (P.53-2 の「Annunciator の検索」を参照)。



---

**ヒント** Cisco CallManager サーバを追加すると、サーバの Annunciator がデータベースに自動的に追加されます。Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスをアクティブにすると、Annunciator デバイスが Cisco CallManager に登録されます。

---

**ステップ 3** 更新する Annunciator をクリックし、**ステップ 4** に進みます。

**ステップ 4** 適切な設定値を入力します (表 53-1 を参照)。

**ステップ 5** Save をクリックします。

**ステップ 6** Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスがアクティブになっていることを確認します。サービスのアクティブ化については、『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

---

### 追加情報

P.53-5 の「関連項目」を参照してください。

## Annunciator の設定値

表 53-1 では、Annunciator の設定値について説明します。関連する手順の詳細については、P.53-5 の「関連項目」を参照してください。

表 53-1 Annunciator の設定値

フィールド	説明
Server	設定済みのサーバ（インストール時に追加されたサーバ）が自動的に表示されます。
Name	デバイスが Cisco CallManager に登録される場合、このフィールドには使用される名前を指定します。最大 15 文字の英数字（ピリオド、ダッシュ、および下線も使用可能）で名前を入力します。
Description	最大 54 文字の英数字（ピリオド、ダッシュ、および下線も使用可能）で説明を入力します。デフォルトでは、サーバ名（プレフィックス ANN_ を含む）が使用されています。
Device Pool	<b>Default</b> を選択するか、または設定したデバイス プールのドロップダウンリストからデバイス プールを選択します。
Location	この Annunciator に適切なロケーションを選択します。ロケーションに <i>Hub_None</i> を設定すると、そのロケーションの機能では、この Annunciator が消費する帯域幅を把握しません。

## Annunciator のリセット

Annunciator をリセットする手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** P.53-2 の「Annunciator の検索」の手順を使用して、Annunciator を見つけます。
  - ステップ 2** リセットする Annunciator をクリックします。
  - ステップ 3** Reset ボタンをクリックします。
  - ステップ 4** Device Reset ウィンドウが表示されます。続行するには、Reset をクリックします。
- 

### 追加情報

P.53-5 の「関連項目」を参照してください。

## 関連項目

- [Annunciator の更新 \( P.53-3 \)](#)
- [Annunciator の設定値 \( P.53-4 \)](#)
- [Annunciator のリセット \( P.53-4 \)](#)
- 『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Multilevel Precedence and Preemption」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Annunciator」





## Conference Bridge の設定

Cisco CallManager 用の Conference Bridge は、ソフトウェアまたはハードウェアからなるアプリケーションです。これを使用すると、Ad Hoc 音声会議と Meet-Me 音声会議の両方が実現できます。どの方式の Conference Bridge も、複数の参加者による複数の会議を同時にサポートしています。

ハードウェア会議とソフトウェア会議の両方の Conference Bridge を同時にアクティブにすることができます。ソフトウェアとハードウェアのコンファレンス デバイスでは、サポートするストリーム数とコーデックのタイプが異なります。

Conference Bridge の詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「Conference Bridge」を参照してください。



(注)

Conference Bridge 用のハードウェア モデルには、固有のメディア アクセス制御 (MAC) アドレスとデバイス プールの情報が組み込まれています。



(注)

選択する Conference Bridge のタイプによって、Cisco CallManager Administration に表示される Conference Bridge のフィールドが異なることに注意してください。

Conference Bridge を設定するには、次のトピックを参照してください。

- [Conference Bridge の検索 \(P.54-2\)](#)
- [ソフトウェア Conference Bridge の設定について \(P.54-3\)](#)
- [ソフトウェア Conference Bridge の設定値 \(P.54-4\)](#)
- [ハードウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.54-5\)](#)
- [ハードウェア Conference Bridge の設定値 \(P.54-6\)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加 \(P.54-7\)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge の設定値 \(P.54-8\)](#)
- [Cisco Video Conference Bridge デバイスの追加 \(P.54-9\)](#)
- [Cisco Video Conference Bridge の設定値 \(P.54-10\)](#)
- [Cisco Conference Bridge \(WS-SVC-CMM\) デバイスの追加 \(P.54-11\)](#)
- [Cisco Conference Bridge \(WS-SVC-CMM\) の設定値 \(P.54-12\)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \(P.54-13\)](#)

- [コンファレンス デバイスの削除 \( P.54-14 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の設定 \( P.50-4 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の設定値 \( P.50-5 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の削除 \( P.50-6 \)](#)

## Conference Bridge の検索

ネットワーク内にはいくつかの Conference Bridge が存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定の Conference Bridge を見つけることができます。Conference Bridge を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、Conference Bridge の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、Conference Bridge の検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Media Resources > Conference Bridge の順に選択します。

Find and List Conference Bridges ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、Conference Bridge を検索します。

**ステップ 2** 最初の Find Conference Bridges where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Name
- Description
- Device Pool

2 番目の Find Conference Bridges where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with ( 前方一致 )
- contains ( 中間一致 )
- ends with ( 後方一致 )
- is exactly ( 完全一致 )
- is not empty ( 非空白 )
- is empty ( 空白 )

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されている Conference Bridge をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出された Conference Bridge のリストが、次の項目別に表示されます。

- Conference Bridge icon
- Conference Bridge name
- Description
- Device Pool
- Status ( 状況 )
- IP Address



**(注)** 該当する Conference Bridge の横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Conference Bridges ウィンドウから複数の Conference Bridge を削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべての Conference Bridge を削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する Conference Bridge のアイコンか名前、または関連する Device Pool をクリックします。

選択した Conference Bridge がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.54-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ソフトウェア Conference Bridge の設定について

管理者は、Conference Bridge Configuration を使用して、ソフトウェア Conference Bridge を Cisco CallManager に追加することはできません。ソフトウェア Conference Bridge は、Cisco CallManager サーバが追加されるときに、自動的に追加されず（詳細については、P.2-4 の「[サーバの設定](#)」を参照してください）。Cisco CallManager サーバの追加後、管理者が検索を実行すると、Find/List Conference Bridges ウィンドウにソフトウェア Conference Bridge が表示されます（デフォルトでは、最初のソフトウェア Conference Bridge は Cisco CallManager のインストール時に設定されます）。ソフトウェア Conference Bridge は更新可能ですが、削除はできません。

#### 追加情報

P.54-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ソフトウェア Conference Bridge の設定値

表 54-1 では、ソフトウェア Conference Bridge の設定値について説明します。

表 54-1 ソフトウェア Conference Bridge の設定値

フィールド	説明
Conference Bridge Type	このフィールドには、Cisco Conference Bridge ソフトウェアが自動的に表示されます。
Host Server	このフィールドには、このソフトウェア Conference Bridge が設定されている Cisco CallManager サーバが自動的に表示されます。
Conference Bridge Name	このフィールドには、ソフトウェア Conference Bridge の名前が自動的に表示されます。名前の形式では、CFB_ の後ろに、ソフトウェア Conference Bridge の値を表す番号が続きます。たとえば、CFB_3 は Cisco CallManager システムの 3 番目の Conference Bridge を表します。
Description	このフィールドには説明が自動的に表示されます。管理者はこのフィールドを更新できません。
Device Pool	使用している Cisco CallManager グループの中で一番高い優先度をもつデバイス プールを選択するか、または <b>Default</b> を選択します。
Location	この Conference Bridge に適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに <i>Hub_None</i> を設定すると、そのロケーションの機能では、この Conference Bridge が消費する帯域幅を把握しません。

### 追加情報

P.54-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ハードウェア コンファレンス デバイスの追加

ハードウェア コンファレンス デバイスを追加する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

デバイス プールを設定します。P.9-1 の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** Media Resources > Conference Bridge の順に選択します。

**ステップ 2** Add New をクリックします。

Conference Bridge Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 54-2 を参照)。

**ステップ 4** Save をクリックします。

**ステップ 5** Reset をクリックして、Conference Bridge デバイスをリセットし、変更内容を適用します。

Device Reset ウィンドウが表示されます。

**ステップ 6** Reset をクリックして、ウィンドウを閉じます。

---

### 追加情報

P.54-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ハードウェア Conference Bridge の設定値

表 54-2 では、ハードウェア Conference Bridge の設定値について説明します。

表 54-2 ハードウェア Conference Bridge の設定値

フィールド	説明
Conference Bridge Type	Cisco Conference Bridge Hardware を選択します。 詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager Administration における Conference Bridge のタイプ」を参照してください。
MAC Address	固有のデバイス MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、12 桁の 16 進数 (0 ~ 9、A ~ F) から構成されます。  <b>例</b> 1231123245AB
Description	このフィールドは、指定された MAC アドレスから自動的に生成されます。
Device Pool	使用している Cisco CallManager グループの中で一番高い優先度をもつデバイス プールを選択するか、または Default を選択します。
Location	この Conference Bridge に適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに <i>Hub_None</i> を設定すると、そのロケーションの機能では、この Conference Bridge が消費する帯域幅を把握しません。
Special Load Information	特別なロード情報を入力するか、ブランクのままにしてデフォルトを使用します。

### 追加情報

P.54-15 の「関連項目」を参照してください。

## Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加

Cisco IOS コンファレンス デバイスを追加する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

デバイス プールが設定済みであること。P.9-1 の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** Media Resources > Conference Bridge の順に選択します。

**ステップ 2** Add New をクリックします。

Conference Bridge Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 54-3 を参照)。

**ステップ 4** Save をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、追加したコンファレンス デバイスが表示されます。

**ステップ 5** Reset をクリックして、Conference Bridge デバイスをリセットし、変更内容を適用します。

Device Reset ウィンドウが表示されます。

**ステップ 6** Reset をクリックします。

---

### 追加情報

P.54-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco IOS Conference Bridge の設定値

表 54-3 では、Cisco IOS Conference Bridge の設定値について説明します。

表 54-3 Cisco IOS Conference Bridge の設定値

フィールド	説明
Conference Bridge Type	Cisco IOS Conference Bridge または Cisco IOS Enhanced Conference Bridge を選択します。  詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager Administration における Conference Bridge のタイプ」を参照してください。
Conference Bridge Name	ゲートウェイのコマンドライン インターフェイス (CLI) で既存の同じ名前を入力します。
Description	このフィールドは、指定した Conference Bridge 名から自動的に生成されます。
Device Pool	デバイス プールを選択するか、 <b>Default</b> を選択します。
Location	この Conference Bridge に適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに <i>Hub_None</i> を設定すると、そのロケーションの機能では、この Conference Bridge が消費する帯域幅を把握しません。

### 追加情報

P.54-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco Video Conference Bridge デバイスの追加

Cisco Video Conference Bridge デバイスを追加する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

デバイス プールが設定済みであること。P.9-1 の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** Media Resources > Conference Bridge の順に選択します。

**ステップ 2** Add New をクリックします。

Conference Bridge Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 54-4 を参照)。

**ステップ 4** Save をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、追加したコンファレンス デバイスが表示されます。

**ステップ 5** Reset をクリックして、Conference Bridge デバイスをリセットし、変更内容を適用します。

Device Reset ウィンドウが表示されます。

**ステップ 6** Reset をクリックします。

---

### 追加情報

P.54-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco Video Conference Bridge の設定値

表 54-4 では、Cisco Video Conference Bridge の設定値について説明します。

表 54-4 Cisco Video Conference Bridge の設定値

フィールド	説明
Conference Bridge Type	Cisco Video Conference Bridge (IPVC-35xx) を選択します。 詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager Administration における Conference Bridge のタイプ」を参照してください。
MAC Address	固有のデバイス MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、12 桁の 16 進数 (0 ~ 9、A ~ F) から構成されます。  <b>例</b> 1231123245AB
Description	このフィールドは、指定した Conference Bridge 名から自動的に生成されます。
Device Pool	デバイス プールを選択するか、Default を選択します。
Location	この Conference Bridge に適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに <i>Hub_None</i> を設定すると、そのロケーションの機能では、この Conference Bridge が消費する帯域幅を把握しません。
<b>プロダクト固有の設定値</b>	
Model-specific configuration (デバイス メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、デバイス メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。  フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの下にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。  詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のデバイスの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。

### 追加情報

P.54-15 の「関連項目」を参照してください。

## Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) デバイスの追加

Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) デバイスを追加する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

デバイス プールが設定済みであること。P.9-1 の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** Media Resources > Conference Bridge の順に選択します。

**ステップ 2** Add New をクリックします。

Conference Bridge Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 54-5 を参照)。

**ステップ 4** Save をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、追加したコンファレンス デバイスが表示されます。

**ステップ 5** Reset をクリックして、Conference Bridge デバイスをリセットし、変更内容を適用します。

この操作を実行すると Conference Bridge デバイスがリセットされることを確認するメッセージが表示されます。

**ステップ 6** Reset をクリックします。

---

### 追加情報

P.54-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値

表 54-5 では、Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値について説明します。

表 54-5 Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値

フィールド	説明
Conference Bridge Type	Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) を選択します。 詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager Administration における Conference Bridge のタイプ」を参照してください。
Description	説明 (最大 50 文字) を入力するか、ブランクのままにします。ブランクのままにすると、指定した MAC アドレスから自動的に生成されます。
MAC Address	固有のデバイス MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、12 桁の 16 進数 (0 ~ 9、A ~ F) から構成されます。  <b>例</b> 1231123245AB
Subunit	ドロップダウン リスト ボックスから、Communication Media Module カード上の任意のスロット用のドー タ カードの値を選択します。
Device Pool	デバイス プールを選択するか、 <b>Default</b> を選択します。
Location	この Conference Bridge に適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに <i>Hub_None</i> を設定すると、そのロケーションの機能では、この Conference Bridge が消費する帯域幅を把握しません。
Maximum Capacity	ドー タ カード上の任意のサービスのストリームの最大数を選択します。ストリーム数の値には、32、64、96、および 128 を使用できます。各ドー タ カードに、選択した値と同じ数のポートがあることを確認してください。
<b>プロダクト固有の設定値</b>	
Model-specific configuration ( デバイス メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド )	フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、 <b>Product Specific Configuration</b> 見出しの下にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。  詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のデバイスの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。

### 追加情報

P.54-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## コンファレンス デバイスの更新

コンファレンス デバイスを更新する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。P.2-1 の「サーバの設定」を参照してください。
- デバイス プールが設定済みであること。P.9-1 の「デバイス プールの設定」を参照してください。
- コンファレンス デバイスが設定済みであること。コンファレンス デバイスの追加については、該当する項を参照してください。



(注) ソフトウェア Conference Bridge は、Cisco CallManager サーバが作成されるときに、自動的に作成されます。P.54-3 の「ソフトウェア Conference Bridge の設定について」を参照してください。

- ソフトウェア Conference Bridge に対して、Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスをアクティブにする。『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** P.54-2 の「Conference Bridge の検索」の手順を使用して、Conference Bridge を見つけます。
- ステップ 2** 更新する Conference Bridge をクリックします。
- ステップ 3** 該当する設定値を更新します (表 54-1、表 54-2、表 54-3、表 54-4、または表 54-5 を参照)。
- ステップ 4** 変更の終了後、Save をクリックします。

### 追加情報

P.54-15 の「関連項目」を参照してください。

## コンファレンス デバイスの削除

コンファレンス デバイスを削除する手順は、次のとおりです。Cisco Conference Bridge ソフトウェアは削除できません。P.54-3 の「ソフトウェア Conference Bridge の設定について」を参照してください。

### 始める前に

Cisco CallManager では、メディア リソース グループなどの要素に関連付けられている可能性のあるデバイスを削除できます。コンファレンス デバイスに存在する可能性のある依存関係を検索するには、Conference Bridge Configuration ウィンドウで、ドロップダウン リスト ボックスから **Dependency Records** リンクを選択し、**Go** をクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** P.54-2 の「Conference Bridge の検索」の手順を使用して、Conference Bridge を見つけます。

**ステップ 2** 削除する Conference Bridge をクリックします。

**ステップ 3** **Delete Selected** をクリックします。

次の警告メッセージが表示されます。

You are about to permanently delete this Conference Bridge.This action cannot be undone.Continue?

**ステップ 4** **OK** をクリックして、コンファレンス デバイスを削除します。

---

### 追加情報

P.54-15 の「関連項目」を参照してください。

## 参考情報

- *Cisco IP/VC 3511 MCU and Cisco IP/VC 3540 MCU Module Administrator Guide*
- *Cisco CallManager システム ガイド*
- *Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*

### 関連項目

- [Conference Bridge の検索 \( P.54-2 \)](#)
- [ソフトウェア Conference Bridge の設定について \( P.54-3 \)](#)
- [ソフトウェア Conference Bridge の設定値 \( P.54-4 \)](#)
- [ハードウェア コンファレンス デバイスの追加 \( P.54-5 \)](#)
- [ハードウェア Conference Bridge の設定値 \( P.54-6 \)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加 \( P.54-7 \)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge の設定値 \( P.54-8 \)](#)
- [Cisco Video Conference Bridge デバイスの追加 \( P.54-9 \)](#)
- [Cisco Video Conference Bridge の設定値 \( P.54-10 \)](#)
- [Cisco Conference Bridge \( WS-SVC-CMM \) デバイスの追加 \( P.54-11 \)](#)
- [Cisco Conference Bridge \( WS-SVC-CMM \) の設定値 \( P.54-12 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \( P.54-13 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの削除 \( P.54-14 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の設定 \( P.50-4 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の設定値 \( P.50-5 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の削除 \( P.50-6 \)](#)
- [参考情報 \( P.54-15 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Conference Bridge」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager Administration における Conference Bridge のタイプ」





# メディア ターミネーション ポイントの 設定

メディア ターミネーション ポイント ソフトウェア デバイスを使用すると、Cisco CallManager は、SIP または H.323 エンドポイントあるいは SIP または H.323 ゲートウェイ経由でルーティングされるコールをリレーできます。メディア ターミネーション ポイント デバイスは、DTMF または RSVP 要件に応じて割り当てることができます。RSVP 用にメディア ターミネーション ポイントを割り当てる場合は、SIP または H.323 デバイスなど、あらゆるタイプのエンドポイント デバイス間にメディア ターミネーション ポイントを挿入できます。

メディア ターミネーション ポイントは、ソフトウェアのインストール中にサーバにインストールされる Cisco ソフトウェア アプリケーションです。メディア ターミネーション ポイント デバイスを設定するサーバ上で Cisco IP Voice Media Streaming App サービスをアクティブにして開始する必要があります。サービスのアクティブ化と開始については、『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

データベースに定義されている各メディア ターミネーション ポイント デバイスは、Media Resource Manager (MRM; メディア リソース マネージャ) に登録されます。MRM は、システム内で使用可能なメディア ターミネーション ポイントの総数、および使用可能なリソースがあるデバイスを把握しています。

リソースの予約時に、MRM はリソース数を決定し、メディア リソース タイプ(この場合はメディア ターミネーション ポイント)および登録済みメディア ターミネーション ポイント デバイスのロケーションを特定します。MRM は、登録情報を使用して共有リソース テーブルを更新し、クラスター内の他の Cisco CallManager に登録情報を伝搬します。

メディア ターミネーション ポイントとトランスコーダは、同一の Cisco CallManager に登録できます。詳細については、P.59-1 の「トランスコーダの設定」を参照してください。

各メディア ターミネーション ポイントは、登録先の Cisco CallManager を、優先順に並べたリストを受け取ります。各メディア ターミネーション ポイントが一度に登録できる Cisco CallManager は 1 つのみです。



(注)

SIP エンドポイントの機能によっては、Cisco CallManager で SIP コールを発信するときに、RFC 2833 DTMF 準拠のメディア ターミネーション ポイント デバイスが必要になることがあります。RSVP コールの場合は、エンドポイント デバイスに関連付けられた Media Resource Group List (MRGL; メディア リソース グループ リスト)に、RSVP をサポートするメディア ターミネーション ポイント デバイスを含める必要があります。

メディア ターミネーション ポイントを追加、更新、および削除するには、次のトピックを参照してください。

- [メディア ターミネーション ポイントの検索 \(P.55-2\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの設定 \(P.55-4\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの削除 \(P.55-6\)](#)
- [関連項目 \(P.55-7\)](#)

## メディア ターミネーション ポイントの検索

ネットワーク内にはいくつかのメディア ターミネーション ポイントが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定のメディア ターミネーション ポイントを見つけることができます。メディア ターミネーション ポイントを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、メディア ターミネーション ポイントの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、メディア ターミネーション ポイントの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Media Resources > Media Termination Point の順に選択します。

Find and List Media Termination Points ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、メディア ターミネーション ポイントを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find Media Termination Points where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Name
- Description
- Device Pool

2 番目の Find Media Termination Points where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



**ヒント** データベースに登録されているメディア ターミネーション ポイントをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたメディア ターミネーション ポイントのリストが、次の項目別に表示されます。

- Media Termination Point icon
- Media Termination Point name
- Description
- Device Pool
- Status ( 状況 )
- IP Address



**(注)** 該当するメディア ターミネーション ポイントの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Media Termination Points ウィンドウから複数のメディア ターミネーション ポイントを削除できます。ウィンドウ内のメディア ターミネーション ポイントをすべて削除するには、**Select All** をクリックし、**Delete Selected** をクリックします。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する Media Termination Point icon、Media Termination Point name、Description、または関連する Device Pool をクリックします。

選択したメディア ターミネーション ポイントがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.55-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## メディア ターミネーション ポイントの設定

メディア ターミネーション ポイントを追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。



(注)

この手順を実行するには、Cisco CallManager Serviceability を使用して Cisco IP Voice Media Streaming App サービスをアクティブにする必要があります。サービスのアクティブ化については、『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

### 始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。
- デバイス プールが設定済みであること。



(注)

Cisco CallManager サーバごとに割り当てることができるメディア ターミネーション ポイント デバイスは 1 つのみです。Cisco CallManager サーバを追加すると、メディア ターミネーション ポイント デバイスがサーバ用に自動的に作成されますが、そのデバイスは Cisco IP Voice Media Streaming App サービスがアクティブになるまで使用できません。

### 手順

**ステップ 1** 次の作業のいずれかを実行します。

- メディア ターミネーション ポイントを追加するには、**Media Resources > Media Termination Point** の順に選択します。Find and List Media Termination Point ウィンドウが表示されます。Add New をクリックします。
- メディア ターミネーション ポイントをコピーするには、**Media Resources > Media Termination Point** の順に選択します。Find and List Media Termination Point ウィンドウが表示されます。コピーするメディア ターミネーション ポイントの横にある Copy アイコンをクリックします。
- メディア ターミネーション ポイントを更新するには、[P.55-2 の「メディア ターミネーション ポイントの検索」](#)の手順を使用して、メディア ターミネーション ポイントを見つけます。

**ステップ 2** 適切な設定値を入力します ( [表 55-1](#) を参照 )。

**ステップ 3** Save をクリックします。

### 追加情報

[P.55-7 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco IOS Media Termination Point の設定値

表 55-1 では、Cisco IOS Media Termination Point の設定値について説明します。

表 55-1 Cisco IOS Media Termination Point の設定値

フィールド	説明
Media Termination Point Type	<p>Cisco IOS Enhanced Software Media Termination Point を選択します。</p> <p>このメディア ターミネーション ポイントのタイプに関する詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア ターミネーション ポイント」を参照してください。</p>
Media Termination Point Name	<p>メディア ターミネーション ポイントの名前を最大 15 文字の英数字で入力します。</p> <p> <b>ヒント</b> ゲートウェイの Command Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) で既存の同じメディア ターミネーション ポイントの名前を入力してください。</p>
Description	メディア ターミネーション ポイントの説明を入力します。
Device Pool	使用している Cisco CallManager グループの中で一番高い優先度をもつ デバイス プールを選択するか、または <b>Default</b> を選択します。

### 追加情報

P.55-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## メディア ターミネーション ポイントの削除

メディア ターミネーション ポイントを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

現在使用されている、メディア リソース グループ内の最後のデバイスであるメディア ターミネーション ポイントを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するメディア ターミネーション ポイントを使用しているメディア リソース グループに、別のメディア ターミネーション ポイントを割り当てる。P.60-6 の「[メディア リソース グループの削除](#)」を参照してください。
- 削除するメディア ターミネーション ポイントを使用しているメディア リソース グループを削除する。P.60-6 の「[メディア リソース グループの削除](#)」を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** P.55-2 の「[メディア ターミネーション ポイントの検索](#)」の手順を使用して、メディア ターミネーション ポイントを見つけます。

**ステップ 2** 削除するメディア ターミネーション ポイントをクリックします。

**ステップ 3** Delete Selected をクリックします。

次の警告メッセージが表示されます。

You are about to permanently delete this Media Termination Point.This action cannot be undone.

Continue?

**ステップ 4** OK をクリックして、メディア ターミネーション ポイントを削除します。

このメディア ターミネーション ポイントがメディア リソース グループ内の最後のデバイスである場合、メディア リソース グループは空のグループとして残ります。

**ステップ 5** OK をクリックします。

---

### 追加情報

P.55-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [メディア ターミネーション ポイントの検索 \(P.55-2\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの設定 \(P.55-4\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの削除 \(P.55-6\)](#)
- [関連項目 \(P.55-7\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「トランスコーダ」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア ターミネーション ポイント」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Resource Reservation Protocol」





## Music On Hold オーディオソースの設定

---

統合 Music On Hold 機能を使用すると、オンネットとオフネットのユーザを保留にするときに、ストリーミングソースから音楽を流すことができます。この機能には、次の動作があります。

- エンドユーザ保留
- ネットワーク保留（転送保留、会議保留、およびパーク保留を含む）

Music On Hold 設定は、Music On Hold オーディオソースと Music On Hold サーバの設定で構成されます。

Music On Hold Audio Source Configuration ウィンドウの使用方法的詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービスガイド』の「Music On Hold」の章を参照してください。





## Music On Hold 固定オーディオソース の設定

---

統合 Music On Hold 機能を使用すると、オンネットとオフネットのユーザを保留にするときに、ストリーミングソースから音楽を流すことができます。この機能には、次の動作があります。

- エンドユーザ保留
- ネットワーク保留（転送保留、会議保留、およびパーク保留を含む）

Music On Hold 設定は、Music On Hold オーディオソースと Music On Hold サーバの設定で構成されます。また、Music On Hold 固定オーディオソースを使用可能にできます。このオーディオソースではマルチキャストを許可できます。

Fixed MOH Audio Source Configuration ウィンドウの使用方法的詳細については、『*Cisco CallManager 機能およびサービスガイド*』の「Music On Hold」の章を参照してください。





## Music On Hold サーバの設定

---

Cisco CallManager Music On Hold 機能では MOH サーバが使用されます。MOH サーバは、Music On Hold オーディオソースを提供し、Music On Hold オーディオソースを数多くのストリームに接続するソフトウェアアプリケーションです。

Music On Hold Server Configuration ウィンドウの使用方法の詳細については、『*Cisco CallManager 機能およびサービスガイド*』の「Music On Hold」の章を参照してください。





## トランスコーダの設定

Media Resource Manager (MRM; メディア リソース マネージャ) は、Cisco CallManager クラスタ内のトランスコーダのリソース登録とリソース予約を行います。Cisco CallManager は、Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーション ポイント) とトランスコーダの両方の登録、および 1 つのコール内で MTP とトランスコーダの並行機能を同時にサポートしています。

2 つのデバイスが異なるコーデックを使用しており、普通には情報の交換ができない場合、Cisco CallManager は、エンドポイント デバイスのためにトランスコーダを起動します。トランスコーダは、コールに挿入されると、2 つの異なるコーデック間で情報交換が可能になるように、そのコーデック間でデータ ストリームを変換します。

トランスコーダ制御プロセスは、データベース内で定義されているトランスコーダ デバイスごとに作成されます。各トランスコーダは、初期化される時に MRM に登録されます。MRM はトランスコーダ リソースのトラッキングを行い、リソースが使用可能かどうかをクラスタ全体に通知します。

トランスコーダを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [トランスコーダの特定 \(P.59-2\)](#)
- [トランスコーダの設定 \(P.59-4\)](#)
- [トランスコーダのリセット \(P.59-5\)](#)
- [トランスコーダの削除 \(P.59-6\)](#)
- [トランスコーダの設定値 \(P.59-7\)](#)

## トランスコーダの特定

ネットワーク内にはいくつかのトランスコーダが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定のトランスコーダを見つけることができます。トランスコーダを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、トランスコーダの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、トランスコーダの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Media Resources > Transcoder の順に選択します。

Find and List Transcoders ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、トランスコーダを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find Transcoders where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Name
- Description
- Device Pool



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する基準によって、検索時に生成されるトランスコーダ リストのソート方法が決まります。たとえば、Device Pool を選択すると、Device Pool 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find Transcoders where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されているトランスコーダをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたトランスコーダのリストが、次の項目別に表示されます。

- Transcoder icon
- Transcoder name
- Description
- Device Pool
- Status ( 状況 )
- IP Address



**(注)** 該当するトランスコーダの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Transcoders ウィンドウから複数のトランスコーダを削除できます。ウィンドウ内のトランスコーダをすべて削除するには、**Select All** をクリックし、**Delete Selected** をクリックします。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する Transcoder icon、Transcoder name、Description、または関連する Device Pool をクリックします。

選択したトランスコーダがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.59-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## トランスコーダの設定

トランスコーダを設定する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** Media Resources > Transcoder の順に選択します。

Find and List Transcoders ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存のトランスコーダをコピーするには、該当するトランスコーダを見つけます (P.59-2 の「トランスコーダの特定」を参照)。次に、コピーするトランスコーダの横にある Copy ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 新しいトランスコーダを追加するには、Add New ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 既存のトランスコーダを更新するには、該当するトランスコーダを見つけます (P.59-2 の「トランスコーダの特定」を参照)。次に、**ステップ 3** に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 59-1 を参照)。

**ステップ 4** Save をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、設定したトランスコーダに対して固有の情報が状況を含めて表示されます。

---

### 追加情報

P.59-8 の「関連項目」を参照してください。

## トランスコーダのリセット

トランスコーダをリセットする手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** Media Resources > Transcoder の順に選択します。

**ステップ 2** Transcoders リストから、リセットするトランスコーダを選択します。

ウィンドウがリフレッシュされ、選択したトランスコーダが表示されます。

**ステップ 3** Reset をクリックします。

Reset ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 4** Reset を再度クリックします。

---

### 追加情報

P.59-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## トランスコードの削除

トランスコードを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

メディア リソース グループに割り当てられているトランスコードは、削除できません。トランスコードを使用しているメディア リソース グループを検索するには、Transcoder Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されているトランスコードを削除しようとすると、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されているトランスコードを削除する前に、割り当てられているメディア リソース グループからトランスコードを削除する必要があります。

### 手順

---

**ステップ 1** [P.59-2 の「トランスコードの特定」](#)の手順を使用して、トランスコードを見つけます。

**ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するトランスコードを選択します。

ウィンドウがリフレッシュされ、選択したトランスコードが表示されます。

**ステップ 3** **Delete** をクリックします。

このトランスコードを完全に削除しようとしていること、およびこの操作は取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

**ステップ 4** 続行するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、削除したトランスコードが、トランスコード リストに表示されなくなります。

---

### 追加情報

[P.59-8 の「関連項目」](#)を参照してください。

## トランスコーダの設定値

表 59-1 では、トランスコーダの設定値について説明します。関連する手順については、P.59-8 の「関連項目」を参照してください。

表 59-1 トランスコーダの設定値

フィールド	説明
Transcoder Type	適切なトランスコーダ タイプを選択します。 <b>Cisco Media Termination Point Hardware</b> 、 <b>Cisco IOS Media Termination Point</b> 、 <b>Cisco IOS Enhanced Media Termination Point</b> 、または <b>Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)</b> のいずれかを選択してください。  これらのトランスコーダのタイプの詳細については、『 <i>Cisco CallManager システム ガイド</i> 』の「トランスコーダ」を参照してください。
Device Name	このフィールドは、Cisco IOS Media Termination Point または Cisco IOS Enhanced Media Termination Point をトランスコーダのタイプとして選択した場合に表示されます。ゲートウェイのコマンドライン インターフェイス (CLI) で入力したトランスコーディングの同じ名前を入力します。
Transcoder Name	Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM) トランスコーダの場合、この値は指定された MAC アドレスに基づいて入力されます。
Description	説明 (最大 50 文字) を入力するか、ブランクのままにします。ブランクのままにすると、指定した MAC アドレスまたはデバイス名から自動的に生成されます。
MAC Address	Cisco Media Termination Point Hardware または Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM) の場合は、MAC アドレス (12 文字) を入力します。
Subunit	Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM) トランスコーダの場合は、ドロップダウン リスト ボックスからサブユニットを選択します。
Device Pool	デバイス プールを選択します。選択したデバイス プールの詳細を表示するには、 <b>View Details</b> をクリックします。
Special Load Information	Special Load Information フィールドに特別のロード情報を入力するか、ブランクのままにしてデフォルトを使用します。文字、数字、ダッシュ、ドット (ピリオド)、および下線を指定できます。
Maximum Capacity	Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM) トランスコーダの場合は、ドロップダウン リスト ボックスから最大容量を選択します。
<b>プロダクト固有の設定値</b>	
Model-specific configuration (デバイス メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、デバイス メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。  フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、 <b>Product Specific Configuration</b> 見出しの下にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。  詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のデバイスの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。

## 関連項目

- [トランスコードの特定 \( P.59-2 \)](#)
- [トランスコードの設定 \( P.59-4 \)](#)
- [トランスコードのリセット \( P.59-5 \)](#)
- [トランスコードの削除 \( P.59-6 \)](#)
- [トランスコードの設定値 \( P.59-7 \)](#)
- [Conference Bridge の設定 \( P.54-1 \)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの設定 \( P.55-1 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「トランスコード」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager Administration におけるトランスコードのタイプ」



## メディア リソース グループの設定

メディア リソース管理は、メディア リソース グループとメディア リソース グループ リストによる処理を包含しています。メディア リソース管理にはメディア リソースの管理機構が備わっているため、クラスタ内のすべての Cisco CallManager がメディア リソースを共有できます。メディア リソースは、会議、トランスコーディング、メディア 終端、Annunciator、および Music On Hold の各サービスを提供します。

メディア リソース グループは、メディア サーバが論理グループを構成するように定義します。必要に応じて、メディア リソース グループを地理上のロケーションやサイトと関連付けることができます。また、サーバの使用方法やサービスのタイプ（ユニキャストまたはマルチキャスト）を制御するためのメディア リソース グループも必要に応じて作成できます。

次のタイプのデバイスを、1つのメディア リソース グループにグループ化することができます。

- Conference Bridge (CFB)
- Media Termination Point (MTP)
- Music On Hold Server (MOH)
- Transcoder (XCODE)
- Annunciator (ANN)

メディア リソース グループを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [メディア リソース グループの検索 \(P.60-2\)](#)
- [メディア リソース グループの設定 \(P.60-4\)](#)
- [メディア リソース グループの設定値 \(P.60-5\)](#)
- [メディア リソース グループの削除 \(P.60-6\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソースの概要」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソース グループおよびメディア リソース グループ リストの設定チェックリスト」

## メディア リソース グループの検索

ネットワーク内にはいくつかのメディア リソース グループが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定のメディア リソース グループを見つけることができます。メディア リソース グループを見つける手順は、次のとおりです。



**(注)** Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、メディア リソース グループの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、メディア リソース グループの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Media Resources > Media Resource Group の順に選択します。

Find and List Media Resource Group ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、メディア リソース グループを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find Media Resource Groups where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Name
- Description



**(注)** このドロップダウン リスト ボックスで選択する基準によって、検索時に生成されるメディア リソース グループ リストのソート方法が決まります。たとえば、Description を選択すると、Description 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find Media Resource Groups where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



**ヒント** データベースに登録されているメディア リソース グループをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたメディア リソース グループのリストが、次の項目別に表示されます。

- Media Resource Group name
- Description
- Multicast



**(注)** 該当するメディア リソース グループの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Media Resource Group ウィンドウから複数のメディア リソース グループを削除できます。ウィンドウ内のメディア リソース グループをすべて削除するには、**Select All** をクリックし、**Delete Selected** をクリックします。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する Media Resource Group icon、Media Resource Group name、Description、または Multicast 設定をクリックします。

選択したメディア リソース グループがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.60-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## メディア リソース グループの設定

メディア リソース グループを追加、更新、またはコピーする手順は、次のとおりです。



(注)

メディア リソース グループから最初にリソースを除去しておく場合、またはメディア リソースが入っているメディア リソース グループを削除する場合を除いて、メディア リソース グループに含まれているメディア リソース (たとえば、Conference Bridge) は、削除できません。

### 手順

**ステップ 1** Media Resources > Media Resource Group の順に選択します。

Find and List Media Resource Group ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- メディア リソース グループをコピーするには、該当するメディア リソース グループを見つけます (P.60-2 の「[メディア リソース グループの検索](#)」を参照)。Search Results リストから、コピーするメディア リソース グループに対応する Copy アイコンをクリックし、[ステップ 3](#)に進みます。
- 新しいメディア リソース グループを追加するには、Add New ボタンをクリックします。Media Resource Group Configuration ウィンドウが表示されます。[ステップ 3](#)に進みます。
- 既存のメディア リソース グループを更新するには、該当するメディア リソース グループを見つけます (P.60-2 の「[メディア リソース グループの検索](#)」を参照)。次に、[ステップ 3](#)に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 60-1 を参照)。

**ステップ 4** Save をクリックします。

メディア リソース グループをコピーする場合は、少なくともメディア リソース グループの名前を変更する必要があります。

メディア リソース グループを追加すると、Status が、Ready から *Insert completed* に変わります。これで、Media Resource Groups リストに、新規 Media Resource Group が追加されました。

既存のメディア リソース グループを更新すると、Status が、Ready から *update completed* に変わります。

メディア リソース グループ内のすべてのデバイス (使用可能なリソースと選択済みリソースの両方) をリセットするには、Reset Devices ボタンをクリックします。



(注)

デバイスをリセットすると、このメディア リソース グループに関連するデバイスがすべてリセットされます。Cisco CallManager が、影響を受けるゲートウェイ上のアクティブ コールを削除する可能性があります。

### 追加情報

P.60-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## メディア リソース グループの設定値

表 60-1 では、メディア リソース グループの設定に使用される設定値について説明します。関連する手順の詳細については、P.60-7 の「関連項目」を参照してください。

表 60-1 メディア リソース グループの設定値

フィールド	説明
Media Resource Group Name	これは必須フィールドで、Cisco CallManager がメディア リソース グループを識別するための固有の名前を入力します。この名前には、最長 50 文字まで指定できます。文字、数字、スペース、ダッシュ、ドット（ピリオド） および下線を指定できます。
Description	メディア リソース グループの説明を入力します。この説明には、最長 50 文字を指定できます。説明には、二重引用符（“）、小なり（<）、大なり（>）、またはパーセント記号（%）が、含まれていないことを確認してください。
Devices for this Group	この領域は、メディア リソース グループのメディア リソースを定義するのに使用される Available Media Resources と Selected Media Resources の 2 つの画面区画から構成されます。
Available Media Resources	<p>メディア リソース グループに対して選択可能なメディア リソースが表示されます。このメディア リソースには、次のメディア リソース タイプが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Conference Bridges (CFB)</li> <li>• Media Termination Points (MTP)</li> <li>• Music On Hold Servers (MOH)</li> <li>• Transcoders (XCODE)</li> <li>• Annunciator (ANN)</li> </ul> <p>マルチキャスト用に設定されている Music On Hold サーバには、(MOH)[Multicast] というラベルが付いています。</p> <p>このメディア リソース グループのメディア リソースを追加するには、リストからメディア リソースを選択し、下矢印をクリックします。メディア リソースが追加されると、その名前が、Selected Media Resources に移動されます。</p>
Selected Media Resources	<p>メディア リソース グループに対して選択されたメディア リソースが表示されます。どのメディア リソース グループでも、少なくとも 1 つのメディア リソースを選択する必要があります。</p> <p>メディア リソースを削除（選択解除）するには、その名前を選択し、上矢印をクリックします。</p>
Use Multicast for MOH Audio	<p>Music On Hold Audio 用のマルチキャストを使用するには、このチェックボックスをオンにします。マルチキャストを使用するには、Selected Media Resource の少なくとも 1 つが、マルチキャスト MOH サーバであることを確認してください。</p> <p> (注) システム管理者は、マルチキャスト オーディオ ソースを設定または作成する責任を負います。</p>

## メディア リソース グループの削除

既存のメディア リソース グループを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

メディア リソース グループ リストに割り当てられているメディア リソース グループは、削除できません。メディア リソース グループを使用しているメディア リソース グループ リストを検索するには、Media Resource Group Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、P.A-4 の「[Dependency Records へのアクセス](#)」を参照してください。使用されているメディア リソース グループを削除しようとすると、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されているメディア リソース グループを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するメディア リソース グループを使用しているメディア リソース グループすべてに、別のメディア リソース グループ リストを割り当てる。P.61-4 の「[メディア リソース グループ リストの設定](#)」を参照してください。
- 削除するメディア リソース グループを使用しているメディア リソース グループ リストを削除する。P.61-6 の「[メディア リソース グループ リストの削除](#)」を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** P.60-2 の「[メディア リソース グループの検索](#)」の手順を使用して、メディア リソース グループを見つけます。

**ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するメディア リソース グループを選択します。

**ステップ 3** Delete ボタンをクリックします。

このメディア リソース グループを完全に削除しようとしていること、およびこの操作は取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

**ステップ 4** 続行するには、OK をクリックします。削除操作を取り消すには、Cancel をクリックします。

選択されたメディア リソース グループが、メディア リソース グループ リストから削除されました。

---

### 追加情報

P.60-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [メディア リソース グループの検索 \( P.60-2 \)](#)
- [メディア リソース グループの設定 \( P.60-4 \)](#)
- [メディア リソース グループの設定値 \( P.60-5 \)](#)
- [メディア リソース グループの削除 \( P.60-6 \)](#)
- [Dependency Records へのアクセス \( P.A-4 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソースの概要」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソース グループおよびメディア リソース グループ リストの設定チェックリスト」

### メディア リソース グループ リスト

- [メディア リソース グループ リストの設定 \( P.61-1 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストの設定 \( P.61-4 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストの削除 \( P.61-6 \)](#)





# メディア リソース グループ リストの 設定

メディア リソース管理は、メディア リソース グループとメディア リソース グループ リストによる処理を包含しています。メディア リソース管理にはメディア リソースの管理機構が備わっているため、クラスタ内のすべての Cisco CallManager がメディア リソースを共有できます。メディア リソースは、会議、トランスコーディング、メディア終端、Annunciator、および Music On Hold の各サービスを提供します。

メディア リソース グループ リストは、メディア リソース グループに優先順位を付けます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に基づいて、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。

メディア リソース グループ リストを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [メディア リソース グループ リストの検索 \(P.61-2\)](#)
- [メディア リソース グループ リストの設定 \(P.61-4\)](#)
- [メディア リソース グループ リストの設定値 \(P.61-5\)](#)
- [メディア リソース グループ リストの削除 \(P.61-6\)](#)

## メディア リソース グループ リストの検索

ネットワーク内にはいくつかのメディア リソース グループ リストが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定のメディア リソース グループ リストを見つけることができます。メディア リソース グループ リストを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、メディア リソース グループ リストの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、メディア リソース グループ リストの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Media Resources > Media Resource Group List の順に選択します。

Find and List Media Resource Group Lists ウィンドウが表示されます。ドロップダウン リスト ボックスを使用して、メディア リソース グループ リストを検索します。

**ステップ 2** Find Media Resource Group Lists where Name ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準を選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されているメディア リソース グループ リストをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたメディア リソース グループ リスト一覧が、次の項目別に表示されます。

- Media Resource Group List name



(注)

該当するメディア リソース グループ リストの横にあるチェックボックスをオンにして、Delete Selected をクリックすると、Find and List Media Resource Group Lists ウィンドウから複数のメディア リソース グループ リストを削除できます。ウィンドウ内のメディア リソース グループ リストをすべて削除するには、Select All をクリックし、Delete Selected をクリックします。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する Media Resource Group List icon または Media Resource Group List name をクリックします。

選択したメディア リソース グループ リストがウィンドウに表示されます。

---

#### 追加情報

P.61-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## メディア リソース グループ リストの設定

メディア リソース グループ リストを追加、更新、またはコピーする手順は、次のとおりです。



(注)

割り当てられているメディア リソース グループ リストから、メディア リソース グループを最初に除去しておくか、メディア リソース グループ リストを削除する場合を除いて、メディア リソース グループ リストに割り当てられているメディア リソース グループは削除できません。

### 手順

**ステップ 1** Media Resources > Media Resource Group List の順に選択します。

Find and List Media Resource Group Lists ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- メディア リソース グループ リストをコピーするには、該当するメディア リソース グループ リストを見つけます (P.61-2 の「メディア リソース グループ リストの検索」を参照)。Search Results リストから、コピーするメディア リソース グループ リストに対応する Copy アイコンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 新しいメディア リソース グループ リストを追加するには、Add New ボタンをクリックします。Media Resource Group List Configuration ウィンドウが表示されます。ステップ 3 に進みます。
- 既存のメディア リソース グループ リストを更新するには、該当するメディア リソース グループ リストを見つけます (P.61-2 の「メディア リソース グループ リストの検索」を参照)。次に、ステップ 3 に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 61-1 を参照)。

**ステップ 4** Save をクリックします。

新しいメディア リソース グループ リストを追加すると、Status が、Ready から Insert completed に変わります。これで、メディア リソース グループ リストに、新規のメディア リソース グループ リストが追加されました。

メディア リソース グループをコピーする場合は、少なくともメディア リソース グループの名前を変更する必要があります。

メディア リソース グループ リスト内のすべてのデバイス(使用可能なメディア リソース グループと選択済みメディア リソース グループの両方)をリセットするには、Reset Devices ボタンをクリックします。



(注)

デバイスを再起動すると、このメディア リソース グループ リストに関連するデバイスがすべてリセットされます。Cisco CallManager が、影響を受けるゲートウェイ上のアクティブ コールを削除する可能性があります。

### 追加情報

P.61-6 の「関連項目」を参照してください。

## メディア リソース グループ リストの設定値

表 61-1 では、メディア リソース グループ リストの設定に使用される設定値について説明します。関連する手順の詳細については、P.61-6 の「関連項目」を参照してください。

表 61-1 メディア リソース グループ リストの設定値

フィールド	説明
Media Resource Group List Name	Cisco CallManager がメディア リソース グループ リストを識別するための固有の名前を入力します。これは必須フィールドです。この名前には、最長 50 文字まで指定できます。文字、数字、スペース、ダッシュ、ドット（ピリオド） および下線を指定できます。
Available Media Resource Groups	<p>メディア リソース グループ リストに対して選択可能なメディア リソース グループが表示されます。このメディア リソース グループには、すでに定義されているメディア リソース グループだけが含まれます。</p> <p>このメディア リソース グループ リストのメディア リソース グループを追加するには、一覧からメディア リソース グループを選択し、2 つのペインの間にある下矢印をクリックします。</p> <p>メディア リソース グループが追加されると、その名前は、Selected Media Resource Groups に移動されます。</p>
Selected Media Resource Groups	<p>メディア リソース グループ リストに対して選択されたメディア リソース グループが表示されます。メディア リソース グループ リストごとに、少なくとも 1 つのメディア リソース グループを選択する必要があります。</p> <p>メディア リソース グループを削除（選択解除）するには、その名前を選択し、2 つのペインの間にある上矢印をクリックします。</p> <p>メディア リソース グループは優先順（高優先順位から低優先順位へ）に表示されているため、メディア リソース グループの優先順位を変更するには、このペインの右側にある上矢印と下矢印を使用する必要があります。優先順位を変更するには、リスト内でメディア リソース グループを選択し、上矢印または下矢印を使用して、その優先順位を変更します。</p>

## メディア リソース グループ リストの削除

既存のメディア リソース グループ リストを削除する手順は、次のとおりです。



(注) デバイス プールやデバイスに割り当てられたメディア リソース グループ リストは、削除できません。メディア リソース グループ リストに割り当てるデバイス プールやデバイスを最初に変更する必要があります。

### 手順

- ステップ 1 P.61-2 の「[メディア リソース グループ リストの検索](#)」の手順を使用して、メディア リソース グループ リストを見つけます。
- ステップ 2 一致するレコードのリストから、削除するメディア リソース グループ リストを選択します。
- ステップ 3 Delete ボタンをクリックします。

このメディア リソース グループ リストを完全に削除しようとしていること、およびこの操作は取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

- ステップ 4 続行するには、OK をクリックします。削除操作を取り消すには、Cancel をクリックします。

選択されたメディア リソース グループ リストが、メディア リソース グループ リストの一覧から削除されました。

### 追加情報

P.61-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [メディア リソース グループ リストの検索 \(P.61-2\)](#)
- [メディア リソース グループ リストの設定 \(P.61-4\)](#)
- [メディア リソース グループ リストの設定値 \(P.61-5\)](#)
- [メディア リソース グループ リストの削除 \(P.61-6\)](#)
- [メディア リソース グループの設定 \(P.60-1\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「[メディア リソースの概要](#)」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「[メディア リソース グループおよびメディア リソース グループ リストの設定チェックリスト](#)」



## PART 5

### ボイスメールの設定







## Cisco ボイスメール ポートの設定

オプションのソフトウェアである Cisco Unity は、Cisco IP テレフォニー ソリューションの一環として利用され、ユーザがコールに応答できないときに、ボイス メッセージ機能を提供します。この項では Cisco ボイスメール ポートの追加、設定、更新、および削除に必要な手順について説明します。この手順は Cisco CallManager ウィンドウの Feature メニューから Voice Mail を選び、サブメニュー オプションを選択することによって実行できます。

Cisco Unity の設定の詳細については、『*Cisco CallManager 4.0 Integration Guide for Cisco Unity 4.0*』を参照してください。

Cisco Unity ボイスメール サーバに関連したポートは、Cisco Voice Mail Port Wizard を使用せずに、Cisco CallManager データベースに追加したり、削除したりすることができます。

ここでは、次の内容について説明します。

- [Cisco ボイスメール ポートの検索 \(P.62-2\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの設定 \(P.62-4\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの設定値 \(P.62-5\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの削除 \(P.62-8\)](#)

## Cisco ボイスメール ポートの検索

通常ネットワーク内にはいくつかの Cisco ボイスメール ポートが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定の Cisco ボイスメール ポートを見つけることができます。Cisco ボイスメール ポートを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、Cisco ボイスメール ポートの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、Cisco ボイスメール ポートの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Voice Mail > Cisco Voice Mail Port の順に選択します。

Find and List Voice Mail Ports ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、Cisco ボイスメール ポートを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find voice mail ports where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Device Name
- Description
- Directory Number
- Calling Search Space
- Device Pool



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する基準によって、検索時に生成される Cisco ボイスメール ポート リストのソート方法が決まります。たとえば、Device Pool を選択すると、Device Pool 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find voice mail ports where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



**ヒント** データベースに登録されている Cisco ボイスメール ポートをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出された Cisco ボイスメール ポートのリストが、次の項目別に表示されます。

- Voice Mail Port icon
- Device Name
- Description
- Device Pool
- Status ( 状況 )
- IP Address



**(注)** 該当する Cisco ボイスメール ポートの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Voice Mail Ports ウィンドウから複数の Cisco ボイスメール ポートを削除できます。ウィンドウ内の Cisco ボイスメール ポートをすべて削除するには、Select All ボタンをクリックし、**Delete Selected** をクリックします。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する Voice Mail Port icon、Device Name、Description、または関連する Device Pool をクリックします。

選択した Cisco ボイスメール ポートがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.62-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco ボイスメール ポートの設定

Cisco Unity ボイス メッセージ システムを Cisco CallManager に接続するには、Cisco CallManager データベースに Cisco ボイスメール ポートを追加する必要があります。



### ヒント

新規 Cisco ボイスメール サーバとポートを追加したり、既存のサーバに複数のポートを追加するには、この項で説明されている手順のほかに、Cisco Voice Mail Port Wizard を使用することもできます。詳細については、P.63-1 の「[Cisco ボイスメール ポート ウィザード](#)」を参照してください。

個々の Cisco ボイスメール ポートを Cisco CallManager データベースに追加する手順と、既存のボイスメール ポートを更新またはコピーする手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** Voice Mail > Cisco Voice Mail Port の順に選択します。

Find and List Voice Mail Ports ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- Cisco ボイスメール ポートとその設定をコピーするには、該当する Cisco ボイスメール ポートを見つけます (P.62-2 の「[Cisco ボイスメール ポートの検索](#)」を参照)。Search Results リストから、コピーするボイスメール ポートに対応する Copy アイコンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 新しいボイスメール ポートを追加するには、Add New ボタンをクリックします。Voice Mail Port Configuration ウィンドウが表示されます。**ステップ 3** に進みます。
- 既存の Cisco ボイスメール ポートを更新するには、該当するボイスメール ポートを見つけます (P.62-2 の「[Cisco ボイスメール ポートの検索](#)」を参照)。更新するボイスメール ポートをクリックし、**ステップ 3** に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 62-1 を参照)。

**ステップ 4** Save をクリックします。

既存の Cisco ボイスメール ポートの基本設定をコピーして、別の Cisco ボイスメール ポートに適用する場合は、Port Name フィールドと Directory Number フィールドを変更する必要があります。

### 追加情報

P.62-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco ボイスメール ポートの設定値

表 62-1 では、Cisco ボイスメール ポートの設定値について説明します。関連する手順の詳細については、P.62-8 の「関連項目」を参照してください。

表 62-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値

フィールド	説明
<b>デバイス情報</b>	
Port Name	<p>Cisco ボイスメール ポートを識別する名前を入力します。Cisco ボイスメッセージ システム上でポートごとにデバイスを追加する必要があります。24 個のポートがある場合は、24 個のデバイスを定義する必要があります。</p> <p>名前は 9 文字以内になしてください。</p> <p> (注) Cisco Unity では、この名前が CiscoUM-VI1 または Cisco UM-VI2 などの Unity Telephony Integration Manager(UTIM)コンフィギュレーション ファイルの名前と一致する必要があります。</p>
Description	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。
Device Pool	デフォルト値または特定のデバイス プールを選択します。
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、このデバイスからコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。登録者の番号およびネットワーク デバイスへのコールを可能にするコーリング サーチ スペースの名前を選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System &gt; Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
AAR Calling Search Space	自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。

表 62-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Location	<p>デフォルト値 <i>None</i> を選択します。</p> <p>ロケーションは、このデバイスとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに <i>None</i> を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。</p>
SCCP Phone Security Profile	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、ポートに適用するデバイス セキュリティ モードに基づいて、セキュリティ プロファイルを選択します。Cisco ボイスメール ポートは Certificate Authority Proxy Function (CAPF) をサポートしません。このことは、セキュリティ プロファイルに CAPF の設定が含まれている場合も同様です。プロファイルをポートに適用した場合、Cisco CallManager はこれらの設定を無視します。</p> <p>セキュリティ プロファイルの詳細については、『<i>Cisco CallManager セキュリティ ガイド</i>』を参照してください。</p>
<b>電話番号の情報</b>	
Directory Number	<p>このボイスメール ポートに関連する番号を入力します。このフィールドと Partition フィールドとの組み合わせが、固有のものであることを確認してください。</p>
Partition	<p>この電話番号が属するパーティションを選択します。パーティションを使用しない場合は、&lt;None&gt; を選択してください。パーティションを選択する場合は、そのパーティションを含むコーリング サーチ スペースを選択する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもパーティションの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Partition ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで希望するパーティション名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System &gt; Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>

表 62-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、この電話番号からコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。パーティションを選択する場合は、そのパーティションを含むコーリング サーチ スペースを選択する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System &gt; Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
AAR Group	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
Internal Caller ID Display	<p>この回線からコールが行われるときに、着信側電話機に表示されるテキストを指定します。</p>
Internal Caller ID Display (ASCII format)	<p>この回線からコールが行われるときに、着信側電話機に表示されるテキストを ASCII 形式で指定します。</p>
External Number Mask	<p>外部 (発信) コールに対して、発信者 ID 情報をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。このマスクには、最長 50 文字までを指定できます。発信者 ID 情報に表示する数字列を入力します。デバイスの電話番号を表すには、X を使用します。</p> <p>自動代替ルーティング (AAR) が帯域幅不足のためにコールをルーティングする場合、余裕のある帯域幅を使用できなければ、Cisco CallManager は、このフィールドの値を使用してコールを発信します。</p> <p><b>例</b></p> <p>DN 1000 (外部マスク 9728131000) は DN 1001 (外部マスク 2144131001) をコールします。帯域幅不足のためにコールがブロックされると、Cisco CallManager は、AAR プレフィックス番号を 2144131001 と一緒に使用して 1001 にコールを発信します。</p>

## Cisco ボイスメール ポートの削除

Cisco CallManager から Cisco ボイスメール ポートを 1 つ削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

電話番号が使用している Cisco ボイスメール ポートを削除すると、番号は Cisco CallManager データベース内に残ります。ボイスメール ポートを使用している電話番号を特定するには、Voice Mail Port Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。

使用されているボイスメール ポートを削除しようとする、Cisco CallManager はメッセージを表示します。現在使用されているボイスメール ポートを削除する前に、削除するボイスメール ポートを使用している電話番号すべてに別のボイスメール ポートを割り当ててください。[P.49-4 の「電話番号の設定」](#)を参照してください。

ボイスメール ポートを削除した後で、そのボイスメール ポートを使用していた電話番号を削除できます。[P.51-4 の「割り当てられていない電話番号の削除」](#)を参照してください。



### ヒント

既存のサーバからポートを削除するには、この項で説明されている手順の代わりに、Cisco Voice Mail Port Wizard を使用することもできます。詳細については、[P.63-1 の「Cisco ボイスメール ポートウィザード」](#)を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** [P.62-2 の「Cisco ボイスメール ポートの検索」](#)の手順を使用して、Cisco ボイスメール ポートを検索します。
- ステップ 2** 削除する Cisco ボイスメール ポートをクリックします。
- ステップ 3** **Delete** をクリックします。

### 追加情報

[P.62-8 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

- [Cisco ボイスメール ポートの検索 \(P.62-2\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの設定 \(P.62-4\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの設定値 \(P.62-5\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの削除 \(P.62-8\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートウィザード \(P.63-1\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」



## Cisco ボイスメールポートウィザード

---

オプションのソフトウェアである Cisco Unity は、Cisco IP テレフォニー ソリューションの一環として利用され、ユーザがコールに応答できないときに、ボイス メッセージ機能を提供します。この章では、ボイス メッセージ システムに対して、Cisco CallManager で Cisco ボイスメール ポートの追加と設定を行うために必要な手順について説明します。

Cisco Unity の設定の詳細については、『*Cisco CallManager 4.0 Integration Guide*』を参照してください。

ボイス メッセージと Cisco CallManager との接続性についての詳細については、『*Cisco CallManager システム ガイド*』の「ボイスメールの Cisco CallManager への接続性」を参照してください。

Cisco Voice Mail Port Wizard ツールを使用すると、Cisco CallManager 管理者は、Cisco ボイスメール サーバに関連付けられているポートを Cisco CallManager データベースに迅速に追加または削除できます。次の項では、この手順について説明します。

## 新規の Cisco ボイスメール サーバとポートの追加

Cisco Voice Mail Port Wizard を使用して、新規の Cisco ボイスメール サーバとポートを Cisco CallManager データベースに追加する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

Cisco Voice Mail Port Wizard には、ボイスメール ポート用の一連の連続した電話番号が必要です。ボイスメール パイロット番号とそれに続く番号が使用可能であることを確認します。

### 手順

---

**ステップ 1** Voice Mail > Cisco Voice Mail Port Wizard の順に選択します。

Cisco ボイスメール ポートが存在しない場合は、追加する Cisco ボイスメール サーバの名前を入力し、[ステップ 5](#)に進みます。ポートが存在する場合は、[ステップ 2](#)に進んでください。

**ステップ 2** Create a new Cisco Voice Mail server and add ports to it を選択します。

**ステップ 3** Next をクリックします。

**ステップ 4** Cisco ボイスメール サーバの名前を入力します。



**(注)** Cisco Unity では、この名前が Unity Telephony Integration Manager (UTIM) コンフィギュレーション ファイルの名前 (デフォルトは CiscoUM-VI1) と一致する必要があります。このウィザードでは、ポートを追加する際、自動的に <port number> というサフィックスが付加されます。

---

**ステップ 5** Next をクリックします。

Cisco Voice Mail Ports ウィンドウが表示されます。

**ステップ 6** ドロップダウン リスト ボックスから、追加するポート数を選択します。

**ステップ 7** Next をクリックします。

Cisco Voice Mail Device Information ウィンドウが表示されます。

**ステップ 8** 適切な設定値を入力します (表 63-1 を参照)。これらの設定値がすべての新規ポートに適用されます。

表 63-1 Voice Mail Port Wizard Device Information の設定値

フィールド	説明
Description	デバイスの目的を入力します。
Device Pool	デフォルト値 <b>Default</b> または定義されたデバイス プールを選択します。
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、この電話番号からコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。<b>List items where Name contains</b> フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。<b>Select item to use</b> ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> <b>(注)</b> リスト ボックスの最大項目を設定するには、<b>System &gt; Enterprise Parameters</b> の順に選択し、<b>CCMAdmin Parameters</b> を選択します。</p>
Location	<p>デフォルト値 <b>None</b> または定義されたロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションは、このデバイスとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションを <i>None</i> に設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。</p>
SCCP Phone Security Profile	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、ポートに適用するデバイス セキュリティ モードに基づいて、セキュリティ プロファイルを選択します。Cisco ボイスメール ポートは Certificate Authority Proxy Function (CAPF) をサポートしません。このことは、セキュリティ プロファイルに CAPF の設定が含まれている場合も同様です。プロファイルをポートに適用した場合、Cisco CallManager はこれらの設定を無視します。</p> <p>セキュリティ プロファイルの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
AAR Calling Search Space	Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。

**ステップ 9** Next をクリックします。

Cisco Voice Mail Directory Numbers ウィンドウが表示されます。

**ステップ 10** 新規 Cisco ボイスメール サーバの電話番号設定を入力します (表 63-2 を参照)。**表 63-2 Voice Mail Port Wizard Directory Number の設定値**

フィールド	説明
Beginning Directory Number	Cisco ボイスメール サーバにアクセスするためにコールする番号を入力します。新しいポートはそれぞれ、次に使用可能な電話番号を受け取ります。
Partition	<p>この一連の電話番号が属するパーティションを選択します。パーティションを使用しない場合は、None を選択してください。パーティションを選択する場合は、そのパーティションを含むコーリング サーチ スペースを選択する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもパーティションの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Partition ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで希望するパーティション名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System &gt; Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、この電話番号からコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。</p> <p>パーティションを選択する場合は、そのパーティションを含むコーリング サーチ スペースを選択する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System &gt; Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>

表 63-2 Voice Mail Port Wizard Directory Number の設定値 (続き)

フィールド	説明
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を <i>None</i> にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
Internal Caller ID Display	この回線へのコールが行われるときに、発信側の電話機に表示されるテキストを指定します。
Internal Caller ID Display (ASCII format)	この回線へのコールが行われるときに、発信側の電話機に表示されるテキストを ASCII 形式で指定します。
External Number Mask	外部 (発信) コールに対して、発信者 ID 情報をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。このマスクには、最長 50 文字までを指定できます。発信者 ID 情報に表示する数字列を入力します。デバイスの電話番号を表すには、X を使用します。

**ステップ 11** Next をクリックします。

これらの電話番号を回線グループに追加するかどうかをたずねるウィンドウが表示されます。

**ステップ 12** 次の作業のいずれかを選択します。

- 電話番号を新規回線グループに追加する場合、[ステップ 13](#) に進みます。
- 電話番号を既存の回線グループに追加する場合、[ステップ 15](#) に進みます。
- 電話番号を回線グループにあとで追加する場合、[ステップ 17](#) に進みます。

**ステップ 13** 「Yes.Add directory numbers to a **new** Line Group」オプションを選択して、Next をクリックします。

**ステップ 14** Line Group ウィンドウに新規回線グループの名前を入力し、Next をクリックします。

Ready to Add Cisco Voice Mail Ports 要約ウィンドウが表示されます。以前のウィンドウで設定した設定値が要約ウィンドウに表示されます。Cisco Voice Mail Port Wizard は、自動的に正しい値を各ポートに割り当てます。

[ステップ 18](#) に進みます。

**ステップ 15** 「Yes.Add directory numbers to an **existing** Line Group」オプションを選択し、Next をクリックします。

**ステップ 16** Line Group ウィンドウで、Line Group Name ドロップダウン リスト ボックスから回線グループを選択し、Next をクリックします。

Ready to Add Cisco Voice Mail Ports 要約ウィンドウが表示されます。以前のウィンドウで設定した設定値が要約ウィンドウに表示されます。Cisco Voice Mail Port Wizard は、自動的に正しい値を各ポートに割り当てます。

[ステップ 18](#) に進みます。

**ステップ 17** 「No.I will add them later」オプションを選択し、Next をクリックします。

Ready to Add Cisco Voice Mail Ports 要約ウィンドウが表示されます。以前のウィンドウで設定した設定値が要約ウィンドウに表示されます。Cisco Voice Mail Port Wizard は、自動的に正しい値を各ポートに割り当てます。

**ステップ 18** この情報が正しい場合は、Finish をクリックして、新しいポートを追加します。

表示された情報に誤りがある場合は、Back ボタンをクリックして、その情報を編集します。または Cancel をクリックして、ポートを追加せずに終了します。

**ステップ 19** Cisco Voice Mail Port Wizard が指定した新規ボイスメールポートの追加を終了した後に、Cisco Voice Mail Port Wizard Results ウィンドウが表示されます。

このウィンドウによって、これらの新規ボイスメールポートを使用する前に完了しなければならないその他のステップがわかります。

---

#### 次の手順

メッセージ受信のインディケータ (MWI) デバイスをセットアップしたことを確認してください。詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」を参照してください。

#### 追加情報

P.63-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 既存の Cisco ボイスメール サーバへのポートの追加

Cisco Voice Mail Port Wizard を使用して、ポートを既存の Cisco ボイスメール サーバに追加する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

Cisco Voice Mail Port Wizard には、ボイスメール ポート用の一連の連続した電話番号が必要です。ボイスメール パイロット番号とそれに続く番号が使用可能であることを確認します。

ボイスメール パイロット番号は、Cisco ボイスメール サーバにアクセスするためにコールする番号を示します。

### 手順

**ステップ 1** Voice Mail > Cisco Voice Mail Port Wizard の順に選択します。

**ステップ 2** Add ports to an existing Cisco Voice Mail server を選択します。

**ステップ 3** Next をクリックします。

Cisco Voice Mail Server ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** ドロップダウン リスト ボックスから、既存の Cisco ボイスメール サーバ (パイロット番号) の名前を選択し、Next をクリックします。

Cisco Voice Mail Ports ウィンドウが表示され、現在設定されているポート数が示されます。

**ステップ 5** ドロップダウン リスト ボックスから、追加するポート数を選択し、Next をクリックします。

Cisco Voice Mail Directory Numbers ウィンドウでは、Cisco ボイスメール サーバへ追加したポートの設定情報を表示します。最後のポートに続く連続した電話番号が自動的に選択されます。また、Cisco ボイスメール パイロット電話番号と同じ Partition 設定値、Calling Search Space 設定値、Display 設定値、AAR Group 設定値、External Number Mask 設定値が使用されます。New Directory Numbers フィールドに、別の範囲の電話番号を入力することができます。

**ステップ 6** ポート数を変更する必要がある場合は、Back ボタンをクリックします。

**ステップ 7** Next をクリックします。

Ready to Add Cisco Voice Mail Ports 要約ウィンドウが表示されます。以前のウィンドウで設定した設定値が要約ウィンドウに表示されます。Cisco Voice Mail Port Wizard は、自動的に正しい値を各ポートに割り当てます。

**ステップ 8** この情報が正しい場合は、Finish をクリックして、新しいポートを追加します。

表示された情報に誤りがある場合は、Back ボタンをクリックして、その情報を編集します。または Cancel をクリックして、ポートを追加しないで終了します。

### 追加情報

P.63-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 既存の Cisco ボイスメール サーバからのポートの削除

Cisco Voice Mail Port Wizard を使用して既存の Cisco ボイスメール サーバからポートを削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** Voice Mail > Cisco Voice Mail Port Wizard の順に選択します。

**ステップ 2** Delete ports from an existing Cisco Voice Mail server を選択し、Next をクリックします。

Cisco Voice Mail Server ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** ドロップダウン リスト ボックスから、既存の Cisco ボイスメール サーバ (パイロット番号) の名前を選択し、Next をクリックします。

Cisco Voice Mail Ports ウィンドウが表示され、現在設定されているポート数を示します。

**ステップ 4** ドロップダウン リスト ボックスから、削除するポート数を選択し、Next をクリックします。

Ready to Delete Cisco Voice Mail Ports 要約ウィンドウが表示されます。

削除するポートの情報が要約ウィンドウに表示されます。Cisco Voice Mail Port Wizard は、ポート番号と電話番号が連続するように自動的に更新します。

**ステップ 5** この情報が正しい場合は、Finish をクリックして、選択されたポートを削除します。

表示された情報に誤りがある場合は、Back ボタンをクリックして、その情報を編集します。または Cancel をクリックして、ポートを削除しないで終了します。

---

### 追加情報

P.63-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [Cisco ボイスメール ポート ウィザード \(P.63-1\)](#)
- [新規の Cisco ボイスメール サーバとポートの追加 \(P.63-2\)](#)
- [既存の Cisco ボイスメール サーバへのポートの追加 \(P.63-7\)](#)
- [既存の Cisco ボイスメール サーバからのポートの削除 \(P.63-8\)](#)
- [メッセージ受信の設定 \(P.64-1\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」



## メッセージ受信の設定

---

Message Waiting Configuration ウィンドウでは、メッセージ受信オン / オフの電話番号を定義できます。この電話番号は、ディレクトリ接続ベースのボイス メッセージ システムが、特定の Cisco IP Phone のメッセージ受信のインディケータを設定するかクリアするかを決定するのに使用します。

この項では、メッセージ受信の設定について説明します。

- [メッセージ受信番号の検索 \(P.64-2\)](#)
- [メッセージ受信の設定 \(P.64-4\)](#)
- [メッセージ受信の設定値 \(P.64-5\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ボイスメールの Cisco CallManager への接続性」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

## メッセージ受信番号の検索

ネットワーク内にはいくつかのメッセージ受信番号が存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定のメッセージ受信番号を見つけることができます。メッセージ受信番号を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、メッセージ受信番号の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、メッセージ受信番号の検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Voice Mail > Message Waiting の順に選択します。

Find and List Message Waiting Numbers ウィンドウが表示されます。3 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、メッセージ受信番号を検索します。

**ステップ 2** 最初の Find numbers where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Directory Number
- Partition
- Calling Search Space
- Description



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する基準によって、検索時に生成されるメッセージ受信番号リストのソート方法が決まります。たとえば、Partition を選択すると、Partition 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find numbers where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

Message Waiting Indicator is ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Both
- On
- Off

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



**ヒント** データベースに登録されているメッセージ受信番号をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたメッセージ受信番号のリストが、次の項目別に表示されます。

- Message Waiting Indicator icon (オン時は緑色、オフ時は赤色)
- Directory Number
- Partition
- Calling Search Space
- Description



**(注)** 該当するメッセージ受信番号の横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Message Waiting Numbers ウィンドウから複数のメッセージ受信番号を削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのメッセージ受信番号を削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する MWI アイコン、電話番号、関連するパーティション、またはコーリング サーチ スペースをクリックします。

選択したメッセージ受信番号がウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.64-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## メッセージ受信の設定

ボイス メッセージ システムで使用するメッセージ受信の設定手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** Voice Mail > Message Waiting の順に選択します。

**ステップ 2** Add New をクリックします。

Message Waiting Number Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 64-1 を参照)。



**(注)** ボイス メッセージ システムでは、メッセージ待機表示をするためにメッセージ受信のインディケータ オン / オフ電話番号のみが使用されます。Cisco CallManager は、コールの受信にメッセージ受信オン / オフ番号を使用しないため、Display、Forward All、Forward Busy、および Forward No Answer フィールドは使用されません。

---

**ステップ 4** Save をクリックして、このデバイスをシステムに追加します。

---

### 追加情報

P.64-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## メッセージ受信の設定値

表 64-1 では、メッセージ受信の設定値について説明します。

表 64-1 メッセージ受信の設定値

フィールド名	説明
Message Waiting Number	Cisco Message Waiting の電話番号を入力します。この番号が Cisco CallManager 自動登録される番号の範囲内がないことを確認してください。
Description	メッセージ受信の電話番号を説明する最大 30 文字の英数字を入力します。
Message Waiting Indicator	<b>On</b> または <b>Off</b> をクリックします。
Partition	<p>パーティションが使用されている場合は、ドロップダウン リスト ボックスから適切なパーティションを選択します。Message Waiting デバイスの電話番号へのアクセスを制限しない場合は、パーティションに &lt;None&gt; を選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもパーティションの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Partition ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで希望するパーティション名をクリックし、<b>OK</b> をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、<b>System &gt; Enterprise Parameters</b> の順に選択し、<b>CCMAdmin Parameters</b> を選択します。</p> <p> (注) Message Waiting デバイスの電話番号とパーティションの組み合わせが、Cisco CallManager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>

表 64-1 メッセージ受信の設定値 (続き)

フィールド名	説明
Calling Search Space	<p>パーティションとコーリング サーチ スペースが使用される場合、ドロップダウン リスト ボックスから、ランプをオンにするすべての電話機の DN のパーティションを含むコーリング サーチ スペースを選択します (電話機の DN に対して指定されるパーティションは、MWI デバイスが使用するコーリング サーチ スペース内になければなりません)。</p> <p>パーティションとコーリング サーチ スペースが使用される場合、ドロップダウン リスト ボックスから、ランプをオンにするすべての電話機の DN のパーティションを含むコーリング サーチ スペースを選択します (電話機の DN に対して指定されるパーティションは、MWI デバイスが使用するコーリング サーチ スペース内になければなりません)。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。<b>List items where Name contains</b> フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。<b>Select item to use</b> ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、<b>OK</b> をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、<b>System &gt; Enterprise Parameters</b> の順に選択し、<b>CCMAdmin Parameters</b> を選択します。</p>

### 追加情報

P.64-6 の「関連項目」を参照してください。

## 関連項目

- [メッセージ受信番号の検索 \(P.64-2\)](#)
- [メッセージ受信の設定 \(P.64-4\)](#)
- [メッセージ受信の設定値 \(P.64-5\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ボイスメールの Cisco CallManager への接続性」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」
- [ボイスメール プロファイルの設定 \(P.66-1\)](#)
- [電話番号の設定値 \(P.49-9\)](#)



## Cisco ボイスメールパイロットの設定

ボイスメールパイロット番号は、ユーザが本人のボイスメッセージにアクセスするときにダイヤルする電話番号を指定します。Cisco CallManager は、ユーザが電話機上の Messages ボタンを押すと自動的にこのボイスメッセージ番号にダイヤルします。各ボイスメールパイロット番号は、異なるボイスメッセージシステムに属することができます。

次のトピックでは、ボイスメールパイロットの設定について説明します。

- [Cisco ボイスメールパイロットの検索 \(P.65-2\)](#)
- [ボイスメールパイロット番号の設定 \(P.65-3\)](#)
- [ボイスメールパイロットの設定値 \(P.65-4\)](#)
- [ボイスメールパイロット番号の削除 \(P.65-5\)](#)
- 『Cisco CallManager システムガイド』の「ボイスメールの Cisco CallManager への接続性」
- 『Cisco CallManager システムガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

## Cisco ボイスメールパイロットの検索

ネットワーク内にはいくつかの Cisco ボイスメールパイロットが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定の Cisco ボイスメールパイロットを見つけることができます。Cisco ボイスメールパイロットを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、Cisco ボイスメールパイロットの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、Cisco ボイスメールパイロットの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Voice Mail > Voice Mail Pilot の順に選択します。

Find and List Voice Mail Pilots ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、Cisco ボイスメールパイロットを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find voice mail pilots where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Voice Mail Pilot Number
- Description
- Calling Search Space



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する基準によって、検索時に生成される Cisco ボイスメールパイロット リストのソート方法が決まります。たとえば、Calling Search Space を選択すると、Calling Search Space 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find voice mail pilots where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- is exactly (完全一致)
- ends with (後方一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されている Cisco ボイスメールパイロットをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出された Cisco ボイスメール パイロットのリストが、次の項目別に表示されます。

- Description
- Pilot Number
- Calling Search Space



**(注)** 該当する Cisco ボイスメール パイロットの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Voice Mail Pilots ウィンドウから複数の Cisco ボイスメール パイロットを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべての Cisco ボイスメール パイロットを削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する Voice Mail Pilot icon、Device Name、Description、または関連する Device Pool をクリックします。

選択した Cisco ボイスメール パイロットがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.65-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ボイスメール パイロット番号の設定

ボイスメール パイロット番号を設定する手順は、次のとおりです。

#### 手順

**ステップ 1** Voice Mail > Voice Mail Pilot の順に選択します。

**ステップ 2** Add New リンクをクリックします。

**ステップ 3** 該当する設定値を更新します (表 65-1 を参照)。

**ステップ 4** 新規ボイスメール パイロット番号を追加する場合や、既存のボイスメール パイロット番号の設定を更新する場合は、Save をクリックします。

#### 追加情報

P.65-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ボイスメールパイロットの設定値

表 65-1 では、ボイスメールパイロットの設定値について説明します。

表 65-1 ボイスメールパイロットの設定値

フィールド	説明
Voice Mail Pilot Number	ボイスメールパイロット番号を識別する番号を入力します。
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、このパイロット番号からコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで設定された数よりもコーリングサーチスペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウンリストボックスの横に表示されます。(...) ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリングサーチスペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリングサーチスペースのリストで希望するコーリングサーチスペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リストボックスの最大項目を設定するには、System &gt; Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
Description	パイロット番号の説明を記述します。
Make this the default Voice Mail Pilot for the system	<p>チェックボックスをオンにして、このパイロット番号をそのシステムの Voice Mail Pilot のデフォルトにします。</p> <p> (注) Default ボックスをオンにすると、このボイスメールパイロット番号は、現在のデフォルトパイロット番号を置き換えます。</p>

### 追加情報

P.65-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ボイスメール パイロット番号の削除

ボイスメール パイロット番号を削除する手順は、次のとおりです。デフォルトまたは *No Voice Mail* のプロファイル番号は、削除できません。

### 始める前に

ボイスメール プロファイルが使用するボイスメール パイロット番号は、削除できません。ボイスメール パイロットを使用しているボイスメール プロファイルを検索するには、Voice Mail Pilot Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されているボイスメール パイロットを削除しようとすると、Cisco CallManager はメッセージを表示します。現在使用されているボイスメール パイロットを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するボイスメール パイロットを使用しているボイスメール プロファイルすべてに、別のボイスメール パイロットを割り当てる。[P.66-3 の「ボイスメール プロファイルの設定」](#)を参照してください。
- 削除するボイスメール パイロットを使用しているボイスメール プロファイルを削除する。[P.66-5 の「ボイスメール プロファイルの削除」](#)を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** Voice Mail > Voice Mail Pilot の順に選択します。

**ステップ 2** 削除する Cisco ボイスメール パイロットをクリックします。

**ステップ 3** Delete をクリックします。

確認ウィンドウが表示されます。



**(注)** デフォルトまたは *No Voice Mail* のパイロット番号を選択した場合、Delete ボタンは表示されません。

**ステップ 4** ボイスメール パイロットを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。

ボイスメール プロファイルがこのボイスメール パイロット番号を使用している場合は、このボイスメール パイロット番号を使用しているボイスメール プロファイルの番号を示すメッセージが表示されます。

### 追加情報

[P.65-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

- [Cisco ボイスメールパイロットの検索 \(P.65-2\)](#)
- [ボイスメールパイロット番号の設定 \(P.65-3\)](#)
- [ボイスメールパイロットの設定値 \(P.65-4\)](#)
- [ボイスメールパイロット番号の削除 \(P.65-5\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ボイスメールの Cisco CallManager への接続性」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」
- [メッセージ受信の設定 \(P.64-1\)](#)
- [ボイスメール プロファイルの設定 \(P.66-1\)](#)



## ボイスメール プロファイルの設定

Cisco CallManager Administration の Voice Mail Profile Configuration ウィンドウによって、回線に関連したボイス メッセージ情報を定義できます。



(注)

---

ボイスメール プロファイルは、デバイスではなく電話番号に割り当てられます。

---

次のトピックでは、ボイスメール プロファイルについて説明します。

- [ボイスメール プロファイルの検索 \(P.66-2\)](#)
- [ボイスメール プロファイルの設定 \(P.66-3\)](#)
- [ボイスメール プロファイルの設定値 \(P.66-4\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ボイスメールの Cisco CallManager への接続性」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

## ボイスメール プロファイルの検索

ネットワーク内にはいくつかのボイスメール プロファイルが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定のボイスメール プロファイルを見つけることができます。ボイスメール プロファイルを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、ボイスメール プロファイルの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ボイスメール プロファイルの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Voice Mail > Voice Mail Profile の順に選択します。

Find and List Voice Mail Profiles ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注) データベースに登録されているボイスメール プロファイルをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたコーリング サーチ スペースのリストが、次の項目別に表示されます。

- Name
- Description
- Pilot/Calling Search Space

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致するボイスメール プロファイルをクリックします。

選択したボイスメール プロファイルがウィンドウに表示されます。

**ステップ 5** 利用可能なボイスメール プロファイルをすべて一覧表示するには、検索条件を空白のままにして、Find をクリックします。

### 追加情報

P.66-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ボイスメール プロファイルの設定

電話番号に対してボイスメール プロファイルを設定する手順、ボイスメール プロファイルをコピーする手順、または既存のボイスメール プロファイルを更新する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** メニューバーで、**Voice Mail > Voice Mail Profile** の順に選択します。

Find and List Voice Mail Profiles ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- ボイスメール プロファイルをコピーするには、該当するボイスメール プロファイルを見つけます (P.66-2 の「[ボイスメール プロファイルの検索](#)」を参照)。Search Results リストから、コピーするボイスメール プロファイルに対応する Copy アイコンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 電話番号に対してボイスメール プロファイルを設定するには、Add New ボタンをクリックします。Voice Mail Profile Configuration ウィンドウが表示されます。[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存のボイスメール プロファイルを更新するには、該当するボイスメール プロファイルを見つけます (P.66-2 の「[ボイスメール プロファイルの検索](#)」を参照)。次に、[ステップ 3](#) に進みます。

**ステップ 3** 該当する設定値を更新します (表 66-1 を参照)。

**ステップ 4** Save をクリックします。

既存のボイスメール プロファイルを更新する場合は、**Restart Devices** をクリックして、ボイスメール プロファイルに関連付けられたデバイスをすべて再起動します。

---

### 追加情報

P.66-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ボイスメール プロファイルの設定値

表 66-1 では、ボイスメール プロファイルの設定値について説明します。関連する手順の詳細については、P.66-6 の「関連項目」を参照してください。

表 66-1 ボイスメール プロファイルの設定値

フィールド	説明
Voice Mail Profile Name	Cisco ボイスメール プロファイルを識別する名前を入力します。
Description	プロファイルの説明を記述します。
Voice Mail Pilot	Voice Mail Pilot Configuration 内で指定された適切なボイスメール パイロット番号が、Use Default を選択します。
Voice Mail Box Mask	<p>自動登録された電話機用のボイスメールボックス番号をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。自動登録された電話機のディレクトリ回線から、コールをボイス メッセージ システムに転送する場合、Cisco CallManager は、そのディレクトリ回線の Voice Mail Box フィールドに設定されている番号に、このマスクを適用します。</p> <p>たとえば、972813XXXX というマスクを指定した場合、電話番号 7253 のボイスメール ボックス番号は 9728137253 になります。マスクを入力しない場合、ボイスメール ボックス番号は電話番号と同じです（この例では 7253 です）。</p> <p>デフォルトでは、Cisco CallManager は、ボイスメールボックス番号を電話番号と同じ値に設定します。電話番号を設定するときに、ボイスメールボックス番号を変更できます。詳細については、P.49-2 の「電話番号の設定の概要」を参照してください。</p>
Make This the Default Voice Mail Profile for the System	<p>このチェックボックスをオンにして、このプロファイルをデフォルトにします。</p> <p> (注) Default チェックボックスをオンにすると、このボイスメール プロファイルは、現在のデフォルト プロファイルを置き換えます。</p>

## ボイスメール プロファイルの削除

ボイスメール プロファイルを削除する手順は、次のとおりです。デフォルト プロファイルや No Voice Mail プロファイルは、削除できません。

### 始める前に

電話番号が使用するボイスメール プロファイルは、削除できません。ボイスメール プロファイルを使用している電話番号を検索するには、Voice Mail Profile Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。

Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されているボイスメール プロファイルを削除しようとすると、Cisco CallManager はメッセージを表示します。現在使用されているボイスメール プロファイルを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するボイスメール プロファイルを使用しているデバイスすべてに、別のボイスメール プロファイルを割り当てる。
- 削除するボイスメール プロファイルを使用しているデバイスを削除する。

### 手順

- 
- ステップ 1** [P.66-2 の「ボイスメール プロファイルの検索」](#)の手順に従って、削除するボイスメール プロファイルを見つけます。
- ステップ 2** 削除するボイスメール プロファイルの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ上のボイスメール プロファイルをすべて選択するには、Matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 3** **Delete Selected** をクリックします。
- 

### 追加情報

[P.66-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

- [ボイスメール プロファイルの検索 \(P.66-2\)](#)
- [ボイスメール プロファイルの設定 \(P.66-3\)](#)
- [ボイスメール プロファイルの設定値 \(P.66-4\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ボイスメールの Cisco CallManager への接続性」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」



## PART 6

### デバイスの設定







## CTI ルート ポイントの設定

---

Computer Telephony Integration (CTI) ルート ポイントでは、仮想デバイスを指定します。この仮想デバイスは、アプリケーションが宛先変更を制御している多重同時コールを受信することができます。

ファーストパーティコールを制御するために、アクティブな音声回線ごとに CTI ポートをオプションで追加できます (CTI アプリケーションがこれを決定します)。CTI ルート ポイントおよび CTI ポートを使用するアプリケーションには、Cisco SoftPhone、Cisco IP Auto Attendant、および Cisco IP Interactive Voice Response System があります。Cisco CallManager Administration に CTI ルート ポイントを追加した後、RIS Data Collector サービスからの情報が、CTI Route Point Configuration ウィンドウ内に表示されます。デバイスの IP アドレス、およびデバイスが登録されている Cisco CallManager の名前が利用可能であれば、表示されます。

これらのアプリケーションに関連した CTI ルート ポイントおよび CTI ポートの設定方法については、各アプリケーションに付属の資料とオンライン ヘルプを参照してください。

ここでは、次の内容について説明します。

- [CTI ルート ポイントの検索 \(P.67-2\)](#)
- [CTI ルート ポイントの設定 \(P.67-3\)](#)
- [CTI ルート ポイントの設定値 \(P.67-4\)](#)
- [CTI ルート ポイントの削除 \(P.67-6\)](#)
- [CTI ルート ポイントのリセット \(P.67-7\)](#)

## CTI ルートポイントの検索

CTI ルートポイントを検索し、一覧表示する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** Device > CTI Route Point の順に選択します。

Find and List Route Points ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。すべての項目を表示するには、検索テキストを入力しないか、検索条件として「Device Name is not empty」を使用します。

**ステップ 3** Find をクリックします。

ウィンドウの内容が更新され、指定された検索条件と一致する CTI ルートポイントのリストが表示されます。

**ステップ 4** 次の CTI ルートポイントのリストを表示するには、Next をクリックします。



**(注)** Find and List Route Points ウィンドウから複数の CTI ルートポイントを削除するには、適切な CTI ルートポイントの横にあるチェックボックスをオンにし、**Delete Selected** をクリックします。複数の CTI ルートポイントをリセットするには、適切な CTI ルートポイントの横にあるチェックボックスをオンにして、**Reset Selected** をクリックします。ウィンドウ内の CTI ルートポイントをすべて選択するには、**Select All** をクリックします。

---

### 追加情報

P.67-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## CTI ルート ポイントの設定

CTI ルート ポイントを追加または更新する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** Device > CTI Route Point の順に選択します。

Find and List Route Points ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- CTI ルート ポイントをコピーするには、該当するルート ポイントを見つけます (P.67-2 の「[CTI ルート ポイントの検索](#)」を参照)。Search Results リストから、コピーする CTI ルート ポイントに対応する Copy アイコンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 新規 CTI ルート ポイントを追加するには、Add New ボタンをクリックします。CTI Route Point Configuration ウィンドウが表示されます。[ステップ 3](#) に進みます。
- CTI ルート ポイントを更新するには、該当する CTI ルート ポイントを見つけます (P.67-2 の「[CTI ルート ポイントの検索](#)」を参照)。次に、[ステップ 3](#) に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 67-1 を参照)。

**ステップ 4** Save をクリックします。

電話番号の追加と設定の方法については、P.49-4 の「[電話番号の設定](#)」を参照してください。

Cisco CallManager Administration に CTI ルート ポイントを追加した後、RIS Data Collector サービスからの情報が、CTI Route Point Configuration ウィンドウ内に表示されます。デバイスの IP アドレス、およびデバイスが登録されている Cisco CallManager の名前が利用可能であれば、表示されます。

---

### 追加情報

P.67-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## CTI ルート ポイントの設定値

表 67-1 では、CTI ルート ポイントの設定値について説明します。関連する手順の詳細については、P.67-8 の「関連項目」を参照してください。

表 67-1 CTI ルート ポイントの設定値

フィールド	説明
Device Name	このデバイスに固有の識別子を、1 ~ 15 文字(英数字、ドット、ダッシュ、または下線を含む)で入力します。
Description	CTI ルート ポイントの内容を表す名前を入力します。
Device Pool	デバイス プールの名前を選択します。デバイス プールは、自動登録用の CallManager Group、Date/Time Group、Region、および Calling Search Space を含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、コーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、収集された(発信)番号のルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで、希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System &gt; Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
Location	このルート ポイントに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに None を設定すると、そのロケーションの機能では、このルート ポイントが消費する帯域幅を把握しません。
Media Resource Group List	<p>適切なメディア リソース グループ リストを選択します。メディア リソース グループ リストは、優先順位順に並べられたメディア リソース グループから構成されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。</p> <p>&lt;none&gt; を選択すると、Cisco CallManager は、デバイス プールに定義されているメディア リソース グループを使用します。</p> <p>詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」を参照してください。</p>

表 67-1 CTI ルート ポイントの設定値 (続き)

フィールド	説明
Network Hold Audio Source	<p>ネットワークが保留動作を開始するときに再生されるオーディオソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックし、表示されるリストからオーディオソースを選択します。</p> <p>オーディオソースを選択しない場合、Cisco CallManager は、デバイスプールに定義されているオーディオソースを使用します。または、デバイスプールがオーディオソース ID を指定していない場合は、システム デフォルトを使用します。</p> <p>オーディオソースの定義は、Music On Hold Audio Source Configuration ウィンドウで行います。アクセスするには、<b>Media Resources &gt; Music On Hold Audio Source</b> の順に選択します。</p>
User Hold Audio Source	<p>アプリケーションが保留操作を開始するときに再生されるオーディオソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックし、表示されるリストからオーディオソースを選択します。</p> <p>オーディオソースを選択しない場合、Cisco CallManager は、デバイスプールに定義されているオーディオソースを使用します。または、デバイスプールがオーディオソース ID を指定していない場合は、システム デフォルトを使用します。</p> <p>オーディオソースの定義は、Music On Hold Audio Source Configuration ウィンドウで行います。アクセスするには、<b>Media Resources &gt; Music On Hold Audio Source</b> の順に選択します。</p>

## CTI ルートポイントの削除

CTI ルートポイントを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

1 つまたは複数の電話番号に関連付けられた CTI ルートポイントを削除できるため、CTI ルートポイントを使用している電話番号を特定する必要があります。CTI ルートポイントを使用している電話番号を特定するには、CTI Route Point Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リストボックスから **Dependency Records** リンクを選択し、**Go** をクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されている CTI ルートポイントを削除しようとする、Cisco CallManager はメッセージを表示します。

割り当てられている電話番号をもつ CTI ルートポイントを削除する場合、Route Plan Report を使用して電話番号を検索できます。Route Plan Report を使用して電話番号を削除することもできます。

### 手順

---

**ステップ 1** Device > CTI Route Point の順に選択します。

Find/List CTI Route Points ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 削除する CTI ルートポイントの検索に必要な検索条件を指定します。

**ステップ 3** Find をクリックします。

ウィンドウの内容が更新され、指定された検索条件と一致する CTI ルートポイントのリストが表示されます。

**ステップ 4** 次のアクションのいずれかを実行します。

- 削除する CTI ルートグループの横にあるチェックボックスをオンにし、**Delete Selected** をクリックする。
- ウィンドウ内の CTI ルートポイントをすべて削除する場合は、**Select All** をクリックし、**Delete Selected** をクリックする。
- 削除する CTI ルートポイントの名前を選択して、現在の設定値を表示し、**Delete** をクリックする。

**ステップ 5** OK をクリックすると、CTI ルートポイントが完全に削除されます。

---

### 追加情報

[P.67-8 の「関連項目」](#)を参照してください。

## CTI ルート ポイントのリセット

CTI ルート ポイントをリセットする手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** Device > CTI Route Point の順に選択します。

Find and List CTI Route Points ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。

**ステップ 3** Find をクリックします。

検索条件に一致する CTI ルート ポイントがウィンドウに表示されます。

**ステップ 4** リセットする CTI ルート ポイントの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内の CTI ルート ポイントをすべて選択するには、Matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。

**ステップ 5** Reset Selected をクリックします。

Reset Device ダイアログが表示されます。

**ステップ 6** 次のいずれかのボタンをクリックします。

- **Restart** : デバイスをシャットダウンしないで再起動する。
  - **Reset** : デバイスをシャットダウンしてから起動する。
  - **Close** : 何も実行しないで、Reset Device ダイアログを閉じる。
- 

### 追加情報

P.67-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [CTI ルートポイントの設定 \(P.67-3\)](#)
- [CTI ルートポイントの検索 \(P.67-2\)](#)
- [CTI ルートポイントの設定値 \(P.67-4\)](#)
- [CTI ルートポイントの削除 \(P.67-6\)](#)
- [CTI ルートポイントのリセット \(P.67-7\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「コンピュータ テレフォニー統合」



## ゲートキーパーの設定

ゲートキーパー デバイスは、Cisco Multimedia Conference Manager (MCM) と呼ばれ、コール アドミッション制御、帯域幅割り当て、およびダイヤル パターン解決 (コール ルーティング) に使用される H.225 RAS (Registration, Admission, and Status Protocol) メッセージ セットをサポートしています。ゲートキーパーは、Cisco CallManager クラスタと H.323 ネットワークの間の通信のためにこれらのサービスを提供します。Cisco CallManager クラスタごとに、複数のゲートキーパー デバイスを設定できます。冗長化のために代替ゲートキーパーを設定することもできます。代替ゲートキーパーの設定の詳細については、MCM のマニュアルを参照してください。

ゲートキーパーの設定は、次の 2 つの要素から構成されます。

- Cisco CallManager の設定。各 Cisco CallManager クラスタは、1 つまたは複数のゲートキーパーに登録できます。この章では、Cisco CallManager サーバでゲートキーパーを設定する方法を説明します。また、Trunk Configuration ウィンドウでトランク デバイスを設定する必要があります。P.71-1 の「[トランクの設定](#)」を参照してください。
- ルータ上でのゲートキーパーの設定。この設定は、ゲートキーパーの役目をする Cisco IOS Multimedia Conference Manager (MCM) に適用されます。ゲートキーパー用に推奨されるプラットフォームは、Cisco IOS リリース 12.1(3)T 以上を搭載した Cisco 2600、3600、7200 ルータなどです。ゲートキーパーの設定については、MCM の資料を参照してください。代替ゲートキーパー設定は MCM でのみ行うので、Cisco CallManager での設定は必要ありません。

Cisco CallManager Administration でのゲートキーパーの設定については、次のトピックを参照してください。

- [ゲートキーパーの検索 \(P.68-2\)](#)
- [ゲートキーパーの設定 \(P.68-3\)](#)
- [ゲートキーパーの設定値 \(P.68-4\)](#)
- [ゲートキーパーの削除 \(P.68-5\)](#)
- [ゲートキーパーのリセット \(P.68-6\)](#)

## ゲートキーパーの検索

ネットワーク内にはいくつかのゲートキーパーが存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の基準を指定して、特定のゲートキーパーを見つけることができます。ゲートキーパーを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、ゲートキーパーの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ゲートキーパーの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Device > Gatekeeper の順に選択します。

Find and List Gatekeeper ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、ゲートキーパーを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find gatekeepers where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Name
- Description



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する基準によって、検索時に生成されるゲートキーパー リストのソート方法が決まります。たとえば、Description を選択すると、Description 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find gatekeepers where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されているゲートキーパーをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたゲートキーパーのリストが、次の項目別に表示されます。

- Gatekeeper name
- Description



(注) 該当するゲートキーパーの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Gatekeeper ウィンドウから複数のゲートキーパーを削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する Gatekeeper icon、Gatekeeper name、または Description をクリックします。

選択したゲートキーパーがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.68-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ゲートキーパーの設定

ゲートキーパーを追加または更新する手順は、次のとおりです。



(注) Cisco CallManager クラスタごとに、複数のゲートキーパー デバイスを設定できます。

#### 手順

**ステップ 1** Device > Gatekeeper の順に選択します。

Find and List Gatekeepers ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 新しいゲートキーパーを追加するには、**Add New** ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存のゲートキーパーを更新するには、該当するゲートキーパーを見つけます([P.68-2](#) の「[ゲートキーパーの検索](#)」を参照)。次に、[ステップ 3](#) に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します ([表 68-1](#) を参照)。

**ステップ 4** Save をクリックします。

#### 追加情報

P.68-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ゲートキーパーの設定値

表 68-1 では、ゲートキーパーの設定値について説明します。関連する手順については、P.68-7 の「関連項目」を参照してください。

表 68-1 ゲートキーパーの設定値

フィールド	説明
<b>ゲートキーパー情報</b>	
Host Name/IP Address	ゲートキーパーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。これは必須フィールドです。  Cisco CallManager クラスタごとに、複数のゲートキーパーを登録できます。
Description	ゲートキーパーの内容を表す名前を入力します。
Registration Request Time to Live	Cisco TAC から指示される場合を除いて、この値を変更しないでください。時間を秒数で入力します。デフォルト値は 60 秒です。  Registration Request Time to Live フィールドは、ゲートキーパーが登録要求 (RRQ) を有効であるとみなす時間を指定します。キープアライブ RRQ は、RRQ Time to Live の期限が切れる前に、ゲートキーパーへ送信される必要があります。  Cisco CallManager は、ゲートキーパーに RRQ を送信して、そのゲートキーパーに登録し、その後、そのゲートキーパーとの接続を保持します。ゲートキーパーは、要求の確認 (RCF) または拒否 (RRJ) を行います。
Registration Retry Timeout	Cisco TAC から指示される場合を除いて、この値を変更しないでください。時間を秒数で入力します。デフォルト値は 300 秒です。  Registration Retry Timeout フィールドは、登録しようとして失敗した後、ゲートキーパーへの登録をやり直すまで、Cisco CallManager が待機する時間を指定します。
Enable Device	このチェックボックスを使用すると、このゲートキーパーを Cisco CallManager に登録できます。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。Cisco CallManager からゲートキーパーの登録を解除するには、このチェックボックスをオフにします。このフィールドを更新してから約 1 分以内に、ゲートキーパーの登録は解除されます。

## ゲートキーパーの削除

ゲートキーパーを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

1 つまたは複数のトランクに割り当てられているゲートキーパーは、削除できません。ゲートキーパーを使用しているトランクを検索するには、Gatekeeper Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されているゲートキーパーを削除しようとすると、Cisco CallManager はエラーメッセージを表示します。現在使用されているゲートキーパーを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するゲートキーパーを使用しているトランクすべてに、別のゲートキーパーを割り当てる。[P.71-3 の「トランクの設定」](#)を参照してください。
- 削除するゲートキーパーを使用しているトランクを削除する。[P.71-28 の「トランクの削除」](#)を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** [P.68-2 の「ゲートキーパーの検索」](#)の手順を使用して、ゲートキーパーを見つけます。

**ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するゲートキーパーを選択します。

**ステップ 3** **Delete Selected** をクリックします。

確認のダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 4** **OK** をクリックして、ゲートキーパーを削除します。

---

### 追加情報

[P.68-7 の「関連項目」](#)を参照してください。

## ゲートキーパーのリセット

ゲートキーパーのリセットによって、物理デバイスがリセットされるわけではありません。ゲートキーパーのリセットは、Cisco CallManager のゲートキーパーへの論理接続のリセットおよびゲートキーパーへの再登録が強制されます。再登録の間および再登録が正常終了するまで、このトランクを使用して行われるコールは、このゲートキーパーを使用しますが、失敗します。ゲートキーパーをリセットする手順は、次のとおりです。



(注)

ゲートキーパーをリセットしても、ゲートキーパーが制御しているすべてのコールが終了するわけではありませんが、新しいコールは失敗を試みます。

### 手順

**ステップ 1** P.68-2 の「[ゲートキーパーの検索](#)」の手順を使用して、ゲートキーパーを見つけます。

**ステップ 2** 一致するレコードのリストから、リセットするゲートキーパーを選択します。

**ステップ 3** Gatekeeper Device の設定値を変更した場合は、**Reset** をクリックします。

Reset Device ダイアログが表示されます。

**ステップ 4** 次のいずれかの項目をクリックします。

- **Restart** : 選択されたデバイスをシャットダウンせずに、再起動する ( Cisco CallManager に電話機を再登録する )
- **Reset** : 内部ゲートキーパー デバイスをシャットダウンしてから再起動する。Cisco CallManager クラスタは、ゲートキーパーへの登録を解除 ( URQ ) した後、再登録 ( RRQ ) します。
- **Close** : 何も実行しないで、Reset Device ダイアログを閉じる。

### 追加情報

P.68-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [ゲートキーパーの設定 \(P.68-1\)](#)
- [ゲートキーパーの検索 \(P.68-2\)](#)
- [ゲートキーパーの設定 \(P.68-3\)](#)
- [ゲートキーパーの設定値 \(P.68-4\)](#)
- [ゲートキーパーの削除 \(P.68-5\)](#)
- [ゲートキーパーのリセット \(P.68-6\)](#)
- [トランクの設定 \(P.71-1\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ゲートキーパーとトランク」

### 参考資料

- [Cisco IP ビデオ テレフォニー ソリューション ネットワーク デザイン](#)
- [Cisco IOS Multimedia Conference Manager \(Command Reference\) の資料](#)





## ゲートウェイの設定

---

Cisco CallManager は、Cisco IP テレフォニー ゲートウェイにより、非 IP 通信デバイスとの情報交換が可能になります。Cisco CallManager は、複数のタイプのゲートウェイをサポートしています (『Cisco CallManager システム ガイド』を参照)。

Cisco CallManager を使用した Cisco ゲートウェイの処理と設定については、次のトピックを参照してください。

- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.69-2\)](#)
- [ゲートウェイの設定値 \(P.69-16\)](#)
- [ポートの設定値 \(P.69-61\)](#)
- [特定のゲートウェイの検索 \(P.69-67\)](#)
- [ゲートウェイとポートの変更 \(P.69-76\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager 音声ゲートウェイの概要」

## Cisco CallManager へのゲートウェイの追加

Cisco CallManager でネットワーク内の IP テレフォニー ゲートウェイを管理するには、まず、各ゲートウェイを Cisco CallManager 設定データベースに追加する必要があります。ゲートウェイを追加する場合の手順、ウィンドウ、および設定値は、追加するゲートウェイのモデルによって異なります。

Cisco CallManager で新規ゲートウェイを追加する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Device > Gateway の順に選択して、Find and List Gateways ウィンドウを表示します。
- ステップ 2** Add New ボタンをクリックします。Add a New Gateway ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** Gateway Type ドロップダウン リストボックスから、追加するゲートウェイのタイプを選択します。Device Protocol フィールドには、選択するゲートウェイのタイプにより自動的にデータが読み込まれる場合があります。
- ステップ 4** Next をクリックします。
- ステップ 5** 次の表で、設定するゲートウェイのタイプ用の手順をクリックします。正しい手順を選択した後、目的のゲートウェイのタイプに該当する設定値を入力するステップから始めます。
- 

**表 69-1** ゲートウェイ

ゲートウェイのタイプ	タイプ別の追加手順
Cisco Voice Gateway 200 (VG200) VG224 Gateway Cisco IOS 269X、26XX、362X、364X、366X、3725、3745 ゲートウェイ Cisco 2801、2811、2821、2851、3825、3845 ゲートウェイ Cisco Catalyst 4000 Access Gateway Module Cisco Catalyst 4224 Voice Gateway Switch Communication Media Module Cisco IAD2400	<a href="#">Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加 ( P.69-3 )</a>
Cisco IOS 269X、3725、3745 ゲートウェイ	<a href="#">Cisco IOS SCCP ゲートウェイの追加 ( P.69-9 )</a>
Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP Gateway Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway Cisco DT-24+ または DE-30+ Digital Access Trunk Gateway	<a href="#">IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加 ( P.69-11 )</a>
H.323 モードで設定されたその他の Cisco IOS ゲートウェイ	<a href="#">Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加 ( P.69-12 )</a>
Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway	<a href="#">Analog Access ゲートウェイとポートの追加 ( P.69-13 )</a>
Cisco VG248 Gateway	<a href="#">Cisco VG248 Analog Phone Gateway の追加 ( P.69-14 )</a>

## Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加

Cisco IOS MGCP ゲートウェイを Cisco CallManager に追加し、設定する手順を説明します。MGCP をサポートしている Cisco IOS ゲートウェイは、次のとおりです。

- Cisco VG200 Cisco IP Telephony Voice Gateway
- VG224 Gateway
- Cisco IOS 362x、364x、366x ゲートウェイ
- Cisco IOS 3725 および 3745 ゲートウェイ
- Cisco IOS 26xx および 269x ゲートウェイ
- Cisco 2801、2811、2821、2851、3825、3845 ゲートウェイ
- Cisco Catalyst 4000 Access Gateway Module
- Cisco Catalyst 4224 Voice Gateway Switch
- Communication Media Module
- Cisco IAD2400 ゲートウェイ



(注)

MRP/ASI ゲートウェイは、他の IOS MGCP ゲートウェイと同様、3 台の Cisco CallManager を含む Cisco CallManager グループとともに動作できます。しかし、ASI/MRP ゲートウェイのテストは、1 台のバックアップ Cisco CallManager だけを使用して実行されます。

### 始める前に

Cisco IOS MGCP ゲートウェイを Cisco CallManager とともに使用するように設定するには、事前に Cisco IOS コマンド ライン インターフェイス (CLI) を使用して、そのゲートウェイを設定しておく必要があります。ゲートウェイの設定に必要な手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定マニュアルを参照してください。

### 手順

- ステップ 1** Device > Gateway の順に選択して、Find and List Gateways ウィンドウを表示します。
- ステップ 2** Add New ボタンをクリックします。Add a New Gateway ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** Gateway Type ドロップダウン リストボックスから、次のいずれかの MGCP ゲートウェイを選択します。
  - Cisco VG200
  - VG224
  - Cisco 362X、364X、366X ゲートウェイ
  - Cisco 3725 および 3745 ゲートウェイ
  - Cisco 26XX および 269X ゲートウェイ
  - Cisco 2801、2811、2821、2851、3825、3845 ゲートウェイ
  - Cisco Catalyst 4000 Access Gateway Module
  - Cisco Catalyst 4224 Voice Gateway Switch
  - Communication Media Module
  - Cisco IAD2400 ゲートウェイ



(注) Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイも MGCP をサポートしていますが、設定が異なります。[P.69-11 の「IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加」](#)を参照してください。

Cisco IOS MGCP ゲートウェイは、ゲートウェイのモデル、および取り付けられているネットワーク モジュールと Voice Interface Card( VIC; 音声インターフェイス カード)のタイプに応じて、PSTN またはその他の IP 以外のデバイスとのインターフェイスを取るために、異なるデバイス プロトコルをサポートします。後続の Web ウィンドウには、これらのインターフェイスの設定が表示されます。

**ステップ 4** Next をクリックします。

**ステップ 5** Protocol ドロップダウン リスト ボックスが表示された場合は、MGCP を選択し、Next をクリックします。表示されない場合は、[ステップ 6](#)に進みます。

**ステップ 6** 適切な Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。

プロダクト固有の設定値も含めて、適切な設定値を入力し、各スロットに取り付けられているネットワーク モジュールのタイプを選択します ([P.69-16 の「MGCP ゲートウェイの設定値」](#)を参照)。

**ステップ 7** Save をクリックします。

Gateway Configuration ウィンドウが更新され、ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。このリスト ボックスには、各ネットワーク モジュールの各サブユニットで、音声インターフェイス カード (VIC) のタイプを設定するためのオプションが含まれています。

選択項目は、Gateway Configuration ウィンドウで設定されるネットワーク モジュールのタイプに応じて異なります。

**ステップ 8** ドロップダウン リスト ボックスから、各サブユニットにインストールされている VIC のタイプを選択し、Save をクリックします。

ウィンドウが更新され、選択した VIC タイプ用のエンドポイント情報とポートを設定するためのリンクが追加されます。

**ステップ 9** エンドポイント ID (たとえば、1/0/0) をクリックして、デバイス プロトコル情報を設定し、取り付けられている VIC のタイプ用のポートを追加します。

詳細については、次の手順を参照してください。

- [MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加 \(P.69-5\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加 \(P.69-6\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの Digital Access T1 ポートの追加 \(P.69-8\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの Digital Access PRI デバイスの追加 \(P.69-8\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加 \(P.69-9\)](#)

**ステップ 10** Reset をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。

**ステップ 11** 必要に応じて、エンドポイント情報とポートを引き続き設定します。

**ステップ 12** エンドポイントの設定とポートの追加が終了した後、MGCP ゲートウェイ デバイスをルート グループまたはルート リストに追加するか、ルート パターンをゲートウェイに割り当てて、コールがゲートウェイにルーティングされるようにする必要があります。



(注) MGCP ゲートウェイをルート パターンに追加する必要があるのは、発信コールの場合だけです。

## MGCP ゲートウェイへのポートの追加

MGCP ゲートウェイで設定できるデバイス プロトコルとポート タイプは、取り付けられている音声インターフェイスカードのタイプによって異なります。ここでは、次の内容について説明します。

- [MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加 \(P.69-5\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加 \(P.69-6\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの Digital Access T1 ポートの追加 \(P.69-8\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの Digital Access PRI デバイスの追加 \(P.69-8\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加 \(P.69-9\)](#)

## MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加

Foreign Exchange Station (FXS) ポートは、任意の POTS デバイスとの接続に使用できます。MGCP ゲートウェイで FXS ポートを設定する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

ポートを設定するには、事前に、MGCP ゲートウェイを追加しておく必要があります。詳細については、[P.69-3](#) の「[Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加](#)」を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** **Device > Gateway** の順に選択します。Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。または、FXS ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見つかっている場合は、[ステップ 4](#) に進んでください。
- ステップ 2** FXS ポートを追加する先の MGCP ゲートウェイを特定するために、適切な検索条件を入力します。
- ステップ 3** 目的のゲートウェイの名前をクリックして、その MGCP 設定値とエンドポイント ID を表示します。
- ステップ 4** Gateway Configuration ウィンドウから、設定する FXS VIC のエンドポイント ID をクリックします。  
ウィンドウの内容が更新され、Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** **Gateway Information** と **Port Information** に、適切な設定値を入力します。これらのフィールドの詳細については、次の各項を参照してください。
  - [FXS/FXO ポートの設定値 \(P.69-18\)](#)
  - [POTS ポートの設定値 \(P.69-61\)](#)

**ステップ 6** Save をクリックします。



**(注)** POTS ポートを追加した後、ウィンドウがリフレッシュされ、ウィンドウの下部にその POTS ポートの情報が表示されます。新しいポートの下に **Add a new DN** リンクが表示されます。

**ステップ 7** **Add a new DN** をクリックして、POTS ポートに電話番号を追加します。または、別のタイプのポートを設定した場合は、**ステップ 9** に進んでください。



**(注)** DN の追加と設定については、[P.49-4 の「電話番号の設定」](#)および [P.49-9 の「電話番号の設定値」](#)を参照してください。

**ステップ 8** ポートを追加したゲートウェイの MGCP Gateway Configuration メイン ウィンドウに戻るには、Related Links ドロップダウン リスト ボックスで **Back to MGCP Configuration** をクリックし、**Go** をクリックします。

**ステップ 9** **Reset** をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。

**ステップ 10** [ステップ 4](#) ~ [ステップ 8](#) を繰り返して、他の FXS ポートを追加します。

#### 追加情報

[P.69-79 の「関連項目」](#)を参照してください。

## MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加

Foreign Exchange Office (FXO) ポートは、セントラル オフィスまたは PBX との接続に使用できます。MGCP ゲートウェイ上で、ループ スタートまたはグラウンド スタート用に FXO ポートを追加し、設定する手順は、次のとおりです。



**(注)** Cisco CallManager は、すべてのループ スタート トランクには、Positive Disconnect Supervision (確実な接続解除監視) がないものと想定します。Cisco CallManager サーバのフェールオーバー時にアクティブ コールを保持できるように、確実な接続解除監視を備えたトランクを、グラウンド スタートとして設定してください。

#### 始める前に

ポートを設定するには、事前に、MGCP ゲートウェイを追加しておく必要があります。詳細については、[P.69-3 の「Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加」](#)を参照してください。

## 手順

- ステップ 1** **Device > Gateway** の順に選択します。Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。または、FXO ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見ついている場合は、[ステップ 4](#) に進んでください。
- ステップ 2** FXO ポートを追加する先の MGCP ゲートウェイを特定するために、適切な検索条件を入力し、**Find** をクリックします。検索結果が表示されます。
- ステップ 3** 目的のゲートウェイの名前をクリックして、その MGCP 設定値とエンドポイント ID を表示します。
- ステップ 4** MGCP Configuration ウィンドウから、設定する FXO ポートのエンドポイント ID をクリックします。
- ステップ 5** Port Type ドロップダウン リスト ボックスから、**Ground Start** か **Loop Start** のどちらかを選択します。



**(注)** VIC-2FXO ポートの両方のエンドポイント ID の同じポート タイプを選択する必要があります。異なるポート タイプを選択すると、メッセージが表示されます。

- ステップ 6** 次の各項の説明に従って、適切な **Gateway Configuration** および **Port Information** の設定値を入力します。
  - [FXS/FXO ポートの設定値 \(P.69-18\)](#)
  - [ループ スタート ポートの設定値 \(P.69-63\)](#)
  - [グラウンド スタート ポートの設定値 \(P.69-64\)](#)
- ステップ 7** **Save** をクリックします。
- ステップ 8** ポートを追加したゲートウェイの MGCP Gateway Configuration メイン ウィンドウに戻るには、Related Links ドロップダウン リスト ボックスで **Back to MGCP Configuration** をクリックし、**Go** をクリックします。
- ステップ 9** **Reset** をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。
- ステップ 10** 他の FXO ポートを追加するには、[ステップ 4](#) ~ [ステップ 7](#) を繰り返します。

## 追加情報

[P.69-79](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## MGCP ゲートウェイへの Digital Access T1 ポートの追加

MGCP ゲートウェイに Digital Access T1 ( T1-CAS ) ポートを追加する手順は、次のとおりです。

- 
- ステップ 1** **Device > Gateway** の順に選択します。Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。または、T1-CAS ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見ついている場合は、[ステップ 4](#) に進んでください。
- ステップ 2** Digital Access T1 ( T1-CAS ) ポートを追加する MGCP ゲートウェイを見つけるために適切な検索条件を入力します。
- ステップ 3** 目的のゲートウェイの名前をクリックして、その MGCP 設定値とエンドポイント ID を表示します。
- ステップ 4** Gateway Configuration ウィンドウから、設定する Digital Access T1 ( T1-CAS ) ポートのエンドポイント ID をクリックします。
- Device Protocol ドロップダウン リスト ボックスで、**Digital Access T1** を選択し、**Next** をクリックします。
- 選択するポート タイプの設定値については、[P.69-61](#) の「[ポートの設定値](#)」を参照してください。
- ステップ 5** 適切な Gateway Configuration 設定値を入力します。詳細については、[P.69-42](#) の「[Digital Access T1 の設定値](#)」を参照してください。
- ステップ 6** **Save** をクリックします。
- ステップ 7** **Reset** をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。
- 

### 追加情報

[P.69-79](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## MGCP ゲートウェイへの Digital Access PRI デバイスの追加

- 
- ステップ 1** **Device > Gateway** の順に選択します。Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。または、ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見ついている場合は、[ステップ 4](#) に進んでください。
- ステップ 2** T1 PRI または E1 PRI ポートを追加する MGCP ゲートウェイを見つけるために、適切な検索条件を入力します。
- ステップ 3** リストで目的のゲートウェイの名前をクリックして、選択したゲートウェイの設定情報を表示します。
- ステップ 4** Gateway Configuration ウィンドウから、設定する T1 PRI ポートまたは E1 PRI ポートのエンドポイント ID をクリックします。
- ステップ 5** T1 PRI または E1 PRI デバイス プロトコルの設定値を設定します。フィールドの詳細については、[P.69-22](#) の「[Digital Access PRI ポートの設定値](#)」を参照してください。

**ステップ 6** Save をクリックします。

**ステップ 7** Reset をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。

---

#### 追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

### MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加

MGCP ゲートウェイで設定できるデバイス プロトコルとポート タイプは、取り付けられている音声インターフェイスカード (VIC) のタイプによって異なります。MGCP ゲートウェイに BRI ポートを追加する手順は、次のとおりです。

#### 手順

---

**ステップ 1** Device > Gateway の順に選択します。Find/List Gateways ウィンドウが表示されます。または、ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見ついている場合は、[ステップ 4](#)に進んでください。

**ステップ 2** BRI ポートを追加する MGCP ゲートウェイを見つけるために適切な検索条件を入力します。

**ステップ 3** リストで目的のゲートウェイの名前をクリックして、選択したゲートウェイの設定情報を表示します。

**ステップ 4** MGCP Configuration ウィンドウから、設定する BRI ポートのエンドポイント ID をクリックします。

**ステップ 5** BRI デバイス プロトコルの設定値を設定します。フィールドの詳細については、[P.69-34](#) の「[BRI ゲートウェイの設定値](#)」を参照してください。

**ステップ 6** Save をクリックします。

**ステップ 7** ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。

---

#### 追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

### Cisco IOS SCCP ゲートウェイの追加

Cisco IOS SCCP ゲートウェイを Cisco CallManager に追加し、設定する手順を説明します。SCCP をサポートしている Cisco IOS ゲートウェイは、次のとおりです。

- Cisco IOS 269x ゲートウェイ
- Cisco IOS 3725 および 3745 ゲートウェイ
- Cisco VG224 Gateway

### 始める前に

事前に Cisco CallManager にゲートウェイを追加して、Cisco IOS SCCP ゲートウェイを設定します。続いて、Cisco IOS コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して、そのゲートウェイを設定します。ゲートウェイの設定に必要な手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定マニュアルを参照してください。

### 手順

**ステップ 1** Device > Gateway の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Add New をクリックします。

Add a New Gateway ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** Gateway Type ドロップダウン リスト ボックスから、次の SCCP ゲートウェイのいずれかを選択します。

- Cisco IOS 269x ゲートウェイ
- Cisco IOS 3725 および 3745 ゲートウェイ

**ステップ 4** Protocol ドロップダウン リスト ボックスから、SCCP プロトコルを選択します。

Cisco IOS SCCP ゲートウェイは、ゲートウェイのモデル、および取り付けられているネットワーク モジュールと音声インターフェイス カード (VIC) のタイプに応じて、PSTN またはその他の IP 以外のデバイスとのインターフェイスを取るために、SCCP をサポートします。後続の Web ウィンドウには、インターフェイスの設定が表示されます。

**ステップ 5** Next をクリックします。

この SCCP ゲートウェイ用の Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 6** プロダクト固有の設定値も含めて、適切な設定値を入力し、各スロットに取り付けられているネットワーク モジュールのタイプを選択します (P.69-58 の「Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値」を参照)。

**ステップ 7** Save をクリックします。

Gateway Configuration ウィンドウが更新され、ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。このリスト ボックスには、各ネットワーク モジュールの各サブユニットで、音声インターフェイス カード (VIC) のタイプを設定するためのオプションが含まれています。

選択項目は、Gateway Configuration ウィンドウで設定されるネットワーク モジュールのタイプに応じて異なります。

**ステップ 8** ドロップダウン リスト ボックスから、各サブユニットにインストールされている VIC のタイプを選択し、Save をクリックします。

ウィンドウが更新され、選択した VIC タイプ用のエンドポイント情報とポートを設定するためのリンクが追加されます。

**ステップ 9** エンドポイント ID (たとえば、1/0/0) をクリックして、デバイス プロトコル情報を設定し、取り付けられている VIC のタイプ用のポートを追加し、SCCP ゲートウェイに FXS/BRI ポートを追加します。アナログ電話機の設定の詳細については、P.70-1 の「Cisco IP Phone の設定」および P.70-7 の「電話機の設定値」を参照してください。

**ステップ 10** ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。

**ステップ 11** 必要に応じて、エンドポイント情報とポートを引き続き設定します。

## IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加

次の IOS 以外の Cisco MGCP ゲートウェイを Cisco CallManager に追加する手順は、次のとおりです。

- Cisco DT-24+ Gateway
- Cisco DE-30+ Gateway
- Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP Gateway
- Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway

### 手順

**ステップ 1** **Device > Gateway** の順に選択して、Find and List Gateways ウィンドウを表示します。

**ステップ 2** **Add New** ボタンをクリックします。

Add a New Gateway ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** Gateway Type ドロップダウン リスト ボックスから、次のデジタル ゲートウェイのいずれかを選択し、**Next** をクリックします。

- Cisco DT-24+ Gateway
- Cisco DE-30+ Gateway
- Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP Gateway
- Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway

**ステップ 4** ドロップダウン リスト ボックスから、選択したゲートウェイ上で設定するインターフェイスのタイプに適したデバイス プロトコルを選択します。選択可能な項目は、ゲートウェイのモデルに応じて異なります。

- Cisco DT-24+ Gateway または Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway : Digital Access PRI または Digital Access T1 を選択します。
- Cisco DE-30+ Gateway または Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP Gateway : Digital Access PRI デバイス プロトコルが自動的に選択され、Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。[ステップ 6](#) に進みます。

**ステップ 5** **Next** をクリックします。

Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 6** Digital Access PRI インターフェイスを設定するか、Digital Access T1 インターフェイスを設定するかに応じて、適切な設定値を入力します（次の各項を参照）。

- [Digital Access PRI ポートの設定値 \( P.69-22 \)](#)
- [Digital Access T1 の設定値 \( P.69-42 \)](#)

**ステップ 7** Save をクリックします。

**ステップ 8** DT-24+ または Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway で Digital Access T1 インターフェイスを設定する場合は、ウィンドウの左側に表示される Ports ペインで、**Add a New Port** リンクをクリックして、ポートを設定します。

[P.69-8 の「MGCP ゲートウェイへの Digital Access T1 ポートの追加」](#)を参照してください。

**ステップ 9** Reset をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。

---

#### 追加情報

[P.69-79 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加

Cisco IOS H.323 ゲートウェイを Cisco CallManager に追加する手順は、次のとおりです。

#### 始める前に

Cisco IOS H.323 ゲートウェイを Cisco CallManager と連携させて使用するようには設定するには、事前に、Cisco IOS コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して、そのゲートウェイを設定しておく必要があります。MGCP ゲートウェイと比較すると、H.323 ゲートウェイの方が、ゲートウェイでの設定が多くなります。これは、H.323 ゲートウェイが、ダイヤルプランとルートパターンを保持する必要があるためです。ゲートウェイの設定に必要な手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定マニュアルを参照してください。

#### 手順

---

**ステップ 1** Device > Gateway の順に選択して、Find and List Gateways ウィンドウを表示します。

**ステップ 2** Add New ボタンをクリックします。

Add a New Gateway ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** Gateway Type ドロップダウン リストボックスから、**H.323 Gateway** を選択します。

**ステップ 4** Next をクリックします。

**ステップ 5** 適切な設定値を入力します（[P.69-46 の「H.323 ゲートウェイの設定値」](#)を参照）。

**ステップ 6** Save をクリックします。

**ステップ 7** Reset をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。

#### 追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Analog Access ゲートウェイとポートの追加

次の非 Cisco Analog Access ゲートウェイを追加し、ポートを設定する手順は、次のとおりです。

- Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway

#### 手順

**ステップ 1** Device > Gateway の順に選択して、Find and List Gateways ウィンドウを表示します。

**ステップ 2** Add New ボタンをクリックします。

Add a New Gateway ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** Gateway Type ドロップダウン リスト ボックスから、サポートされているアナログ ゲートウェイを選択します。

- Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway

**ステップ 4** Next をクリックします。

Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 5** 適切な設定値を入力します ( P.69-54 の「[Analog Access ゲートウェイの設定値](#)」を参照 )。

**ステップ 6** Save をクリックします。

**ステップ 7** このゲートウェイにポートを追加するには、ウィンドウの左側に表示される Ports ペインで、Add a New Port リンクをクリックします。

Port Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 8** ドロップダウン リスト ボックスから、ポート タイプとして POTS を選択し、Next をクリックします。

**ステップ 9** 適切なポートの設定値を入力します ( P.69-61 の「[POTS ポートの設定値](#)」を参照 )。

**ステップ 10** Save をクリックします。

POTS ポートを追加した場合、ウィンドウの内容が更新され、ウィンドウの左側に、その POTS ポートが表示されます。新しいポートの右側に、Add DN リンクが表示されます。

**ステップ 11** Add DN をクリックして、POTS ポートに電話番号を追加します。

電話番号の追加と設定については、[P.49-4 の「電話番号の設定」](#)および [P.49-9 の「電話番号の設定値」](#)を参照してください。

**ステップ 12** POTS ポートの追加と POTS ポートの電話番号の設定が完了したら、Gateway Configuration ウィンドウに戻ります。Related Links ドロップダウン リスト ボックスで、Configure Device を選択し、Go をクリックします。

**ステップ 13** Reset をクリックして、変更内容を適用します。

---

#### 追加情報

[P.69-79 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco VG248 Analog Phone Gateway の追加

Cisco VG248 Analog Phone Gateway は、ラック取り付け型のスタンドアロン 48-FXS ポート製品です。このゲートウェイを使用すると、複数の構内アナログ電話機、FAX マシン、モデム、ボイスメッセージシステムやスピーカフォンを、1 つの Cisco CallManager クラスタに登録することができます。

Cisco VG248 は、機能の拡張に備え、 Skinny Client Control Protocol を使用して Cisco CallManager に接続されます。

Cisco CallManager は、Cisco VG248 を「Cisco VG248 Gateway」と呼ばれるゲートウェイ デバイスとして認識します。さらに、48 個のポートを、それぞれ「Cisco VGC Phone」と呼ばれる Cisco IP Phone に似た個別デバイスとして扱います。

Cisco VG248 Gateway を追加して、このゲートウェイにポートを追加および設定する手順は、次のとおりです。

#### 手順

---

**ステップ 1** Device > Gateway の順に選択して、Find and List Gateways ウィンドウを表示します。

**ステップ 2** Add New ボタンをクリックします。

Add a New Gateway ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** Gateway Type ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco VG248 Gateway を選択します。

**ステップ 4** Next をクリックします。

Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 5** 適切な設定値を入力します ([P.69-57 の「Cisco VG248 Gateway の設定値」](#)を参照)。

**ステップ 6** Configured Slots, VICs and Endpoints ドロップダウン リスト ボックスから、48\_PORTS を選択します。

**ステップ 7** Save をクリックします。

Configured Slots, VICs, and Endpoints 領域に、ポート 0 ~ 48 が表示されます。

**ステップ 8** 1 つのポートをクリックします。

Phone Configuration ウィンドウに、Cisco VGCPPhone として電話機のモデルがリスト表示されます。Gateway Configuration ウィンドウから、MAC アドレスが自動的に見えるようになります。

**ステップ 9** 適切な設定値を入力します ( P.70-7 の「電話機の設定値」を参照 )。

**ステップ 10** Save をクリックします。

**ステップ 11** ポートの電話番号を設定するには、ウィンドウの左側の Association Information 領域に表示される Add a New DN リンクをクリックします。

Directory Number Configuration ウィンドウが表示されます。電話番号の追加と設定については、P.49-4 の「電話番号の設定」を参照してください。

**ステップ 12** ゲートウェイの別のポートを設定するには、Related Link ドロップダウン リスト ボックスから Back to Gateway リンクを選択し、Go をクリックします。

Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。別のポートについて電話機の設定値と電話番号を設定するには、ステップ 8 ~ 11 を繰り返します。

ポート 1 を設定する場合は、Gateway Configuration ウィンドウに Create all Ports like Port 1 ボタンが表示されます。このボタンを使用すると、ポート 1 と同じパラメータおよび設定値で、ポート 2 ~ 48 を設定できます ( ポート 2 ~ 48 が設定済みかどうかは関係ありません )。

**ステップ 13** Reset をクリックして、変更内容を適用します。

---

#### 追加情報

P.69-79 の「関連項目」を参照してください。

## ゲートウェイの設定値

すべてのゲートウェイ設定フィールドの詳細な説明は、次のトピックを参照してください。

- [MGCP ゲートウェイの設定値 \( P.69-16 \)](#)
- [FXS/FXO ポートの設定値 \( P.69-18 \)](#)
- [Digital Access PRI ポートの設定値 \( P.69-22 \)](#)
- [BRI ゲートウェイの設定値 \( P.69-34 \)](#)
- [Digital Access T1 の設定値 \( P.69-42 \)](#)
- [H.323 ゲートウェイの設定値 \( P.69-46 \)](#)
- [Analog Access ゲートウェイの設定値 \( P.69-54 \)](#)
- [Cisco VG248 Gateway の設定値 \( P.69-57 \)](#)
- [Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値 \( P.69-58 \)](#)

ポートの設定値の詳細については、[P.69-61 の「ポートの設定値」](#)を参照してください。

## MGCP ゲートウェイの設定値

[表 69-2](#) では、MGCP ゲートウェイの設定値について詳しく説明します。

**表 69-2 MGCP ゲートウェイの設定値**

フィールド	説明
ゲートウェイの詳細	
Domain Name	<p>Cisco MGCP ゲートウェイを識別する名前を 50 文字以内で入力します。</p> <p>Domain Name Service (DNS) ホスト名が正しく解決されるように設定されている場合は、DNS ホスト名を使用します。それ以外の場合は、Cisco MGCP ゲートウェイ上で指定されているとおりのホスト名を使用します。</p> <p>IOS ゲートウェイ上で設定されているとおりのホスト名を使用する場合は、ここで入力する名前が、そのホスト名と正確に一致する必要があります。</p> <p>たとえば、ホスト名が <code>vg200-1</code> に解決されるようにゲートウェイ上で設定され、IP ドメイン名が未設定の場合は、このフィールドにはホスト名を入力します (この場合、<code>vg200-1</code>)。</p> <p>ゲートウェイ上でホスト名が <code>vg200-1</code> として設定され、IP ドメイン名が <code>cisco.com</code> として設定されている場合、このフィールドには <code>vg200-1.cisco.com</code> と入力します。</p>
Description	<p>デバイスの目的を明確にした説明を入力します。</p>
Cisco CallManager Group	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco CallManager 冗長グループを選択します。</p> <p>Cisco CallManager 冗長グループには、最高 3 台の Cisco CallManager を優先順に並べたリストが含まれています。リスト内の最初の Cisco CallManager が、プライマリ Cisco CallManager の役目をします。プライマリ Cisco CallManager が使用できないか、障害が起きた場合、ゲートウェイは、リスト内の次の Cisco CallManager に接続しようとします。</p>

表 69-2 MGCP ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Configured Slots, VICs, and Endpoints	
 <p>(注) VIC の開始ポート番号を指定する必要なものがあります。たとえば、Subunit 0 の VIC に 0 から始まるポートが 2 つ (0 と 1) ある場合、Subunit 1 の VIC では 1 より大きい番号から始まるポートが 2 つ (2 と 3、または 4 と 5) する必要があります。</p>	
 <p>(注) MGCP ゲートウェイのモデルごとに、正しいスロット数が表示されます (VG200 ゲートウェイには、1 つのスロットしかありません)。</p>	
 <p>(注) モジュールのポートの設定を開始するには、最初にモジュールを選択してから、Save をクリックしてください。</p>	
<p>Module in Slot 0 Module in Slot 1 Module in Slot 2 Module in Slot 3 (以下、同様)</p>	<p>選択した MGCP ゲートウェイで使用可能なスロットそれぞれに対して、取り付けられているモジュールのタイプを選択します。たとえば、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• NM-1V : Subunit 0 に、FXS または FXO 用の音声インターフェイスカード (VIC) を 1 つ装備。NM-1V モジュールと VIC-2BRI-S/T-TE カードを併用すると、2 番目の BRI ポートがシャットダウンされるため、2 つのコールを行うことができます。</li> <li>• NM-2V : FXS または FXO 用の VIC を、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。NM-2V モジュールと VIC-2BRI-S/T-TE カードを併用すると、4 つのコールを行うことができます。別の VIC が NM-2V の 2 番目のスロットにある場合、VIC-2BRI-S/T-TE の 2 番目のポートがシャットダウンします。</li> <li>• NM-HDV : Subunit 0 に、T1-CAS、T1-PRI、または E1-PRI 用の VIC を 1 つ装備。</li> <li>• NM-HAD : VIC を、Subunit 0、Subunit 1、および Subunit 2 に 1 つずつ、合計 3 つ装備。</li> <li>• VWIC-SLOT : 次のいずれかのモジュール用のスロットを装備。VIC (FXS、FXO、または BRI)、T1-CAS、T1-PRI、または E1-PRI 用のスロットを 1 つ装備。</li> <li>• AIM-VOICE-30 : T1-CAS、T1-PRI、または E1-PRI 用の VIC を、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。</li> <li>• WS-X6600-24FXS : FXS ポートを 24 個装備。</li> <li>• WS-X6600-6T1 : T1 PRI または CAS 用のポートを 6 つ装備。</li> <li>• WS-X6600-6E1 : E1 PRI 用のポートを 6 つ装備。</li> <li>• WS-SVC-CMM-MS : ヨーロッパおよびその他の国の T1 インターフェイス用と E1 インターフェイス用に 1 つずつ、合計 2 つを装備。</li> <li>• None : ネットワーク モジュールの装備なし。</li> </ul>

表 69-2 MGCP ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>プロダクト固有の設定値</b>	
Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、<b>Product Specific Configuration</b> 見出しの右にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

**追加情報**

P.69-79 の「関連項目」を参照してください。

**FXS/FXO ポートの設定値**

表 69-3 では、FXS/FXO ポートの設定値について詳しく説明します。

**(注)**

VG200 ゲートウェイの場合、すべてのスイッチ エミュレーション タイプが、ネットワーク側をサポートしているわけではありません。ゲートウェイ スイッチ タイプの設定内容によって、ネットワーク側を設定できるかどうかが決まります。

表 69-3 FXS/FXO ポートの設定値

フィールド	説明
<b>デバイス情報</b>	
Description	<p>Cisco CallManager は、アナログ MGCP の説明を一意に識別する文字列を生成します。</p> <p>次の例を参考にしてください。</p> <p>AALN/S0/SU1/1@domain.com</p> <p>このフィールドは、編集可能です。</p>
Device Pool	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>デバイス プールは、デバイスの自動登録用の CallManager Group、Date/Time Group、Region、および Calling Search Space を含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。</p>
Media Resource Group List	<p>メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。</p>

表 69-3 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Packet Capture Mode (for Cisco IOS MGCP gateways only)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケットキャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
Packet Capture Duration (for Cisco IOS MGCP gateways only)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケットキャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、収集された (発信) 番号のルート指定方法を決定するために検索される、ルートパーティションの集合から構成されます。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで、希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System &gt; Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters ペインで Max List Box Items に値を入力します。</p>
AAR Calling Search Space	Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
Location	このデバイスに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに None を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。

表 69-3 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Network Locale	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p> <p> (注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールのみを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールと関連付けられると、デバイスは起動できません。</p>
Transmit UTF-8 for Calling Party Name	<p>このデバイスは、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを判別します。</p> <p>送信側デバイスの場合、このチェックボックスがオンの状態で、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が終端側の電話機のユーザ ロケールに一致したときは、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>受信側デバイスは、着信 Unicode 文字を、送信側デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて変換します。ユーザ ロケール設定が終端側の電話機のユーザ ロケールに一致した場合、電話機には文字が表示されます。</p> <p> (注) トランクの両端で設定されたユーザ ロケールが同じ原語グループに属していない場合、電話機には不適切な文字が表示されることがあります。</p>
<b>Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報</b>	
MLPP Domain	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を &lt;None&gt; のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。</p>

表 69-3 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
MLPP Indication	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できません。使用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Default</b> : このデバイスは、その MLPP Indication 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。</li> <li>• <b>Off</b> : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。</li> <li>• <b>On</b> : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。</li> </ul> <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
MLPP Preemption	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できません。使用可能な場合、この設定は、進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Default</b> : このデバイスは、その MLPP Preemption 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。</li> <li>• <b>Disabled</b> : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しないようにします。</li> <li>• <b>Forceful</b> : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。</li> </ul> <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
<b>ポート情報 (POTS)</b>	
Port Direction	<p>このポートをコールが通過する方向を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Inbound</b> : 着信コールのみの場合に使用します。</li> <li>• <b>Outbound</b> : 発信コールのみの場合に使用します。</li> <li>• <b>Bothways</b> : 着信コールと発信コールに使用します (デフォルト)。</li> </ul>
Prefix DN (for FXS ports)	<p>このトランクが着信コールで受け取る数字に追加される、プレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、まず、Num Digits 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>

表 69-3 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Num Digits (for FXS ports)	<p>収集する有効数字の桁数 (0 ~ 32) を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、有効数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。</p> <p>このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、PRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。Prefix DN を参照してください。</p>
Expected Digits (for FXS ports)	<p>トランクの着信側に必要な桁数を入力します。このフィールドはほとんど使用されないため、桁数が不明の場合は、デフォルト値 0 のままにしてください。</p>
SMDI Port Number (0-4096)	<p>ボイス メッセージ システムに接続するアナログ アクセス ポートに、このフィールドを使用します。</p> <p>SMDI Port Number は、アナログ アクセス ポートが接続される先のボイス メッセージ システム上にある、実際のポート番号と同じ番号を設定してください。</p> <p> (注) ボイス メッセージ システムが正しく動作するために、通常、ボイスメールの論理ポートは物理ポートと一致する必要があります。</p>
Unattended Port	<p>このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。</p>

#### プロダクト固有の設定値

Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、<b>Product Specific Configuration</b> 見出しの右にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>
---	--

#### 追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Digital Access PRI ポートの設定値

表 69-4 では、Digital Access PRI ポートの設定値について詳しく説明します。



(注) 使用しているゲートウェイが QSIG プロトコルをサポートしているかどうかを確認するには、ゲートウェイの製品マニュアルを参照してください。Cisco CallManager での QSIG サポートについては、『Cisco CallManager システム ガイド』の「Q.Signaling (QSIG)」を参照してください。

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値

フィールド	説明
<b>デバイス情報</b>	
Endpoint Name	<p>MGCP ゲートウェイの場合、この表示専用フィールドには、Cisco CallManager が生成した、MGCP エンドポイントを一意に識別する文字列が入っています。</p> <p>次の例を参考にしてください。</p> <p>S1/DS1-0@VG200-2</p> <p>S1 はスロット 1 を示し、DS1-0 はデジタル インターフェイスを示し、@VG200-2 は MGCP ドメイン名を示します。</p>
MAC Address	<p>ゲートウェイの MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、ハードウェア デバイスを一意に識別します。</p> <p>12 桁の 16 進文字の値を入力する必要があります。</p>
Description	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。
Device Pool	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>デバイス プールは、デバイスの自動登録用の CallManager Group、Date/Time Group、Region、および Calling Search Space を含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。</p>
Call Classification	<p>このゲートウェイを使用している着信コールがネットワークをオフ (OffNet) またはオン (OnNet) と見なすかどうかを、このパラメータによって決定します。</p> <p>Call Classification フィールドが Use System Default に設定されている場合、Cisco CallManager clusterwide サービス パラメータの設定値 (Call Classification) により、ゲートウェイが OnNet または OffNet かどうか決定します。</p> <p>このフィールドは、コールが OnNet または OffNet の場合、それぞれの警告トーンを提供します。</p>
Network Locale	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p> <p> <b>(注)</b> 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールのみを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールと関連付けられると、デバイスは起動できません。</p>
Packet Capture Mode (for Cisco IOS MGCP gateways only)	<p>このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Packet Capture Duration (for Cisco IOS MGCP gateways only)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
Media Resource Group List	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。
Location	このデバイスに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションを None に設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
Load Information	ゲートウェイに適切なファームウェア ロード情報を入力します。  このフィールドに入力される値は、このゲートウェイ タイプのデフォルトファームウェア ロードを上書きします。
Transmit UTF-8 for Calling Party Name	このデバイスは、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを判別します。  送信側デバイスの場合、このチェックボックスがオンの状態で、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が端末側の電話機のユーザ ロケールに一致したときは、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。  受信側デバイスは、着信 Unicode 文字を、送信側デバイスが属するデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて変換します。ユーザ ロケール設定が端末側の電話機のユーザ ロケールに一致した場合、電話機には文字が表示されます。   <b>(注)</b> トランクの両端で設定されたユーザ ロケールが同じ原語グループに属していない場合、電話機には不適切な文字が表示されることがあります。
V150 (subset)	v150 (subset) モデムのリレー サポートをゲートウェイで使用可能にするには、このボックスをオンにします。この機能は現在、ISDN-STE へのエンドツーエンドのセキュアなコールをサポートするために、IP-STE が使用します (T1 PRI および T1 CAS のみ)。  デフォルト値は、オフです。

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報</b>	
MLPP Domain	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を &lt;None&gt; のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。</p>
MLPP Indication	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できません。使用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Default</b> : このデバイスは、その MLPP Indication 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。</li> <li>• <b>Off</b> : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。</li> <li>• <b>On</b> : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。</li> </ul> <p> <b>(注)</b> MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
MLPP Preemption	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できません。使用可能な場合、この設定は、進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Default</b> : このデバイスは、その MLPP Preemption 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。</li> <li>• <b>Disabled</b> : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しないようにします。</li> <li>• <b>Forceful</b> : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。</li> </ul> <p> <b>(注)</b> MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
インターフェイス情報	
PRI Protocol Type	<p>スパン用の通信プロトコルを選択します。</p> <p>T1 PRI スパンには、通信事業者またはスイッチに応じて、複数のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• PRI 4ESS : AT&amp;T 長距離電話会社。</li> <li>• PRI 5E8 Custom : Cisco IP Phone。</li> <li>• PRI 5E9: AT&amp;T ファミリー ローカル交換スイッチまたは通信事業者。</li> <li>• PRI DMS : MCI ファミリー ローカル交換スイッチまたは通信事業者、カナダ ローカル交換通信事業者。</li> <li>• PRI ETSI SC : T1 のヨーロッパ ローカル交換通信事業者。また、日本、台湾、韓国、香港のローカル交換。</li> <li>• PRI NI2: AT&amp;T ファミリー ローカル交換スイッチまたは通信事業者。</li> <li>• PRI NTT : 日本の NTT 交換スイッチ。</li> <li>• PRI ISO QSIG T1 : ISO QSIG を使用する PBX T1 専用トランク。</li> <li>• PRI ISO QSIG E1 : ISO QSIG を使用する PBX E1 専用トランク。</li> </ul> <p>接続先のスイッチおよび推奨プロトコルを、次のように判別してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Nortel Meridian : DMS、5E8 Custom</li> <li>• Lucent Definity : 4ESS または 5E8</li> <li>• Madge (Teleos) box : 5E8 Teleos</li> <li>• Intecom PBX : 5E8 Intecom</li> </ul>
Protocol Side	<p>適切な Protocol Side を選択します。この設定値は、ゲートウェイが Central Office/Network デバイスに接続されるか、User デバイスに接続されるかを指定します。</p> <p>PRI 接続の両側で、反対の設定値を使用していることを確認してください。たとえば、PBX に接続されているときに、その PBX が Protocol Side として User を使用する場合は、このデバイスには Network を選択してください。一般に、セントラル オフィス接続では、このオプションに User を使用します。</p>
Channel Selection Order	<p>チャンネルまたはポートが使用可能になる順序、つまり、最初のポート (最小番号のポート) から最後のポート (最大番号のポート) への順序か、最後のポートから最初のポートへの順序かを選択します。</p> <p>有効な入力値には、TOP_DOWN (最初から最後) または BOTTOM_UP (最後から最初) があります。どちらのポート順序を使用すべきか不明な場合は、TOP_DOWN を選択してください。</p>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Channel IE Type	<p>次の値のいずれかを選択して、チャンネル選択がチャンネル マップとして提示されるか、スロット マップとして提示されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Timeslot Number : B チャンネルの使用は、常に実際のタイムスロット マップ形式 (E1 の場合は 1-15 および 17-31 など)。</li> <li>Slotmap : B チャンネルの使用は、常にスロット マップ形式。</li> <li>Use Number When 1B : チャンネルの使用は、1 つの B チャンネルの場合はチャンネル マップ形式で、複数の B チャンネルが存在する場合はスロット マップ形式。</li> <li>Continuous Number : E1 論理チャンネル番号として、連続しない実際のタイムスロット番号 (1-15 および 17-31) ではなく、連続するスロット番号 (1-30) を設定します。</li> </ul>
PCM Type	<p>デジタル エンコーディング形式を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a-law : ヨーロッパおよびその他の地域で使用。</li> <li>mu-law : 北米、香港、台湾、および日本で使用。</li> </ul>
Delay for first restart (1/8 sec ticks)	<p>スパンがインサービスになる速度を入力します。システム上で複数の PRI スパンが使用可能であるときに、Inhibit Restarts at PRI Initialization チェックボックスがオンになっていない場合、この遅延が発生します。たとえば、最初の 5 個のカードを 0 に設定し、次の 5 個のカードを 16 に設定します (カードをイン サービスにするには、2 秒待ってください)。</p>
Delay between restarts (1/8 sec ticks)	<p>再起動間の時間を入力します。Inhibit Restarts チェックボックスがオフになっている場合、PRI RESTART が送信されるときに、この遅延が発生します。</p>
Inhibit restarts at PRI initialization	<p>RESTART メッセージまたは SERVICE メッセージは、PRI スパン上のポートの状況を確認します。RESTART メッセージも SERVICE メッセージも送信されない場合、Cisco CallManager は、ポートがイン サービスであると見なします。</p> <p>このチェックボックスがオフになっている場合、D チャンネルは、別の PRI の D チャンネルと正常に接続されると、RESTART メッセージまたは SERVICE メッセージを送信します。</p>
Enable status poll	<p>このチェックボックスをオンにすると、Cisco CallManager の拡張サービス パラメータ (Change B-Channel Maintenance Status) を使用可能にできます。このサービス パラメータによって、MGCP T1/E1 PRI ゲートウェイのサービスから、リアルタイムで個々の B チャンネルを使用することができます。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、サービス パラメータ「Change B-Channel Maintenance Status」を使用不可にできます。</p> <p> <b>(注)</b> デフォルトでは、このフィールドはオフです。</p>
Unattended Port	<p>このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。</p>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
コールルーティング情報：着信コール	
Significant Digits	<p>収集する有効数字の桁数を選択します (0 ~ 32、または All)。Cisco CallManager は、コールされた番号の右側 (最後の桁) から有効数字をカウントします。All を選択した場合、Cisco CallManager は着信番号を切り捨てません。</p> <p>EXAMPLE            Digits received are 123456.            Significant digits setting is 4.            Digits translated are 3456.</p> <p>このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、PRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。Prefix DN を参照してください。</p>
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、収集された (発信) 番号のルート指定方法を決定するために検索される、ルートパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで、希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System &gt; Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
AAR Calling Search Space	<p>自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p>
Prefix DN	<p>このトランクが着信コールで受け取る数字に追加される、プレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、まず、Num Digits 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
コール ルーティング情報 : 発信コール	
Calling Party Presentation	<p>Cisco CallManager で、発信側の電話番号を表示させるか制限するかを選択します。</p> <p>発信側の回線 ID 表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。Cisco CallManager が発信コールで「許可された発信側の回線 ID」を送信するようにする場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が発信コールで「制限された発信側の回線 ID」を送信するようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項にある表 17-6 を参照してください。</p>
Calling Party Selection	<p>ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。どの電話番号が送信されるかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Originator : 発信側デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• First Redirect Number : 転送デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• Last Redirect Number : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• First Redirect Number (External) : 外部電話マスクが適用されている、最初のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• Last Redirect Number (External) : 外部電話マスクが適用されている、最後のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。</li> </ul>
Called party IE number type unknown	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。</li> <li>• Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。</li> <li>• National : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• International : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Subscriber : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。</li> </ul>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling party IE number type unknown	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。</li> <li>• Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。</li> <li>• National : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• International : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Subscriber : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。</li> </ul>
Called Numbering Plan	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号の番号計画を設定する場合に使用します。</li> <li>• ISDN : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• National Standard : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Private : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。</li> </ul>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling Numbering Plan	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号の番号計画を設定する場合に使用します。</li> <li>• ISDN : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• National Standard : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Private : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。</li> </ul>
Number of digits to strip	<p>発信コール上で除去される桁数 (0 ~ 32) を選択します。</p> <p>たとえば、8889725551234 がダイヤルされ、除去される桁数が 3 である場合、Cisco CallManager は発信番号から 888 を除去します。</p>
Caller ID DN	<p>発信側の回線 ID に使用するパターン (0 ~ 24 桁) を入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 555XXXX = 可変の発信側の回線 ID。ここで、X は内線番号に相当します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。</li> <li>• 5555000 = 固定の発信側の回線 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用してください。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。</li> </ul>
SMDI Base Port	<p>T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。</p> <p>このパラメータをゼロ以外の値に設定した場合、このゲートウェイが不明なタイプのルート リストまたはルート グループに属しているときは、このスパンを越えるハントは続行されません。</p>
<b>PRI Protocol Type 固有の情報</b>	
Display IE Delivery	<p>発信側と接続された側のネーム デリバリ サービスに対する SETUP および NOTIFY メッセージ (DMS プロトコルの場合) 内で、表示情報要素 (IE) のデリバリを可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Redirecting Number IE Delivery : Outbound	<p>Call Forward が発生したときに、コールの最初の転送番号および転送理由を示すために、Cisco CallManager からの Redirecting Number IE を送信 SETUP メッセージに含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>送信 SETUP メッセージから最初の転送番号と転送理由を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p>
Redirecting Number IE Delivery : Inbound	<p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受取するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p>
Send Extra Leading Character in Display IE	<p>DisplayIE フィールドに特殊先行文字バイト (ASCII 以外の表示不能なバイト) を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Display IE フィールドからこの文字バイトを除外する場合は、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスが適用されるのは、DMS-100 プロトコルと DMS-250 プロトコルに限られます。</p> <p>デフォルトでは、この設定値は使用不可 (チェックボックスはオフになっています)。</p>
Setup non-ISDN Progress Indicator IE Enable	<p>デフォルトでは、この設定値は使用不可 (チェックボックスはオフになっています)。</p> <p>ユーザが発信コール上でリングバック音を受信しない場合だけ、この設定値を使用可能にします。</p> <p>この設定値が有効である場合、Cisco CallManager は、Progress Indicator フィールドが non-ISDN に設定されているデジタル ゲートウェイ (つまり、H.323 以外) に、Q.931 Setup メッセージを送信します。</p> <p>このメッセージは、Cisco CallManager ゲートウェイが non-ISDN であること、および宛先デバイスがインバンド リングバックを再生しなければならないことを、宛先デバイスに通知します。</p> <p>この問題は、通常、デジタル ゲートウェイを使用して PBX に接続される Cisco CallManager に関連しています。</p>
MCDN Channel Number Extension Bit Set to Zero	<p>チャンネル番号拡張ビットを 0 に設定するには、チェックボックスをオンにします。この拡張ビットを 1 に設定するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>この設定は、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。</p>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Send Calling Name in Facility IE	<p>Facility IE フィールドにある発信側の名前を送信するには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、Cisco CallManager はこのチェックボックスをオフにします。</p> <p>この機能は、ISDN 発信側のネーム デリバリ用に使用可能になっている PRI インターフェイスを持つプライベート ネットワークに対して設定します。このチェックボックスがオンの場合、発信側の名前は SETUP または FACILITY メッセージの Facility IE に送られるため、名前を着信側のデバイス上に表示できます。</p> <p>この機能を設定できるのは、プライベート ネットワーク内の PRI トランクだけです。PSTN に接続された PRI トランクには、この機能を設定しないでください。</p> <p> (注) このフィールドが適用されるのは、NI2 プロトコルに限られます。</p>
Interface Identifier Present	<p>Interface Identifier が存在することを指定するには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、Cisco CallManager はこのチェックボックスをオフにします。</p> <p>この設定値は、SETUP、CALL PROCEEDING、ALERTING、および CONNECT メッセージの Channel Identification 情報要素内で、デジタル アクセス ゲートウェイ用の DMS-100 プロトコルだけに適用されます。</p>
Interface Identifier Value	<p>PBX プロバイダーから入手した値を入力します。</p> <p>このフィールドが適用されるのは、DMS-100 プロトコルに限られます。有効値の範囲は 0 ~ 255 です。</p>
Connected Line ID Presentation (QSIG Inbound Call)	<p>Cisco CallManager で、接続された側の電話番号を着信側の電話機に表示させるか、ブロックさせるかを選択します。</p> <p>このフィールドは、QSIG プロトコルを使用しているゲートウェイのみに適用されます。ゲートウェイは、この設定を着信コールのみに適用します。</p> <p>接続側の回線 ID 表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。Cisco CallManager が「許可された接続側の回線 ID」を送信して、接続された側の番号を発信側に表示できるようにする場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が「制限された接続側の回線 ID」を送信して、接続された側の番号を発信側に表示されるのをブロックする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 17-9 を参照してください。</p>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>UUIE の設定値</b>	
Passing Precedence Level Through UUIE	MLPP 情報が PRI 4ESS UUIE フィールドを通過できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このボックスは、DRSN スイッチとの相互作用に使用されます。  PRI 4ESS の PRI Protocol Type 値がこのゲートウェイに指定されている場合に限り、システムによってこのチェックボックスが使用可能になります。  デフォルト値は、オフです。
Security Access Level	セキュリティ アクセス レベルの値を入力します。有効値は 00 ~ 99 です。Passing Precedence Level Through UUIE チェックボックスがオンの場合に限り、このフィールドを使用できます。デフォルト値は 2 です。
<b>プロダクト固有の設定値</b>	
Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。  フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、 <b>Product Specific Configuration</b> 見出しの右にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。  詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。

**追加情報**

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

**BRI ゲートウェイの設定値**

表 69-5 では、BRI の設定値について詳しく説明します。

表 69-5 BRI ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
<b>デバイス情報</b>	
End-Point Name (MGCP ゲートウェイ)	MGCP ゲートウェイの場合、この表示専用フィールドには、Cisco CallManager が生成した、MGCP エンドポイントを一意に識別する文字列が入っています。  次の例を参考にしてください。  BRI/S1/SU0/P0@SC3640.cisco.com  S1 はスロット 1、SU0 はサブユニット 0、P0 はポート 0 を示し、@SC3640.cisco.com は MGCP ドメイン名を示します。
Description	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。

表 69-5 BRI ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Device Pool	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。  このデバイスに対して、デバイス プールは、デバイスの自動登録用の CallManager Group、Date/Time Group、Region、および Calling Search Space を含むプロパティの集合を指定します。
Call Classification	このゲートウェイを使用している着信コールがネットワークをオフ (OffNet) またはオン (OnNet) と見なすかどうかを、このパラメータによって決定します。  Call Classification フィールドが Use System Default に設定されている場合、Cisco CallManager clusterwide サービス パラメータの設定値 (Call Classification) により、ゲートウェイが OnNet または OffNet かどうか決定します。  このフィールドは、コールが OnNet または OffNet の場合、それぞれの警告トーンを提供します。
Network Locale	ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。
Packet Capture Mode (for Cisco IOS MGCP gateways only)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケットキャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
Packet Capture Duration (for Cisco IOS MGCP gateways only)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケットキャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
Media Resource Group List	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。
Location	このデバイスに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに None を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
<b>インターフェイス情報</b>	
BRI Protocol	スパン用の通信プロトコルを選択します。  BRI-NET3

表 69-5 BRI ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Protocol Side	<p>適切な Protocol Side を選択します。この設定値は、ゲートウェイが Central Office/Network デバイスに接続されるか、User デバイスに接続されるかを指定します。</p> <p> (注) BRI は User Side だけをサポートします。</p>
Channel Selection Order	<p>チャンネルまたはポートが使用可能になる順序、つまり、最初のポート (最小番号のポート) から最後のポート (最大番号のポート) への順序か、最後のポートから最初のポートへの順序かを選択します。</p> <p>有効な入力値には、TOP_DOWN (最初から最後) または BOTTOM_UP (最後から最初) があります。どちらのポート順序を使用すべきか不明な場合は、TOP_DOWN を選択してください。</p>
PCM Type	<p>デジタル エンコーディング形式を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• a-law : ヨーロッパおよびその他の地域で使用。</li> <li>• mu-law : 北米、香港、台湾、および日本で使用。</li> </ul>
Delay for First Restart (1/8 sec ticks)	<p>スパンがインサービスになる速度を入力します。システム上で複数の BRI スパンが使用可能であるときに、Inhibit Restarts at BRI Initialization チェックボックスがオンになっていない場合、この遅延が発生します。たとえば、最初の 5 個のカードを 0 に設定し、次の 5 個のカードを 16 に設定します (カードをイン サービスにするには、2 秒待ってください)。</p>
Delay Between Restarts (1/8 sec ticks)	<p>再起動間の時間を入力します。Inhibit Restarts チェックボックスがオフになっている場合、BRI RESTART が送信されるときに、この遅延が発生します。</p>
Inhibit Restarts at BRI Initialization	<p>RESTART メッセージは、BRI スパン上のポートの状況を確認します。RESTART メッセージが送信されない場合、Cisco CallManager は、ポートがイン サービスであると見なします。</p> <p>このチェックボックスがオフになっている場合、データ リンクは、別の BRI データ リンクと正常に接続されると、RESTART メッセージを送信します。</p>
Enable Status Poll	<p>Debug ウィンドウに B チャンネルの状況を表示するには、このチェックボックスをオンにします。</p>
Establish Datalink on First Call	<p>ゲートウェイが Cisco CallManager に登録されると、Cisco CallManager はゲートウェイへのデータ リンクを確立します。</p> <p>最初のコールで Terminal Endpoint Identifier (TEI; 端末終端識別子) が決まるようにゲートウェイおよびスイッチを設定する場合、チェックボックスをオンにすると、最初のコールでデータ リンクを確立できます。</p> <p> (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオフです。</p>

表 69-5 BRI ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>コール ルーティング情報 : 着信コール</b>	
Significant Digits	<p>収集する有効数字の桁数を選択します (0 ~ 32、または All)。Cisco CallManager は、有効数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。All を選択した場合、Cisco CallManager は着信番号を切り捨てません。</p> <p>EXAMPLE            Digits received are 123456.            Significant digits setting is 4.            Digits translated are 3456.</p> <p>このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、BRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。Prefix DN を参照してください。</p>
Calling Search Space	適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースでは、収集された (発信) 番号のルート指定方法を決定するために検索される、ルートパーティションの集合を指定します。
AAR Calling Search Space	自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
Prefix DN	<p>このトランクが着信コールで受け取る数字に追加される、プレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、まず、Num Digits 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>
<b>コール ルーティング情報 : 発信コール</b>	
Calling Party Presentation	<p>Cisco CallManager が発信者 ID を送信するか、またはブロックするかを選択します。</p> <p>発信側の表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。Cisco CallManager が発信者 ID を送信するようにする場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が発信者 ID を送信しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p>
Calling Party Selection	<p>ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。どの電話番号が送信されるかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Originator : 発信側デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• First Redirect Number : 転送デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• Last Redirect Number : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• First Redirecting Party (External) : 外部電話マスクが適用されている、最初の転送デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• Last Redirecting Party (External) : 外部電話マスクが適用されている、最後の転送デバイスの電話番号を送信します。</li> </ul>

表 69-5 BRI ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Called party IE number type unknown	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できません。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• CallManager : Cisco CallManager が、電話番号のタイプを設定します。</li> <li>• International : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• National : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Unknown : ダイヤルプランが不明です。</li> <li>• Subscriber : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。</li> </ul>
Calling party IE number type unknown	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できません。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• CallManager : Cisco CallManager が、電話番号のタイプを設定します。</li> <li>• International : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• National : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Unknown : ダイヤルプランが不明です。</li> <li>• Subscriber : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。</li> </ul>

表 69-5 BRI ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Called Numbering Plan	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• CallManager : Cisco CallManager が、電話番号内の Numbering Plan を設定します。</li> <li>• ISDN : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• National Standard : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Private : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Unknown : ダイヤルプランが不明です。</li> <li>• Subscriber : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。</li> </ul>
Calling Numbering Plan	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• CallManager : Cisco CallManager が、電話番号内の Numbering Plan を設定します。</li> <li>• ISDN : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• National Standard : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Private : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Unknown : ダイヤルプランが不明です。</li> <li>• Subscriber : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。</li> </ul>
Number of digits to strip	<p>発信コール上で除去される桁数 (0 ~ 32) を選択します。</p> <p>たとえば、8889725551234 がダイヤルされ、除去される桁数が 3 である場合、Cisco CallManager は発信番号から 888 を除去します。</p>

表 69-5 BRI ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Caller ID DN	<p>発信者 ID に使用するパターン (0 ~ 24 桁) を入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>555XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号を表します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリア コードと共にこの番号を追加します。</li> <li>5555000 = 固定の発信者 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用してください。この番号が指定されていない場合、CO は、エリア コードと共にこの番号を追加します。</li> </ul>
<b>BRI Protocol Type 固有の情報</b>	
Redirecting Number IE Delivery : Outbound	<p>Call Forward が発生したときに、コールの最初の転送番号および転送理由を示すために、Cisco CallManager からの Redirecting Number IE を送信 SETUP メッセージに含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>送信 SETUP メッセージから最初の転送番号と転送理由を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。</p>
Redirecting Number IE Delivery : Inbound	<p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受理するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。</p>

表 69-5 BRI ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Setup non-ISDN Progress Indicator IE Enable	<p>デフォルトでは、この設定値は使用不可(チェックボックスはオフになっています)。</p> <p>ユーザが発信コール上でリングバック音を受信しない場合だけ、この設定値を使用可能にします。</p> <p>この設定値が有効である場合、Cisco CallManager は、Progress Indicator フィールドが non-ISDN に設定されているデジタル ゲートウェイ (つまり、H.323 以外) に、Q.931 Setup メッセージを送信します。</p> <p>このメッセージは、Cisco CallManager ゲートウェイが non-ISDN であること、および宛先デバイスがインバンド リングバックを再生しなければならないことを、宛先デバイスに通知します。</p> <p>この問題は、通常、デジタル ゲートウェイを使用して PBX に接続される Cisco CallManager に関連しています。</p>
<b>プロダクト固有の設定値</b>	
Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、<b>Product Specific Configuration</b> 見出しの右にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

**追加情報**

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Digital Access T1 の設定値

表 69-6 では、Digital Access T1 の設定値について詳しく説明します。

表 69-6 Digital Access T1 の設定値

フィールド	説明
MAC Address (IOS 以外のゲートウェイ)	ゲートウェイの MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、ハードウェア デバイスを一意に識別します。  12 桁の 16 進文字の値を入力する必要があります。
Domain Name	MGCP ゲートウェイの場合、この表示専用フィールドには、Cisco CallManager が生成した、MGCP デジタル インターフェイスを一意に識別する文字列が含まれています。  次の例を参考にしてください。  S1/DS1-0@VG200-2  S1 はスロット 1 を示し、DS1-0 はデジタル インターフェイスを示し、@VG200-2 は MGCP ドメイン名を示します。
 <b>(注)</b> MAC アドレスかドメイン名の、どちらか適用される方を入力してください。	
Description	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。
Device Pool	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。  デバイス プールは、デバイスの自動登録用の CallManager Group、Date/Time Group、Region、および Calling Search Space を含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。
Call Classification	このゲートウェイを使用している着信コールがネットワークをオフ (OffNet) またはオン (OnNet) と見なすかどうかを、このパラメータによって決定します。  Call Classification フィールドが Use System Default に設定されている場合、Cisco CallManager clusterwide サービス パラメータの設定値 (Call Classification) により、ゲートウェイが OnNet または OffNet かどうか決定します。  このフィールドは、コールが OnNet または OffNet の場合、それぞれの警告トーンを提供します。
Media Resource Group List	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、Media Resource List で定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。
Packet Capture Mode (for Cisco IOS MGCP gateways only)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。

表 69-6 Digital Access T1 の設定値 (続き)

フィールド	説明
Packet Capture Duration (for Cisco IOS MGCP gateways only)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、収集された (発信) 番号のルート指定方法を決定するために検索される、ルートパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで、希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> <b>(注)</b> リスト ボックスの最大項目を設定するには、System &gt; Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
AAR Calling Search Space	自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
Location	このデバイスに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに None を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
MLPP Domain	ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を <None> のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。

表 69-6 Digital Access T1 の設定値 (続き)

フィールド	説明
MLPP Indication	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できません。使用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生するデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Default</b> : このデバイスは、その MLPP Indication 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。</li> <li>• <b>Off</b> : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。</li> <li>• <b>On</b> : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。</li> </ul> <p> <b>(注)</b> MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
MLPP Preemption	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できません。進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Default</b> : このデバイスは、その MLPP Preemption 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。</li> <li>• <b>Disabled</b> : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しないようにします。</li> <li>• <b>Forceful</b> : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。</li> </ul> <p> <b>(注)</b> MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
Handle DTMF Precedence Signals	<p>このゲートウェイが特殊な DTMF 信号を MLPP 優先レベルとして解釈できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。</p>
Load Information	<p>ゲートウェイに適切なファームウェア ロード情報を入力します。</p> <p>このフィールドに入力された値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。</p>
Port Selection Order	<p>チャンネルまたはポートが発信コールに割り当てられる順序、つまり、最初のポート (最小番号のポート) から最後のポート (最大番号のポート) への順序か、最後のポートから最初のポートへの順序かを選択します。</p> <p>有効な入力値には、Top Down (最初から最後) または Bottom Up (最後から最初) があります。どちらのポート順序を使用すべきか不明な場合は、Top Down を選択してください。</p>

表 69-6 Digital Access T1 の設定値 (続き)

フィールド	説明
Digit Sending	<p>アウトダイヤル用に、次の Digit Sending タイプのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>DTMF : Dual-Tone Multifrequency (2 重トーン多重周波数)。通常のプッシュホン式ダイヤリング。</li> <li>MF : Multifrequency (多重周波数)。</li> <li>PULSE : パルス (ロータリー) ダイヤリング。</li> </ul>
Network Locale	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p> <p> (注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールのみを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールと関連付けられると、デバイスは起動できません。</p>
SMDI Base Port	<p>T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。</p> <p>このパラメータをゼロ以外の値に設定した場合、このゲートウェイが不明なタイプのルート リストまたはルート グループに属しているときは、このスパンを越えるハントは続行されません。</p>
V150 (subset)	<p>v150 (subset) モデムのリレー サポートをゲートウェイで使用可能にするには、このボックスをオンにします。この機能は現在、ISDN-STE へのエンドツーエンドのセキュアなコールをサポートするために、IP-STE が使用します (T1 PRI および T1 CAS のみ)。</p> <p>デフォルト値は、オフです。</p>
<b>プロダクト固有の設定値</b>	
Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、<b>Product Specific Configuration</b> 見出しの右にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

**追加情報**

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## H.323 ゲートウェイの設定値

表 69-7 では、H.323 ゲートウェイの設定値について説明します。

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
<b>デバイス情報</b>	
Device Name	デバイスを識別するために Cisco CallManager が使用する固有の名前を入力します。IP アドレスまたはホスト名をデバイス名として使用します。
Description	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。
Device Pool	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。  デバイス プールは、デバイスの自動登録用の CallManager Group、Date/Time Group、Region、および Calling Search Space を含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。
Call Classification	このゲートウェイを使用している着信コールがネットワークをオフ (OffNet) またはオン (OnNet) と見なすかどうかを、このパラメータによって決定します。  Call Classification フィールドが Use System Default に設定されている場合、Cisco CallManager clusterwide サービス パラメータの設定値 (Call Classification) により、ゲートウェイが OnNet または OffNet かどうか決定します。  このフィールドは、コールが OnNet または OffNet の場合、それぞれの警告トーンを提供します。
Media Resource Group List	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。
Packet Capture Mode	このフィールドを設定するのは、H.323 ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
Packet Capture Duration	このフィールドを設定するのは、H.323 ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
Location	このデバイスに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに None を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Tunneled Protocol	<p>H.323 ゲートウェイを使用して、H.323 シグナリング メッセージ内の H.323 以外のプロトコル情報を Cisco CallManager から他の Aneex M.1 準拠の H.323 PINX にトランスポート (トンネル) する場合は、QSIG オプションを選択します。QSIG トンネルは、次の機能をサポートしません: Call Completion、Call Diversion、Call Transfer、Identification Services、Message Waiting Indication、および Path Replacement。</p> <p> (注) Annex M.1 機能とサードパーティベンダーとの互換性については、『Cisco CallManager Compatibility Matrix』を参照してください。</p>
Signaling Port	<p>このフィールドは H.323 デバイスのみに適用されます。このデバイスが使用する H.225 シグナリングポートの値を指定します。</p> <p>デフォルト値は 1720 です。有効値の範囲は 1 ~ 65535 です。</p>
Media Termination Point Required	<p>H.323 がサポートしない機能 (たとえば、保留や転送) をインプリメントするのに、メディアターミネーションポイントを使用するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>H.323 クライアント、および H.245 Empty Capabilities Set メッセージをサポートしない H.323 デバイスだけに、このチェックボックスを使用してください。</p> <p>MTP を使用するためにこのチェックボックスをオンにして、このデバイスがビデオコールのエンドポイントになっている場合、そのコールは必ずオーディオになります。</p>
Retry Video Call as Audio	<p>このチェックボックスは、コールを受信するビデオエンドポイントのみに適用されます。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。このデバイスは、ビデオコールをコール制御に送信して再ルーティングする直前に、オーディオコールとして (ビデオコールとして接続できない場合) そのビデオコールをリトライします。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続に失敗したビデオコールは、オーディオコールとしての確立を試行しません。この場合、コールはコール制御に失敗します。コール制御はルート / ハントリスト内でコールを再ルーティングします。自動代替ルーティング (AAR) が設定済みで使用可能であれば、コール制御はルートリストとハントリスト間でもコールを再ルーティングします。</p>
Wait for Far End H.245 Terminal Capability Set	<p>このフィールドは H.323 デバイスのみに適用されます。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。Cisco CallManager が遠端 H.245 Terminal Capability Set を受信した後に、H.245 Terminal Capability Set に送信するように指定します。Cisco CallManager がケイパビリティ交換を実行するように指定するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p> (注) H.323 エンドポイントと H.320 エンドポイント間の ISDN コールに、H.320 ゲートウェイ経由のコールを可能にするには、このチェックボックスをオフにします。</p>

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Path Replacement Support	<p>このチェックボックスが表示されるのは、Tunneled Protocol ドロップダウン リスト ボックスで QSIG オプションを選択した場合です。この設定は QSIG トンネル (Annex M.1) と連動し、パス変換を使用するコールに H.323 以外の情報を確実に送信します。</p> <p> (注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオフです。QSIG Tunneled Protocol オプションを選択した場合、このチェックボックスは自動的にオンになります。</p>
Transmit UTF-8 for Calling Party Name	<p>このデバイスは、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを判別します。</p> <p>送信側デバイスの場合、このチェックボックスがオンの状態で、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が終端側の電話機のユーザ ロケールに一致したときは、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>受信側デバイスは、着信 Unicode 文字を、送信側デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて変換します。ユーザ ロケール設定が終端側の電話機のユーザ ロケールに一致した場合、電話機には文字が表示されます。</p> <p> (注) トランクの両端で設定されたユーザ ロケールが同じ原語グループに属していない場合、電話機には不適切な文字が表示されることがあります。</p>
SRTP Allowed	<p>ゲートウェイを介したセキュア コールとノンセキュア コールを Cisco CallManager で許可する場合は、SRTP Allowed チェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオフにした場合、Cisco CallManager はゲートウェイとの SRTP ネゴシエーションを防止し、RTP を使用します。</p> <p> <b>注意</b> このチェックボックスをオンにする場合は、コール ネゴシエーション中に鍵やその他のセキュリティ関連情報を暴露しないよう、IPSec を設定することを強くお勧めします。IPSec を正しく設定しないと、Cisco CallManager とゲートウェイ間のシグナリングがノンセキュアになります。</p> <p>ゲートウェイの暗号化の詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報</b>	
MLPP Domain	ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を <None> のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。
MLPP Indication	このデバイス タイプには、この設定はありません。
MLPP Preemption	このデバイス タイプには、この設定はありません。
<b>コール ルーティング情報：着信コール</b>	
Significant Digits	<p>有効数字は、着信コールで保持される最終数字の桁数を表します。このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。デバイスに着信するコールのルーティングに使用される数字の桁数を指定します。</p> <p>収集する有効数字の桁数を選択します (0 ~ 32)。Cisco CallManager は、コールされた番号の右側 (最後の桁) から有効数字をカウントします。</p>
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるルート パーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで、希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System &gt; Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
AAR Calling Search Space	Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
Prefix DN	<p>着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、まず、Significant Digits 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Redirecting Number IE Delivery: Inbound	<p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受理するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p>
Enable Inbound FastStart	<p>着信コールで H.323 FastStart コール接続を可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイ用のチェックボックスはオフになっています。</p> <p>クラスタ間コールの場合、他のクラスタの Cisco CallManager サーバで Enable Inbound FastStart チェックボックスをオンにして、外部 FastStart を機能させる必要があります。</p> <p> <b>(注)</b> 他のクラスタの Cisco CallManager 3.3(2) サーバをサポート パッチ B で更新した場合、3.3(2)spB が内部 FastStart 機能をクラスタ間トランクでサポートしないため、内部 FastStart を使用可能にしないでください。</p>
<b>コール ルーティング情報：発信コール</b>	
Calling Party Selection	<p>ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。どの電話番号が送信されるかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Originator：発信側デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• First Redirect Number：転送デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• Last Redirect Number：最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• First Redirect Number (External)：外部電話マスクが適用されている、最初のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• Last Redirect Number (External)：外部電話マスクが適用されている、最後のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。</li> </ul>
Calling Party Presentation	<p>Cisco CallManager で、発信側の電話番号を表示させるか制限するかを選択します。</p> <p>発信側の回線 ID 表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。Cisco CallManager が発信コールで「許可された発信側の回線 ID」を送信するようになる場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が発信コールで「制限された発信側の回線 ID」を送信するようになる場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項にある表 17-6 を参照してください。</p>

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Called party IE Number Type Unknown	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。</li> <li>• Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に指定します。</li> <li>• National : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• International : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Subscriber : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。</li> </ul>
Calling party IE Number Type Unknown	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。</li> <li>• Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に指定します。</li> <li>• National : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• International : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Subscriber : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。</li> </ul>

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Called Numbering Plan	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号の番号計画を設定する場合に使用します。</li> <li>• ISDN : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• National Standard : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Private : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に指定します。</li> </ul>
Calling Numbering Plan	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号の番号計画を設定する場合に使用します。</li> <li>• ISDN : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• National Standard : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Private : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に指定します。</li> </ul>

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Caller ID DN	<p>発信側の回線 ID に使用するパターン (0 ~ 24 桁) を入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>555XXXX = 可変の発信側の回線 ID。ここで、X は内線番号に相当します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。</li> <li>5555000 = 固定の発信側の回線 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用してください。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。</li> </ul>
Display IE Delivery	<p>発信側と着信側のネーム デリバリティ サービスに対する SETUP、CONNECT、および NOTIFY メッセージ内で、表示 IE のデリバリティを可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p>
Redirecting Number IE Delivery: Outbound	<p>Call Forward が発生したときに、コールの最初の転送番号および転送理由を示すために、Cisco CallManager からの Redirecting Number IE を送信 SETUP メッセージに含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>送信 SETUP メッセージから最初の転送番号と転送理由を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p>
Enable Outbound FastStart	<p>発信コールで H.323 FastStart 機能を使用可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイまたはトランク用のチェックボックスはオフになっています。</p> <p> (注) Enable Outbound FastStart チェックボックスがオンの場合、Media Termination Point Required、Media Resource Group List、および Codec for Outbound FastStart を設定する必要があります。</p>
Codec For Outbound FastStart	<p>ドロップダウン リスト ボックスを使用して、発信 FastStart コール用に H.323 デバイスと共に使用するための、次のいずれかのコーデックを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>G711 u-law 64K (デフォルト)</li> <li>G711 a-law 64K</li> <li>G723</li> <li>G729</li> <li>G729AnnexA</li> <li>G729AnnexB</li> <li>G729AnnexA-AnnexB</li> </ul> <p> (注) Enable Outbound FastStart チェックボックスがオンの場合、発信 FastStart コールをサポートしているコーデックを選択する必要があります。Codec For Outbound FastStart を選択する前に、Save をクリックすることが必要になる場合があります。</p>

## 追加情報

P.69-79 の「関連項目」を参照してください。

## Analog Access ゲートウェイの設定値

表 69-8 では、Analog Access ゲートウェイ (Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS Gateway) の設定値について説明します。

表 69-8 Analog Access ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
<b>デバイス情報</b>	
MAC Address	<p>ゲートウェイの MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、ハードウェア デバイスを一意に識別します。</p> <p>12 桁の 16 進文字の値を入力する必要があります。</p>
Description	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。
Device Pool	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>デバイス プールは、デバイスの自動登録用の CallManager Group、Date/Time Group、Region、および Calling Search Space を含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。</p>
Media Resource Group List	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、収集された (発信) 番号のルート指定方法を決定するために検索される、パーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで、希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System &gt; Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
AAR Calling Search Space	Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。

表 69-8 Analog Access ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Location	このデバイスに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに None を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
Network Locale	ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。   <b>(注)</b> 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールのみを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールと関連付けられると、デバイスは起動できません。
Port Selection Order	ポートが選択される順序を選択します。どちらのポート順序を使用すべきか不明な場合は、Top Down を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Top Down : ポート 1 からポート 8 まで降順にポートを選択します。</li><li>• Bottom Up : ポート 8 からポート 1 まで昇順にポートを選択します。</li></ul>
Load Information	ゲートウェイに適切なファームウェア ロード情報を入力します。  このフィールドに入力される値は、このゲートウェイ タイプのデフォルトファームウェア ロードを上書きします。
Transmit UTF-8 for Calling Party Name	このデバイスは、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを判別します。  送信側デバイスの場合、このチェックボックスがオンの状態で、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が終端側の電話機のユーザ ロケールに一致したときは、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。  受信側デバイスは、着信 Unicode 文字を、送信側デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて変換します。ユーザ ロケール設定が終端側の電話機のユーザ ロケールに一致した場合、電話機には文字が表示されます。   <b>(注)</b> トランクの両端で設定されたユーザ ロケールが同じ原語グループに属していない場合、電話機には不適切な文字が表示されることがあります。

表 69-8 Analog Access ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報</b>	
MLPP Domain	ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を <None> のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。
MLPP Indication	このデバイス タイプには、この設定はありません。
MLPP Preemption	このデバイス タイプには、この設定はありません。
<b>プロダクト固有の設定値</b>	
Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、<b>Product Specific Configuration</b> 見出しの右にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

**追加情報**

[P.69-79 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco VG248 Gateway の設定値

表 69-9 では、Cisco VG248 Gateway の設定値について説明します。

表 69-9 Cisco VG248 Gateway の設定値

フィールド	説明
MAC Address (Last 10 Characters)	<p>Cisco VG248 のメディア アクセス制御 (MAC) アドレスの最後の 10 桁を入力します。</p> <p>Cisco VG248 Analog Phone Gateway 用の MAC アドレスは 1 つしかありませんが、Cisco CallManager はすべてのデバイスについて固有の MAC アドレスを要求します。MAC アドレスの 10 桁だけを入力すると、Cisco CallManager はゲートウェイ用の MAC アドレスを使用し、それに追加情報を加えて VGC 電話機用の MAC アドレスを作成することができます。</p> <p>各デバイスの MAC アドレス変換では、MAC アドレスの末尾 (番号の右側) に 2 桁のポート番号が追加され、MAC アドレスの先頭に VGC が追加されます。</p> <p>EXAMPLE  MAC Address for the Cisco VG248 is  0039A44218  the MAC address for registered port 12 in  Cisco CallManager is  VGC0039A4421812</p>
Description	Cisco CallManager は、MAC アドレスの直前に VGCGW を追加することにより、この情報を自動的に提供します。
Load Information	設定中の Cisco VG248 のファームウェア バージョンを入力するか、ブランクのままにしてデフォルトを使用します。

## Configured Slots, VICs and Endpoints



(注) モジュールのポートの設定を開始するには、最初にモジュールを選択してから、Save をクリックしてください。

48_PORTS	エンドポイント ID のリストから、VGC_Phone ポートを設定するためのポートを 1 つ選択します。
----------	---

## 追加情報

P.69-79 の「関連項目」を参照してください。

## Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値

表 69-10 では、Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値について説明します。

表 69-10 Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
MAC Address (last 10 Characters)	<p>ゲートウェイのメディア アクセス制御 (MAC) アドレスの最後の 10 桁を入力します。<i>sccp local</i> IOS コマンドがゲートウェイで指定するインターフェイスの MAC アドレスを使用します。数字 (0 ~ 9) および A ~ F の大文字を指定できます。</p> <p>各デバイスの MAC アドレス変換では、MAC アドレスの末尾 (番号の右側) にスロット、サブユニット、およびポートの 3 桁のマッピングが追加されます。</p> <p>EXAMPLE  MAC Address for the gateway is  0006D7E5C7  The MAC address in Cisco CallManager is  0006D7E5C7281  where 281 is the three-digit mapping of the slot/subunit/port.  The values 2,8 and 1 can be hex digits and each do not necessarily correspond to slot, subunit and port values.</p> <p>電話機のデバイス タイプを示すため、MAC アドレスの前に次の 2 文字が挿入されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• BR : BRI 電話機</li> <li>• AN : アナログ電話機</li> </ul> <p>また、ゲートウェイ名に対して SKIGW も挿入されます。</p>
Description	Cisco CallManager は、MAC アドレスの直前に SKIGW を追加することにより、この情報を自動的に提供します。説明は上書きできます。
Cisco CallManager Group	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco CallManager 冗長グループを選択します。</p> <p>Cisco CallManager 冗長グループには、最高 3 台の Cisco CallManager を優先順に並べたリストが含まれています。リスト内の最初の Cisco CallManager が、プライマリ Cisco CallManager の役目をします。プライマリ Cisco CallManager が使用できないか、障害が起きた場合、ゲートウェイは、リスト内の次の Cisco CallManager に接続しようとします。</p>

## Configured Slots, VICS and Endpoints



(注) VIC の開始ポート番号を指定する必要なものがあります。たとえば、Subunit 0 の VIC に 0 から始まるポートが 2 つ (0 と 1) ある場合、Subunit 1 の VIC では 1 より大きい番号から始まるポートが 2 つ (2 と 3、または 4 と 5) する必要があります。



(注) SCCP ゲートウェイのモデルごとに、正しいスロット数が表示されます。



(注) モジュールのポートの設定を開始するには、最初にモジュールを選択してから、Save をクリックしてください。

表 69-10 Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Module in Slot 0 Module in Slot 1 Module in Slot 2 Module in Slot 3	<p>選択した SCCP ゲートウェイで使用可能なスロットそれぞれに対して、取り付けられているモジュールのタイプを選択します。次のモジュールがサポートされます。</p> <p>ネットワーク モジュール (VIC スロットあり):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• NM-2V : FXS-SCCP 用の VIC を、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。</li> <li>• NM-HD-2V : FXS-SCCP または BRI-NT/TE-SCCP 用の VIC スロットを、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。</li> <li>• NM-HD-2VE : FXS-SCCP または BRI-NT/TE-SCCP 用の VIC スロットを、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。</li> </ul> <p>ネットワーク モジュール (VIC スロットなし):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• NM-HDA-4FXS : VIC なしで直接 4 つの FXS を装備。最大 2 つまでの拡張モジュール EM-HDA-8FXS で拡張することにより、FXS ポートを 16 個サポートできます。</li> <li>• EM-HDA-8FXS : NM-HDA-4FXS の拡張モジュール。</li> </ul> <p>音声インターフェイス カード:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• VIC-2FXS</li> <li>• VIC-4FXS</li> <li>• VIC2-2FXS</li> <li>• VIC2-2BRI-NT/TE</li> </ul> <p>スロット レベルには、次の 4 つのオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• NM-2V : 2 つのサブユニットのオプション (VIC-2FXS-SCCP)。</li> <li>• NM-HD-2V : 2 つのサブユニットのオプション (VIC-4FXS-SCCP、VIC2-2FXS-SCCP、VIC2-2BRI-NT/TE-SCCP)。</li> <li>• NM-HD-2VE : 2 つのサブユニットのオプション (VIC-4FXS-SCCP、VIC2-2FXS-SCCP、VIC2-2BRI-NT/TE-SCCP)。</li> <li>• NM-HDA : 3 つのサブユニットのオプション (NM-HDA-4FXS-SCCP、EM-8FXS-EM0-SCCP、EM-8FXS-EM1-SCCP)。</li> </ul> <p>NM-HDA の場合、これらのオプションは正式な VIC ではありません。VIC2-2BRI-NT/TE は、BRI SCCP 電話機専用の VIC です。VG224 GW は他のすべてと異なります。</p> <p>次のオプションは、1 つのスロットだけをサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ANALOG : 1 つのサブユニットのオプション (24FXS-SCCP)。24 個の FXS ポートをサポート。</li> </ul> <p>オプション None は、ネットワーク モジュールが装備されていないことを意味します。</p>

表 69-10 Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>プロダクト固有の設定</b>	
Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、<b>Product Specific Configuration</b> 見出しの右にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

**追加情報**

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ポートの設定値

すべてのポート タイプ設定フィールドの詳細については、次の各トピックの表を参照してください。

- POTS ポートの設定値 (P.69-61)
- ループ スタート ポートの設定値 (P.69-63)
- グラウンド スタート ポートの設定値 (P.69-64)
- E & M ポートの設定値 (P.69-65)

ゲートウェイの設定値の詳細については、P.69-16 の「ゲートウェイの設定値」を参照してください。

### POTS ポートの設定値

表 69-11 では、POTS ポートの設定値について説明します。

表 69-11 POTS ポートの設定値

フィールド	説明
<b>ポートの選択</b>	
Port Type	POTS ポートの場合、このフィールドには <i>POTS</i> が表示されます。
Beginning Port Number Ending Port Number	<p><b>Beginning Port Number</b> フィールドと <b>Ending Port Number</b> フィールドに値を設定して、追加および設定するポートが、使用可能なすべてのポートであるか、1 つのポートであるか、ある範囲のポートであるかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ポートの範囲を指定するには、<b>Beginning Port Number</b> と <b>Ending Port Number</b> に適切な値を選択します。</li> <li>• 1 つのポートを作成するには、<b>Beginning Port Number</b> フィールドと <b>Ending Port Number</b> フィールドに同じ番号を選択します。</li> <li>• 使用可能なすべてのポートを追加するには、<b>Beginning Port Number</b> フィールドと <b>Ending Port Number</b> フィールドの両方に <b>All Ports</b> を選択します。</li> </ul>
<b>ポートの詳細</b>	
Port Direction	<p>このポートをコールが通過する方向を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Inbound：着信コールのみの場合に使用します。</li> <li>• Outbound：発信コールのみの場合に使用します。</li> <li>• Bothways：着信コールと発信コールに使用します（デフォルト）。</li> </ul>
Audio Signal Adjustment into IP Network	<p>ポート アプリケーション タイプに関連した受信オーディオ信号に適用されるゲインまたはロスを選択します。</p> <p> (注) ゲインの設定が不適切だと、エコーが聞こえる場合があります。この設定を調整する場合は注意してください。</p>
Audio Signal Adjustment from IP Network	<p>ポート アプリケーション タイプに関連した送信オーディオ信号に適用されるゲインまたはロスを選択します。</p> <p> (注) ゲインの設定が不適切だと、エコーが聞こえる場合があります。この設定を調整する場合は注意してください。</p>

表 69-11 POTS ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Prefix DN	このトランクが着信コールで受け取る数字に追加される、プレフィックス番号を入力します。  Cisco CallManager は、Num Digits 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。
Num Digits	収集する有効数字の桁数 (0 ~ 32) を入力します。  Cisco CallManager は、コールされた番号の右側 (最後の桁) から有効数字をカウントします。  このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、PRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。Prefix DN を参照してください。
Expected Digits	トランクの着信側に必要な桁数を入力します。このフィールドはほとんど使用されないため、桁数が不明の場合は、デフォルト値 0 のままにしてください。
Call Restart Timer (1000-5000 ms)	Call Restart Timer (1000 ~ 5000ms)。ms は、ミリ秒単位の時間を示します。
Offhook Validation Timer (100-1000ms)	Offhook Validation Timer (100 ~ 1000ms)。ms は、ミリ秒単位の時間を示します。
Onhook Validation Timer (100-1000ms)	Onhook Validation Timer (100 ~ 1000ms)。ms は、ミリ秒単位の時間を示します。
Hookflash Timer (100 - 1500 ms)	Hookflash Timer (100 ~ 1500ms)。ms は、ミリ秒単位の時間を示します。
SMDI Port Number (0-4096)	ボイス メッセージ システムに接続するアナログ アクセス ポートに、このフィールドを使用します。  SMDI Port Number は、アナログ アクセス ポートが接続される先のボイス メッセージ システム上にある、実際のポート番号と同じ番号を設定してください。   <b>(注)</b> ボイス メッセージ システムが正しく動作するために、通常、ボイスメールの論理ポートは物理ポートと一致している必要があります。
Unattended Port	このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。
<b>プロダクト固有の設定値</b>	
Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。  フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、 <b>Product Specific Configuration</b> 見出しの右にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。  詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。

## 追加情報

P.69-79 の「関連項目」を参照してください。

## ループ スタート ポートの設定値

表 69-12 では、ループ スタート ポートの設定値について説明します。

表 69-12 ループ スタート ポートの設定値

フィールド	説明
Port Type	Port Type ドロップダウン リスト ボックスから、Loop Start を選択します。
Beginning Port Number Ending Port Number	<p><b>Port Number</b> フィールドと <b>End Port Number</b> フィールドに値を設定して、追加および設定するポートが、使用可能なすべてのポートであるか、1つのポートであるか、ある範囲のポートであるかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ポートの範囲を指定するには、<b>Beginning Port Number</b> と <b>Ending Port Number</b> に適切な値を選択します。</li> <li>1つのポートを作成するには、<b>Beginning Port Number</b> フィールドと <b>Ending Port Number</b> フィールドに同じ番号を選択します。</li> <li>使用可能なすべてのポートを追加するには、<b>Beginning Port Number</b> フィールドと <b>Ending Port Number</b> フィールドの両方に <b>All Ports</b> を選択します。</li> </ul>
Port Direction	<p>このポートをコールが通過する方向を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Inbound：着信コールのみの場合に使用します。</li> <li>Outbound：発信コールのみの場合に使用します。</li> <li>Both Ways：着信コールと発信コールに使用します。</li> </ul>
Attendant DN	着信コールを転送する先の電話番号を入力します（たとえば、ゼロ、または代表電話番号）。
Unattended Port	このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。
<b>プロダクト固有の設定値</b>	
Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、<b>Product Specific Configuration</b> 見出しの右にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

## 追加情報

P.69-79 の「関連項目」を参照してください。

## グラウンド スタート ポートの設定値

表 69-13 では、グラウンドスタート ポートの設定値について説明します。

表 69-13 グラウンド スタート ポートの設定値

フィールド	説明
Port Type	Port Type ドロップダウン リスト ボックスから、 <b>Ground Start</b> を選択します。
Beginning Port Number Ending Port Number	<p><b>Beginning Port Number</b> フィールドと <b>Ending Port Number</b> フィールドに値を設定して、追加および設定するポートが、使用可能なすべてのポートであるか、1 つのポートであるか、ある範囲のポートであるかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ポートの範囲を指定するには、<b>Beginning Port Number</b> と <b>Ending Port Number</b> に適切な値を選択します。</li> <li>• 1 つのポートを作成するには、<b>Beginning Port Number</b> フィールドと <b>Ending Port Number</b> フィールドに同じ番号を選択します。</li> <li>• 使用可能なすべてのポートを追加するには、<b>Beginning Port Number</b> フィールドと <b>Ending Port Number</b> フィールドの両方に <b>All Ports</b> を選択します。</li> </ul>
Port Direction	<p>このポートをコールが通過する方向を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Inbound：着信コールのみの場合に使用します。</li> <li>• Outbound：発信コールのみの場合に使用します。</li> <li>• Both Ways：着信コールと発信コールに使用します。</li> </ul>
Attendant DN	着信コールをルーティングする先の番号を入力します(たとえば、ゼロ、または代表電話番号)。
Unattended Port	このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。
<b>プロダクト固有の設定値</b>	
Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、<b>Product Specific Configuration</b> 見出しの右にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

### 追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## E & M ポートの設定値

E & M (Ear and Mouth) ポートは、PBX トランク回線 (専用回線) の接続を可能にします。E & M は、2 線式、4 線式、および 6 線式の電話機とトランクのインターフェイス用のシグナリング技術です。

表 69-14 では、E & M ポートの設定値について説明します。

表 69-14 E & M ポートの設定値

フィールド	説明
Port Type	Port Type ドロップダウン リスト ボックスから、EANDM を選択します。
Beginning Port Number Ending Port Number	<p><b>Beginning Port Number</b> フィールドと <b>Ending Port Number</b> フィールドに値を設定して、追加および設定するポートが、使用可能なすべてのポートであるか、1 つのポートであるか、ある範囲のポートであるかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ポートの範囲を指定するには、<b>Beginning Port Number</b> と <b>Ending Port Number</b> に適切な値を選択します。</li> <li>• 1 つのポートを作成するには、<b>Beginning Port Number</b> フィールドと <b>Ending Port Number</b> フィールドに同じ番号を選択します。</li> <li>• 使用可能なすべてのポートを追加するには、<b>Beginning Port Number</b> フィールドと <b>Ending Port Number</b> フィールドの両方に <b>All Ports</b> を選択します。</li> </ul>
<b>ポートの詳細</b>	
Port Direction	<p>このポートをコールが通過する方向を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Inbound : 着信コールのみの場合に使用します。</li> <li>• Outbound : 発信コールのみの場合に使用します。</li> <li>• Both Ways : 着信コールと発信コールに使用します。</li> </ul>
Calling Party Selection	<p>ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。どの電話番号が送信されるかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Originator : 発信側デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• First Redirect Number : 転送デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• Last Redirect Number : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• First Redirect Number (External) : 外部電話マスクが適用されている、最初のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• Last Redirect Number (External) : 外部電話マスクが適用されている、最後のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。</li> </ul>
Caller ID Type	<p>発信者 ID のタイプとして次のどちらかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ANI: このタイプは、発信者 ID のタイプとして Asynchronous Network Interface ( ANI ) を使用する場合に選択します。</li> <li>• DNIS : このタイプは、発信者 ID のタイプとして Dialed Number Identification Service ( DNIS ) を使用する場合に選択します。</li> </ul>

表 69-14 E &amp; M ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Caller ID DN	<p>発信側の回線 ID に使用するパターン (0 ~ 24 桁) を入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>555XXXX = 可変の発信側の回線 ID。ここで、X は内線番号に相当します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。</li> <li>5555000 = 固定の発信側の回線 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用してください。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。</li> </ul>
Prefix DN	<p>着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、まず、Num Digits 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>
Num Digits	<p>収集する有効数字の桁数を選択します (0 ~ 32)。Cisco CallManager は、コールされた番号の右側 (最後の桁) から有効数字をカウントします。</p> <p>このフィールドは、Sig Digits チェックボックスがオンである場合に使用します。このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、PRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。Prefix DN および Sig Digits を参照してください。</p>
Expected Digits	<p>トランクの着信側に必要な桁数を入力します。このフィールドはほとんど使用されないため、桁数が不明の場合は、デフォルト値 0 のままにしてください。</p>

#### プロダクト固有の設定値

Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、<b>Product Specific Configuration</b> 見出しの右にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>
---	--

#### 追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 特定のゲートウェイの検索

ネットワーク内には無数のゲートウェイが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定のゲートウェイを見つけることができます。固有のゲートウェイを特定するには、次のトピックを参照してください。

- デバイス名による検索 (P.69-67)
- 説明による検索 (P.69-68)
- 電話番号およびルート パターンによる検索 (P.69-69)
- コーリング サーチ スペースによる検索 (P.69-70)
- デバイス プールによる検索 (P.69-71)
- ルート グループによる検索 (P.69-73)
- デバイス タイプによる検索 (P.69-74)



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、ゲートウェイの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ゲートウェイの検索設定は保持されます。

## デバイス名による検索

特定のゲートウェイのデバイス名が分かっている場合、または Cisco CallManager に登録されているゲートウェイすべてのリストを表示する場合の手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** Device > Gateway の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ドロップダウン リスト ボックスから Name を選択し、その後、次のいずれかの基準を選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

**ステップ 3** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。

**ステップ 4** Find をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- Device icon (デバイス アイコン)
- Device Name
- Description (説明)(該当する場合)
- Device pool (デバイス プール)(該当する場合)

## ■ 特定のゲートウェイの検索

- Status ( 状況 )
- IP Address



**ヒント** 検索結果の中で電話番号を検索するには、**Search Within Results** チェックボックスをオンにし、前のステップの説明に従って検索条件を入力します。



**(注)** ゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Gateways ウィンドウから複数のゲートウェイを削除できます。また、**Reset Selected** をクリックすると、複数のゲートウェイをリセットできます。Matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

### 追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 説明による検索

Cisco CallManager に登録されている特定のゲートウェイの Description フィールドで使用されているキーワードが分かっている場合の手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** Device > Gateway の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ドロップダウン リスト ボックスから **Description** を選択し、その後、次のいずれかの基準を選択します。

- begins with ( 前方一致 )
- contains ( 中間一致 )
- ends with ( 後方一致 )
- is exactly ( 完全一致 )
- is not empty ( 非空白 )
- is empty ( 空白 )

**ステップ 3** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。

**ステップ 4** Find をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- Device icon ( デバイス アイコン )
- Device Name

- Description (説明) (該当する場合)
- Device Pool
- Status (状況)
- IP Address



**ヒント** 検索結果の中で電話番号を検索するには、**Search Within Results** チェックボックスをオンにし、前のステップの説明に従って検索条件を入力します。



**(注)** ゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、**Find and List Gateways** ウィンドウから複数のゲートウェイを削除できます。また、**Reset Selected** をクリックすると、複数のゲートウェイをリセットできます。**Matching records** タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

#### 追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 電話番号およびルートパターンによる検索

Cisco CallManager に登録され、特定の内線番号または内線番号の範囲に割り当てられるゲートウェイを見つける手順は、次のとおりです。

#### 手順

**ステップ 1** **Device > Gateway** の順に選択します。

**Find and List Gateways** ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ドロップダウン リスト ボックスから **DN/Route Pattern** を選択し、次のいずれかの基準を選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

**ステップ 3** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。

**ステップ 4** Find をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- Device icon (デバイス アイコン)
- Device Name
- Description (説明) (該当する場合)
- Extension (内線番号)
- Partition
- Status (状況)
- IP Address



**ヒント** 検索結果の中で電話番号を検索するには、**Search Within Results** チェックボックスをオンにし、前のステップの説明に従って検索条件を入力します。



**(注)** ゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Gateways ウィンドウから複数のゲートウェイを削除できます。また、**Reset Selected** をクリックすると、複数のゲートウェイをリセットできます。Matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

**追加情報**

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

**コーリング サーチ スペースによる検索**

コーリング サーチ スペースに割り当てられ、Cisco CallManager に登録されているゲートウェイを見つける手順は、次のとおりです。

**手順****ステップ 1** Device > Gateway の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ドロップダウン リスト ボックスから **Calling Search Space** を選択し、その後、次のいずれかの基準を選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

**ステップ 3** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。



**ヒント** Find ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスから既存のコーリング サーチ スペースを選択して、検索できます。この操作によって、選択したコーリング サーチ スペースの名前が自動的に Find フィールドに追加されます。

**ステップ 4** Find をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- Device icon (デバイス アイコン)
- Device Name
- Description (説明) (該当する場合)
- Calling Search Space
- Status (状況)
- IP Address



**ヒント** 検索結果の中で電話番号を検索するには、Search Within Results チェックボックスをオンにし、前のステップの説明に従って検索条件を入力します。



**(注)** ゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにして、Delete Selected をクリックすると、Find and List Gateways ウィンドウから複数のゲートウェイを削除できます。また、Reset Selected をクリックすると、複数のゲートウェイをリセットできます。Matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

#### 追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## デバイス プールによる検索

特定のデバイス プールに割り当てられ、Cisco CallManager に登録されているゲートウェイを見つける手順は、次のとおりです。

#### 手順

**ステップ 1** Device > Gateway の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ドロップダウン リスト ボックスから **Device Pool** を選択し、その後、次のいずれかの基準を選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

**ステップ 3** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。



**ヒント** Find ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスから既存のデバイス プールを選択して、検索できます。この操作によって、選択したデバイス プールの名前が自動的に Find フィールドに追加されます。

**ステップ 4** Find をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- Device icon (デバイス アイコン)
- Device Name
- Description (説明)(該当する場合)
- Device Pool
- Status (状況)
- IP Address



**ヒント** 検索結果の中で電話番号を検索するには、**Search Within Results** チェックボックスをオンにし、前のステップの説明に従って検索条件を入力します。



**(注)** ゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Gateways ウィンドウから複数のゲートウェイを削除できます。また、**Reset Selected** をクリックすると、複数のゲートウェイをリセットできます。Matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

### 追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ルート グループによる検索

特定のルート グループに割り当てられ、Cisco CallManager に登録されているゲートウェイを見つける手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** Device > Gateway の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ドロップダウン リスト ボックスから **Route Group Name** を選択し、その後、次のいずれかの基準を選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

**ステップ 3** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。



**ヒント** Find ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスから、既存のルート グループを選択して、検索できます。この操作によって、選択したルート グループの名前が自動的に Find フィールドに追加されます。

**ステップ 4** Find をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- Device icon (デバイス アイコン)
- Device name (port) (デバイス名 (ポート))
- Description (説明) (該当する場合)
- Route Group (Priority) (ルート グループ (優先順位))
- Status (状況)
- IP Address



**ヒント** 検索結果の中で電話番号を検索するには、Search Within Results チェックボックスをオンにし、前のステップの説明に従って検索条件を入力します。



(注) 該当するゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにすると、Find and List Gateways ウィンドウから複数のゲートウェイを削除またはリセットできます。ゲートウェイを削除する場合は **Delete Selected** を、ゲートウェイをリセットする場合は **Reset Selected** をクリックします。Matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

### 追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## デバイス タイプによる検索

特定のゲートウェイのデバイス タイプが分かっている場合、または特別なデバイス タイプのゲートウェイをすべて表示する場合の手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** Device > Gateway の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ドロップダウン リスト ボックスから **Device Type** を選択し、次のいずれかの基準を選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

**ステップ 3** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。



**ヒント** Find ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスから既存のデバイス タイプを選択して、検索できます。この操作によって、選択したデバイス タイプの名前が自動的に Find フィールドに追加されます。

**ステップ 4** Find をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- Device icon (デバイス アイコン)
- Device Name
- Description (説明)(該当する場合)

- Device Type (デバイス タイプ)
- Status (状況)
- IP Address

**ヒント**

検索結果の中で電話番号を検索するには、**Search Within Results** チェックボックスをオンにし、前のステップの説明に従って検索条件を入力します。

**(注)**

ゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Gateways ウィンドウから複数のゲートウェイを削除できます。また、**Reset Selected** をクリックすると、複数のゲートウェイをリセットできます。Matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

**追加情報**

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ゲートウェイとポートの変更

Cisco CallManager を使用して、ゲートウェイ タイプに関係なく、同様に次のタスクを実行します。

- [Dependency Records の使用方法 \(P.69-76\)](#)
- [ゲートウェイの削除 \(P.69-76\)](#)
- [ゲートウェイのリセットと再起動 \(P.69-77\)](#)
- [ゲートウェイとポートの更新 \(P.69-78\)](#)

### Dependency Records の使用方法

ゲートウェイとポートは、パーティション、デバイス プール、電話番号など、さまざまな設定情報を使用します。ゲートウェイやポートを更新または削除する場合は、Dependency Records リンクを使用すると、事前にゲートウェイやポートに関する設定情報を検索できます。リンクにアクセスするには、Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **Dependency Records** を選択し、Go をクリックします。このリンクの詳細については、付録「[Dependency Records](#)」を参照してください。

### ゲートウェイの削除

Cisco CallManager からゲートウェイを削除する手順は、次のとおりです。

#### 始める前に

ルート グループで使用されているゲートウェイを削除しようとする、Cisco CallManager はメッセージを表示します。ゲートウェイを使用しているルート グループを検索するには、Gateway Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **Dependency Records** を選択し、Go をクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。現在使用されているゲートウェイを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するゲートウェイを使用しているルート グループすべてに、別のゲートウェイを割り当てる。[P.33-7 の「ルート グループへのデバイスの追加」](#)を参照してください。
- 削除するゲートウェイを使用しているルート グループを削除する。[P.33-9 の「ルート グループの削除」](#)を参照してください。

#### 手順

---

**ステップ 1** Device > Gateway の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 特定のゲートウェイを見つけるために、検索条件を入力します。

**ステップ 3** Find をクリックします。

検索条件と一致し、検出されたゲートウェイのリストが表示されます。

**ステップ 4** 削除するゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにします。

**ステップ 5** Delete Selected をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

**ステップ 6** ゲートウェイを削除するには、OK をクリックします。削除操作を取り消すには、Cancel をクリックします。



**ヒント** ウィンドウ内のゲートウェイをすべて削除するには、Select All をクリックし、Delete Selected をクリックします。

#### 追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ゲートウェイのリセットと再起動

Cisco CallManager を使用してゲートウェイをリセットまたは再起動する手順は、次のとおりです。

#### 手順

**ステップ 1** Device > Gateway の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 特定のゲートウェイを見つけるために、検索条件を入力します。

**ステップ 3** Find をクリックします。

検索条件と一致し、検出されたゲートウェイのリストが表示されます。

**ステップ 4** リセットするゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにします。

**ステップ 5** Reset Selected をクリックします。

Device Reset ウィンドウが表示されます。

**ステップ 6** 次のいずれかの項目をクリックします。

- **Restart** : デバイスをシャットダウンしないで再起動する。
- **Reset** : デバイスをシャットダウンしてから起動する。
- **Close** : 何の処理も実行せずに前のウィンドウに戻る。



(注) H.323 ゲートウェイの再起動やリセットは、ゲートウェイをハードウェア的に再起動またはリセットするのではなく、Cisco CallManager によってロードされた設定を初期化するだけです。H323 以外のタイプのゲートウェイをリセットすると、Cisco CallManager が、そのゲートウェイを使用しているコールを自動的に終了します。H323 以外のタイプのゲートウェイを再起動すると、Cisco CallManager が、そのゲートウェイを使用しているコールを保持しようとしています。

#### 追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ゲートウェイとポートの更新

Cisco CallManager からゲートウェイの更新、またはゲートウェイ ポートの再設定を行う手順は、次のとおりです。

#### 手順

**ステップ 1** Device > Gateway の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 特定のゲートウェイを見つけるために、検索条件を入力します。

**ステップ 3** Find をクリックします。

検出されたデバイスが表示されます。

**ステップ 4** 更新するゲートウェイの Device Name をクリックします。

Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 5** 適切なゲートウェイまたはポートの設定値を更新します（次のトピックを参照）。

ゲートウェイ ポートにアクセスするには、そのゲートウェイ ポートのアイコンをクリックするか、選択されたゲートウェイの設定ウィンドウの左側にある MGCP エンドポイントのリンクをクリックします。

- [MGCP ゲートウェイの設定値 \( P.69-16 \)](#)
- [FXS/FXO ポートの設定値 \( P.69-18 \)](#)
- [Digital Access PRI ポートの設定値 \( P.69-22 \)](#)
- [Digital Access T1 の設定値 \( P.69-42 \)](#)
- [Analog Access ゲートウェイの設定値 \( P.69-54 \)](#)
- [ポートの設定値 \( P.69-61 \)](#)

**ステップ 6** Save をクリックします。

**ステップ 7** Reset をクリックし、ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。

---

### 追加情報

P.69-79 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

### すべてのゲートウェイ タイプ

- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \( P.69-2 \)](#)
- [ゲートウェイの設定値 \( P.69-16 \)](#)
- [特定のゲートウェイの検索 \( P.69-67 \)](#)
- [デバイス名による検索 \( P.69-67 \)](#)
- [説明による検索 \( P.69-68 \)](#)
- [電話番号およびルートパターンによる検索 \( P.69-69 \)](#)
- [コーリング サーチ スペースによる検索 \( P.69-70 \)](#)
- [デバイス プールによる検索 \( P.69-71 \)](#)
- [ルート グループによる検索 \( P.69-73 \)](#)
- [デバイス タイプによる検索 \( P.69-74 \)](#)
- [Dependency Records の使用方法 \( P.69-76 \)](#)
- [ゲートウェイとポートの変更 \( P.69-76 \)](#)
- [ゲートウェイの削除 \( P.69-76 \)](#)
- [ゲートウェイのリセットと再起動 \( P.69-77 \)](#)
- [ゲートウェイとポートの更新 \( P.69-78 \)](#)

### IOS MGCP ゲートウェイ

- [Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加 \( P.69-3 \)](#)
- [MGCP ゲートウェイの設定値 \( P.69-16 \)](#)
- [ポートの設定値 \( P.69-61 \)](#)
- 『*Cisco CallManager システム ガイド*』の「[ゲートウェイの設定チェックリスト](#)」

### SCCP ゲートウェイ

- [Cisco IOS SCCP ゲートウェイの追加 \( P.69-9 \)](#)
- [Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値 \( P.69-58 \)](#)

### IOS 以外の MGCP ゲートウェイ

- [IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加 \( P.69-11 \)](#)

### H.323 ゲートウェイ

- [Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加 \( P.69-12 \)](#)
- [H.323 ゲートウェイの設定値 \( P.69-46 \)](#)

**Analog Access ゲートウェイ**

- [Analog Access ゲートウェイとポートの追加 \( P.69-13 \)](#)
- [Analog Access ゲートウェイの設定値 \( P.69-54 \)](#)
- [Cisco VG248 Analog Phone Gateway の追加 \( P.69-14 \)](#)
- [Cisco VG248 Gateway の設定値 \( P.69-57 \)](#)
- [Cisco VG248 Analog Phone Gateway ソフトウェア コンフィギュレーション ガイド](#)

**BRI ゲートウェイ**

- [BRI ゲートウェイの設定値 \( P.69-34 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「MGCP BRI コール接続」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「MGCP BRI ゲートウェイの設定チェックリスト」

**ポート**

- [MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加 \( P.69-5 \)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加 \( P.69-6 \)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの Digital Access T1 ポートの追加 \( P.69-8 \)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの Digital Access PRI デバイスの追加 \( P.69-8 \)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加 \( P.69-9 \)](#)
- [FXS/FXO ポートの設定値 \( P.69-18 \)](#)
- [Digital Access PRI ポートの設定値 \( P.69-22 \)](#)
- [Digital Access T1 の設定値 \( P.69-42 \)](#)
- [POTS ポートの設定値 \( P.69-61 \)](#)
- [ループ スタート ポートの設定値 \( P.69-63 \)](#)
- [グラウンド スタート ポートの設定値 \( P.69-64 \)](#)
- [E & M ポートの設定値 \( P.69-65 \)](#)

**電話機と電話番号**

- [Cisco IP Phone の設定 \( P.70-1 \)](#)
- [電話機の設定値 \( P.70-7 \)](#)
- [電話番号の設定 \( P.49-1 \)](#)
- [電話番号の設定値 \( P.49-9 \)](#)



## Cisco IP Phone の設定

Cisco IP Phone は、多くの機能を備えた電話機であり、IP ネットワークに直接接続できます。Cisco CallManager Administration の Phone Configuration ウィンドウを使用して、次の Cisco IP Phone およびデバイスを設定することができます。

- SCCP および SIP の両方のプロトコルに対応する Cisco IP Phone 7900 ファミリ
- Cisco IP Video Phone 7985
- Cisco IP Phone モデル 30 VIP
- Cisco IP Phone モデル 12 S
- Cisco IP Phone モデル 12 SP
- Cisco IP Phone モデル 12 SP+
- Cisco IP Phone モデル 30 SP+
- H.323 クライアント
- Computer Telephony Integration (CTI) ポート
- Cisco IP Communicator
- Cisco Personal Communicator
- Cisco ATA 186 電話アダプタ
- サードパーティ製 SIP デバイス (基本および拡張)
- IP-STE
- Cisco VG248 ポート (アナログ電話機)



**(注)** 管理者は、Cisco VG248 ゲートウェイの設定を Cisco CallManager Administration の Gateway Configuration ウィンドウから実行します。このウィンドウから、ゲートウェイ アナログ電話ポートを設定します (この設定では、Phone Configuration ウィンドウが表示されます)。VG248 ポートを更新する場合は、Phone Configuration ウィンドウを使用します。次の手順は、この電話機タイプの更新または削除に適用されます。Cisco VG248 Gateway の設定情報については、P.69-1 の「[ゲートウェイの設定](#)」を参照してください。

Cisco CallManager Administration に Cisco IP Phone を追加すると、RIS Data Collector サービスからの情報が Phone Configuration ウィンドウに表示されます。デバイスの IP アドレス、およびデバイスが登録されている Cisco CallManager の名前が利用可能であれば、表示されます。

次のトピックでは、Cisco CallManager Administration における Cisco IP Phone に関する作業と設定について説明しています。

- [Cisco IP Phone の設定 \( P.70-3 \)](#)
- [ゲートウェイの設定 \( P.69-1 \)](#)
- [電話機の検索 \( P.70-32 \)](#)
- [電話番号の設定の概要 \( P.49-2 \)](#)
- [電話ボタン テンプレートの設定 \( P.76-1 \)](#)
- [電話機の設定値 \( P.70-7 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

### 追加情報

P.70-34 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco IP Phone の設定

Cisco CallManager データベースに電話機を追加するには、自動登録を使用して自動的に行うか、または Phone Configuration ウィンドウを使用して手動で行います。

自動登録を使用可能にすると、IP テレフォニー ネットワークに Cisco IP Phone を接続するときに、その IP Phone を Cisco CallManager データベースに自動的に追加できます。自動登録時に、Cisco CallManager は、次に使用可能な電話番号を順に電話機に割り当てます。しかし、自動登録を使用したくない場合もあります。たとえば、特定の電話番号を電話機に割り当てたい場合です。

**(注)**

自動登録は、小規模の設定や試験運用に限定して使用することをお勧めします。

クラスタ全体のセキュリティ モードを混合モードに設定すると、Cisco CallManager が自動登録を使用不可にします。

自動登録を使用しない場合は、手動で Cisco CallManager データベースに電話機を追加する必要があります。

Cisco IP Phone を Cisco CallManager Administration に追加すると、RIS Data Collector サービスによって、デバイス名、登録状況、およびその電話機が登録された Cisco CallManager の IP アドレスが Phone Configuration ウィンドウに表示されます。

Cisco IP Phone を使用する前に、次の手順に従って、その電話機を Cisco CallManager に追加する必要があります。また、この手順に従って、サードパーティ製 SIP 電話機、H.323 クライアント、CTI ポート、Cisco ATA 186 電話アダプタ、または Cisco IP Communicator を設定することもできます。H.323 クライアントの代わりに、Microsoft NetMeeting クライアントも使用できます。CTI ポートは、Cisco CallManager アプリケーション、たとえば、Cisco SoftPhone や Cisco AutoAttendant が使用する仮想デバイスを示します。

**(注)**

Cisco VG248 電話ポートは、Cisco CallManager Administration の Gateway Configuration ウィンドウから追加されます。設定については、[P.69-1 の「ゲートウェイの設定」](#)を参照してください。



### ワンポイント・アドバイス

電話ボタンおよびソフトキーの非標準テンプレートを使用する場合は、そのテンプレートを設定した後に電話機を追加する必要があります。設定については、[P.76-4 の「電話ボタンテンプレートの設定」](#)および [P.77-4 の「非標準ソフトキーテンプレートの追加」](#)を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** Device > Phone の順に選択します。

Find and List Phones ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。



(注) MAC アドレスの入手については、[P.70-5](#) の「電話機の MAC アドレスの表示」を参照してください。

- 既存の電話機をコピーするには、該当する電話機を見つけます ([P.70-32](#) の「電話機の検索」を参照)。次に、コピーする電話機の横にある Copy ボタンをクリックし、[ステップ 5](#) に進みます。
- 既存の電話機をコピーし、電話機に関連付けられた電話番号、短縮ダイヤル、ビジー ランプ フィールド / 短縮ダイヤル、およびサービス URL をコピーするには、該当する電話機を見つけます ([P.70-32](#) の「電話機の検索」を参照)。次に、コピーする電話機の横にある Copy w/Lines ボタンをクリックし、[ステップ 5](#) に進みます。



(注) コピーされた回線は、元の電話機と新しい電話機の間で共有回線になります。

- 新しい電話機を追加するには、Add New ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存の電話機を更新するには、該当する電話機を見つけます ([P.70-32](#) の「電話機の検索」を参照)。次に、[ステップ 5](#) に進みます。

**ステップ 3** Phone Type ドロップダウン リスト ボックスから、適切な電話機タイプまたはデバイスを選択し、Next をクリックします。電話機タイプの選択後にそのタイプを変更することはできません。

**ステップ 4** Select the device protocol ドロップダウン リスト ボックスが表示された場合は、デバイスの適切なプロトコルを選択し、Next をクリックします。表示されない場合は、[ステップ 5](#) に進んでください。

Phone Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 5** 適切な設定値を入力します ([表 70-1](#) を参照)。

選択された電話機タイプに該当する設定値だけが、ウィンドウに表示されます。

**ステップ 6** Save をクリックします。

電話機を追加する場合は、電話機がデータベースに追加されたことを知らせるメッセージが表示されます。この電話機に電話番号を追加するには、ウィンドウの左側に表示される Association Information ペインで、Line [1] - Add a new DN など、回線リンクのいずれかをクリックします。[P.49-9](#) の「電話番号の設定値」に進みます。

電話機を更新する場合は、変更内容を有効にするには Reset Phone ボタンをクリックする必要がありますことを示すメッセージが表示されます。Reset Phone ボタンの詳細については、[P.70-5](#) の「電話機のリセット」を参照してください。

### 次の手順

この電話機に短縮ダイヤル ボタンを設定するには、[P.70-24](#) の「短縮ダイヤル ボタンの設定」を参照してください。この電話機にサービスを設定するには、[P.70-26](#) の「Cisco IP Phone サービスの設定」を参照してください。この電話機にサービス URL ボタンを設定するには、[P.78-10](#) の「Cisco IP Phone サービスの電話ボタンへの追加」を参照してください。この電話機のビジー ランプ フィールド / 短縮ダイヤルの設定値を設定するには、[P.70-26](#) の「BLF/SpeedDial の設定値」を参照してください。

### 追加情報

H.323 クライアント、CTI ポート、および他のデバイスと共に、電話機を Cisco CallManager Administration で設定する方法については、P.70-34 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 電話機の MAC アドレスの表示

Media Access Control (MAC; メディア アクセス制御) アドレスは、Cisco IP Phone またはその他のハードウェア デバイスを識別する固有の 12 桁の 16 進数から構成されています。電話機の底に貼ってあるラベルに、この番号が記載されています (たとえば、Cisco IP Phone 7900 ファミリー モデルの場合は 000B6A409C405、Cisco IP Phone モデル SP 12+ および 30 VIP の場合は SS-00-0B-64-09-C4-05)。Cisco CallManager では、MAC アドレスは、Cisco IP Phone デバイス設定の必須フィールドです。Cisco CallManager フィールドに MAC アドレスを入力するときは、スペースとダッシュを使用しないでください。また、ラベル上の MAC アドレスの前にある「SS」は入力しないでください。

Cisco IP Phone の MAC アドレスやその他の設定値を表示する方法の詳細については、該当の電話機モデルの『*Cisco IP Phone アドミニストレーションガイド for Cisco CallManager*』を参照してください。Cisco IP Phone モデル 12 Series、および Cisco IP Phone モデル 30 Series または Cisco VG248 Gateway の MAC アドレスを表示するには、次の作業を実行します。

- Cisco IP Phone モデル 12 SP + および 30 VIP : \*\* を押して、LCD ディスプレイの 2 行目に MAC アドレスを表示する。
- Cisco VG248 電話ポート : MAC アドレスは、Cisco CallManager Administration の Gateway Configuration ウィンドウからエンドポイントを指定する。設定については、P.69-1 の「[ゲートウェイの設定](#)」を参照してください。
- Cisco IP Communicator : Cisco IP Communicator アプリケーションをインストールするクライアント PC のネットワーク インターフェイスから MAC アドレスを取得する。

### 追加情報

P.70-34 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 電話機のリセット

電話番号の追加、または設定値の更新を行った後、変更内容を有効にするために、Cisco IP Phone をリセットする必要はありません。Cisco CallManager が自動的にリセットを実行します。ただし、次の手順に従えば、いつでも Cisco IP Phone をリセットできます。



(注) コールが進行中の場合は、そのコールが終了した後に電話機がリセットされます。

### 手順

**ステップ 1** Device > Phone の順に選択します。

Find and List Phones ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、Find をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

**ステップ 3** リセットする電話機の横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内の電話機をすべて選択するには、**Select All** をクリックします。

**ステップ 4** **Reset Selected** をクリックします。

Device Reset ウィンドウが表示されます。

**ステップ 5** 次のいずれかのボタンをクリックします。

- **Restart** : 選択されたデバイスをシャットダウンせずに、再起動する ( Cisco CallManager に電話機を再登録する )
- **Reset** : 選択されたデバイスをシャットダウンした後、再度立ち上げる ( 電話機の完全なシャットダウンと再初期化を実行する )
- **Close** : 選択されたデバイスの再起動やリセットを実行せずに、前のウィンドウに戻る。

### 追加情報

P.70-34 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 電話機の削除

Cisco CallManager Administration を使用して Cisco IP Phone を削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

電話機を削除する前に、その電話機に関連付けられた電話番号を削除する必要があるかどうかを決定します。電話機を削除する前に電話番号を削除するには、[P.49-6](#) の「[電話機からの電話番号の削除](#)」を参照してください。電話機を削除する前に電話番号を削除しない場合は、電話機が削除された後も、電話番号は Cisco CallManager データベースに保持されます。データベースから電話番号を削除するには、[P.51-4](#) の「[割り当てられていない電話番号の削除](#)」を参照してください。

電話機に割り当てられている電話番号は、Phone Configuration ウィンドウの Association Information 領域で確認できます。または、Phone Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **Dependency Records** を選択して確認することもできます。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4](#) の「[Dependency Records へのアクセス](#)」を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** **Device > Phone** の順に選択します。

Find and List Phones ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、**Find** をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

**ステップ 3** 次のアクションのいずれかを実行します。

- 削除する電話機の横にあるチェックボックスをオンにし、**Delete Selected** をクリックする。
- ウィンドウ内の電話機をすべて削除するには、**Select All** をクリックし、**Delete Selected** をクリックする。
- 削除する電話機の名前をリストから選択して、現在の設定値を表示し、**Delete** をクリックする。

確認ダイアログが表示されます。

**ステップ 4** OK をクリックします。

---

### 追加情報

P.70-34 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 電話機の設定値

表 70-1 では、Phone Configuration ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。関連する手順については、P.70-34 の「[関連項目](#)」を参照してください。



(注)

Product-Specific Configuration セクションには、電話機のメーカーによって指定されたモデル固有のフィールドが含まれています。Cisco CallManager は、これらのフィールドにデフォルト値を動的に取り込みます。

フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 領域にある「？」疑問符アイコンをクリックします。ポップアップ ウィンドウにヘルプが表示されます。

詳細な情報が必要な場合は、設定する個々の電話機の資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。

表 70-1 電話機の設定値

フィールド	説明
<b>デバイス情報</b>	
MAC Address	<p>Cisco IP Phone (ハードウェア電話機のみ) を識別するメディア アクセス制御 (MAC) アドレスを入力します。この値が 12 桁の 16 進文字から構成されていることを確認してください。</p> <p>ご使用の電話機の MAC アドレスにアクセスする方法については、該当の電話機モデルの『Cisco IP Phone アドミニストレーション ガイド for Cisco CallManager』を参照してください。</p> <p><b>Cisco VG248 Analog Phone Gateway</b></p> <p>Cisco VG248 ゲートウェイの MAC アドレスは、Cisco CallManager Administration の Gateway Configuration ウィンドウからエンドポイントを指定します。設定については、P.69-1 の「ゲートウェイの設定」を参照してください。</p> <p>Cisco VG248 Analog Phone Gateway には、MAC アドレスが 1 つしかありません。48 個のすべてのポートが、同じ MAC アドレスを共有します。Cisco CallManager には、すべてのデバイスに固有の MAC アドレスが必要です。</p> <p>Cisco CallManager は、各デバイスの MAC アドレスを次のように変換します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• MAC アドレスの先頭 2 桁を除去します。</li> <li>• MAC アドレスを左に 2 桁シフトします。</li> <li>• MAC アドレスの末尾 (番号の右側) に 2 桁のポート番号を追加します。</li> </ul> <p>EXAMPLE  MAC Address for the Cisco VG248 is  000039A44218  the MAC address for registered port 12 in the  Cisco CallManager is  0039A4421812</p>
Device Name	ソフトウェアベースの電話機、H.323 クライアント、および CTI ポートを識別する名前を入力します。この値には、1 ~ 15 文字 (英数字、ドット、ダッシュ、または下線を含む) を指定できます。
Description	<p>デバイスの目的を指定します。このフィールドには、ユーザ名 (たとえば、John Smith) または電話機のロケーション (たとえば、Lobby) を入力できます。</p> <p>Cisco VG248 ゲートウェイでは、VGC&lt;mac address&gt; でこの記述が開始されます。</p>
Device Pool	この電話機を割り当てるデバイス プールを選択します。デバイス プールでは、地域、日付 / 時間グループ、ソフトキー テンプレート、Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報など、デバイスに共通する一連の特性を定義します。

表 70-1 電話機の設定値（続き）

フィールド	説明
Phone Button Template	<p>適切な電話ボタン テンプレートを選択します。電話ボタン テンプレートは、電話機上のボタンの設定を決定し、各ボタンに使用される機能（回線、短縮ダイヤルなど）を指定します。</p> <p>Cisco CallManager は、H.323 クライアントと CTI ポートに対しては、このフィールドを使用不可にします。</p>
Softkey Template	<p>適切なソフトキー テンプレートを選択します。ソフトキー テンプレートは、Cisco IP Phone におけるソフトキーの設定を決定します。割り当て済みのソフトキー テンプレートがデバイス プールに含まれている場合、このフィールドはブランクのままにします。</p>
Common Phone Profile	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、使用可能な共通の電話機プロファイルのリストから、共通の電話機プロファイルを選択します。</p>
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、ダイヤルされた番号のルート指定方法を決定するために検索されるパーティションの集合から構成されます。デバイスのコーリング サーチ スペースと電話番号のコーリング サーチ スペースは併用されます。電話番号の CSS はデバイスの CSS に優先します。詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「パーティションおよびコーリング サーチ スペース」を参照してください。</p> <p>電話機のコーリング サーチ スペースの設定情報については、<a href="#">P.49-26 の「Calling Search Space」</a>を参照してください。</p>
AAR Calling Search Space	<p>Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された（発信）番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p> <p>電話機のコーリング サーチ スペースの設定情報については、<a href="#">P.49-26 の「Calling Search Space」</a>を参照してください。</p>
Media Resource Group List	<p>適切なメディア リソース グループ リストを選択します。メディア リソース グループ リストは、優先順位順に並べられたメディア リソース グループから構成されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。</p> <p>&lt;None&gt; を選択すると、Cisco CallManager は、デバイス プールに定義されているメディア リソース グループ リストを使用します。</p> <p>詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」を参照してください。</p>

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
User Hold Audio Source	<p>ユーザが保留操作を開始するときに再生されるオーディオソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックし、表示されるリストからオーディオソースを選択します。</p> <p>オーディオソースを選択しない場合、Cisco CallManager は、デバイスプールに定義されているオーディオソースを使用します。または、デバイスプールがオーディオソース ID を指定していない場合は、システムデフォルトを使用します。</p> <p> (注) オーディオソースの定義は、Music On Hold Audio Source Configuration ウィンドウで行います。アクセスするには、<b>Media Resources &gt; Music On Hold Audio Source</b> の順に選択します。</p>
Network Hold Audio Source	<p>ネットワークが保留動作を開始するときに再生されるオーディオソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックし、表示されるリストからオーディオソースを選択します。</p> <p>オーディオソースを選択しない場合、Cisco CallManager は、デバイスプールに定義されているオーディオソースを使用します。または、デバイスプールがオーディオソース ID を指定していない場合は、システムデフォルトを使用します。</p> <p> (注) オーディオソースの定義は、Music On Hold Audio Source Configuration ウィンドウで行います。アクセスするには、<b>Media Resources &gt; Music On Hold Audio Source</b> の順に選択します。</p>
Location	<p>この Cisco IP Phone に適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションを Hub_None に設定すると、そのロケーションの機能では、この Cisco IP Phone が消費する帯域幅を把握しません。</p>
User Locale	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、その電話機ユーザ インターフェイスに関連したロケールを選択します。そのユーザ ロケールは、言語とフォントを含んだ、ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。</p> <p>Cisco CallManager は、ローカリゼーションをサポートする電話機モデルに対してのみ、このフィールドを使用可能にします。</p> <p> (注) ユーザ ロケールが指定されない場合、Cisco CallManager はデバイスプールに関連付けられているユーザ ロケールを使用します。</p> <p> (注) 英語以外の言語で情報を (電話機に) 表示することをユーザが要求している場合は、ユーザ ロケールを設定する前に、ロケールインストーラがインストールされていることを確認します。Cisco IP Telephony Locale Installer の資料を参照してください。</p>

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
Network Locale	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、その電話に関連したロケールを選択します。ネットワーク ロケールには、特定の地域で電話機が使用する トーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p> <p>Cisco CallManager は、ローカリゼーションをサポートする電話機モデル に対してのみ、このフィールドを使用可能にします。</p> <p> (注) ネットワーク ロケールが指定されない場合、Cisco CallManager は デバイス プールに関連付けられているネットワーク ロケールを使用します。</p> <p> (注) ユーザが国別のトーンを (電話機で) 再生する必要がある場合は、ネットワーク ロケールを設定する前に、ロケールがインストールされていることを確認します。Cisco IP Telephony Locale Installer の資料を参照してください。</p>
Built In Bridge	<p>Built In Bridge ドロップダウン リスト ボックスを使用することにより、割り込み機能の組み込み Conference Bridge を使用可能または使用不可にします ( <i>On</i>、<i>Off</i>、または <i>Default</i> を選択する )。</p> <p> (注) Cisco IP Phone モデル 7940 および 7960 では、2 つのメディア ストリーム暗号化または SRTP ストリームを同時にサポートすることはできません。この条件によって動作が不安定にならないよう、システムでは、デバイス セキュリティ モードが Encrypted に設定されたときは、モデル 7940 および 7960 の組み込みブリッジを自動的に使用不可にします。</p> <p>設定の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。また、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』も参照してください。</p>
Privacy	<p>Privacy を必要とする各電話機について、Privacy ドロップダウン リスト ボックスで <i>On</i> を選択します。設定の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>
Signaling Port	<p>このフィールドは H.323 デバイスのみに適用されます。このデバイスが使用する H.225 シグナリング ポートの値を指定します。</p> <p>デフォルト値は 1720 です。有効値の範囲は 1 ~ 65535 です。</p>
Video Capabilities Enabled/disabled	<p>ビデオ機能のオンとオフを切り替えます。</p>

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
Owner User ID	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、この電話機が割り当てられているユーザのユーザ ID を選択します。ユーザ ID は、このデバイスから発信されるコールの Call Detail Record (CDR; 呼詳細レコード) に記録されます。</p> <p> (注) エクステンション モビリティを使用する場合、このフィールドは設定しないでください。エクステンション モビリティは、デバイス オーナーをサポートしません。</p>
Wait for Far End H.245 Terminal Capability Set	<p>このフィールドは H.323 デバイスのみに適用されます。</p> <p>このチェックボックスでは、Cisco CallManager が遠端 H.245 Terminal Capability Set を受信した後に、その H.245 Terminal Capability Set を送信するように指定します。このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。Cisco CallManager がケイパビリティ交換を実行するように指定するには、このチェックボックスをオフにします。</p>
Phone Load Name	<p>Cisco IP Phone 用のカスタム ソフトウェアを入力します。</p> <p>このフィールドに入力される値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。詳細については、P.72-1 の「デバイス デフォルトの設定」を参照してください。</p> <p>Cisco IP Phone ソフトウェアおよび設定の詳細については、該当の電話機モデルの『Cisco IP Phone アドミニストレーション ガイド for Cisco CallManager 5.0』を参照してください。</p>
Retry Video Call as Audio	<p>このチェックボックスは、コールを受信するビデオ エンドポイントのみに適用されます。この電話機が、ビデオとして接続しないコールを受信すると、そのコールはオーディオ コールとして接続しようとします。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。このデバイスは、ビデオ コールをコール制御に送信して再ルーティングする直前に、オーディオ コールとして (ビデオ コールとして接続できない場合) そのビデオ コールをリトライします。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続に失敗したビデオ コールは、オーディオ コールとしての確立を試行しません。この場合、コールはコール制御に失敗し、コール制御は Automatic Alternate Routing (AAR) およびルート / ハント リスト経由でコールをルーティングします。</p>

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
Ignore Presentation Indicators (internal calls only)	<p>コールごとにコール表示制限を設定するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、Cisco CallManager は内部コールが受信するすべての表示制限を無視します。</p> <p>この設定は、変換パターンレベルで発信側の回線 ID 表示と接続側の回線 ID 表示の設定を組み合わせで使用してください。同時に、これらの設定値では、コール表示制限を設定して、各コールに対して発信側の回線または接続側の回線の表示情報を選択的に表示、またはブロックできます。</p> <p>発信側の回線 ID 表示と接続側の回線 ID 表示のパラメータの詳細については、P.46-5 の「変換パターンの設定値」の表 46-1 を参照してください。</p> <p>コール表示制限の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Call Display Restrictions 機能」の章を参照してください。</p>
Allow Control of Device from CTI	<p>CTI からこのデバイスを制御および監視できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>関連付けられた電話番号が共有回線を指定している場合、関連付けられたデバイスの少なくとも 1 つが、CTI でサポートされるデバイス タイプおよびプロトコルの組み合わせを指定しているときは、チェックボックスがオンにする必要があります。</p>
<b>プロトコル固有の情報</b>	
Packet Capture Mode	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>None</b> : このオプションは、デフォルト設定として機能し、パケット キャプチャリングが行われないことを示します。パケット キャプチャリングが完了したら、この値に設定してください。</li> <li>• <b>Batch Processing Mode</b> : Cisco CallManager が復号化または非暗号化されたメッセージをファイルに書き込み、システムが各ファイルを暗号化します。システムは毎日、新しい暗号化鍵を持つ新しいファイルを作成します。Cisco CallManager は、ファイルを 7 日間保存し、また安全な場所でファイルを暗号化する鍵も保存します。ファイルは /var/pktCap に保存されます。単一のファイルにはタイム スタンプ、送信元 IP アドレス、送信元 IP ポート、宛先 IP アドレス、パケット プロトコル、メッセージ長、およびメッセージが含まれます。TAC デバッグ ツールは、HTTPS、管理者のユーザ名とパスワード、および指定日を使用して、キャプチャされたパケットを含む単一の暗号化されたファイルを要求します。さらに鍵情報も要求し、暗号化されたファイルを復号化します。</li> </ul> <p> <b>ヒント</b> パケット キャプチャリングの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
Packet Capture Duration	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。</p> <p>このフィールドには、パケット キャプチャリングの 1 つのセッションに割り当てる最大分数を指定します。デフォルト設定値は 0 です。値の範囲は、0 ~ 300 分です。</p> <p>パケット キャプチャリングを開始するには、フィールドに 0 以外の値を入力します。パケット キャプチャリングが完了すると、0 が表示されます。</p> <p> <b>ヒント</b> パケット キャプチャリングの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
SRTP Allowed	<p>このチェックボックスの説明に従い、このフラグをオンにする場合は、ネットワークに IPSec を設定して、エンドツーエンドのセキュリティを確保する必要があります。この設定を行わないと、鍵やその他の情報が暴露されます。</p>
Presence Group	<p>このフィールドには、プレゼンス機能を設定します。</p> <p>ドロップダウン リストボックスから、エンドユーザのプレゼンス グループを選択します。選択されたグループでは、この電話番号を監視できるデバイス、エンドユーザ、およびアプリケーション ユーザが指定されます。</p> <p>Presence Group のデフォルト値は、Standard Presence グループになっています (このグループはインストール時に設定されます)。ドロップダウン リスト ボックスには、Cisco CallManager Administration で設定されたプレゼンス グループも表示されます。</p> <p>グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックするため、プレゼンス グループに対するプレゼンス認可が処理されます。グループ間の権限の設定や、エクステンション モビリティに対するプレゼンスの動作については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。</p>

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
SCCP Phone Security Profile	<p>SCCP 電話機の場合、デバイスに適用するセキュリティ プロファイルを選択します。選択したプロファイルが電話機でサポートされていない場合、Cisco CallManager では設定を適用することはできません。</p> <p>すべての電話機で、セキュリティ プロファイルを適用する必要があります。電話機がセキュリティをサポートしていない場合は、ノンセキュア プロファイルを選択します。</p> <p>プロファイルに含まれている設定値を確認するには、<b>System &gt; Security Profile &gt; SCCP Phone Security Profile</b> の順に選択します。</p> <p> <b>ヒント</b> プロファイルに含まれている CAPF 設定値は、Phone Configuration ウィンドウに表示される Certificate Authority Proxy Function 設定値に関連しています。製造元でインストールされる証明書 (MIC) またはローカルで有効な証明書 (LSC) を管理する場合は、プロファイルと Phone Configuration ウィンドウで、CAPF 設定値を設定する必要があります。</p>
SIP Dial Rules	<p>必要に応じて、適切な SIP ダイアル規則を選択します。SIP ダイアル規則により、Cisco SIP IP Phone モデル 7905、7912、7940、および 7960 ではローカルのダイアル プランを使用できます。そのため、ユーザは、コール処理の前にキーを押す必要も、タイマーを待つ必要もありません。</p> <p>SIP IP Phone にダイアル規則を適用しない場合は、SIP Dial Rules フィールドの設定を &lt;None&gt; のままにします。この設定は、コール処理の前にユーザが Dial ソフトキーを使用するか、タイマーが期限切れになるまで待つ必要があることを意味します。</p>
MTP Preferred Originating Codec	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、SIP コールにメディア ターミネーション ポイントが必要となる場合に使用するコーデックを選択します。</p>
SIP Phone Security Profile	<p>SIP 電話機の場合、デバイスに適用するセキュリティ プロファイルを選択します。選択したプロファイルが電話機でサポートされていない場合、Cisco CallManager では設定を適用することはできません。</p> <p>すべての電話機で、セキュリティ プロファイルを適用する必要があります。電話機がセキュリティをサポートしていない場合は、ノンセキュア プロファイルを選択します。</p> <p>プロファイルに含まれている設定値を確認するには、<b>System &gt; Security Profile &gt; SIP Phone Security Profile</b> の順に選択します。</p> <p>プロファイルに含まれている CAPF 設定値は、Phone Configuration ウィンドウに表示される Certificate Authority Proxy Function 設定値に関連しています。製造元でインストールされる証明書 (MIC) またはローカルで有効な証明書 (LSC) を管理する場合は、プロファイルと Phone Configuration ウィンドウで、CAPF 設定値を設定する必要があります。</p>

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
Rerouting Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、再ルーティングに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>参照先へのルートを検索するときは、Referrer の再ルーティング コーリング サーチ スペースが使用されます。再ルーティング コーリング サーチ スペースが原因で Refer が失敗した場合、Refer Primitive は「405 Method Not Allowed」メッセージを使用して要求を拒否します。</p> <p>リダイレクション (3xx) プリミティブおよび転送機能でも、リダイレクト先または転送先を検索するときに、再ルーティング コーリング サーチ スペースが使用されます。</p>
Out-of-Dialog Refer Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、out-of-dialog Refer コーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、out-of-dialog (OOD) Refer Authorization コーリング サーチ スペース (CSS) を使用して、SIP out-of-dialog Refer を許可します。管理者は、Referrer の OOD CSS を設定することで、out-of-dialog Refer の使用を制限できます。Refer Primitive は、「403 Forbidden」メッセージを使用して OOD Refer 要求を拒否します。</p>
SUBSCRIBE Calling Search Space	<p>プレゼンス機能でサポートされている SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースは、電話機からのプレゼンス要求を Cisco CallManager がルーティングする方法を決定します。この設定を使用すると、電話機のプレゼンス (SUBSCRIBE) 要求に、コール処理サーチ スペースとは別のコーリング サーチ スペースを適用できます。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、電話機のプレゼンス要求に使用する SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>Cisco CallManager Administration で設定するコーリング サーチ スペースはすべて、SUBSCRIBE Calling Search Space ドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>ドロップダウン リストからエンドユーザ用の別のコーリング サーチ スペースを選択しない場合、SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースは、デフォルトで None に設定されます。</p> <p>この用途専用の SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを設定するには、すべてのコーリング サーチ スペースと同じようにコーリング サーチ スペースを設定します。コーリング サーチ スペースの設定方法については、P.43-1 の「<a href="#">コーリング サーチ スペースの設定</a>」を参照してください。</p>
SIP Profile	<p>デフォルトの SIP プロファイルまたは以前作成された特定のプロファイルを選択します。SIP プロファイルには、登録タイマーとキープアライブタイマー、メディアポート、および Do Not Disturb 制御など、電話機に関する特定の SIP 情報が含まれています。</p>

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
Digest User	<p>ダイジェスト認証 (SIP セキュリティ) で使用されるため、電話機に関連付けるエンドユーザを選択します。</p> <p>選択したユーザのダイジェスト資格情報を設定したことを確認します (End User Configuration ウィンドウを参照)。</p> <p>電話機の設定を保存し、電話機をリセットすると、ユーザのダイジェスト資格情報が電話機の設定ファイルに追加されます。</p> <p> <b>ヒント</b> ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
Media Termination Point Required	<p>H.323 がサポートしない機能 (たとえば、保留や転送) をインプリメントするために、メディア ターミネーション ポイントを使用するかどうかを指定します。</p> <p>機能をインプリメントするために MTP を使用する場合は、Media Termination Point Required チェックボックスをオンにします。機能をインプリメントするために MTP を使用しない場合は、Media Termination Point Required チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.323 クライアント、および H.245 Empty Capabilities Set をサポートしていない H.323 デバイスにのみ使用してください。または、メディア ストリーミングを 1 つのソースで終了させる場合に使用してください。</p> <p>MTP を使用するためにこのチェックボックスをオンにして、このデバイスがビデオ コールのエンドポイントになっている場合、そのコールは必ずオーディオになります。</p>
Unattended Port	このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。
Require DTMF Reception	SIP 電話機および SCCP 電話機の場合、この電話機に DTMF 受信が必要なときは、このチェックボックスをオンにします。
RFC2833 Disabled	SCCP 電話機の場合、RFC2833 サポートを使用不可にするときは、このチェックボックスをオンにします。
<b>拡張モジュール情報</b>	
Module 1	適切な拡張モジュールを選択するか、または何も選択しません。
Module 1 Load Name	<p>適切な拡張モジュール用のカスタム ソフトウェアを入力します (該当する場合)。</p> <p>このフィールドに入力される値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。ファームウェア ロードがモジュール ロードと一致していることを確認してください。</p>
Module 2	適切な拡張モジュールを選択するか、または何も選択しません。

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
Module 2 Load Name	2 番目の拡張モジュール用のカスタム ソフトウェアを入力します (該当する場合)。  このフィールドに入力される値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。ファームウェア ロードがモジュール ロードと一致していることを確認してください。
<b>External Data Locations 情報 (ブランクのままにして、デフォルトを使用)</b>	
Information	Information (i) ボタンのヘルプテキストのロケーション (URL) を入力します。デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。
Directory	電話機がディレクトリ情報を取得する際の取得元となるサーバを入力します。デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。
Messages	このフィールドはブランクのままにします (Cisco CallManager では使用されません)。
Services	Cisco IP Phone サービスのロケーション (URL) を入力します。
Authentication Server	電話機の Web サーバに対する要求を検証するために、この電話機が使用する URL を入力します。認証 URL を指定しない場合、認証を必要とする Cisco IP Phone 上の拡張機能は動作しません。  デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された Cisco IP Phone User Options ウィンドウにアクセスします。  デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。
Proxy Server	電話機の HTTP クライアントから、ローカル以外のホスト アドレスにアクセスする HTTP 要求を代理処理するのに使用されるホストとポート (たとえば、proxy.cisco.com:80) を入力します。  電話機が、サービスで URL (たとえば、www.cisco.com) を受信するときに、cisco.com ドメインで設定されていない場合、その電話機は、その URL へのアクセスにプロキシ サーバを使用します。電話機が cisco.com ドメインで設定されている場合、その URL と同じドメイン内にあるので、その電話機は、プロキシを使用せずにその URL にアクセスします。  この URL を設定しない場合、電話機は URL に直接接続を試みます。  デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。
Idle	Idle Timer フィールドで指定された時間の間、Cisco IP Phone が使用されなかった場合に、その電話機のディスプレイに表示される URL を入力します。たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、LCD 上にロゴを表示できます。  デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。
Idle Timer (seconds)	アイドル状態を許容する時間 (秒数) を入力する。この時間が経過すると、Idle フィールドで指定された URL が表示されます。  Idle URL Timer エンタープライズ パラメータの値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>エクステンション情報</b>	
Enable Extension Mobility	この電話機でエクステンション モビリティをサポートする場合は、このチェックボックスをオンにします。
Log Out Profile	このフィールドは、Cisco CallManager エクステンション モビリティを使用してデバイスにログインしているユーザがない場合にデバイスが使用するデバイス プロファイルを指定します。ドロップダウン リスト ボックスから、オプションを選択します。オプションには、Use Current Device Settings と Select a User Device Profile があります。Select a User Device Profile を選択すると、すでに設定されているユーザ デバイス プロファイルを選択するための設定ウィンドウが表示されます。
Log In User ID	このフィールドは、ユーザがログインするまでブランクのままです。ユーザが Cisco CallManager エクステンション モビリティを使用してデバイスにログインすると、ユーザ ID がこのフィールドに表示されます。
Log In Time	このフィールドは、ユーザがログインするまでブランクのままです。ユーザが Cisco CallManager エクステンション モビリティを使用してデバイスにログインすると、ユーザのログイン時刻がこのフィールドに表示されます。
Log Out Time	このフィールドは、ユーザがログインするまでブランクのままです。ユーザが Cisco CallManager エクステンション モビリティを使用してデバイスにログインすると、システムがユーザをログアウトする予定時刻がこのフィールドに表示されます。
<b>対称キー情報</b>	
Symmetric Key	対称キーに使用する 16 進文字の文字列を入力します。有効な文字には、数字の 0 ~ 9、および大文字 / 小文字の A ~ F (または a ~ f) があります。  鍵サイズに適したビットを入力したことを確認します。ビットが不適切な場合、Cisco CallManager は値を拒否します。Cisco CallManager は、次の鍵サイズをサポートします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco IP Phone モデル 7905 および 7912 (SIP プロトコルのみ): 256 ビット</li> <li>• Cisco IP Phone モデル 7940 および 7960 (SIP プロトコルのみ): 128 ビット</li> </ul> この文字列が使用されるのは 1 回のみです。設定値を更新するたびに、新しい鍵を生成してから電話機をリセットする必要があります。
Generate String	Cisco CallManager Administration で 16 進文字を生成させる場合は、 <b>Generate String</b> ボタンをクリックします。
Revert to Database Value	データベースに存在する値を復元する場合は、このボタンをクリックします。このボタンは、Symmetric Key フィールドに不適切な値を入力して設定を保存した場合に役立ちます。

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>Certification Authority Proxy Function (CAPF) 情報</b>	
Certificate Operation	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• No Pending Operation : 認証操作が行われない時間を表示します (デフォルト設定)。</li> <li>• Install/Upgrade : 電話機にローカルで存在している有効な証明書を新規にインストールまたは更新します。</li> <li>• Delete : 電話機にローカルで存在している有効な証明書を削除します。</li> <li>• Troubleshoot : ローカルで有効な証明書 (LSC) または製造元でインストールされる証明書 (MIC) を元に戻して、CAPF トレース ファイルの認証証明書を表示できるようにします。いずれの証明書タイプも電話機に存在する場合、Cisco CallManager は各証明書タイプに 1 つずつ、合計 2 つのトレース ファイルを作成します。</li> </ul> <p>Troubleshooting オプションを選択すると、電話機に存在する LSC または MIC を確認できます。</p>
Authentication String	<p>Authentication Mode ドロップダウン リスト ボックスで By Authentication String オプションを選択した場合、このフィールドが適用されます。手動で文字列を入力、または <b>Generate String</b> ボタンをクリックすると文字列が生成されます。文字列が 4 ~ 10 桁であることを確認してください。</p> <p>ローカルで有効な証明書をインストール、更新、削除、またはトラブルシューティングするには、電話機のユーザまたは管理者が電話機に認証文字列を入力する必要があります。</p>
Operation Completes by	<p>このフィールドは Certificate Operation の Install/Upgrade、Delete、および Troubleshoot オプションをサポートし、操作を完了させる日付および時刻を指定します。</p> <p>表示される値はパブリッシャ データベース サーバ用です。</p>
Certificate Operation Status	<p>このフィールドは、認証操作の進行状況を表示します。たとえば、&lt;operation type&gt; pending、failed、または successful です。ここで、operation type は Certificate Operation の Install/Upgrade、Delete、または Troubleshoot オプションを表します。このフィールドに表示される情報は変更できません。</p>
<b>H.323 情報</b>	
Outgoing Caller ID Pattern	<p>電話機への着信コールの発信者 ID に使用するパターンを 0 ~ 24 桁で入力します。</p>

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling Party Selection	<p>ゲートウェイ上の発信コールで送信される電話番号を選択します。</p> <p>次のオプションは、どの電話番号が送信されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Originator : 発信側デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• First Redirect Number : 転送デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• Last Redirect Number : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• First Redirect Number (External) : リダイレクト元のデバイスの外部電話番号を送信します。</li> <li>• Last Redirect Number (External) : コールをリダイレクトする最後のデバイスの外部電話番号を送信します。</li> </ul>
Calling Party Presentation	<p>Cisco CallManager が発信者 ID を送信するか、またはブロックするかを選択します。</p> <p>Cisco CallManager が発信者 ID を送信するようにする場合は、<i>Allowed</i> を選択します。</p> <p>Cisco CallManager が発信者 ID を送信しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p>
Display IE Delivery	<p>発信側と着信側のネーム デリバリ サービスに対する SETUP および CONNECT メッセージ内で、表示 Information Element ( IE; 情報要素 ) のデリバリを可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルト設定では、このチェックボックスはオンです。</p>
Redirecting Number IE Delivery Outbound	<p>Call Forward が発生したときに、コールの最初の転送番号および転送理由を示すために、Cisco CallManager からの Redirecting Number IE を送信 SETUP メッセージに含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>送信 SETUP メッセージから最初の転送番号と転送理由を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオフです。</p>
Redirecting Number IE Delivery Inbound	<p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受取するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオフです。</p>

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>ゲートキーパー情報</b>	
Gatekeeper Name	このフィールドには、H.323 クライアントを制御するゲートキーパーの名前を指定します。H.323 クライアントにより設定にゲートキーパーが指定される前に、ゲートキーパーが Cisco CallManager で設定されていることを確認してください。デフォルトは空白です。
E.164	常に固有の E.164 番号を使用します。ヌル値は使用しないでください。
Technology Prefix	このフィールドには、ゾーンでエンドポイントの機能を表す # 記号で終わる番号を指定します。Zone 経由の設定を使用できる場合、このフィールドには影響がありません。デフォルト値は 1#* です。ヌル値は使用しないでください。
Zone	このフィールドには、ゲートキーパーが管理するゾーンのゾーン名を指定します。H.323 クライアントおよびトランクに同じゾーン名を使用しないでください。また、ヌル値は使用しないでください。
Gatekeeper Controlled H.323 Client	H.323 クライアントのゲートキーパー制御を可能にするには、このチェックボックスをオンにします。
<b>Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報</b>	
MLPP Domain	このデバイスに関連付けられた MLPP ドメインのドロップダウン リスト ボックスから MLPP ドメインを選択します。値を <i>None</i> のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。
MLPP Indication	<p>使用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Default</b> : このデバイスは、その MLPP Indication 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。</li> <li>• <b>Off</b> : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。</li> <li>• <b>On</b> : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。</li> </ul> <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p> <p> (注) エンタープライズ パラメータ、デバイス プール、またはデバイス レベルで MLPP Indication をオンにすると、MLPP Indication をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の Ring Setting が動作しません。</p>

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
MLPP Preemption	<p>使用可能な場合、この設定は、進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Default</b> : このデバイスは、その MLPP Preemption 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。</li> <li>• <b>Off</b> : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しないようにします。</li> <li>• <b>On</b> : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。</li> </ul> <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
<b>セキュア シェル情報</b>	
Secure Shell User	<p>セキュア シェル ユーザのユーザ ID を入力します。</p> <p>Cisco Technical Assistance Center (TAC) では、トラブルシューティングやデバッグを行うときにセキュア シェルを使用します。詳細については、TAC に問い合わせてください。</p>
Secure Shell Password	<p>セキュア シェル ユーザのパスワードを入力します。詳細については、TAC に問い合わせてください。</p>
<b>アソシエーション情報</b>	
Modify Button Items	<p>電話機を追加すると、Phone Configuration ウィンドウの左側に Association Information 領域が表示されます。</p> <p>この電話機に対するボタンの関連付けを管理するには、このボタンをクリックします。ダイアログボックスが表示され、電話機に対する未保存の変更はすべて失われる可能性があることが警告されます。電話機に対する変更をすべて保存した場合は、OK をクリックして続行します。この電話機用の Reorder Phone Button Configuration ウィンドウが表示されます。</p> <p>詳細な手順については、<a href="#">P.70-30 の「電話ボタン テンプレートのボタン項目の変更」</a>を参照してください。</p>
Line [1] - Add a new DN	<p>電話機を追加すると、Phone Configuration ウィンドウの左側に Association Information 領域が表示されます。</p>
Line [2] - Add a new DN	<p>この電話機に関連付ける電話番号 (複数可) を追加するには、これらのリンクをクリックします。いずれかのリンクをクリックすると、Directory Number Configuration ウィンドウが表示されます。</p> <p>詳細な手順については、<a href="#">P.49-4 の「電話番号の設定」</a>を参照してください。</p>

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
Add a new SD	<p>電話機を追加すると、Phone Configuration ウィンドウの左側に Association Information 領域が表示されます。</p> <p>この電話機の短縮ダイヤル設定を追加するには、このリンクをクリックします。リンクをクリックすると、この電話機用の Speed Dial and Abbreviated Dial Configuration ウィンドウが表示されます。</p> <p>詳細な手順については、P.70-24 の「短縮ダイヤル ボタンの設定」を参照してください。</p>
Add a new SURL	<p>電話機を追加すると、Phone Configuration ウィンドウの左側に Association Information 領域が表示されます。</p> <p>この電話機のサービス URL ボタンを設定するには、このリンクをクリックします。リンクをクリックすると、この電話機用の Configure Service URL Buttons ウィンドウが表示されます。</p> <p>詳細な手順については、P.70-29 の「サービス URL ボタンの設定」を参照してください。</p>
Add a new BLF SD	<p>電話機を追加すると、Phone Configuration ウィンドウの左側に Association Information 領域が表示されます。</p> <p>この電話機のビジーランプフィールド / 短縮ダイヤル設定を設定するには、このリンクをクリックします。リンクをクリックすると、この電話機用の Busy Lamp Field Configuration ウィンドウが表示されます。</p> <p>詳細については、P.70-26 の「BLF/SpeedDial の設定値」を参照してください。</p>
<b>プロダクト固有の設定値</b>	
Model-specific configuration ( デバイスメーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド )	<p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、<b>Product Specific Configuration</b> 領域にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のデバイスの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

## 短縮ダイヤル ボタンの設定

ユーザに短縮ダイヤル ボタンを提供する場合、または短縮ダイヤル ボタンが特定のユーザに割り当てられていない電話機を設定する場合は、Cisco CallManager Administration を使用して、電話機に短縮ダイヤル ボタンを設定します。ユーザは、Cisco IP Phone User Options Menu を使用して、電話機の短縮ダイヤル ボタンを変更できます。

### 手順

- ステップ 1** Phone Configuration ウィンドウで、ウィンドウの上部にある Related Links ドロップダウン リストボックスから **Add/Update Speed Dials** を選択し、**Go** をクリックします。

この電話機用の Speed Dial and Abbreviated Dial Configuration ウィンドウが表示されます。



(注) Phone Configuration ウィンドウを表示するには、**Device > Phone** の順に選択してください。検索条件を入力し、**Find** をクリックします。短縮ダイヤル ボタンを設定する電話機を選択します。

- ステップ 2** 適切な設定値を入力します (表 70-2 を参照)。
- ステップ 3** Save をクリックして、変更内容を適用します。
- ステップ 4** Close をクリックして、ウィンドウを閉じます。

#### 追加情報

P.70-34 の「関連項目」を参照してください。

## 短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定値

表 70-2 では、短縮ダイヤル ボタンの設定値について説明します。Speed Dial and Abbreviated Dial Configuration ウィンドウには、2 つのセクションがあります。電話機の短縮ダイヤルの設定、およびボタンに関連付けられていない固定短縮ダイヤルの設定に関するセクションです。表 70-2 の説明は両方のセクションに適用されます。

合計 99 個の短縮ダイヤルおよび固定短縮ダイヤルの設定がシステムにより提供されています。

#### 短縮ダイヤルの設定

電話機の物理的なボタンの設定を行います。

#### 固定短縮ダイヤルの設定

短縮ダイヤルでアクセスするための短縮ダイヤル番号の設定を行います。



(注) 一部の Cisco IP Phone は短縮ダイヤルをサポートしていません。該当の電話機のユーザ ガイドを参照してください。

表 70-2 短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定値

フィールド	説明
(左の列にある 1 ~ 99 の番号)	この列には、電話機または Cisco IP Phone モデル 7914 Expansion Module 上の短縮ダイヤル ボタン (たとえば、1、2、3、4 など) を指定するか、あるいは、固定短縮ダイヤルに使用する固定短縮ダイヤル インデックスを指定します。
Number	ユーザが短縮ダイヤル ボタンを押したときにシステムによってダイヤルされる番号を入力します。

表 70-2 短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定値 (続き)

フィールド	説明
Label	短縮ダイヤル ボタンまたは固定短縮ダイヤル番号に対して表示されるテキストを入力します。  Cisco CallManager は、Cisco IP Phone モデル 7910 に対してはこのフィールドを使用不可にします。
ASCII Label	このフィールドには、 <i>Label</i> フィールドと同じ情報を指定します。ただし、入力は ASCII 文字に制限されます。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、 <i>ASCII Label</i> フィールドの内容が表示されます。

**追加情報**

P.70-34 の「[関連項目](#)」を参照してください。

**BLF/SpeedDial の設定値**

Cisco CallManager Administration でプレゼンスを設定すると、ウォッチャーと呼ばれる関係者が、ウォッチャーのデバイスの BLF/SpeedDial ボタンを使用して、電話番号または SIP URI のリアルタイム ステータスを監視できるようになります。

プレゼンス対応の SIP 電話機では、電話番号または SIP URI を BLF/SpeedDial ボタンとして設定できます。プレゼンス対応の SCCP 電話機では、電話番号のみを BLF/SpeedDial ボタンとして設定できます。

BLF/SpeedDial ボタンの設定については、『*Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド*』の「[プレゼンス](#)」の章を参照してください。

**Cisco IP Phone サービスの設定**

ユーザは、Cisco IP Phone モデル 7970、7960、および 7940 などの特定の電話機から情報サービス (たとえば、天気、株価など) またはその他の利用可能なサービスにアクセスできます。システム管理者は、Cisco CallManager Administration を使用して、電話機で使用可能なサービスをセットアップすることができます。ユーザは、Cisco IP Phone User Options Menu を使用して、サービスを変更できます。Cisco IP Phone User Options Menu については、ご使用の電話機モデルの『*Cisco IP Phone ユーザ ガイド*』を参照してください。Cisco CallManager Administration におけるサービス保持の詳細については、[P.78-1 の「Cisco IP Phone サービスの設定」](#)を参照してください。

電話サービスへの加入、電話サービスの更新、および電話サービスの加入解除の詳細については、次の項を参照してください。

- [サービスへの加入 \(P.70-26\)](#)
- [サービスの更新 \(P.70-27\)](#)
- [サービスの加入解除 \(P.70-28\)](#)

**サービスへの加入**

電話機用の新規サービスに登録する手順は、次のとおりです。

**始める前に**

Cisco CallManager に電話サービスを追加してください。詳細については、[P.78-4 の「Cisco IP Phone サービスの設定」](#)を参照してください。

## 手順

---

**ステップ 1** Device > Phone の順に選択します。

Find and List Phones ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、Find をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

**ステップ 3** サービスを追加する電話機を選択します。

Phone Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** ウィンドウの右上にある Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **Subscribe/Unsubscribe Services** を選択し、Go をクリックします。

この電話機用の Subscribed Cisco IP Phone Services ウィンドウが表示されます。

**ステップ 5** Select a Service ドロップダウン リスト ボックスから、電話機に追加するサービスを選択します。

**ステップ 6** Next をクリックします。

選択したサービスが、ウィンドウに表示されます。別のサービスを選択する場合は、Back をクリックし、[ステップ 5](#) を繰り返します。

**ステップ 7** 必須パラメータを持つサービスの場合は、表示されているフィールドにその情報を入力します。

**ステップ 8** Subscribe をクリックします。

サービスが Subscribed Services リストに表示されます。

**ステップ 9** 別のサービスに加入する場合は、Subscribed Services 領域の **Subscribe a New Service** リンクをクリックします。[ステップ 5](#) ~ [ステップ 8](#) を繰り返します。

---

## 追加情報

[P.70-34 の「関連項目」](#) を参照してください。

## サービスの更新

サービスを更新する手順は、次のとおりです。必要に応じて、サービス名とサービスパラメータ値を更新できます。

## 手順

---

**ステップ 1** Device > Phone の順に選択します。

Find and List Phones ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、**Find** をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

**ステップ 3** サービスを更新する電話機を選択します。

Phone Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** ウィンドウの右上にある Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **Subscribe/Unsubscribe Services** を選択し、**Go** をクリックします。

**ステップ 5** Subscribed Services リストから、サービスを選択します。

**ステップ 6** 該当するパラメータを更新し、**Save** をクリックします。

---

### 追加情報

P.70-34 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## サービスの加入解除

サービスの登録を解除する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** **Device > Phone** の順に選択します。

Find and List Phones ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 電話機を特定するための検索条件を入力し、**Find** をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

**ステップ 3** サービスを削除する電話機を選択します。

Phone Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** ウィンドウの右上にある Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **Subscribe/Unsubscribe Services** を選択し、**Go** をクリックします。

**ステップ 5** Subscribed Services リストから、サービスを選択します。

**ステップ 6** **Unsubscribe** をクリックします。

サービスの加入を解除するかどうかを確認する、警告メッセージが表示されます。

**ステップ 7** 登録を解除するには、**OK** をクリックします。元の設定値に戻すには、**Cancel** をクリックします。

---

### 追加情報

P.70-34 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## サービス URL ボタンの設定

ユーザは、Cisco IP Phone モデル 7970、7960、および 7940 から情報サービス（たとえば、天気、株価など）またはその他の利用可能なサービスにアクセスできます。Cisco CallManager Administration を使用して、電話ボタンで利用できるようにサービスを設定した後に、その電話機の該当のボタンを設定できます。ユーザは、Cisco IP Phone User Options Menu を使用して、サービスを変更できます。Cisco IP Phone User Options Menu については、ご使用の電話機モデルの『*Cisco IP Phone ユーザガイド*』を参照してください。Cisco CallManager Administration におけるサービス保持の詳細については、P.78-1 の「[Cisco IP Phone サービスの設定](#)」を参照してください。

## サービス URL ボタンの追加

電話機にサービス URL ボタンを設定する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

始める前に、次の設定を行う必要があります。

- Cisco CallManager にサービスを追加してください。詳細については、P.78-4 の「[Cisco IP Phone サービスの設定](#)」を参照してください。
- 電話ボタン テンプレートにサービス URL ボタンを設定してください。詳細については、P.76-4 の「[電話ボタン テンプレートの設定](#)」を参照してください。
- サービスに加入してください。P.70-26 の「[Cisco IP Phone サービスの設定](#)」を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** Device > Phone の順に選択します。

Find and List Phones ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、Find をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

**ステップ 3** サービス URL ボタンを追加する電話機を選択します。

Phone Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** Phone Configuration ウィンドウの左側の Association Information 領域で、Add a new SURL リンクをクリックします。

この電話機用の Configure Service URL Buttons ウィンドウが表示されます。

**ステップ 5** Button Service ドロップダウン リスト ボックスから、電話機に追加するサービスまたは更新するサービスを選択します。

**ステップ 6** Label フィールドと ASCII Label フィールドの値を変更します。

- ステップ 7** サービスを電話ボタンに追加するか、またはサービスを更新するには、**Save** をクリックします。
- ステップ 8** 使用可能なボタンとサービスが他にある場合、別のボタンに追加のサービスを割り当てるときは、[ステップ 5](#) ~ [ステップ 7](#) を繰り返します。
- ステップ 9** このウィンドウを閉じて Phone Configuration ウィンドウに戻るには、**Close** をクリックします。

#### 追加情報

[P.70-34](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 電話ボタン テンプレートのボタン項目の変更

電話機を設定し、電話機にカスタムで非標準の電話ボタン テンプレートに関連付けた場合、関連付けられた電話ボタン テンプレート内の電話ボタン項目を変更できます。変更する場合は、この特定の電話機用にカスタマイズされた新しい電話ボタン テンプレートを作成します。新しい電話ボタン テンプレートは、電話ボタン テンプレートのリストに「SEP9999999999-Individual Template」という形式の名前で表示されます。ここで、9999999999 は電話機の MAC アドレスを示します。



(注)

電話機に標準の電話ボタン テンプレートが関連付けられている場合、この手順は実行できません。最初に、この電話機にカスタムで非標準の電話テンプレートを関連付ける必要があります。

カスタムで非標準の電話ボタン テンプレートのボタン項目を変更するには、次の手順を実行します。

#### 手順

- ステップ 1** Device > Phone の順に選択します。
- Find and List Phones ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、**Find** をクリックします。
- 検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。
- ステップ 3** 電話ボタン項目を変更する電話機を選択します。
- Phone Configuration ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** ウィンドウの左側の Association Information 領域で、**Modify Button Items** をクリックします。
- ポップアップ ウィンドウが表示され、(電話機に対する)未保存の変更は失われる可能性があることが警告されます。電話機の設定に変更を加えた場合は、**Cancel** をクリックし、変更を保存してから続行します。

**ステップ 5** 続行するには、OK をクリックします。

Reorder Phone Button Configuration ウィンドウが表示されます。このウィンドウは、次のペインから構成されています。

- Associated Items : この電話ボタン テンプレート内で電話ボタンに割り当てられている項目のリストが表示されます。システムによって、リスト内の最初の項目がボタン 1 に、2 番目の項目がボタン 2 に、というように順次割り当てられます。
- Unassigned Associated Items : この電話ボタン テンプレート内で電話ボタンに割り当てられていない項目のリストが表示されます。
- Dissociate These Items : 電話ボタンに現在割り当てることができない項目のリストが表示されず。

**ステップ 6** 関連付けられた項目の順序を変更するには、Associated Items ペインで項目を選択し、上矢印または下矢印をクリックしてその順序を変更します。

**ステップ 7** Associated Items ペインから Unassigned Associated Items ペインに、またはその逆に項目を移動するには、一方のペインで項目を選択し、左矢印または右矢印をクリックして他方のペインに項目を移動します。

**ステップ 8** Associated Items ペインまたは Unassigned Associated Items ペインから Dissociate These Items ペインに、またはその逆に項目を移動するには、いずれかのペインで項目を選択し、対象となる 2 つのペイン間にある上矢印または下矢印をクリックします。

**ステップ 9** ペイン間で項目を移動し、すべての項目が目的の順序になったら、Save をクリックします。

**ステップ 10** Close をクリックして、Reorder Phone Button Configuration ウィンドウを閉じます。

---

### 追加情報

P.70-34 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 電話機の検索

ネットワーク内には多数の Cisco IP Phone があります。Cisco CallManager を使用すると、指定した基準に基づいて電話機を検索できます。Cisco CallManager データベース内で、特定の Cisco IP Phone を検索する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco VG248 Gateway は、電話機の検索では表示されません。Cisco CallManager Administration の Find and List Phones ウィンドウから Cisco VG248 Analog Phone ポートを検索できます。Cisco VG248 Gateway の設定情報については、P.69-1 の「ゲートウェイの設定」を参照してください。



ヒント

検索の制限方法については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機の検索」を参照してください。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、電話機の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、電話機の検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Device > Phone の順に選択します。

Find and List Phones ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 電話機の特定に使用するフィールドを選択します。



(注)

データベースに登録されている電話機をすべて検索するには、フィールドのリストから Device Name を選択し、パターンのリストから「is not empty」を選択します。次に、Find をクリックしてください。

**ステップ 3** テキスト検索に該当する検索パターンを選択します（たとえば、Begins with）。

**ステップ 4** Find フィールドに、検索テキスト（ある場合）を入力します。

**ステップ 5** 検索文字列にワイルドカード検索を選択するには、Allow wildcards チェックボックスをオンのままにします。ワイルドカード検索を行わない場合は、このチェックボックスをオフにします。ワイルドカード検索の詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機の検索」を参照してください。



(注)

Allow wildcards チェックボックスをオンにして、特殊文字が含まれる電話番号やパターンを検索すると、期待される結果が返されません。

**ステップ 6** Find をクリックします。

基準と一致するデバイスのリストが表示されます。[ステップ 2](#) で選択したフィールドによって、リスト内のデバイスのソート方法が決まります。

このウィンドウには、このウィンドウ内のデバイスの合計数も表示されます。



**ヒント** 検索結果の中で電話機を検索するには、**Search Within Results** チェックボックスをオンにし、検索条件を入力します ([ステップ 4](#) を参照)。

**ステップ 7** 検出されたデバイスの次のセットを表示するには、**Next** をクリックします。

**(注)** 該当する電話機の横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Phones ウィンドウから複数の電話機を削除できます。また、**Reset Selected** をクリックすると、複数の電話機をリセットできます。matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内の電話機をすべて選択できます。

**追加情報**

P.70-34 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [Cisco IP Phone の設定 \( P.70-1 \)](#)
- [Cisco IP Phone の設定 \( P.70-3 \)](#)
- [電話機の MAC アドレスの表示 \( P.70-5 \)](#)
- [電話機のリセット \( P.70-5 \)](#)
- [電話機の削除 \( P.70-6 \)](#)
- [電話機の設定値 \( P.70-7 \)](#)
- [短縮ダイヤル ボタンの設定 \( P.70-24 \)](#)
- [短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定値 \( P.70-25 \)](#)
- [BLF/SpeedDial の設定値 \( P.70-26 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの設定 \( P.70-26 \)](#)
- [サービス URL ボタンの設定 \( P.70-29 \)](#)
- [電話ボタン テンプレートのボタン項目の変更 \( P.70-30 \)](#)
- [電話機の検索 \( P.70-32 \)](#)
- [電話番号の設定 \( P.49-1 \)](#)
- [ゲートウェイの設定 \( P.69-1 \)](#)
- [電話ボタン テンプレートの設定 \( P.76-1 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの設定 \( P.78-1 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP Phone」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機能」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話番号の概要」
- 『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」



## トランクの設定

ゲートキーパー（つまり、ホールセール ネットワークやゲートキーパーによって制御される クラスタ間 トランク）への論理ルート、ゲートキーパーによって制御されない クラスタ間 トランクへの論理ルート、または SIP ネットワークへの論理ルートを設定するには、トランク デバイスを使用します。次の使用可能な トランク タイプからいずれかを選択してください。

- H.225 トランク（ゲートキーパー制御）
- クラスタ間 トランク（ゲートキーパー制御）
- クラスタ間 トランク（ゲートキーパー非制御）
- SIP トランク

Cisco CallManager トランクの設定については、次のトピックを参照してください。

- [トランクの検索 \(P.71-2\)](#)
- [トランクの設定 \(P.71-3\)](#)
- [トランクの設定値 \(P.71-5\)](#)
- [トランクの削除 \(P.71-28\)](#)
- [トランクのリセット \(P.71-29\)](#)

次のトピックには、トランクに関する追加情報が記載されています。

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「コール アドミッション制御」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ゲートキーパーとトランク」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager 内でのゲートキーパーとトランクの設定」
- Cisco IP ビデオ テレフォニー ソリューション ネットワーク デザイン (SRND)

## トランクの検索

ネットワーク内には複数のトランクが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定してトランクを検索することができます。Cisco CallManager データベース内で特定のトランクを検索する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、トランクの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、トランクの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Device > Trunk の順に選択します。

Find and List Trunks ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** トランクの特定に使用するフィールドを選択します。



(注)

データベースに登録されているトランクをすべて検索するには、フィールドのリストから Device Name を選択し、パターンのリストから「is not empty」を選択します。次に、Find をクリックしてください。

**ステップ 3** テキスト検索に該当する検索パターンを選択します。テキスト検索を実行しない場合は、「is empty」を選択します。

**ステップ 4** Find フィールドに、検索テキスト（ある場合）を入力します。

**ステップ 5** ステップ 2 でコーリング サーチ スペースまたはデバイス プールを選択した場合は、データベース内で使用可能なオプションが表示されます。Find ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスから、これらのオプションのいずれかを選択できます。

**ステップ 6** Find をクリックします。

基準と一致するデバイスのリストが表示されます。このウィンドウには、デバイスの合計数も表示されます。

**ステップ 7** 検出されたデバイスの次のセットを表示するには、Next をクリックします。



(注)

トランクの横にあるチェックボックスをオンにして Delete Selected をクリックすると、Find and List Trunks ウィンドウから複数のトランクを削除できます。また、Reset Selected をクリックすると、複数のトランクをリセットできます。Select All をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのトランクを選択できます。

### 追加情報

P.71-30 の「関連項目」を参照してください。

## トランクの設定

新規のトランク デバイスの追加または既存のトランク デバイスの更新を行う手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager クラスタ 1 つに複数のトランク デバイスを設定できます。

### 始める前に

SIP トランクを設定する前に、SIP トランク セキュリティ プロファイルおよび SIP プロファイルを設定します。詳細については、P.79-3 の「SIP プロファイルの設定」、第 21 章「SIP トランクのセキュリティ プロファイルの設定」、および『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** Device > Trunk の順に選択します。

Find and List Trunks ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。

- 新規のトランク デバイスを追加する場合は、Add New ボタンをクリックします。Trunk Configuration ウィンドウが表示されます。ステップ 3 に進みます。
- トランクの設定値を更新する場合は、適切なトランクを見つけます (P.71-2 の「トランクの検索」を参照)。更新するトランクの名前をクリックします。ステップ 6 に進みます。

**ステップ 3** Trunk Type ドロップダウン リストから、トランクのタイプを選択します。

**ステップ 4** 必要に応じて、Device Protocol ドロップダウン リストから、デバイス プロトコルを選択します。

**ステップ 5** Next をクリックします。

**ステップ 6** 表示されている Trunk Configuration ウィンドウで、ゲートキーパーによって制御された H.225 トランク、ゲートキーパーによって制御されたクラスタ間トランク、およびゲートキーパーによって制御されないクラスタ間トランクに対して適切な設定値を入力します (表 71-1 を参照)。SIP トランクの場合は、表 71-2 を参照して適切な設定値を入力します。

**ステップ 7** Save をクリックして、新規トランクを追加します。

トランクがデータベースに追加されます。

既存のトランクを更新している場合は、Reset Trunk をクリックしてトランクをリセットまたは再起動し、新しい設定値を適用します。



(注) トランクをリセットすると、そのトランクを使用している進行中のコールがすべて終了されます。ゲートウェイを再起動すると、そのゲートウェイを使用している進行中のコールを保持しようとします。それ以外のデバイスでは、コールが完了するまで待機してから、再起動またはリセットされます。H.323 または SIP デバイスの再起動やリセットは、ハードウェアを物理的に再起動またはリセットするのではなく、Cisco CallManager によってロードされた設定を初期化するだけです。

#### 追加情報

P.71-30 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## トランクの設定値

表 71-1 では、ゲートキーパーによって制御された H.225 トランク、ゲートキーパーによって制御されたクラスタ間トランク、およびゲートキーパーによって制御されないクラスタ間トランクの各設定値について説明します。

表 71-2 では、SIP トランクの設定値について説明します。

関連手順の詳細については、P.71-30 の「関連項目」を参照してください。

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値

フィールド	説明
<b>デバイス情報</b>	
Device Name	このトランクに固有の識別子を入力します。
Description	トランクの記述名を入力します。
Device Pool	トランク用に適切なデバイス プールを選択します。  トランク用のデバイス プールは、トランクがコールの負荷を動的に分散するために使用する Cisco CallManager のリストを指定します。
	 <p><b>(注)</b> トランクのデバイス プールに属さない Cisco CallManager に登録された電話機からのコールは、さまざまな発信コールに対してこのデバイス プールのさまざまな Cisco CallManager を使用します。ノードの選択は、順不同で行われます。</p> <p>トランクのデバイス プールに属している Cisco CallManager に登録された電話機からのコールは、その Cisco CallManager が起動し動作していれば、発信コールに対して同じ Cisco CallManager ノードを使用します。</p>
Call Classification	このトランクを経由する着信コールがネットワークをオフ (OffNet) またはオン (OnNet) と見なすかどうかを、このパラメータによって決定します。  Call Classification フィールドが Use System Default に設定されている場合、Cisco CallManager clusterwide サービス パラメータの設定値 (Call Classification) により、トランクが OnNet または OffNet かどうか決定します。  このフィールドは、コールが OnNet または OffNet の場合、それぞれの警告トーンを提供します。警告トーンは、Cisco CallManager Annunciator によって提供されます。  発信コールを OnNet または OffNet として認識するには、このパラメータと Route Pattern Configuration ウィンドウでの設定を併用します。
Media Resource Group List	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。
Location	トランクに適したロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションと中央ロケーション (つまり、ハブ) との間のコールに使用可能な合計帯域幅を指定します。ロケーションを Hub_None に設定すると、無制限に使用可能な帯域幅を指定することになります。

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
Tunneled Protocol	このドロップダウン リスト ボックスは、H.225 トランク、ゲートキーパー制御のトランク、およびゲートキーパー非制御のトランクに対して表示されます。  トランクを使用して、H.323 シグナリング メッセージ内の H.323 以外のプロトコル情報を Cisco CallManager から他の Aneex M.1 準拠の H.323 PINX にトランスポート (トンネル) する場合は、 <b>QSIG オプション</b> を選択します。QSIG トンネルは、Call Completion、Call Diversion、Call Transfer、Identification Services、および Message Waiting Indication という機能をサポートします。
Packet Capture Mode	暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。  ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>None</b> : このオプション (デフォルト設定) は、パケット キャプチャリングが行われなかったことを示します。パケット キャプチャリングの完了後、この設定値を設定します。</li> <li>• <b>Batch Processing Mode</b> : Cisco CallManager が復号化または非暗号化されたメッセージをファイルに書き込み、システムが各ファイルを暗号化します。システムは毎日、新しい暗号化鍵を持つ新しいファイルを作成します。Cisco CallManager はファイルを 7 日間保存し、また安全な場所でファイルを暗号化する鍵も保存します。Cisco CallManager は /var/pktCap にファイルを保存します。単一のファイルには、タイムスタンプ、送信元 IP アドレス、送信元 IP ポート、宛先 IP アドレス、パケット プロトコル、メッセージ長、およびメッセージが含まれます。IREC ツールは、HTTPS、管理者のユーザ名とパスワード、および指定日を使用して、キャプチャされたパケットを含む単一の暗号化されたファイルを要求します。さらに鍵情報も要求し、暗号化されたファイルを復号化します。</li> </ul> <p> (注) パケット キャプチャリングを使用可能または使用不可にした後で、トランクをリセットする必要はありません。</p> <p> <b>ヒント</b> パケット キャプチャリングの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Packet Capture Duration	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。</p> <p>このフィールドには、パケット キャプチャリングの 1 つのセッションに割り当てる最大分数を指定します。デフォルト設定は 0 です。ただし、0 ~ 300 分の範囲で指定できます。</p> <p>パケット キャプチャリングを開始するには、このフィールドに 0 以外の値を入力します。パケット キャプチャリングの完了後、0 が表示されます。</p> <p> <b>ヒント</b> パケット キャプチャリングの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
Media Termination Point Required	<p>このチェックボックスでは、H.323 がサポートしない機能（たとえば、保留や転送）を実装するために、Media Termination Point (MTP; メディアターミネーションポイント) を使用するかどうかを指定します。</p> <p>機能をインプリメントするためにメディア ターミネーション ポイントを使用する場合は、Media Termination Point Required チェックボックスをオンにします。機能をインプリメントするためにメディア ターミネーション ポイントを使用しない場合は、Media Termination Point Required チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.323 クライアント、および H.245 Empty Capabilities Set をサポートしていない H.323 デバイスにのみ使用してください。または、メディア ストリーミングを 1 つのソースで終了させる場合に使用してください。</p> <p>MTP を使用するためにこのチェックボックスをオンにして、発信側と着信側のどちらか一方または両方がビデオ エンドポイントになっている場合、そのコールは必ずオーディオとして動作します。</p>
Retry Video Call as Audio	<p>このチェックボックスは、コールを受信するビデオ エンドポイントのみに適用されます。トランクの場合、このチェックボックスは Cisco CallManager から受信されたコールには適用されますが、Wide Area Network (WAN; ワイドエリア ネットワーク) から受信されたコールには適用されません。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。このデバイスは、ビデオ コールをコール制御に送信して再ルーティングする直前に、オーディオ コールとして (ビデオ コールとして接続できない場合) そのビデオ コールをリトライします。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続に失敗したビデオ コールは、オーディオ コールとしての確立を試行しません。この場合、コールはコール制御に失敗し、コール制御は Automatic Alternate Routing (AAR) およびルート / ハント リスト経由でコールをルーティングします。</p>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Wait for Far-End H.245 Terminal Capability Set (H.225 トランクのみ)	<p>このフィールドは H.323 デバイスのみに適用されます。</p> <p>このチェックボックスでは、Cisco CallManager が遠端 H.245 Terminal Capability Set を受信した後に、その H.245 Terminal Capability Set を送信するように指定します。このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。Cisco CallManager がケイパビリティ交換を実行するように指定するには、このチェックボックスをオフにします。</p>
Path Replacement Support	<p>このチェックボックスは、Tunneled Protocol ドロップダウン リストボックスから QSIG オプションを選択した場合に、H.225 トランク、ゲートキーパー制御のトランク、およびゲートキーパー非制御のトランクに対して表示されます。この設定は QSIG トンネル (Annex M.1) と連動し、パス変換を使用するコールに H.323 以外の情報を確実に送信します。</p> <p> (注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオフです。QSIG Tunneled Protocol オプションを選択した場合、このチェックボックスは自動的にオンになります。</p>
Transmit UTF-8 for Calling Party Name	<p>このデバイスは、SIP トランクのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信側デバイスでは、このチェックボックスをオンにすると、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>着信側デバイスは、送信側デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信 Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、電話機に文字が表示されます。</p> <p> (注) トランクの両端で設定されたユーザ ロケールが同じ原語グループに属していない場合、電話機には不適切な文字が表示されることがあります。</p>
Unattended Port	<p>コールを不在ポート (ボイスメール ポートなど) にリダイレクト、任意転送、および自動転送できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスのデフォルト値はオフです。</p>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
SRTP Allowed	<p>Cisco CallManager がトランク上のセキュアなコールもノンセキュアなコールも許可するようにする場合は、SRTP Allowed チェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにしない場合、Cisco CallManager はトランクとの SRTP ネゴシエーションを行わず、RTP を使用します。</p> <p> <b>注意</b> このチェックボックスをオンにする場合は、IP セキュリティを設定して、コール ネゴシエーション中に鍵や他のセキュリティ関連の情報を公開しないようにすることを強くお勧めします。IP セキュリティを正しく設定しないと、Cisco CallManager とゲートウェイの間のシグナリングがノンセキュアになります。</p> <p>トランクの暗号化の詳細については、『Cisco CallManager セキュリティガイド』を参照してください。</p>
<b>Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報</b>	
MLPP Domain	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。このフィールドをブランクのままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。</p>
MLPP Indication	<p>優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Default : このデバイスは、デバイス プールから MLPP Indication 設定を引き継ぎます。</li> <li>• Off : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。</li> <li>• On : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。</li> </ul> <p> <b>(注)</b> MLPP Indication を Off または Default (デフォルトが Off の場合) に設定し、かつ、MLPP Preemption を Forceful に設定するという組み合わせで、デバイスを設定することはできません。</p>
<b>コール ルーティング情報</b>	
<b>着信コール</b>	
Significant Digits	<p>有効数字は、着信コールで保持される最終数字の桁数を表します。このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。H.323 デバイスに着信するコールのルーティングに使用される数字の桁数を指定します。</p> <p>収集する有効数字の桁数を選択します (0 ~ 32)。Cisco CallManager は、コールされた番号の右側 (最後の桁) から有効数字をカウントします。</p>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なトランクのコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで、希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System &gt; Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
AAR Calling Search Space	<p>自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p>
Prefix DN	<p>着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、まず、Significant Digits 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>
Redirecting Diversion Header Delivery - Inbound	<p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受理するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージ システムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。Tunneled Protocol ドロップダウン リスト ボックスで QSIG オプションを選択した場合は、このチェックボックスをオンにできません。</p>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Enable Inbound FastStart	<p>着信コールで H.323 FastStart コール接続を可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイ用のチェックボックスはオフになっています。</p> <p>クラスタ間コールの場合、他のクラスタの Cisco CallManager サーバで Enable Inbound FastStart チェックボックスをオンにして、外部 FastStart を機能させる必要があります。</p> <p>他のクラスタの Cisco CallManager 3.3(2) サーバをサポート パッチ B で更新した場合、3.3(2)spB が内部 FastStart 機能をクラスタ間トランクでサポートしないため、内部 FastStart を使用可能にしないでください。</p>
<b>発信コール</b>	
Calling Party Selection	<p>ゲートウェイ上の発信コールで送信される電話番号を選択します。</p> <p>次のオプションは、どの電話番号が送信されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Originator : 発信側デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• First Redirect Number : 転送デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• Last Redirect Number : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• First Redirect Number (External) : リダイレクト元のデバイスの外部電話番号を送信します。</li> <li>• Last Redirect Number (External) : コールをリダイレクトする最後のデバイスの外部電話番号を送信します。</li> </ul>
Calling Line ID Presentation	<p>Cisco CallManager は、着信側の番号表示画面での発信側番号の表示を制御するために、補足サービスとして Calling Line ID Presentation (CLIP) を使用します。</p> <p>CLIP の設定を変更しない場合は、Default を選択します。発信側番号情報を表示する場合は、Allowed を選択します。発信側番号情報を表示しない場合は、Restricted を選択します。</p>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Called Party IE Number Type Unknown	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号のタイプを設定します。</li> <li>• Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。</li> <li>• National : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• International : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Subscriber : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。</li> </ul>
Calling Party IE Number Type Unknown	<p>発信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号のタイプを設定します。</li> <li>• Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。</li> <li>• National : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• International : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Subscriber : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。</li> </ul>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Called Numbering Plan	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側番号計画が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できません。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号の Numbering Plan を設定します。</li> <li>• ISDN : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• National Standard : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Private : プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。</li> </ul>
Calling Numbering Plan	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、発信側番号計画が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できません。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号の Numbering Plan を設定します。</li> <li>• ISDN : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• National Standard : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Private : プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。</li> <li>• Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。</li> </ul>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Caller ID DN	<p>トランクからの発信コールで、発信者 ID をフォーマットするのに使用するパターンを、0 ~ 24 桁で入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>555XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号を表します。この番号が指定されていない場合、セントラル オフィス (CO) は、エリアコードと共にこの番号を追加します。</li> <li>5555000 = 固定発信者 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。</li> </ul>
Display IE Delivery	<p>発信側と着信側のネーム デリバリ サービスに対する SETUP および CONNECT メッセージ内で、表示 Information Element (IE; 情報要素) のデリバリを可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオンです。Tunneled Protocol ドロップダウン リスト ボックスで QSIG オプションを選択した場合は、このチェックボックスをオンにできません。</p>
Redirecting Diversion Header Delivery - Outbound	<p>Call Forward が発生したときに、コールの最初の転送番号および転送理由を示すために、Cisco CallManager からの Redirecting Number IE を送信 SETUP メッセージに含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>送信 SETUP メッセージから最初の転送番号と転送理由を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージ システムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオンです。Tunneled Protocol ドロップダウン リスト ボックスで QSIG オプションを選択した場合は、このチェックボックスをオンにできません。</p>
Enable Outbound FastStart	<p>発信コールで H.323 FastStart 機能を使用可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイまたはトランク用のチェックボックスはオフになっています。</p> <p>Enable Outbound FastStart チェックボックスがオンの場合、Media Termination Point Required、Media Resource Group List、および Codec for Outbound FastStart を設定する必要があります。</p>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Codec For Outbound FastStart	<p>発信 FastStart コール用に H.323 デバイスと共に使用するため、次のいずれかのコーデックを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• G711 mu-law 64K (デフォルト)</li> <li>• G711 a-law 64K</li> <li>• G723</li> <li>• G729</li> <li>• G729AnnexA</li> <li>• G729AnnexB</li> <li>• G729AnnexA-AnnexB</li> </ul> <p>Enable Outbound FastStart チェックボックスがオンの場合、発信 FastStart コールをサポートしているコーデックを選択する必要があります。</p>
<b>ゲートキーパー情報</b>	
(ゲートキーパーによって制御された H.225 トランクまたはクラスタ間トランク)	
Gatekeeper Name	このトランクを制御するゲートキーパーを選択します。
Terminal Type	<p>このトランクが制御するデバイスすべてのタイプを指定します。</p> <p>通常のトランク コール アドミッション制御には、このフィールドに常に Gateway を設定します。</p>
Technology Prefix	<p>ゲートキーパーで <b>gw-type-prefix</b> を設定するときに、各 Cisco CallManager の IP アドレスを入力する必要をなくするために使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• このフィールドをブランクのままにする(デフォルト値)場合は、ゲートキーパーで <b>gw-type-prefix</b> コマンドを入力するときに、ゲートキーパーに登録できる各 Cisco CallManager の IP アドレスを指定する必要があります。</li> <li>• このフィールドを使用する場合は、ここで入力した値が、ゲートキーパーの <b>gw-type-prefix</b> コマンドで指定した <i>type-prefix</i> 値と正確に一致することを確認します。</li> </ul> <p>たとえば、このフィールドをブランクのままにした場合、IP アドレス 10.1.1.2 と 11.1.1.3 を持つ 2 つの Cisco CallManager があるときは、ゲートキーパーで次の <b>gw-type-prefix</b> コマンドを入力します。</p> <pre>gw-type-prefix 1#* default-technology gw ip 10.1.1.2 gw ip 11.1.1.3</pre> <p>このフィールドに 1#* を入力した場合、ゲートキーパーで次の <b>gw-type-prefix</b> コマンドを入力します。</p> <pre>gw-type-prefix 1#* default-technology</pre>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Zone	<p>Cisco CallManager が登録されるゲートキーパーに関して特定ゾーンを要求するには、このオプション フィールドを使用します。Zone は、このゾーンと別のゾーンとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このフィールドに値を入力しない場合は、ゲートキーパー上の <code>zone subnet</code> コマンドによって、Cisco CallManager が登録されるゾーンが決まります。大部分の設定では、デフォルト値をお勧めします。</li> <li>ゲートキーパー上の特定のゾーンに Cisco CallManager を登録する場合は、<code>zone</code> コマンドを使用してゲートキーパー上で設定されたゾーン名と正確に一致する値を入力します。このフィールドにゾーン名を指定すると、ゲートキーパーに登録される各 Cisco CallManager に対して、<code>zone subnet</code> コマンドを入力する必要がなくなります。</li> </ul> <p>詳細については、使用しているゲートキーパーのコマンド リファレンスマニュアルを参照してください。</p>
<b>リモート Cisco CallManager 情報</b>	
(ゲートキーパーによって制御されないクラスタ間トランク)	
Server 1 IP Address/Host Name	このトランクがアクセスする最初のリモート Cisco CallManager の IP アドレスまたはホスト名を入力します。
Server 2 IP Address/Host Name	<p>このトランクがアクセスする 2 番目のリモート Cisco CallManager の IP アドレスまたはホスト名を入力します。</p> <p> (注) ゲートキーパーによって制御されないこのクラスタ間トランクが、ゲートキーパーによって制御されないリモートクラスタ間トランクのデバイス プールにアクセスし、そのデバイス プールに 2 番目の Cisco CallManager ノードがある場合は、このフィールドに 2 番目のリモート Cisco CallManager の IP アドレスとホスト名を入力する必要があります。</p>
Server 3 IP Address/Host Name	<p>このトランクがアクセスする 3 番目のリモート Cisco CallManager の IP アドレスまたはホスト名を入力します。</p> <p> (注) ゲートキーパーによって制御されないこのクラスタ間トランクが、ゲートキーパーによって制御されないリモートクラスタ間トランクのデバイス プールにアクセスし、そのデバイス プールに 3 番目の Cisco CallManager ノードがある場合は、このフィールドに 3 番目のリモート Cisco CallManager の IP アドレスとホスト名を入力する必要があります。</p>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
MLPP Indication	<p>優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Default</b> : このデバイスは、その MLPP Indication 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。</li> <li>• <b>Off</b> : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。</li> <li>• <b>On</b> : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。</li> </ul> <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
MLPP Preemption (H.323 ICT では使用不可)	<p>進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Default</b> : このデバイスは、その MLPP Preemption 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。</li> <li>• <b>Disabled</b> : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しないようにします。</li> <li>• <b>Forceful</b> : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。</li> </ul> <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p> <p> (注) MLPP Preemption フラグは現在 Trunk ページで使用できません。優先順位のロジックは、ロケーション ベースの MLPP Preemption フラグによって制御されます。</p>

表 71-2 では、SIP トランクの設定値について説明します。

表 71-2 SIP トランクの設定値

フィールド	説明
<b>デバイス情報</b>	
Device Name	このトランクに固有の識別子を入力します。
Description	トランクの記述名を入力します。
Device Pool	<p>トランク用に適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>トランク用のデバイス プールは、トランクがコールの負荷を動的に分散するために使用する Cisco CallManager のリストを指定します。</p> <p> <b>(注)</b> トランクのデバイス プールに属さない Cisco CallManager に登録された電話機からのコールは、さまざまな発信コールに対してこのデバイス プールのさまざまな Cisco CallManager を使用します。Cisco CallManager ノードの選択は、順不同で行われます。</p> <p>トランクのデバイス プールに属している Cisco CallManager に登録された電話機からのコールは、その Cisco CallManager が起動し動作していれば、発信コールに対して同じ Cisco CallManager ノードを使用します。</p> <p>Device Pool のデフォルト値は Not Selected です。</p>
Call Classification	<p>このトランクを経由する着信コールがネットワークをオフ (OffNet) またはオン (OnNet) と見なすかどうかを、このパラメータによって決定します。</p> <p>Call Classification のデフォルト値は Use System Default です。Call Classification フィールドが Use System Default に設定されている場合、Cisco CallManager clusterwide サービス パラメータの設定値 (Call Classification) により、トランクが OnNet または OffNet かどうか決定します。</p> <p>このフィールドは、コールが OnNet または OffNet の場合、それぞれの警告トーンを提供します。</p> <p>発信コールを OnNet または OffNet として認識するには、このパラメータと Route Pattern Configuration ウィンドウでの設定を併用します。</p>
Media Resource Group List	<p>メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。</p> <p>Media Resource Group List のデフォルト値は None です。</p>
Location	<p>トランクに適したロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションと中央ロケーション (つまり、ハブ) との間のコールに使用可能な合計帯域幅を指定します。ロケーションを Hub_None に設定すると、無制限に使用可能な帯域幅を指定することになります。</p> <p>ロケーションは、他のロケーションに関する RSVP ポリシーとも関連付けられません。この設定により、ロケーション ペアに基づいて RSVP を使用可能にしたり使用不可にしたりすることができます。</p> <p>Location のデフォルト値は Hub_None です。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
AAR Group	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p> <p>AAR Group のデフォルト値は None です。</p>
Packet Capture Mode	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>None</b> : このオプション (デフォルト設定) は、パケット キャプチャリングが行われないことを示します。パケット キャプチャリングの完了後、この設定値を設定します。</li> <li>• <b>Batch Processing Mode</b> : Cisco CallManager が復号化または非暗号化されたメッセージをファイルに書き込み、システムが各ファイルを暗号化します。システムは毎日、新しい暗号化鍵を持つ新しいファイルを作成します。Cisco CallManager はファイルを 7 日間保存し、また安全な場所でファイルを暗号化する鍵も保存します。Cisco CallManager は /var/pktCap にファイルを保存します。単一のファイルには、タイムスタンプ、送信元 IP アドレス、送信元 IP ポート、宛先 IP アドレス、パケット プロトコル、メッセージ長、およびメッセージが含まれます。TAC デバッグ ツールは、HTTPS、管理者のユーザ名とパスワード、および指定日を使用して、キャプチャされたパケットを含む単一の暗号化されたファイルを要求します。さらに鍵情報も要求し、暗号化されたファイルを復号化します。</li> </ul> <p>TAC に連絡する前に、該当するデバイス間で sniffer トレースを使用して、SRTP パケットをキャプチャする必要があります。</p> <p></p> <hr/> <p><b>ヒント</b> パケット キャプチャリングの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
Packet Capture Duration	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。</p> <p>このフィールドには、パケット キャプチャリングの 1 つのセッションに割り当てる最大分数を指定します。デフォルト設定は 0 です。ただし、0 ~ 300 分の範囲で指定できます。</p> <p>パケット キャプチャリングを開始するには、このフィールドに 0 以外の値を入力します。パケット キャプチャリングの完了後、0 が表示されます。</p> <p></p> <hr/> <p><b>ヒント</b> パケット キャプチャリングの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Media Termination Point Required	<p>常に MTP を使用するように Cisco CallManager SIP トランクを設定できません。発信 INVITE 要求でメディア チャネル情報を提供するには、このボックスをオンにします。このボックスをオンにすると、すべてのメディア チャネルが MTP デバイス上で終了して再開するよう要求されます。このチェックボックスをオフにすると、コールが MTP デバイスを通過するか、エンドポイント間で直接接続されるかを、Cisco CallManager が決定できます。</p> <p> (注) オフ (デフォルト) である場合、コール レッグの DTMF 方式に互換性がないと、Cisco CallManager は MTP を動的に割り当てようとしています。</p> <p>たとえば、既存の SCCP 電話機がアウトオブバンド DTMF だけをサポートしており、既存の SIP 電話機が RFC2833 をサポートしているとします。DTMF 方式が同じでないため、Cisco CallManager は MTP を動的に割り当てます。ただし、RFC2833 とアウトオブバンドをサポートする新しい SCCP 電話機が既存の SIP 電話機をコールする場合は、両方の電話機が RFC2833 をサポートしているため、Cisco CallManager は MTP を割り当てません。したがって、各電話機で同じタイプの DTMF 方式がサポートされるようにすることにより、MTP は不要になります。</p>
Retry Video Call as Audio	<p>このチェックボックスは、発信 SIP トランク コールに適用されますが、着信コールには影響を及ぼしません。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。このデバイスは、ビデオ コールをコール制御に送信して再ルーティングする直前に、オーディオ コールとして (ビデオ コールとして接続できない場合) そのビデオ コールをリトライします。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続に失敗したビデオ コールは、オーディオ コールとしての確立を試行しません。この場合、コールはコール制御に失敗し、コール制御は Automatic Alternate Routing (AAR) およびルート / ハント リスト経由でコールをルーティングします。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Transmit UTF-8 for Calling Party Name	<p>このデバイスは、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信側デバイスでは、このチェックボックスをオンにすると、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>着信側デバイスは、送信側デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信 Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、電話機に文字が表示されます。</p> <p> (注) トランクの両端で設定されたユーザ ロケールが同じ原語グループに属していない場合、電話機には不適切な文字が表示されることがあります。</p> <p>Transmit UTF-8 for Calling Party Name チェックボックスのデフォルト値はオフです。</p>
Unattended Port	<p>コールを不在ポート (ボイスメール ポートなど) にリダイレクトおよび転送できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスのデフォルト値はオフです。</p>
<b>Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報</b>	
MLPP Domain	<p>ドロップダウン リストから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。このフィールドをブランクのままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。</p> <p>MLPP Domain のデフォルト値は None です。</p>
<b>コール ルーティング情報</b>	
<b>着信コール</b>	
Significant Digits	<p>有効数字は、着信コールで保持される最終数字の桁数を表します。このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。SIP デバイスに着信するコールのルーティングに使用される数字の桁数を指定します。</p> <p>収集する有効数字の桁数 (0 ~ 32) を選択するか、または All を選択します。</p> <p> (注) Cisco CallManager は、コールされた番号の右側 (最後の桁) から有効数字をカウントします。</p> <p>Significant Digits のデフォルト値は All です。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Connected Line ID Presentation	<p>Cisco CallManager は、接続された側の番号を発信側に提供するために、補足サービスとして Connected Line ID Presentation (COLP) を使用します。SIP トランク レベルの設定は、call-by-call 設定に優先します。</p> <p>Connected Line ID Presentation のデフォルト値は Default で、これは Allowed に変換されます。接続された回線の情報を Cisco CallManager が送信するようにする場合は、Default を選択します。</p> <p>接続された回線の情報を Cisco CallManager が送信しないようにする場合は、Restricted を選択します。</p>
Connected Name Presentation	<p>Cisco CallManager は、接続された側の名前を発信側に提供するために、補足サービスとして Connected Name ID Presentation (CONP) を使用します。SIP トランク レベルの設定は、call-by-call 設定に優先します。</p> <p>Connected Name Presentation のデフォルト値は Default で、これは Allowed に変換されます。接続された名前情報を Cisco CallManager が送信するようにする場合は、Default を選択します。</p> <p>接続された名前情報を Cisco CallManager が送信しないようにする場合は、Restricted を選択します。</p>
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なトランクのコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、収集された(発信)番号のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで設定された数よりもコーリングサーチスペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリングサーチスペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリングサーチスペースのリストで、希望するコーリングサーチスペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System &gt; Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p> <p>Calling Search Space のデフォルト値は None です。</p>
AAR Calling Search Space	<p>自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された(発信)番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p> <p>AAR Calling Search Space のデフォルト値は None です。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Prefix DN	<p>着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、まず、Significant Digits 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>
Redirecting Diversion Header Delivery - Inbound	<p>Cisco CallManager に対する受信 INVITE メッセージの Redirecting Number を受理するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco CallManager に対する受信 INVITE メッセージの Redirecting Number を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p>Redirecting Number IE Deliver - Inbound のデフォルト値はオフです。</p>
<b>発信コール</b>	
Calling Party Selection	<p>発信コールで送信される電話番号を選択します。</p> <p>次のオプションは、どの電話番号が送信されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Originator : 発信側デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• First Redirect Number : 転送デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• Last Redirect Number : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• First Redirect Number (External) : リダイレクト元のデバイスの外部電話番号を送信します。</li> <li>• Last Redirect Number (External) : コールをリダイレクトする最後のデバイスの外部電話番号を送信します。</li> </ul> <p>Calling Party Selection のデフォルト値は Originator です。</p>
Calling Line ID Presentation	<p>Cisco CallManager は、発信側の番号を提供するために、補足サービスとして Calling Line ID Presentation (CLIP) を使用します。SIP トランクレベルの設定は、call-by-call 設定に優先します。</p> <p>Calling Line ID Presentation のデフォルト値は Default で、これは Allowed に変換されます。発信側番号情報を Cisco CallManager が送信するようにする場合は、Default を選択します。</p> <p>発信側番号情報を Cisco CallManager が送信しないようにする場合は、Restricted を選択します。</p>
Calling Name Presentation	<p>Cisco CallManager は、発信側の名前を提供するために、補足サービスとして Calling Name ID Presentation (CNIP) を使用します。SIP トランクレベルの設定は、call-by-call 設定に優先します。</p> <p>発信側名前情報を Cisco CallManager が送信するようにする場合は、Allowed を選択します。Allowed がデフォルトです。</p> <p>発信側名前情報を Cisco CallManager が送信しないようにする場合は、Restricted を選択します。</p> <p>Calling Name Presentation のデフォルト値は Default です。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Caller ID DN	<p>トランクからの発信コールで、発信者 ID をフォーマットするのに使用するパターンを、0 ~ 24 桁で入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>555XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号を表します。この番号が指定されていない場合、セントラル オフィス (CO) は、エリアコードと共にこの番号を追加します。</li> <li>5555000 = 固定発信者 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。</li> </ul>
Caller Name	<p>発信元の SIP デバイスから受信した発信者名を上書きするには、このボックスをオンにします。</p>
Redirecting Diversion Header Delivery - Outbound	<p>Call Forward が発生したときに、コールの最初の着信側番号および転送理由を示すために、Cisco CallManager からの Redirecting Number を送信 INVITE メッセージに含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>送信 INVITE メッセージから最初の転送番号と転送理由を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p>Redirecting Number IE Delivery - Outbound のデフォルト値はオフです。</p>
<b>SIP 情報</b>	
Destination Address	<p>このフィールドには、リモート SIP デバイスの IP アドレス、Fully Qualified Domain Name (FQDN; 完全修飾ドメイン名) または Domain Name System Server (DNS SRV; ドメイン ネーム システム サーバ) アドレスを指定します。また、このフィールドによって着信コールがルーティングされます。</p> <p></p> <p><b>(注)</b> SIP トランクは、Destination Address フィールドに指定されているホストからの着信メッセージ、およびそのトランクが使用したセキュリティ プロファイルに指定されている着信ポートからの着信メッセージだけを受け入れます。Destination Address フィールドのホスト値には、IP アドレス、DNS SRV、または FQDN エントリを指定できます。</p> <p>リモートエンドが Cisco CallManager クラスタである場合、このフィールドには DNS SRV を指定することをお勧めします。DNS SRV レコードには、クラスタ内のすべての Cisco CallManager が含まれている必要があります。</p>
Destination Address is an SRV	<p>宛先アドレスに DNS SRV アドレスを指定する場合に、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Destination Address is an SRV のデフォルト値はオフです。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Destination Port	<p>宛先ポートを選択します。このフィールドには、必ず 1024 ~ 65535 の範囲でポートを指定してください。</p> <p> (注) 複数のトランクに同じポート番号を指定できるようになりました。</p> <p>宛先アドレスが DNS SRV ポートの場合、値を入力する必要はありません。デフォルトの 5060 は SIP ポートを示します。</p> <p>Destination Port のデフォルト値は 5060 です。</p>
MTP Preferred Originating Codec	<p>任意の発信コーデックを指定します。</p> <p>このフィールドは、MTP Termination Point Required チェックボックスがオンの場合にだけ使用されます。</p>
Presence Group	<p>このフィールドには、プレゼンス機能を設定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、SIP トランク用のプレゼンス グループを選択します。選択したグループにより、SIP トランクに接続されているデバイス、アプリケーション、またはサーバが監視できる対象が指定されます。</p> <p>Presence Group のデフォルト値は、インストール時に設定された Standard プレゼンス グループです。Cisco CallManager Administration で設定されたプレゼンス グループもドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>プレゼンス認可は、プレゼンス グループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。グループ間で権限を設定する方法については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。</p> <p> <b>ヒント</b> プレゼンス グループは、SIP トランクに適用することも、SIP トランクに接続されているアプリケーションに適用することもできます。プレゼンス グループが SIP トランクと SIP トランク アプリケーションの両方に設定されている場合、アプリケーションに適用されているプレゼンス グループが、トランクに適用されているプレゼンス グループを上書きします。</p>
SIP Trunk Security Profile	<p>この必須エントリに対して、ドロップダウン リスト ボックスから、SIP トランクに適用するセキュリティ プロファイルを選択します。セキュリティ プロファイルを設定する方法については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p> <p>SIP Trunk Security Profile のデフォルト値は Not Selected です。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Rerouting Calling Search Space	<p>コーリング サーチ スペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索できるパーティションが決まります。再ルーティング コーリング サーチ スペースは、SIP ユーザ (A) が別のユーザ (B) をサードパーティ (C) に転送するときの対象場所を決める場合に使用されます。転送の完了後、B と C が接続されます。この場合、使用される再ルーティング コーリング サーチ スペースは、最初の SIP ユーザ (A) のものです。</p> <p> <b>(注)</b> コーリング サーチ スペースは、3xx リダイレクション機能および INVITE with Replaces 機能にも適用されます。</p> <p>Rerouting Calling Search Space のデフォルト値は None です。</p>
Out-of-Dialog Refer Calling Search Space	<p>コーリング サーチ スペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索できるパーティションが決まります。out-of-dialog コーリング サーチ スペースは、SIP ユーザ (A) の介入がない場合に Cisco CallManager が SIP ユーザ (A) に着信するコール (B) をサードパーティ (C) に転送するとき使用されます。この場合、システムが使用する out-of-dialog コーリング サーチ スペースは、SIP ユーザ (A) のものです。</p> <p>Out-of-Dialog Refer Calling Search Space のデフォルト値は None です。</p>
SUBSCRIBE Calling Search Space	<p>プレゼンス機能でサポートされている SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースによって、Cisco CallManager が、SIP トランクに接続するデバイス、サーバ、またはアプリケーションからのプレゼンス要求をルーティングする方法が決まります。この設定により、SIP トランクのプレゼンス (SUBSCRIBE) 要求に対して、コール処理サーチ スペースとは別のコーリング サーチ スペースを適用できます。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、SIP トランクのプレゼンス要求に使用する SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを選択します。Cisco CallManager Administration で設定したすべてのコーリング サーチ スペースが、SUBSCRIBE Calling Search Space ドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>ドロップダウン リストから、SIP トランク用に別のコーリング サーチ スペースを選択しない場合、SUBSCRIBE Calling Search Space はデフォルトで None になります。</p> <p>特にこの目的のために SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを設定するには、すべてのコーリング サーチ スペースを設定するときと同様に、コーリング サーチ スペースを設定します。コーリング サーチ スペースを設定する方法については、P.43-1 の「<a href="#">コーリング サーチ スペースの設定</a>」を参照してください。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
SIP Profile	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、この SIP トランクに使用する SIP プロファイルを選択します。</p> <p>SIP Profile のデフォルト値は None Selected です。</p>
DTMF Signaling Method	<p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <p>No Preference (デフォルト): Cisco CallManager が DTMF 方式を選択して DTMF をネゴシエートします。したがって、コールに MTP は不要です。Cisco CallManager が MTP を割り当てる必要がある場合 (Media Termination Point Required チェックボックスがオンである場合)、SIP トランクは DTMF として RFC2833 をネゴシエートします。</p> <p>RFC 2833: トランクで使用される優先 DTMF 方式を RFC2833 にする場合は、この設定を選択します。Cisco CallManager は、MTP を使用するかどうかに関わらず、できる限り RFC2833 をネゴシエートしようとします。アウトオブバンドは、ピア エンドポイントがアウトオブバンドをサポートしている場合のフォールバック方式を提供します。</p> <p>OOB and RFC 2833: DTMF にアウトオブバンドと RFC2833 の両方を使用する必要がある場合は、この設定を選択します。</p> <p> (注) ピア エンドポイントがアウトオブバンドと RFC2833 の両方をサポートしている場合、Cisco CallManager はアウトオブバンドと RFC2833 の両方の DTMF 方式をネゴシエートします。その結果、同一の DTMF キーを押した場合に 2 つの DTMF イベントが送信されます (1 つはアウトオブバンド、もう 1 つは RFC2833)。</p>

## 追加情報

P.71-30 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## トランクの削除

トランクを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

1 つまたは複数のルート パターンに割り当てられているトランクは、削除できません。トランクを使用しているルート パターンを検索するには、Trunk Configuration ウィンドウで Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。

Dependency Records がシステムで使用可能でない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されているトランクを削除しようとする、Cisco CallManager はメッセージを表示します。現在使用されているトランクを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するトランクを使用しているルート パターンすべてに、別のトランクを割り当てる。[P.35-4 の「ルート パターンの設定」](#)を参照してください。
- 削除するトランクを使用しているルート パターンを削除する。[P.35-13 の「ルート パターンの削除」](#)を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** Device > Trunk の順に選択します。

Find and List Trunks ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 検索条件を入力し、**Find** をクリックして、特定のトランクを見つけます。

検索条件と一致するトランクのリストが表示されます。

**ステップ 3** 次のアクションのいずれかを実行します。

- 削除するトランクの横にあるチェックボックスをオンにし、**Delete Selected** をクリックする。
- **Select All** をクリックしてから **Delete Selected** をクリックし、ウィンドウ内のすべてのトランクを削除する。
- 削除するトランクの名前をリストから選択して、現在の設定値を表示し、**Delete** をクリックする。

確認ダイアログが表示されます。

**ステップ 4** **OK** をクリックして、トランクを削除します。

---

### 追加情報

[P.71-30 の「関連項目」](#)を参照してください。

## トランクのリセット

トランクをリセットする手順は、次のとおりです。



注意

デバイスをリセットすると、そのデバイスのコールが欠落することがあります。

### 手順

**ステップ 1** Device > Trunk の順に選択します。

Find and List Trunks ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 検索条件を入力し、Find をクリックして、特定のトランクを見つけます。

検索条件と一致するトランクのリストが表示されます。

**ステップ 3** リストから、リセットするトランクの名前をクリックします。

Trunk Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** トランク デバイスの設定値を変更した後に、Reset Trunk をクリックします。

Device Reset ダイアログが表示されます。

**ステップ 5** 次のいずれかの項目をクリックします。

- **Restart** : トランク デバイスをシャットダウンしないで再起動する。
- **Reset** : 内部トランク デバイスをシャットダウンしてから再起動する。トランクがゲートキーパーによって制御されている場合、Cisco CallManager クラスタは、トランクへの登録を解除 (URQ) した後、再登録 (RRQ) します。
- **Close** : 何も実行しないで、Reset Device ダイアログを閉じる。



(注)

SIP トランクの場合、Restart と Reset は同様に動作し、どちらをクリックしてもすべてのアクティブ コールが接続解除されます。パケット キャプチャを使用可能または使用不可にする場合は、トランクに対して Restart も Reset も実行する必要はありません。

### 追加情報

P.71-30 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [トランクの検索 \(P.71-2\)](#)
- [トランクの設定 \(P.71-3\)](#)
- [トランクの設定値 \(P.71-5\)](#)
- [トランクの削除 \(P.71-28\)](#)
- [トランクのリセット \(P.71-29\)](#)
- [SIP プロファイルの設定 \(P.79-3\)](#)
- [SIP トランクのセキュリティ プロファイルの設定](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「コール アドミッション制御」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ゲートキーパーとトランク」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager 内でのゲートキーパーとトランクの設定」
- [Cisco CallManager セキュリティ ガイド](#)
- [Cisco IP テレフォニー ソリューション リファレンス ネットワーク デザイン \(SRND\)](#)



## デバイス デフォルトの設定

デバイス デフォルトの設定では、Cisco CallManager に登録するデバイスの各タイプのデフォルト特性を設定します。デバイス タイプに対するデバイス デフォルトは、Cisco CallManager クラスタ内にあるそのタイプの自動登録デバイスすべてに適用されます。各デバイス タイプに適用される設定は、次のデバイス デフォルトで設定します。

- デバイス ロード
- Device pool (デバイス プール)
- 電話ボタン テンプレート

デバイスは、Cisco CallManager に自動登録されるときに、そのデバイス タイプに該当するデバイス デフォルト設定値を取得します。デバイスが登録された後で、個々のデバイスのコンフィギュレーションを更新して、そのデバイス設定を変更することもできます。

Cisco CallManager をインストールすると、デバイス デフォルトが自動的に設定されます。デバイス デフォルトの新規作成も、既存のデバイス デフォルトの削除もできませんが、デバイス デフォルト設定値を変更することは可能です。

ここでは、次の内容について説明します。

- [デバイス デフォルトの更新 \(P.72-2\)](#)
- [デバイス デフォルトの設定値 \(P.72-3\)](#)

## デバイス デフォルトの更新

Cisco CallManager 設定データベース内のデバイス デフォルトを変更する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

デバイス デフォルトを更新する場合は、事前に、お使いのシステムに該当する次のいずれかの作業を行ってください。

- デバイス用の新しいファームウェア ファイルを TFTP サーバに追加する。
- ディレクトリ内に存在しないファームウェア ロードの割り当てにデバイス デフォルトを使用すると、それらのデバイスは割り当てられたファームウェアのロードに失敗します。
- 新しいデバイス プールを設定する。P.9-4 の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。
- デバイスが電話機の場合は、新しい電話テンプレートを設定する。P.76-4 の「[電話ボタン テンプレートの設定](#)」を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** Device > Device Settings > Device Defaults の順に選択します。

**ステップ 2** 変更するデバイスに該当する設定値を更新します (表 72-1 を参照)。

**ステップ 3** Save をクリックして、Cisco CallManager 設定データベースに変更内容を保存します。

**ステップ 4** デバイス名の左側にある Reset アイコンをクリックして、そのタイプのすべてのデバイスをリセットし、クラスタ内のすべての Cisco CallManager に新しいデフォルトをロードします。

そのタイプのデバイスすべてをリセットしない場合は、デバイス デフォルトの変更後に追加された新しいデバイスだけが、最新のデフォルトを受け取ります。

---

### 追加情報

P.72-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## デバイス デフォルトの設定値

表 72-1 では、デバイス デフォルトの設定値について説明します。関連手順の詳細については、P.72-4 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 72-1 デバイス デフォルトの設定値

フィールド名	説明
Load Information	ハードウェア デバイスの特定のタイプで使用されるファームウェア ロードの ID 番号を入力します。アップグレード ロードまたはパッチ ロードをインストールする場合は、新しいロードを使用するデバイスのタイプごとに、ロード情報を更新する必要があります。
Device Pool	デバイスの各タイプに関連したデバイス プールを選択します。デバイス プールは、そのプール内のすべてのデバイスに対して、共通の特性を指定します。
Phone Template	Cisco IP Phone の各タイプが使用する電話ボタン テンプレートを選択します。このテンプレートは、電話機上のキーの機能を指定します。

## 関連項目

- [デバイス デフォルトの更新 \(P.72-2\)](#)
- [デバイス デフォルトの設定値 \(P.72-3\)](#)
- [デフォルト以外のファームウェア ロードを使用するデバイスの検索 \(P.73-2\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「デバイス ファームウェア ロード」



## デバイス ファームウェア ロード情報

---

デバイス タイプにデフォルトのファームウェア ロードを使用しないデバイスを特定するには、デバイス ファームウェア ロード情報を使用します。

## デフォルト以外のファームウェア ロードを使用するデバイスの検索

Cisco CallManager Administration の Firmware Load Information ウィンドウを使用すると、デバイス タイプにデフォルトのファームウェア ロードを使用しないデバイスを、すばやく特定することができます。



(注) 各デバイスには、デフォルトを上書きするファームウェア ロードを個別に割り当てることができます。

デフォルトのファームウェア ロードを使用しないデバイスを特定する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** Device > Device Settings > Firmware Load Information の順に選択します。

ページが更新され、ファームウェア ロードを必要とするデバイス タイプのリストが表示されます。デバイス タイプごとに、Devices Not Using Default Load 列が、デフォルト以外のロードを使用するデバイスの設定値にリンクします。

**ステップ 2** Devices Not Using Default Load 列をクリックして、デフォルト以外のデバイス ロードを使用するデバイスのリストを表示します。

---



# デフォルト デバイス プロファイルの設定

ユーザ デバイス プロファイルが存在しない電話機のモデルにユーザがログインするときはいつでも、デフォルト デバイス プロファイルを使用します。Cisco エクステンション モビリティをサポートする各電話機のモデルのデフォルト デバイス プロファイルを作成するには、Default Device Profile Configuration ウィンドウを使用します。デフォルト デバイス プロファイルの最大数は、Cisco CallManager エクステンション モビリティをサポートする電話機のモデルの数を超えることはできません。

たとえば、ユーザ デバイス プロファイルのある Cisco IP Phone モデル 7960 に、ユーザがログインします。ユーザのユーザ デバイス プロファイルは、ユーザがログインした電話機にダウンロードされます。後で、同じユーザが、そのユーザのユーザ デバイス プロファイルのない Cisco IP Phone モデル 7940 にログインします。このような場合に、モデル 7940 用のデフォルト デバイス プロファイルが電話機にダウンロードされます。

デフォルト デバイス プロファイルは、特定のデバイスに関連付けられている一連の属性（サービスや機能）から構成されます。デバイス プロファイルには、デバイス タイプ、ユーザ ロケール、電話ボタン テンプレート、ソフトキー テンプレート、Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報、および Cisco IP Phone サービスが含まれます。

## 新しいデフォルト デバイス プロファイルの設定

デフォルト デバイス プロファイルには、デバイス タイプ、電話テンプレート、ユーザ ロケール、拡張モジュール、ソフトキー テンプレート、MLPP 情報、および登録済み Cisco IP Phone サービスなどの属性が含まれます。デフォルト デバイス プロファイルを追加または更新する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** Device > Device Settings > Default Device Profile の順に選択します。

Default Device Profile Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。

- 新しいプロファイルを追加する場合は、Device Profile Type ドロップダウン リスト ボックスから、追加するデバイスのタイプを選択し、Next をクリックして、[ステップ 3](#)に進みます。
- 既存のプロファイルを更新する場合は、Default Device Profile ペインから、更新するデバイス プロファイルをクリックします。Default Device Profile Configuration ウィンドウに、選択したプロファイルのプロファイル情報が表示されます。[ステップ 3](#)に進みます。

**ステップ 3** プロファイルに適切な設定値を入力します ( [表 74-1](#) を参照 )。

**ステップ 4** Save をクリックします。

**ステップ 5** このプロファイルに Cisco IP Phone サービスを追加するには、Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **Subscribe/Unsubscribe Services** を選択し、Go をクリックします。

Subscribe Cisco IP Phone services ウィンドウが表示されます。

**ステップ 6** Select a Service ドロップダウン リスト ボックスから、プロファイルに追加するサービスを選択します。

**ステップ 7** Next をクリックします。

選択したサービスが、ウィンドウに表示されます。別のサービスを選択する場合は、Back をクリックし、[ステップ 6](#)を繰り返します。

**ステップ 8** Subscribe をクリックします。

サービスが Subscribed Services リストに表示されます。

---

### 追加情報

[P.74-6](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## デフォルト デバイス プロファイルの設定値

表 74-1 では、Default Device Profile Configuration ウィンドウ内で使用可能なフィールドについて説明します。

表 74-1 デフォルト デバイス プロファイルの設定値

フィールド	説明
<b>デフォルト デバイス プロファイル情報</b>	
Description	デフォルト デバイス プロファイル設定の説明を入力します。
User Hold Audio Source	<p>ユーザが保留操作を開始するときに再生されるオーディオ ソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックし、表示されるリストからオーディオ ソースを選択します。</p> <p>オーディオ ソースを選択しない場合、Cisco CallManager は、デバイス プールに定義されているオーディオ ソースを使用します。または、デバイス プールがオーディオ ソース ID を指定していない場合は、システム デフォルトを使用します。</p> <p> (注) オーディオ ソースの定義は、Music On Hold Audio Source Configuration ウィンドウで行います。このウィンドウにアクセスするには、<b>Media Resources &gt; Music On Hold Audio Source</b> の順に選択してください。</p>
User Locale	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、その電話機ユーザ インターフェイスに関連したロケールを選択します。そのユーザ ロケールは、言語とフォントを含んだ、ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。</p> <p>Cisco CallManager は、ローカリゼーションをサポートする電話機モデルに対してのみ、このフィールドを使用可能にします。</p> <p> (注) ユーザ ロケールが指定されない場合、Cisco CallManager はデバイス プールに関連付けられているユーザ ロケールを使用します。</p> <p> (注) 英語以外の言語で情報を (電話機に) 表示することをユーザが要求している場合は、ユーザ ロケールを設定する前に、ロケール インストーラがインストールされていることを確認します。Cisco IP Telephony Locale Installer の資料を参照してください。</p>
Privacy	<p>プライバシーを必要とする各電話機について、ドロップダウン リスト ボックスから <b>On</b> を選択します。設定の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>

表 74-1 デフォルト デバイス プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
Ignore Presentation Indicators (internal calls only)	<p>コール表示制限を設定して、内部コールが受信するすべての表示制限を無視するには、Ignore Presentation Indicators (internal calls only) チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) この設定は、変換パターンレベルで発信側の回線 ID 表示と接続側の回線 ID 表示の設定を組み合わせで使用してください。同時に、これらの設定値では、コール表示制限を設定して、各コールに対して発信側の回線または接続側の回線の表示情報を選択的に表示、またはブロックできます。コール表示制限の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Call Display Restrictions 機能」を参照してください。</p>
Allow Control of Device from CTI	CTI がこのデバイスを制御および監視できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
<b>電話ボタン テンプレート情報</b>	
Phone Button Template	適切な電話ボタン テンプレートを選択します。電話ボタン テンプレートは、電話機上のボタンの設定を決定し、各ボタンに使用される機能（回線、短縮ダイヤルなど）を指定します。
<b>ソフトキー テンプレート情報</b>	
Softkey Template	適切なソフトキー テンプレートを選択します。ソフトキー テンプレートは、Cisco IP Phone におけるソフトキーの設定を決定します。割り当て済みのソフトキー テンプレートがデバイス プールに含まれている場合、このフィールドはブランクのままにします。
<b>拡張モジュール情報</b>	
Module 1	14 個のボタンをもつ 7914 拡張モジュールを選択するか、または何も選択しません。
Module 2	14 個のボタンをもつ 7914 拡張モジュールを選択するか、または何も選択しません。
<b>Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報</b>	
MLPP Domain (たとえば、「0000FF」)	ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインを選択します。

表 74-1 デフォルト デバイス プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
MLPP Indication	<p>優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから設定を選択して、このデフォルト デバイス プロファイルを使用するデバイスに割り当てます。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Default</b> : このデバイスは、デバイス プールから MLPP Indication 設定を引き継ぎます。</li> <li>• <b>Off</b> : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。</li> <li>• <b>On</b> : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。</li> </ul> <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせで、デフォルト デバイス プロファイルを設定することはできません。</p> <p> (注) エンタープライズ パラメータ、デバイス プール、またはデバイス レベルで MLPP Indication をオンにすると、MLPP Indication をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の Ring Setting が動作しません。</p>
MLPP Preemption	<p>進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから設定を選択して、このデフォルト デバイス プロファイルを使用するデバイスに割り当てます。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Default</b> : このデバイスは、デバイス プールから MLPP Preemption 設定を引き継ぎます。</li> <li>• <b>Disabled</b> : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しないようにします。</li> <li>• <b>Forceful</b> : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。</li> </ul> <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせで、デフォルト デバイス プロファイルを設定することはできません。</p>
<b>ログアウト (デフォルト) プロファイル情報</b>	
Login User Id	<p>有効なログイン ユーザ ID を入力します。</p> <p>ログアウト プロファイルとしてユーザ デバイス プロファイルが使用される場合、その電話機に関連付けられるログイン ユーザ ID を指定します。ユーザがこのユーザ デバイス プロファイルからログアウトした後では、その電話機はこのログイン ユーザ ID に自動的にログインされます。</p>

## ■ デフォルト デバイス プロファイルの削除

## 追加情報

P.74-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## デフォルト デバイス プロファイルの削除

デフォルト デバイス プロファイルを削除する手順は、次のとおりです。

## 手順

---

**ステップ 1** Device > Device Settings > Default Device Profile の順に選択します。

**ステップ 2** Default Device Profile ペインから、削除するデバイス プロファイルをクリックします。

Default Device Profile Configuration ウィンドウに、選択したプロファイルのプロファイル情報が表示されます。

**ステップ 3** Delete をクリックします。

この操作を実行すると取り消すことができないことを確認するメッセージが表示されます。

**ステップ 4** デフォルト デバイス プロファイルを削除するには、OK をクリックします。削除操作を取り消すには、Cancel をクリックします。

---

## 追加情報

P.74-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## サービスのデフォルト デバイス プロファイルへの登録

Cisco CallManager エクステンション モビリティのようなサービスをデフォルト デバイス プロファイルに登録するには、P.78-4 の「[Cisco IP Phone サービスの設定](#)」を参照してください。

## 追加情報

P.74-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

デフォルト デバイス プロファイルの設定と更新を行うには、次のトピックを参照してください。

- [新しいデフォルト デバイス プロファイルの設定 \(P.74-2\)](#)
- [デフォルト デバイス プロファイルの削除 \(P.74-6\)](#)
- [サービスのデフォルト デバイス プロファイルへの登録 \(P.74-6\)](#)
- [デフォルト デバイス プロファイルの設定値 \(P.74-3\)](#)



## デバイス プロファイルの設定

デバイス プロファイルは、特定のデバイスに関連付けられている一連の属性（サービスや機能）から構成されます。デバイス プロファイルには、名前、説明、電話テンプレート、アドオン モジュール、ソフトキー テンプレート、Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報、電話番号、登録済みサービス、短縮ダイヤル情報などが含まれています。デバイス プロファイルには、自動生成とユーザの 2 種類があります。ユーザにユーザ デバイス プロファイルを割り当てると、ユーザがデバイスにログインしたときに、そのユーザに割り当てたユーザ デバイス プロファイルが、デフォルト ログイン デバイス プロファイルとしてそのデバイスにロードされます。ユーザ デバイス プロファイルが電話機にロードされると、電話機はそのデバイス プロファイルの属性を使用します。

ユーザ デバイス プロファイルは、特定のデバイスのデフォルト ログアウト デバイス プロファイルとして割り当てることができます。たとえば、ユーザが電話機からログアウトすると、ログアウト デバイス プロファイルが電話機にロードされ、ログアウト デバイス プロファイルの属性がその電話機に指定されます。Cisco CallManager Administration ウィンドウで、ユーザ デバイス プロファイルの作成、変更、削除を実行できます。ユーザ デバイス プロファイルがログアウト デバイス プロファイルとして使用されている場合は、ユーザ デバイス プロファイルを削除できません。

特殊なデバイス プロファイルである自動生成デバイス プロファイルは、Cisco CallManager エクステンション モビリティ用に電話機を設定して、Phone Configuration ウィンドウで「Use Current Settings」を選択した場合に生成されます。自動生成デバイス プロファイルは、ログアウト デバイス プロファイルとして特定の電話機に関連付けられます。

Cisco CallManager は、デバイス プロファイル デフォルトもサポートしています。ユーザ デバイス プロファイルが存在しない電話機のモデルにユーザがログインするときはいつでも、デバイス プロファイル デフォルトを使用します。Cisco エクステンション モビリティをサポートする各電話機のモデルのデバイス プロファイル デフォルトを作成するには、Device Profile Default Configuration ウィンドウを使用します。デバイス プロファイル デフォルトの最大数は、Cisco CallManager エクステンション モビリティをサポートする電話機のモデルの数を超えることはできません。デバイス プロファイル デフォルトの詳細については、P.74-1 の「[デフォルト デバイス プロファイルの設定](#)」を参照してください。

デバイス プロファイルの検索と設定をするには、次のトピックを参照してください。

- [デバイス プロファイルの検索 \(P.75-2\)](#)
- [新規ユーザ デバイス プロファイルの設定 \(P.75-3\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルの削除 \(P.75-7\)](#)
- [自動生成されたデバイス プロファイルの更新 \(P.75-8\)](#)
- [電話番号の設定の概要 \(P.49-2\)](#)
- [電話番号の設定値 \(P.49-9\)](#)

## デバイス プロファイルの検索

Find and List Device Profile ウィンドウを使用して、デバイス プロファイルを検索する手順は、次のとおりです。Find and List 検索機能を使用すると、ユーザ デバイス プロファイル、自動生成デバイス プロファイル、または両方のタイプのプロファイルを検索することができます。この機能は、次のカテゴリに基づいて、あらゆるタイプのデバイス プロファイルを検索します。

- Profile name (プロファイル名)
- Description (説明)
- Device Type (デバイス タイプ)

### 手順

---

**ステップ 1** Device > Device Settings > Device Profile の順に選択します。

Find and List Device Profile ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ドロップダウン リスト ボックスから、表示するデバイス プロファイルのタイプを特定するための検索テキストを選択し、Find をクリックします。



(注) データベースに登録されているデバイス プロファイルをすべて検索するには、テキストを入力せずに Find をクリックします。

---

ウィンドウの内容が更新され、検索条件と一致するデバイス プロファイルが表示されます。

**自動生成デバイス プロファイルまたはユーザ デバイス プロファイルに進む場合：**

**ステップ 3** Find ドロップダウン リスト ボックスから User、Autogenerated、または All を選択し、Find をクリックします。

**ステップ 4** 検索条件と一致するレコードのリストから、ユーザ デバイス プロファイルまたは自動生成デバイス プロファイルを選択します。

**デバイス プロファイルを削除する場合：**

**ステップ 5** 複数のデバイス プロファイルを一度に削除するには、最初の列にあるチェックボックスを使用します。リスト内の最初のチェックボックスをオンにして、Delete Selected をクリックします。また、個々のユーザ デバイス プロファイルを選択して、別々に削除することもできます。



(注) 自動生成デバイス プロファイルは削除できません。ユーザ デバイス プロファイルは、電話機がログアウト プロファイルとして使用している場合は、削除できません。

---

### 追加情報

P.75-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 新規ユーザ デバイス プロファイルの設定

ユーザ デバイス プロファイルには、デバイス プロファイル名、説明、電話テンプレート、ユーザ ロケール、拡張モジュール、ソフトキー テンプレート、MLPP 情報、電話番号、登録済みのサービス、および短縮ダイヤル情報などの属性が入っています。ユーザ デバイス プロファイルを追加または更新する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

電話ボタン テンプレートが設定済みであることを確認してから手順に進んでください。詳細については、P.76-4 の「電話ボタン テンプレートの設定」を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** Device > Device Settings > Device Profile の順に選択します。

Find and List Device Profile ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。

- 新しいデバイス プロファイルを追加する場合は、Add New ボタンをクリックします。User Device Profile Configuration ウィンドウが表示されます。ステップ 3 に進みます。
- 既存のユーザ デバイス プロファイルを更新する場合は、適切なデバイス プロファイルを見つけ (P.75-2 の「デバイス プロファイルの検索」を参照) ステップ 5 に進みます。



**(注)** ユーザ デバイス プロファイルを更新する前に、更新するデバイス プロファイルが Cisco CallManager に設定されていることを確認してください。

**ステップ 3** Device Profile Type ドロップダウン リスト ボックスから、デバイス タイプを選択します。Next をクリックします。

**ステップ 4** Select the device profile protocol ドロップダウン リスト ボックスから、デバイス プロファイルのプロトコルを選択します。Next をクリックします。

**ステップ 5** User Device Profile Name フィールドに、固有の名前を入力します。この名前には、最長 50 文字まで指定できます。

**ステップ 6** Description フィールドに、このユーザ デバイス プロファイルの説明を入力します。この特定のユーザ デバイス プロファイルを説明する内容を入力してください。

**ステップ 7** ユーザが保留操作を開始するときに再生されるオーディオ ソースを指定するには、User Hold Audio Source ドロップダウン リスト ボックスからオーディオ ソースを選択します。

オーディオ ソースを選択しない場合、Cisco CallManager は、デバイス プールに定義されているオーディオ ソースを使用します。または、デバイス プールがオーディオ ソース ID を指定していない場合は、システム デフォルトを使用します。



(注) オーディオソースの定義は、Music On Hold Audio Source Configuration ウィンドウで行います。このウィンドウにアクセスするには、Media Resources > Music On Hold Audio Source の順に選択してください。

**ステップ 8** User Locale ドロップダウン リストから、そのデバイスで表示する言語を選択します。

**ステップ 9** コール表示制限を設定して、内部コールが受信するすべての表示制限を無視するには、Ignore Presentation Indicators (internal calls only) チェックボックスをオンにします。



(注) この設定は、変換パターンレベルで発信側の回線 ID 表示と接続側の回線 ID 表示の設定を組み合わせで使用してください。同時に、これらの設定値では、コール表示制限を設定して、各コールに対して発信側の回線または接続側の回線の表示情報を選択的に表示、またはブロックできます。コール表示制限の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Call Display Restrictions 機能」の章を参照してください。

**ステップ 10** CTI がこのデバイスを制御および監視できるようにするには、Allow Control of Device from CTI チェックボックスをオンにします。

**ステップ 11** Phone Button Template ドロップダウン リストから、電話ボタン テンプレートを選択します。



ヒント プレゼンス モニタリングのためにプロファイルに BLF/SpeedDial を設定する場合は、BLF/SpeedDial 用に設定した電話ボタン テンプレートを選択します。設定の保存後、Association Information ペインに Add a New BLF SD リンクが表示されます。BLF/SpeedDial の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」を参照してください。

**ステップ 12** Softkey Template ドロップダウン リスト ボックスから、表示するソフトキー テンプレートを選択します。

**ステップ 13** 拡張モジュール フィールドの拡張モジュール ドロップダウン リストから電話テンプレートを選択して、このデバイス プロファイル用の 1 つまたは 2 つの拡張モジュールを設定できます。



(注) 電話ボタン テンプレート フィールドの横にある View button list リンクを選択すると、いつでも電話ボタン リストを表示できます。別のダイアログボックスが表示され、その特定の拡張モジュール用の電話ボタンが表示されます。

**ステップ 14** プライバシーを必要とする各電話機について、Privacy ドロップダウン リスト ボックスから On を選択します。詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。

**ステップ 15** このユーザ デバイス プロファイルを MLPP 優先コールに使用する場合は、ドロップダウン リスト ボックスから MLPP ドメインを選択します。

**ステップ 16** このユーザ デバイス プロファイルを MLPP 優先コールに使用する場合、MLPP Indication 設定をデバイス プロファイルに割り当てます。優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します。

ドロップダウン リスト ボックスから設定を選択して、このデバイス プロファイルに割り当てます。オプションは次のとおりです。

- **Default** : このデバイス プロファイルは、関連するデバイスのデバイス プールから MLPP Indication 設定を引き継ぎます。
- **Off** : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。
- **On** : このデバイス プロファイルは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。



**(注)** MLPP Indication を *Off* または *Default* (デフォルトは *Off* の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を *Forceful* に設定するという組み合わせで、デバイス プロファイルを設定することはできません。

**ステップ 17** このユーザ デバイス プロファイルを MLPP 優先コールに使用する場合、MLPP Preemption 設定をデバイス プロファイルに割り当てます。進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します。

ドロップダウン リスト ボックスから設定を選択して、このデバイス プロファイルに割り当てます。オプションは次のとおりです。

- **Default** : このデバイス プロファイルは、関連するデバイスのデバイス プールから MLPP Preemption 設定を引き継ぎます。
- **Off** : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しないようにします。
- **On** : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。



**(注)** MLPP Indication を *Off* または *Default* (デフォルトが *Off* の場合) に設定し、かつ、MLPP Preemption を *On* に設定するという組み合わせで、デバイス プロファイルを設定することはできません。

**ステップ 18** Login User ID ドロップダウン リスト ボックスから、有効なログイン ユーザ ID を選択します。



**(注)** ログアウト プロファイルとしてユーザ デバイス プロファイルが使用される場合、その電話機に関連付けられるログイン ユーザ ID を指定します。ユーザがこのユーザ デバイス プロファイルからログアウトした後では、その電話機はこのログイン ユーザ ID に自動的にログインされます。

**ステップ 19** Save をクリックします。

Association Info から、プロファイルの電話番号と短縮ダイヤルを設定できます。適切な設定値については、P.49-2 の「電話番号の設定の概要」と P.70-1 の「Cisco IP Phone の設定」の項、および『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の項を参照してください。

ステップ 20 Save をクリックします。



(注) ユーザ デバイス プロファイルに加えた変更を有効にするには、デバイスにログインする必要があります。

---

#### 追加情報

P.75-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザ デバイス プロファイルの削除

ユーザ デバイス プロファイルを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

デバイス プロファイルがデバイスに割り当てられている場合、そのデバイス プロファイルは削除できません。デバイス プロファイルを使用しているデバイスを検索するには、Device Profile Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **Dependency Records** リンクを選択します。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されているデバイス プロファイルを削除しようとする、Cisco CallManager はメッセージを表示します。現在使用されているデバイス プロファイルを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するデバイス プロファイルを使用しているデバイスすべてに、別のデバイス プロファイルを割り当てる。
- 削除するデバイス プロファイルを使用しているデバイスを削除する。

### 手順

**ステップ 1** 削除するユーザ デバイス プロファイルを検索します。 [P.75-2 の「デバイス プロファイルの検索」](#)を参照してください。

**ステップ 2** User Device Profile Configuration ウィンドウで、**Delete** をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

**ステップ 3** デバイス プロファイルを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。



**(注)** ユーザ デバイス プロファイルが、デフォルトのログアウト デバイス プロファイルとして設定されている場合は、そのデバイス プロファイルを削除できません。ログアウト デバイス プロファイルを削除する場合は、そのデバイス プロファイルに対するログアウト デバイス プロファイルの指定を変更し、別のデバイス プロファイルをその電話機のログアウト デバイス プロファイルとして設定する必要があります。ユーザ デバイス プロファイルがログアウト デバイス プロファイルではなくなった後、削除できます。

### 追加情報

[P.75-10 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 自動生成されたデバイス プロファイルの更新

ここでは、自動生成デバイス プロファイルの更新方法を説明します。自動生成デバイス プロファイルは変更できますが、削除したりプロファイル名を変更したりすることはできません。

### 始める前に

自動生成デバイス プロファイルが設定済みであること。詳細については、[P.70-3 の「Cisco IP Phone の設定」](#)と『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「自動生成されたデバイス プロファイル」を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** 更新する自動生成デバイス プロファイルを検索します。[P.75-2 の「デバイス プロファイルの検索」](#)を参照してください。

**ステップ 2** Autogenerated Device Profile Configuration ウィンドウから、その自動生成デバイス プロファイルに必要な変更を加えます。次に、**Save** をクリックします。

フィールドの説明については、[P.75-3 の「新規ユーザ デバイス プロファイルの設定」](#)を参照してください。ただし、次のような相違点があります。

- SUBSCRIBE Calling Search Space を設定する場合は、ドロップダウン リスト ボックスから（プレゼンス機能専用の）SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを選択します。SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースによって、この自動生成デバイス プロファイルを持つ電話機からのプレゼンス要求を Cisco CallManager がルーティングする方法が決まります。この設定により、この自動生成デバイス プロファイルを持つ電話機のプレゼンス（SUBSCRIBE）要求に対して、コール処理サーチ スペースとは別のコーリング サーチ スペースを適用できます。

ドロップダウン リストから、エンド ユーザ用に別のコーリング サーチ スペースを選択しない場合、SUBSCRIBE Calling Search Space はデフォルトで None になります。

コーリング サーチ スペースを設定する方法については、[P.43-1 の「コーリング サーチ スペースの設定」](#)を参照してください。

- Presence Group を設定する場合は、ドロップダウン リスト ボックスから（プレゼンス機能専用の）自動生成デバイス プロファイルのプレゼンス グループを選択します。このグループにより、この自動生成デバイス プロファイルを持つ電話機が監視できる対象が指定されます。

プレゼンス認可は、プレゼンス グループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。グループ間で権限を設定する方法、およびプレゼンスがエクステンション モビリティと連携する方法については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。

- 電話番号または SIP URI を監視するための BLF/SpeedDial ボタンを追加または変更する場合は、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。

変更内容が、この自動生成デバイス プロファイルに表示されます。



**(注)** 自動生成デバイス プロファイルに加えた変更を有効にするには、デバイスからログアウトする必要があります。

### 追加情報

[P.75-10 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 自動生成デバイス プロファイル用の新規電話番号の設定

### 始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- 自動生成デバイス プロファイルが設定済みであること。詳細については、[P.70-3 の「Cisco IP Phone の設定」](#)を参照してください。
- 自動生成デバイス プロファイル用の新規電話番号を追加するには、Autogenerated Device Profile Configuration ウィンドウを使用する。詳細については、[P.75-2 の「デバイス プロファイルの検索」](#)を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** Autogenerated Device Profile Configuration ウィンドウで、このウィンドウの左側にある電話番号のリストから、新しい DN を追加する回線を選択します。

Directory Number Configuration ウィンドウが表示されます。電話番号の設定の詳細については、[P.49-2 の「電話番号の設定の概要」](#)を参照してください。

- ステップ 2** 適切な設定値を入力します ([P.49-9 の「電話番号の設定値」](#)を参照)。

- ステップ 3** Save をクリックします。

ウィンドウの内容が更新され、設定された設定値が表示されます。



- (注)** Directory Number Configuration ウィンドウからデバイスの更新、削除、および再起動を行うには、これらの機能に対応するボタンをクリックすることもできます。電話番号を削除すると、回線からその電話番号が削除されます。この削除操作を元に戻すことはできません。

- ステップ 4** Configure Device Profile リンクをクリックして、Autogenerated Device Profile ウィンドウに戻ります。

ウィンドウの左側の適切な回線に新しい電話番号が表示されます。



- (注)** 電話機の設定値を更新するときに、自動生成デバイス プロファイルにその電話機とは異なるデフォルト値がある場合、Phone Configuration Web ウィンドウからログアウト デバイス プロファイルとして <User Current Device Setting> を選択すると、そのデバイス プロファイルの設定値が上書きされます。



- (注)** Synchronization Between Auto Device Profile and Phone Configuration エンタープライズ パラメータの値を True (デフォルト) に設定します。この設定により、電話機が更新されたときに、自動生成デバイス プロファイルも更新されることが確実にあります。

### 追加情報

[P.75-10 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

- [デバイス プロファイルの検索 \(P.75-2\)](#)
- [新規ユーザ デバイス プロファイルの設定 \(P.75-3\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルの削除 \(P.75-7\)](#)
- [自動生成されたデバイス プロファイルの更新 \(P.75-8\)](#)

### 電話番号

- [電話番号の設定の概要 \(P.49-2\)](#)
- [電話番号の設定値 \(P.49-9\)](#)

### プレゼンス

- 『*Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド*』の「プレゼンス」



## 電話ボタン テンプレートの設定

Cisco CallManager には、デフォルトの電話ボタン テンプレートがいくつか組み込まれています。電話機を追加するときに、これらのテンプレートから 1 つを選んで電話機に割り当てることができます。あるいは、テンプレートを新規に作成することができます。

テンプレートを新規に作成したものを使用すると、共通するボタン設定を大量の電話機に容易に割り当てることができます。たとえば、ある会社で会議機能を使用しない場合は、このボタンを別の機能（たとえば、短縮ダイヤル）に割り当て直すテンプレートを作成し、電話機にその機能を容易に割り当てることができます。

どの電話機にも、最低 1 回線が割り当てられていることを確認してください。通常、この回線は「ボタン 1」です。Cisco IP Phone のモデルによっては、追加回線を電話機に割り当てることができます。また、電話機には、一般に短縮ダイヤルや自動転送などのいくつかの機能がありますが、Cisco IP Phone でもこれらの機能はそれぞれのボタンに割り当てられます。

## 電話ボタン テンプレートの検索

ネットワーク内にはいくつかの電話ボタン テンプレートが存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の基準を指定して、特定の電話ボタン テンプレートを見つけることができます。電話ボタン テンプレートを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、電話ボタン テンプレートの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、電話ボタン テンプレートの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Device > Device Settings > Phone Button Template の順に選択します。

Find and List Phone Button Templates ウィンドウが表示されます。3 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、電話ボタン テンプレートを検索します。

**ステップ 2** Find Phone Button Template where Phone Button Template ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

and where Phone Button Template is ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Both
- Standard
- Non-Standard

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されている電話ボタン テンプレートをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出された電話ボタン テンプレートのリストが、電話ボタン テンプレート名別に表示されます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する電話ボタテンプレート名をクリックします。

選択した電話ボタテンプレートがウィンドウに表示されます。

---

#### 追加情報

P.76-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 電話ボタン テンプレートの設定

Cisco CallManager には、Cisco IP Phone の各モデルに対応したデフォルト テンプレートが複数組み込まれています。電話機を追加するときに、これらのテンプレートのいずれかを電話機に割り当てることができます。または、独自のテンプレートを作成することもできます。

管理者が作成したカスタム非標準テンプレートは変更できます。また、カスタム電話ボタン テンプレートのラベルも変更できます。デフォルト テンプレートのボタンの機能は、変更できません。

カスタム非標準電話ボタン テンプレートを更新することにより、機能を追加または削除したり、回線と短縮ダイヤルを追加または削除したり、機能、回線、短縮ダイヤルを電話機上の別のボタンに割り当てることができます。デフォルト電話テンプレートのボタン ラベルは変更することができますが、ボタンの機能は変更できません。電話テンプレートを更新する場合には、必ず、影響を受けるユーザにその変更を知らせてください。

カスタム非標準テンプレートの追加、名前変更、更新、あるいは機能、回線、または短縮ダイヤルの追加、削除を行う手順は、次のとおりです。

電話機 (Cisco IP Phone モデル 7960) のテンプレートを作成する場合は、自動登録中にその電話機のデフォルト テンプレートを変更できます。P.72-2 の「[デバイス デフォルトの更新](#)」を参照してください。

### 始める前に

カスタム非標準電話ボタン テンプレートを作成する場合は、電話ボタン テンプレートの新規作成ガイドライン (『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話ボタン テンプレートのカスタマイズのガイドライン」) を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** Device > Device Settings > Phone Button Template の順に選択します。

Find and List Phone Button Templates ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。

- 既存の電話ボタン テンプレートの名前を変更する場合は、適切な電話ボタン テンプレートを見つけます (P.76-2 の「[電話ボタン テンプレートの検索](#)」を参照)。Phone Button Template Configuration ページが表示されます。Button Template Name フィールドに、新しい名前を入力します。Save をクリックします。テンプレートが再表示され、新しい名前を表示します。



(注) テンプレート自体の名前を変更しても、そのテンプレートを使用している電話機に影響を与えることはありません。このテンプレートを使用する Cisco IP Phone はすべて、テンプレートの名前が変更された後も、このテンプレートを引き続き使用します。名前を変更できる電話ボタン テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外の電話ボタン テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートとして機能します。

- 新しい電話ボタン テンプレートを追加する場合は、Add New ボタンをクリックします。Phone Button Template Configuration ウィンドウが表示されます。[ステップ 3](#) に進みます。

- 既存の電話ボタン テンプレートを更新する場合は、適切な電話ボタン テンプレートを検索します (P.76-2 の「[電話ボタン テンプレートの検索](#)」を参照)。一致するレコードのリストから、更新する電話ボタン テンプレートを選択します。Phone Button Template Configuration ウィンドウが表示されます。[ステップ 4](#)に進みます。



**(注)** テンプレートを更新すると、その変更は、そのテンプレートを使用するすべての電話機に反映されます。更新できる電話ボタン テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外の電話ボタン テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートとして機能します。テンプレートの更新後、**Restart Devices** をクリックして、そのテンプレートを使用しているデバイスを再起動する必要があります。

**ステップ 3** Phone Button Template ドロップダウン リスト ボックスから、テンプレートを選択し、**Copy** をクリックして新しいテンプレートを作成します。

新しいテンプレートは、既存のテンプレートからまったく同じものがコピーされます。新しいテンプレートに新しい名前を割り当てる必要があります。オリジナルのテンプレートとは異なるテンプレートが必要な場合には、この新規のテンプレートを変更する必要があります。

**ステップ 4** 該当する設定値を更新します ([表 76-1](#) を参照)。

**ステップ 5** **Save** をクリックします。

---

#### 追加情報

P.76-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco IP Phone 7914 Expansion Module の電話ボタン テンプレートの設定

Cisco IP Phone モデル 7960 の標準電話ボタン テンプレートを使用して、Cisco IP Phone 7914 Expansion Module の電話ボタン テンプレートを作成できます。次の手順を参照してください。

### 手順

- 
- ステップ 1** P.76-2 の「[電話ボタン テンプレートの検索](#)」の手順を使用して、電話ボタン テンプレートを検索します。
  - ステップ 2** 一致するレコードのリストから、Standard 7960 (for SCCP or SIP) 電話ボタン テンプレートを見つけ、Copy アイコンをクリックします。
  - ステップ 3** Button Template Name に、電話ボタン テンプレートの固有な名前(たとえば、7914 Expansion Module)を入力します。
  - ステップ 4** Save をクリックします。
  - ステップ 5** Feature および Label で、該当する設定値を更新します(表 76-1 を参照)。作成したボタン テンプレート名がすぐに表示されます。
  - ステップ 6** Save をクリックします。
- 

### 追加情報

P.76-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 電話ボタン テンプレートの設定値

表 76-1 では、電話ボタン テンプレートの設定値について説明します。

表 76-1 電話ボタン テンプレートの設定値

フィールド	説明
<b>電話ボタン テンプレート情報</b>	
Button Template Name	テンプレートを識別するために Cisco CallManager が使用する固有の名前を入力します。
<b>ボタン情報</b>	
Feature	テンプレートに指定する電話ボタンの機能を選択します。利用可能な機能には、Speed Dial、Line、None、Privacy、Service URL があります。  <b>(注)</b> デフォルト電話ボタン テンプレートのボタン機能は、変更できません。
Label	ボタンの説明を入力します。

### 追加情報

P.76-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 電話ボタン テンプレートの削除

電話ボタン テンプレートを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

システム内の電話機に現在割り当てられていない電話テンプレートを削除することができます。少なくとも 1 つのデバイスまたはデバイス プロファイルが割り当てられているテンプレート、またはモデルのデフォルト テンプレート (Device Defaults Configuration ウィンドウに指定されているもの) は、削除できません。

電話ボタン テンプレートを使用しているデバイスを検索するには、Phone Button Template Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **Dependency Records** リンクを選択し、Go をクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、P.A-4 の「[Dependency Records へのアクセス](#)」を参照してください。使用されている電話ボタン テンプレートを削除しようとすると、Cisco CallManager はメッセージを表示します。現在使用されている電話ボタン テンプレートを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する電話ボタン テンプレートを使用しているデバイスすべてに、別の電話ボタン テンプレートを割り当てる。P.70-6 の「[電話機の削除](#)」を参照してください。
- 削除する電話ボタン テンプレートを使用しているデバイスを削除する。P.70-6 の「[電話機の削除](#)」を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** P.76-2 の「[電話ボタン テンプレートの検索](#)」の手順を使用して、電話ボタン テンプレートを検索します。

**ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する電話ボタン テンプレートを選択します。



(注) 削除できる電話ボタン テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外の電話ボタン テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートとして機能します。

Phone Button Template Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** Delete をクリックします。



(注) 該当する電話ボタン テンプレートの横にあるチェックボックスをオンにして、Delete Selected をクリックすると、Find and List Phone Button Templates ウィンドウから複数の非標準電話ボタン テンプレートを削除できます。Select All をクリックして Delete Selected をクリックすると、ウィンドウ内のすべての電話ボタン テンプレートを削除できます。削除できる電話ボタン テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外の電話ボタン テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートとして機能します。

そのテンプレートを削除するかどうか確認するメッセージが表示されます。

**ステップ 4** OK をクリックして、テンプレートを削除します。

そのテンプレートが削除されたことを確認するメッセージが表示されます。

**ステップ 5** 続行するには、OK をクリックします。

---

#### 追加情報

P.76-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [デバイス デフォルトの更新 \( P.72-2 \)](#)
- [電話ボタン テンプレートの検索 \( P.76-2 \)](#)
- [電話ボタン テンプレートの設定 \( P.76-4 \)](#)
- [Cisco IP Phone 7914 Expansion Module の電話ボタン テンプレートの設定 \( P.76-6 \)](#)
- [電話ボタン テンプレートの設定値 \( P.76-7 \)](#)
- [電話ボタン テンプレートの削除 \( P.76-8 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP Phone」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話ボタン テンプレートのカスタマイズのガイドライン」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話ボタン テンプレート」
- [Cisco IP Phone の設定 \( P.70-1 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」



## ソフトキー テンプレートの設定

管理者は、ソフトキー テンプレートの設定を使用して、Cisco IP Phone（たとえば、モデル 7960 など）がサポートしているソフトキーを管理することができます。Cisco CallManager がサポートしているソフトキー テンプレートには、標準と非標準の 2 つのタイプがあります。ソフトキーをサポートしているアプリケーションには、1 つまたは複数の標準ソフトキー テンプレートが関連付けられています。たとえば、Cisco CallManager には、Standard Feature および Standard User の各ソフトキー テンプレートが関連付けられています。標準ソフトキー テンプレートは変更できません。

管理者は、ソフトキー テンプレートの設定を使用して、非標準ソフトキー テンプレートをコピー、更新、または削除することができます。

次の各項では、ソフトキー テンプレートを設定する方法について詳しく説明します。

- [ソフトキー テンプレートの検索 \(P.77-2\)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートの追加 \(P.77-4\)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーション ソフトキーの追加 \(P.77-5\)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートにおけるソフトキーの位置の設定 \(P.77-6\)](#)
- [ソフトキー テンプレートの変更 \(P.77-7\)](#)
- [IP Phone へのソフトキー テンプレートの割り当て \(P.77-10\)](#)

## ソフトキー テンプレートの検索

ネットワーク内にはいくつかのソフトキー テンプレートが存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の基準を指定して、特定のソフトキー テンプレートを見つけることができます。ソフトキー テンプレートを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、ソフトキー テンプレートの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ソフトキー テンプレートの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Device > Device Settings > Softkey Template の順に選択します。

Find and List Softkey Templates ウィンドウが表示されます。3 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、ソフトキー テンプレートを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find softkey templates where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Name
- Description



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する基準によって、検索時に生成されるソフトキー テンプレート リストのソート方法が決まります。たとえば、Description を選択すると、Description 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find softkey templates where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

3 番目の Find softkey templates where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Both
- Standard
- Non-Standard

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



**ヒント** データベースに登録されているソフトキー テンプレートをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたソフトキー テンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- Softkey Template Name
- Description

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する Softkey Template Name または Description をクリックします。

選択したソフトキー テンプレートがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.77-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 非標準ソフトキー テンプレートの追加

Cisco CallManager には、コール処理およびアプリケーション用の標準ソフトキー テンプレートが組み込まれています。カスタム非標準ソフトキー テンプレートを作成する場合は、標準テンプレートをコピーし、必要に応じてそれを変更します。

### 手順

---

**ステップ 1** Device > Device Settings > Softkey Template の順に選択します。

Find and List Softkey Templates ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Add New をクリックします。

Softkey Template Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** ドロップダウン リスト ボックスから、ソフトキー テンプレートを選択し、Copy をクリックして新しいテンプレートを作成します。

Softkey Template Configuration ウィンドウが再表示され、固有のソフトキー テンプレート名、説明、およびそのソフトキーに関連付けるアプリケーションを入力するためのフィールドが表示されます。

**ステップ 4** Softkey Template Name フィールドに、ソフトキー テンプレートを識別するための固有の名前を入力します。

**ステップ 5** テンプレートの使用方法についての説明を入力します。

**ステップ 6** Save ボタンをクリックします。

標準テンプレートがコピーされ、Softkey Template Configuration ウィンドウが再表示されます。

**ステップ 7** 非標準ソフトキー テンプレートにその他のアプリケーションソフトキーを追加する場合は、[P.77-5 の「非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーションソフトキーの追加」](#)を参照します。

**ステップ 8** Cisco IP Phone の LCD スクリーン上でソフトキーの位置を設定するには、[P.77-6 の「非標準ソフトキー テンプレートにおけるソフトキーの位置の設定」](#)を参照します。

**ステップ 9** Save ボタンをクリックして、設定を保存します。

---

### 追加情報

[P.77-10 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーションソフトキーの追加

Cisco CallManager には、コール処理およびアプリケーション用の標準ソフトキー テンプレートが組み込まれています。カスタム非標準ソフトキー テンプレートを作成する場合は、標準テンプレートをコピーし、必要に応じてそれを変更します。作成した非標準ソフトキー テンプレートにアプリケーションソフトキーを追加する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** P.77-2 の「ソフトキー テンプレートの検索」の手順を使用して、ソフトキー テンプレートを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、アプリケーション ソフトキーを追加するソフトキー テンプレートを選択します。



**(注)** 変更できるソフトキー テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外のソフトキー テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートです。

Softkey Template Configuration ウィンドウが表示されます。

- ステップ 3** 非標準ソフトキー テンプレートにその他のアプリケーション ソフトキーを追加するために、**Add Application** ボタンをクリックします。

Add Application ウィンドウが表示されます。

- ステップ 4** 非標準ソフトキー テンプレートに追加する標準ソフトキー テンプレートを選択します。

- ステップ 5** **Insert** ボタンをクリックし、**Close** をクリックします。

選択した標準ソフトキー テンプレートに関連するソフトキーが、非標準ソフトキー テンプレートの末尾に追加されます。重複するソフトキーは自動的に削除されます。特定のコール状態のソフトキーの数が 16 を超えると、そのコール状態のオプションのソフトキーが削除されます（最後の方から順に）。オプションのソフトキーが削除された後もソフトキーの数が 16 を超える場合は、メッセージが表示されます。

- ステップ 6** **Save** ボタンをクリックして、ソフトキー セットの設定を保存します。

- ステップ 7** ソフトキー テンプレートの更新を電話機で有効にするために、**Restart Devices** ボタンをクリックします。

### 追加情報

P.77-10 の「関連項目」を参照してください。

## 非標準ソフトキー テンプレートにおけるソフトキーの位置の設定

Cisco CallManager には、コール処理およびアプリケーション用の標準ソフトキー テンプレートが組み込まれています。カスタム非標準ソフトキー テンプレートを作成する場合は、標準テンプレートをコピーし、必要に応じてそれを変更します。作成した非標準ソフトキー テンプレートで各コール状態に対するソフトキーの位置を設定する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** P.77-2 の「ソフトキー テンプレートの検索」の手順を使用して、ソフトキー テンプレートを検索します。

**ステップ 2** 一致するレコードのリストから、ソフトキーの位置を設定するソフトキー テンプレートを選択します。



**(注)** 変更できるソフトキー テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外のソフトキー テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートです。

Softkey Template Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** Cisco IP Phone の LCD スクリーンにおけるソフトキーの位置を設定するために、Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **Configure Softkey Layout** を選択します。

Softkey Layout Configuration ウィンドウが表示されます。Select a Call State to Configure ドロップダウン リスト ボックスに、IP Phone の各 Cisco CallManager コール状態が示されます。

**ステップ 4** コール状態に対するソフトキー位置を設定するために、Select a Call State to Configure ドロップダウン リスト ボックスからコール状態を選択します。

Softkey Layout Configuration ウィンドウが再表示され、選択したコール状態に該当するソフトキーが Unselected Softkeys フィールドと Selected Softkeys フィールドに表示されます。



**ヒント** ソフトキーに関連するプレースホルダーを作成する場合は、Undefined ソフトキーを追加します。この操作によって、追加したソフトキーは、すべてのコール状態で同じソフトキー位置に置かれます。

**ステップ 5** あるリストから別のリストへソフトキーを移動するには、右矢印と左矢印を使用します。

**ステップ 6** Selected Softkeys の位置を再調整するには、上矢印と下矢印を使用します。

**ステップ 7** Save ボタンをクリックして、ソフトキー セットの設定を保存します。

**ステップ 8** 右上隅にある Related Links ドロップダウン リスト ボックスから Softkey Template Configuration リンクを選択し、Softkey Template Configuration ウィンドウに戻ります。

**ステップ 9** Save ボタンをクリックして、設定を保存します。

**ステップ 10** ソフトキー テンプレートの更新を電話機で有効にするために、Restart Devices ボタンをクリックします。

#### 追加情報

P.77-10 の「関連項目」を参照してください。

## ソフトキー テンプレートの変更

作成したカスタム非標準ソフトキー テンプレートに変更を加えることができます。

- ソフトキー テンプレートの名前変更 (P.77-7)
- ソフトキー テンプレートの削除 (P.77-8)
- ソフトキー テンプレートの更新 (P.77-9)

#### 追加情報

P.77-10 の「関連項目」を参照してください。

## ソフトキー テンプレートの名前変更

作成した非標準ソフトキー テンプレートの名前を変更する手順は、次のとおりです。

#### 手順

**ステップ 1** P.77-2 の「ソフトキー テンプレートの検索」の手順を使用して、ソフトキー テンプレートを検索します。

**ステップ 2** 一致するレコードのリストから、名前を変更するソフトキー テンプレートを選択します。



**(注)** 名前を変更できるソフトキー テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外のソフトキー テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートです。

Softkey Template Configuration ページが表示されます。

**ステップ 3** Softkey Template Name フィールドに、新しい名前を入力します。

**ステップ 4** Save ボタンをクリックします。

Softkey Template Configuration ウィンドウが再表示され、新しいソフトキー テンプレート名が表示されます。

#### 追加情報

P.77-10 の「関連項目」を参照してください。

## ソフトキー テンプレートの削除

作成した非標準ソフトキー テンプレートを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

デバイスまたはデバイス プールに現在割り当てられている非標準ソフトキー テンプレートは削除できません。非標準ソフトキー テンプレートを使用しているデバイスおよびデバイス プールを検索するには、Softkey Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されている非標準ソフトキー テンプレートを削除しようとする、Cisco CallManager はメッセージを表示します。現在使用されている非標準ソフトキー テンプレートを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する非標準ソフトキー テンプレートを使用しているデバイスすべてに、別のソフトキー テンプレートを割り当てる。[P.70-6 の「電話機の削除」](#)を参照してください。
- 削除する非標準ソフトキー テンプレートを使用しているデバイスを削除する。[P.70-6 の「電話機の削除」](#)を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** [P.77-2 の「ソフトキー テンプレートの検索」](#)の手順を使用して、ソフトキー テンプレートを検索します。

**ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するソフトキー テンプレートを選択します。



**(注)** 削除できるソフトキー テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外のソフトキー テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートです。

Softkey Template Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** **Delete** ボタンをクリックします。



**(注)** 該当するソフトキー テンプレートの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Softkey Templates ウィンドウから複数のソフトキー テンプレートを削除できます。**Select All** をクリックして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのソフトキー テンプレートを削除できます。

そのテンプレートを削除するかどうか確認するメッセージが表示されます。

**ステップ 4** **OK** ボタンをクリックします。

ソフトキー テンプレートが削除された状態で、Softkey Template Configuration ウィンドウが再表示されます。

### 追加情報

[P.77-10 の「関連項目」](#)を参照してください。

## ソフトキー テンプレートの更新

作成した非標準ソフトキー テンプレートを更新する手順は、次のとおりです。テンプレート名、説明、サポートされているアプリケーション ソフトキー、およびソフトキー レイアウトは更新できません。

### 手順

**ステップ 1** P.77-2 の「ソフトキー テンプレートの検索」の手順を使用して、ソフトキー テンプレートを検索します。

**ステップ 2** 一致するレコードのリストから、更新するソフトキー テンプレートを選択します。



**(注)** 更新できるソフトキー テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外のソフトキー テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートです。

Softkey Template Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** 変更（たとえば、アプリケーション ソフトキー セットまたはソフトキー レイアウトの追加）する設定を更新します。P.77-5 の「非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーション ソフトキーの追加」および P.77-6 の「非標準ソフトキー テンプレートにおけるソフトキーの位置の設定」を参照してください。

**ステップ 4** Save ボタンをクリックします。

ソフトキー テンプレートが更新された状態で、Softkey Template Configuration ウィンドウが再表示されます。



**(注)** ソフトキー テンプレートの更新後、そのテンプレートを使用しているデバイスを再起動する必要があります。

**ステップ 5** Restart Devices ボタンをクリックして、更新されたソフトキー テンプレートを適用します。

### 追加情報

P.77-10 の「関連項目」を参照してください。

## IP Phone へのソフトキー テンプレートの割り当て

IP Phone の設定時に、ソフトキー テンプレートを IP Phone に割り当てることができます。標準ソフトキー テンプレートおよび非標準ソフトキー テンプレートを割り当てることができます。ソフトキー テンプレートを電話機に割り当てするには、次の 2 つの方法があります。

- ソフトキー テンプレートをデバイス プール（独自に作成したもの、またはデフォルト）に割り当て、Phone Configuration ウィンドウで、そのデバイス プールを電話機に割り当てる。
- Phone Configuration ウィンドウのソフトキー テンプレート フィールドで、ソフトキー テンプレートを電話機に割り当てる。

デバイス プールおよび電話機を設定する方法の詳細については、[P.9-1 の「デバイス プールの設定」](#)および [P.70-3 の「Cisco IP Phone の設定」](#)を参照してください。

## 関連項目

- [ソフトキー テンプレートの検索 \(P.77-2\)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートの追加 \(P.77-4\)](#)
- [ソフトキー テンプレートの変更 \(P.77-7\)](#)
- [ソフトキー テンプレートの名前変更 \(P.77-7\)](#)
- [ソフトキー テンプレートの削除 \(P.77-8\)](#)
- [IP Phone へのソフトキー テンプレートの割り当て \(P.77-10\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ソフトキー テンプレート」



## Cisco IP Phone サービスの設定

システム管理者は Cisco CallManager Administration を使用して、ユーザがサイトで登録できる Cisco IP Phone サービスのリストを設定し、保持します。Cisco IP Phone サービスは、複数の XML アプリケーションから構成されています。これらのアプリケーションにより、Cisco IP Phone 7970、7960、7940、7912 上に、テキストとグラフィックスを使用した対話式のコンテンツを表示することができます。



(注)

Cisco IP Phone 7912 および 7905 は、テキストベースの XML アプリケーションのみをサポートしています。

Cisco CallManager は、Cisco IP Phone サービスのサンプルアプリケーションを備えています。また、ご使用のサイトに合せてカスタマイズされた Cisco IP Phone アプリケーションを作成することもできます。

サービスのリストを設定すると、データベース内の電話機にサービスを追加して電話ボタンに割り当てることができます。Cisco CallManager Administration で、電話機とデバイス プロファイルの設定値を表示し、変更することができます。ユーザは、Cisco IP Phone User Options アプリケーションにログインし、システム管理者が設定した Cisco IP Phone 用のサービスに登録することができます。

ここでは、次の内容について説明します。

- [Cisco IP Phone サービスの検索 \(P.78-2\)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの設定 \(P.78-4\)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの設定値 \(P.78-5\)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの削除 \(P.78-6\)](#)
- [Cisco IP Phone サービス パラメータの設定 \(P.78-7\)](#)
- [Cisco IP Phone サービス パラメータの設定値 \(P.78-8\)](#)
- [Cisco IP Phone サービス パラメータの削除 \(P.78-9\)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの電話ボタンへの追加 \(P.78-10\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP Phone サービス」

## Cisco IP Phone サービスの検索

ネットワーク内にはいくつかの Cisco IP Phone サービスが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定の Cisco IP Phone サービスを見つけることができます。Cisco IP Phone サービスを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、Cisco IP Phone サービスの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、Cisco IP Phone サービスのグループの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** Device > Device Settings > Phone Services の順に選択します。

Find and List IP Phone Services ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、Cisco IP Phone サービスを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find Service where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- IP Phone Service
- Description

2 番目の Find Service where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- is exactly (完全一致)
- ends with (後方一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されている Cisco IP Phone サービスをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出された Cisco IP Phone サービスのリストが、次の項目別に表示されます。

- IP Phone Service name
- Description



**(注)** 該当する Cisco IP Phone サービスの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List IP Phone Services ウィンドウから複数の Cisco IP Phone サービスを削除できます。 **Select All** をクリックして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべての Cisco IP Phone サービスを削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する Cisco IP Phone Service name または Description をクリックします。

選択した Cisco IP Phone サービスがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.78-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco IP Phone サービスの設定

Cisco IP Phone サービスを追加または更新する手順は、次のとおりです。



### 注意

Cisco IP Phone サービスは、サイトの Cisco CallManager サーバ上、または Cisco CallManager に関連付けられているサーバ、たとえば、TFTP サーバやディレクトリ データベース パブリッシャ サーバ上に設定しないでください。サーバを分離することにより、Cisco IP Phone サービスのアプリケーションのエラーが原因で、Cisco CallManager のパフォーマンスが影響を受けたり、コール処理サービスが中断される可能性がなくなります。

### 手順

**ステップ 1** Device > Device Settings > Phone Services の順に選択します。

Find and List IP Phone Services ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。

- Cisco IP Phone サービスを追加する場合は、**Add New** ボタンをクリックします。Cisco IP Phone Services Configuration ウィンドウが表示されます。ステップ 3 に進みます。
- 既存の Cisco IP Phone サービスを更新する（たとえば、サービス URL などの情報を変更する）場合は、適切な Cisco IP Phone サービスを見つけます（P.78-2 の「Cisco IP Phone サービスの検索」を参照）。更新する Cisco IP Phone サービスの名前をクリックし、ステップ 3 に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します（表 78-1 を参照）。

**ステップ 4** Save をクリックします。

必要に応じて、パラメータを追加、更新、または削除できます。P.78-7 の「Cisco IP Phone サービスパラメータの設定」および P.78-9 の「Cisco IP Phone サービスパラメータの削除」を参照してください。

**ステップ 5** Cisco IP Phone Services Configuration ウィンドウを更新して、変更内容を適用します。

- サブスクリプションの後でサービスが変更された場合は、**Update Subscriptions** をクリックして、すべてのユーザサブスクリプションを作成し直す。サブスクリプションを更新する必要があるのは、サービス URL を変更した場合、電話サービスパラメータを削除した場合、または電話サービスパラメータの名前を変更した場合です。



### (注)

ユーザが加入している電話サービスに対して、サービス URL を変更したり、Cisco IP Phone サービスパラメータを削除したり、電話サービスパラメータの名前を変更したりする場合は、必ず、**Update Subscriptions** をクリックして、現在加入しているすべてのユーザを更新し、その変更内容を反映させてください。この操作を行わないと、ユーザは、サービスに再加入して、URL を正しく作成し直す必要があります。

- 選択したサービスが最新で、ユーザサブスクリプションを作成し直す必要がない場合は、Save をクリックする。

## 追加情報

P.78-10 の「関連項目」を参照してください。

## Cisco IP Phone サービスの設定値

表 78-1 では、Cisco IP Phone サービスの設定値について説明します。Cisco IP Phone サービスパラメータの設定値については、表 78-2 を参照してください。関連手順の詳細については、P.78-10 の「関連項目」を参照してください。

表 78-1 Cisco IP Phone サービスの設定値

フィールド	説明
<b>サービス情報</b>	
Service Name	Cisco IP Phone User Options アプリケーションの利用可能なサービスのメニューに表示される、サービスの名前を入力します。入力できるサービス名は最大 32 文字です。
Service Name (ASCII Format)	電話機が Unicode を表示できない場合に表示するサービス名を入力します。
Service Description	サービスが提供するコンテンツの説明を入力します。
Service URL	Cisco IP Phone サービスのアプリケーションが置かれているサーバの URL を入力します。このサーバが、Cisco CallManager クラスタ内のサーバとは無関係であることを確認してください。Cisco CallManager サーバ、または Cisco CallManager に関連したサーバ、たとえば、TFTP サーバやディレクトリ データベース パブリッシャ サーバは指定しないでください。  サービスを使用するには、Cisco CallManager クラスタ内の電話機が、サーバとネットワーク接続する必要があります。

## Cisco IP Phone サービスの削除

Cisco IP Phone サービスパラメータを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

Cisco IP Phone サービスを削除すると、Cisco CallManager は、すべてのサービス情報、ユーザサブスクリプション、およびユーザサブスクリプションデータをデータベースから削除します。Cisco IP Phone サービスを使用しているデバイスを検索するには、Cisco IP Phone Service Configuration ウィンドウの Related Records ドロップダウンリストボックスから **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、P.A-4 の「[Dependency Records へのアクセス](#)」を参照してください。使用されている Cisco IP Phone サービスを削除しようとする、Cisco CallManager はエラーメッセージを表示します。現在使用されている Cisco IP Phone サービスを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する Cisco IP Phone サービスを使用しているデバイスすべてに、別の Cisco IP Phone サービスを割り当てる。P.70-6 の「[電話機の削除](#)」を参照してください。
- 削除する Cisco IP Phone サービスを使用しているデバイスを削除する。P.70-6 の「[電話機の削除](#)」を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** [P.78-2 の「Cisco IP Phone サービスの検索」](#)の手順を使用して、Cisco IP Phone サービスを検索します。

**ステップ 2** 削除する IP Phone サービスの名前をクリックします。

Cisco IP Phone Services Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** **Delete** をクリックします。

削除の確認を求めるメッセージが表示されます。

**ステップ 4** **OK** をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、その Cisco IP Phone サービスがデータベースから削除されます。

---

### 追加情報

[P.78-10 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco IP Phone サービス パラメータの設定

Cisco IP Phone サービス パラメータを追加および設定する手順、または更新する手順は、次のとおりです。パラメータを設定する前に、電話サービスを追加してください。サービスがパラメータを使用するかどうか、パラメータを設定する方法、およびオプションのパラメータを定義するかどうかについては、各 Cisco IP Phone サービスの資料を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** P.78-2 の「Cisco IP Phone サービスの検索」の手順を使用して、Cisco IP Phone サービスを検索します。

**ステップ 2** Cisco IP Phone Services リストから、パラメータの追加または既存のパラメータの更新を行うサービスを選択します。

Cisco IP Phone Services Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** 次のいずれかの作業を行います。

- 新しい電話サービス パラメータを追加する場合は、Parameters リスト ボックスの右側にある **New** ボタンをクリックします。Configure Cisco IP Phone Service Parameter ウィンドウが表示されます。ステップ 4 に進みます。
- 既存のパラメータを更新する場合は、Parameters リスト ボックスで、更新するパラメータの名前を選択します。Edit をクリックし、ステップ 4 に進みます。

**ステップ 4** 適切な設定値を入力します (表 78-2 を参照)。

新規パラメータを追加するには、**Save** をクリックします。続けて他のパラメータを追加する場合は、必要に応じて、Configure Cisco IP Phone Service Parameter ウィンドウで **Add New** をクリックし、ステップ 3 およびステップ 4 を繰り返します。最後のパラメータを追加する場合は、**Save and Close** をクリックします。

更新対象のパラメータに変更内容を適用するには、**Save** をクリックします。変更内容を適用した後、ウィンドウを閉じるには、**Save and Close** をクリックします。

**ステップ 5** Cisco IP Phone Services Configuration ウィンドウを更新して、変更内容を適用します。

- サブスクリプションの後でサービスが変更された場合は、**Update Subscriptions** をクリックして、すべてのユーザサブスクリプションを作成し直す。サブスクリプションを更新する必要があるのは、サービス URL を変更した場合、電話サービス パラメータを削除した場合、または電話サービス パラメータの名前を変更した場合です。



(注)

ユーザが加入している電話サービスに対して、Cisco IP Phone サービス パラメータを削除したり、電話サービス パラメータの名前を変更したりする場合は、必ず、**Update Subscriptions** をクリックして、現在加入しているすべてのユーザを更新して、その変更内容を反映させてください。この操作を行わないと、ユーザは、サービスに再加入して、URL を正しく作成し直す必要があります。

- 選択したサービスが最新で、ユーザサブスクリプションを作成し直す必要がない場合は、**Save** をクリックする。

### 追加情報

P.78-10 の「関連項目」を参照してください。

## Cisco IP Phone サービス パラメータの設定値

表 78-2 では、Cisco IP Phone サービス パラメータの設定値について説明します。関連手順の詳細については、P.78-10 の「関連項目」を参照してください。

表 78-2 Cisco IP Phone サービス パラメータの設定値

フィールド	説明
<b>サービス パラメータ情報</b>	
Parameter Name	登録 URL の作成時に使用する正確なクエリー スtring パラメータ、たとえば、「symbol」を入力します。
Parameter Display Name	Cisco IP Phone User Options アプリケーションでユーザに対して表示される内容を表すパラメータ名、たとえば、「Ticker Symbol」を入力します。
Default Value	パラメータのデフォルト値を入力します。この値は、サービスの最初の登録時にユーザに対して表示されます（たとえば、「CSCO」）。
Parameter Description	パラメータの説明を入力します。ユーザは、サービスに登録する際、ここに入力されたテキストにアクセスできます。このパラメータの説明では、ユーザがそのパラメータに正しい値を入力するために役立つ情報や例を提供します。
Parameter is Required	登録を保存する前に、ユーザがこのパラメータにデータを入力する必要がある場合は、Parameter is Required チェックボックスをオンにします。
Parameter is a Password (mask contents)	Cisco IP Phone User Options アプリケーション内の入力内容を隠すことができます。したがって、実際にユーザが入力した内容ではなく、アスタリスクが表示されます。他人に見られなくないパスワードのパラメータなどに対して、使用することができます。パラメータの入力内容を隠すには、Cisco CallManager Administration の Configure Cisco IP Phone Service Parameter ウィンドウで、Parameter is a Password (mask contents) チェックボックスをオンにします。

## Cisco IP Phone サービス パラメータの削除

Cisco IP Phone サービス パラメータを削除する手順は、次のとおりです。



(注)

ユーザが加入している電話サービスに対して、電話サービス パラメータを削除したり、電話サービス パラメータの名前を変更したりする場合は、**Update Subscriptions** をクリックして、現在加入しているすべてのユーザを更新して、その変更内容を反映させる必要があります。この操作を行わないと、ユーザは、サービスに再加入して、URL を正しく作成し直す必要があります。

### 手順

**ステップ 1** P.78-2 の「[Cisco IP Phone サービスの検索](#)」の手順を使用して、Cisco IP Phone サービスを検索します。

**ステップ 2** Cisco IP Phone Services リストから、パラメータを削除する電話サービスを選択します。

**ステップ 3** Parameters リスト ボックスで、削除するパラメータの名前を選択します。

**ステップ 4** Delete をクリックします。

削除の確認を求めるメッセージが表示されます。

**ステップ 5** OK をクリックして、削除を確認します。

**ステップ 6** Cisco IP Phone Services Configuration ウィンドウを更新して、変更内容を適用します。

- サブスクリプションの後でサービスが変更された場合は、**Update Subscriptions** をクリックして、すべてのユーザサブスクリプションを作成し直す。サブスクリプションを更新する必要があるのは、サービス URL を変更した場合、電話サービス パラメータを削除した場合、または電話サービス パラメータの名前を変更した場合です。
- 選択したサービスが最新で、ユーザサブスクリプションを作成し直す必要がない場合は、**Save** をクリックする。

### 追加情報

P.78-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco IP Phone サービスの電話ボタンへの追加

Cisco IP Phone サービスを追加するだけでなく、電話機でユーザが使用できるように、サービス URL として設定されている電話ボタンにサービスを割り当てることができます。これを行うと、IP Phone のサービス ボタンを使用しないで、1 つのボタンでサービスにアクセスできます。

サービス URL にサービスを追加する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco CallManager にサービスを追加します ( P.78-4 の「Cisco IP Phone サービスの設定」を参照 )。
  - ステップ 2** サービス URL ボタンを設定して、電話ボタン テンプレートをカスタマイズします ( P.76-4 の「電話ボタン テンプレートの設定」を参照 )。
  - ステップ 3** カスタマイズした電話ボタン テンプレートを電話機に追加します ( P.70-3 の「Cisco IP Phone の設定」を参照 )。
  - ステップ 4** サービスを電話機に登録します ( P.70-26 の「Cisco IP Phone サービスの設定」を参照 )。
  - ステップ 5** サービス URL を電話ボタンに追加します ( P.70-29 の「サービス URL ボタンの設定」を参照 )。
- 

## 関連項目

- [Cisco IP Phone サービスの検索 \( P.78-2 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの設定 \( P.78-4 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの設定値 \( P.78-5 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの削除 \( P.78-6 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービス パラメータの設定 \( P.78-7 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービス パラメータの設定値 \( P.78-8 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービス パラメータの削除 \( P.78-9 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの電話ボタンへの追加 \( P.78-10 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP Phone サービス」



## SIP プロファイルの設定

---

SIP プロファイルは、SIP トランクおよび SIP エンドポイントに関連付けられている一連の SIP 属性から構成されます。SIP プロファイルには、名前、説明、タイミング、リトライ、コール ピックアップ URI などの情報が含まれます。このプロファイルには、削除も変更もできない標準エントリがいくつかあります。

SIP プロファイルの検索と設定をするには、次のトピックを参照してください。

- [SIP プロファイルの検索 \(P.79-2\)](#)
- [SIP プロファイルの設定 \(P.79-3\)](#)
- [SIP プロファイルの設定値 \(P.79-4\)](#)
- [SIP プロファイルの削除 \(P.79-10\)](#)
- [SIP プロファイルのリセット \(P.79-11\)](#)
- [関連項目 \(P.79-12\)](#)

## SIP プロファイルの検索

Find and List SIP Profile ウィンドウを使用して、SIP プロファイルを検索する手順は、次のとおりです。この機能は、次のカテゴリに基づいて、あらゆるタイプの SIP プロファイルを検索します。

- Profile name (プロファイル名)
- Description (説明)

### 手順

---

**ステップ 1** Device > Device Settings > SIP Profile の順に選択します。

Find and List SIP Profile ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ドロップダウン リスト ボックスから、表示する SIP プロファイルのタイプを特定するための検索テキストを選択し、Find をクリックします。



**(注)** データベースに登録されている SIP プロファイルをすべて検索するには、テキストを入力せずに Find をクリックします。

---

ウィンドウの内容が更新され、検索条件と一致する SIP プロファイルが表示されます。

**ステップ 3** 検索条件と一致するレコードのリストから、SIP プロファイルを選択します。

**ステップ 4** Find and List SIP Profiles ウィンドウから複数の SIP プロファイルを削除するには、該当する SIP プロファイルの横にあるチェックボックスをオンにして Delete Selected をクリックします。ウィンドウ内のすべての SIP プロファイルを選択するには、Select All ボタンをクリックします。その後、Delete Selected をクリックします。

---

### 追加情報

P.79-12 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## SIP プロファイルの設定

SIP プロファイルを追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** Device > Device Settings > SIP Profile の順に選択します。

Find and List SIP Profile ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。

- 既存の SIP プロファイルをコピーする場合は、適切な SIP プロファイルを見つけ (P.79-2 の「SIP プロファイルの検索」を参照)、コピーする SIP プロファイルの横にある Copy ボタンをクリックして、**ステップ 3** に進みます。
- 新しい SIP プロファイルを追加する場合は、Add New ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 既存の SIP プロファイルを更新する場合は、適切な SIP プロファイルを見つけ (P.79-2 の「SIP プロファイルの検索」を参照)、**ステップ 3** に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 79-1 を参照)。

**ステップ 4** Save をクリックします。

---

### 追加情報

P.79-12 の「関連項目」を参照してください。

## SIP プロファイルの設定値

表 79-1 では、SIP Profile Configuration ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。関連手順の詳細については、P.79-12 の「関連項目」を参照してください。

表 79-1 SIP プロファイルの設定値

フィールド	説明
<b>SIP プロファイル情報</b>	
Name	SIP プロファイルを識別する名前を入力します（たとえば、SIP_7905）。この値には、1 ~ 50 文字（英数字、ドット、ダッシュ、または下線を含む）を指定できます。
Description	SIP プロファイルの目的を指定します（たとえば、SIP for Model 7970）。
Default Telephony Event Payload Type	RFC2833 テレフォニー イベントのデフォルト ペイロード タイプを指定します。詳細については、RFC 2833 を参照してください。ほとんどの場合は、デフォルト値が適切なペイロード タイプです。変更すると DTMF トーンの受信や生成ができなくなる可能性があるため、必ずこのパラメータをよく理解した上で変更してください。デフォルト値は 101 です。96 ~ 127 の範囲で指定できます。  このパラメータの値は、次の状態のコールに影響を及ぼします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• コールが Cisco CallManager からの発信 SIP コールである。</li> <li>• 発信 SIP トランクに対して、SIP Trunk Configuration ウィンドウの Media Termination Point Required チェックボックスがオンである。</li> </ul>
Redirect by Application	このチェックボックスをオンにして、SIP トランクにこの SIP プロファイルを設定すると、Cisco CallManager 管理者は次の操作を行うことができるようになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 3xx 応答で受信されるリダイレクト コンタクトに特定のコーリングサーチ スペースを適用する。</li> <li>• リダイレクト コンタクトにディジット分析を適用し、コールが正しくルーティングされることを確認する。</li> <li>• サービス パラメータが設定できるリダイレクション（再帰リダイレクション）の数を制限することにより、DOS 攻撃（サービス拒絶攻撃）を防止する。</li> <li>• リダイレクション中に他の機能を起動できるようにする。</li> </ul> 制限付きの電話番号（国際番号など）にリダイレクトされるということは、スタック レベルでリダイレクションを処理すると、コールはブロックされずにルーティングされることを意味します。これは、Redirect by Application チェックボックスがオフの場合の動作です。  『Cisco CallManager システム ガイド』の「リダイレクション」を参照してください。

表 79-1 SIP プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
Disable Early Media on 180	<p>デフォルトでは、Cisco CallManager は、180 応答または 183 応答で SDP が受信されない場合、ローカル リングバックを再生するように、発信側の電話機に信号を送ります。180 応答または 183 応答に SDP が含まれている場合、ローカルでリングバックが再生されず、Cisco CallManager はメディアを接続し、発信側の電話機は着信側のデバイスが送信するトーン (リングバックやビジー信号など) を再生します。リングバックを受信しない場合は、接続先のデバイスが 180 応答に SDP を含めているが、200OK 応答の前にメディアを送信していない可能性があります。その場合は、このチェックボックスをオンにして、発信側の電話機でローカル リングバックを再生し、200OK 応答の受信時にメディアを接続します。</p> <p> (注) リングバックを受信する電話機は発信側の電話機ですが、着信側デバイスのプロファイル設定でこの動作が決まるため、着信側デバイスのプロファイルでこの設定が必要となります。</p> <p>『Cisco CallManager システム ガイド』の「初期メディアの使用」を参照してください。</p>
<b>電話機で使用されるパラメータ</b>	
Timer Invite Expires (seconds)	SIP INVITE が期限切れになるまでの時間を秒数で指定します。Expires ヘッダーはこの値を使用します。有効値は任意の正数です。デフォルトは 180 です。
Timer Register Delta (seconds)	このパラメータは、Timer Register Expires の設定値と共に使用します。電話機は、登録期間が終わる Timer Register Delta 秒前に再登録します。登録期間は、SIP Station Keepalive Interval サービス パラメータの値によって決まります。有効値の範囲は 32767 ~ 0 です。デフォルトは 5 です。
Timer Register Expires (seconds)	SIP 電話機が REGISTER メッセージの Expires ヘッダーで送信する値を指定します。有効値は任意の正数です。デフォルト値は 3600 (1 時間) です。REGISTER への 200OK 応答で、Cisco CallManager は、SIP Station KeepAlive Interval サービス パラメータの設定値を含む Expires ヘッダーを指定します。200OK 内のこの値によって、登録が期限切れになるまでの時間 (秒数) が決まります。電話機は、この期間が終わる Timer Register Delta 秒前に登録をリフレッシュします。
Timer T1 (msec)	SIP メッセージの再送信タイマーの最小値をミリ秒数で指定します。有効値は任意の正数です。デフォルトは 500 です。
Timer T2 (msec)	SIP メッセージの再送信タイマーの最大値をミリ秒数で指定します。有効値は任意の正数です。デフォルトは 4000 です。
Retry INVITE	INVITE 要求が再送信される最大回数を指定します。有効値は任意の正数です。デフォルトは 6 です。
Retry Non-INVITE	INVITE 要求以外の SIP メッセージが再送信される最大回数を指定します。有効値は任意の正数です。デフォルトは 10 です。
Start Media Port	メディア用の Real-Time Protocol (RTP) ポート範囲の始まりを指定します。メディア ポート範囲は 16384 ~ 32766 です。デフォルトは 16384 です。
Stop Media Port	メディア用の Real-Time Protocol (RTP) ポート範囲の終わりを指定します。メディア ポート範囲は 16384 ~ 32766 です。デフォルトは 32766 です。

表 79-1 SIP プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
Call Pickup URI	この URI では、SIP 電話機がコール ピックアップ機能を起動するために Cisco CallManager に送信する固有のアドレスを指定します。
Call Pickup Group Other URI	この URI では、SIP 電話機がコール ピックアップ グループの他の機能を起動するために Cisco CallManager に送信する固有のアドレスを指定します。
Call Pickup Group URI	この URI では、SIP 電話機がコール ピックアップ グループ機能を起動するために Cisco CallManager に送信する固有のアドレスを指定します。
Meet Me Service URI	この URI では、SIP 電話機が Meet-Me 会議機能を起動するために Cisco CallManager に送信する固有のアドレスを指定します。
Call Forward URI	この URI では、SIP 電話機が自動転送機能を起動するために Cisco CallManager に送信する固有のアドレスを指定します。
Abbreviated Dial URI	この URI では、SIP 電話機が固定短縮ダイヤル機能を起動するために Cisco CallManager に送信する固有のアドレスを指定します。  回線キーに関連付けられていない短縮ダイヤル (固定短縮ダイヤル インデックス) は、電話機にダウンロードされません。電話機は、機能表示メカニズム (Call-Info ヘッダーを含む INVITE) を使用して、固定短縮ダイヤル番号がいつ入力されたかを示します。要求 URI には固定短縮ダイヤル デジット (たとえば 14) が含まれ、Call-Info ヘッダーには固定短縮ダイヤル機能が示されます。Cisco CallManager は、固定短縮ダイヤル デジットを、設定済みの数字列に変換し、コールをその数字列で拡張します。固定短縮ダイヤル デジットに対して数字列が設定されていない場合、電話機に 404 Not Found 応答が返されます。
User Info	REGISTER メッセージ内の user= パラメータを設定します。  有効値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• none : 値は挿入されません。</li> <li>• phone : REGISTER の To ヘッダー、From ヘッダー、および Contact ヘッダーに user=phone という値が挿入されます。</li> <li>• ip : REGISTER の To ヘッダー、From ヘッダー、および Contact ヘッダーに user=ip という値が挿入されます。</li> </ul>
DTMF DB Level	インバンド DTMF デジットのトーン レベルを指定します。有効値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 : 公称より 6 dB 小さい</li> <li>• 2 : 公称より 3 dB 小さい</li> <li>• 3 : 公称</li> <li>• 4 : 公称より 3 dB 大きい</li> <li>• 5 : 公称より 6 dB 大きい</li> </ul>
KPML	キー プレス マークアップ言語を指定します。Signal only、DTMF only、None、および Both の中から選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• None : KPML はオフ</li> <li>• Signal only : コールの発信に必要な電話機からのデジット収集</li> <li>• DTMF only : コール確立後のアウトオブバンド DTMF デジットの転送 (たとえば、IVR システムにアクセスするため)</li> <li>• Both : Signal と DTMF の両方</li> </ul>

表 79-1 SIP プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
Call Hold Ring Back	<p>保留中のコールがある状態で別のコールで話をしていて、そのコールを切った場合、このパラメータがオンであると、電話機の呼び出し音が鳴って、まだ他に保留中の相手がいることを通知されます。有効値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Off: 常に使用不可です。ユーザ インターフェイスを使用してローカルでオン / オフを切り替えることはできません。</li> <li>On: 常に使用可能です。ユーザ インターフェイスを使用してローカルでオン / オフを切り替えることはできません。</li> </ul>
Anonymous Call Block	<p>番号非通知呼び出しのブロックを設定します。有効値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Off: 常に使用不可です。ユーザ インターフェイスを使用してローカルでオン / オフを切り替えることはできません。</li> <li>On: 常に使用可能です。ユーザ インターフェイスを使用してローカルでオン / オフを切り替えることはできません。</li> </ul>
Caller ID Blocking	<p>発信者 ID のブロッキングを設定します。ブロッキングが使用可能である場合、電話機はそれ自身の番号または電子メールアドレスを、発信者 ID が使用可能になっている電話機からブロックします。有効値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Off: 常に使用不可です。ユーザ インターフェイスを使用してローカルでオン / オフを切り替えることはできません。</li> <li>On: 常に使用可能です。ユーザ インターフェイスを使用してローカルでオン / オフを切り替えることはできません。</li> </ul>
Do Not Disturb Control	<p>Do Not Disturb (DND) 機能を設定します。有効値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>User controlled( デフォルト ): 電話機の dndControl パラメータが 0 になります。</li> <li>Admin Controlled: 電話機の dndControl パラメータが 2 になります。</li> </ul>
Telnet Level for 7940 and 7960	<p>Cisco SIP IP Phone モデル 7940 と 7960 は、ログイン アクセス用の SSH をサポートしません。また、ログ収集に使用される HTTP もサポートしません。ただし、これらの電話機は Telnet をサポートします。ユーザは、Telnet を使用して、電話機を制御したり、デバッグを収集したり、設定値を表示したりできます。このフィールドでは、指定可能な次の値で telnet_level 設定パラメータを制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Disabled ( アクセス不能 )</li> <li>Limited( 一部のアクセスは可能だが、特権コマンドを実行できない )</li> <li>Enabled ( フル アクセス )</li> </ul>
Timer Keep Alive Expires (seconds)	<p>Cisco CallManager は、冗長性のサポートにキープアライブ メカニズムを必要とします。このフィールドでは、フェールオーバーが必要になったときにバックアップ Cisco CallManager が使用可能であることを保証するために、バックアップ Cisco CallManager に送信されるキープアライブ メッセージの間隔を指定します。</p>
Timer Subscribe Expires (seconds)	<p>サブスクリプションが期限切れになるまでの時間を秒数で指定します。この値は、Expires ヘッダー フィールドに挿入されます。有効値は任意の正数です。デフォルト値は 120 です。</p>

表 79-1 SIP プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
Timer Subscribe Delta (seconds)	このパラメータは、Timer Subscribe Expires の設定値と共に使用します。電話機は、サブスクリプション期間 (Timer Subscribe Expires によって管理) が終わる Timer Subscribe Delta 秒前に再サブスクライブします。有効値の範囲は 3 ~ 15 です。デフォルトは 5 です。
Maximum Redirections	この設定変数を使用して、コールをドロップする前に電話機がコールのリダイレクトを許可する最大回数を指定します。デフォルトは 70 回のリダイレクトです。
Off Hook to First Digit Timer (microseconds)	電話の受話器が外されてから最初のディジット タイマーが設定されるまでの経過時間をミリ秒数で指定します。値の範囲は 0 ~ 15,000 ミリ秒です。デフォルトは 15,000 ミリ秒です。
Conference Join Enabled	このチェックボックスでは、SIP IP Phone 7940 または 7960 を使用している会議開始者が電話を切った場合、その電話機が残りの会議参加者を参加させようとするかどうかを指定します。残りの会議参加者を参加させる場合は、このチェックボックスをオンにします。残りの会議参加者を参加させない場合は、このチェックボックスをオフのままにします。   <b>(注)</b> このチェックボックスは、SRST モードの Cisco SIP IP Phone 7941/61/70/71/11 だけに適用されます。
RFC 2543 Hold	コール保留の信号が Cisco CallManager に送信される場合、RFC2543 に従って接続アドレスを 0.0.0.0 に設定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。この操作により、RFC3264 をサポートしないエンドポイントとの下位互換性を確保できます。
Semi Attended Transfer	このチェックボックスでは、Cisco SIP IP Phone 7940 および 7960 の発信者が、コールの呼び出し音が鳴っているときに、在籍転送の 2 番目のレッグを転送できるかどうかを指定します。準在席転送を使用可能にする場合は、このチェックボックスをオンにします。準在席転送を使用不可にする場合は、このチェックボックスをオフのままにします。   <b>(注)</b> このチェックボックスは、SRST モードの Cisco SIP IP Phone 7941/61/70/71/11 だけに適用されます。
Enable VAD	Voice Activation Detection (VAD) を使用可能にする場合は、このチェックボックスをオンにします。VAD を使用不可にする場合は、このチェックボックスをオフのままにします。VAD が使用可能である場合、音声検出時にメディアは伝送されません。

表 79-1 SIP プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
Stutter Message Waiting	電話機がオフフックになったときにメッセージが待機していると、スタッター ダイアル トーンが聞こえるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。メッセージが待機していてもスタッター ダイアル トーンが聞こえないようにする場合は、オフのままにします。
Call Stats	<p>BYE 要求および BYE 応答の RTP 統計情報を使用可能にする場合は、このチェックボックスをオンにします。BYE 要求および BYE 応答の RTP 統計情報を使用不可にする場合は、オフのままにします。</p> <p>このチェックボックスがオンである場合、電話機は次のようなヘッダー RTP-RxStat および RTP-TxStat を挿入します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• RTP-RxStat: Dur=a, Pkt=b, Oct=c, LatePkt=d, LostPkt=e, AvgJit=f</li> <li>• RTP-TxStat: Dur=g, Pkt=h, Oct=i</li> </ul> <p>それぞれの説明は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Dur: 受信開始または送信開始からの合計秒数。</li> <li>• Pkt: 受信または送信された RTP パケットの合計数。</li> <li>• Oct: 受信または送信された RTP ペイロード オクテットの合計数 (RTP ヘッダーは含みません)。</li> <li>• LatePkt: 受信された RTP パケットの合計遅延数。</li> <li>• LostPkt: 受信された RTP パケットの合計損失数 (RTP パケットの遅延は含みません)。</li> <li>• AvgJit: 平均ジッタ。これは、タイムスタンプ単位で測定され、RFC 1889 に従って算出された、RTP パケット到達時間ごとの統計的なばらつきの概算値です。</li> <li>• a、b、c、d、e、f、g、h、i: 整数。</li> </ul>

## SIP プロファイルの削除

SIP プロファイルを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

SIP プロファイルを使用しているデバイスを検索するには、SIP Profile Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **Dependency Records** リンクを選択します。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。

### 手順

- 
- ステップ 1** 削除する SIP プロファイルを見つけます。[P.79-2 の「SIP プロファイルの検索」](#)を参照してください。
- ステップ 2** SIP Profile Configuration ウィンドウで、**Delete** をクリックします。
- この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 3** SIP プロファイルを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。
- 

### 追加情報

[P.79-12 の「関連項目」](#)を参照してください。

## SIP プロファイルのリセット

SIP プロファイルをリセットする手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** Cisco CallManager Administration で、**Device > Device Settings> SIP Profile** の順に選択します。

**ステップ 2** リセットする SIP プロファイルを見つけます。P.79-2 の「[SIP プロファイルの検索](#)」を参照してください。

**ステップ 3** リセットする SIP プロファイルをクリックします。

SIP Profile Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** **Reset** をクリックします。

Device Reset ダイアログが表示されます。

**ステップ 5** 次のいずれかの項目をクリックします。

- **Restart** : 選択されたデバイスをシャットダウンせずに再起動します (電話機とトランクを Cisco CallManager に再登録します)。
  - **Reset** : デバイスをシャットダウンしてから再起動します。
  - **Close** : 何も実行しないで、Reset Device ダイアログを閉じます。
- 

### 追加情報

P.79-12 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [SIP プロファイルの検索 \( P.79-2 \)](#)
- [SIP プロファイルの設定 \( P.79-3 \)](#)
- [SIP プロファイルの設定値 \( P.79-4 \)](#)
- [SIP プロファイルの削除 \( P.79-10 \)](#)
- [SIP プロファイルのリセット \( P.79-11 \)](#)
- [Cisco IP Phone の設定 \( P.70-3 \)](#)
- [トランクの設定 \( P.71-3 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「セッション開始プロトコル ( SIP ) の概要」



## 共通電話プロファイルの設定

---

共通電話プロファイルは、Cisco TFTP が必要とするデータを提供します。共通電話プロファイルの設定後、Phone Configuration ウィンドウを使用して、SCCP 電話機または SIP 電話機を共通電話プロファイルに関連付けます。

共通電話プロファイルの検索と設定をするには、次のトピックを参照してください。

- [共通電話プロファイルの検索 \(P.80-2\)](#)
- [共通電話プロファイルの設定 \(P.80-3\)](#)
- [共通電話プロファイルの設定値 \(P.80-4\)](#)
- [共通電話プロファイルの削除 \(P.80-5\)](#)
- [関連項目 \(P.80-6\)](#)

## 共通電話プロフィールの検索

Find and List Common Phone Profile ウィンドウを使用して、共通電話プロフィールを検索する手順は、次のとおりです。この機能は、次のカテゴリに基づいて、あらゆるタイプの共通電話プロフィールを検索します。

- Name
- Description

### 手順

**ステップ 1** Device > Device Settings > Common Phone Profile の順に選択します。

Find and List Common Phone Profiles ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 最初の Find Common Profile ドロップダウン リスト ボックスから、共通電話プロフィールの検索に使用するフィールドを選択します (たとえば、Name、Description)。



**(注)** データベースに登録されている共通電話プロフィールをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。検索条件と一致する共通電話プロフィールのリストが表示されます。

**ステップ 3** 2 番目の Find Common Phone Profile ドロップダウン リスト ボックスから、テキスト検索の検索パターンを選択します (たとえば、begins with、contains、ends with)。

**ステップ 4** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。

検索条件と一致するレコードが表示されます。Rows per Page ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



**ヒント** 検索結果内で共通電話プロフィールを検索するには、**Search Within Results** チェックボックスをオンにし、このステップの説明に従って検索条件を入力します。



**(注)** 該当する共通電話プロフィールの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、複数の共通電話プロフィールを削除できます。**Select All** をクリックして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべての共通電話プロフィールを削除できます。



**(注)** 標準の共通電話プロフィールを削除することはできません。

**ステップ 5** 検索条件と一致するレコードのリストから、表示する共通電話プロフィールの名前をクリックします。

Common Phone Profile Configuration ウィンドウが表示され、選択した共通電話プロフィールが示されます。

---

#### 追加情報

P.80-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 共通電話プロフィールの設定

共通電話プロフィールを追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。

#### 手順

---

**ステップ 1** Device > Device Settings > Common Phone Profile の順に選択します。

Find and List Common Phone Profiles ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。

- 既存の共通電話プロフィールをコピーする場合は、適切な共通電話プロフィールを見つけ (P.80-2 の「[共通電話プロフィールの検索](#)」を参照)、コピーする共通電話プロフィールの横にある Copy ボタンをクリックして、[ステップ 3](#) に進みます。
- 新しい共通電話プロフィールを追加する場合は、Add New ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存の共通電話プロフィールを更新する場合は、適切な共通電話プロフィールを見つけ (P.80-2 の「[共通電話プロフィールの検索](#)」を参照)、[ステップ 3](#) に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 80-1 を参照)。

**ステップ 4** Save をクリックします。

---

#### 追加情報

P.80-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 共通電話プロフィールの設定値

表 80-1 では、Common Phone Profile Configuration ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。関連手順の詳細については、P.80-6 の「関連項目」を参照してください。

表 80-1 共通電話プロフィールの設定値

フィールド	説明
<b>共通電話プロフィールの情報</b>	
Name	共通電話プロフィールを識別する名前を入力します（たとえば、CPP_7905）。この値には、1 ~ 50 文字（英数字、ドット、ダッシュ、または下線を含む）を指定できます。
Description	共通電話プロフィールの目的を指定します（たとえば、common phone profile for model 7905）。
Local Phone Unlock Password	ローカル電話機のロック解除に使用するパスワードを入力します。1 ~ 15 文字を指定できます。
Enable End User Access to Phone Background Image Setting	この共通電話プロフィールを使用する電話機のバックグラウンドイメージをエンド ユーザが変更できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。

## 共通電話プロファイルの削除

共通電話プロファイルを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

共通電話プロファイルを使用しているデバイスを検索するには、Common Phone Profile Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **Dependency Records** リンクを選択します。Dependency Records がシステムに対して使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** 削除する共通電話プロファイルを検索します。[P.80-2 の「共通電話プロファイルの検索」](#)を参照してください。



**(注)** 標準の共通電話プロファイルを削除することはできません。

- ステップ 2** Common Phone Profile Configuration ウィンドウで、**Delete** をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

- ステップ 3** 共通電話プロファイルを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。

### 追加情報

[P.80-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

- [共通電話プロファイルの検索 \( P.80-2 \)](#)
- [共通電話プロファイルの設定 \( P.80-3 \)](#)
- [共通電話プロファイルの設定値 \( P.80-4 \)](#)
- [共通電話プロファイルの削除 \( P.80-5 \)](#)
- [Cisco IP Phone の設定 \( P.70-1 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco TFTP」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「セッション開始プロトコル ( SIP ) の概要」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP Phone」



## PART 7

### アプリケーションの設定







## Cisco IPMA Configuration Wizard

---

Cisco IPMA Configuration Wizard を使用すると、短時間でエラーを出さずに IPMA を設定できます。管理者がこの設定ウィザードを正しく実行して完了すると、パーティション、コーリング サーチスペース、ルート ポイント、および変換パターンが自動的に作成されます。また、IPMA マネージャ電話機、IPMA アシスタント電話機、およびその他すべてのユーザの電話機用の BAT テンプレートも作成されます。管理者は BAT テンプレートを使用して、マネージャ、アシスタント、およびその他すべてのユーザを設定できます。『Cisco CallManager Bulk Administration Tool ユーザガイド』を参照してください。

Cisco IPMA Configuration Wizard では、設定パラメータごとにウィンドウが表示されます。これらのウィンドウでは、情報がすでに設定されています。管理者が他の設定情報（たとえば、パーティション名）を使用する場合、設定済みの情報を適切な情報に変更することができます。

Cisco IPMA Configuration Wizard の使用方法の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービスガイド』の「Cisco IPMA Configuration Wizard」を参照してください。





## Cisco CallManager Attendant Console パイロット ポイントの設定

クライアント サーバ型のアプリケーションである Cisco CallManager Attendant Console では、短縮ダイヤル ボタンやクイック ディレクトリ アクセスを含むグラフィカル ユーザ インターフェイスを使用して、電話番号の検索、回線状況の監視、およびコールの送信を行うことができます。Attendant Console を使用すると、受付や庶務担当の方が担当部門または全社のコールを処理でき、また社員が自分の通話を管理することもできます。

Cisco CallManager Attendant Console の詳細と設定手順については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco CallManager Attendant Console」を参照してください。





## Cisco CallManager Attendant Console ユーザの設定

---

クライアントサーバ型のアプリケーションである Cisco CallManager Attendant Console では、短縮ダイヤル ボタンやクイック ディレクトリ アクセスを含むグラフィカル ユーザ インターフェイスを使用して、電話番号の検索、回線状況の監視、およびコールの送信を行うことができます。Attendant Console を使用すると、受付や庶務担当の方が担当部門または全社のコールを処理でき、また社員が自分の通話を管理することもできます。

Cisco CallManager Attendant Console の詳細と設定手順については、『*Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド*』の「Cisco CallManager Attendant Console」を参照してください。





# Cisco CallManager Attendant Console ユーザのファイルアップロード

クライアントサーバ型のアプリケーションである Cisco CallManager Attendant Console では、短縮ダイヤル ボタンやクイック ディレクトリ アクセスを含むグラフィカル ユーザ インターフェイスを使用して、電話番号の検索、回線状況の監視、およびコールの送信を行うことができます。Attendant Console を使用すると、受付や庶務担当の方が担当部門または全社のコールを処理でき、また社員が自分の通話を管理することもできます。

Cisco CallManager Attendant Console の詳細と設定手順については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco CallManager Attendant Console」を参照してください。





## プラグインの設定

---

アプリケーション プラグインによって、Cisco CallManager の機能がさまざまに拡張されます。たとえば、Cisco CallManager Attendant Console プラグインによって、受け付け担当者は、迅速にコールに応答し、コールを社内に転送することができます。また、JTAPI プラグインによって、コンピュータは、Java Telephony Application Programming Interface ( JTAPI ) を使用して Cisco CallManager にアクセスするアプリケーションを運用することができます。

ここでは、次の内容について説明します。

- [プラグインのインストール \(P.85-2\)](#)
- [プラグイン URL 更新 \(P.85-3\)](#)
- [プラグイン URL 更新の設定値 \(P.85-4\)](#)

## プラグインのインストール



### ヒント

Cisco CallManager をアップグレードした後は、Cisco CDR Analysis and Reporting プラグインを除くすべてのプラグインを再インストールする必要があります。

プラグインをインストールする場合は、インストール先のサーバで動作している侵入検知やアンチウィルスのサービスを事前に使用不可にしておいてください。

プラグインをインストールする手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** Application > Plugins の順に選択します。

Find and List Plugins ウィンドウが表示されます。ドロップダウン リスト ボックスを使用して、使用可能なプラグイン アプリケーションを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find Plugins ウィンドウのドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Name
- Description

2 番目の Find Plugins ウィンドウのドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- is exactly (完全一致)
- ends with (後方一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

Plugin Type ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Application Menu
- Installation
- User Menu
- Telecaster Menu

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。



### ヒント

使用可能なすべてのプラグインを検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

**ステップ 4** インストールするプラグイン名をクリックします。

**ステップ 5** Download リンクをクリックし、プラグインをダウンロードします。

**ステップ 6** インストレーション ウィザードの指示に従って、インストレーションを実行します。

---

#### 関連項目

- [プラグインの設定 \(P.85-1\)](#)
- [プラグイン URL 更新 \(P.85-3\)](#)

## プラグイン URL 更新

Cisco CallManager のインストール プロセス中、Plugins テーブルに追加されたレコードは、Application ドロップダウン メニューを構築するために Administration アプリケーションが使用する URL を指定します。Domain Name Server (DNS; ドメイン ネーム サーバ) が、インストール時に構築される URL の基礎を提供します。DNS が変更されても、URL は更新されません。

プラグイン URL の URL を更新する手順は、次のとおりです。

#### 手順

---

**ステップ 1** Application > Plugins の順に選択します。

Find and List Plugins ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ドロップダウン リスト ボックスから、プラグイン名とプラグイン タイプを選択します。

**ステップ 3** 更新するプラグイン名をクリックします。

Update Plugin URL ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** Custom URL フィールドに URL を入力します。

**ステップ 5** ツールバーに表示される Save アイコン (ウィンドウの左上隅) をクリックするか、またはウィンドウの下部に表示される Save ボタンをクリックして、URL を更新および保存します。

---

#### 関連項目

- [プラグインの設定 \(P.85-1\)](#)
- [プラグインのインストール \(P.85-2\)](#)

## プラグイン URL 更新の設定値

表 85-1 では、プラグイン URL 更新の設定値について説明します。

表 85-1 プラグイン URL 更新の設定値

フィールド	説明
<b>プラグインの設定値</b>	
Plugin Name	ドロップダウン リスト ボックスから、URL を変更するプラグイン名、たとえば、Cisco CallManager Attendant Console などを選択します。
Plugin Type	ドロップダウン リスト ボックスから、URL を変更するプラグイン タイプ、たとえば、アプリケーションまたはインストレーションを選択します。
URL	URL は自動的に表示されます。
Custom URL	カスタム URL には英数字のみを使用します。
Show Plugin on User Option Pages	ユーザ オプション ウィンドウにこのプラグインを表示するには、このチェックボックスをオンにします。



## PART 8

### ユーザ管理の設定







## アプリケーション ユーザの設定

Cisco CallManager Administration の Application User Configuration ウィンドウを使用すると、システム管理者は、Cisco CallManager アプリケーション ユーザに関する情報を追加、検索、表示、および保持することができます。

次のトピックでは、アプリケーション ユーザ情報の管理について説明します。

- [アプリケーション ユーザの検索 \(P.86-2\)](#)
- [アプリケーション ユーザの追加 \(P.86-3\)](#)
- [アプリケーション ユーザの設定値 \(P.86-4\)](#)
- [アプリケーション ユーザのパスワードの変更 \(P.86-8\)](#)
- [アプリケーション ユーザのアプリケーション プロファイルの設定 \(P.86-8\)](#)
- [アプリケーション ユーザとデバイスとの関連付け \(P.86-9\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザの設定 チェックリストの管理」

### 追加情報

[P.86-10](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## アプリケーション ユーザの検索

ネットワーク内には複数のアプリケーション ユーザが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定のアプリケーション ユーザを見つけることができます。アプリケーション ユーザを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、アプリケーション ユーザの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、アプリケーション ユーザの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** User Management > Application User の順に選択します。

Find and List Application Users ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、アプリケーション ユーザを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find application user where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準を選択します。

- User ID

2 番目の Find application user where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- is exactly (完全一致)
- ends with (後方一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されているアプリケーション ユーザをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたアプリケーション ユーザのリストが、次の項目別に表示されます。

- User ID



(注)

該当するアプリケーション ユーザの横にあるチェックボックスをオンにして、Delete Selected をクリックすると、Find and List application users ウィンドウから複数のアプリケーション ユーザを削除できます。Select All をクリックして Delete Selected をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのアプリケーション ユーザ(デフォルトのアプリケーション ユーザを除く)を削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致するアプリケーション ユーザ名をクリックします。

選択したアプリケーション ユーザがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.86-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## アプリケーション ユーザの追加

ユーザを追加する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unity Administrator または Cisco Unity Connection Administrator のアプリケーション ユーザを追加する場合は、Cisco Unity Administration および Cisco Unity Connection Administration で定義したものと同一ユーザ名とパスワードを使用する必要があります。『Cisco CallManager 5.0 Integration Guide for Cisco Unity 4.0』または『Cisco CallManager 5.0 SCCP Integration Guide for Cisco Unity Connection 2.1』を参照してください。このユーザ ID によって、Cisco Unity または Cisco Unity Connection と Cisco CallManager Administration の間の認証が可能になります。

#### 手順

**ステップ 1** User Management > Application User の順に選択します。

Find and List Application Users ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、アプリケーション ユーザを検索します。

**ステップ 2** Add New をクリックします。

Application User Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 86-1 を参照)。

**ステップ 4** ユーザ情報の入力を完了したら、Save をクリックし、変更内容を保存してユーザを追加します。

#### 次の手順

このアプリケーション ユーザにデバイスを関連付ける場合は、後述の「[アプリケーション ユーザとデバイスとの関連付け](#)」の手順に進みます。

#### 追加情報

P.86-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## アプリケーション ユーザの設定値

表 86-1 では、アプリケーション ユーザの設定値について説明します。関連手順については、P.86-10 の「関連項目」を参照してください。

表 86-1 アプリケーション ユーザの設定値

フィールド	説明
<b>アプリケーション ユーザ情報</b>	
User ID	アプリケーション ユーザの識別名を入力します。Cisco CallManager では、ユーザ ID の作成後の変更はできません。特殊文字（ダッシュ (-)、下線 (_)、" ") およびブランクを使用できます。
Password	アプリケーション ユーザ パスワードとなる 5 文字以上の英数字または特殊文字を入力します。
Confirm Password	ユーザ パスワードをもう一度入力します。
Digest Credentials	ダイジェスト認証中に Cisco CallManager が UAS として機能する場合、このフィールドに指定するダイジェスト資格情報が認証確認に使用されます。一連の英数字を入力します。  ダイジェスト認証については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
Confirm Digest Credentials	ダイジェスト資格情報を正しく入力したことを確認するために、このフィールドにその資格情報を入力します。
Presence Group	このフィールドには、プレゼンス機能を設定します。   <b>(注)</b> このアプリケーション ユーザをプレゼンスで使用しない場合は、プレゼンス グループをデフォルト (None) 設定のままにします。  ドロップダウン リスト ボックスから、アプリケーション ユーザ用のプレゼンス グループを選択します。選択したグループによって、アプリケーション ユーザ (IPMASysUser など) が監視できる対象が指定されます。  インストール時に、標準のプレゼンス グループが設定されます。Cisco CallManager Administration で設定されたプレゼンス グループもドロップダウン リスト ボックスに表示されます。  プレゼンス認可は、プレゼンス グループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。グループ間で権限を設定する方法については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。

表 86-1 アプリケーション ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
Accept Presence Subscription	<p>このフィールドには、プレゼンス認可用のプレゼンス機能を設定します。</p> <p>トランクに適用される SIP トランク セキュリティ プロファイル設定で、アプリケーションレベルの認可を使用可能にした場合は、Cisco CallManager がアプリケーションレベルの認可を行います。</p> <p>Cisco CallManager がこの SIP トランク アプリケーション ユーザからのプレゼンス要求を受け入れることができるようにするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Application User Configuration ウィンドウでこのチェックボックスをオンにしたが、トランクに適用される SIP トランク セキュリティ プロファイル設定で Enable Application Level Authorization チェックボックスをオンしていない場合は、Cisco CallManager によって、トランクに接続されている SIP ユーザ エージェントに 403 エラー メッセージが送信されます。</p> <p>認可の詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。</p>
Accept Out-of-Dialog Refer	<p>トランクに適用される SIP トランク セキュリティ プロファイル設定で、アプリケーションレベルの認可を使用可能にした場合は、Cisco CallManager がアプリケーションレベルの認可を行います。</p> <p>Cisco CallManager がこの SIP トランク アプリケーション ユーザからの Out-of-Dialog REFER 要求を受け入れることができるようにするには、このチェックボックスをオンにします。たとえば、SIP で開始される転送機能や他の高度な転送関連機能を使用するには、Cisco CallManager がこのアプリケーション ユーザの着信 Out-of-Dialog REFER 要求を受け入れることができるようにする必要があります。</p> <p>Application User Configuration ウィンドウでこのチェックボックスをオンにしたが、トランクに適用される SIP トランク セキュリティ プロファイル設定で Enable Application Level Authorization チェックボックスをオンしていない場合は、Cisco CallManager によって、トランクに接続されている SIP ユーザ エージェントに 403 エラー メッセージが送信されます。</p> <p>認可の詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>

表 86-1 アプリケーション ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
Accept Unsolicited Notification	<p>トランクに適用される SIP トランク セキュリティ プロファイル設定で、アプリケーションレベルの認可を使用可能にした場合は、Cisco CallManager がアプリケーションレベルの認可を行います。</p> <p>Cisco CallManager がこの SIP トランク アプリケーション ユーザからの任意通知を受け入れることができるようにするには、このチェックボックスをオンにします。たとえば、MWI サポートを提供するには、Cisco CallManager がこのアプリケーション ユーザの着信任意通知を受け入れることができるようにする必要があります。</p> <p>Application User Configuration ウィンドウでこのチェックボックスをオンにしたが、トランクに適用される SIP トランク セキュリティ プロファイル設定で Enable Application Level Authorization チェックボックスをオンしていない場合は、Cisco CallManager によって、トランクに接続されている SIP ユーザ エージェントに 403 エラー メッセージが送信されます。</p> <p>認可の詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
Accept Header Replacement	<p>トランクに適用される SIP トランク セキュリティ プロファイル設定で、アプリケーションレベルの認可を使用可能にした場合は、Cisco CallManager がアプリケーションレベルの認可を行います。</p> <p>Cisco CallManager がこの SIP トランク アプリケーション ユーザからのメッセージのヘッダー置換を受け入れることができるようにするには、このチェックボックスをオンにします。たとえば、SIP トランク上の外部コールを、在席転送の場合と同様に、外部のデバイスまたは相手に転送するには、このアプリケーション ユーザの REFER および INVITE 内に Replaces ヘッダーを含む SIP 要求を Cisco CallManager が受け入れることができるようにする必要があります。</p> <p>Application User Configuration ウィンドウでこのチェックボックスをオンにしたが、トランクに適用される SIP トランク セキュリティ プロファイル設定で Enable Application Level Authorization チェックボックスをオンしていない場合は、Cisco CallManager によって、トランクに接続されている SIP ユーザ エージェントに 403 エラー メッセージが送信されます。</p> <p>認可の詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
<b>CAPF 情報</b>	
Associated CAPF Profiles	<p>ユーザのアプリケーション ユーザ CAPF プロファイルを設定した場合は、Associated CAPF Profile ペインに、アプリケーション ユーザ CAPF プロファイルのインスタンス ID が表示されます。プロファイルを編集するには、インスタンス ID をクリックし、<b>Edit Profile</b> をクリックします。Application User CAPF Profile Configuration ウィンドウが表示されます。</p> <p>アプリケーション ユーザ CAPF プロファイルを設定する方法については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>

表 86-1 アプリケーション ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>デバイス情報</b>	
Available Devices	<p>このリスト ボックスには、このアプリケーション ユーザとのアソシエーションに使用できるデバイスが表示されます。</p> <p>デバイスをこのアプリケーション ユーザに関連付けるには、デバイスを選択し、このリスト ボックスの下にある下矢印をクリックします。</p> <p>このアプリケーション ユーザに関連付けるデバイスがこのペインに表示されない場合は、次のボタンのいずれかをクリックして、他のデバイスを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Find more Phones</b> : このアプリケーション ユーザに関連付ける他の電話機を検索する場合は、このボタンをクリックします。電話機を検索するための Find and List Phones ウィンドウが表示されます。</li> <li>• <b>Find more Route Points</b> : このアプリケーション ユーザに関連付ける他のルート ポイントを検索する場合は、このボタンをクリックします。CTI ルート ポイントを検索するための Find and List CTI Route Points ウィンドウが表示されます。</li> <li>• <b>Find more Pilot Points</b> : このアプリケーション ユーザに関連付ける他のパイロット ポイントを検索する場合は、このボタンをクリックします。パイロット ポイントを検索するための Find and List Pilot Points ウィンドウが表示されます。</li> </ul>
<b>権限情報</b>	
Groups	このリスト ボックスは、アプリケーション ユーザが追加された後に表示されます。このリスト ボックスには、アプリケーション ユーザが属するグループが表示されます。
Roles	このリスト ボックスは、アプリケーション ユーザが追加された後に表示されます。このリスト ボックスには、アプリケーション ユーザに割り当てられているロールが表示されます。

**追加情報**

P.86-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## アプリケーション ユーザのパスワードの変更

アプリケーション ユーザのパスワードを変更する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** P.86-2 の「[アプリケーション ユーザの検索](#)」の手順を使用して、パスワードを変更するアプリケーション ユーザを見つけます。

Application User Configuration ウィンドウが表示され、選択したアプリケーション ユーザの情報が示されます。

**ステップ 2** Password フィールドで、暗号化されている既存のパスワードをダブルクリックし、新しいパスワードを入力します。

**ステップ 3** Confirm Password フィールドで、暗号化されている既存のパスワードをダブルクリックし、新しいパスワードをもう一度入力します。

**ステップ 4** Save をクリックします。

---

### 追加情報

P.86-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## アプリケーション ユーザのアプリケーション プロファイルの設定

新しいアプリケーション ユーザの追加後、各アプリケーションのプロファイルを設定できます。各アプリケーション ユーザはこれらのプロファイルを使用して、電話機の機能、Cisco IPMA、Cisco CallManager エクステンション モビリティ、自動アテンダント、および Cisco IP SoftPhone の機能を個別に設定することができます。

### 始める前に

アプリケーション ユーザがデータベース内で設定されていることを確認します。詳細については、P.86-2 の「[アプリケーション ユーザの検索](#)」を参照してください。

### 追加情報

P.86-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## アプリケーション ユーザとデバイスとの関連付け

アプリケーション ユーザにデバイスを関連付け、アプリケーション ユーザがそのデバイスのコントロール権を持つようにすることができます。電話機などの一部のデバイスは、アプリケーション ユーザが制御できます。CTI ポートなどのその他のデバイスは、ユーザとして指定されるアプリケーションによって制御できます。アプリケーション ユーザが電話機のコントロール権を持つ場合、その電話機の特定の設定値（たとえば、短縮ダイヤルや自動転送）を制御できます。

### 始める前に

アプリケーション ユーザにデバイスを割り当てるには、そのユーザの Application User Configuration ウィンドウにアクセスする必要があります。既存のアプリケーション ユーザを見つける方法については、P.86-2 の「[アプリケーション ユーザの検索](#)」を参照してください。Application User Configuration ウィンドウが表示された後で、デバイスを割り当てる手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Available Devices リスト ボックスで、アプリケーション ユーザに関連付けるデバイスを選択し、リスト ボックスの下にある下矢印をクリックします。
  - ステップ 2** 使用可能なデバイスのリストを制限するには、**Find more Phones** ボタン、**Find more Route Points** ボタン、または **Find more Pilot Points** ボタンをクリックします。
    - Find more Phones ボタンをクリックすると、Find and List Phones ウィンドウが表示されます。検索を実行して、このアプリケーション ユーザに関連付ける電話機を見つけます。
    - Find more Route Points ボタンをクリックすると、Find and List CTI Route Points ウィンドウが表示されます。検索を実行して、このアプリケーション ユーザに関連付ける CTI ルート ポイントを見つけます。
    - Find more Pilot Points ボタンをクリックすると、Find and List Pilot Points ウィンドウが表示されます。検索を実行して、このアプリケーション ユーザに関連付けるパイロット ポイントを見つけます。
  - ステップ 3** アプリケーション ユーザに割り当てるデバイスごとに、以上のステップを繰り返します。
  - ステップ 4** 割り当てを完了したら、**Save** をクリックして、アプリケーション ユーザにデバイスを割り当てます。
- 

### 追加情報

[P.86-10 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

- [アプリケーション ユーザの検索 \( P.86-2 \)](#)
- [アプリケーション ユーザの追加 \( P.86-3 \)](#)
- [アプリケーション ユーザの設定値 \( P.86-4 \)](#)
- [アプリケーション ユーザのパスワードの変更 \( P.86-8 \)](#)
- [アプリケーション ユーザのアプリケーション プロファイルの設定 \( P.86-8 \)](#)
- [アプリケーション ユーザとデバイスとの関連付け \( P.86-9 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「デバイスの関連付け」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザの設定 チェックリストの管理」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity メッセージングの統合」
- [LDAP システムの設定 \( P.12-1 \)](#)
- [電話番号の設定 \( P.49-1 \)](#)
- [CTI ルート ポイントの設定 \( P.67-1 \)](#)
- [Cisco IP Phone の設定 \( P.70-1 \)](#)
- [ロールの設定 \( P.88-1 \)](#)
- [ユーザ グループの設定 \( P.89-1 \)](#)
- 『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco CallManager エクステンション モビリティ」
- 『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」
- [Cisco CallManager セキュリティ ガイド](#)



# エンド ユーザの設定

Cisco CallManager Administration の End User Configuration ウィンドウを使用すると、システム管理者は、Cisco CallManager のエンド ユーザに関する情報を追加、検索、表示、および保持することができます。



(注)

LDAP サーバとの同期が使用可能でない場合に限り、エンド ユーザ情報を変更できます。LDAP サーバとの同期が使用可能であるかどうかを調べるには、**System > LDAP > LDAP System** メニュー オプションを使用します。表示される LDAP System ウィンドウで、Enable Synchronizing from LDAP Server チェックボックスがオフであることを確認します。同期が使用可能である場合、エンド ユーザ データを表示できますが、変更することはできません。

次のトピックでは、エンド ユーザ ディレクトリ情報の管理について説明します。

- [エンド ユーザの検索 \(P.87-2\)](#)
- [エンド ユーザの追加 \(P.87-3\)](#)
- [Cisco Unity または Cisco Unity Connection のボイスメールボックスの作成 \(P.87-4\)](#)
- [エンド ユーザの設定値 \(P.87-6\)](#)
- [エンド ユーザのパスワードの変更 \(P.87-10\)](#)
- [エンド ユーザの PIN の変更 \(P.87-10\)](#)
- [エンド ユーザのユーザ関連情報の設定 \(P.87-11\)](#)
- [エンド ユーザとデバイスとの関連付け \(P.87-12\)](#)
- [Cisco CallManager エクステンション モビリティ プロファイルの関連付け \(P.87-14\)](#)
- [エンド ユーザの削除 \(P.87-15\)](#)

## 追加情報

[P.87-16 の「関連項目」](#)を参照してください。

## エンドユーザの検索

ネットワーク内には複数のエンドユーザが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定のエンドユーザを見つけることができます。エンドユーザを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、エンドユーザの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、エンドユーザの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** User Management > End User の順に選択します。

Find and List Users ウィンドウが表示されます。2つのドロップダウンリストボックスを使用して、エンドユーザを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find user where ドロップダウンリストボックスから、エンドユーザの検索に使用するフィールドを選択します（たとえば、First Name、Last Name、User ID）。



(注)

データベースに登録されているエンドユーザをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。検索条件と一致するエンドユーザのリストが表示されます。

**ステップ 3** 2番目の Find end user where ドロップダウンリストボックスから、テキスト検索の検索パターンを選択します（たとえば、begins with、contains、ends with）。

**ステップ 4** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。

検索条件と一致するレコードが表示されます。Rows per Page ドロップダウンリストボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



ヒント

検索結果内でエンドユーザを検索するには、**Search Within Results** チェックボックスをオンにし、このステップの説明に従って検索条件を入力します。



(注)

該当するエンドユーザの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List users ウィンドウから複数のエンドユーザを削除できます。**Select All** をクリックして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのエンドユーザを削除できます。

**ステップ 5** 検索条件と一致するレコードのリストから、表示するエンド ユーザのユーザ ID をクリックします。

End User Configuration ウィンドウに、選択したエンド ユーザが表示されます。

#### 追加情報

P.87-16 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## エンド ユーザの追加

エンド ユーザを追加する手順は、次のとおりです。



(注)

LDAP サーバとの同期が使用可能でない場合に限り、エンド ユーザ情報を変更できます。LDAP サーバとの同期が使用可能であるかどうかを調べるには、**System > LDAP > LDAP System** メニュー オプションを使用します。表示される LDAP System ウィンドウで、Enable Synchronizing from LDAP Server チェックボックスがオフであることを確認します。同期が使用可能である場合、エンド ユーザ データを表示できますが、変更することはできません。

#### 手順

**ステップ 1** User Management > End User の順に選択します。

Find and List End Users ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、エンド ユーザを検索します。

**ステップ 2** Add New をクリックします。

End User Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します ( [表 87-1](#) を参照 )。

**ステップ 4** エンド ユーザ情報の入力を完了したら、Save をクリックし、変更内容を保存してエンド ユーザを追加します。

#### 次の手順

このエンド ユーザにデバイスを関連付ける場合は、後述の「[エンド ユーザとデバイスとの関連付け](#)」の手順に進みます。

#### 追加情報

P.87-16 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco Unity または Cisco Unity Connection のボイスメールボックスの作成

End User Configuration ウィンドウの「Create Cisco Unity User」リンクを使用すると、Cisco CallManager Administration から個々に Cisco Unity および Cisco Unity Connection のボイスメールボックスを作成できます。



(注)

「Create Cisco Unity User」リンクは、Cisco Unity 管理者が適切なソフトウェアをインストールして設定した場合に限り、表示されます。『Cisco CallManager 5.0 Integration Guide for Cisco Unity 4.0』または『Cisco CallManager 5.0 SCCP Integration Guide for Cisco Unity Connection 1.1』を参照してください。

### 始める前に

- ボイス メッセージ用に Cisco CallManager を設定する。『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」を参照してください。
- Cisco Unity サーバを設定する。Cisco Unity および Cisco Unity Connection のマニュアルを参照してください。
- Cisco Unity Cisco CallManager Integrated Voice Mailbox Configuration が Cisco Unity サーバまたは Cisco Unity Connection サーバで使用可能になっていることを確認する。『Cisco CallManager 5.0 Integration Guide for Cisco Unity 4.0』または『Cisco CallManager 5.0 SCCP Integration Guide for Cisco Unity Connection 1.1』を参照してください。
- Cisco RIS Data Collector サービスがアクティブになっていることを確認する。『Cisco CallManager Serviceability システム ガイド』および『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』を参照してください。
- Create Cisco Unity User リンクが表示される前に、デバイスとエンドユーザを関連付ける。リンクは Primary Extension フィールドの横に表示されます。
- Create Cisco Unity User リンクを表示するために、ボイスメール プロファイルとプライマリ内線の電話番号が関連付けられていることを確認する。P.49-4 の「電話番号の設定」を参照してください。



(注)

Directory Number Configuration ウィンドウにも「Create Cisco Unity User」リンクがあります。

### 手順

- ステップ 1** デバイスをエンドユーザに関連付けるために、User Management > End User の順に選択します (P.87-12 の「エンドユーザとデバイスとの関連付け」を参照)。
- ステップ 2** 適切な設定値を入力します (表 87-1 を参照)。



(注)

プライマリ内線を定義したことを確認してください。定義していないと、Related Links ドロップダウン リスト ボックスに「Create Cisco Unity User」リンクが表示されません。

**ステップ 3** ウィンドウの右上隅にある Related Links ドロップダウン リスト ボックスから、「Create Cisco Unity User」リンクを選択し、Go をクリックします。

Add Cisco Unity User ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 4** Application Server ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unity ユーザまたは Cisco Unity Connection ユーザを作成する Cisco Unity サーバまたは Cisco Unity Connection サーバを選択し、Next をクリックします。

**ステップ 5** Subscriber Template ドロップダウン リスト ボックスから、使用する登録者テンプレートを選択します。

**ステップ 6** Save をクリックします。

Cisco Unity メールボックスが作成されます。End User Configuration ウィンドウで、Related Links 内のリンクが「Edit Cisco Unity User」に変わります。

これで、Cisco Unity Administrator から、作成したメールボックスを表示できます。『Cisco Unity インストレーション ガイド』または『Cisco Unity Connection インストレーション ガイド』を参照してください。



**(注)** Cisco Unity ユーザが Cisco CallManager エンド ユーザと統合された場合、Cisco Unity Administrator で Alias (Cisco CallManager Administration の User ID)、First Name、Last Name、Extension (Cisco CallManager Administration の Primary Extension) の各フィールドを編集できません。これらのフィールドは、Cisco CallManager Administration だけで更新できます。



**(注)** Cisco Unity は、Cisco CallManager からのデータの同期を監視します。Cisco Unity Administrator の Tools (Import CallManager Users、Sync CallManager) で、同期時間を設定できます。Cisco Unity のマニュアルを参照してください。

### 追加情報

P.87-16 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## エンドユーザの設定値

表 87-1 では、エンドユーザの設定値について説明します。関連手順については、P.87-16 の「関連項目」を参照してください。

表 87-1 エンドユーザの設定値

フィールド	説明
<b>ユーザ情報</b>	
LDAP Sync Status	このフィールドには、System > LDAP > LDAP System メニュー オプションで設定した、LDAP 同期の状況が表示されます。
User ID	エンドユーザの識別名を入力します。Cisco CallManager では、ユーザ ID の作成後の変更はできません。
Password	エンドユーザパスワードとなる 5 文字以上の英数字または特殊文字を入力します。
Confirm Password	エンドユーザのパスワードをもう一度入力します。
PIN	Personal Identification Number (PIN; 個人識別番号) となる 5 文字以上の英数字を入力します。
Confirm PIN	PIN をもう一度入力します。
Last Name	エンドユーザの姓を入力します。
Middle Name	エンドユーザのミドルネームを入力します。
First Name	エンドユーザの名を入力します。
Telephone Number	エンドユーザの電話番号を入力します。特殊文字((、)、および-)を使用できます。
Mail ID	エンドユーザの電子メールアドレスを入力します。
Manager User ID	エンドユーザマネージャ ID のユーザ ID を入力します。入力するマネージャユーザ ID は、ディレクトリ内にエンドユーザとして指定済みでなければなりません。
Department	エンドユーザの所属部門の情報(たとえば、所属部門の番号や名称など)を入力します。
User Locale	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、そのエンドユーザに関連したロケールを選択します。そのユーザロケールは、言語とフォントを含んだ、エンドユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。</p> <p>Cisco CallManager は、このロケールをエクステンション モビリティおよび Cisco IP Phone User Options に使用します。Cisco CallManager エクステンション モビリティ ログオンでは、ここに指定されているロケールが、デバイスおよびデバイス プロファイルの設定よりも優先されます。Cisco CallManager エクステンション モビリティ ログオフでは、Cisco CallManager は、デフォルト デバイス プロファイルに指定されたエンドユーザロケールを使用します。</p> <p> (注) エンドユーザロケールを選択しない場合は、Cisco CallManager サービスパラメータでデフォルトユーザロケールとして指定されているロケールが適用されます。</p>
Associated PC	この必須フィールドは、Cisco SoftPhone および Cisco CallManager Attendant Console のユーザに適用されます。

表 87-1 エンド ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
Digest Credentials	<p>SIP 電話機にダイジェスト認証を設定すると、Cisco CallManager は、電話機が Cisco CallManager に SIP 要求を送信するたびに、電話機のアイデンティティを確認します。Phone Configuration ウィンドウでダイジェスト ユーザを選択すると、このフィールドに入力するダイジェスト資格情報が電話機に関連付けられます。</p> <p>一連の英数字を入力します。</p> <p> (注) ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
Confirm Digest Credentials	ダイジェスト資格情報を正しく入力したことを確認するために、このフィールドにその資格情報を入力します。
<b>デバイス アソシエーション</b>	
Controlled Devices	<p>デバイスが関連付けられた後に、このフィールドには、エンド ユーザが制御する説明情報 (たとえば、MAC アドレスなど) が表示されます。</p> <p>デバイスをこのエンド ユーザに関連付けるには、右側にある <b>Device Association</b> ボタンをクリックします。詳細な手順については、P.87-12 の「<a href="#">エンド ユーザとデバイスとの関連付け</a>」を参照してください。</p>
<b>エクステンション モビリティ</b>	
Available Profiles	<p>このリスト ボックスには、このエンド ユーザとのアソシエーションに使用できるエクステンション モビリティ プロファイルが表示されます。</p> <p>エクステンション モビリティ プロファイルを検索するには、<b>Find</b> をクリックします。表示される Find and List Device Profiles ウィンドウを使用して、必要なエクステンション モビリティ プロファイルを検索します。</p> <p>エクステンション モビリティ プロファイルをこのエンド ユーザに関連付けるには、プロファイルを選択し、このリスト ボックスの下にある下矢印をクリックします。</p>
Controlled Profiles	Cisco CallManager エクステンション モビリティ に設定されたエンド ユーザに関連付けられた、制御されたデバイス プロファイルのリストが、このフィールドに表示されます。
Default Profile	ドロップダウン リスト ボックスから、このエンド ユーザのデフォルトのエクステンション モビリティ プロファイルを選択します。

表 87-1 エンド ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
Presence Group	<p>このフィールドには、プレゼンス機能を設定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、エンド ユーザ用のプレゼンス グループを選択します。選択したグループによって、エンド ユーザが監視できる対象が指定されます。</p> <p>Presence Group のデフォルト値は、インストール時に設定された Standard プレゼンス グループです。Cisco CallManager Administration で設定されたプレゼンスグループもドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>プレゼンス認可は、プレゼンス グループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。グループ間で権限を設定する方法、およびプレゼンスがエクステンション モビリティと連携する方法については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。</p>
SUBSCRIBE Calling Search Space	<p>プレゼンス機能でサポートされている SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースによって、Cisco CallManager がエンド ユーザからのプレゼンス要求をルーティングする方法が決まります。この設定により、エンド ユーザのプレゼンス (SUBSCRIBE) 要求に対して、コール処理サーチ スペースとは別のコーリング サーチ スペースを適用できます。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、エンド ユーザのプレゼンス要求に使用する SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを選択します。Cisco CallManager Administration で設定したすべてのコーリング サーチ スペースが、SUBSCRIBE Calling Search Space ドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>ドロップダウン リスト から、エンド ユーザ用に別のコーリング サーチ スペースを選択しない場合、SUBSCRIBE Calling Search Space はデフォルトで None になります。</p> <p>特にこの目的のために SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを設定するには、すべてのコーリング サーチ スペースを設定するときと同様に、コーリング サーチ スペースを設定します。コーリング サーチ スペースを設定する方法については、P.43-1 の「<a href="#">コーリング サーチ スペースの設定</a>」を参照してください。</p>
Allow Control of Device from CTI	<p>このエンド ユーザが所有するデバイスを CTI が制御できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>関連付けられている電話番号が共有回線を指定している場合は、関連付けられているデバイスの少なくとも 1 つが、CTI によってサポートされるデバイス タイプとプロトコルの組み合わせを指定している限り、このチェックボックスをオンにしてください。</p>

表 87-1 エンド ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
<b>電話番号のアソシエーション</b>	
Primary Extension	<p>このフィールドは、エンド ユーザのプライマリ電話番号を示します。エンド ユーザにデバイスを関連付ける場合は、プライマリ回線を選択しません。エンド ユーザは、電話機に複数の回線を設定できます。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、このエンド ユーザのプライマリ内線を選択します。</p> <p>システムが Cisco Unity 統合または Cisco Unity Connection 統合用に設定されている場合は、Create Cisco Unity User リンクが表示されます。</p>
IPCC Extension	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このエンド ユーザの IPCC 内線を選択します。</p> <p> (注) このフィールドは、IPCC Express Installed エンタープライズ パラメータが <i>True</i> に設定されている場合にだけ表示されます。</p>
<b>CAPF 情報</b>	
Associated CAPF Profiles	<p>ユーザのエンド ユーザ CAPF プロファイルを設定した場合は、Associated CAPF Profile ペインに、エンド ユーザ CAPF プロファイルのインスタンス ID が表示されます。プロファイルを編集するには、インスタンス ID をクリックし、<b>Edit Profile</b> をクリックします。End User CAPF Profile Configuration ウィンドウが表示されます。</p> <p>エンド ユーザ CAPF プロファイルを設定する方法については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
<b>権限情報</b>	
Groups	<p>このリスト ボックスは、エンド ユーザが追加された後に表示されます。このリスト ボックスには、エンド ユーザが属するグループが表示されません。</p> <p>ユーザ グループを設定する方法の詳細については、P.89-1 の「<a href="#">ユーザ グループの設定</a>」を参照してください。</p>
Roles	<p>このリスト ボックスは、エンド ユーザが追加された後に表示されます。このリスト ボックスには、エンド ユーザに割り当てられているロールが表示されます。</p> <p>ロールを設定する方法の詳細については、P.88-1 の「<a href="#">ロールの設定</a>」を参照してください。</p>

**追加情報**

P.87-16 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## エンドユーザのパスワードの変更

Global Directory 内のエンドユーザのエンドユーザパスワードを変更する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** P.87-2 の「[エンドユーザの検索](#)」の手順を使用して、パスワードを変更するエンドユーザを見つけます。

End User Configuration ウィンドウが表示され、選択したエンドユーザの情報が示されます。

**ステップ 2** Password フィールドで、暗号化されている既存のパスワードをダブルクリックし、新しいパスワードを入力します。

**ステップ 3** Confirm Password フィールドで、暗号化されている既存のパスワードをダブルクリックし、新しいパスワードをもう一度入力します。

**ステップ 4** Save をクリックします。

---

### 追加情報

P.87-16 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## エンドユーザの PIN の変更

エンドユーザの Personal Identification Number (PIN; 個人識別番号) を変更する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** P.87-2 の「[エンドユーザの検索](#)」の手順を使用して、PIN を変更するエンドユーザを見つけます。

End User Configuration ウィンドウが表示され、選択したエンドユーザの情報が示されます。

**ステップ 2** PIN フィールドで、暗号化されている既存の PIN をダブルクリックし、新しい PIN を入力します。

**ステップ 3** Confirm PIN フィールドで、暗号化されている既存の PIN をダブルクリックし、新しい PIN をもう一度入力します。

**ステップ 4** Save をクリックします。

---

### 追加情報

P.87-16 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## エンド ユーザのユーザ関連情報の設定

新しいエンド ユーザを追加した後、そのエンド ユーザに関連する追加情報を設定できます。各エンド ユーザはこの情報を使用して、電話機の機能、Cisco IPMA マネージャ、Cisco IPMA アシスタント、Cisco CallManager エクステンション モビリティ、自動アテンダント、および Cisco IP SoftPhone の機能を個別に設定することができます。

### 始める前に

エンド ユーザがデータベース内で設定されていることを確認します。詳細については、[P.87-2 の「エンド ユーザの検索」](#)を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** [P.87-2 の「エンド ユーザの検索」](#)の手順を使用して、アプリケーション プロファイルを設定するエンド ユーザを見つけます。

End User Configuration ウィンドウが表示され、選択したエンド ユーザの情報が示されます。

- ステップ 2** このエンド ユーザに対して Cisco IPMA マネージャの設定を行うには、Related Links ドロップダウン リスト ボックスから Cisco IPMA Manager を選択し、Go をクリックします。

このエンド ユーザの Cisco IPMA Manager Configuration ウィンドウが表示されます。Cisco IPMA マネージャを設定する方法の詳細については、『*Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド*』の「プロキシ回線サポートのある Cisco IP Manager Assistant」および「共有回線サポートのある Cisco IP Manager Assistant」の章を参照してください。

このエンド ユーザに対して Cisco IPMA マネージャの設定を行った後、このエンド ユーザの End User Configuration ウィンドウに戻ることができます。Cisco IPMA Manager Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスから Back to User Configuration を選択し、Go をクリックします。

- ステップ 3** このエンド ユーザに対して Cisco IPMA アシスタントの設定を行うには、Related Links ドロップダウン リスト ボックスから Cisco IPMA Assistant を選択し、Go をクリックします。

このエンド ユーザの Cisco IPMA Assistant Configuration ウィンドウが表示されます。Cisco IPMA アシスタントを設定する方法の詳細については、『*Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド*』の「プロキシ回線サポートのある Cisco IP Manager Assistant」および「共有回線サポートのある Cisco IP Manager Assistant」の章を参照してください。

このエンド ユーザに対して Cisco IPMA アシスタントの設定を行った後、このエンド ユーザの End User Configuration ウィンドウに戻ることができます。Cisco IPMA Assistant Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスから Back to User Configuration を選択し、Go をクリックします。

- ステップ 4** このエンド ユーザのユーザ特権レポートを表示するには、Related Links ドロップダウン リスト ボックスから User Privilege Report を選択し、Go をクリックします。

このエンド ユーザの User Privilege ウィンドウが表示されます。ユーザ特権レポートの詳細については、[P.89-11 の「ユーザのロール、ユーザグループ、および権限の表示」](#)を参照してください。

このエンド ユーザのユーザ特権レポートを表示した後、このエンド ユーザの End User Configuration ウィンドウに戻ることができます。User Privilege ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスから Back to User を選択し、Go をクリックします。

**追加情報**

P.87-16 の「関連項目」を参照してください。

## エンドユーザとデバイスとの関連付け

エンドユーザにデバイスを関連付け、エンドユーザがそのデバイスのコントロール権を持つようにすることができます。電話機などの一部のデバイスは、エンドユーザが制御できます。CTI ポートなどのその他のデバイスは、ユーザとして指定されるアプリケーションによって制御できます。エンドユーザが電話機のコントロール権を持つ場合、その電話機の特定の設定値（たとえば、短縮ダイヤルや自動転送）を制御できます。

**(注)**

すべてのデバイスの関連付け動作は、機能が設定されているデバイスタイプに関係なく同一になっています。

**始める前に**

エンドユーザにデバイスを関連付けるには、そのユーザの End User Configuration ウィンドウにアクセスする必要があります。既存のエンドユーザを見つける方法については、P.87-2 の「[エンドユーザの検索](#)」を参照してください。End User Configuration ウィンドウが表示された後で、デバイスを割り当てる手順は、次のとおりです。

新しいエンドユーザの追加を終了する前に、その新しいエンドユーザにデバイスを関連付けようとししないでください。必ず End User Configuration ウィンドウで **Save** をクリックしてから、新しいエンドユーザにデバイス アソシエーションを追加してください。

**手順**

**ステップ 1** Device Associations ペインで、**Device Association** をクリックします。

User Device Association ウィンドウが表示されます。

**デバイスの検索**

ネットワーク内にはいくつかのデバイスが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定のデバイスを見つけることができます。デバイスを見つける手順は、次のとおりです。

**(注)**

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、デバイスの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、デバイスの検索設定は保持されます。

**ステップ 2** 最初の Find User Device Association where ドロップダウン リスト ボックスから、デバイスの検索に使用するフィールドを選択します（たとえば、Name、Description）。

**(注)**

データベースに登録されているデバイスをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。検索条件と一致するデバイスのリストが表示されます。

**ステップ 3** 2 番目の Find User Device Association where ドロップダウン リスト ボックスから、テキスト検索の検索パターンを選択します (たとえば、begins with、contains、ends with)。

**ステップ 4** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。

ウィンドウのデバイスの割り当て部分に、検索条件と一致するレコードが表示されます。Rows per Page ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



**ヒント** 検索結果内でデバイスを検索するには、**Search Within Results** チェックボックスをオンにし、このステップの説明に従って検索条件を入力します。

### デバイスの関連付け

**ステップ 5** デバイスの割り当てペインで、デバイス名の左側にあるボックスをオンにして、このエンド ユーザに関連付けるデバイスを選択します。

ウィンドウの下部にあるボタンを使用して、エンド ユーザに関連付けるデバイスを選択および選択解除できます。



**(注)** これらのボタンが機能するのは、上記の各ステップによるデバイス検索の結果として見つかったデバイスを選択および選択解除する場合だけです。



**ヒント** このエンド ユーザにすでに関連付けられているデバイスを表示するには、*Show the devices already associated with user* チェックボックスをオンにします。

ボタンとその機能について次に説明します。

- **Select All on Page** : このボタンをクリックすると、このページに表示されているすべてのデバイスが選択されます。
- **Clear All on Page** : このボタンをクリックすると、このページに表示されているすべてのデバイスの横にあるチェックボックスがオフになります。
- **Select All in Search** : このボタンをクリックすると、ウィンドウの Search Options 部分に指定した検索条件と一致するすべてのデバイスが選択されます。このボタンをクリックすると、あらかじめ検索が行われ、一致するすべてのデバイスが選択されます。
- **Clear All in Search** : このボタンをクリックすると、ウィンドウの Search Options 部分に指定した検索条件と一致するすべてのデバイスが選択解除されます。このボタンをクリックすると、あらかじめ検索が行われ、一致するすべてのデバイスが選択解除されます。
- **Save Selected/Changes** : このボタンをクリックすると、選択したデバイスがこのエンド ユーザに関連付けられます。
- **Remove All Associated Devices** : このボタンをクリックすると、すでにこのエンド ユーザに関連付けられているすべてのデバイスの関連付けが解除されます。このボタンをクリックすると、このエンド ユーザからすべてのデバイス アソシエーションを削除することの確認を求めるポップアップ ウィンドウが表示されます。OK をクリックして、確認します。

**ステップ 6** エンド ユーザに割り当てるデバイスごとに、以上のステップを繰り返します。

**ステップ 7** アソシエーションを完了するには、**Save Selected/Changes** をクリックします。

ユーザーのデバイス アソシエーションを保存すると、関連付けられたデバイスが、ウィンドウのデバイスの割り当て部分の破線の上に表示されます。

**ステップ 8** ウィンドウの右上隅にある **Related Links** ドロップダウン リスト ボックスから **Back to User** を選択し、**Go** をクリックします。

End User Configuration ウィンドウが表示され、選択して関連付けたデバイスが **Controlled Devices** ペインに表示されます。

---

#### 追加情報

P.87-16 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco CallManager エクステンション モビリティ プロファイルの関連付け

Cisco CallManager エクステンション モビリティを使用すると、Cisco IP Phone モデル 7940 または Cisco IP Phone モデル 7960 を一時的にエンドユーザーの電話機として使用できるように設定することができます。エンドユーザーが電話機にログインすると、そのエンドユーザーのエクステンション モビリティ プロファイル (回線と短縮ダイヤル番号を含む) が、その電話機上に置かれます。この機能は、エンドユーザーの IP フォンが恒常的に割り当てられていない環境で主に使用されます。

エクステンション モビリティ プロファイルをエンドユーザーに関連付けるには、そのエンドユーザーの End User Configuration ウィンドウにアクセスする必要があります。既存のエンドユーザーの情報にアクセスする方法については、P.87-2 の「[エンドユーザーの検索](#)」を参照してください。エンドユーザーに対して Cisco CallManager エクステンション モビリティを設定し関連付ける方法については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco CallManager エクステンション モビリティ」を参照してください。

## エンド ユーザの削除

Cisco CallManager Administration を使用してエンド ユーザを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

エンド ユーザを削除する前に、そのエンド ユーザに関連付けられているデバイスまたはプロファイルを削除する必要があるかどうかを判断します。

End User Configuration ウィンドウの Device Associations、Extension Mobility、Directory Number Associations、CAPF Information、および Permissions Information の各エリアから、エンド ユーザに割り当てられているデバイスおよびプロファイルを表示できます。End User Configuration ウィンドウで、Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **Dependency Records** を選択することもできます。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** User Management > End User の順に選択します。

Find and List Users ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 特定のエンド ユーザを見つけるには、検索条件を入力し、**Find** をクリックします。

検索条件と一致するエンド ユーザのリストが表示されます。

**ステップ 3** 次のアクションのいずれかを実行します。

- 削除するエンド ユーザの横にあるチェックボックスをオンにし、**Delete Selected** をクリックする。
- **Select All** をクリックして **Delete Selected** をクリックし、ウィンドウ内のすべてのエンド ユーザを削除する。
- 削除するエンド ユーザのユーザ ID をリストから選択して、現在の設定値を表示し、**Delete** をクリックする。

確認ダイアログが表示されます。

**ステップ 4** **OK** をクリックします。

---

### 追加情報

[P.87-16 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

- [エンドユーザの検索 \(P.87-2\)](#)
- [エンドユーザの追加 \(P.87-3\)](#)
- [Cisco Unity または Cisco Unity Connection のボイスメールボックスの作成 \(P.87-4\)](#)
- [エンドユーザの設定値 \(P.87-6\)](#)
- [エンドユーザのパスワードの変更 \(P.87-10\)](#)
- [エンドユーザの PIN の変更 \(P.87-10\)](#)
- [エンドユーザのユーザ関連情報の設定 \(P.87-11\)](#)
- [エンドユーザとデバイスとの関連付け \(P.87-12\)](#)
- [Cisco CallManager エクステンション モビリティ プロファイルの関連付け \(P.87-14\)](#)
- [エンドユーザの削除 \(P.87-15\)](#)
- [LDAP システムの設定 \(P.12-1\)](#)
- [電話番号の設定 \(P.49-1\)](#)
- [CTI ルートポイントの設定 \(P.67-1\)](#)
- [Cisco IP Phone の設定 \(P.70-1\)](#)
- [ロールの設定 \(P.88-1\)](#)
- [ユーザグループの設定 \(P.89-1\)](#)
- [ユーザのロール、ユーザグループ、および権限の表示 \(P.89-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンドユーザの設定 チェックリストの管理」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンドユーザ」
- 『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco CallManager エクステンション モビリティ」
- 『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「ユーザへのユーザデバイス プロファイルの関連付け」
- 『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プロキシ回線サポートのある Cisco IP Manager Assistant」
- 『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「共有回線サポートのある Cisco IP Manager Assistant」



## ロールの設定

完全な管理特権（アクセス権）を持つ Cisco CallManager 管理者は、ロールを使用して、エンド ユーザおよびアプリケーション ユーザに対してさまざまなレベルの特権を設定できます。完全な管理特権を持つ管理者が、ロールおよびユーザ グループを設定します。また、多くの場合、フル アクセス権を持つ管理ユーザが、他の管理ユーザおよびエンド ユーザに対して Cisco CallManager Administration および他のアプリケーションへの特権を設定します。

アプリケーションごとに、異なるレベルの特権が存在します。Cisco CallManager Administration アプリケーションの場合、読み取り特権とアップデート特権という 2 つのレベルの特権が存在します。これらの特権レベルの違いは次のとおりです。

- アップデート特権を持つユーザは、そのユーザのユーザ グループにアップデート特権が設定されている Cisco CallManager Administration ウィンドウを表示および変更できる。
- 読み取り特権を持つユーザは、そのユーザのユーザ グループに読み取り特権が設定されているロールに属する Cisco CallManager Administration ウィンドウを表示できる。ただし、ウィンドウの読み取り特権を持つユーザは、読み取り特権だけを持つ Administration ウィンドウで変更操作を行うことはできません。読み取り特権を持つユーザに対して、Cisco CallManager Administration アプリケーションはアップデート用のボタンもアイコンも表示しません。

ロールは、アプリケーションのリソース グループで構成されます。インストール時に、さまざまな管理機能に対してデフォルトの標準ロールが作成されます。ただし、アプリケーションのカスタム リソース グループで構成されるカスタム ロールを作成できます。



(注)

標準ロールの中には、アプリケーションにもリソースにも関連付けられていないものがあります。これらのロールは、さまざまなアプリケーションのログイン認証を提供します。

ロールを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [ロールの検索 \(P.88-2\)](#)
- [ロールの設定 \(P.88-4\)](#)
- [ロールの削除 \(P.88-5\)](#)
- [ロールの設定値 \(P.88-6\)](#)

### 追加情報

P.88-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ロールの検索

ネットワーク内にはいくつかのロールが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定のロールを見つけることができます。ロールを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、ロールの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ロールの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** User Management > Role の順に選択します。

Find and List Roles ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、ロールを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find Role where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Name
- Application

2 番目の Find Role where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- is exactly (完全一致)
- ends with (後方一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



**ヒント** データベースに登録されているロールをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたロールのリストが、次の項目別に表示されます。

- Name
- Application
- Description



**ヒント** 検索結果内でロールを検索するには、Search Within Results チェックボックスをオンにし、このステップの説明に従って検索条件を入力します。



(注) 該当するロールの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Roles ウィンドウから複数のロールを削除できます。Select All をクリックして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのロールを削除できます。



(注) 標準ロールを削除することはできません。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致するロール名をクリックします。

選択したロールがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.88-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ロールの設定

Cisco CallManager Administration にロールを追加する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** User Management > Role の順に選択します。

Find and List Roles ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のロールをコピーする場合は、適切なロールを見つけ (P.88-2 の「[ロールの検索](#)」を参照)、コピーするロールの横にある Copy ボタンをクリックします。表示されるポップアップ ウィンドウで、新しいロールの名前を入力し、OK をクリックします。ステップ 4 に進みます。



---

**(注)** ロールをコピーすると、そのロールに関連付けられている特権もコピーされます。

---

- 新しいロールを追加する場合は、Add New ボタンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 既存のロールを更新する場合は、適切なロールを見つけ (P.88-2 の「[ロールの検索](#)」を参照)、ステップ 4 に進みます。

**ステップ 3** 新しいロールを追加する場合は、Application ドロップダウン リスト ボックスからアプリケーションを選択し、Next をクリックします。

**ステップ 4** 表示される Role Configuration ウィンドウで、適切な設定値を入力します (表 88-1 を参照)。

**ステップ 5** ロールを追加するには、Save をクリックします。

新しいロールが Cisco CallManager データベースに追加されます。

---

### 追加情報

P.88-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ロールの削除

Cisco CallManager Administration からロールを削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** User Management > Role の順に選択します。

Role Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 左側の Roles リストで、削除するロールの名前をクリックします。



**(注)** 標準ロールを削除することはできません。

---

選択したロールが表示されます。

**ステップ 3** Delete をクリックします。

削除の確認を求めるメッセージが表示されます。

**ステップ 4** OK をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、そのロールがデータベースから削除されます。

---

### 追加情報

P.88-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ロールの設定値

表 88-1 では、ロールの設定値について説明します。関連手順については、P.88-6 の「関連項目」を参照してください。

表 88-1 ロールの設定値

フィールド	説明
<b>ロール情報</b>	
Application	ドロップダウン リスト ボックスから、このロールに関連付けるアプリケーションを選択します。
Name	ロールの名前を入力します。50 文字までの名前を入力できます。
Description	ロールの説明を入力します。50 文字までの説明を入力できます。
<b>リソース アクセス情報</b>	
(選択したアプリケーションのリソース名のリスト)	Resource Access Information ペインで、このロールに含めるリソースの横にあるチェックボックスをオンにします。   <b>(注)</b> アプリケーションによっては、各リソースに 1 つのチェックボックスしか適用されないものもあります。Cisco CallManager Administration アプリケーションの場合、各リソースに read チェックボックスと update チェックボックスが適用されます。
Grant access to all	このロールに対して、このページに表示されているすべてのリソースの特権を付与するには、このボタンをクリックします。   <b>(注)</b> リソースのリストが複数のページにわたって表示されている場合、このボタンは現在のページに表示されているリソースだけに適用されます。他のページに表示されるリソースのアクセス権を変更する場合は、そのページを表示して、そのページのボタンを使用する必要があります。
Deny access to all	このロールに対して、このページに表示されているすべてのリソースの特権を削除するには、このボタンをクリックします。   <b>(注)</b> リソースのリストが複数のページにわたって表示されている場合、このボタンは現在のページに表示されているリソースだけに適用されます。他のページに表示されるリソースのアクセス権を変更する場合は、そのページを表示して、そのページのボタンを使用する必要があります。

## 関連項目

- [ロールの検索 \(P.88-2\)](#)
- [ロールの設定 \(P.88-4\)](#)
- [ロールの削除 \(P.88-5\)](#)
- [ロールの設定値 \(P.88-6\)](#)
- [ユーザグループの設定 \(P.89-1\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ロールとユーザグループ」



## ユーザグループの設定

フルアクセス権を持つユーザは、Cisco CallManager Administration の User Management メニューの Role メニュー オプションおよび User Group メニュー オプションを使用して、Cisco CallManager 管理者に対してさまざまなレベルのウィンドウ アクセスを設定できます。フルアクセス権を持つユーザが、ロール、ユーザグループ、およびロールのアクセス特権を設定します。また、多くの場合、フルアクセス権を持つユーザが他のユーザに対して Cisco CallManager Administration へのアクセス権を設定します。

ユーザグループは、アプリケーション ユーザとエンド ユーザで構成されます。ユーザは、複数のユーザグループに属することができます。ユーザグループを追加した後に、ユーザをユーザグループに追加します。続いて、ユーザグループにロールを割り当てることもできます。ユーザが複数のユーザグループに属している場合、そのユーザの有効な特権は、MLA のアクセス権のエンタープライズパラメータによって決まります。

ユーザグループの設定、ユーザグループへのユーザの割り当て、ユーザのロール、ユーザグループ、および権限の表示を行うには、次のトピックを参照してください。

- [ユーザグループの検索 \(P.89-2\)](#)
- [ユーザグループの設定 \(P.89-4\)](#)
- [ユーザグループの削除 \(P.89-5\)](#)
- [ユーザグループへのユーザの追加 \(P.89-6\)](#)
- [ユーザグループからのユーザの削除 \(P.89-8\)](#)
- [ユーザグループへのロールの割り当て \(P.89-9\)](#)
- [ユーザのロール、ユーザグループ、および権限の表示 \(P.89-11\)](#)

## ユーザグループの検索

ネットワーク内にはいくつかのユーザグループが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、固有のユーザグループを見つけることができます。ユーザグループを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、ユーザグループの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ユーザグループの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** User Management > User Group の順に選択します。

Find and List User Groups ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、ユーザグループを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find User Group where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準を選択します。

- Name

2 番目の Find User Group where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- is exactly (完全一致)
- ends with (後方一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



**ヒント** データベースに登録されているユーザグループをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたユーザグループのリストが、次の項目別に表示されます。

- Name
- Roles (アイコン)



**ヒント** 検索結果内でユーザグループを検索するには、Search Within Results チェックボックスをオンにし、このステップの説明に従って検索条件を入力します。



(注) 該当するユーザグループの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List User Groups ウィンドウから複数のユーザグループを削除できます。**Select All** をクリックして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのユーザグループを削除できます。



(注) 標準ユーザグループを削除することはできません。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致するユーザグループ名をクリックします。

選択したユーザグループがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.89-12 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザグループの設定

Cisco CallManager Administration でユーザグループを追加、コピー、および更新する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** User Management > User Group の順に選択します。

Find and List User Groups ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のユーザグループをコピーする場合は、適切なユーザグループを見つけ (P.89-2 の「[ユーザグループの検索](#)」を参照)、コピーするユーザグループの横にある Copy ボタンをクリックします。表示されるポップアップウィンドウで、新しいユーザグループの名前を入力し、OK をクリックします。ステップ 3 に進みます。
- 新しいユーザグループを追加する場合は、Add New ボタンをクリックします。新しいユーザグループの名前を入力し、OK をクリックします。ステップ 3 に進みます。



(注) ユーザグループ名には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (\_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。ユーザグループ名は固有の名前にしてください。

- 既存のユーザグループを更新する場合は、適切なユーザグループを見つけます (P.89-2 の「[ユーザグループの検索](#)」を参照)。更新するユーザグループの名前をクリックします。選択したユーザグループが表示されます。該当する設定値を変更します。ステップ 3 に進みます。



(注) 標準ユーザグループを削除することはできませんが、標準ユーザグループのユーザメンバシップの更新は可能です。

**ステップ 3** Save をクリックします。

**ステップ 4** このユーザグループにユーザを追加します。P.89-6 の「[ユーザグループへのユーザの追加](#)」を参照してください。

**ステップ 5** このユーザグループにロールを割り当てます。P.89-9 の「[ユーザグループへのロールの割り当て](#)」を参照してください。

### 追加情報

P.89-12 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザグループの削除

Cisco CallManager Administration からユーザグループを削除する手順は、次のとおりです。この手順を実行すると、ユーザグループが完全に削除されます。ユーザグループから特定のユーザのみを削除するには、[P.89-8 の「ユーザグループからのユーザの削除」](#)を参照してください。

### 始める前に

ユーザグループを削除すると、Cisco CallManager によってすべてのユーザグループデータがデータベースから削除されます。ユーザグループを使用しているロールを検索するには、User Group Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リストボックスから **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能でない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** User Management > User Group の順に選択します。

Find and List User Groups ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [P.89-2 の「ユーザグループの検索」](#)の手順を使用して、削除するユーザグループを見つけます。

**ステップ 3** 削除するユーザグループの名前をクリックします。

選択したユーザグループが表示されます。このユーザグループのユーザがアルファベット順に一覧表示されます。

**ステップ 4** グループを完全に削除する場合は、**Delete** をクリックします。

ユーザグループを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 5** ユーザグループを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。**OK** をクリックすると、Cisco CallManager によってユーザグループがデータベースから削除されます。

---

### 追加情報

[P.89-12 の「関連項目」](#)を参照してください。

## ユーザグループへのユーザの追加

Cisco CallManager Administration のユーザグループにエンドユーザおよびアプリケーションユーザを追加する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** User Management > User Group の順に選択します。

Find and List User Groups ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ユーザを追加する先のユーザグループを見つけます。P.89-2 の「ユーザグループの検索」の手順を使用します。

**ステップ 3** 更新するユーザグループの名前をクリックします。

選択したユーザグループが表示されます。Users in Group リストに、現在そのユーザグループに属しているユーザが表示されます。

**ステップ 4** エンドユーザを追加するには、Add Users to Group をクリックします。アプリケーションユーザを追加するには、ステップ 8 に進みます。

Find and List Users ウィンドウが表示されます。

**ステップ 5** 追加するエンドユーザを見つけるために Find User ドロップダウン リストボックスを使用して、Find をクリックします。



(注) ユーザを検索するには、さまざまな方法があります。ユーザの名、ミドルネーム、姓、ユーザ ID、または部門を入力できます。それらの値を入力する代わりに、フィールドを空白のままにすれば、すべてのユーザを表示することができます。

検索条件と一致するエンドユーザのリストが表示されます。



(注) 検索結果のリストには、すでにそのユーザグループに属しているエンドユーザは表示されません。

**ステップ 6** 検索結果のリストで、このユーザグループに追加するユーザの横にあるチェックボックスをオンにします。検索結果のリストが複数のページになった場合は、下部のリンクを使用すれば次のページを表示できます。

**ステップ 7** Add Selected をクリックします。

User Group Configuration ウィンドウが再表示されます。このとき、Group ペインの Users には、追加したユーザが一覧表示されます。



(注) ユーザを追加した後、そのユーザの Permission 列で **i** アイコンをクリックすると、そのユーザのロールを表示できます。

**ステップ 8** アプリケーション ユーザを追加するには、Add Application Users to Group をクリックします。

Find and List Application Users ウィンドウが表示されます。

**ステップ 9** 追加するアプリケーション ユーザを見つけるために Find Application User ドロップダウン リストボックスを使用して、Find をクリックします。



(注) ユーザ ID を入力して、アプリケーション ユーザを検索できます。また、フィールドをリンクのままにすれば、すべてのアプリケーション ユーザを表示することができます。

検索条件と一致するアプリケーション ユーザのリストが表示されます。

**ステップ 10** 検索結果のリストで、このユーザグループに追加するアプリケーション ユーザの横にあるチェックボックスをオンにします。検索結果のリストが複数のページになった場合は、下部のリンクを使用すれば次のページを表示できます。



(注) 検索結果のリストには、すでにそのユーザグループに属しているアプリケーション ユーザは表示されません。

**ステップ 11** Add Selected をクリックします。

User Group Configuration ウィンドウが再表示されます。このとき、Group ペインの Users には、追加したアプリケーション ユーザが一覧表示されます。



(注) アプリケーション ユーザを追加した後、そのユーザの Permission 列で **i** アイコンをクリックすると、そのユーザのロールを表示できます。

**ステップ 12** Save をクリックして、このユーザグループへの変更内容を保存します。

#### 追加情報

P.89-12 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザグループからのユーザの削除

Cisco CallManager Administration のユーザグループからユーザを削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** User Management > User Group の順に選択します。

Find and List User Groups ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ユーザを削除するユーザグループを見つけます。P.89-2 の「[ユーザグループの検索](#)」の手順を使用します。

**ステップ 3** 更新するユーザグループの名前をクリックします。

選択したユーザグループが表示されます。Users in Group リストに、現在そのユーザグループに属しているユーザが表示されます。

**ステップ 4** このユーザグループから削除するユーザの名前の横にあるチェックボックスをオンにします。

**ステップ 5** Delete Selected をクリックします。

削除の確認を求めるメッセージが表示されます。

**ステップ 6** 選択したユーザグループメンバーを削除するには、OK をクリックします。このウィンドウを閉じるには、Cancel をクリックします。

User Group が再表示されます。このとき、Group ペインの Users には、削除したユーザが表示されません。

---

### 追加情報

P.89-12 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザグループへのロールの割り当て

フルアクセス権を持つユーザは、ユーザグループにロールを割り当てることができます。ロールを割り当てられたユーザグループは、そのロールに含まれるリソースにアクセスできます。

Cisco CallManager Administration のユーザグループにロールを割り当てる手順は、次のとおりです。



(注)

管理者は、ユーザグループにロールを割り当てる場合、Standard CCM Admin Users ロールを割り当てる必要があります。このロールによって、ユーザは、Cisco CallManager Administration にログインできるようになります。

### 手順

**ステップ 1** User Management > User Group の順に選択します。

Find and List User Groups ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ロールを割り当てるユーザグループを見つけます。P.89-2 の「ユーザグループの検索」の手順を使用します。

**ステップ 3** ロールを割り当てるユーザグループの名前をクリックします。

選択したユーザグループが表示されます。Users in Group リストに、現在そのユーザグループに属しているユーザが表示されます。

**ステップ 4** Related Links ドロップダウン リスト ボックスから Assign Role to User Group を選択し、Go をクリックします。

User Group Configuration ウィンドウが Role Assignment ペインの表示に変わります。選択したユーザグループに割り当てられているロールが一覧表示されます。次のいずれかのオプションを選択します。

- ユーザグループにロールを割り当てる場合は、[ステップ 5](#) に進みます。
- ユーザグループからロールを削除する場合は、[ステップ 9](#) に進みます。

**ステップ 5** ユーザグループに追加のロールを割り当てるには、Assign Role to Group をクリックします。

Find and List Roles ポップアップ ウィンドウが表示されます。

**ステップ 6** 必要に応じて、Find Role 検索条件を使用してロールのリストを絞り込みます。

**ステップ 7** ロール名の横にあるチェックボックスをオンにして、このユーザグループに割り当てるロールを選択します。このユーザグループにロールを割り当てずに Find and List Roles ポップアップ ウィンドウを閉じるには、Close をクリックします。

**ステップ 8** Add Selected をクリックします。

Find and List Roles ポップアップ ウィンドウが閉じます。選択したロールが、このユーザグループの Role Assignment ペインに追加されます。このユーザグループに割り当てられているロールを削除しない場合は、[ステップ 10](#) に進みます。

## ■ ユーザグループへのロールの割り当て

**ステップ 9** 割り当てられているロールをユーザグループから削除するには、Role Assignment ペインでロールを選択し、**Delete Role Assignment** をクリックします。このユーザグループから削除する各ロールに対して、このステップを繰り返します。

**ステップ 10** Save をクリックします。

データベース内で、このユーザグループに対するロール割り当ての追加および削除が行われます。

---

**追加情報**

P.89-12 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザのロール、ユーザグループ、および権限の表示

ここでは、特定のユーザグループに属するユーザに割り当てられているロール、ユーザグループ、および権限を表示する方法について説明します。ユーザグループ内のユーザに割り当てられているロール、ユーザグループ、および権限を表示する手順は、次のとおりです。



**(注)** User Management > Application User(アプリケーション ユーザの場合)または User Management > End User(エンド ユーザの場合)を使用して特定のユーザを表示してから、そのユーザのロールを表示することもできます。

### 手順

**ステップ 1** User Management > User Group の順に選択します。

Find and List User Groups ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 割り当てられているロールを表示するユーザが属するユーザグループを見つけます。P.89-2 の「ユーザグループの検索」の手順を使用します。

**ステップ 3** ユーザに割り当てられているロールを表示するユーザグループの名前をクリックします。

選択したユーザグループの User Group Configuration ウィンドウが表示されます。Users in Group ペインに、そのユーザグループに属しているユーザが表示されます。

**ステップ 4** 特定のユーザの Permission 列で **i** アイコンをクリックします。

User Privilege ウィンドウが表示されます。選択したユーザについて、次の情報が表示されます。

- ユーザが属しているユーザグループ。
- ユーザに割り当てられているロール。
- ユーザがアクセス権を持っているリソース。リソースごとに、次の情報が表示されます。



**注意**

アプリケーション



**注意**

リソース



**注意**

権限 (read または update、あるいはその両方)

**ステップ 5** ユーザに戻るには、Related Links ドロップダウン リスト ボックスで Back to User を選択し、Go をクリックします。

### 追加情報

P.89-12 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [ユーザグループの検索 \(P.89-2\)](#)
- [ユーザグループの設定 \(P.89-4\)](#)
- [ユーザグループの削除 \(P.89-5\)](#)
- [ユーザグループへのユーザの追加 \(P.89-6\)](#)
- [ユーザグループからのユーザの削除 \(P.89-8\)](#)
- [ユーザグループへのロールの割り当て \(P.89-9\)](#)
- [ユーザのロール、ユーザグループ、および権限の表示 \(P.89-11\)](#)
- 『*Cisco CallManager システム ガイド*』の「[ロールとユーザグループ](#)」
- [エンドユーザの設定 \(P.87-1\)](#)
- [アプリケーションユーザの設定 \(P.86-1\)](#)



## User/Phone Add の設定

Cisco CallManager Administration の End User, Phone, DN, and LA Configuration ウィンドウという 1 つのウィンドウを使用するだけで、管理者は、新しいユーザを追加してそのユーザを新しい電話機に割り当てるために必要な基本操作を行うことができます。新しいエンドユーザを追加して、そのエンドユーザを新しい電話機に関連付けるときに、このウィンドウを使用して、新しい電話機に新しい Directory Number (DN; 電話番号) および Line Appearance (LA; ライン アピアランス) 情報を設定することもできます。



(注) End User, Phone, DN, and LA Configuration ウィンドウでは、既存のエンドユーザ、電話機、および電話番号を入力することはできません。

End User, Phone, DN, and LA Configuration ウィンドウでは、次のタイプのレコードが追加されます。

- エンドユーザ
- 電話機
- 電話番号
- デバイス プロファイル



(注) LDAP サーバとの同期が使用可能でない場合に限り、エンドユーザ情報を変更できます。LDAP サーバとの同期が使用可能であるかどうかを調べるには、**System > LDAP > LDAP System** メニュー オプションを使用します。表示される LDAP System ウィンドウで、Enable Synchronizing from LDAP Server チェックボックスがオフであることを確認します。同期が使用可能である場合、エンドユーザ データを表示できますが、変更することはできません。

次のトピックでは、End User, Phone, DN, and LA Configuration ウィンドウを使用して、エンドユーザ、電話機、電話番号、およびライン アピアランスを追加する方法について説明します。

- [エンドユーザと電話機の追加 \(P.90-2\)](#)
- [ユーザとデバイスの設定値 \(P.90-3\)](#)

### 追加情報

P.90-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## エンドユーザと電話機の追加

エンドユーザと電話機を追加して、そのユーザと電話機を電話番号とデバイスプロフィールに関連付ける手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** User Management > User/Phone Add の順に選択します。

End User, Phone, DN, and LA Configuration ウィンドウが表示されます。



**(注)** 次に進む前に、End User, Phone, DN, and LA Configuration ウィンドウの右上にある Related Links ドロップダウン リストボックス内のリンクを使用して、エンドユーザまたは電話機がすでに存在するかどうかを調べることができます。

すでに存在しているエンドユーザを検索するには、Related Links ドロップダウン リストボックスで **Back to Find List Users** を選択し、**Go** をクリックします。表示される Find and List Users ウィンドウを使用して、追加するエンドユーザ ID を検索します。そのエンドユーザ ID がすでに存在する場合は、User/Phone Add メニュー オプションを使用して、そのエンドユーザを追加することはできません。

すでに存在している電話機を検索するには、Related Links ドロップダウン リストボックスで **Back to Find List Phones** を選択し、**Go** をクリックします。表示される Find and List Phones ウィンドウを使用して、追加する電話機を検索します。その電話機がすでに存在する場合は、User/Phone Add メニュー オプションを使用して、その電話機を追加することはできません。

どちらの Related Links を使用した場合でも、**ステップ 1** を繰り返して、End User, Phone, DN, and LA Configuration ウィンドウに戻ります。

**ステップ 2** 適切な設定値を入力します (表 90-1 を参照)。

**ステップ 3** エンドユーザとデバイスの追加を完了し、そのユーザとデバイスを電話番号に関連付けたら、**Save** をクリックし、変更内容を保存してエンドユーザとデバイスを追加します。

### 追加情報

P.90-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザとデバイスの設定値

表 90-1 では、エンドユーザの設定値について説明します。関連手順については、P.90-5 の「関連項目」を参照してください。

表 90-1 ユーザとデバイスの設定値

フィールド	説明
<b>ユーザ情報</b>	
LDAP Sync Status	このフィールドには、System > LDAP > LDAP System メニュー オプションで設定した、LDAP 同期の状況が表示されます。
User ID	エンドユーザの識別名を入力します。Cisco CallManager では、ユーザ ID の作成後の変更はできません。特殊文字 (=、+、<、>、#、;、\、,、"") および空白を使用できます。
Password	エンドユーザパスワードとなる 5 文字以上の英数字または特殊文字を入力します。特殊文字 (=、+、<、>、#、;、\、,、"") および空白を使用できます。
Confirm Password	エンドユーザのパスワードをもう一度入力します。
PIN	Personal Identification Number (PIN; 個人識別番号) となる 5 文字以上の英数字を入力します。
Confirm PIN	PIN をもう一度入力します。
Last Name	エンドユーザの姓を入力します。特殊文字 (=、+、<、>、#、;、\、,、"") および空白を使用できます。
Middle Name	エンドユーザのミドルネームを入力します。特殊文字 (=、+、<、>、#、;、\、,、"") および空白を使用できます。
First Name	エンドユーザの名を入力します。特殊文字 (=、+、<、>、#、;、\、,、"") および空白を使用できます。
<b>デバイス アソシエーション</b>	
Product Type	このリストボックスには、このエンドユーザとのアソシエーションに使用できるデバイスのタイプが表示されます。  ドロップダウン リスト ボックスから、このエンドユーザに関連付けるデバイスのタイプを選択します。
MAC Address	新しいユーザに関連付ける新しいデバイスの固有の MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、12 桁の 16 進数 (0 ~ 9、A ~ F) から構成されます。
Calling Search Space DN	ドロップダウン リスト ボックスから、このユーザとデバイスに関連付ける電話番号用のコーリングサーチスペースを選択します。
Calling Search Space Phone	ドロップダウン リスト ボックスから、このユーザとデバイスに関連付ける電話機用のコーリングサーチスペースを選択します。

表 90-1 ユーザとデバイスの設定値 (続き)

フィールド	説明
External Phone Number Mask	<p>関連付けられたデバイスから発信される外部 (発信) コールに対して、発信者 ID 情報をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このマスクには、最長 24 文字までを指定できます。有効な文字は 0 ~ 9、*、#、および X です。</li> <li>発信者 ID 情報に表示する数字列を入力します。関連付けられたデバイスの電話番号を表すには、X を使用します。</li> <li>次の例を参照してください。</li> </ul> <p>マスク 972813XXXX を指定する場合、外部コールを行うのに使用されるルート パターンで Use External Phone Number Mask オプションがオンになっていれば、内線番号 1234 からの外部コールは、発信者 ID が 9728131234 と表示されます。</p> <p>代表番号を表すために、9728135000 のようなすべて数字列のマスクを指定する場合は、その番号 (9728135000) が、関連付けられた任意のデバイスからの外部コールの発信者 ID として表示されます。</p>
Extension	<p>このフィールドは、エンドユーザのプライマリ電話番号を表します。エンドユーザは、電話機に複数の回線を設定できます。</p> <p>新しいユーザと電話機の内線番号を入力します。0 ~ 9、?、[、]、+、-、*、^、#、! を使用できます。</p>
Partition	ドロップダウン リスト ボックスから、Extension フィールドで指定した電話番号のパーティションを選択します。
Voice Mail Profile	ドロップダウン リスト ボックスから、電話番号のボイスメール プロファイルを選択します。システム デフォルトを使用する場合は、<None> を選択します。
Enable Extension Mobility	エクステンション モビリティを使用可能にするには、このチェックボックスをオンにします。新しいユーザを追加した後、 <b>User Management &gt; End User</b> メニュー オプションを使用して、エクステンション モビリティ プロファイルを選択できます。

### 追加情報

P.90-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [エンド ユーザと電話機の追加 \( P.90-2 \)](#)
- [ユーザとデバイスの設定値 \( P.90-3 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP Phone」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話番号の概要」
- [エンド ユーザの検索 \( P.87-2 \)](#)
- [エンド ユーザの追加 \( P.87-3 \)](#)
- [エンド ユーザの設定値 \( P.87-6 \)](#)
- [エンド ユーザのパスワードの変更 \( P.87-10 \)](#)
- [エンド ユーザの PIN の変更 \( P.87-10 \)](#)
- [エンド ユーザとデバイスとの関連付け \( P.87-12 \)](#)
- [Cisco CallManager エクステンション モビリティ プロファイルの関連付け \( P.87-14 \)](#)
- [LDAP システムの設定 \( P.12-1 \)](#)
- [電話番号の設定 \( P.49-1 \)](#)
- [CTI ルート ポイントの設定 \( P.67-1 \)](#)
- [Cisco IP Phone の設定 \( P.70-1 \)](#)
- 『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco CallManager エクステンション モビリティ」
- 『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「ユーザへのユーザ デバイス プロファイルの関連付け」





# アプリケーション ユーザ CAPF プロファイルの設定

Cisco CallManager Administration の Application User CAPF Profile Configuration ウィンドウを使用すると、セキュアアプリケーション ユーザにローカルで有効な証明書を発行できます。証明書を発行し、他のセキュリティ関連の作業を行った後、CTIManager サービスと、サーバ上でアクティブになっているアプリケーションとの間で TLS 接続が行われます。

1つのアプリケーション ユーザ CAPF プロファイルは、サーバ上のアプリケーションの単一のインスタンスに対応します。たとえば、クラスタ内の2台のサーバ上で、あるアプリケーションをアクティブにする場合は、サーバごとに1つずつ、2つのアプリケーション ユーザ CAPF プロファイルを設定する必要があります。同じサーバ上で2つの異なるアプリケーションをアクティブにする場合は、サーバ上のアプリケーションごとに1つずつ、2つのアプリケーション ユーザ CAPF プロファイルを設定する必要があります。

アプリケーション ユーザ CAPF プロファイルを設定する方法については、『Cisco CallManager セキュリティガイド』を参照してください。





## エンドユーザ CAPF プロファイルの設定

---

Cisco CallManager Administration の End User CAPF Profile Configuration ウィンドウを使用すると、CTI クライアントにローカルで有効な証明書を発行できます。証明書を発行し、他のセキュリティ関連の作業を行うと、CTI クライアントは TLS 接続を介して CTIManager サービスと通信します。

エンドユーザ CAPF プロファイルを設定する方法については、『Cisco CallManager セキュリティガイド』を参照してください。





## SIP レルムの設定

---

SIP トランクにダイジェスト認証を設定すると、Cisco CallManager は、トランクが Cisco CallManager に SIP 要求を送信するたびに、トランクに接続する SIP ユーザ エージェントのアイデンティティを確認します。また、SIP ユーザ エージェントは、Cisco CallManager のアイデンティティを確認できます。Cisco CallManager が SIP ユーザ エージェントに応答するようにするには、Cisco CallManager に SIP レルムを設定する必要があります。

Cisco CallManager に SIP レルムを設定する方法については、『*Cisco CallManager セキュリティ ガイド*』を参照してください。





## **PART 9**

# **Cisco CallManager Bulk Administration**







## Bulk Administration Tool

Cisco CallManager Bulk Administration Tool (BAT) は、Web ベースのアプリケーションであり、Cisco CallManager データベースに対してバルク トランザクションを実行します。BAT を使用すると、多数の類似した電話機、ユーザ、またはポートを同時に追加、更新、または削除できます。Cisco CallManager Administration を使用する場合は、データベース トランザクションごとに個々の手動操作が必要ですが、BAT ではこのプロセスが自動化されるため、高速な追加、更新、および削除操作が実現されます。

BAT を使用して処理できるデバイスとレコードのタイプは、次のとおりです。

- Cisco IP Phone( Voice Gateway Chalice( VGC )電話機を含む )、Computer Telephony Interface( CTI )ポート、および H.323 クライアントの追加、更新、削除
- ユーザの追加、更新、削除
- ユーザ デバイス プロファイルの追加、更新、削除
- Cisco IP Manager Assistant ( IPMA ) マネージャおよびアシスタントの追加、更新、削除
- Cisco Catalyst 6000 FXS Analog Interface Module 上のポートの追加、更新、削除
- Cisco VG200 アナログ ゲートウェイおよびポートの追加、削除
- 強制許可コードの追加、削除
- クライアント マターコードの追加、削除
- コールピックアップ グループの追加、削除

これらのデバイスをユーザ情報と組み合わせて処理することもできます。たとえば、CTI ポートとユーザを追加する場合、BAT の「Enable CTI Application Use」を選択することにより、CTI ポートを必要とするアプリケーション (Cisco IP SoftPhone など) を持つユーザを短時間で追加できます。

BAT のオプション コンポーネントである Tool for Auto-Registered Phones Support (TAPS) を使用すると、大規模なシステムの管理に関わる手動操作がさらに少なくなります。新しい電話機を大量に追加する必要がある場合は、BAT を使用すると、ダミーの Media Access Control (MAC; メディア アクセス制御) アドレスを持つデバイスを追加できるため、データ入力ファイルに MAC アドレスを 1 つずつ入力しなくて済みます。電話機のインストール後、電話機のユーザまたは管理者は TAPS 電話番号をコールして音声プロンプトに従うことにより、電話機の適切なユーザ デバイス プロファイルをダウンロードできます。

BAT および TAPS の詳細については、『Cisco CallManager Bulk Administration ガイド』を参照してください。





## PART 10

## 付録







## Dependency Records

---

この付録では、Cisco CallManager Administration 内の Dependency Records のウィンドウについて説明します。このウィンドウを使用すると、データベース内のどのレコードが特定のレコードを使用するかを判別できます。たとえば、どのデバイス（CTI ルート ポイントや電話機など）が特定のコーリング検索スペースを使用するかを判別できます。

Cisco CallManager からレコードを削除する必要がある場合、Dependency Records を使用すると、削除するレコードと関連付けられたレコードを表示することができます。次に、関連付けられたレコードを、別のレコードと関連付けるように再設定できます。

この付録は、次の項で構成されています。

- [Dependency Records の使用可能化 \(P.A-2\)](#)
- [Dependency Records の使用不可 \(P.A-3\)](#)
- [Dependency Records へのアクセス \(P.A-4\)](#)
- [Dependency Records ボタン \(P.A-6\)](#)

## Dependency Records の使用可能化

Dependency Records にアクセスするには、まず Dependency Records を使用可能にする必要があります。システムでは、Dependency Records はデフォルトで使用不可になっています。Dependency Records を使用可能にする手順は、次のとおりです。



Dependency Records 機能を使用可能にすると、CPU 使用率が高くなります。このタスクは、通常よりも低い優先度で実行され、ダイヤル プランの規模や複雑さ、CPU 速度、他のアプリケーションでの CPU 要求により、完了するまでに時間がかかる場合があります。

---

### 手順

**ステップ 1** System > Enterprise Parameters の順に選択します。

**ステップ 2** ウィンドウの CCMAAdmin Parameters 領域にスクロールします。

**ステップ 3** Enable Dependency Records ドロップダウン リスト ボックスから、True を選択します。

Dependency Records を使用可能にした場合の影響について説明するメッセージが、ダイアログボックスに表示されます。OK をクリックする前に、この情報をよく読んでください。

**ステップ 4** OK をクリックします。

フィールドに False が表示されます。

**ステップ 5** Save をクリックします。

---

## Dependency Records の使用不可

Dependency Records を使用可能にした後に、システムで CPU 使用率の問題が発生している場合には、Dependency Records を使用不可にすることができます (システムでは、Dependency Records はデフォルトで使用不可になっています)。Dependency Records を使用不可にする手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** System > Enterprise Parameters の順に選択します。

**ステップ 2** ウィンドウの CCMAAdmin Parameters 領域にスクロールします。

**ステップ 3** Enable Dependency Records ドロップダウン リスト ボックスから、False を選択します。

Dependency Records に関するメッセージが、ダイアログボックスに表示されます。OK をクリックする前に、この情報をよく読んでください。

**ステップ 4** OK をクリックします。

フィールドに False が表示されます。

**ステップ 5** Save をクリックします。

---

## Dependency Records へのアクセス

Cisco CallManager の設定ウィンドウから Dependency Records にアクセスするには、Related Links ボックスから **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。Dependency Records - Summary ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、Cisco CallManager の設定ウィンドウに表示されたレコードを使用するレコードの数とタイプが表示されます。

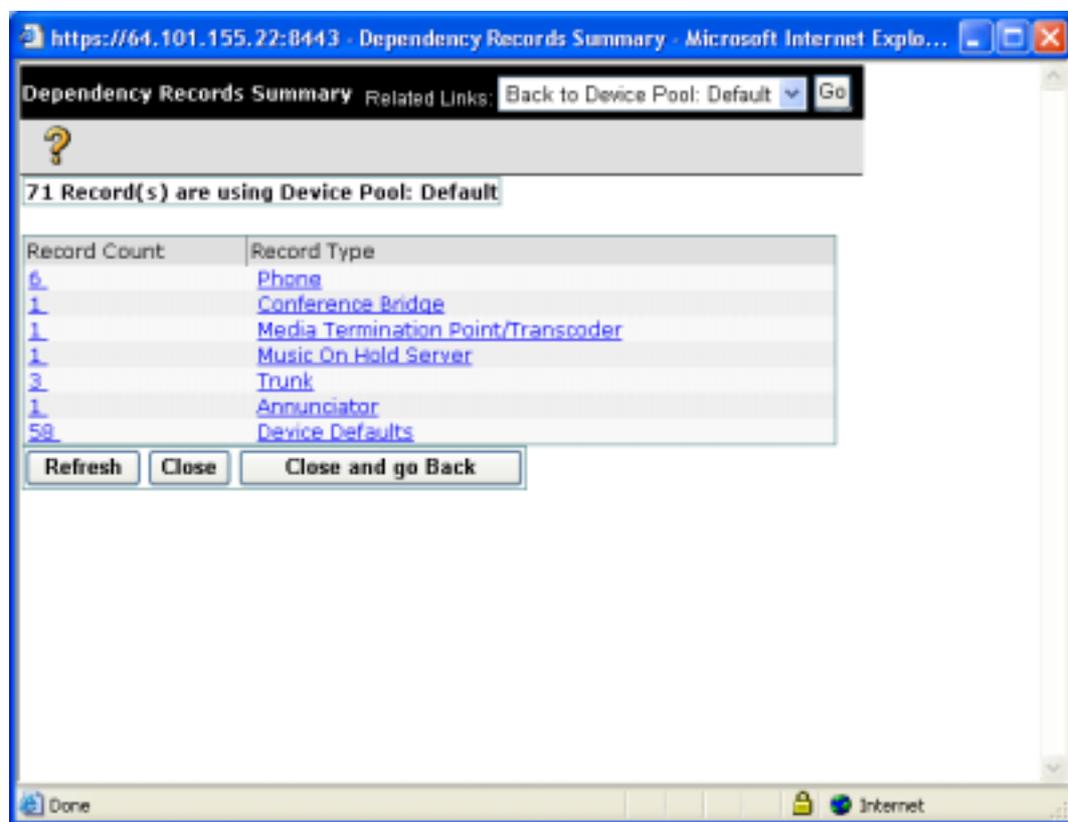


(注)

Dependency Records が有効になっていない場合は、Dependency Records - Summary ウィンドウにメッセージが表示されます (レコードに関する情報は表示されません)。Dependency Records を使用可能にするには、P.A-2 の「[Dependency Records の使用可能化](#)」を参照してください。

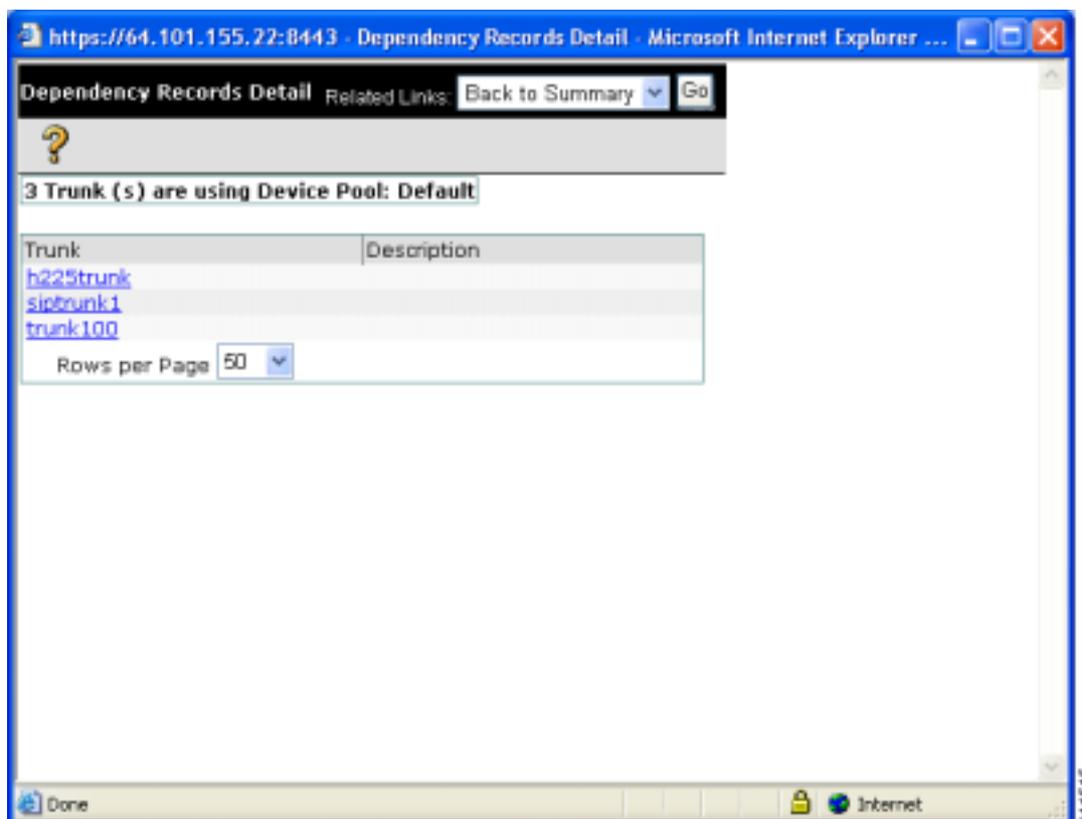
たとえば、Device Pool Configuration ウィンドウに Default デバイス プールが表示されている場合、Dependency Records リンクをクリックすると、Dependency Records Summary ウィンドウに、そのデバイス プールを使用するレコードがすべて表示されます (図 A-1 を参照)。

図 A-1 Dependency Records - Summary の例



Dependency Records の詳細情報を表示するには、表示対象のレコードをクリックします (たとえば、トランク レコードをクリックします)。Dependency Records Detail ウィンドウが表示されます (図 A-2 を参照)。元の設定ウィンドウに戻る場合は、Related Links リスト ボックスから Back to Summary を選択して **Go** をクリックします。その後、Back to <設定ウィンドウ名> を選択して **Go** をクリックするか、または **Close and go Back** ボタンをクリックします。

図 A-2 Dependency Records - Detail の例



Dependency Records Detail ウィンドウに表示されているレコードの設定ウィンドウを表示するには、レコードをクリックします。そのレコードの設定ウィンドウが表示されます。たとえば、図 A-2 に示されている h225trunk レコードをクリックすると、Trunk Configuration ウィンドウに、h225trunk に関する情報が表示されます。

## Dependency Records ボタン

Dependency Records Summary ウィンドウには、次の 3 つのボタンが表示されます。

- Refresh : ウィンドウを現在の情報で更新する。
- Close : ウィンドウを閉じる。ただし、Dependency Records リンクをクリックした Cisco CallManager の設定ウィンドウには戻らない。
- Close and Go Back : ウィンドウを閉じ、Dependency Records リンクをクリックした Cisco CallManager の設定ウィンドウに戻る。



# Cisco Unity ボイスメール ポートの調整

---

Cisco CallManager 3.3(3) から Cisco CallManager 4.0(1) への移行には、ボイスメール ポート設定の調整が必要です。この付録では、Cisco CallManager Release 4.0 以降へのアップグレードにおいて Cisco Unity ボイスメール ポートに必要な変更について説明します。ここでは、次の内容について説明します。

- [Cisco Unity ボイスメール ポートの変更 \(P.B-2\)](#)
- [Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへのアップグレード後の変更 \(P.B-2\)](#)
- [Cisco CallManager 4.0 以降のリリースにアップグレードする前の作業 \(P.B-3\)](#)
- [Cisco Unity フェールオーバー ボイスメール ポートのセットアップ \(P.B-3\)](#)

## Cisco Unity ボイスメール ポートの変更

この項では、Cisco CallManager での様々なボイスメール ポートの設定について説明します。Cisco CallManager 3.3(x) から Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへの移行により、ボイスメール ポートの設定が正しく移行されることを確認するために実行するシナリオおよび手順を使用します。この項では、Cisco CallManager 3.3(x) でのボイスメール ポート設定、および Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへ移行した後に予想される設定について説明します。また、システムを Cisco CallManager 4.0 以降のリリースにアップグレードした後で実行するボイス メッセージ システムの変更についても説明します。

ここでは、次の内容について説明します。

- [Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへのアップグレード後の変更 \(P.B-2\)](#)
- [Cisco CallManager 4.0 以降のリリースにアップグレードする前の作業 \(P.B-3\)](#)
- [Cisco Unity フェールオーバー ボイスメール ポートのセットアップ \(P.B-3\)](#)

## Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへのアップグレード後の変更

いくつかの項目を再設定して、セットアップしたシナリオ タイプに応じてオリジナルのボイスメール ポート機能を保持する必要があります。また、この項の説明に従ってセットアップを変更する必要があります。

### セットアップが受ける影響

最後のボイスメール ポートがルート パターン (ゲートウェイまたはクラスタ間トランク (ICT)) へ転送されると、アップグレード後にこの設定が消滅します。クラスタ間トランクまたはゲートウェイをルート グループに追加して、ボイスメール パイロット番号に付加されたルート パターンの対応するルート / ハント リストに、ルート グループを追加する必要があります。ルート グループには、ルート / ハント リストの最後のメンバーが表示されます。



(注)

Broadcast 分散アルゴリズムと Cisco Unity のボイスメール ポートの実行との併用はお勧めしません。

### 回線グループの転送および Cisco Unity フェールオーバー

推奨される Cisco Unity フェールオーバー ボイスメール ポートのセットアップを使用している場合は、ボイスメール ポートに使用される回線グループに対して次の値を設定する必要があります。

- No Answer : 残りのメンバーをスキップして、直接次のグループへ進む。
- Busy : 次のメンバーに進むが、次のグループへは進まない。
- Not Available : 残りのメンバーをスキップして、直接次のグループへ進む。

このマニュアル全体の様々なシナリオでは、これらの値に関する固有の情報について説明しています。

最後のボイスメール ポートがオペレータに対して設定され、オペレータが Call Forward No Answer (CFNA) および Call Forward Busy (CFB) をボイスメール パイロットに戻すように設定されている場合、CFB または CFNA を同じボイス メッセージ システムに戻すことができなくなります。オペレータ回線を含む回線グループを、ボイスメール ハント リストに追加できます。

アップグレード後、システムによって、フェールオーバー ボイスメール ポートがある回線グループが、ハント リスト パイロット番号に関連付けられたルート / ハント リストに配置されます。最初の設定に基づいて、ハント オプションを手動で選択する必要があります。

### アップグレード後の変更内容

Cisco CallManager の前のバージョンから Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへアップグレードすると、次の現象が発生する場合があります。

- Cisco Voice Mail Port Configuration ウィンドウに転送フィールドがない。
- ボイスメール ポートが回線グループ、ルート / ハント リスト、およびハント パイロット番号を使用している。データベースに既存のボイスメール ポートのセットアップがある場合、これらのエンティティはアップグレード後に自動的に作成されます。最初の設定に基づいて、ハント オプションを選択する必要があります。
- パイロット番号が、ポートの回線グループが存在するハント リストに割り当てられているルート パターンを示す。
- ポートが正しく機能するためには、同じサーバのポートが同じ回線グループに入っている必要がある。したがって、既存のサーバにポートを追加する場合、システムによって最初のポートで使用されたものと同じ回線グループが追加のポートに使用されます。
- ボイスメール ポートが、システムによってアップグレード処理中に新しく作成されたパーティションに配置される。
- MWI および発信コールに使用されるボイスメール ポートが、システムによって別の回線グループ、ルート / ハント リスト、およびハント リスト パイロット番号に配置される。

## Cisco CallManager 4.0 以降のリリースにアップグレードする前の作業

移行を正確に実行するには、ボイスメール ポートで次の手順を実行してください。

1. **重要:** 発信コールおよびメッセージ受信のインディケータだけに使用されるボイスメール ポートに設定されたコール転送をすべて削除してください。

## Cisco Unity フェールオーバー ボイスメール ポートのセットアップ

サポートされるフェールオーバー設定は 2 つあります。これらのフェールオーバー設定については、White Paper『*Cisco CallManager Port Configuration for Cisco Unity Failover (Cisco Unity Versions 4.0 and 3.1(2) and Later)*』に記載されています。

この項では、Cisco CallManager 3.3(x) の設定例および Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへのアップグレード後の各設定の類似点の概要について説明します。Cisco CallManager バージョン 4.0 以降のリリースへアップグレード後、一部の設定を手動で行う必要があります。また、これらの変更の概要についても説明します。

ここでは、次の内容について説明します。

- [Cisco CallManager 3.3\(x\) での Cisco Unity フェールオーバーの設定 1 \(推奨\) \(P.B-4\)](#)
- [Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへ移行後の Cisco Unity フェールオーバーの設定 1 \(推奨\) \(P.B-4\)](#)
- [1 つの Cisco CallManager クラスタを持つ 1 台の Cisco Unity サーバ \(P.B-6\)](#)
- [Cisco CallManager 3.3\(x\) で 1 つの Cisco CallManager クラスタを持つ 1 台の Cisco Unity サーバ \(P.B-6\)](#)
- [Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへ移行後に 1 つの Cisco CallManager クラスタを持つ 1 台の Cisco Unity サーバ \(P.B-6\)](#)

### Cisco CallManager 3.3(x) での Cisco Unity フェールオーバーの設定 1 (推奨)

この例では、各サーバで 4 つのポートが着信コールを処理し、2 つのポートが発信コールおよび MWI を処理します。PhoneCSS には、登録者の電話機に割り当てられたパーティションおよび VMPilotNumberPT が含まれます。VMRestrictedCSS には VMRestrictedPT だけが含まれ、VM ポートだけに割り当てられます。

プライマリ Cisco Unity サーバの VM ポートの設定例は次のとおりです。

```
Port 1: (Line: 2001) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Port 1: (Line: 2001) Directory Number Settings - Partition = VMPilotNumberPT, CSS =
VMRestrictedCSS
Ports 2 to 6: (Lines: 2002-2006) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Ports 2 to 6: (Lines: 2002-2006) Directory Number Settings - Partition =
VMRestrictedPT, CSS = VMRestrictedCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 2001-2006) Call Forwarding Settings on Busy and No Answer CSS =
VMRestrictedCSS
Line: 2001, CFNA = 3001, CFB = 2002
Line: 2002, CFNA = 3001, CFB = 2003
Line: 2003, CFNA = 3001, CFB = 2004
Line: 2004, CFNA = 3001, CFB = 2001
Line: 2005, CFNA = 2001, CFB = Blank (for outbound calls and MWI)
Line: 2006, CFNA = 2001, CFB = Blank (for outbound calls and MWI)
```

セカンダリ Cisco Unity サーバの VM ポートの設定例を次に示します (ポートがすべて使用中または Ring No Answer (RNA) の場合、コールがオペレータに送信されない)

```
Ports 1 to 6: (Lines: 3001-3006) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 3001-3006) Directory Number Settings - Partition =
VMRestrictedPT, CSS = VMRestrictedCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 3001-3006) Call Forwarding Settings on Busy and No Answer CSS =
VMRestrictedCSS
Line: 3001, CFNA = 3002, CFB = 3002
Line: 3002, CFNA = 3003, CFB = 3003
Line: 3003, CFNA = 3004, CFB = 3004
Line: 3004, CFNA = 3001, CFB = 3001
Line: 3005, CFNA = 3001, CFB = Blank (for outbound calls and MWI)
Line: 3006, CFNA = 3001, CFB = Blank (for outbound calls and MWI)
```

セカンダリ Cisco Unity サーバの VM ポートの設定例を次に示します (ポートがすべて使用中または RNA の場合、コールがオペレータに送信される)

```
Ports 1 to 6: (Lines: 3001-3006) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 3001-3006) Directory Number Settings - Partition =
VMRestrictedPT, CSS = VMRestrictedCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 3001-3006) Call Forwarding Settings on Busy and No Answer CSS =
VMRestrictedCSS
Line: 3001, CFNA = 3002, CFB = 3002
Line: 3002, CFNA = 3003, CFB = 3003
Line: 3003, CFNA = 3004, CFB = 3004
Line: 3004, CFNA = operator DN, CFB = operator DN
Line: 3005, CFNA = 3001, CFB = Blank (for outbound calls and MWI)
Line: 3006, CFNA = 3001, CFB = Blank (for outbound calls and MWI)
```

### Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへ移行後の Cisco Unity フェールオーバーの設定 1(推奨)

この例では、各サーバで 4 つのポートが着信コールを処理し、2 つのポートが発信コールおよび MWI を処理します。PhoneCSS には、登録者の電話機に割り当てられたパーティションおよび VMPilotNumberPT が含まれます。VMRestrictedCSS には VMRestrictedPT だけが含まれ、VM ポートだけに割り当てられます。VMPilotPartition が自動的に作成され、ボイスメール ポートに割り当てられます。

プライマリ Cisco Unity サーバの VM ポートの設定例を次に示します。

```
Ports 1 to 6: (Lines: 2001-2006) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 2001-2006) Directory Number Settings - Partition =
VMPilotPartition, CSS = VMRestrictedCSS
```

セカンダリ Cisco Unity サーバの VM ポートの設定例を次に示します。

```
Ports 1 to 6: (Lines: 3001-3006) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 3001-3006) Directory Number Settings - Partition =
VMPilotPartition, CSS = VMRestrictedCSS
```

回線グループの設定例を次に示します (ポートがすべて使用中または RNA の場合、コールはオペレータに送信されない)。

1. Line Group Name: LG2001 は 2001 ~ 2004 を含み、次の設定値を持ちます。

```
No Answer: Skip remaining members, and go directly to next group (Because this
setting is not the default, you must set it manually.)
Busy: Try next member, but do not go to next group (Because this setting is not the
default, you must set it manually.)
Not Available: Skip remaining members, and go directly to next group (Because this
setting is not the default, you must set it manually.)
```

2. Line Group Name: LG3001 は 3001 ~ 3004 を含み、次の設定値を持ちます。

```
No Answer: Try next member, but do not go to next group
Busy: Try next member, but do not go to next group
Not Available: Try next member, but do not go to next group
```

これらの値は、アップグレード後に必ず手動で設定してください。

回線グループの設定例を次に示します (ポートがすべて使用中または RNA の場合、コールはオペレータに送信される)。



(注) 着信回線グループだけを設定し、ダイヤルアウトした回線グループはそのままにしてください。

1. Line Group Name: LG2001 は 2001 ~ 2004 を含み、次の設定値を持ちます。

```
No Answer: Skip remaining members, and go directly to next group
Busy: Try next member, but do not go to next group
Not Available: Skip remaining members, and go directly to next group
```

これらの値は、アップグレード後に必ず手動で設定してください。

2. Line Group Name: LG3001 は 3001 ~ 3004 を含み、次の設定値を持ちます。

```
No Answer: Try next member, but do not go to next group
Busy: Try next member, but do not go to next group
Not Available: Skip remaining members, and go directly to next group
```

これらの値は、アップグレード後に必ず手動で設定してください。

3. Line Group Name: Operator は、オペレータの内線 (たとえば 1000) を含みます。

```
No Answer: Try next member, but do not go to next group
Busy: Try next member, but do not go to next group
Not Available: Try next member, but do not go to next group
```

アップグレード後、ハントリストは自動的に次のように設定されます。

```
Hunt List Name: HL2001, includes Line Groups LG2001 and LG3001, and operator LG if used, in this order.
```

アップグレード後、ハントパイロットは自動的に次のように設定されます。

```
Hunt Pilot: 2001, Partition: VMPilotNumberPT, Hunt List: HL2001
```

### 1 つの Cisco CallManager クラスタを持つ 1 台の Cisco Unity サーバ

この項では、1 台の Cisco Unity サーバおよび 1 つの Cisco CallManager クラスタでのボイスメールポートの設定の概要について説明します。ここでは、次の設定例について説明します。

- [Cisco CallManager 3.3\(x\) で 1 つの Cisco CallManager クラスタを持つ 1 台の Cisco Unity サーバ \(P.B-6\)](#)
- [Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへ移行後に 1 つの Cisco CallManager クラスタを持つ 1 台の Cisco Unity サーバ \(P.B-6\)](#)

### Cisco CallManager 3.3(x) で 1 つの Cisco CallManager クラスタを持つ 1 台の Cisco Unity サーバ

この例では、ボイスメールポートが次のように設定されます。

```
Port 1: (Line: 2001) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Port 1: (Line: 2001) Directory Number Settings - Partition = VMPilotNumberPT, CSS = VMRestrictedCSS
Ports 2 to 6: (Lines: 2002-2006) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Ports 2 to 6: (Lines: 2002-2006) Directory Number Settings - Partition = VMRestrictedPT, CSS = VMRestrictedCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 2001-2006) Call Forwarding Settings on Busy and No Answer CSS = VMRestrictedCSS
Line: 2001, CFNA = 2002, CFB = 2002
Line: 2002, CFNA = 2003, CFB = 2003
Line: 2003, CFNA = 2004, CFB = 2004
Line: 2004, CFNA = 2001, CFB = 2001
Line: 2005, CFNA = 2001, CFB = Blank (for outbound calls and MWI)
Line: 2006, CFNA = 2001, CFB = Blank (for outbound calls and MWI)
```

### Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへ移行後に 1 つの Cisco CallManager クラスタを持つ 1 台の Cisco Unity サーバ

この例では、ボイスメールポートが次のように設定されます。

```
Ports 1 to 6: (Lines: 2001-2006) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 2001-2006) Directory Number Settings - Partition = VMPilotPartition, CSS = VMRestrictedCSS
```

回線グループは、次のように設定されます。

Line Group Name: LG2001 は 2001 ~ 2004 を含み、次の設定値を持ちます。

```
No Answer: Try next member, but do not go to next group
Busy: Try next member, but do not go to next group
Not Available: Try next member, but do not go to next group
```

発信ポートに次の回線グループを作成します。

```
LG2005, include 2005 and 2006
```

これらの回線グループを次の値で設定します。

No Answer: Stop hunting. (Because this setting is not the default, you must set it manually.)

Busy: Stop hunting. (Because this setting is not the default, you must set it manually.)

Not Available: Stop hunting. (Because this setting is not the default, you must set it manually.)

ハント リストは、次のように設定されます。

Hunt List Name: HL2001, includes Line Groups LG2001

Hunt List Name: HL2004, includes Line Groups LG2004 and LG2001, in that order

Hunt List Name: HL2005, includes Line Groups LG2005 and LG2001, in that order

ハント パイロットは、次のように設定されます。

Hunt Pilot: 2001, Partition: VMPilotNumberPT, Hunt List: HL2001





## シスコ以外の SIP 電話機の設定

---

Cisco CallManager Release 5.0 は、Cisco SIP IP Phone、および RFC3261 に準拠しているサードパーティ製 SIP 電話機をサポートしています。この付録では、Cisco CallManager Administration を使用して、サードパーティ製 SIP 電話機を設定する方法について説明します。

この付録は、次の項で構成されています。

- [SIP 電話機設定の相違点 \(P.C-2\)](#)
- [サードパーティ製 SIP 電話機の設定チェックリスト \(P.C-4\)](#)
- [参考情報 \(P.C-5\)](#)

## SIP 電話機設定の相違点

表 C-1 では、Cisco SIP IP Phone とサードパーティ製 SIP 電話機の設定を比較してその相違点の概要を示します。

表 C-1 SIP 電話機モデルの設定比較

SIP 電話機	中央集中型 TFTP との統合	MAC アドレスの送信	ソフトキーファイルのダウンロード	ダイヤルプランファイルのダウンロード	Cisco CallManager のフェールオーバーとフェールバックのサポート	リセットと再起動のサポート
Cisco SIP IP Phone モデル 7911、7941、7961、7970、 7971	はい	はい	はい	はい	はい	はい
Cisco SIP IP Phone モデル 7940、7960	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい
Cisco SIP IP Phone モデル 7905、7912	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい
サードパーティ製 SIP 電話機	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ

管理者が Cisco CallManager Administration を使用してサードパーティ製 SIP 電話機を設定するときに、Cisco CallManager データベースが更新されます。また、管理者はサードパーティ製 SIP 電話機上で設定手順を実行する必要もあります。次の例を参照してください。

- 電話機のプロキシ アドレスを Cisco CallManager の IP アドレスまたは Fully Qualified Domain Name (FQDN; 完全修飾ドメイン名) にする必要があります。
- 電話機の電話番号を、Cisco CallManager Administration でデバイスに設定した電話番号と一致させる必要があります。
- 電話機のダイジェストユーザ ID (認可 ID とも呼ばれる) を、Cisco CallManager Administration で設定したダイジェストユーザ ID と一致させる必要があります。

詳細については、サードパーティ製 SIP 電話機に付属のマニュアルを参照してください。Cisco CallManager Administration での設定手順については、P.C-4 の「サードパーティ製 SIP 電話機の設定チェックリスト」を参照してください。

### Cisco CallManager がサードパーティ製電話機を識別する方法

サードパーティ製 SIP 電話機は MAC アドレスを送信しないため、ダイジェスト認証を使用して自分自身の身元を証明する必要があります。

REGISTER メッセージには次のヘッダーが含まれています。

```
Authorization: Digest
username="swhite",realm="ccmsipline",nonce="GBauADss2qoWr6k9y3hGGVDAqnLfoLk5",uri="sip:
172.18.197.224",algorithm=MD5,response="126c0643a4923359ab59d4f53494552e"
```

ユーザ名 swhite は、Cisco CallManager Administration の End User Configuration ウィンドウに設定されているエンドユーザと一致する必要があります (P.87-3 の「エンドユーザの追加」を参照)。管理者は、Phone Configuration ウィンドウの Digest User フィールドで、サードパーティ製 SIP 電話機にユーザ (たとえば swhite) を設定します (P.70-3 の「Cisco IP Phone の設定」を参照)。



(注)

各エンドユーザ ID は、( Phone Configuration ウィンドウの Digest User フィールドで ) 1 つのサードパーティ製電話機だけに割り当てることができます。同じエンドユーザ ID がダイジェストユーザとして複数の電話機に割り当てられている場合、そのエンドユーザ ID が割り当てられているサードパーティ製電話機は正しく登録されません。

### サードパーティ製 SIP 電話機と TFTP

サードパーティ製 SIP 電話機は、Cisco CallManager TFTP サーバを使用して設定されません。お客様が、ネイティブ電話機設定メカニズム ( 通常は、Web ページまたは tftp ファイル ) を使用して、電話機を設定します。お客様は、Cisco CallManager データベース内のデバイスおよび回線の設定と、ネイティブ電話機設定の同期を保つ必要があります (たとえば、電話機の内線番号 1002、Cisco CallManager で 1002)。さらに、回線の電話番号が変更された場合、Cisco CallManager Administration とネイティブ電話機設定メカニズムの両方でその電話番号が変更されていることを確認してください。

### サードパーティ製 SIP 電話機のダイジェスト認証の使用可能化

サードパーティ製 SIP 電話機のダイジェスト認証を使用可能にするには、管理者が SIP 電話機のセキュリティプロファイルを作成する必要があります ( 第 20 章「SIP 電話機のセキュリティプロファイルの設定」を参照 )。SIP Phone Security Profile Configuration ウィンドウで、Enable Digest Authentication チェックボックスをオンにします。セキュリティプロファイルの設定後、管理者は、Phone Configuration ウィンドウを使用して、そのセキュリティプロファイルを SIP 電話機に割り当てる必要があります。このチェックボックスがオフである場合、Cisco CallManager は、エンドユーザ ID によって電話機を識別するためにダイジェスト認証を使用し、ダイジェストパスワードを確認しません。このチェックボックスがオンである場合、Cisco CallManager はパスワードを確認します。



(注)

Cisco CallManager は、サードパーティ製 SIP 電話機からの Transport Layer Security ( TLS ) をサポートしません。

## ■ サードパーティ製 SIP 電話機の設定チェックリスト

## サードパーティ製 SIP 電話機の設定チェックリスト

表 C-2 では、Cisco CallManager Administration を使用してサードパーティ製 SIP 電話機を手動で設定する手順を示します。

表 C-2 サードパーティ製 SIP 電話機の設定チェックリスト

設定手順	手順および関連項目
<b>ステップ 1</b> 電話機に関する次の情報を収集します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• MAC アドレス</li> <li>• 電話機の物理的なロケーション</li> <li>• 電話機に関連付ける Cisco CallManager ユーザ</li> <li>• パーティション、コーリングサーチスペース、およびロケーションの情報（使用する場合）</li> <li>• 電話機に割り当てる回線および関連 DN の数</li> </ul>	
<b>ステップ 2</b> ダイジェスト ユーザにするエンド ユーザを設定します。  <b>(注)</b> サードパーティ製 SIP 電話機が認可 ID（ダイジェスト ユーザ）をサポートしない場合は、サードパーティ製電話機の DN と一致するユーザ ID を持つユーザを作成してください。たとえば、1000 という名前のエンド ユーザを作成し、電話機に 1000 という DN を作成します。このユーザを電話機に割り当てます（ <a href="#">ステップ 8</a> を参照）。	<a href="#">エンド ユーザの追加 (P.87-3)</a>
<b>ステップ 3</b> SIP プロファイルを設定します。または、デフォルト プロファイルを使用します。SIP プロファイルは、Phone Configuration ウィンドウを使用して SIP 電話機に追加されます。  <b>(注)</b> サードパーティ製 SIP 電話機は、SIP Profile Configuration ウィンドウの SIP Profile Information セクションだけを使用します。	<a href="#">SIP プロファイルの設定 (P.79-3)</a> <a href="#">Cisco IP Phone の設定 (P.70-3)</a>
<b>ステップ 4</b> 定義済みのノンセキュア SIP プロファイルの 1 つ、または自動登録用の標準 SIP プロファイルを使用します。あるいは、SIP 電話機のセキュリティ プロファイルを設定します。必要に応じて、ダイジェスト認証を使用可能にします。	<a href="#">サードパーティ製 SIP 電話機のダイジェスト認証の使用可能化 (P.C-3)</a> <a href="#">SIP 電話機のセキュリティ プロファイルの設定 (P.20-1)</a> <a href="#">Cisco CallManager セキュリティ ガイド</a>
<b>ステップ 5</b> Add a New Phone Configuration ウィンドウから Third-party SIP Device (Advanced) または Third-party SIP Device (Basic) を選択して、サードパーティ製 SIP 電話機を追加し、設定します。  <b>(注)</b> Third-party SIP Device (Basic) は 1 つの回線をサポートし、3 つのライセンスユニットを消費します。Third-party SIP Device (Advanced) は、8 つの回線とビデオをサポートし、6 つのライセンスユニットを消費します。	<a href="#">Cisco IP Phone の設定 (P.70-3)</a>
<b>ステップ 6</b> 電話機に対して回線（DN）を追加し、設定します。	<a href="#">電話番号の設定 (P.49-1)</a>

表 C-2 サードパーティ製 SIP 電話機の設定チェックリスト (続き)

設定手順		手順および関連項目
ステップ 7	End User Configuration ウィンドウで、Device Association を使用して SIP 電話機を選択し、サードパーティ製 SIP 電話機をユーザに関連付けます。	エンドユーザとデバイスとの関連付け (P.87-12)
ステップ 8	Phone Configuration ウィンドウの Digest User フィールドで、ステップ 2 で作成したエンドユーザを選択します。	電話機の設定値 (P.70-7)
ステップ 9	サードパーティ製 SIP 電話機に対して、電源を供給し、ネットワーク接続を装備して確認し、ネットワーク設定値を設定します。	SIP 電話機に付属のアドミニストレーションガイドを参照してください。
ステップ 10	サードパーティ製 SIP 電話機でコールを発信します。	サードパーティ製 SIP 電話機に付属のユーザガイドを参照してください。

## 参考情報

- [電話番号の設定 \(P.49-1\)](#)
- [Cisco IP Phone の設定 \(P.70-1\)](#)
- [SIP プロファイルの設定 \(P.79-1\)](#)
- [エンドユーザの設定 \(P.87-1\)](#)
- 『Cisco CallManager システムガイド』の「Cisco IP Phone」





<b>A</b>	
AAR	
概要	28-1
Analog Access ゲートウェイとポート	
追加	69-13
Annunciator	53-1
更新	3-3, 53-3
設定	53-1
設定値 (表)	53-4
リセット	53-4
<b>B</b>	
BAT	
アプリケーションの概要	94-1
BLF/SpeedDial	
設定値	70-26
BRI	
ゲートウェイ設定	69-34
ポート、追加	69-9
<b>C</b>	
call waiting	
設定値	49-25
Cisco CallManager	
主な機能	1-2
概要	1-1
グループ	
検索	4-2
削除	4-5
設定値 (表)	4-4
設定の概要	4-1
追加	4-3
検索	3-2
サーバ設定	2-1
参考情報	1-10
参照	1-3
設定	3-1
設定値 (表)	3-4
利点	1-2
ログイン	1-3
ログオフ	1-4
Cisco CallManager Administration	
操作	1-8
Cisco CallManager アドミニストレーション ガイド	
関連資料	xxvi
対象読者	xxiv
表記法	xxvii
マニュアルの構成	xxv
目的	xxiv
Cisco CallManager サーバの設定	
ソフトウェア Conference Bridge	54-3
Cisco CallManager の概要	1-1
Cisco IP Manager Assistant ( IPMA )	
プロキシ回線の設定ウィザード	81-1
Cisco IP Phone	
MAC アドレスの表示	70-5
検索と一覧表示	70-32
削除	70-6
設定	70-3
設定の概要	70-1
テンプレート、電話機のボタン	
設定	76-1
電話番号	49-2
リセット	70-5
Cisco IP Phone サービス	
Dependency Records	78-6
加入	70-26
加入解除	70-28
更新	70-27
サービス パラメータの更新	78-7
サービス パラメータの削除	78-9

- サービス パラメータの追加 78-7
- サービスの検索 78-2
- サービスの削除 78-6
- サービスの設定 78-4
- 設定 70-26, 78-1
- 設定値 (表) 78-5
- パラメータ設定値 (表) 78-8
- Cisco SIP IP Phone
  - サードパーティ製 SIP デバイスの相違点 C-2
- Cisco Unity
  - Cisco CallManager 4.0 以降へのアップグレード B-2, B-3
  - ボイスメール ポートのセットアップ B-3
  - ボイスメール ポートの調整 B-1
  - ボイスメール ポートのフェールオーバー B-3
  - ボイスメール ポートの変更 B-2
  - ユーザ設定のボイスメールボックス 87-4
- Cisco Unity Connection
  - ユーザ設定のボイスメールボックス 87-4
- Cisco Unity または Cisco Unity Connection ボイスメールボックス
  - 電話番号 49-7
- Cisco uOne
  - MWI デバイス、設定 64-4
- Cisco Voice Mail
  - Port Wizard Device Information の設定値 63-3
  - Port Wizard Directory Number の設定値 63-4
  - ウィザードを使用するポートの削除 63-8
  - ウィザードを使用するポートの追加 63-7
  - 新規サーバとポートの追加 63-2
  - 設定 62-1
  - プロファイルの設定 66-1
  - ポート ウィザードの設定 63-1
  - ポートの検索 62-2
  - ポートの更新 62-4
  - ポートのコピー 62-4
  - ポートの削除 62-8
  - ポートの設定値 (表) 62-5
  - ポートの追加 62-4
  - メッセージ受信の設定 64-1
  - メッセージ受信番号の検索 64-2
- Cisco ボイスメール パイロット
  - 検索 65-2
  - 削除 65-5
  - 設定 65-1, 65-3
- CMLocal 日付 / 時間グループ 6-1
- Conference Bridge
  - Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値 (表) 54-12
  - Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の追加 54-11
  - Cisco IOS Video Conference Bridge デバイスの追加 54-9
  - Cisco IOS 設定値 (表) 54-8
  - Cisco IOS デバイスの追加 54-7
  - Cisco Video の設定値 (表) 54-10
  - Meet-Me Number/Pattern の検索 50-2
  - Meet-Me Number/Pattern のコピー 50-4
  - Meet-Me Number/Pattern の削除 50-6
  - 検索 54-2
  - コンファレンス デバイスの更新 54-13
  - コンファレンス デバイスの削除 54-14
  - 設定 54-1
  - ソフトウェアの設定値 (表) 54-4
  - ハードウェア デバイスの追加 54-5
  - ハードウェアの設定値 (表) 54-6
- CTI
  - ルート ポイント
    - 検索 67-2
    - 削除 67-6
    - 設定 67-1
    - 設定値 (表) 67-4
    - 追加 67-3
    - リセット 67-7
- D
  - Dependency Records
    - Cisco IP Phone サービス 78-6
    - アクセス A-4
    - エンタープライズ パラメータ A-2
    - 概要 A-1
    - 共通電話プロファイル 80-5
    - 使用可能化 A-2
    - 使用不可 A-3
    - ボイスメールパイロット番号 65-5
    - ボイスメール プロファイル 66-5
    - ボイスメール ポート 62-8
    - ボタン A-6
    - ユーザ デバイス プロファイル 75-7
    - ルート フィルタ 32-7

- DHCP
- アクティブ化、DHCP モニタ サービス 10-2
  - 開始、DHCP モニタ サービス 10-3
  - サーバ
    - 検索 10-4
    - 削除 10-7
    - 設定 10-5
    - 設定値 (表) 10-6
  - サブネット
    - 検索 11-2
    - 削除 11-6
    - 設定 11-4
    - 設定値 (表) 11-5
- Digital Access PRI ポート 69-8
- Digital Access T1  
ポート 69-8
- F
- FXO ポート 69-6
  - FXS ポート 69-5
- H
- H.323、ゲートウェイの追加 69-12
- HTTPS
- Secure Sockets Layer 上の HTTP 1-4
- I
- IP Phone、Cisco
    - 設定 70-3
    - 設定の概要 70-1
  - IP Phone サービス、Cisco
    - 加入 70-26
    - 加入解除 70-28
    - 更新 70-27
    - 設定 70-26
  - IP アドレス 2-1
  - ISDN BRI、ゲートウェイ設定 69-34
  - ISDN、ゲートウェイ設定 69-23
- L
- LDAP
- 更新、LDAP システムの情報 12-2
  - 更新、LDAP 認証の情報 14-2
  - システム
    - 設定 12-1
    - 設定値 (表) 12-3
  - ディレクトリ
    - 検索 13-2
    - 削除 13-7
    - 設定 13-1, 13-3
    - 設定値 (表) 13-4
  - 認証
    - 設定 14-1
    - 設定値 (表) 14-3
- M
- Max list box エンタープライズ パラメータ  
コーリング サーチ スペース 49-26
  - Meet-Me Number/Pattern
    - 検索 50-2
    - コピー 50-4
    - 削除 50-6
    - 設定 50-1
    - 設定値 (表) 50-5
  - MGCP
    - BRI
      - ゲートウェイの設定値 (表) 69-34
    - Cisco IOS、追加 69-3
    - Digital Access PRI ポート、追加 69-8
    - Digital Access T1 ポート 69-8
    - FXO ポート、追加 69-6
    - FXS ポート、追加 69-5
    - IOS 以外のゲートウェイ、追加 69-11
    - ゲートウェイ、追加 69-3
    - ポート、追加 69-5
  - MLPP ドメイン
    - 概要 17-1
    - 検索 17-2
    - 削除 17-5
    - 設定 17-3
    - 設定値 (表) 17-4
  - MTP
    - IOS MTP 設定値 (表) 55-5

- 検索 55-2
- 削除 55-6
- 設定 55-1
- 追加 55-4
- Multilevel Administration Access (MLA)
  - ユーザグループからのユーザの削除 89-8
  - ユーザグループへの特権の割り当て 89-9
- MWI
  - MWI デバイスの設定値 (表) 64-5
  - uOne 用の MWI デバイス 64-4
- N
- NTP サーバ 21-1, 22-1, 91-1, 92-1, 93-1
- Number/Pattern、Meet-Me
  - 検索 50-2
  - コピー 50-4
  - 削除 50-6
- P
- PRI、ゲートウェイ設定 69-23
- S
- SCCP
  - Cisco IOS、追加 69-9
  - ゲートウェイ、追加 69-9
- SIP
  - サードパーティ製 SIP 電話機と TFTP C-3
  - サードパーティ製 SIP 電話機の設定チェックリスト (表) C-4
  - サードパーティ製デバイスの設定 C-1
  - 設定の相違点 C-2
- SIP 電話機
  - ダイジェスト認証の使用可能化
    - サードパーティ製電話機 C-3
- SIP のダイヤル規則
  - 検索 31-2
  - 更新 31-3
  - 削除 31-7
  - 設定 31-1, 31-3
  - 設定値 31-4
  - ダイヤル プランの例 31-6
  - パターンの形式 31-5
  - リセット 31-8
- SIP プロファイル
  - 検索 79-2
  - 更新 79-3
  - コピー 79-3
  - 削除 79-10
  - 設定 79-1
  - 設定値 79-4
  - 追加 79-3
  - リセット 79-11
- SIP ルートパターン
  - 関連項目 39-8
  - 検索 39-2
  - 削除 39-8
  - 設定 39-1, 39-4
  - 設定値 (表) 39-5
- SRST
  - 検索 16-2
  - 削除 16-4
  - 設定 16-1, 16-3
  - 設定値 (表) 16-5
- Survivable Remote Site Telephony (SRST)
  - 設定 16-1
- T
- T1 ポート、追加 69-8
- TFTP
  - サードパーティ製 SIP 電話機 C-3
- U
- uOne、Cisco
  - MWI デバイス、設定 64-4
- User/Phone Add
  - 設定 90-1
  - 追加 90-2
- V
- Video
  - Conference Bridge 54-9
- Voice Gateway 69-1
- Voice Mail
  - Port Wizard Device Information の設定値 63-3
  - Port Wizard Directory Number の設定値 63-4

- ウィザードを使用するポートの削除 63-8
  - ウィザードを使用するポートの追加 63-7
  - 新規サーバとポートの追加 63-2
  - 設定 62-1
  - プロファイルの設定 66-1
  - ポートウィザードの設定 63-1
  - ポートの検索 62-2
  - ポートの更新 62-4
  - ポートのコピー 62-4
  - ポートの削除 62-8
  - ポートの設定値 (表) 62-5
  - ポートの追加 62-4
  - メッセージ受信の設定 64-1
  - メッセージ受信番号の検索 64-2
- あ
- アクセシビリティ
    - アクセス、ボタンとアイコン 1-9
  - アドミッション制御
    - ロケーションを使用する実装 15-1
  - アプリケーションサーバ
    - 検索 23-5
    - 削除 23-3
    - 設定 23-1, 23-2
    - 設定値 (表) 23-4
  - アプリケーションユーザ
    - アプリケーションプロファイル 86-8
    - アプリケーションユーザとデバイスとの関連付け 86-9
    - 検索 86-2
    - 設定 86-1
    - 設定値 (表) 86-4
    - 追加 86-3
    - パスワードの変更 86-8
- え
- エクステンションモビリティ
    - エンドユーザ 87-14
  - エンタープライズパラメータ
    - Dependency Records A-2
    - 設定 18-1
  - エンドユーザ
    - PINの変更 87-10
    - エクステンションモビリティ 87-14
  - エンドユーザとデバイスとの関連付け 87-12
  - 検索 87-2
  - 削除 87-15
  - 設定 87-1
  - 設定値 (表) 87-6
  - 追加 87-3
  - 電話機との設定 90-1
  - 電話機との追加 90-2
  - パスワードの変更 87-10
  - ユーザ関連情報 87-11
  - エンドユーザとデバイス
    - 設定値 (表) 90-3
- か
- 回線グループ
    - 概要 36-1
    - 検索 36-2
    - 削除 36-10
    - 設定 36-3
    - 設定値 (表) 36-4
    - デバイスの削除 36-9
    - デバイスの追加 36-8
  - 外部電話番号マスク 27-5
  - 概要
    - BATアプリケーション 94-1
  - カスタム電話ボタンテンプレート
    - 7914 Expansion Module に対する作成 76-6
    - 検索 76-2
    - 削除 76-8
    - 追加 76-4
  - 関連資料 xxvi
- き
- キーパッドテンプレート、設定 76-1
  - 共通電話プロファイル
    - Dependency Records 80-5
    - 検索 80-2
    - 削除 80-5
    - 設定 80-1, 80-3
    - 設定値 (表) 80-4

- く
- グループ
- Cisco CallManager
    - 設定 4-1
    - 設定値(表) 4-4
  - 日付と時刻
    - 概要 6-1
    - 設定値(表) 6-6
  - プレゼンス、設定 5-1
- け
- ゲートウェイ
- Analog Access ゲートウェイ、追加 69-13
  - Analog Access の設定値(表) 69-54
  - BRI の設定値(表) 69-34
  - Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値(表) 69-58
  - Cisco VG224/VG248 Analog Gateway、追加 69-14
  - Cisco VG224/VG248 アナログ ポート、追加 69-14
  - Cisco VG248 設定値(表) 69-57
  - Digital Access PRI の設定値(表) 69-22
  - E & M ポートの設定値(表) 69-65
  - FSX/FXO 設定値(表) 69-18
  - H.323 設定値(表) 69-46
  - H.323、追加 69-12
  - IOS 以外の、追加 69-11
  - ISDN 69-23
  - ISDN BRI 69-34
  - MGCP
    - BRI、設定 69-34
    - BRI ポート、追加 69-9
    - Cisco IOS、追加 69-3
    - Digital Access PRI ポート、追加 69-8
    - FXO ポート、追加 69-6
    - FXS ポート、追加 69-5
    - T1 ポート、追加 69-8
    - 設定値(表) 69-16
    - ポート、追加 69-5
  - POTS ポートの設定値(表) 69-61
  - PRI 69-23
  - SCCP
    - Cisco IOS、追加 69-9
  - グラウンド スタート ポートの設定値(表) 69-64
- 検索
- コーリング サーチ スペースによる 69-70
    - 説明による 69-68
    - デバイス タイプによる 69-74
    - デバイス プールによる 69-71
    - デバイス名による 69-67
    - 電話番号による 69-69
    - ルート グループによる 69-73
    - ルート パターンによる 69-69
  - 検索と一覧表示 69-67
  - 更新 69-78
  - 再起動 69-77
  - 削除 69-76
  - 設定 69-1
  - 設定値(表) 69-16
  - 追加 69-2
  - 変更 69-76
  - ポート、追加 69-13
  - ポートの設定値(表) 69-61
  - リセット 69-77
  - ループ スタート ポートの設定値(表) 69-63
- ゲートキーパー
- ゲートキーパーの設定 68-3
  - 検索 68-2
  - 削除 68-5
  - 設定 68-1
  - 設定値(表) 68-4
  - リセット 68-6
- こ
- コーリング サーチ スペース
- 検索 43-2
  - 更新 66-3
  - 削除 43-6
  - 設定 43-1
  - 設定値(表) 43-4
  - 追加 43-3
  - ドロップダウン リスト ボックスでの表示を設定 49-26
- コール ルーティング
- 電話番号
    - 設定の概要 49-1
- コール表示制限
- 電話機の設定 70-13
  - 変換パターンでの設定 46-8

- ユーザデバイス プロファイルでの設定 75-4
- 固定短縮ダイヤル
  - 設定値 (表) 70-25
- さ
- サーバ
  - 検索 2-2
  - 更新 2-4
  - 削除 2-5
  - 設定 2-1, 2-4
  - 設定値 (表) 2-6
- サービス
  - Cisco IP Phone 設定値 (表) 78-5
  - Cisco IP Phone パラメータ設定値 (表) 78-8
  - 設定
    - Cisco IP Phone サービス 78-4
    - Cisco IP Phone サービスの検索 78-2
    - Cisco IP Phone サービスの削除 78-6
- サービス URL ボタン
  - 追加 70-29
- サービス パラメータ
  - サービス用の設定 19-2
  - サービス用の表示 19-4
  - 設定 19-1
    - Cisco IP Phone サービスの更新 78-7
    - Cisco IP Phone サービスの削除 78-9
    - Cisco IP Phone サービスの追加 78-7
- 参照
  - Cisco CallManager 1-3
  - セキュリティ
    - ハイパーテキスト転送プロトコル 1-4
- し
- 時間帯 6-1
  - 検索 40-2
  - 削除 40-4
  - 設定 40-1, 40-3
  - 設定値 (表) 40-5
- 自動生成デバイス プロファイル
  - 電話番号の設定 75-9
- 自動代替ルーティング グループ
  - 概要 28-1
  - 検索 28-2
  - 削除 28-5
- 設定 28-3
- 設定値 (表) 28-4
- 自動登録
  - 自動登録番号の再使用 27-6
  - 使用可能化 27-2
  - 使用不可 27-3
  - 設定 27-1
  - 設定値 (表) 27-4
- 資料
  - 関連 xxvi
- そ
- 操作
  - Cisco CallManager Administration 1-8
- ソフトウェア Conference Bridge
  - 設定 54-3
- ソフトキー テンプレート
  - 更新 77-9
  - 削除 77-8
  - 設定 77-1
  - 名前変更 77-7
  - 割り当て 77-10
- た
- ダイジェスト認証
  - サードパーティ製 SIP 電話機に対する使用可能化 C-3
- タイム スケジュール
  - 検索 41-2
  - 削除 41-4
  - 設定 41-1, 41-3
  - 設定値 (表) 41-5
- ダイヤル プラン
  - Cisco CallManager サービスの再起動 52-9
  - NANP 以外のダイヤル プランに関するルート パターンの詳細の設定 52-5
  - アップグレード 52-6
  - アンインストール 52-7
  - インストール 52-4
  - 検索 52-2
  - 編集 52-4
- ダイヤル規則
  - 検索 29-2
  - 更新 29-3

- 更新、ディレクトリ検索規則 30-3
- 削除 29-5
- 削除、ディレクトリ検索規則 30-5
- 設定 29-1
- 設定、ディレクトリ検索規則 30-3
- 追加 29-3
- ディレクトリ検索の規則設定 30-1
- ディレクトリ検索の設定値 30-4
- パターンの形式 31-5
- 優先順位の変更 29-5
- 短縮ダイヤル
  - 設定値 (表) 70-25
- 短縮ダイヤル ボタン
  - 設定 70-24
- て
- ディレクトリ
  - Cisco Unity または Cisco Unity Connection のボイス  
メールボックス 87-4
- ディレクトリ検索のダイヤル規則
  - 更新 30-3
  - 削除 30-5
  - 設定 30-1, 30-3
  - 設定値 30-4
- デバイス
  - Cisco IP Phone
    - 設定 70-3
    - 設定の概要 70-1
  - MWI 設定値 (表) 64-5
  - 共通特性の指定 9-1
  - ゲートウェイ 69-1
  - ゲートキーパー、設定 68-1
  - デフォルト以外のファームウェア ロード使用  
73-2
  - トランク、設定 71-1
- デバイス デフォルト
  - 更新 72-2
  - 設定 72-1, 73-1
  - 設定値 (表) 72-3
- デバイス プール
  - 検索 9-2
  - 削除 9-8
  - 設定 9-1
  - 設定値 (表) 9-5
  - 追加 9-4
- デバイス プロファイル
  - 検索 75-2
  - 自動生成デバイス プロファイル用の電話番号の設  
定 75-9
  - 自動生成プロフィールの更新 75-8
  - 設定 75-1
  - ユーザ プロファイルの更新 75-3
  - ユーザ プロファイルの削除 75-7
  - ユーザの追加 75-3
- デバイス プロファイル デフォルト
  - サービスの登録 74-6
  - 削除 74-6
  - 設定 74-1
  - 設定値 74-3
  - 追加 74-2
- デフォルト
  - デバイス
    - 更新 72-2
    - 設定 72-1, 73-1
    - 設定値 (表) 72-3
    - ファームウェア ロードを使用しない 73-2
- 電話機
  - Cisco IP Phone サービス
    - サービス パラメータの更新 78-7
    - サービス パラメータの削除 78-9
    - サービス パラメータの追加 78-7
    - サービスの検索 78-2
    - サービスの削除 78-6
    - サービスの設定 78-4
    - 設定 78-1
    - 設定値 (表) 78-5
    - パラメータ設定値 (表) 78-8
  - MAC アドレスの表示 70-5
  - エンドユーザとの設定 90-1
  - エンドユーザとの追加 90-2
  - 検索と一覧表示 70-32
  - 削除 70-6
  - 設定値 (表) 70-7
  - 電話番号、設定 49-2
  - リセット 70-5
- 電話機 NTP リファレンス 8-1
  - 削除 8-5
  - 設定 8-3
  - 設定値 (表) 8-4
- 電話番号
  - call waiting の設定値 49-25

- Cisco Unity または Cisco Unity Connection ボイス  
メールボックスの作成 49-7
  - 関連項目 49-27
  - 検索 49-3
  - コーリング サーチ スペースのリスト 49-26
  - 設定 49-4
  - 設定値 (表) 49-9
  - 設定の概要 49-1, 49-2
  - 電話機からの削除 49-6
  - 割り当てられていない~の更新 51-5
  - 割り当てられていない~の削除 51-4
  - 電話ボタン テンプレート
    - 7914 Expansion Module に対する作成 76-6
    - 検索 76-2
    - 削除 76-8
    - 設定 76-1
    - 設定値 (表) 76-7
    - 追加 76-4
    - ボタン項目の変更 70-30
- と
- 特権
    - ユーザ グループへの割り当て 89-9
  - ドメイン、MLPP
    - 概要 17-1
  - ドメイン ネーム システム (DNS) 2-1
  - トランク
    - 検索と一覧表示 71-2
    - 削除 71-28
    - 設定 71-1
    - 設定値 (表) 71-5
    - 追加 71-3
    - 変更 71-3
    - リセット 71-29
  - トランスコーダ
    - 概要 59-1
    - 削除 59-6
    - 設定 59-2, 59-4
    - 設定値 (表) 59-7
    - リセット 59-5
- は
- パーティション
    - 検索 42-2, 42-7
  - 削除 42-4
  - 設定 42-1
  - 追加 42-3
  - パラメータ
    - エンタープライズ 18-1
    - サービス用の設定 19-2
    - サービス用の表示 19-4
    - 設定 19-1
  - ハントパイロット
    - 検索 38-2
    - 削除 38-5
    - 設定 38-1, 38-4
    - 設定値 (表) 38-6
  - ハントリスト
    - 回線グループの削除 37-7
    - 回線グループの順位の変更 37-8
    - 回線グループの追加 37-6
    - 検索 37-2
    - 削除 37-9
    - 設定 37-1
    - 追加 37-4
- ひ
- 日付 / 時間グループ
    - NTP サーバ設定の使用 91-1, 92-1, 93-1
    - 検索 6-2
    - 削除 6-7
    - 使用、NTP サーバ設定での 21-1, 22-1
    - 設定 6-1
    - 設定値 (表) 6-6
    - 追加 6-4
    - ~を使用した電話機 NTP リファレンスの設定の使用 8-1
  - 非標準ソフトキー テンプレート
    - アプリケーション ソフトキーの追加 77-5
    - 検索 77-2
    - ソフトキーの位置 77-6
    - 追加 77-4
  - 表記法 xxvii
- ふ
- ファームウェア ロード、デフォルト以外のデバイス 73-2

## プラグイン

    インストール 85-2

    設定 85-1

## プレゼンスグループ

    設定 5-1

へ

## 変換パターン

    概要 46-1

    検索 46-2

    削除 46-10

    設定 46-4

    設定値 (表) 46-5

## ほ

## ボイスメールパイロット

    検索 65-2

    削除 65-5

    設定 65-1, 65-3

    設定値 (表) 65-4

## ボイスメールパイロット番号

    Dependency Records 65-5

## ボイスメールプロファイル

    Dependency Records 66-5

    一覧表示 66-2

    検索 66-2

    コピー 66-3

    削除 66-5

    設定値 (表) 66-4

## ボイスメールポート

    Cisco Unity 用の調整 B-1

    Cisco Unity 用の変更 B-2

    Dependency Records 62-8

## ポート

    Cisco ボイスメールの更新 62-4

    Digital Access T1 の設定値 (表) 69-42

    検索 62-2

    更新 69-78

    コピー 62-4

    削除 62-8

    追加 62-4

    変更 69-76

## ま

## マニュアル

    対象読者 xxiv

    表記法 xxvii

    マニュアルの構成 xxv

    目的 xxiv

マニュアルの構成 xxv

## め

メディアターミネーションポイント (MTP) 55-1

## メディアリソースグループ

    検索 60-2

    更新 60-4

    コピー 60-4

    削除 60-6

    設定 60-1

    設定値 (表) 60-5

    追加 60-4

## メディアリソースグループリスト

    検索 61-2

    更新 61-4

    コピー 61-4

    削除 61-6

    設定 61-1

    設定値 (表) 61-5

    追加 61-4

## ゆ

## ユーザ

    Cisco Unity または Cisco Unity Connection のボイス  
    メールボックスの設定 87-4

## アプリケーション

    アプリケーションプロファイル 86-8

    アプリケーションユーザとデバイスとの関連  
    付け 86-9

    検索 86-2

    設定 86-1

    設定値 (表) 86-4

    追加 86-3

    パスワードの変更 86-8

## エンド

    PIN の変更 87-10

    エクステンションモビリティ 87-14

- エンドユーザとデバイスとの関連付け
      - 87-12
    - 検索 87-2
    - 削除 87-15
    - 設定 87-1
    - 設定値 (表) 87-6
    - 追加 87-3
    - 電話機との設定 90-1
    - 電話機との追加 90-2
    - パスワードの変更 87-10
    - ユーザ関連情報 87-11
  - ユーザグループ
    - 検索 89-2
    - 削除 89-5
    - 説明 89-1
    - 追加 89-4
    - 特権の割り当て 89-9
    - ユーザの削除 89-8
    - ユーザの追加 89-6
    - ユーザのロールの表示 89-11
  - ユーザデバイス プロファイル
    - Dependency Records 75-7
  - ユーザ情報
    - 設定値 (表) 85-4
  - ユーザとデバイス
    - 設定値 (表) 90-3
- ら
- ライセンス
    - 計算方法、ライセンスユニット 25-2
    - 生成、ライセンスユニットレポート 24-2
    - ライセンスファイル
      - アップロード 26-5
      - 取得、ライセンスファイル 26-2
      - 内容 26-3
      - ライセンスファイルの例 26-3
- り
- リージョン
    - 検索 7-2
    - 削除 7-9
    - 設定 7-1
    - 設定値 (表) 7-7
    - 追加 7-4
- る
- ルートグループ
    - 概要 33-1
    - 検索 33-2
    - 削除 33-9
    - 設定 33-4
    - 設定値 (表) 33-5
    - デバイスの削除 33-8
    - デバイスの追加 33-7
  - ルートパターン
    - 概要 35-1
    - 検索 35-2
    - 検索、SIP パターン 39-2
    - 削除 35-13
    - 削除、SIP パターン 39-8
    - 設定 35-4
    - 設定、SIP パターン 39-4
    - 設定値 (表) 35-6
  - ルートフィルタ
    - Dependency Records 32-7
    - 演算子
      - 説明 32-9
      - 説明 (表) 32-10
    - 概要 32-1
    - クローズ (文節) の削除 32-6
    - クローズ (文節) の追加 32-5
    - 検索 32-2
    - 削除 32-7
    - 設定 32-3
    - 設定値 (表) 32-4
    - タグ
      - 説明 32-8
      - 説明 (表) 32-8
  - ルートプラン
    - レポート
      - 設定 51-1
      - ファイル内の表示 51-6
      - レコードを表示 51-2
      - 割り当てられていない電話番号の更新 51-5
      - 割り当てられていない電話番号の削除 51-4
  - ルートリスト
    - 検索 34-2
    - 削除 34-10
    - 設定 34-1
    - 追加 34-4

- ルートグループの削除 34-8
- ルートグループの順位の変更 34-9
- ルートグループの追加 34-6

## ろ

## ロール

- 検索 88-2
- 削除 88-5
- 設定 88-4
- 設定値(表) 88-6
- 説明 88-1
- ユーザの~の表示 89-11

## ログイン

- Cisco CallManager 1-3

## ログオフ

- Cisco CallManager 1-4

## ロケーション

- 検索 15-2
- 更新 15-4
- コピー 15-4
- 削除 15-7
- 設定 15-1
- 設定値(表) 15-5
- 帯域幅の再同期化 15-8
- 追加 15-4

## わ

## 割り当てられていない電話番号

- 更新 51-5
- 削除 51-4